

令和6年度
沖縄こども調査 小中学生報告書

令和7年3月
沖縄県

目次

調査概要

1	調査概要	7
2	基本属性	10
	① こどもの性別	
	② 回答者の属性	
	③ 母親・父親の年齢	
	④ 世帯類型	
	⑤ 世帯収入	
	⑥ 困窮世帯の割合	

特集 10年目の調査で見えたこと

	特集の分析にあたって	27
第1節	保護者の状況(学歴、就労)	28
第2節	食料・衣服が買えなかった経験	35
第3節	就学援助制度の利用	38
第4節	自己肯定感(児童・生徒)	45
第5節	学校やふだんの生活(児童・生徒)	52
考察		56

第 1 章 保護者の状況

第 1 節	母親の就労状況	61
第 2 節	母親の労働時間	65
第 3 節	母親の就労収入	68
第 4 節	働いていない理由(母親)	74
第 5 節	父親の就労状況	76
第 6 節	父親の労働時間	79
第 7 節	父親の就労収入	81
第 8 節	母親・父親の学歴	87
考 察		88

第 2 章 学校・学習状況

第 1 節	学校での学習	93
第 2 節	学校以外での学習状況	100
第 3 節	進路(児童・生徒)	107
第 4 節	進路(保護者)	112
考 察		114

第 3 章 ふだんの暮らし(児童・生徒)

第 1 節	部活動	119
第 2 節	食事・学校生活	125
第 3 節	ゲーム・SNS などの利用、屋外での運動	131
第 4 節	家事や家族の世話	136
第 5 節	逆境体験	147
第 6 節	相談相手	151
第 7 節	暮らしの満足度	157
第 8 節	自己肯定感(東京都調査との比較)	159
考 察		162

第4章 ふだんの暮らし(保護者)

第1節	ふだんの暮らし、物価高騰の影響	167
第2節	貯蓄	173
第3節	食料・衣服が買えなかった経験	177
第4節	滞納経験	183
第5節	学校教育費のなかで経済的負担が大きいもの	192
第6節	相談相手	196
第7節	逆境体験	200
第8節	こどもを受診させられなかった経験	202
第9節	抑うつ傾向(心理的ストレス)	209
考察		212

第5章 所有物・体験の欠如

第1節	所有物の欠如 — こどもの視点	217
第2節	こどものための支出 — 保護者の視点	232
第3節	こどもの体験 — 保護者の視点	242
第4節	所有物の欠如 — 保護者の視点	247
第5節	保護者自身の所有物の欠如 — 保護者の視点	251
考察		257

第6章 制度等の利用状況

第1節	放課後児童クラブの利用(小学1年生保護者)	261
第2節	就学援助制度	265
第3節	生活保護/生活困窮者の自立支援相談窓口/ 生活福祉資金貸付金	267
第4節	児童扶養手当/母子父子寡婦福祉資金貸付金	273
第5節	子育て支援に関する情報をどう受け取りたいか	276
考察		281

第7章 こどもまんなか社会に向けて

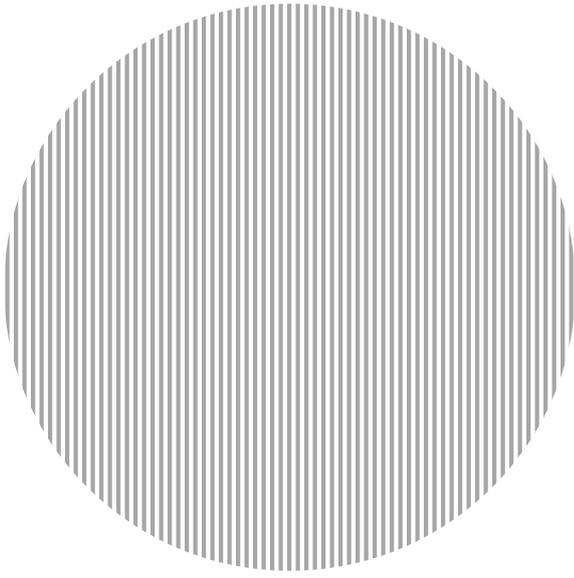
第1節	大人に取り組んでほしいこと(児童・生徒)	285
第2節	子どもの権利条約について(児童・生徒)	287
第3節	子育てに温かい社会に向かっているか(保護者)	289
第4節	保護者自身の将来について	290
考 察	292

集 計 結 果

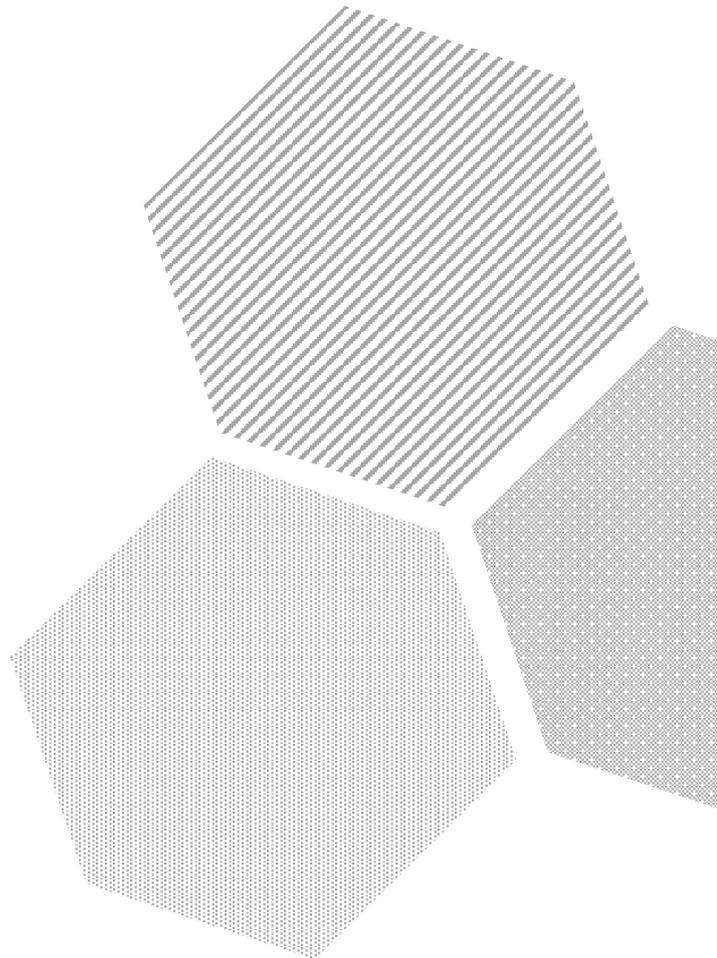
1 単純集計(児童・生徒)	297
2 単純集計(保護者)	318
3 自由記述(児童・生徒) ※一部抜粋	355
4 自由記述(保護者) ※一部抜粋	365

調 査 票

児童票	379
生徒票	390
保護者票	402



調査概要



調査概要

調査の目的

沖縄県の子ども及びその保護者の生活実態や支援ニーズ等の把握・分析を行い、子どもの貧困対策の効果的な実施や、施策の評価に活用することを目的に実施しました。

調査の実施主体

沖縄県から委託を受けて、一般社団法人 Co-Link（協力：沖縄大学）が調査を実施しました。

調査対象

小学1年生の保護者
小学5年生の児童・保護者
中学2年生の生徒・保護者

調査実施期間

2024年9月14日から2024年9月30日

調査方法

市町村別の人口構成比をもとに県内の小中学校（県内私立学校及び県立中高一貫校除く）を選定。学校を通じて、対象校に在籍する小学1年生、小学5年生、中学2年生の児童・生徒及びその保護者へ調査票の配布を行い、密封された状態で回収した調査票を学校が取りまとめ、受託事業者へ送付しました。

調査協力研究者

調査の実施にあたり、下記の研究者とともに企画・分析を行いました。（★筆頭研究者）

氏名	所属		執筆分担
★島村 聡	沖縄大学	人文学部 福祉文化学科	特集3～5節 第6章2～5節
★山野 良一			特集1～2節、 第3章、第5章
吉川 麻衣子			第2章、第7章
桜井 啓太	立命館大学	産業社会学部 現代社会学科	第1章、第4章

※報告書の第6章第1節は、一般社団法人 Co-Link で執筆しています。

回収状況

有効回収数は、以下の通りです。2024年沖縄県調査において、児童・生徒と保護者で両方回答があったもの（マッチングが可能だったもの）は、小学5年生で2,041件、中学2年生で1,635件となっています。

		配布数	有効回収数		有効回収率		マッチング 件数
			世帯	こども	保護者	こども	
2024年度	小学1年生	2,961		1,813		61.2%	
	小学5年生	3,010	2,055	2,052	68.3%	68.2%	2,041
	中学2年生	2,893	1,733	1,649	59.9%	57.0%	1,635
2021年度 ※小1実施なし	小学5年生	3,331	2,387	2,386	71.7%	71.6%	2,376
	中学2年生	3,317	2,494	2,496	75.2%	75.3%	2,476
2018年度	小学1年生	3,016		2,362		78.3%	
	小学5年生	3,018	2,264	2,276	75.0%	75.4%	2,175
	中学2年生	3,020	2,122	2,107	70.3%	69.8%	2,066
2015年度	小学1年生	1,778		1,204		67.7%	
	小学5年生	1,609	1,175	1,162	73.0%	72.2%	1,160
	中学2年生	1,586	1,222	1,169	77.0%	73.7%	968

備考

- 図表で示している回答数の割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- 調査票の作成・分析にあたり、下記調査を参考にしました。
 - こども家庭庁(2024年)「令和5年度 こども政策の推進に関する意識調査報告書」
 - こども家庭庁(2024年)「児童の権利に関する条約の認知度等調査及び同条約の普及啓発方法の検討のための調査研究報告書」
 - 厚生労働省(2023年)「2022(令和4)年 国民生活基礎調査の概況」
 - 内閣府(2023年)「令和4年度 こども・若者の意識と生活に関する調査報告書」
 - 文部科学省(2023年)「令和5年度 子供の学習費調査」
 - 東京都立大学子ども・若者貧困研究センター(2023年)「令和4年度東京都こどもの生活実態調査(概要版)」※「令和4年度東京都こどもの生活実態調査」は、東京都立大学子ども・若者貧困研究センターJSPS 科研費 22H05098 の助成を受けて実施されたものです。
 - 公益財団法人日本財団(2023年)「こども1万人意識調査報告書」
 - スポーツ庁(2018年)「平成29年度 運動部活動等に関する実態調査報告書」

3. 本報告書では、沖縄県が小中学生を対象に実施した沖縄こども調査との経年比較を行っています。図表においては、2015年度の調査を「2015 沖縄」、2018年度の調査を「2018 沖縄」、2021年度の調査を「2021 沖縄」、本調査を「2024 沖縄」と表記しています。本文中では、それぞれ「2015年沖縄県調査」「2018年沖縄県調査」「2021年沖縄県調査」「2024年沖縄県調査」と表記しています。

また、2022年度に実施された東京都調査（東京都立大学子ども・若者貧困研究センターがJSPS 科研費 22H05098 の助成を受けて実施）とも一部比較をしています。図表においては、「2022 東京」、本文中では「2022年東京都調査」と表記しています。なお、東京都調査では、対象自治体の各男児・女児の割合でウェイトを付けて集計されていますが、沖縄県調査はウェイトを付けていないため、ウェイトを付していない数値で比較を行っています。

4. 保護者票の問3にて、回答者について尋ねています。回答者が施設職員などの場合は、世帯人数、世帯所得は無回答処理をしています。

5. 児童・生徒及び保護者を対象に実施した小学5年生、中学2年生の集計では、児童・生徒票のみの項目は児童・生徒票の全サンプル、保護者票のみの項目は保護者票の全サンプル、クロス集計は児童・生徒と保護者のマッチングができた票で集計を行っています（図によってn値が異なります）。

なお、2015年、2018年、2021年沖縄県調査との経年比較にあたり、同じ条件で比較できるように、本調査の集計方法にあわせて再集計しています。そのため、一部の集計については、過去の報告書と数値が異なるものがあります。

6. 経済状況別でのクロス集計で示している「全体」ほか、「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の数値は、等価可処分所得がわかる世帯で集計したのになります。

7. 必要な図表に関して、低所得層Ⅰ、低所得層Ⅱ、一般層の3群について、カイニ乗検定（場合によっては正確検定）の結果として、p値の大きさを参考に掲載しています。一部、困窮層と非困窮層の2群、世帯類型別などでも検定を行っています。なお、経年比較では検定を行っておらず、p値も掲載していません。

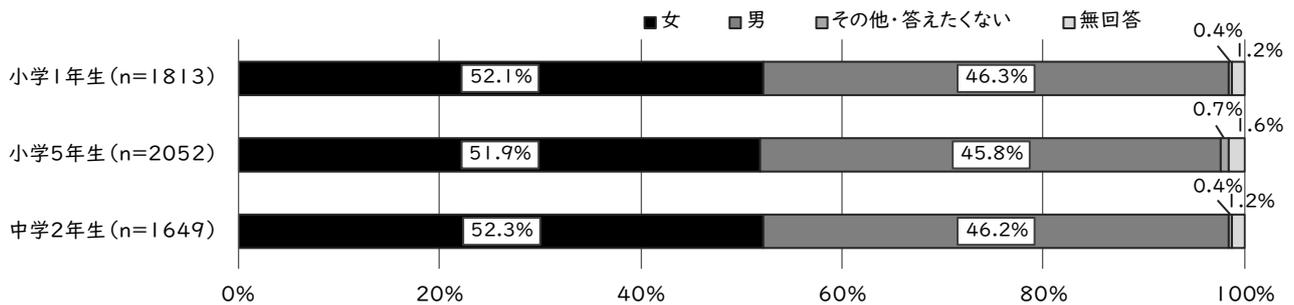
2

基本属性

1 こどもの性別

図1-1は、保護者票の回答をもとに、調査対象のお子さんの性別を見たものです。いずれの学年も女子の割合が高くなっています。

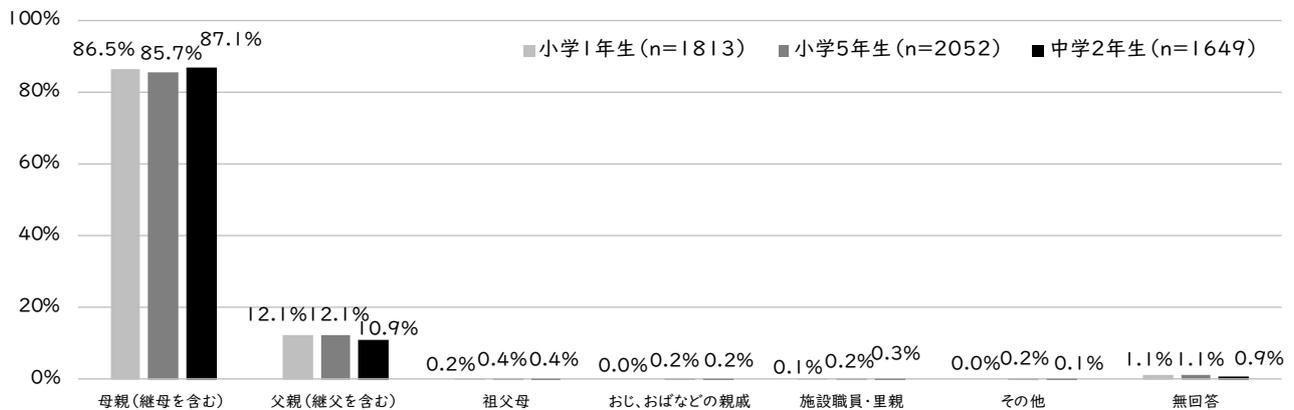
図1-1 【保護者】お子さんの性別を教えてください



2 回答者の属性

図2-1は、回答した保護者の属性を見たものです。どの学年も母親が8割以上と最も多く、次いで父親となっています。

図2-1 【保護者】回答者の属性



3 母親・父親の年齢

図3-1から図3-3は、母親、父親の年齢を示したものです。それぞれ母親、父親がいる世帯で集計しています。小学1年生でもっとも多いのは、母親が30代(48.4%)、父親が40代(46.3%)となっています。小学5年生と中学2年生は、母親、父親ともに40代が5割以上と、もっとも多くなっています。

図3-1 【小1保護者】母親・父親の年齢

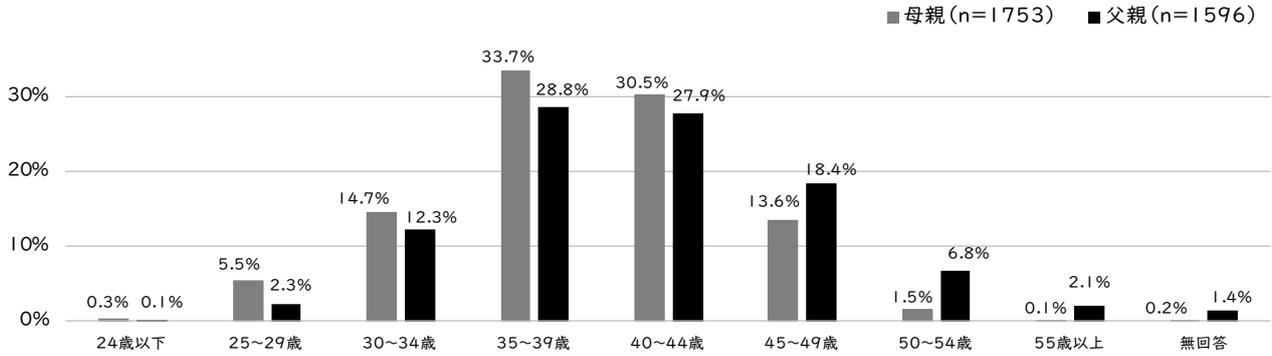


図3-2 【小5保護者】母親・父親の年齢

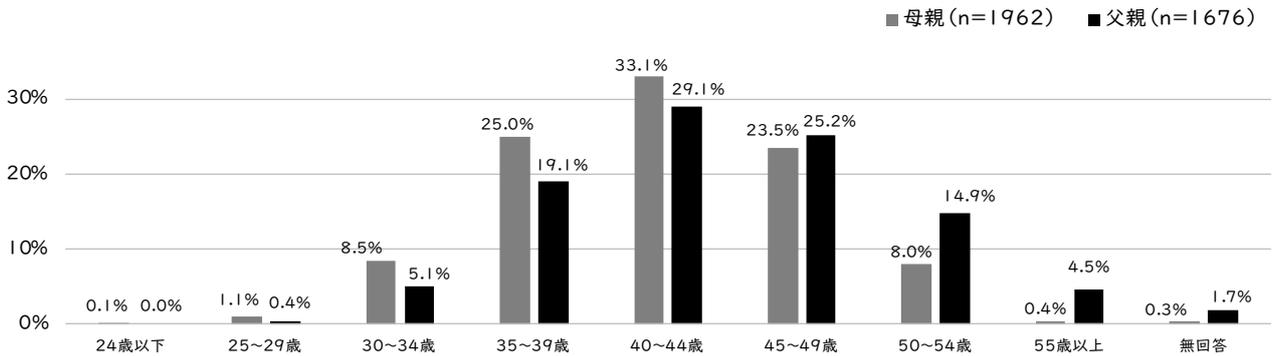
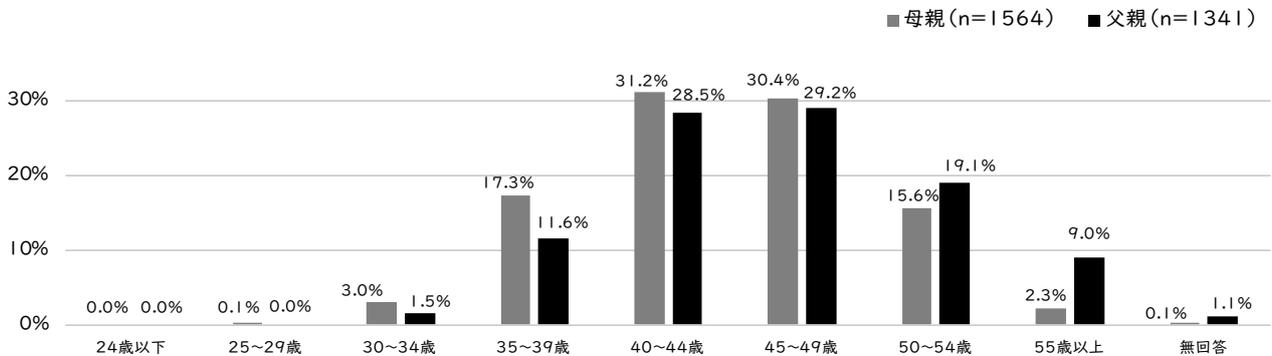


図3-3 【中2保護者】母親・父親の年齢



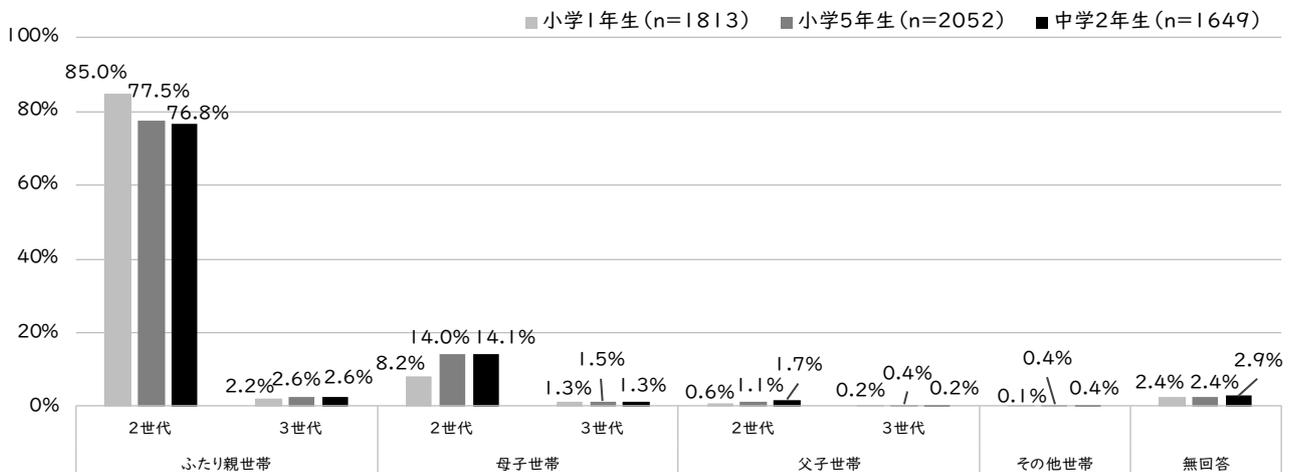
4 世帯類型

本調査では、ふたり親世帯とひとり親世帯（母子・父子世帯）、さらに2世代（親+こども）と3世代（親+こども+祖父母）で世帯区分を設けています。その他世帯は、これらに該当しない世帯になります（祖父母とこどものみなど）。

図4-1は、この区分に基づき、世帯類型を見たものです。どの学年もふたり親の2世代世帯がもっとも多くなっています。また、「ひとり親世帯」（母子世帯と父子世帯の合算）の割合をみると、小学1年生で10.3%、小学5年生で17.0%、中学2年生で17.3%となっています。

参考までに、沖縄県が過去に実施した調査におけるひとり親世帯の割合は、2015年、2018年、2021年沖縄県調査の順に、小学1年生が9.9%、14.0%（2021年は実施していない）、小学5年生が16.9%、17.0%、17.3%、中学2年生が16.8%、20.5%、18.9%となっています。

図4-1 【7区分】世帯類型



5 世帯収入

本調査では、こどもと生計を共にしている方全員の収入を合わせた額（年間のボーナス含む手取り額。社会保障給付金なども含む）と、その世帯収入に含まれる母親と父親の収入を尋ねています。それらの収入を経年比較したものが、図5-1から図5-9になります（無回答を除いて割合を算出。母親と父親の収入については、母親、父親がいる世帯で集計）。

世帯収入でもっとも多かったのは、小学1年生、小学5年生、中学2年生ともに300~400万円未満で約2割を占めました。

経年比較では、世帯収入、母親、父親の収入ともに、増加傾向にあることがわかりました。特に母親については、100万円未満の割合が2015年沖縄県調査と比べて10~20ポイントほど低下しています。本報告書の特集第1節でみるように、働く母親が増加したことが影響していると考えられます。

ただし、200万円未満も一定数を占めており、小学1年生、小学5年生、中学2年生の順で、母親が60.4%、65.2%、57.9%、父親が12.6%、16.4%、15.4%となっています。

図5-1 【小1保護者】世帯収入

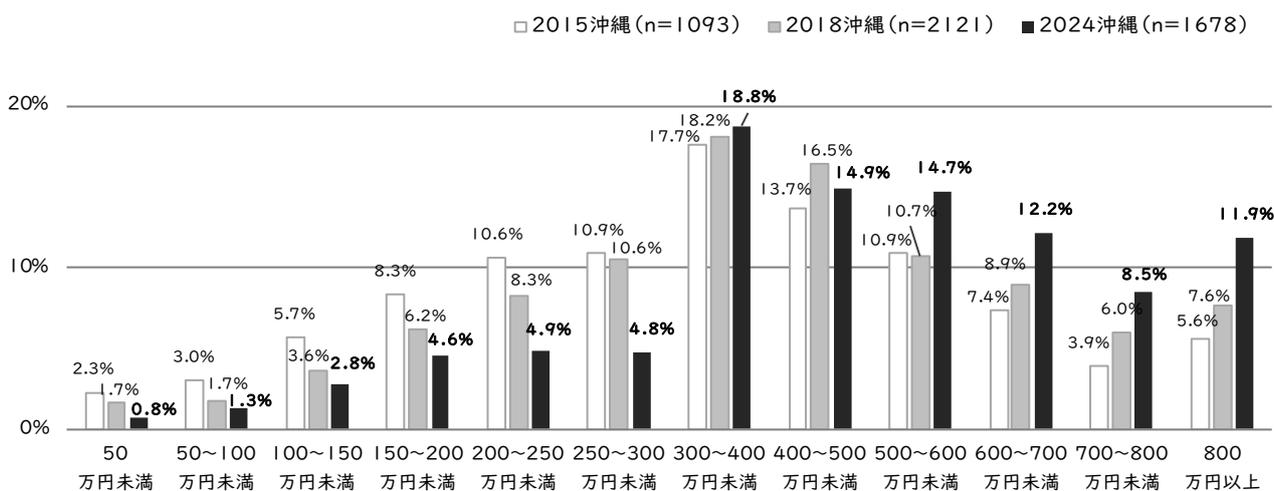


図5-2 【小5保護者】世帯収入

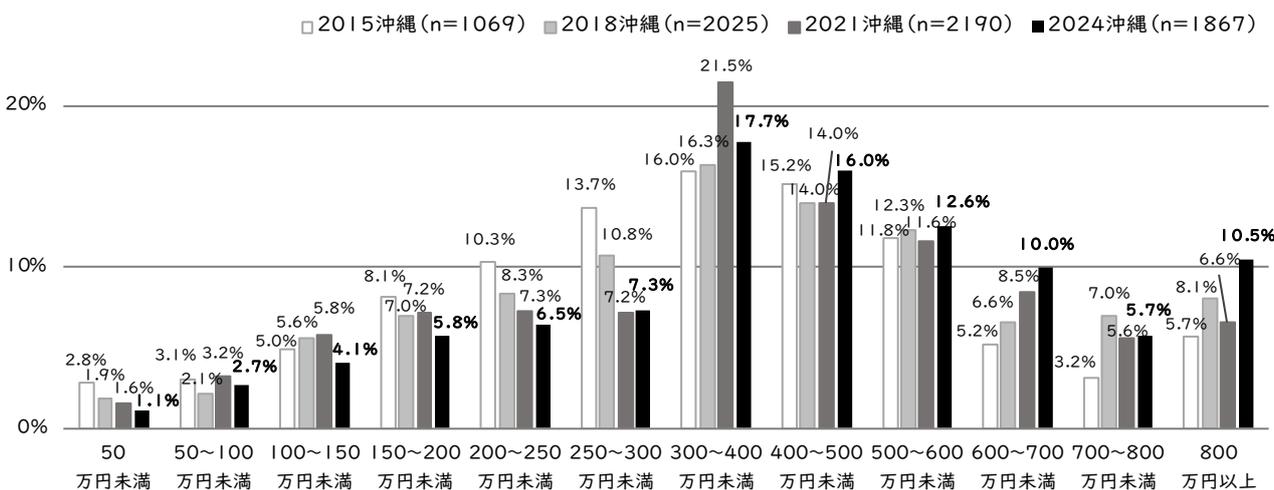
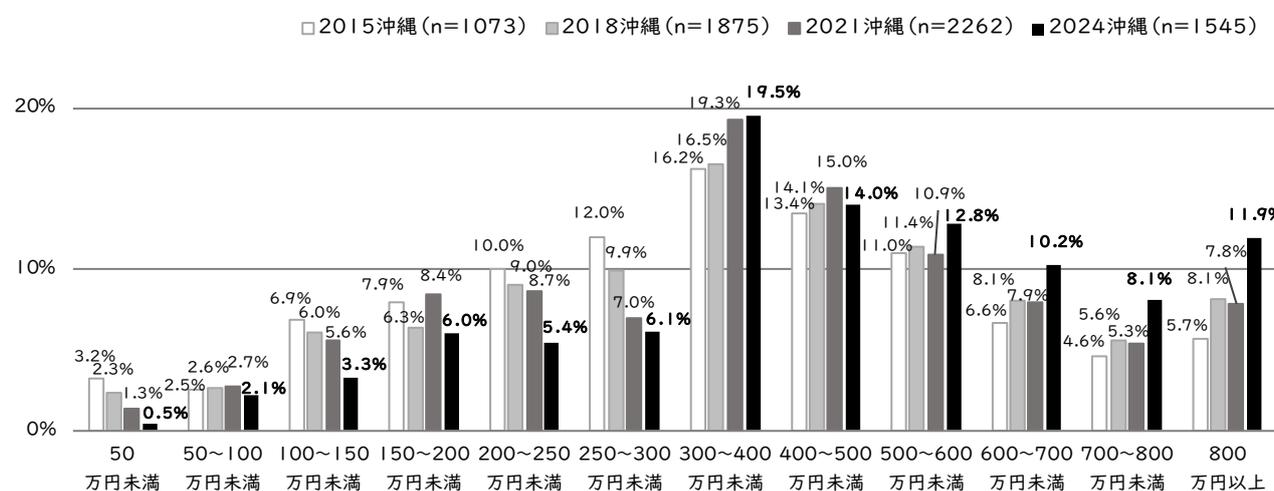


図5-3 【中2保護者】世帯収入



母親の収入

図5-4 【小1保護者／母親】母親の収入

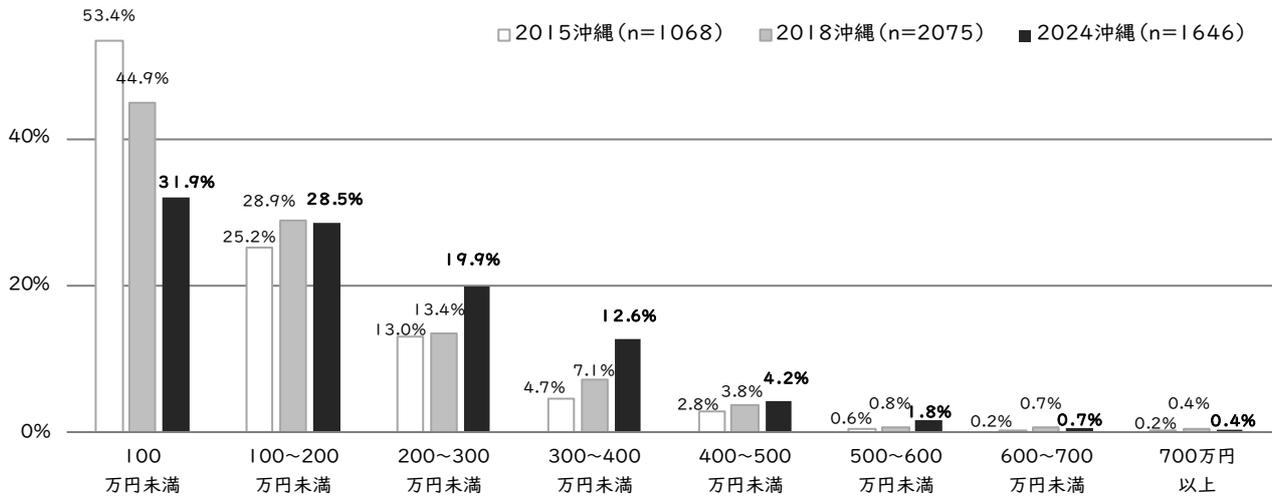


図5-5 【小5保護者／母親】母親の収入

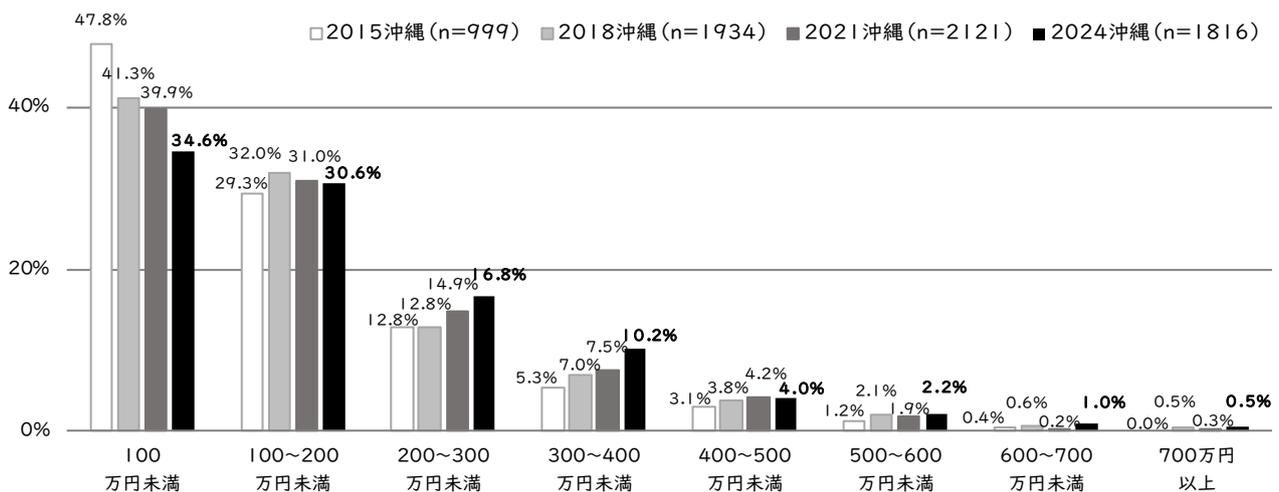
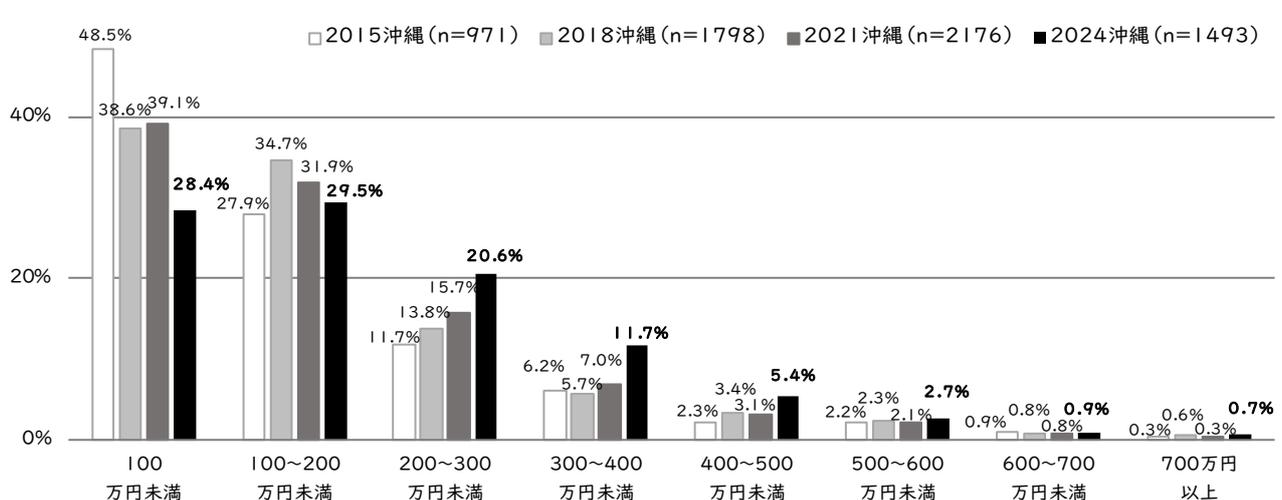


図5-6 【中2保護者／母親】母親の収入



父親の収入

図5-7 【小1保護者／父親】父親の収入

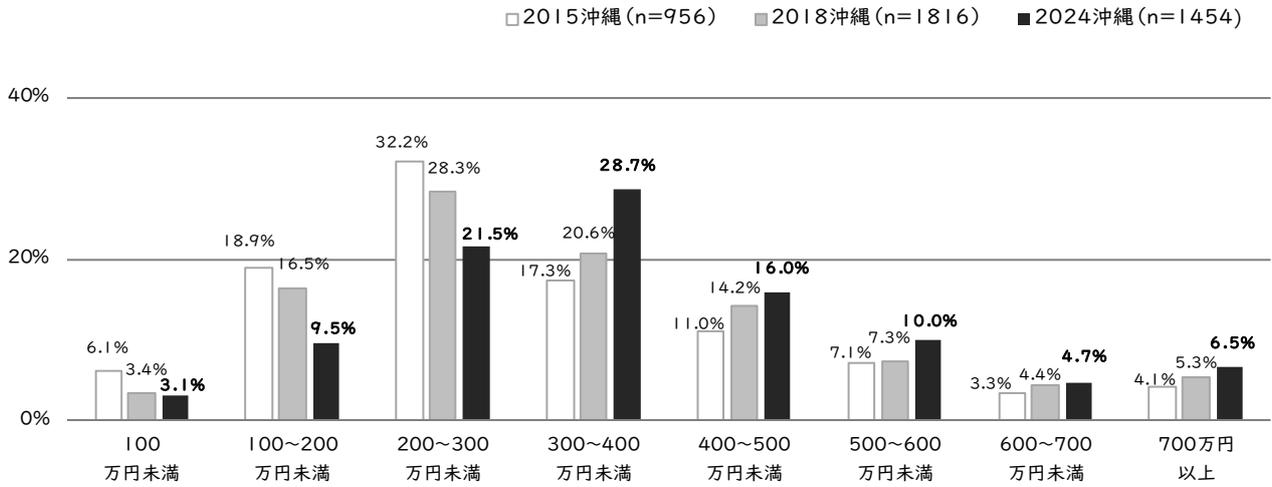


図5-8 【小5保護者／父親】父親の収入

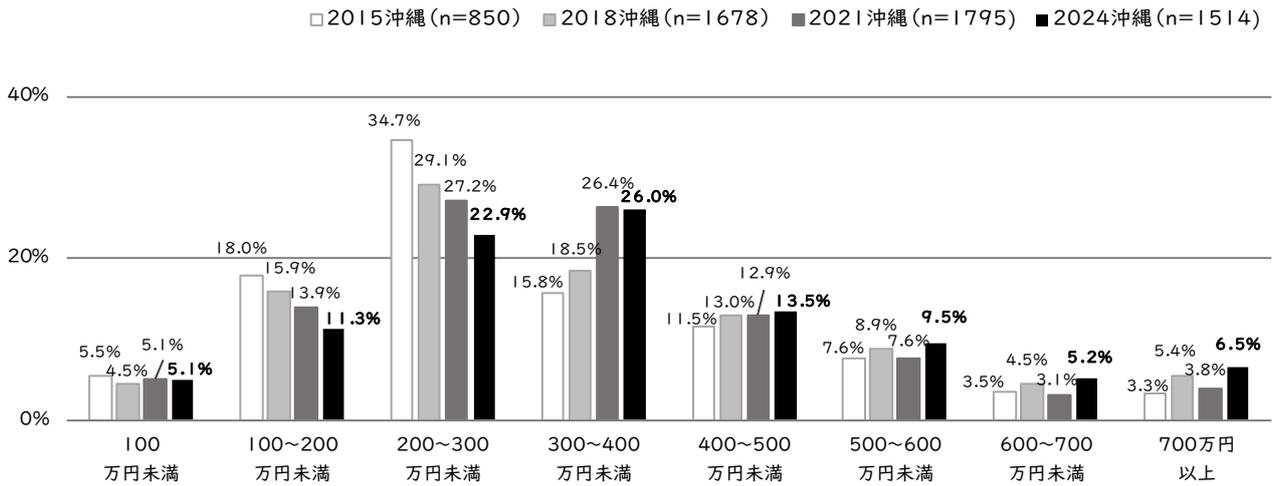
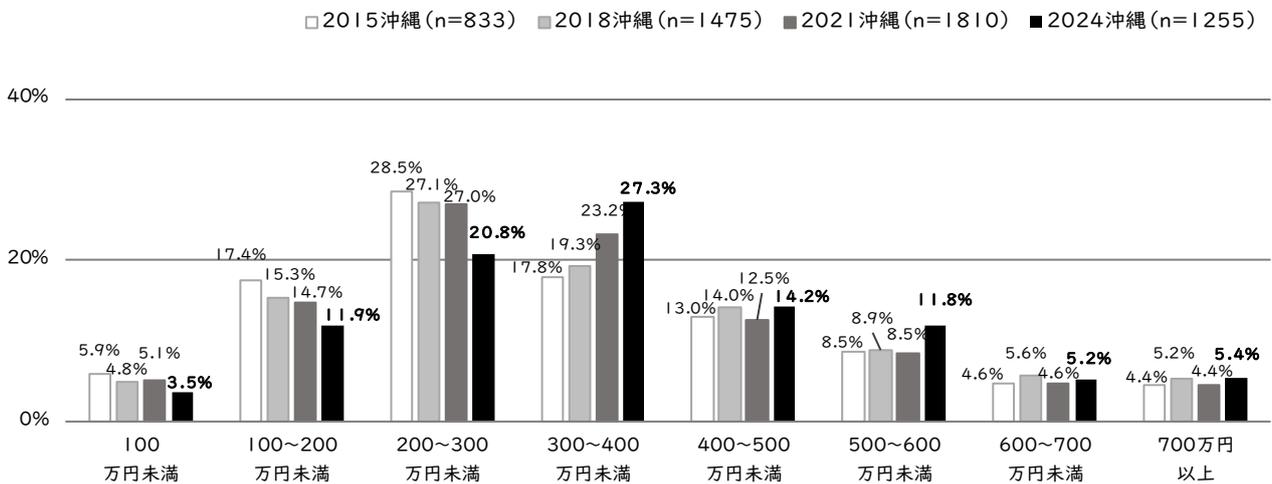


図5-9 【中2保護者／父親】父親の収入



6 困窮世帯の割合

貧困線について

本調査では、経済状況による影響を分析するため、世帯人数と世帯収入（税金や社会保険料の額を差し引いた手取り収入）から等価可処分所得を算出し（世帯の可処分所得（手取り収入）を世帯人数の平方根で割った額）、世帯の困窮程度を下表の区分に分類しています。分類にあたっては、厚生労働省の「2022 年国民生活基礎調査」における貧困線である127万円に、昨今の物価高騰の影響を考慮し、消費者物価指数の変動から算出された係数（1.0581）をかけた134万円としています。

区分の名称		貧困線をベースにした額	所得	(参考)4人世帯の場合の年収
困窮層	低所得層Ⅰ	134万円未満(1.0倍未満)	低	年収268万円未満
非困窮層	低所得層Ⅱ	134~201万円未満(1.0~1.5倍未満)	↓	年収268~402万円未満
	一般層	201万円以上(1.5倍以上)		高

なお、本調査では、過去の沖縄こども調査と経年比較も行っていますが、2015年、2018年沖縄県調査では、貧困線未満かそれ以上かの2区分で分析していたため、両調査との経年比較の際は、3区分ではなく、「困窮層」「非困窮層」の2区分で分析を行っています。

また、基準としている国民生活基礎調査の貧困線は、2022年調査からOECDの所得定義に基づいた新基準による貧困線へと変更になりました。一方、本報告書で経年比較している2015年、2018年、2021年沖縄県調査では、旧基準による貧困線をもとに困窮区分を設けているため、新基準を用いた本調査とは基準が異なることに留意が必要です(注1、2)。

注1) 国民生活基礎調査によると、新基準は、「2015年に改定されたOECDの所得定義の新たな基準で、従来の可処分所得から更に「自動車税・軽自動車税・自動車重量税」、「企業年金の掛金」及び「仕送り額」を差し引いたものである」としています(厚生労働省「2022(令和4)年国民生活基礎調査の概況」)。本調査でも、この基準にあわせて、世帯収入を尋ねる問のなかで、これらを差し引くよう説明を追加しています。

注2) 2021年の国民生活基礎調査から、併記されていた旧基準での貧困線がなくなったため、本調査でも新基準を用いています。参考までに、2021年沖縄県調査で参考にした、「2019年国民生活基礎調査」における新基準での貧困線は、124万円でした。

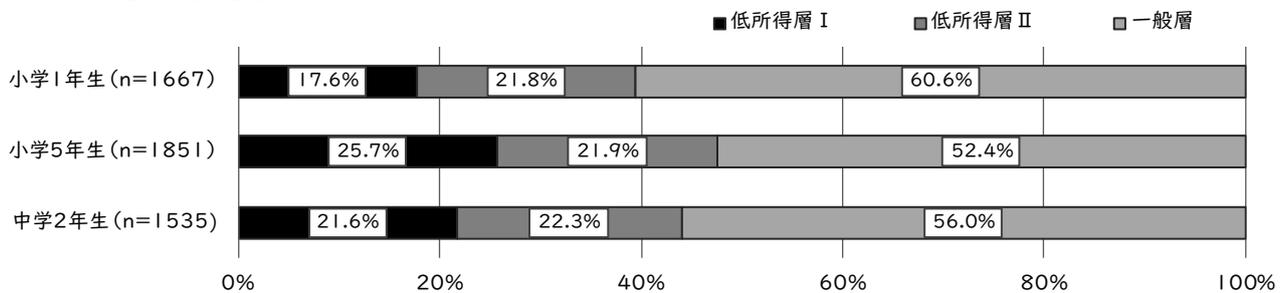
困窮世帯の割合

上記の区分をもとに世帯の経済状況を見たものが、図6-1になります(無回答を除いた割合で算出)。貧困線未満となる低所得層Ⅰは、小学1年生で17.6%、小学5年生で25.7%、中学2年生で21.6%となりました。

小学5年生が高くなった理由として、小学1年生、中学2年生に比べて回収率が高かったことが、一つの要因として考えられます。

回収率と困窮世帯の回答率との相関関係については、内閣府『令和元年度子供の貧困実態調査に関する研究報告書』にて、回収率の高い自治体調査ほど授業の理解度が低い子どもが多いという関係性が見られ、ここから回収率の低い調査では、「困窮世帯の子供があまり回答していない可能性」(p19)があるとされており、回収率を高める工夫の必要性が指摘されています。ここから、回収率の高さと把握される困窮世帯の割合には正の相関関係があることが示唆されます。

図6-1 【保護者】等価可処分所得による分類



次に、学年別に経年比較で見てみます(図6-2から図6-4)。先述したように、2015年、2018年沖縄県調査では、低所得層Ⅱに該当する区分を設けていなかったため、貧困線未満に該当する低所得層Ⅰを困窮層として、貧困線以上に該当する低所得層Ⅱと一般層を非困窮層として比較しています。

2015年と2024年の困窮層の割合を比べると、小学1年生で12.0ポイント、小学5年生で5.4ポイント、中学2年生で7.5ポイント減少していました。

参考までに、各学年を合算した困窮層の割合は、2024年は21.8%となっており、2015年の29.9%と比べて、8.1ポイント減となっています。

総じて、貧困線未満に該当する世帯は減少しており、改善傾向にあると言えますが、いまだ2~3割程度の世帯が困窮世帯に該当しており、深刻な状況にあると言えます。

図6-2 【小1保護者】等価可処分所得による分類

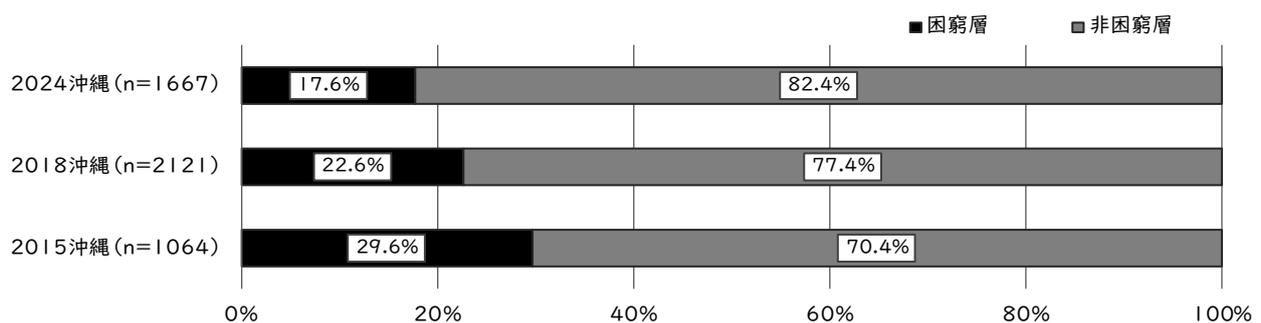


図6-3【小5保護者】等価可処分所得による分類

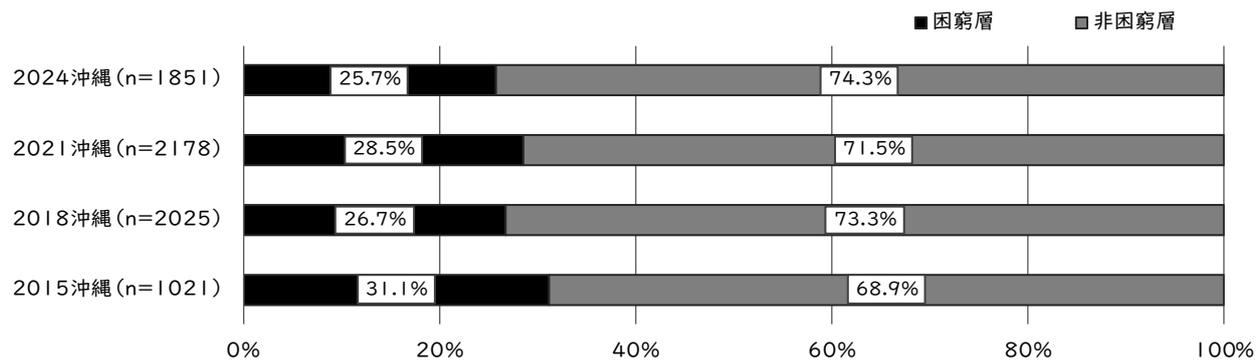
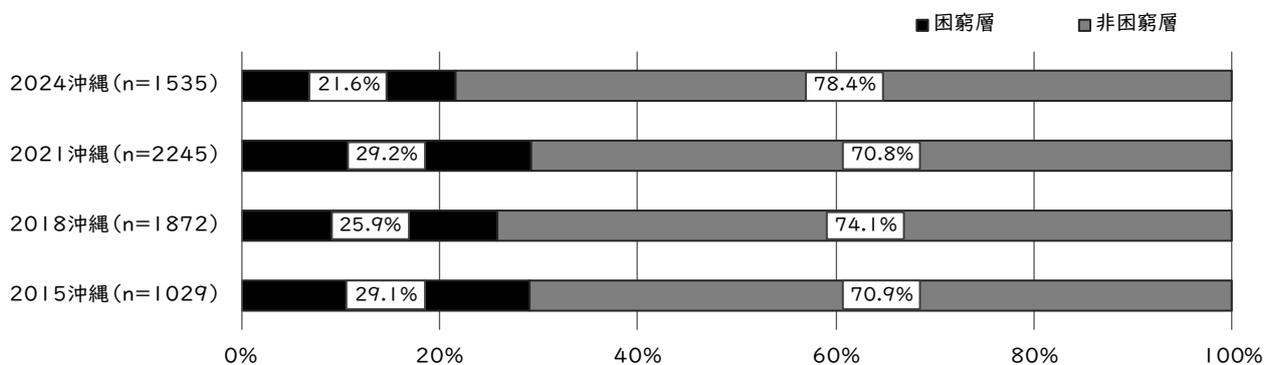
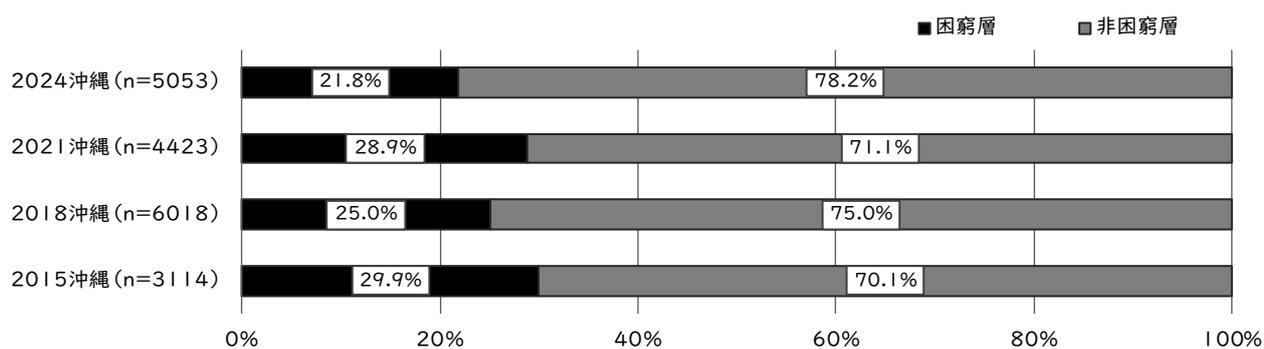


図6-4【中2保護者】等価可処分所得による分類



参考【保護者(全体)】等価可処分所得による分類 (2021年は、小1が含まれていない)



世帯類型別にみた困窮世帯の割合

図6-5は、世帯類型別に2024年沖縄県調査の困窮世帯の割合を見たものです。

ひとり親世帯における低所得層Ⅰの割合は、小学1年生で67.6%、小学5年生で65.5%、中学2年生で59.0%となりました。どの学年も、低所得層Ⅰの割合は、ふたり親世帯に比べてひとり親世帯の方が高く、その差は50ポイント前後となっています。

図6-5 【保護者】世帯類型別にみた等価可処分所得による分類

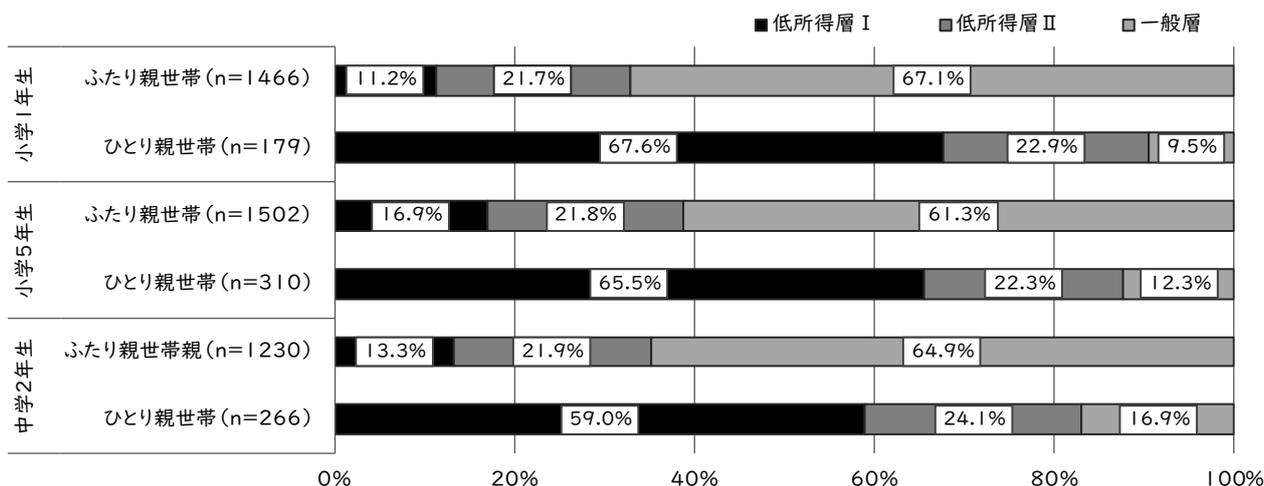


図6-6から図6-8は、経年比較で見たものです。図6-2から図6-4と同様に、2015年、2018年沖縄県調査では、低所得層Ⅱに該当する区分を設けていなかったため、貧困線未満に該当する低所得層Ⅰを困窮層として、貧困線以上に該当する低所得層Ⅱと一般層を非困窮層として比較しています。

2015年と2024年の困窮層の割合を比べると、ふたり親世帯は減少傾向にあるのに対し、ひとり親世帯は小学1年生と中学2年生で同程度、小学5年生では約12ポイント増加していることがわかりました。

先の図6-2から図6-4から、困窮世帯の割合は改善傾向にあることがわかりましたが、世帯類型別で見ると、改善しているのはふたり親世帯で、ひとり親世帯は依然、厳しい状況にあると言えます。

図6-6 【小1保護者】世帯類型別にみた等価可処分所得による分類

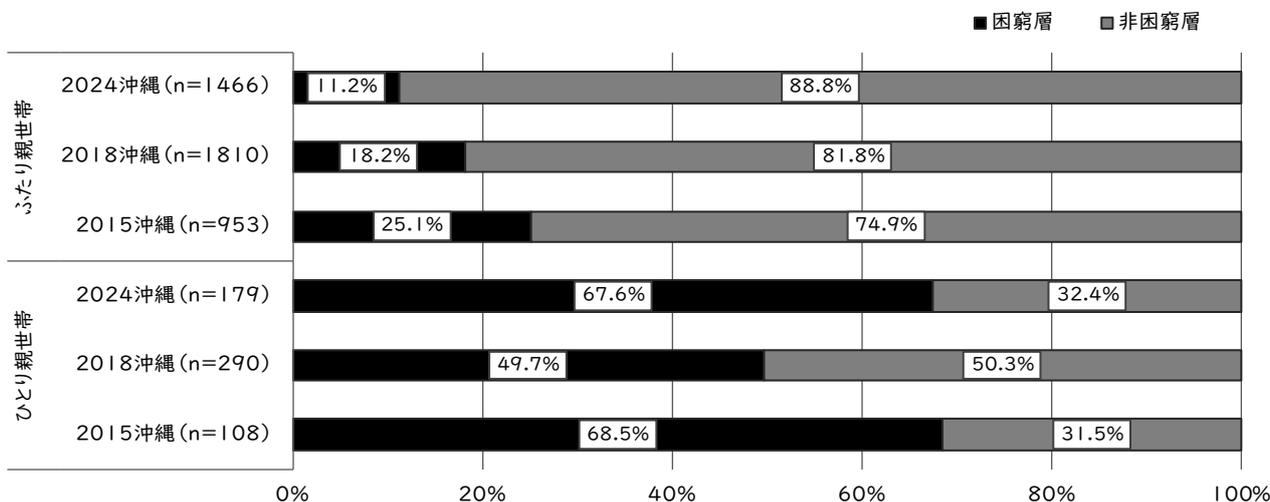


図6-7 【小5保護者】世帯類型別にみた等価可処分所得による分類

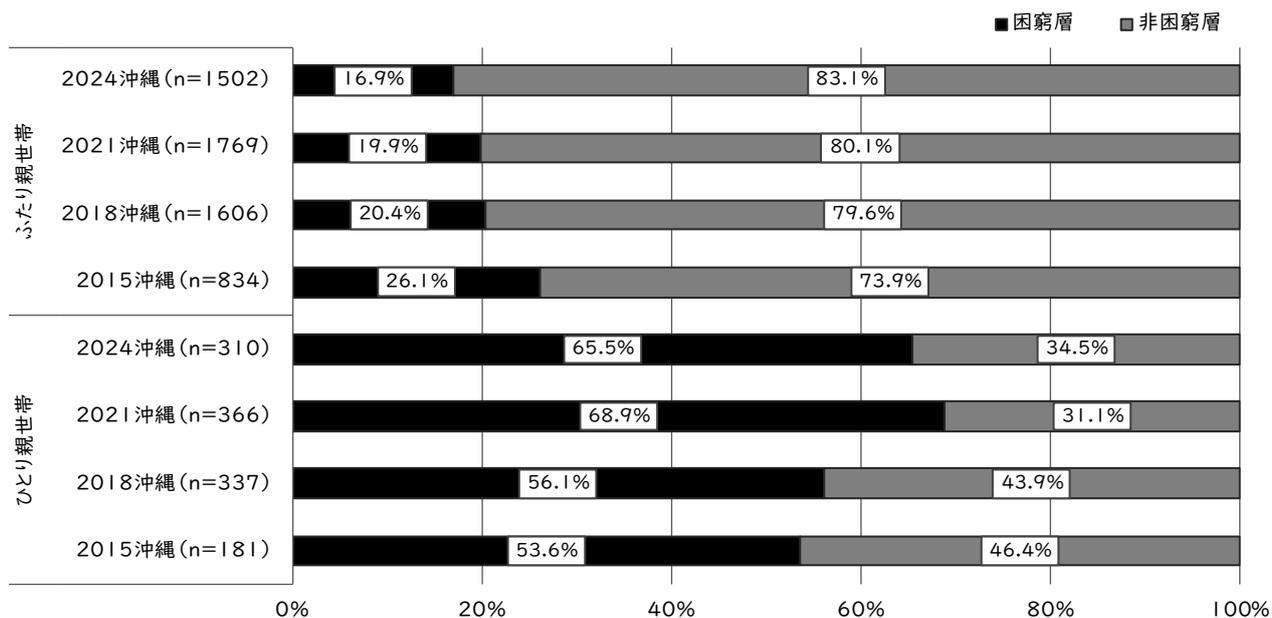
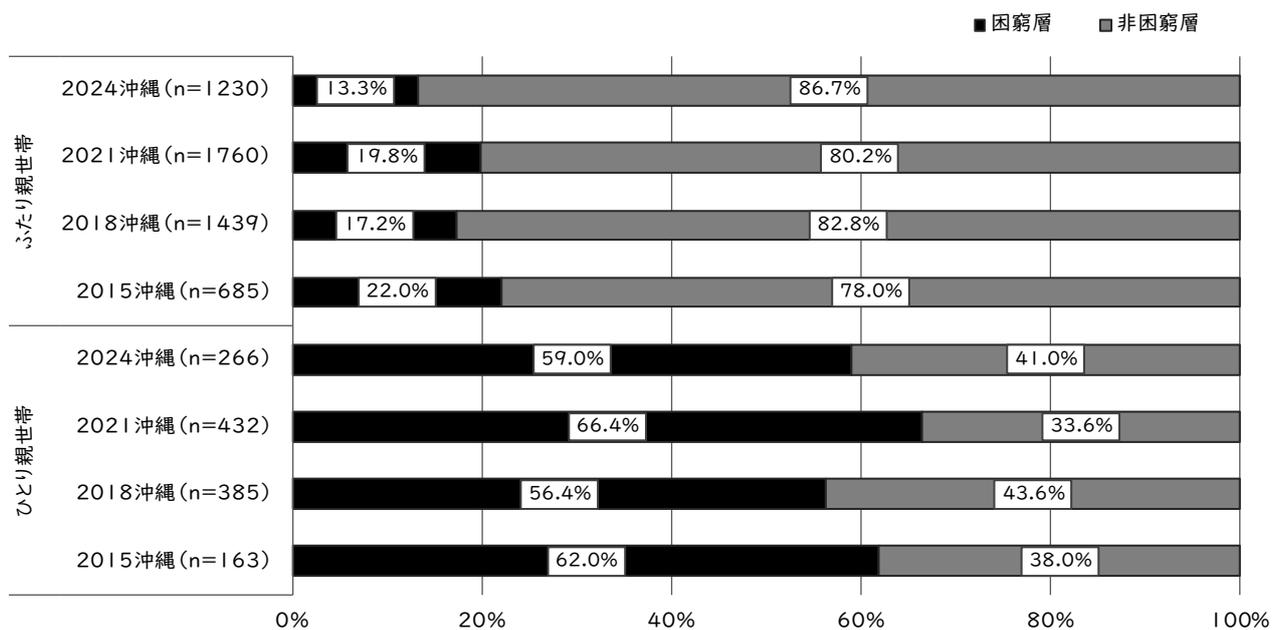


図6-8 【中2保護者】世帯類型別にみた等価可処分所得による分類



考慮すべき点について① — 実質賃金の低下

ここまで、沖縄県における困窮世帯の割合（貧困線未満となる低所得層Ⅰ（困窮層）の割合）を見てきました。全体として、沖縄県における困窮世帯の割合は、低下傾向にあると言えます。

その要因として、世帯収入の増加が影響していると考えられます。本調査の貧困線は2015年沖縄県調査の122万円よりも12万円高い134万円となっており、貧困線未満の対象となる世帯が広く設定されていました。それにもかかわらず、困窮層の割合が減少していることから、子どもをもつ世帯の収入は、この10年の間で一定程度増加したと言えます。

一方で、昨年度に実施した2023年沖縄県調査（0～17歳を対象）と同様に、本調査でも、現在の暮らしを「苦しい」と感じている世帯や、食料・衣服が買えなかった世帯の割合が増加していました（現在の暮らしや物価高騰に関する詳細は、本報告書の第4章をご参照ください）。

この相反する現象が生じている理由として、世帯収入の増加が物価高騰に追いついていないことが考えられます。低所得層Ⅰに該当するかどうかを判断する際に用いられる等価可処分所得は、実際の賃金（名目賃金）で算出されるからです。そこで、実際の賃金（名目賃金）から物価上昇分の影響を考慮して算定される実質賃金の状況を見てみたいと思います。

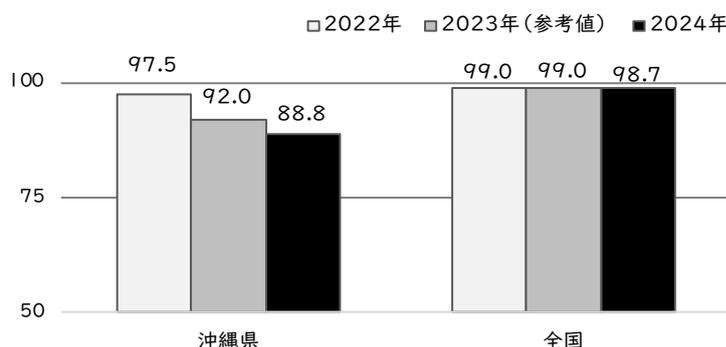
図6-9は、沖縄県と全国の実質賃金指数（名目賃金指数（現金給与総額）を消費者物価指数で除して100を乗じたもの）の推移を見たものです。2021年（注3）を100として算出しています。

2024年の実質賃金を見ると、沖縄県、全国共に2021年より低下していることがわかります。特に沖縄県は、全国と比べて2021年からの低下が大きく、全国が1.3ポイント減にとどまっているのに対し、沖縄県は11.2ポイント減と、全国よりも厳しい状況にあることがわかります。また、2023年と2024年を比べても、全国は99.0から98.7へと0.3ポイント減にとどまっているのに対し、沖縄県は92.0から88.8へと3.2ポイント低下しており、悪化が目立ちます。

注3) 2022年国民生活基礎調査における貧困線は、2021年の収入をもとに算出されています。

図6-9 実質賃金指数（調査産業計、事業所規模5人以上）

※指数は、2021年を100として算出



〈資料〉

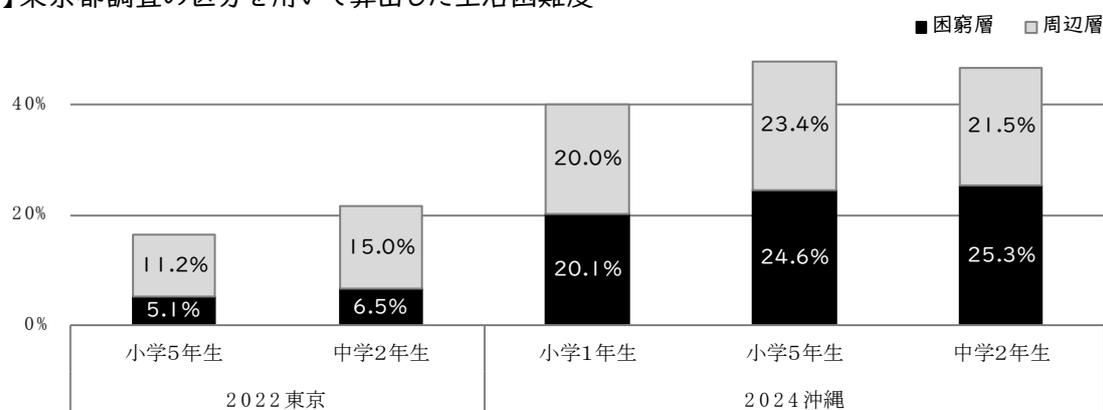
全国の数値は、厚生労働省（2025年）「毎月勤労統計調査 令和6年分結果確報」から、沖縄県の数値は、沖縄県（2025年）「沖縄県の賃金、労働時間、雇用の動き（毎月勤労統計調査地方調査）令和6年平均」から算出した。なお、2023年については、ベンチマークの更新があったため、参考値を採用している（参考値は、厚生労働省「毎月勤労統計調査 年平均結果の推移（令和6年分結果確報）」、沖縄県企画部統計課提供資料より）。

考慮すべき点について② — 東京都調査基準の「生活困難度」からみた困窮層の割合

本報告書では、一部の問において、2022 年度に実施された東京都調査と比較を行っていますが、その東京都調査で使用されている「生活困難度」(注4)を用いて沖縄県と東京都の状況を比較すると、沖縄県の「困窮層」の割合は、東京都の約4~5倍にも上がることがわかりました(下記、参考図参照。調査年や調査方法が異なること、また東京都調査と世帯収入の質問の仕方に違いがあるため、留意が必要)。困窮層と周辺層を合わせた「生活困難層」の割合も、小学5年生では東京都 16.3%に対し沖縄県 48.0%、中学2年生では東京都 21.5%に対し沖縄県 46.8%となっており、東京都調査の生活困難度の基準を用いた場合、沖縄県では約半数の世帯が生活困難を抱えているということになります。

よって、低所得層Ⅰが減少していることの評価については、物価高騰の影響や、他都道府県との比較を踏まえ、慎重になる必要があるでしょう。

【参考】東京都調査の区分を用いて算出した生活困難度



注4) 生活困難度について

東京都調査の以下の定義に基づき、生活困難度を区分しています。

- ①低所得
- ②家計のひっ迫(公共料金や家賃の滞納、食料・衣服を買えなかった経験など7項目のうち一つ以上該当)
- ③こどもの所有物と体験の欠如(こどもの体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当)

生活困難層	困窮層	①~③のうち二つ以上の要素に該当
	周辺層	①~③のうちいずれか一つの要素に該当
一般層		①~③のいずれの要素にも該当しない

【参考】・東京都(2018年)『「子供の生活実態調査」詳細分析報告書』「調査概要」

・東京都立大学子ども・若者貧困研究センター(2022年)「キー変数(世帯タイプ、生活困難度)の作成について」

消費者物価指数について

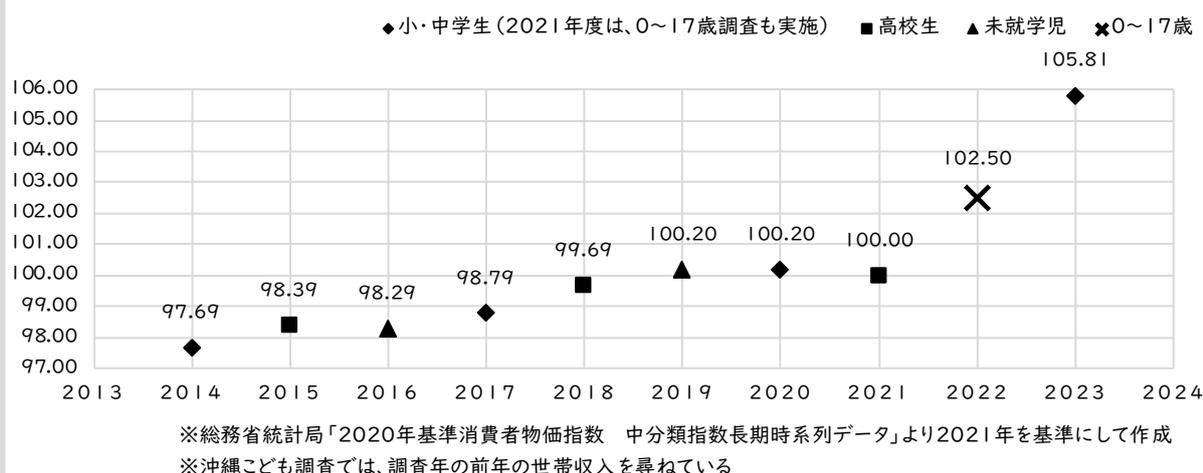
沖縄こども調査は、2015年度から毎年実施しており、世帯の経済状況別の分析を行う際は、国民生活基礎調査の貧困線を参考にしています。

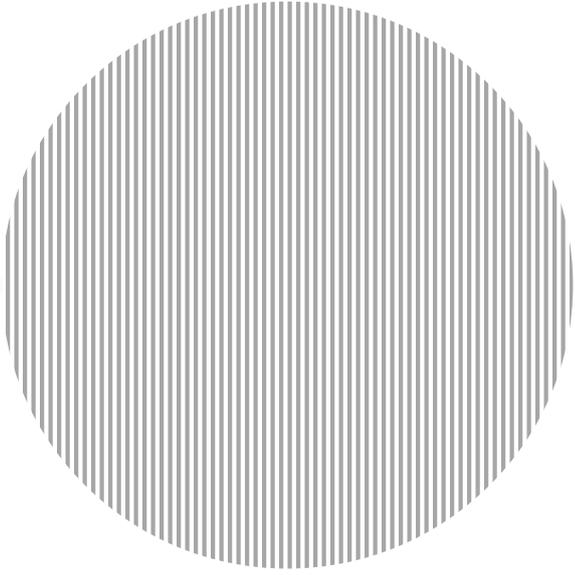
ただし、国民生活基礎調査の貧困線は、3年に1回の頻度で公表されるものであるため、沖縄こども調査における貧困線の設定にあたり物価変動の影響を加味することについて検討してきました。2016年沖縄こども調査（高校2年生対象）と2023年沖縄こども調査（0～17歳の子をもつ保護者対象）では、消費者物価指数の変動から算出された係数かけた額を貧困線としています。

本調査でも、昨今、消費者物価指数の上昇が著しいことを踏まえ（図6-10）、2022年国民生活基礎調査の貧困線127万円に消費者物価指数の変動から算出された係数1.0581をかけた134万円を貧困線とすることとしました。

なお、国民生活基礎調査と本調査では、調査年の前年の収入を尋ねていることから、前年の消費者物価指数を参考にしています（例：2024年に実施された本調査の場合、2023年の消費者物価指数を参考にしています）。

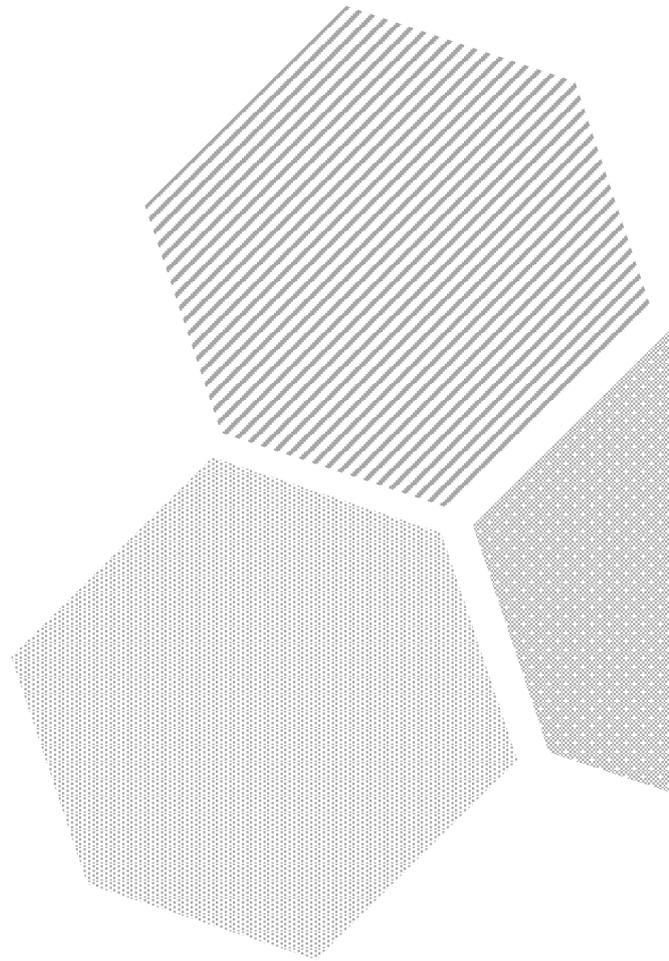
図6-10 2021年を基準とした場合の消費者物価指数の推移





特 集

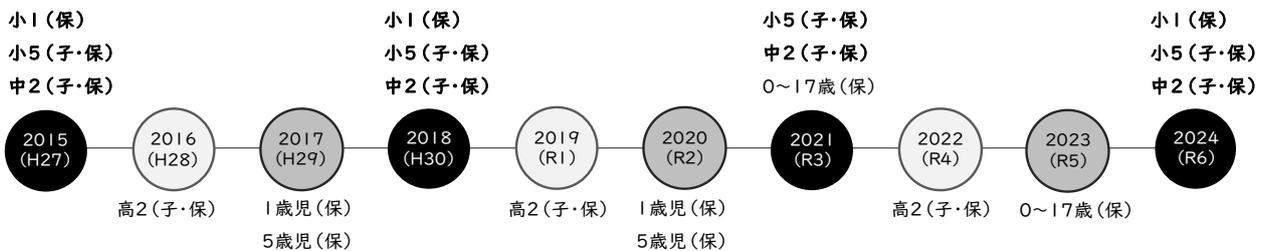
10年目の調査で見たこと



特集の分析にあたって

沖縄県では、2015年より毎年、「沖縄子ども調査」を実施しています。

調査対象がおおよそ3年サイクルとなるよう、毎年調査対象を変えながら実施しており、今回の2024年度の調査で10回目を迎えます（小中学生を対象とした調査では4回目）。



沖縄子ども調査では、こどものいる世帯状況の把握を目的にしていることから、社会情勢を踏まえて調査項目を変えてきた側面はあるものの、通年で尋ねてきた質問もあります。

そこで、本報告書では、10回目の節目の年を迎えるにあたり、比較可能な質問項目に関してこの10年の変化をみる特集を組むことにしました。

経済状況別での経年比較では、2015年沖縄県調査が「困窮」「非困窮」での2区分で分析されているため、ここでは、2024年沖縄県調査も2区分で集計しています（検定はおこなっていません）。なお、2015年の集計にあたっては、2024年の集計方法にそろえるため、保護者、児童・生徒ともに回答があった世帯（マッチングが可能な世帯）で集計をしています。

前回の2021年沖縄県調査（小学5年生、中学2年生対象）との経年比較は、本報告書第1章～第6章で行っておりますので、そちらをご参照ください。

保護者の状況(学歴、就労)

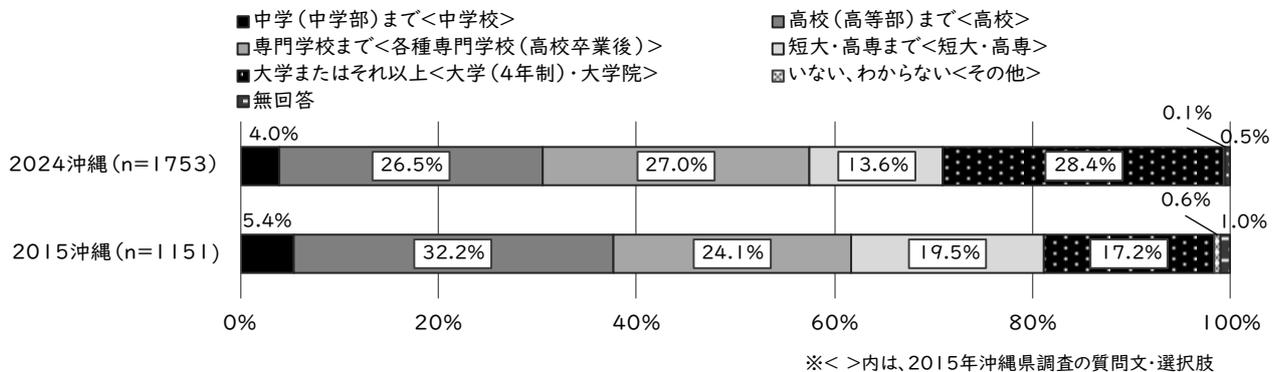
図A-1-1から図A-1-3は、小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者のうち母親の最終学歴について経年比較した結果です(母親のいる世帯のみを対象に集計)。図A-1-4から図A-1-6は、同様の父親の最終学歴についての結果です(父親のいる世帯のみを対象に集計)。

母親についてはどの学年の場合も、2015年沖縄県調査に比べて2024年沖縄県調査では、学歴が伸びている傾向が見られます。特に「大学またはそれ以上」の割合が、小学1年生の母親では2015年の17.2%から2024年の28.4%へ、小学5年生では11.0%から21.0%へ、中学2年生では9.4%から19.3%へとどの学年も約10ポイント増加しています。

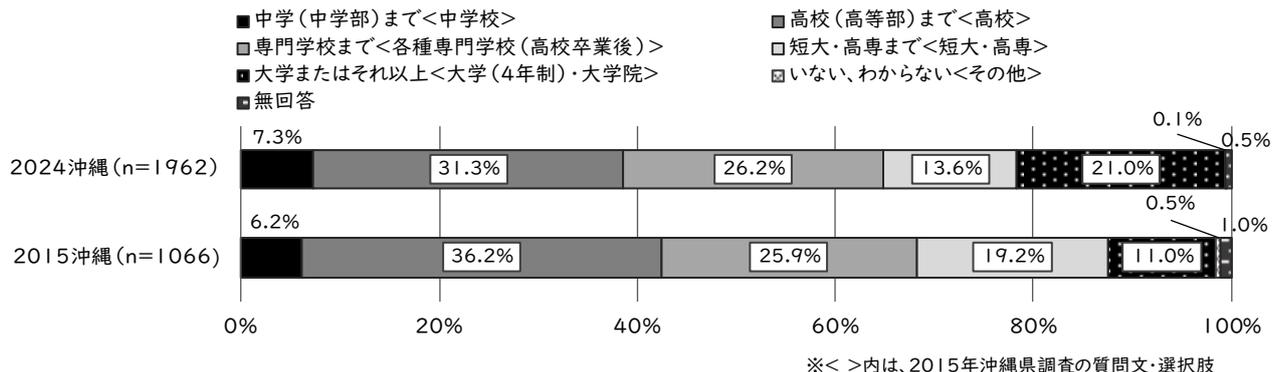
父親についてもどの学年の場合も、2015年に比べて2024年では、学歴が伸びている傾向が見られます。しかし、母親に比べ伸びは小さいと言えます。「大学またはそれ以上」の割合で見ると、小学1年生の父親では2015年の27.9%から2024年の40.5%へと、母親と同様、10ポイント以上の増加がありました。小学5年生では25.7%から30.4%へ、中学2年生では24.9%から30.9%へと5ポイント程度の増加にとどまっています。

母親

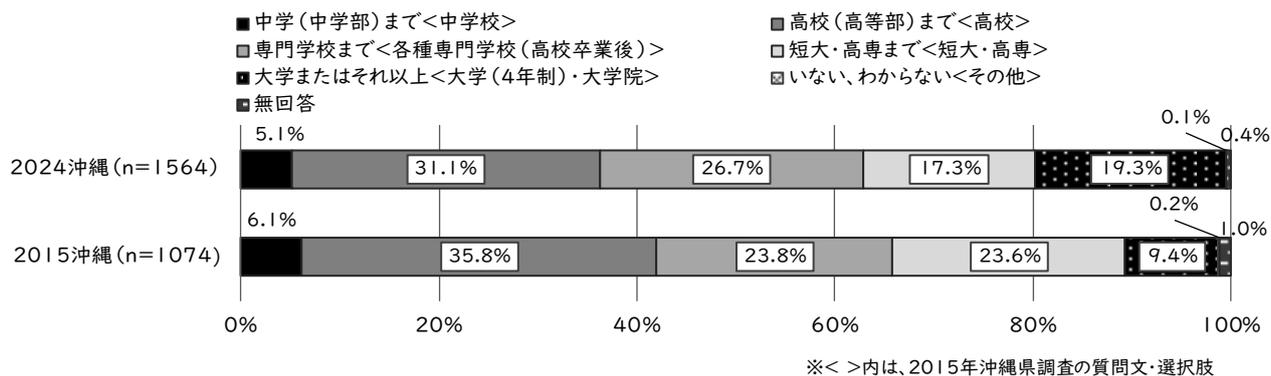
図A-1-1【小1保護者/母親】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください
 <お子さんのお母さんの最終学歴を教えてください>



図A-1-2【小5保護者/母親】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください
 <お子さんのお母さんの最終学歴を教えてください>

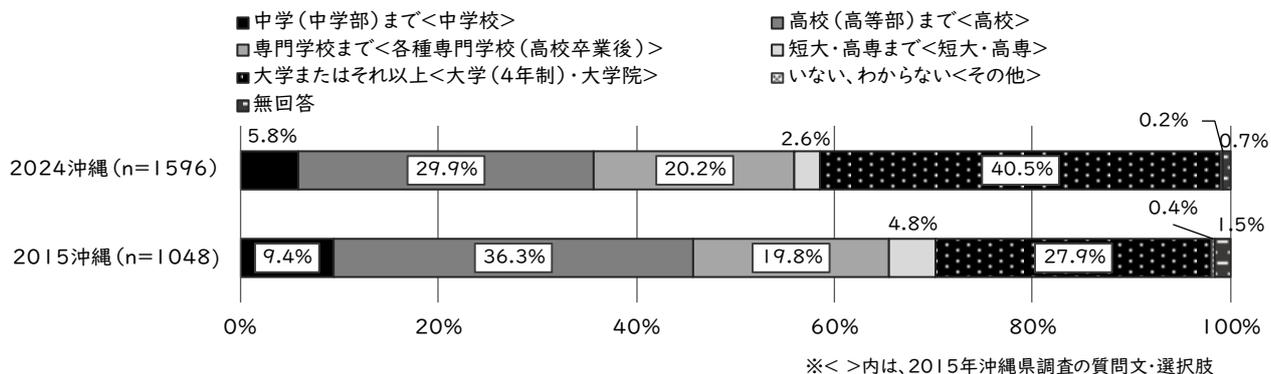


図A-1-3【中2保護者／母親】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください
 <お子さんのお母さんの最終学歴を教えてください>

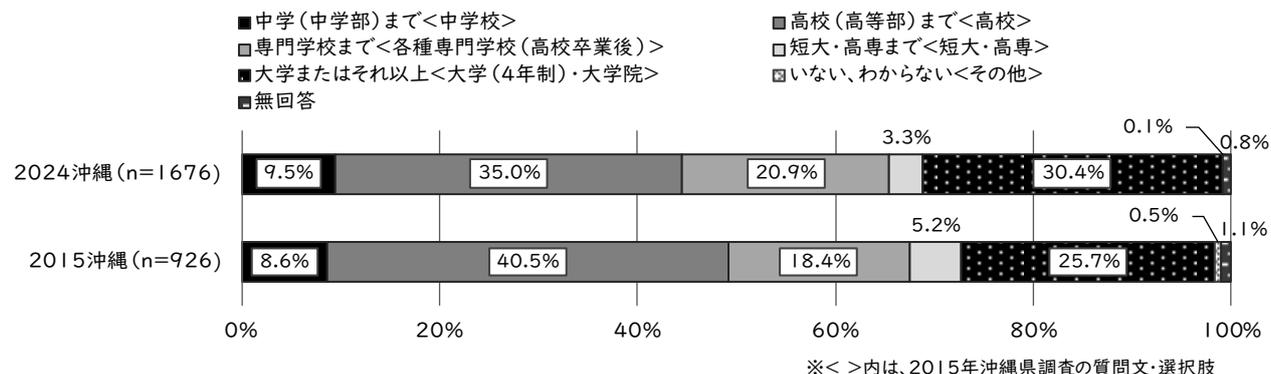


父親

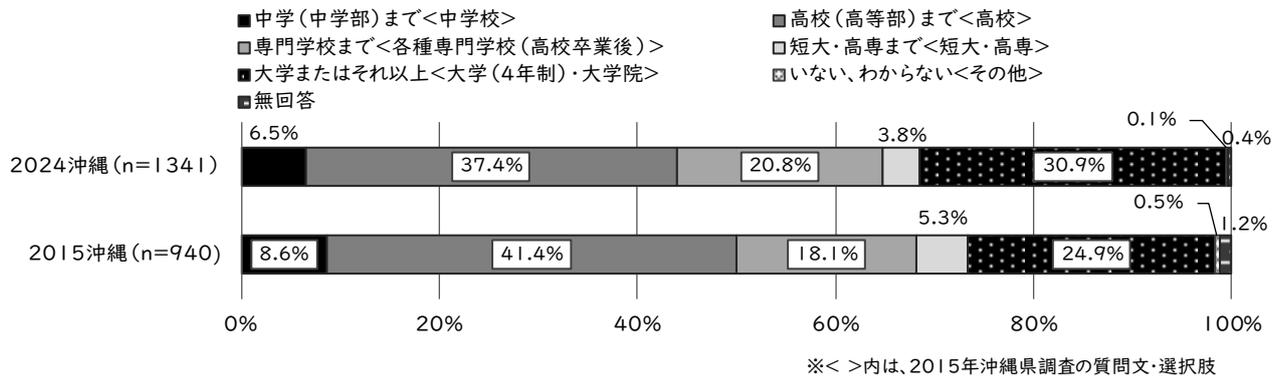
図A-1-4【小1保護者／父親】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください
 <お子さんのお父さんの最終学歴を教えてください>



図A-1-5【小5保護者／父親】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください
 <お子さんのお父さんの最終学歴を教えてください>



図A-1-6【中2保護者／父親】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください
 <お子さんのお父さんの最終学歴を教えてください>



母親の就労状況 — 経済状況別

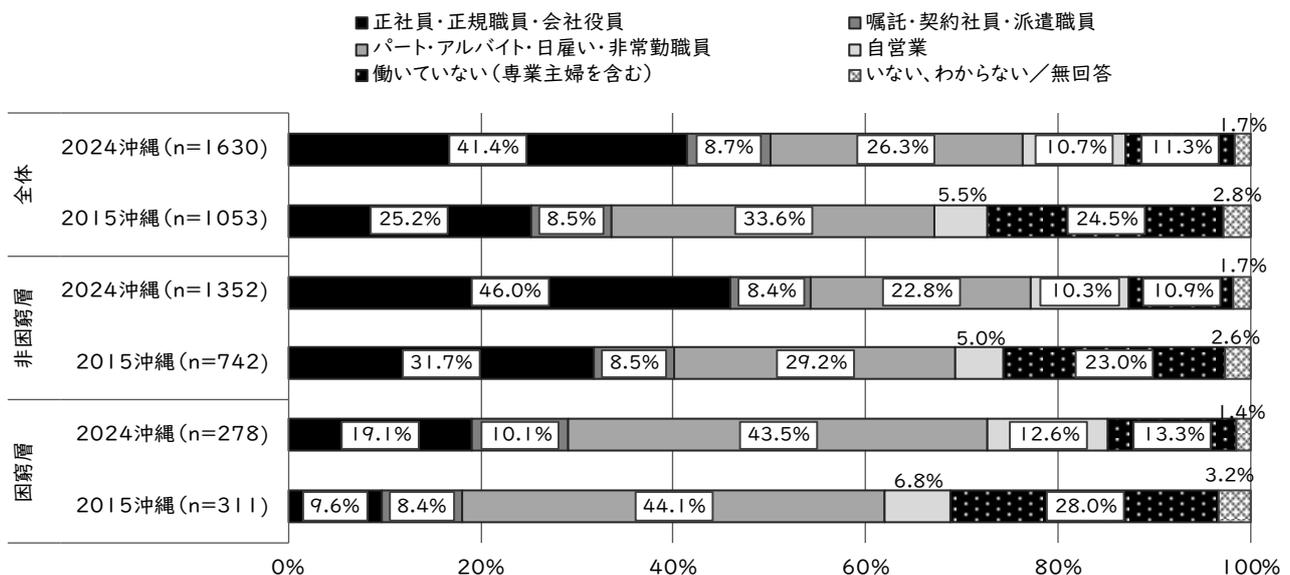
図A-1-7から図A-1-9は、保護者のうち母親の就労状況について経年比較した結果です（母親のいる世帯のみを対象に集計）。

図A-1-7の小学1年生では、全体で「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、2015年沖縄県調査の25.2%から2024年沖縄県調査の41.4%へと増加し、「働いていない（専業主婦を含む）」割合が24.5%から11.3%へと減少しています。経済状況別に見ると、非困窮層、困窮層ともに、「正社員・正規職員・会社役員」の増加が目立ちます。2015年から2024年で、非困窮層、困窮層それぞれで、31.7%から46.0%、9.6%から19.1%へと増加しています。また、「働いていない」の割合もともに減少しています。それぞれで、23.0%から10.9%、28.0%から13.3%へと減少しています。

図A-1-8の小学5年生でも、全体では小学1年生とほぼ同様の傾向が見えました。「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、25.3%から34.5%へと増加し、「働いていない」割合が21.0%から12.1%へと減少しています。経済状況別に見ると、ほぼ同様の傾向が見えますが、非困窮層、困窮層で若干異なる点がありました。まず、ともに、「働いていない」の割合が減少しています。それぞれで、18.2%から11.0%、27.6%から15.3%へと減少しています。一方で、「正社員・正規職員・会社役員」については、非困窮層では31.0%から41.2%と増加が大きいです。困窮層については12.3%から14.4%と若干の増加にとどまっています。一方で、困窮層で目立つのは、「自営業」の割合の増加で6.6%から14.4%となっています。

図A-1-9の中学2年生でも、全体では小学1年生、小学5年生とほぼ同様の傾向が見えました。「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、26.2%から39.9%へと増加し、「働いていない」割合が18.9%から10.2%へと減少しています。経済状況別に見ると、小学5年生と同様の傾向が見え、非困窮層、困窮層で若干異なる点がありました。まず、ともに、「働いていない」の割合が減少しています。それぞれで、18.6%から9.7%、19.7%から12.1%へと減少しています。一方で、「正社員・正規職員・会社役員」については、非困窮層では31.3%から45.4%と増加が大きいです。困窮層については13.9%から19.3%と若干の増加にとどまっています。一方で、困窮層で目立つのは、「自営業」の割合の増加で6.1%から15.4%となっています。

図A-1-7 【小1保護者／母親】お子さんの母親の就労状況

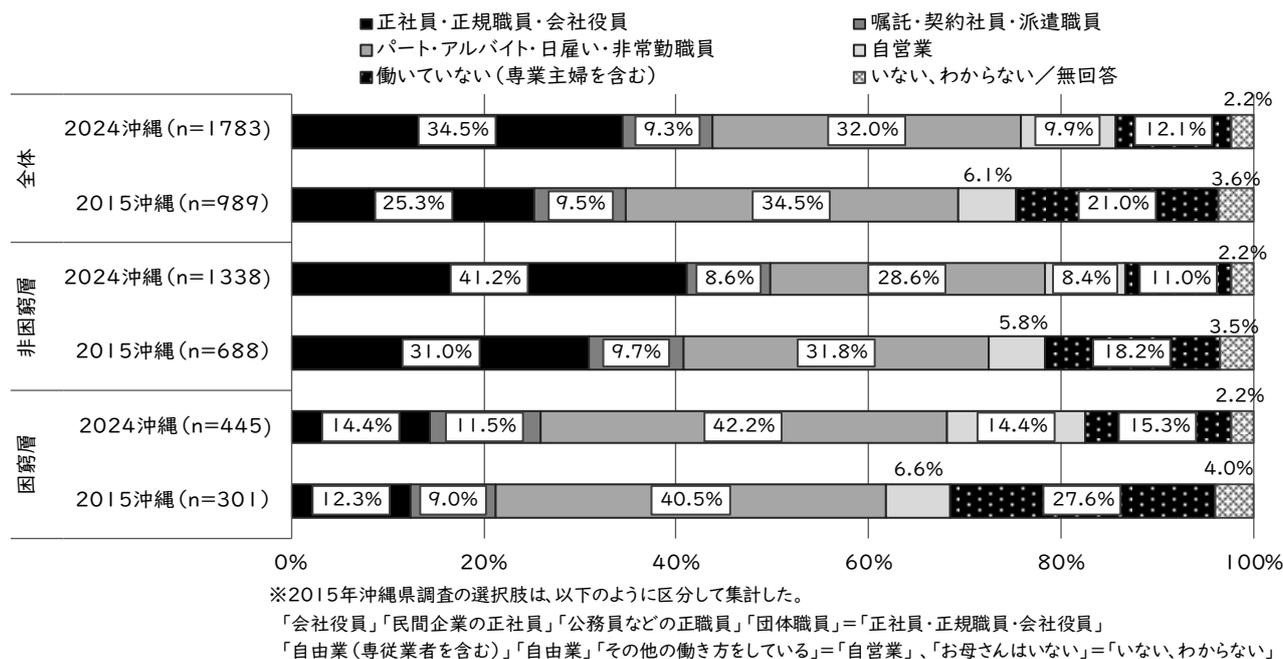


※2015年沖縄県調査の選択肢は、以下のように区分して集計した。

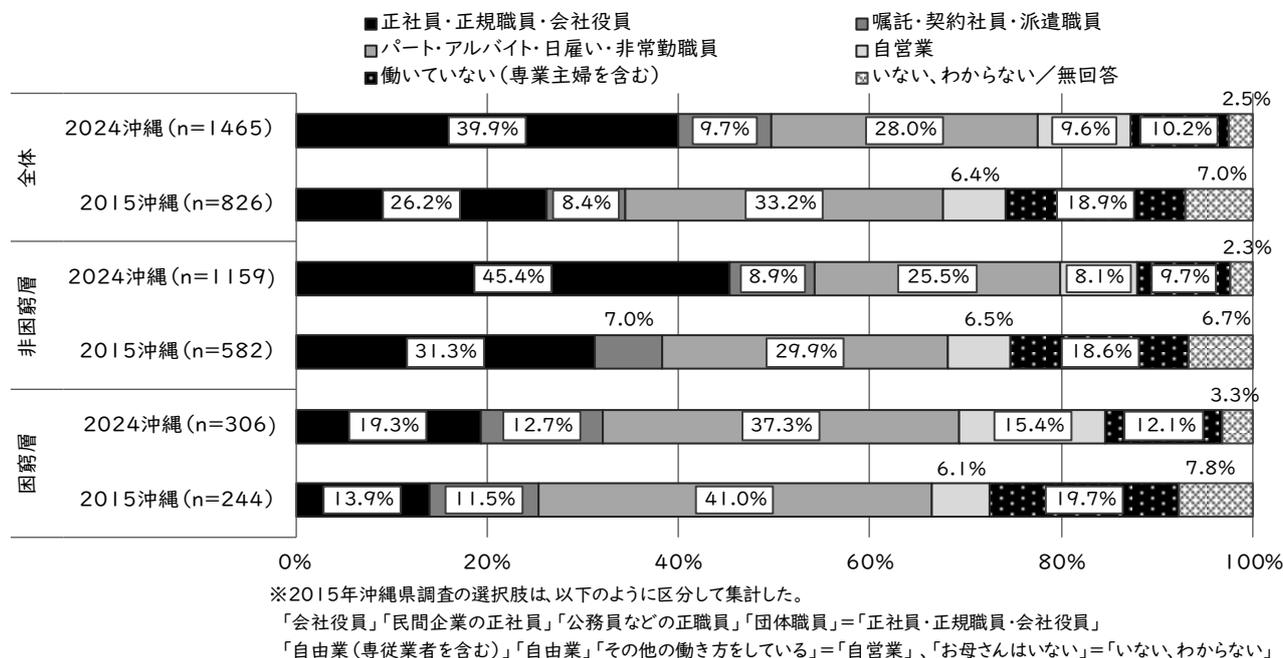
「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」＝「正社員・正規職員・会社役員」

「自由業(専従業者を含む)」「自由業」「その他の働き方をしている」＝「自営業」、「お母さんはいない」＝「いない、わからない」

図A-1-8 【小5保護者／母親】お子さんの母親の就労状況



図A-1-9 【中2保護者／母親】お子さんの母親の就労状況



父親の就労状況 — 経済状況別

図A-1-10から図A-1-12は、保護者のうち父親の就労状況について経年比較した結果です（父親のいる世帯のみを対象に集計）。

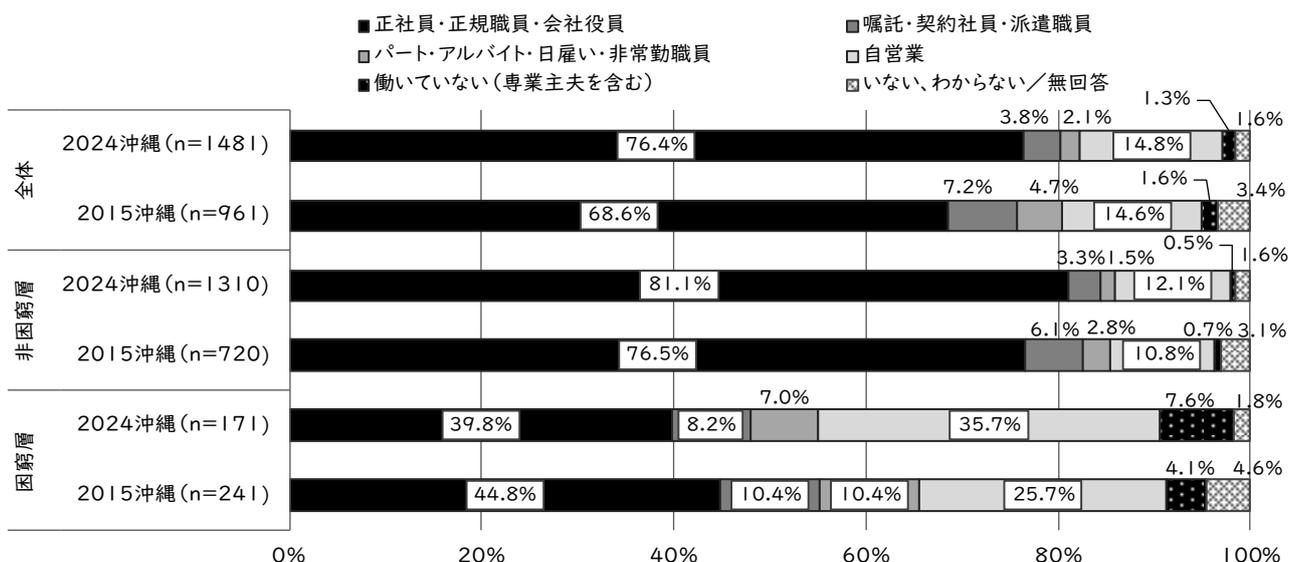
図A-1-10の小学1年生では、全体で「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、2015年沖縄調査の68.6%から2024年沖縄調査の76.4%へと増加していますが、図A-1-7の母親に比べ、増加の程度が小さいことがわかりました。「嘱託・契約社員・派遣職員」と「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」を合わせた非正規雇用の割合は、11.9%から5.9%へと減少しています。経済状況別に見ると、非困窮層、困窮層で若干異なる点がありました。「正社員・正規職員・会社役員」について、非困窮層では76.5%から81.1%と増加していますが、困窮層では44.8%から39.8%へと減少しています。困窮層では、「自営業」の増加が目立ち、25.7%から35.7%になっています。

図A-1-11の小学5年生でも、小学1年生と同様の傾向が見えました。全体で「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、67.8%から71.5%へと増加していますが、母親に比べ、増加の程度が小さいことがわかりました。非正規雇用は、8.8%から5.6%へと減少しています。経済状況別に見ると、「正社員・正規職員・会社役員」について、非困窮層では76.0%から78.1%と増加していますが、困窮層では45.7%から40.2%へと減少しています。困窮層では、「自営業」の増加が目立ち、22.8%から41.7%になっています。

図A-1-12の中学2年生でも、小学1年生、小学5年生とほぼ同様の傾向が見えました。全体で「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が、68.2%から73.8%へと増加していますが、母親に比べ、増加の程度が小さいことがわかりました。非正規雇用は、7.7%から6.2%へと若干の減少にとどまっています。経済状況別に見ると、「正社員・正規職員・会社役員」について、非困窮層では75.0%から79.0%と増加していますが、困窮層では44.7%から42.4%へと減少しています。困窮層では、「自営業」の増加が目立ち、22.6%から34.5%になっています。

なお、非困窮層で「正社員・正規職員・会社役員」の割合の減少しているのは、統計的な考察が必要な点でもあり、章末の考察で検討しています。

図A-1-10 【小1保護者／父親】お子さんの父親の就労状況

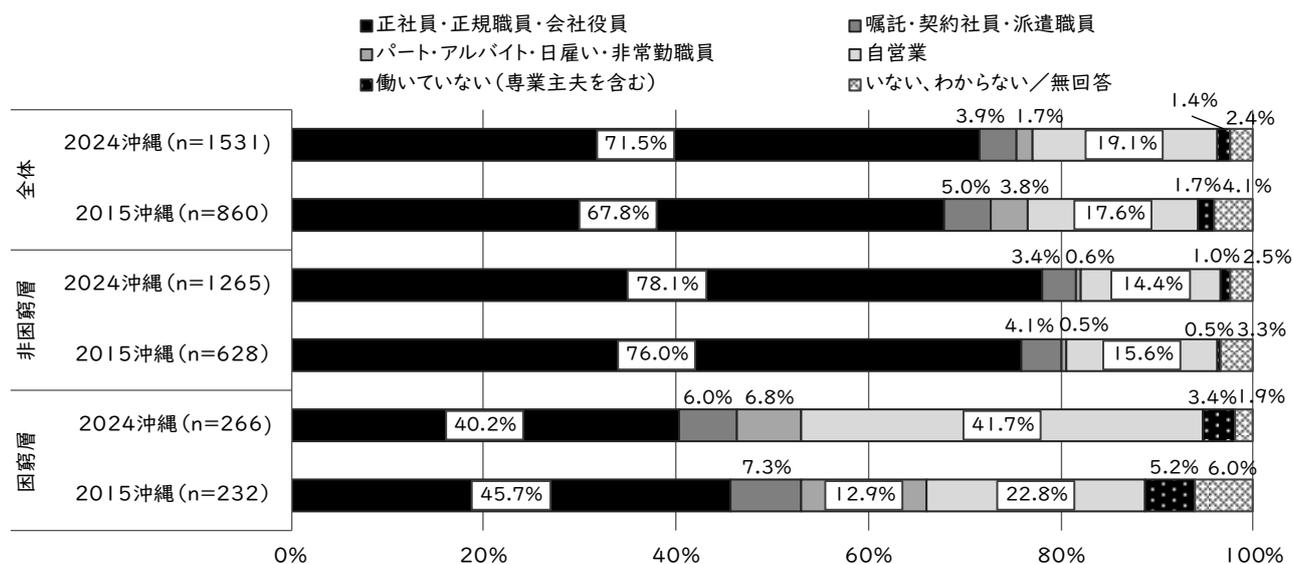


※2015年沖縄調査の選択肢は、以下のように区分して集計した。

「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」＝「正社員・正規職員・会社役員」

「自由業（専従業者を含む）」「自由業」「その他の働き方をしている」＝「自営業」、「お父さんはいない」＝「いない、わからない」

図A-1-11 【小5保護者／父親】お子さんの父親の就労状況

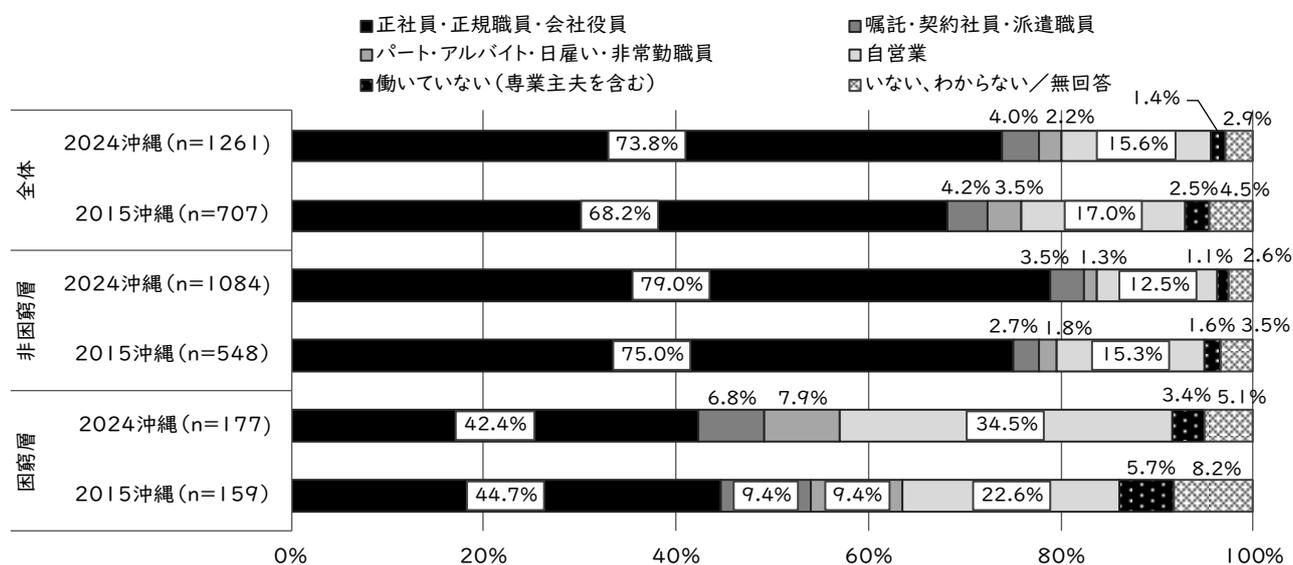


※2015年沖縄県調査の選択肢は、以下のように区分して集計した。

「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」=「正社員・正規職員・会社役員」

「自由業(専従業者を含む)」「自由業」「その他の働き方をしている」=「自営業」、「お父さんはいない」=「いない、わからない」

図A-1-12 【中2保護者／父親】お子さんの父親の就労状況



※2015年沖縄県調査の選択肢は、以下のように区分して集計した。

「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」=「正社員・正規職員・会社役員」

「自由業(専従業者を含む)」「自由業」「その他の働き方をしている」=「自営業」、「お父さんはいない」=「いない、わからない」

食料・衣服が買えなかった経験についての保護者に対する質問を経年比較したものが、図A-2-1から図A-2-6になります。

2015年沖縄県調査と2024年沖縄県調査で以下のように若干質問文が異なっています。選択肢は同様であり、ここでは比較が可能であると判断し分析を行っています。

■2015年

あなたの世帯では、過去1年間の間に、経済的な理由で家族が必要とする食料や衣料（嗜好品は含みません）が買えないことがありましたか。あてはまるものに○をつけてください。

- ① 食料が買えなかった経験 ② 衣料が買えなかった経験

■2024年

・あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。

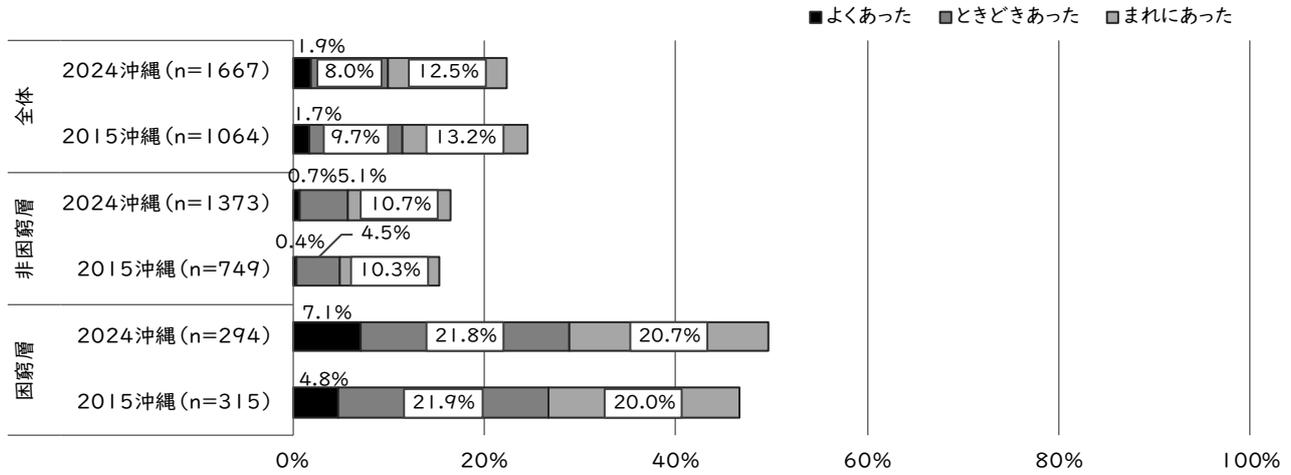
・あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。

食料が買えなかった経験については、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計で見ると、小学1年生（図A-2-1）、小学5年生（図A-2-2）、中学2年生（図A-2-3）ともに、全体としてはほぼ大きな増減はありませんでした。一方で、経済状況別に見ると、3つの合計で増加が目立つのは、小学1年生の困窮層と中学2年生の困窮層でした。特に、中学2年生については約10ポイントも増加しています。

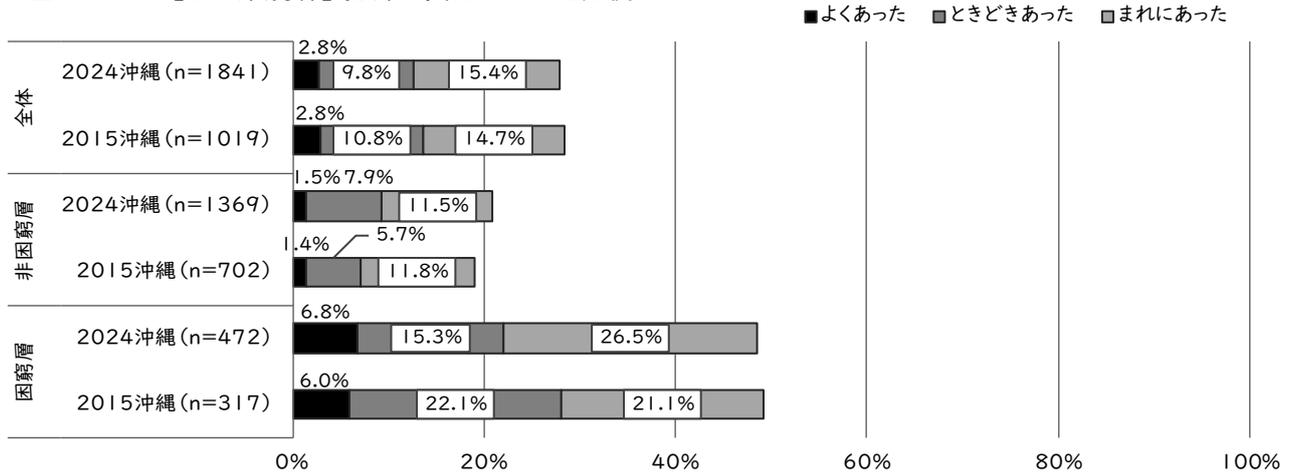
衣服が買えなかった経験については、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計で見ると、小学1年生（図A-2-4）、小学5年生（図A-2-5）、中学2年生（図A-2-6）ともに、全体、困窮層、非困窮層ともに、その割合は減少していました（すべて3ポイント以上）。特に、非困窮層に比べて困窮層の方がその減少した幅は大きく、困窮層では3学年すべてで5ポイント以上減少していました。

食料が買えなかった経験

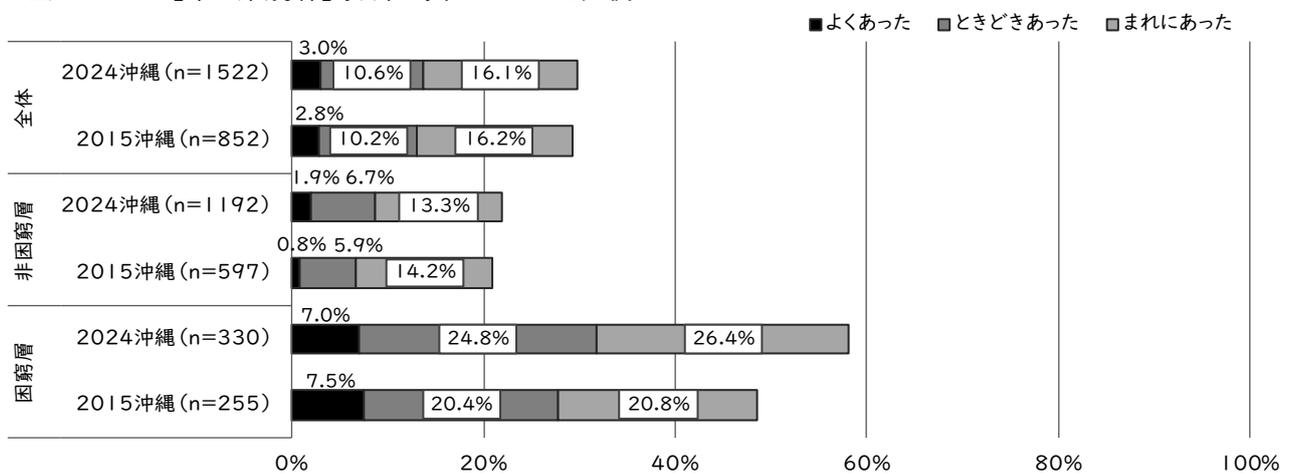
図A-2-1【小1保護者】食料が買えなかった経験



図A-2-2【小5保護者】食料が買えなかった経験

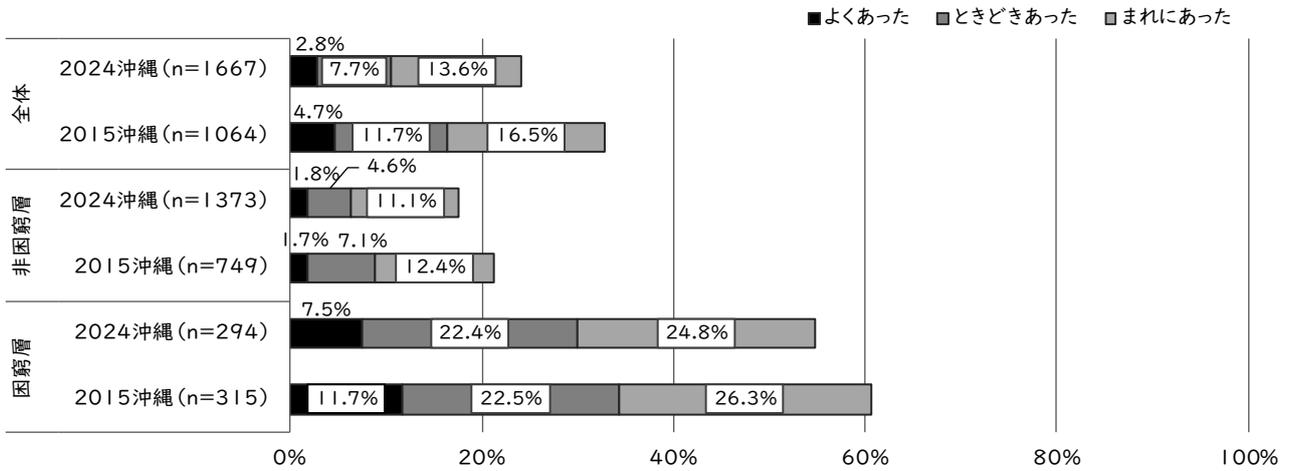


図A-2-3【中2保護者】食料が買えなかった経験

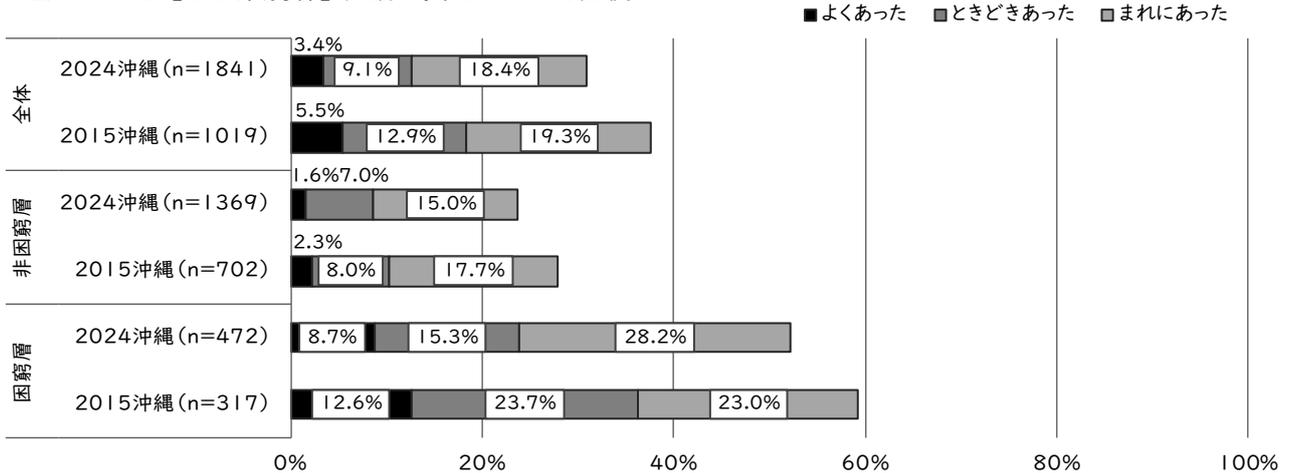


衣服が買えなかった経験

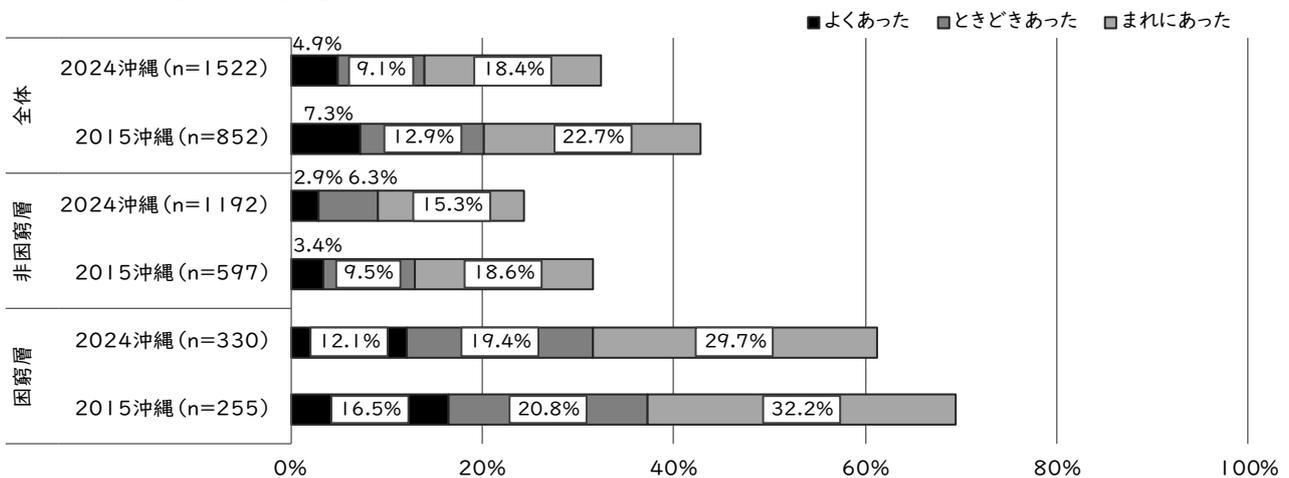
図A-2-4【小1保護者】衣服が買えなかった経験



図A-2-5【小5保護者】衣服が買えなかった経験



図A-2-6【中2保護者】衣服が買えなかった経験



3 就学援助制度の利用

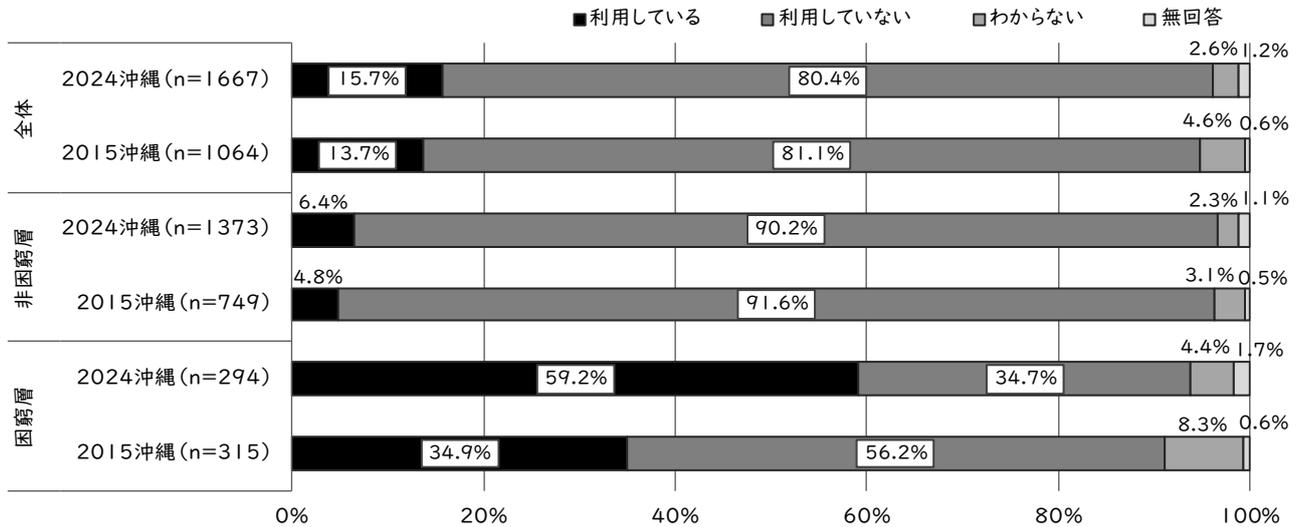
図A-3-1から図A-3-3は、就学援助制度の利用状況について、経年比較した結果です。

小学1年生(図A-3-1)では、非困窮層で、「利用している」が2015年沖縄県調査では4.8%でしたが、2024年沖縄県調査では6.4%になり、同様に、困窮層では34.9%が59.2%と大きく伸びていました。

小学5年生(図A-3-2)では、非困窮層で「利用している」が2015年に7.0%でしたが、2024年には8.5%になり、同様に、困窮層では42.6%が61.0%と伸びていました。

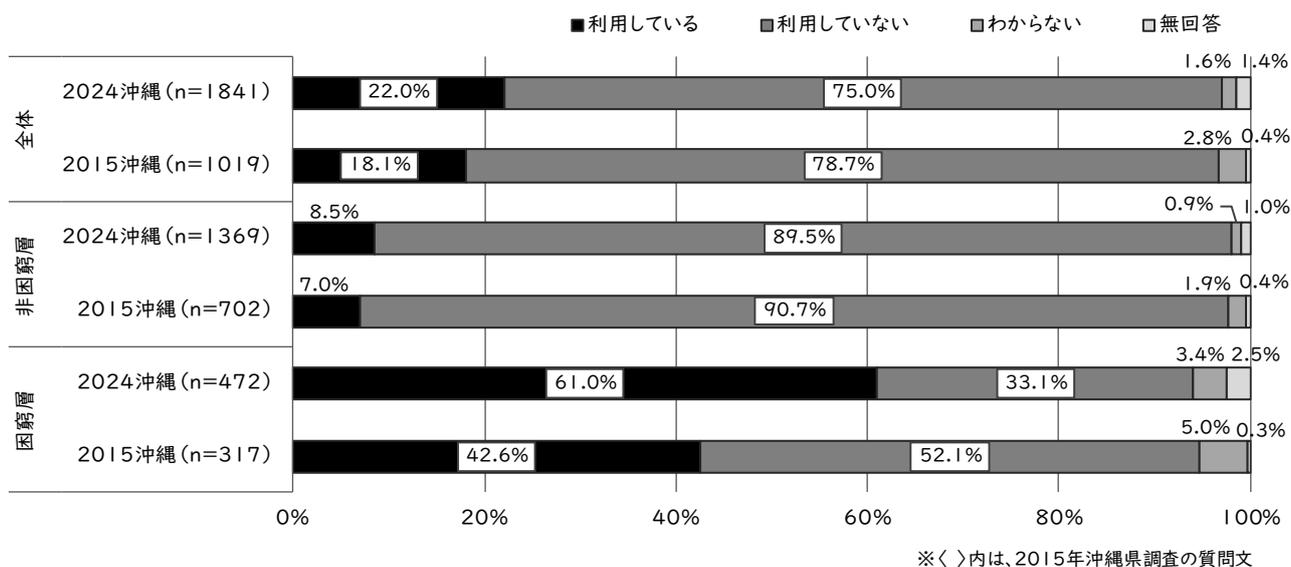
中学2年生(図A-3-3)では、非困窮層で「利用している」が2015年に7.7%でしたが、2024年には9.5%になり、同様に、困窮層では49.8%が59.7%と伸びていました。

図A-3-1 【小1保護者】あなたのご家庭では、現在、お子さんのために就学援助制度を利用していますか
 〈あなたのご家庭では、お子さんのために就学援助制度を利用していますか〉

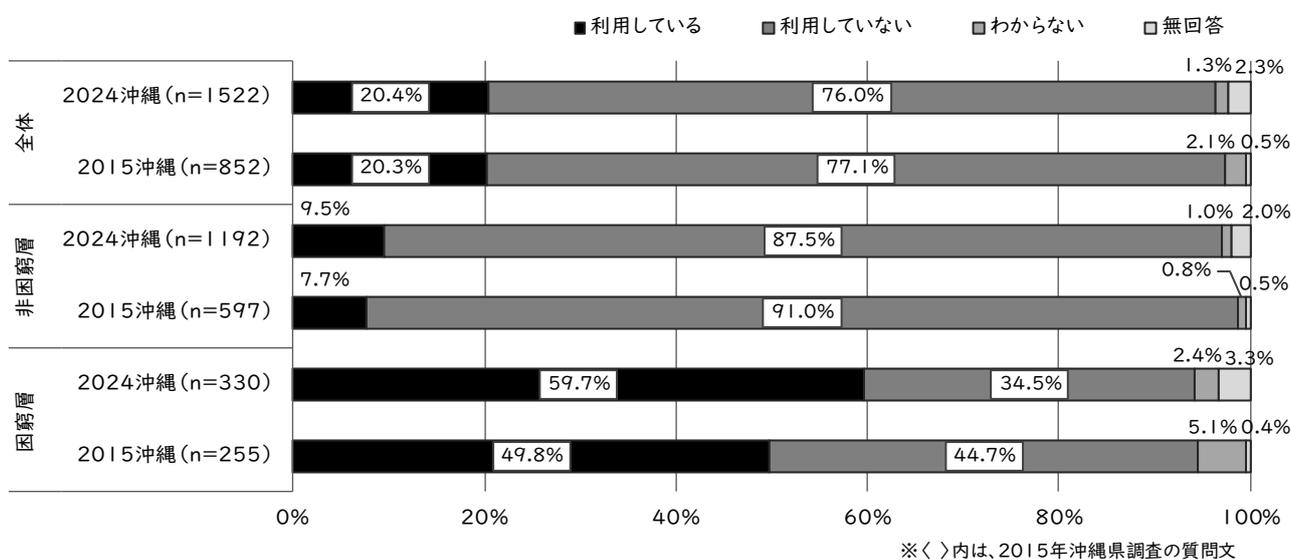


※〈 〉内は、2015年沖縄県調査の質問文

図A-3-2【小5保護者】あなたのご家庭では、現在、お子さんのために就学援助制度を利用していますか
 〈あなたのご家庭では、お子さんのために就学援助制度を利用していますか〉



図A-3-3【中2保護者】あなたのご家庭では、現在、お子さんのために就学援助制度を利用していますか
 〈あなたのご家庭では、お子さんのために就学援助制度を利用していますか〉



就学援助で経費をカバーできているか

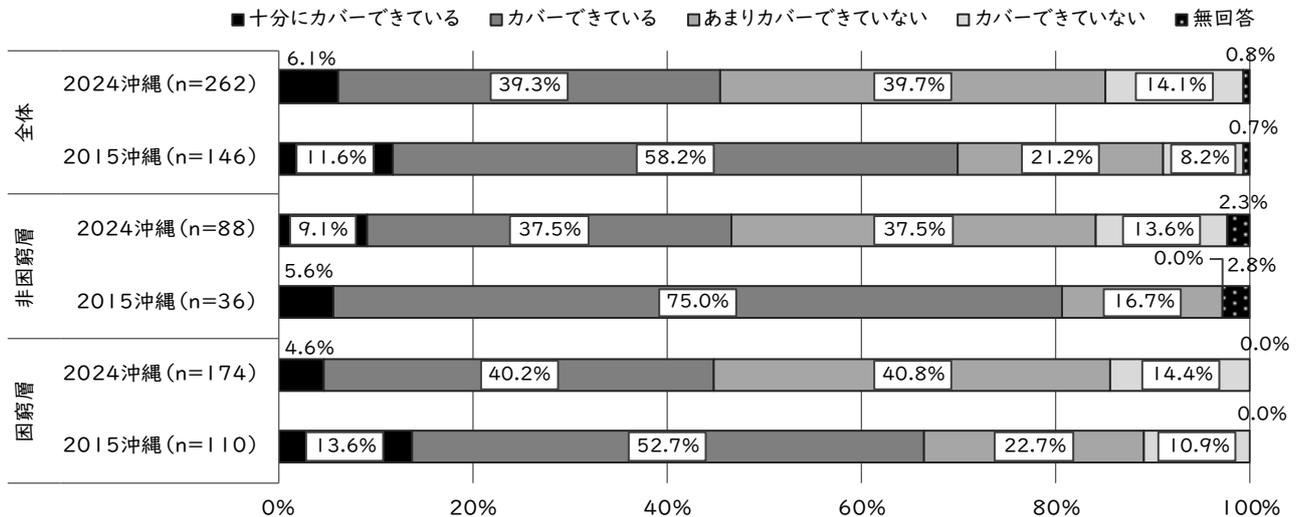
就学援助を利用していると回答した方に、就学援助によって学校にかかる経費をカバーできているかについて、経年比較しました。「十分にカバーできている」と「カバーできている」の合計を見ると、学年によって異なる傾向が見られました。

小学1年生(図A-3-4)では、非困窮層において2015年沖縄県調査では80.6%でしたが、2024年沖縄県調査では46.6%と大きく減り、困窮層では、同様に、66.3%が44.8%と減っていました。

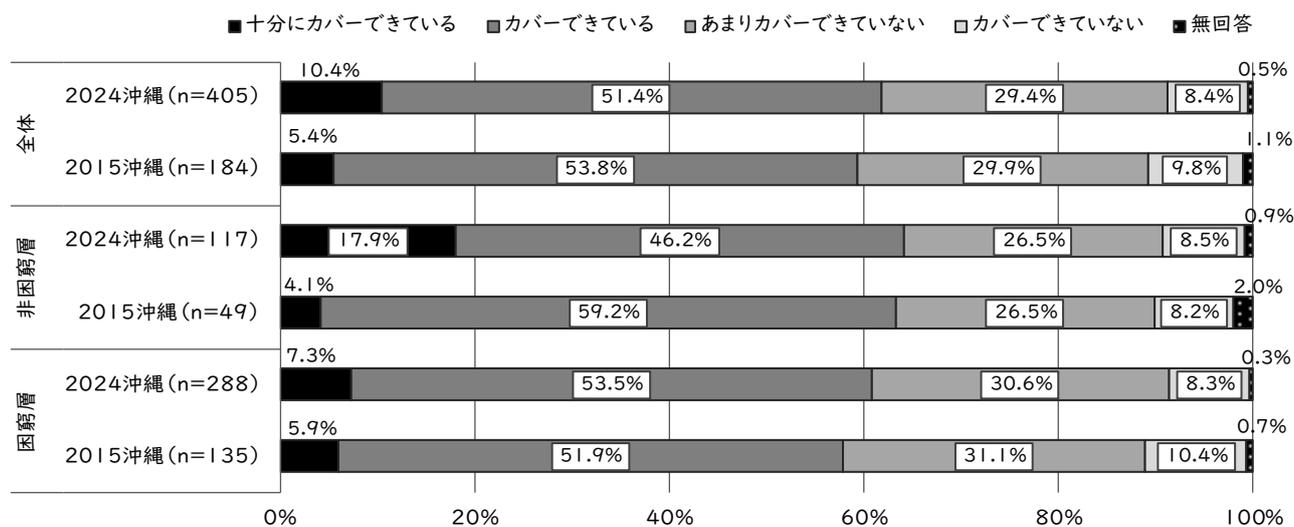
小学5年生(図A-3-5)では、非困窮層で2015年は63.3%でしたが、2024年には64.1%と微増となっており、困窮層では57.8%が60.8%と増えていました。

中学2年生(図A-3-6)では、非困窮層で2015年67.4%でしたが、2024年には58.4%と減り、同様に、困窮層では60.6%が47.2%と減っていました。

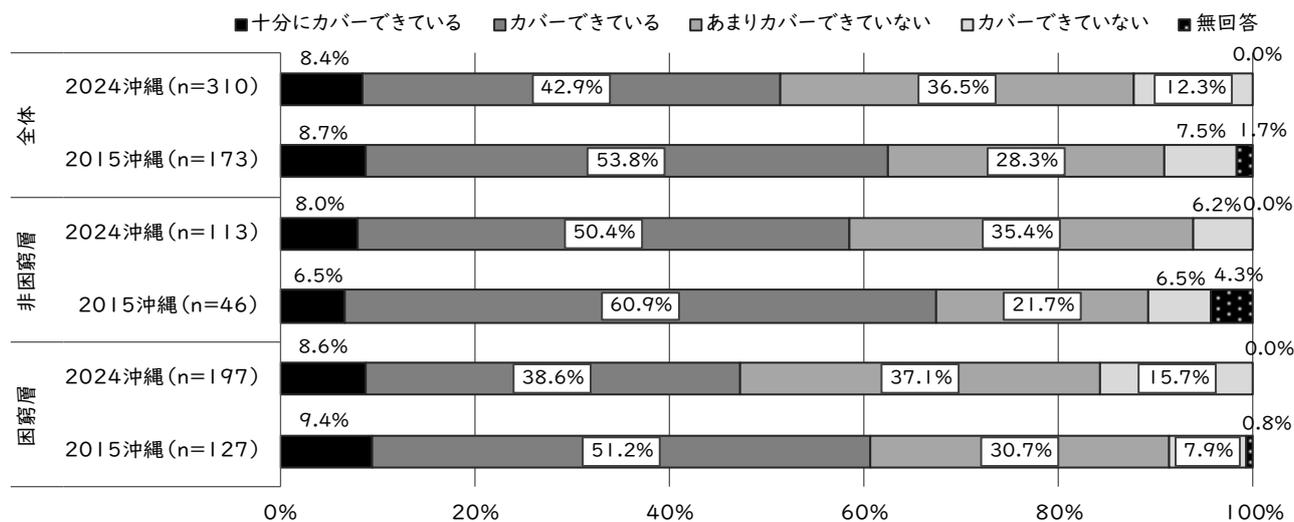
図A-3-4【小1保護者】現在の就学援助について、学校にかかる経費をカバーできていますか



図A-3-5 【小5保護者】現在の就学援助について、学校にかかる経費をカバーできていますか



図A-3-6 【中2保護者】現在の就学援助について、学校にかかる経費をカバーできていますか



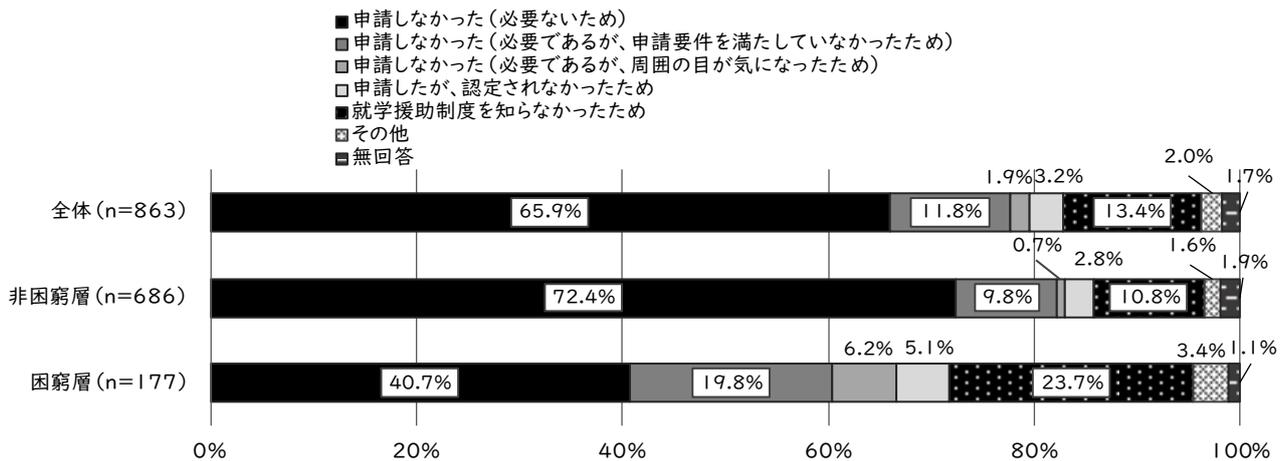
就学援助を利用していない理由

就学援助を利用していないと回答した方に、就学援助制度を利用していない理由について尋ねた結果を、図A-3-7から図A-3-12で示しています。2015年と2024年沖縄県調査で選択肢が異なるため、それぞれの調査で図示しています。

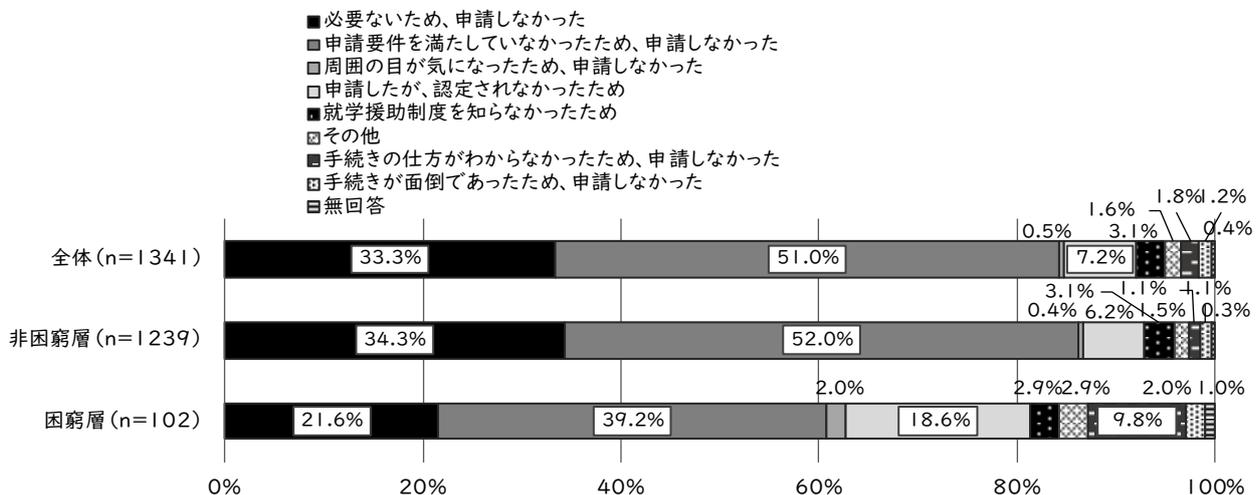
「就学援助制度を知らなかったため」の割合を見ると、小学1年生（図A-3-7、図A-3-8）の非困窮層では2015年で10.8%でしたが、2024年には3.1%になり、困窮層では23.7%から2.9%へと大きく減少していました。小学5年生（図A-3-9、図A-3-10）では、非困窮層で8.6%でしたが、2024年に1.4%になり、困窮層では24.2%から4.5%と減っていました。中学2年生（図A-3-11、図A-3-12）では、非困窮層で6.3%でしたが、0.8%になり、困窮層では17.5%が0.0%と大きく減少していました。

小学1年生

図A-3-7【2015年／小1保護者】現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください

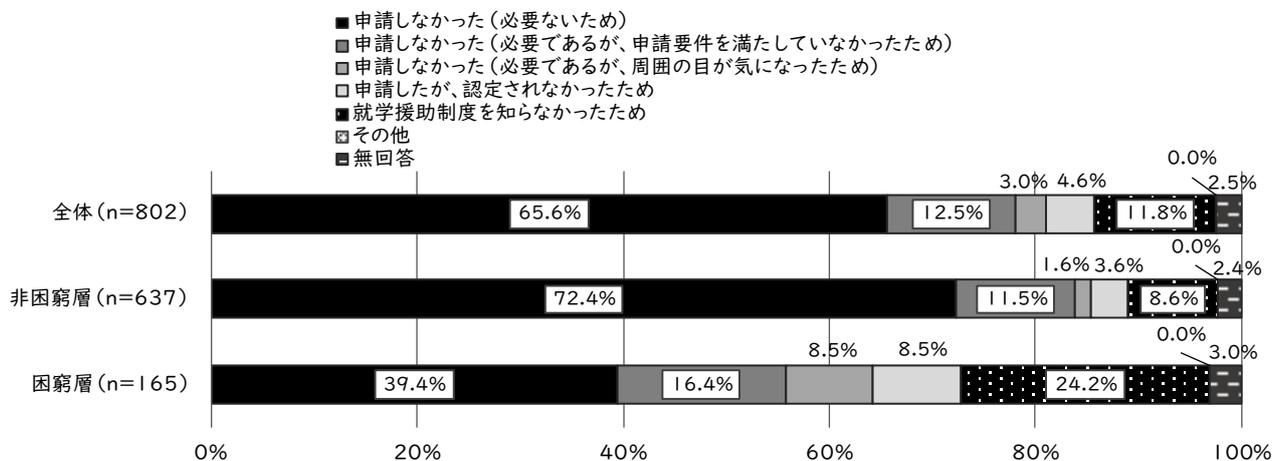


図A-3-8【2024年／小1保護者】現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください

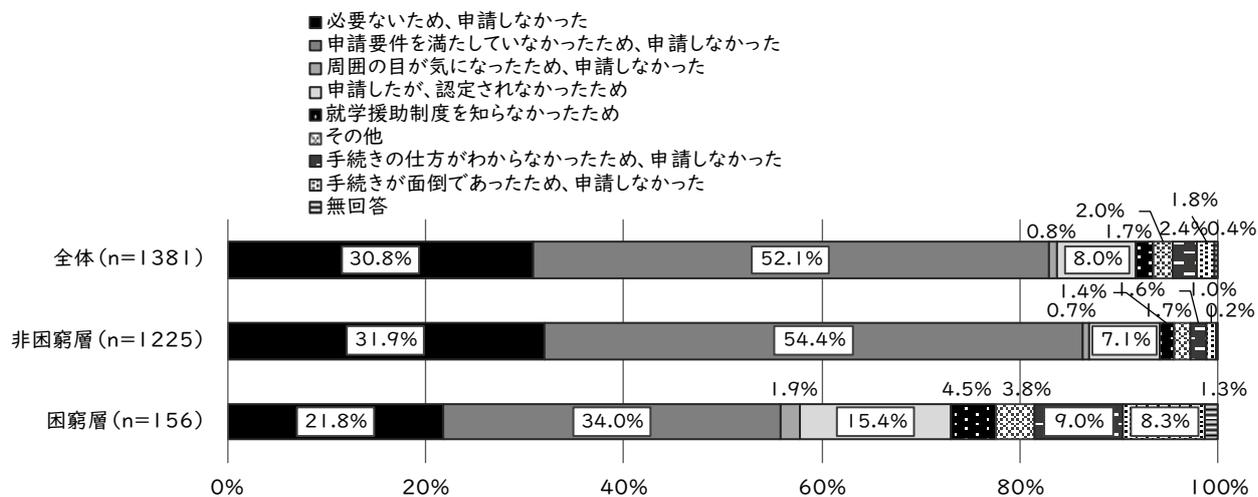


小学5年生

図A-3-9【2015年／小5保護者】現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください

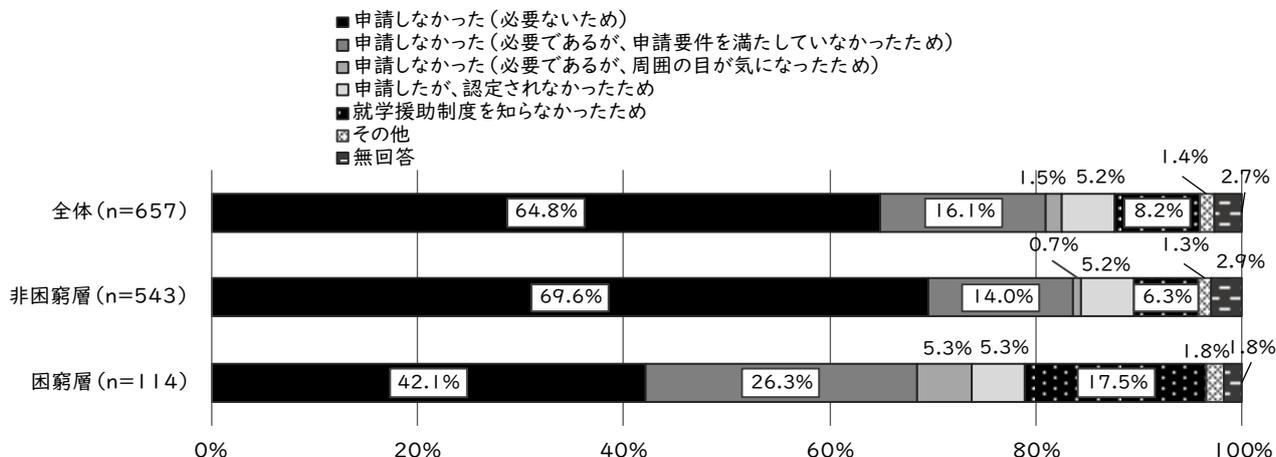


図A-3-10【2024年／小5保護者】現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください

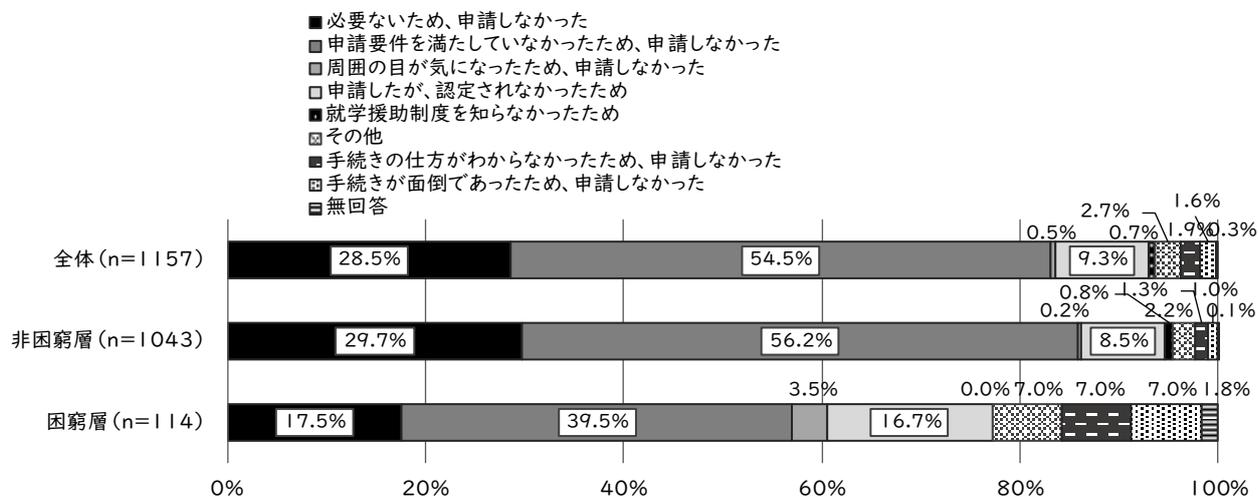


中学2年生

図A-3-11 【2015年／中2保護者】現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください



図A-3-12 【2024年／中2保護者】現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください



4 自己肯定感(児童・生徒)

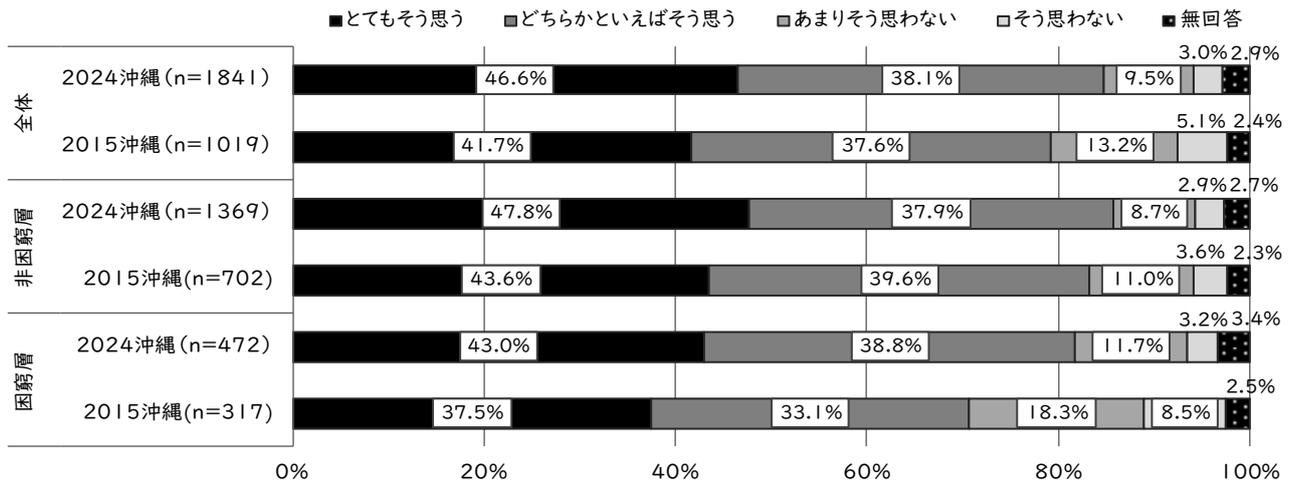
児童・生徒の自己肯定感について経年比較しました。また、2024年沖縄県調査では、どの項目も、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合は、非困窮層よりも困窮層が低くなっていました。

がんばれば、むくわれる

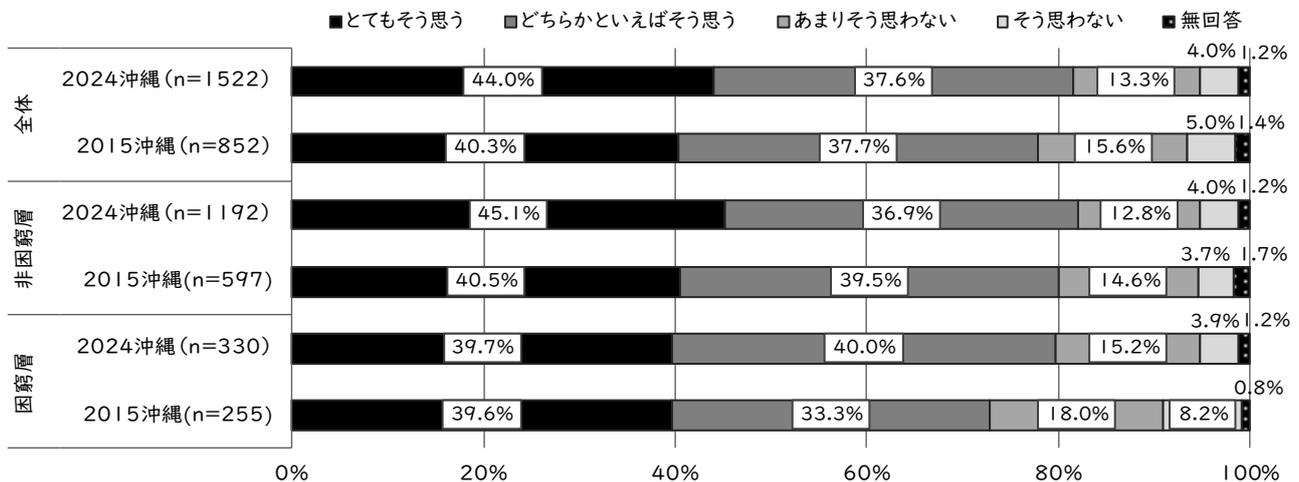
「がんばれば、むくわれる」について、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を経年比較で見ると、小学5年生(図A-4-1)は、非困窮層で2015年沖縄県調査の83.2%から2024年沖縄県調査では85.7%へ、困窮層では70.6%から81.8%へと増加していました。中学2年生(図A-4-2)でも非困窮層で80.0%から82.0%へ、困窮層で72.9%から79.7%へ増加していました。

また、非困窮層と困窮層の差は2015年よりも2024年の方が小さく、小学5年生では2015年の12.6ポイントから2024年は3.9ポイントへ、中学2年生では7.1ポイントから2.3ポイントへと、4.8～8.7ポイント縮小していました。

図A-4-1【小5児童】がんばれば、むくわれる



図A-4-2【中2生徒】がんばれば、むくわれる

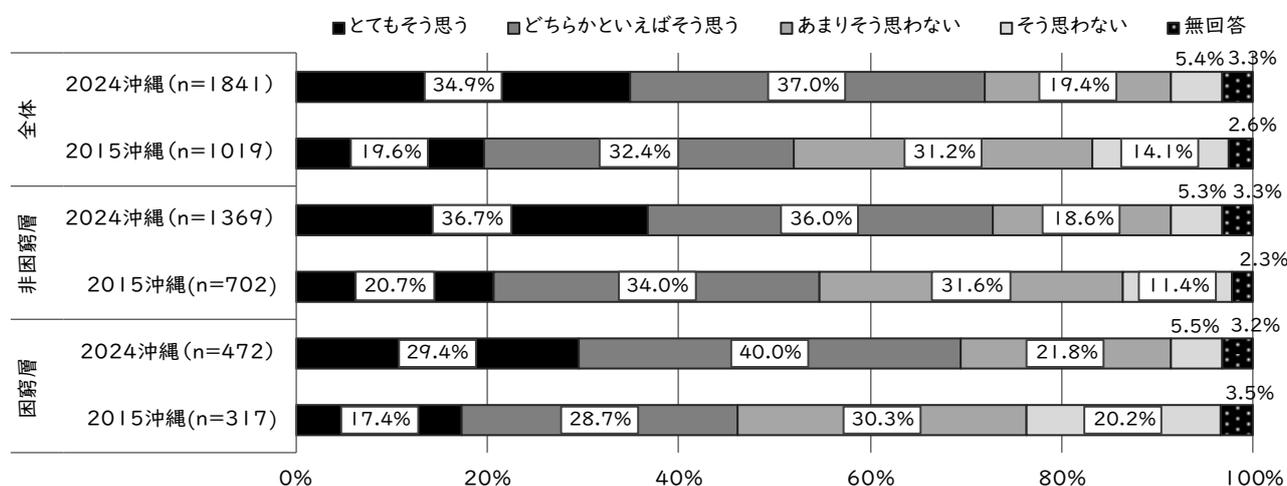


自分は価値のある人間だと思う

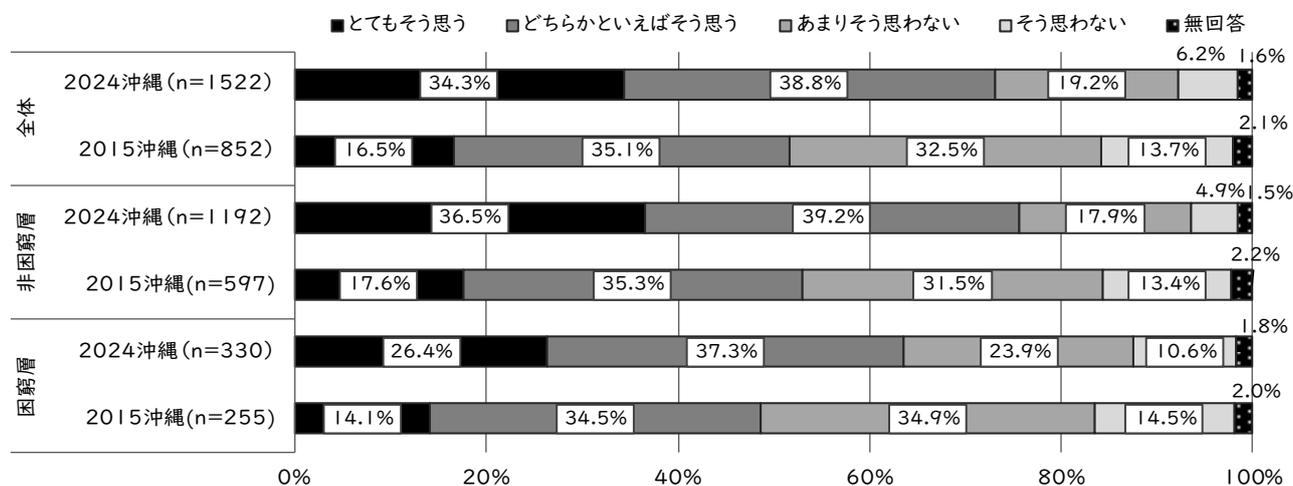
「自分は価値のある人間だと思う」について、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を経年比較で見ると、小学5年生（図A-4-3）は、非困窮層で2015年沖縄県調査の54.7%から2024年沖縄県調査では72.7%へ、困窮層では46.1%から69.4%へと増加していました。中学2年生（図A-4-4）でも同様の傾向が見られ、非困窮層で52.9%から75.7%へ、困窮層で48.6%から63.7%へ増加していました。

また、非困窮層と困窮層の差に注目すると、小学5年生では2015年の8.6ポイントから3.3ポイントへ縮小していたものの、中学2年生では4.3ポイントから12.0ポイントへと、その差が大きくなっていました。

図A-4-3【小5児童】自分は価値のある人間だと思う



図A-4-4【中2生徒】自分は価値のある人間だと思う

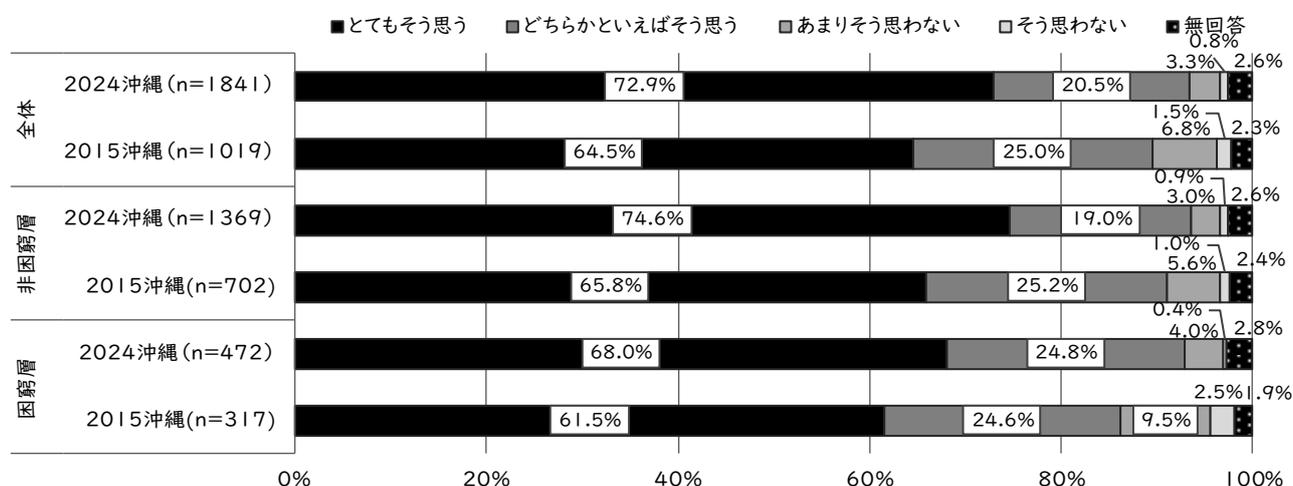


自分は家族に大事にされている

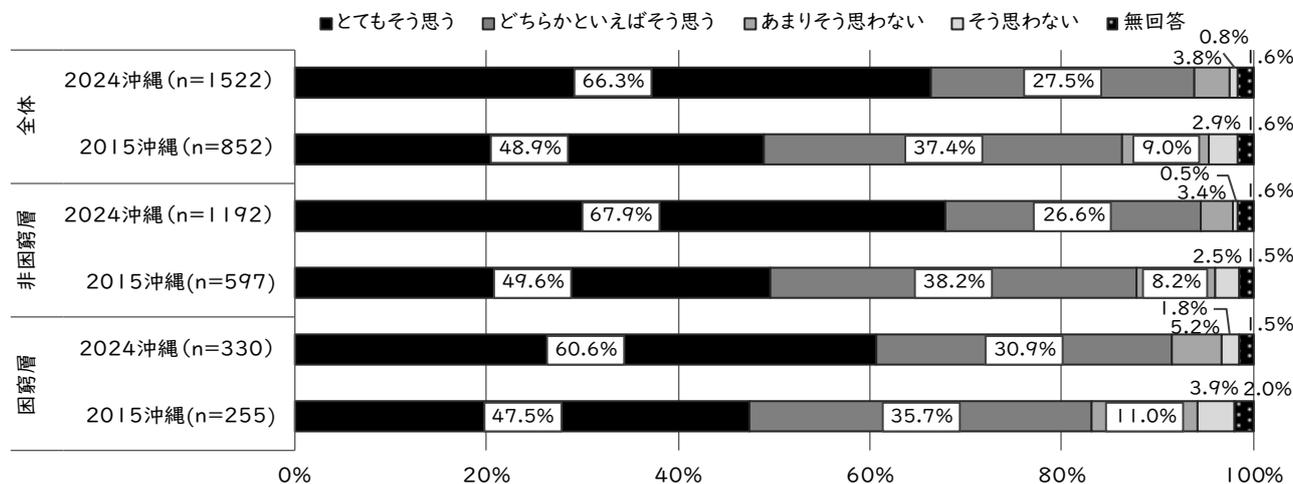
「自分は家族に大事にされている」について、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を経年比較で見ると、小学5年生（図A-4-5）は、非困窮層で2015年沖縄県調査の91.0%から2024年沖縄県調査では93.6%へ、困窮層では86.1%から92.8%へと増加していました。中学2年生（図A-4-6）でも同様の傾向が見られ、非困窮層で87.8%から94.5%へ、困窮層で83.2%から91.5%へ増加していました。

また、非困窮層と困窮層の差に注目すると、小学5年生では2015年の4.9ポイントから0.8ポイントへ、中学2年生では4.6ポイントから3.0ポイントへと、1.6~4.1ポイント縮小していました。

図A-4-5 【小5児童】自分は家族に大事にされている



図A-4-6 【中2生徒】自分は家族に大事にされている

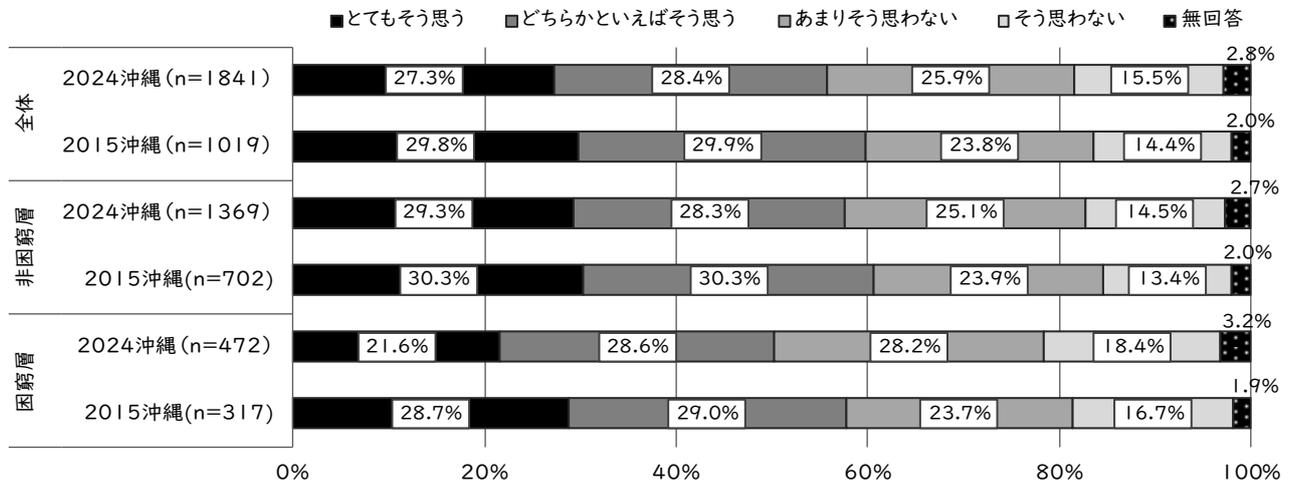


不安に感じることはない

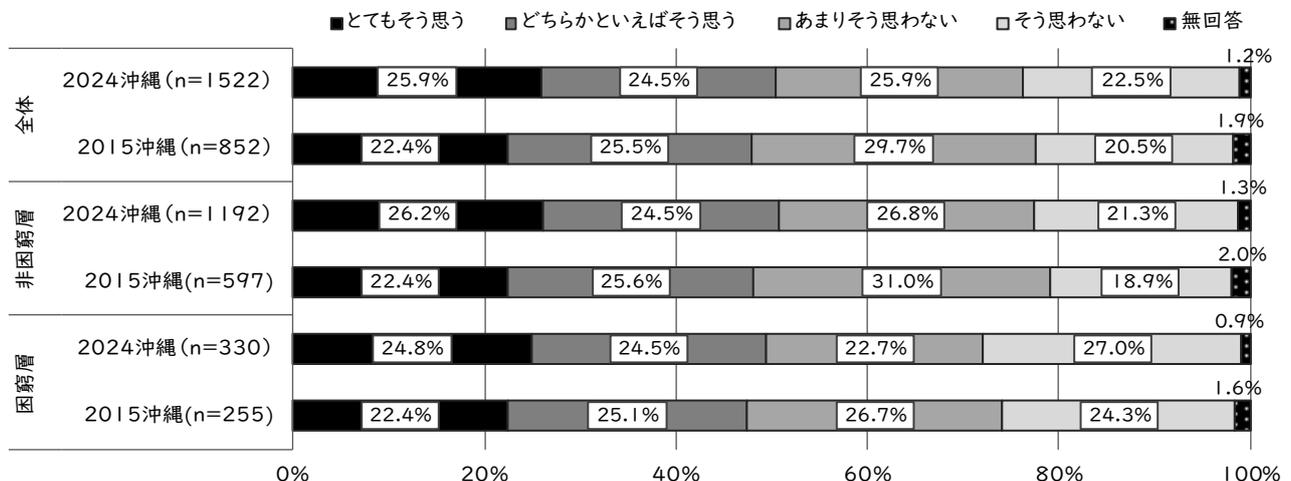
「不安に感じることはない」について、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を経年比較で見ると、小学5年生（図A-4-7）は、非困窮層で2015年沖縄県調査の60.6%から2024年沖縄県調査では57.6%へ、困窮層では57.7%から50.2%へと減少していました。一方、中学2年生（図A-4-8）では、非困窮層で48.0%から50.7%へ、困窮層で47.5%から49.3%へ、わずかですが増加していました。

また、非困窮層と困窮層の差に注目すると、小学5年生では2015年の2.9ポイントから7.4ポイントへ、中学2年生では0.5ポイントから1.4ポイントへと、0.9~4.5ポイント増加していました。

図A-4-7【小5児童】不安に感じることはない



図A-4-8【中2生徒】不安に感じることはない

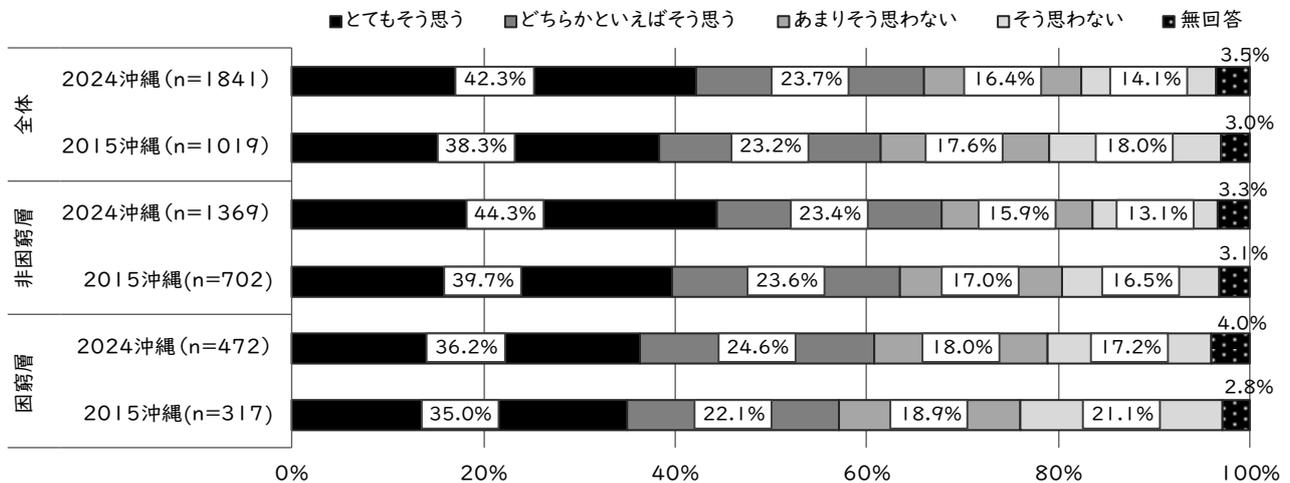


孤独を感じることはない

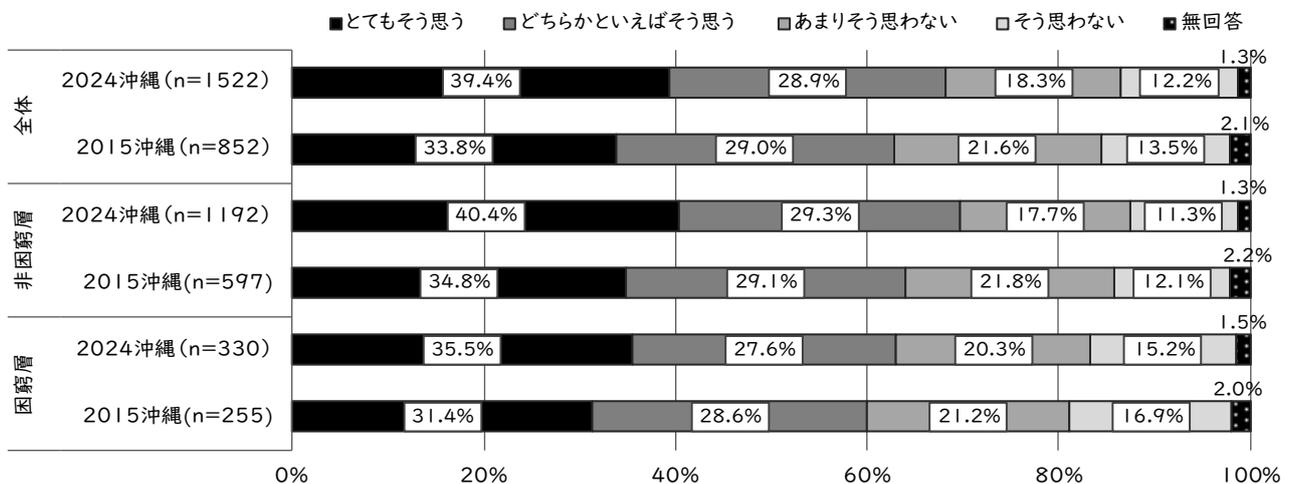
「孤独を感じることはない」について、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を経年比較で見ると、小学5年生（図A-4-9）は、非困窮層で2015年沖縄県調査の63.3%から2024年沖縄県調査では67.7%へ、困窮層では57.1%から60.8%へと増加していました。中学2年生（図A-4-10）でも同様の傾向が見られ、非困窮層で63.9%から69.7%へ、困窮層で60.0%から63.1%へ増加していました。

また、非困窮層と困窮層の差に注目すると、小学5年生では2015年の6.2ポイントから6.9ポイントへ、中学2年生では3.9ポイントから6.6ポイントへと、0.7~2.7ポイント増加していました。

図A-4-9【小5児童】孤独を感じることはない



図A-4-10【中2生徒】孤独を感じることはない

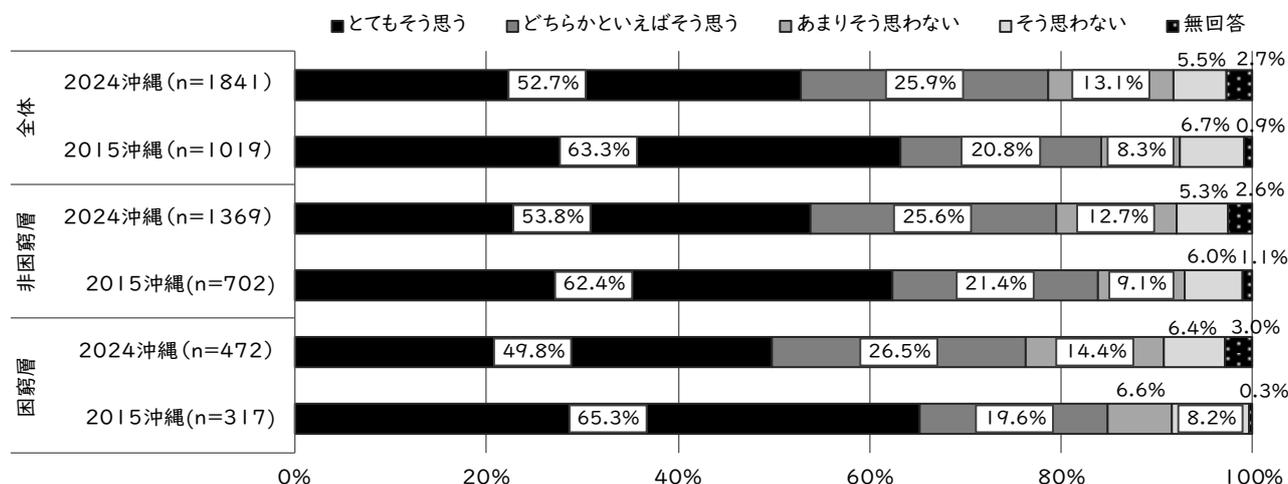


自分の将来が楽しみだ

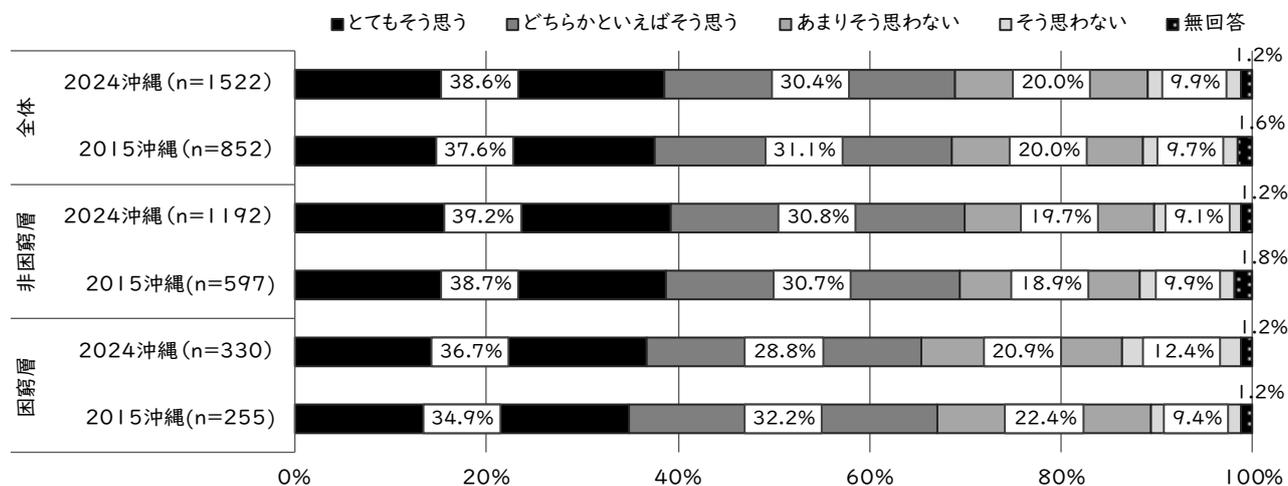
「自分の将来が楽しみだ」について、「とてもそう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を経年比較で見ると、小学5年生(図A-4-11)は、非困窮層で2015年沖縄県調査の83.8%から2024年沖縄県調査では79.4%へ、困窮層では84.9%から76.3%へと減少していました。中学2年生(図A-4-12)では、非困窮層で69.4%から70.0%へ、困窮層で67.1%から65.5%へと、ほとんど変化が見られませんでした。

また、非困窮層と困窮層の差に注目すると、小学5年生では2015年の1.1ポイントから3.1ポイントへ、中学2年生では2.3ポイントから4.5ポイントへと、それぞれ約2ポイント増加していました。

図A-4-11 【小5児童】自分の将来が楽しみだ



図A-4-12 【中2生徒】自分の将来が楽しみだ



自己肯定感に関する項目の平均値

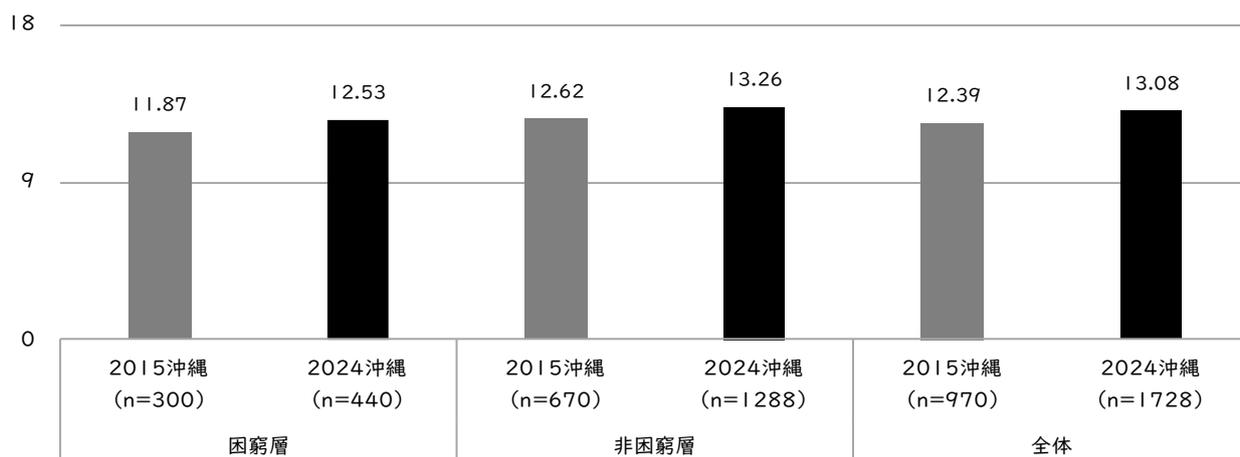
これまで、2015年沖縄県調査と比較可能な、自己肯定感に関する6項目を見てきましたが、項目によって状況が異なるため、全体的な傾向を把握することを目的に、他調査を参考に0～18点で点数付けし、経済状況別の平均値を経年比較してみました。点数化にあたっては、選択肢の「とてもそう思う」を3点、「どちらかといえばそう思う」を2点、「あまりそう思わない」を1点、「そう思わない」を0点として合算しています。

小学5年生(図A-4-13)、中学2年生(図A-4-14)ともに、全体で見ても、経済状況別で見ても、平均値が伸びていることがわかります。困窮層と非困窮層の差は、小学5年生では2015年の0.75点から0.73点と縮小しましたが、中学2年生では0.52点から0.80点差へと若干その差が広がっていました。

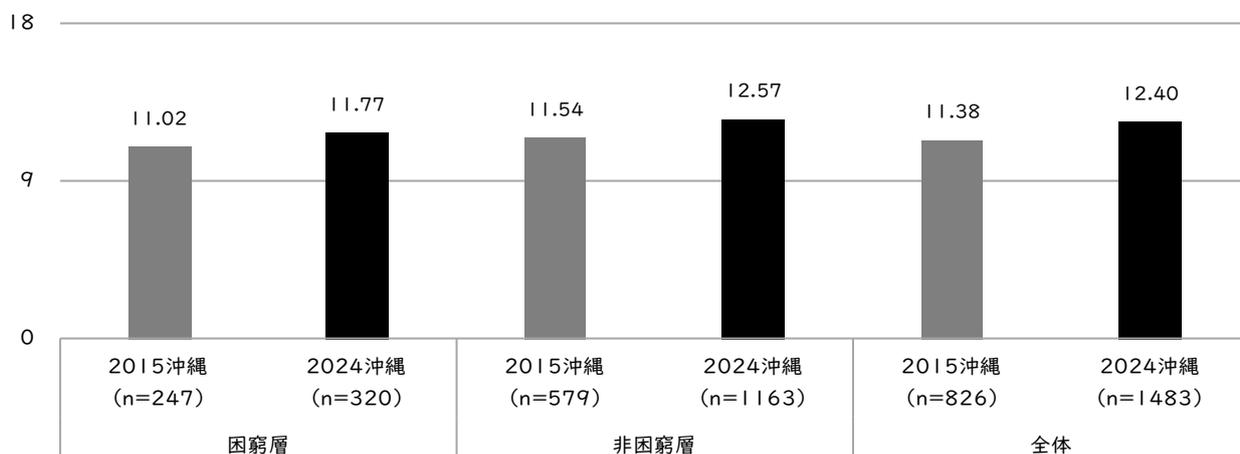
【参考】

- ・東京都(2018)「「子供の生活実態調査」詳細分析報告書」
- ・内閣府調査(2022)「「子供・若者総合調査」の実施に向けた調査研究(令和3年度)」

図A-4-13 【小5児童】自己肯定感(平均値)



図A-4-14 【中2生徒】自己肯定感(平均値)



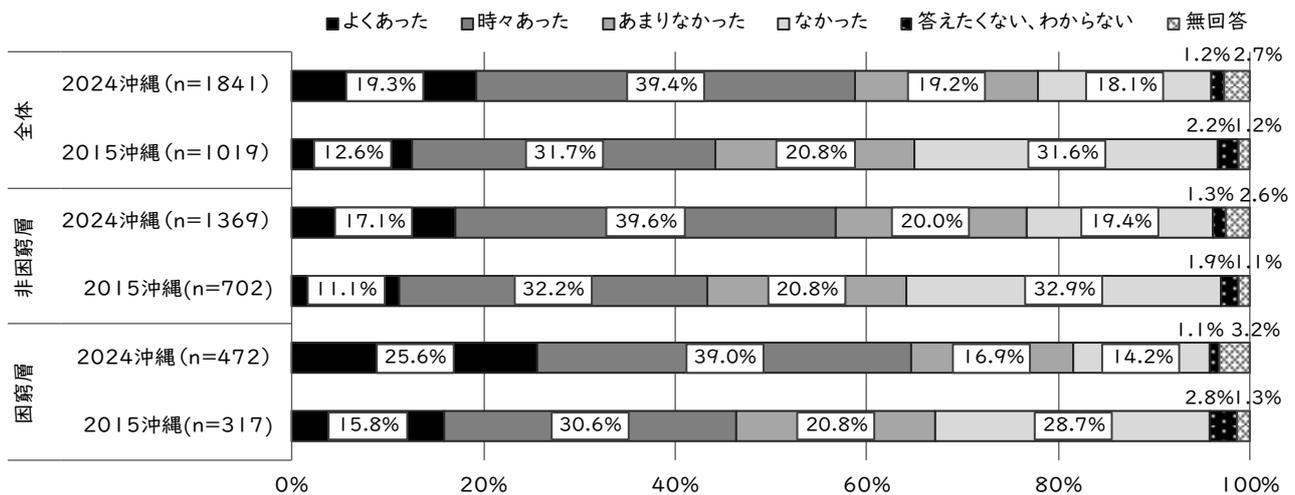
5 学校やふだんの生活（児童・生徒）

学校やふだんの生活について児童・生徒に聞きました。

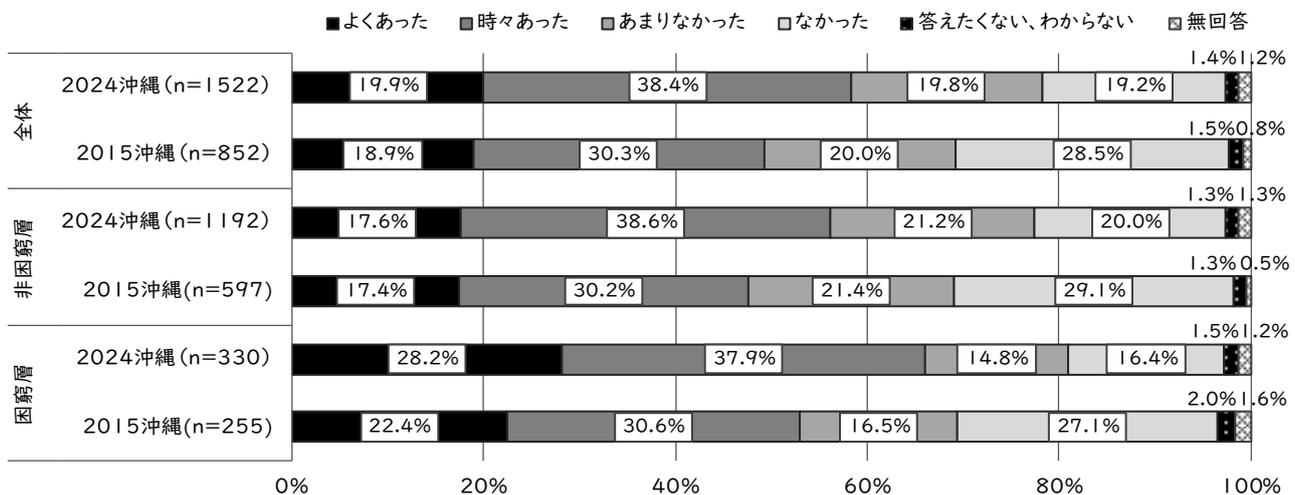
学校に行きたくないと思った

「学校に行きたくないと思った」ことがあったかについて、「よくあった」と「時々あった」を合わせると、小学5年生（図A-5-1）は、非困窮層では、2015年沖縄県調査が43.3%、2024年沖縄県調査が56.7%と増えており、困窮層でも2015年が46.4%、2024年が64.6%と増えていました。中学2年生（図A-5-2）でも、非困窮層では、2015年が47.6%、2024年が56.2%、困窮層でも2015年が53.0%、2024年が66.1%と増えていました。

図A-5-1 【小5児童】学校に行きたくないと思った



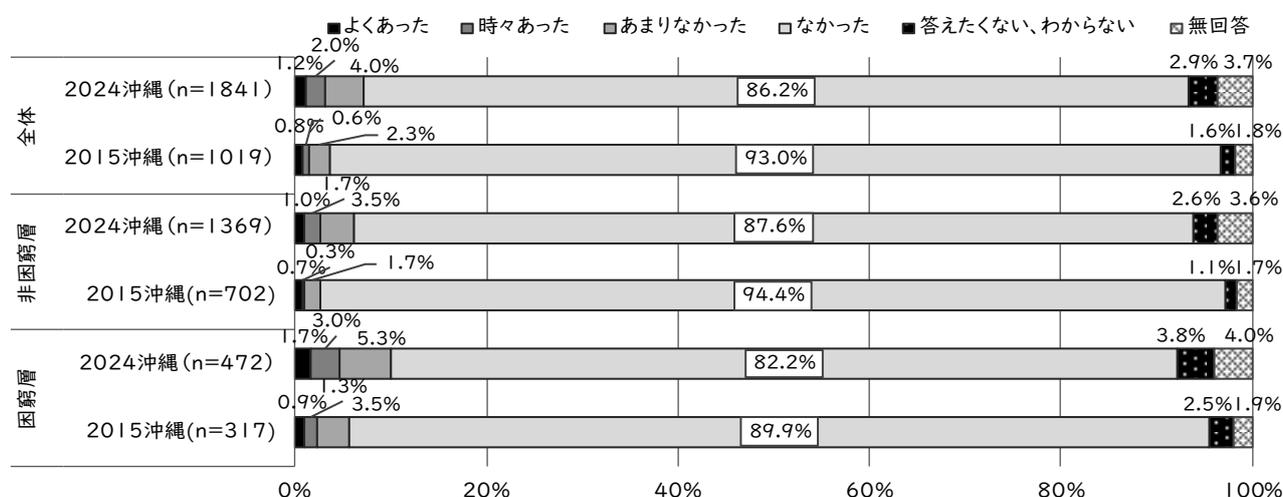
図A-5-2 【中2生徒】学校に行きたくないと思った



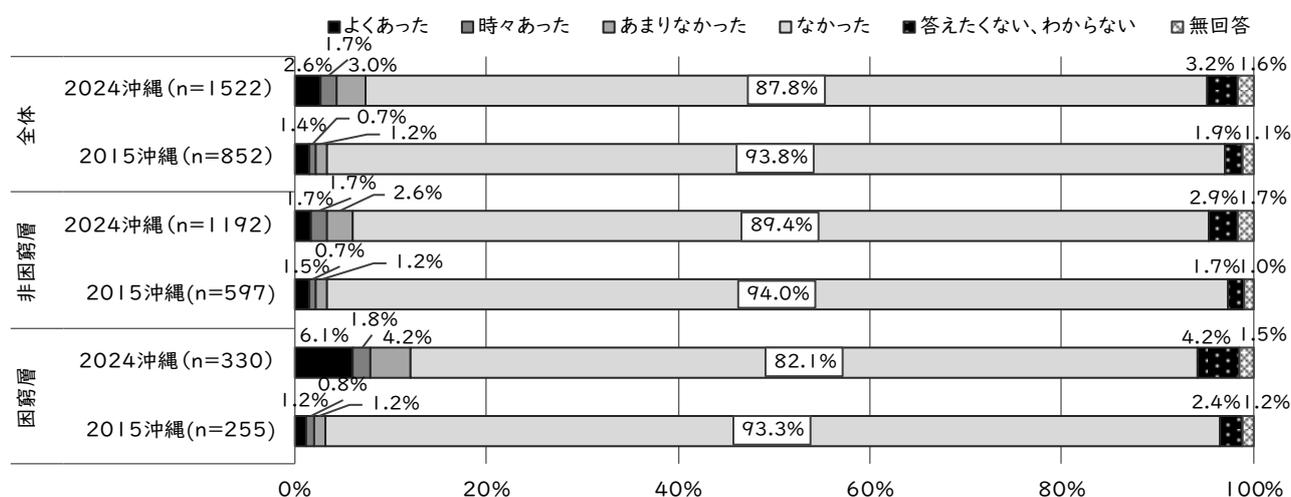
1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)

「1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)」ことがあったかについて、「よくあった」と「時々あった」を合わせると、小学5年生(図A-5-3)は、非困窮層では、2015年沖縄県調査が1.0%、2024年沖縄県調査が2.7%、困窮層では2015年が2.2%、2024年が4.7%となっていました。中学2年生(図A-5-4)は、非困窮層では、2015年が2.2%、2024年が3.4%、困窮層では、2015年が2.0%、2024年が7.9%となっていました。

図A-5-3【小5児童】1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)



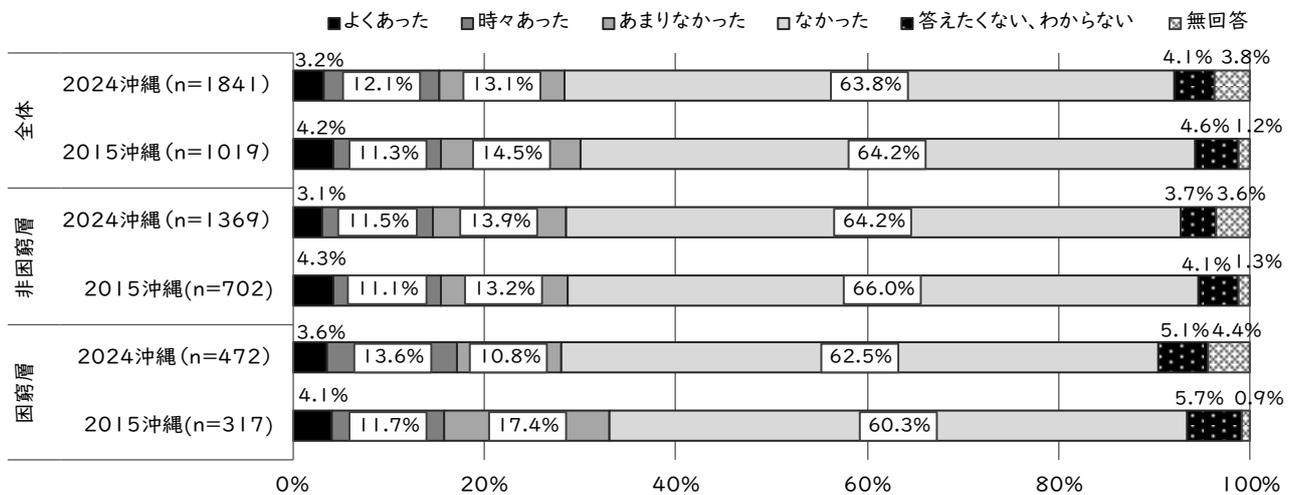
図A-5-4【中2生徒】1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)



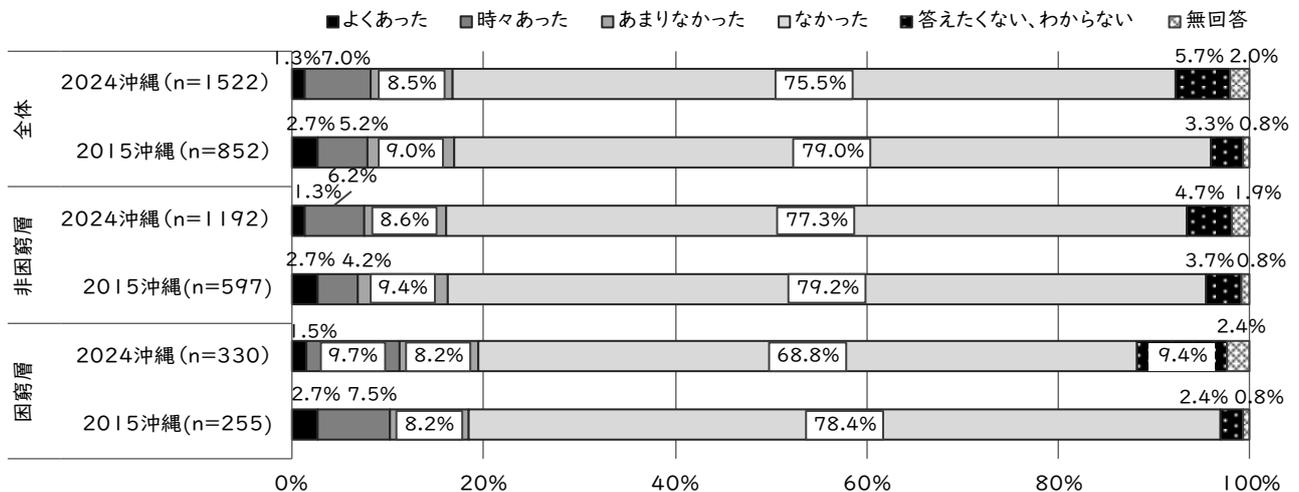
いじめられた

「いじめられた」ことがあったかについて、「よくあった」と「時々あった」を合わせると、小学5年生（図A-5-5）は、非困窮層では、2015年沖縄県調査が15.4%、2024年沖縄県調査が14.6%と変化は少なく、困窮層でも2015年が15.8%、2024年が17.2%と微増でした。中学2年生（図A-5-6）は、非困窮層では、2015年が6.9%、2024年が7.5%と変化は少なく、困窮層でも2015年が10.2%、2024年が11.2%と微増でした。

図A-5-5【小5児童】いじめられた



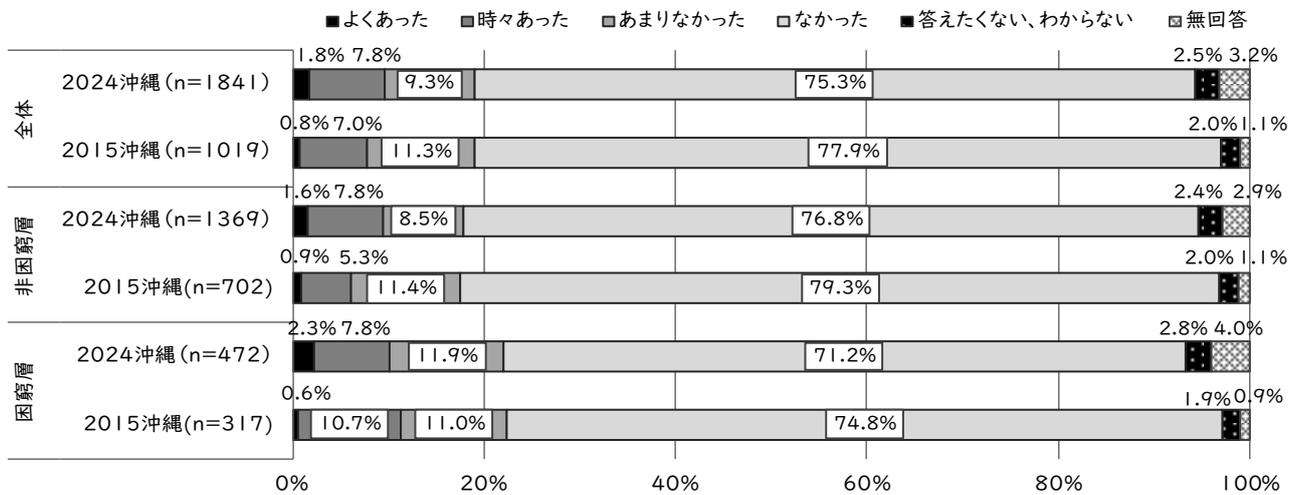
図A-5-6【中2生徒】いじめられた



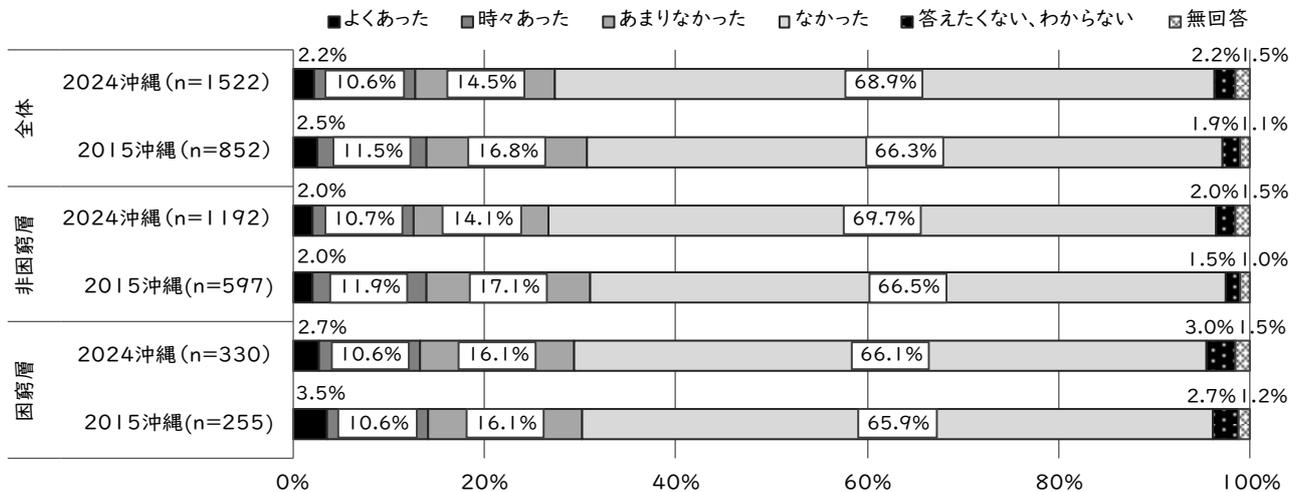
夜遅くまで子どもだけで過ごした

「夜遅くまで子どもだけで過ごした」ことがあったかについて、「よくあった」と「時々あった」を合わせると、小学5年生（図A-5-7）は、非困窮層では、2015年沖縄県調査が6.2%、2024年沖縄県調査が9.4%と増えていましたが、困窮層では2015年が11.3%、2024年が10.1%とわずかに減っていました。中学2年生（図A-5-8）は、非困窮層では、2015年が13.9%、2024年が12.7%、困窮層では2015年が14.1%、2024年が13.3%と、どちらもわずかに減少していました。

図A-5-7【小5児童】夜遅くまで子どもだけで過ごした



図A-5-8【中2生徒】夜遅くまで子どもだけで過ごした



本章は、本調査が10年目であることから、2015年沖縄県調査と本年度調査(2024年沖縄県調査)との経年比較が可能な指標について、この10年間の動きを分析したものです。第1節では保護者の状況として、母親、父親の学歴と就労状況について、第2節では食料・衣服が買えなかった経験について、第3節では就学援助制度の利用について、第4節では児童・生徒の自己肯定感について取り上げています。すべて、重要な指標と言えます。

第1節の学歴については、母親・父親ともこの10年間で学歴が伸びていることがわかりました。すべての学年で、「高校まで」の割合が減り「大学またはそれ以上」の割合が増えています。一方で、「大学またはそれ以上」の割合を見ると、母親の方が父親に比べて増加が大きく、学歴が伸びている傾向が顕著でした。

一方で、母親の方が伸びが見られるとは言え、「大学またはそれ以上」の割合について見ると、どの学年でも母親の方が父親に比べその割合が低い現状があることは明記しておくべきでしょう。学歴におけるジェンダー間の格差はまだ解消できていないことを推察するものです。

また、母親も父親も、小学1年生が他の学年と比べ「高校まで」の割合がもっとも低く「大学またはそれ以上」の割合が大きいことがわかりました。これは、若い世代で学歴の伸びが顕著なことを反映しているのだと推察されます。

同じく、第1節の就労状況からは、父母ともにこの10年間で就労状況の改善があったことが推察できました。全体で父母ともに正規雇用者(「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合が増加してました。特に、母親の方が改善幅が大きいことが見えました。父親は、3つの学年で約4~8ポイントの増加でしたが、母親は、約9~16ポイントも増加していました。一方で、また、母親、父親ともに小学1年生がもっとも改善幅が大きく、先述の学歴とも符合するものです。

経済状況別に見ると、母親については、どの学年も非困窮層の方が正規雇用者として働く割合の増加が大きいことがわかりました。父親については、どの学年も困窮層については正規雇用者の割合が減少していました。これについては、困窮層が正規雇用者となる可能性が減ったというより、正規雇用者が困窮層になる割合が減ったことの表れだと考えられます。例えば、小学1年生を例に取り、正規雇用者のみをサンプルとして、2015年沖縄県調査と2024年沖縄県調査で非困窮層、困窮層の割合を分析したものが(n数及び%)下の表になります。すると、正規雇用者で、困窮層であるものは、この10年で16.4%から6.0%になったことがわかります。正規雇用者の父親の就労収入の改善が推察される結果と言えます。

表 父親が正規雇用者である場合における困窮・非困窮の割合(推移)

		困窮	非困窮	全体
2015 沖縄	n	108	551	659
2024 沖縄		68	1063	1131
2015 沖縄	%	16.4%	83.6%	100.0%
2024 沖縄		6.0%	94.0%	100.0%

第2節では食料・衣服が買えなかった経験を分析しています。それぞれの経験が「あった」割合(「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合計)は、食料については全体としては大きな変動はありませんでしたが、小学1年生と中学2年生の困窮層においてはその割合に約3~10ポイントの増加がありました。本報告書の調査概要で見られたように、10年の間に世帯所得の増加がありながら、本指標の全体では変動がなかったこと、困窮層では悪化したことは大きく受け止めるべきでしょう。ここ数年の物価の高騰が影響を与えていることを示唆するものであり、それがまた困窮層により大きな悪影響を与えているのではな

いでしょうか。また、「あった」割合は 2024 年沖縄県調査の困窮層では、小学1年生で 49.6%、小学5年生で 48.6%、中学2年生で 58.2%であり、非常に高いままであることにも目を配る必要があります。

また、衣服を買えない経験の方が改善していることが見えました。特に、困窮層でその傾向が強いと推察できました。これはこの 10 年間における改善したポイントの一つと言えますが、食料に比べて、その割合はまだ大きいことにも留意するべきであり、困窮層で見ると小学1年生、小学5年生では 50%を超え、中学2年生では 60%を超えています。

第3節では、就学援助制度の利用状況などについて分析をしました。主な利用者となる困窮層で経年比較してみると、小学1年生の利用割合は、2015 年沖縄県調査の 34.9%から 2024 年沖縄県調査の 59.2%と、24.3 ポイント増えていました。同様に小学5年生では、42.6%から 61.0%、中学2年生では、49.8%から 59.7%と約 10~20 ポイント増えていました。この 10 年間の取組として、沖縄県が 2016~2019 年度に実施したテレビやラジオの CM を使った就学援助キャンペーンがありますが、それに合わせた小中学校の窓口受け付けの取組が合わさったことで、制度利用のハードルが下がり、申請が増えたためと考えられます。

また、就学援助制度を利用していない理由について、「就学援助制度を知らなかったため」と答えた世帯の割合が、どの学年でも大きく下がりました。これも 2016 年に始まったテレビやラジオの CM を始め、学校等での周知が大きな効果を上げてきた結果だと考えられます。

一方、就学援助によって学校にかかる経費をカバーできているかについては、小学5年生以外の学年で、「十分にカバーできている」と「カバーできている」の合計の占める割合が減りました。この10年間の物価上昇は大きく、小学1年生は、入学時にかかる学用品などの費用が10年前に比べて上昇し、家庭の負担となっている可能性があり、小学5年生では、そういった影響があまりがなかったことが考えられ、中学2年生では、部活の用具や遠征費用、修学旅行などの経費が負担感に繋がっている可能性があります。

第4節では、児童・生徒の自己肯定感について分析しています。「とてもそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合を見ると、「がんばれば、むくわれる」と「自分は価値のある人間だと思う」「自分は家族に大事にされている」「孤独を感じることはない」については増加しており、この10年間で肯定的な考えは増えていました。自分自身を大切にする(自己を尊重する)意識は向上してきたと考えられます。しかし、「不安に感じることはない」については、10 年前からの改善はほとんどなく、約半数が否定的な気持ちを抱えていることが明らかになりました。さらに、「自分の将来が楽しみだ」については、小学5年生で否定的な意見が増えていることが見て取れました。将来や社会における自分の有り様については、今ひとつ自信がもてないということもたちの姿が見て取れます。

ただし、自己肯定感の平均点数を 10 年前と比較すると、学年を問わず、全体でも、経済状況別でも、平均値が伸びていました。この 10 年間で、親の所得増や正規職員化など働き方の変化が進んだことで、子どもと向き合う時間が増えたこと、社会的にも子どもの貧困問題に対する認識が広がり、家族や教員といった周囲の関わりにもよい意味での変化が生じていることが考えられます。一方で、困窮層と非困窮層の差は、小学5年生では少し縮小しましたが、中学2年生では差が広がっていました。困窮層の生活は引き続き苦しいものがあり、将来に対する不安が、成長するにつれて子どもたちに徐々に影響を与えている可能性があります。

第5節では、学校やふだんの生活について分析をしています。

「いじめられた」ことがあったかや「夜遅くまで子どもだけで過ごした」ことがあったかについては、あまり変化はありませんでした。

一方で、「学校に行きたくないと思った」ことが「よくあった」と「時々あった」とする回答は、10年前と比べ、学年や所得階層に関係なく、大きく増えていました。また、「1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)」ことがあったかについても、「よくあった」と「時々あった」という回答が、学年や所得階層に関係なく数ポイント増加し、学校と距離をとる子どもたちは、10 年前よりも増えていました。近年の不登校児童の増加

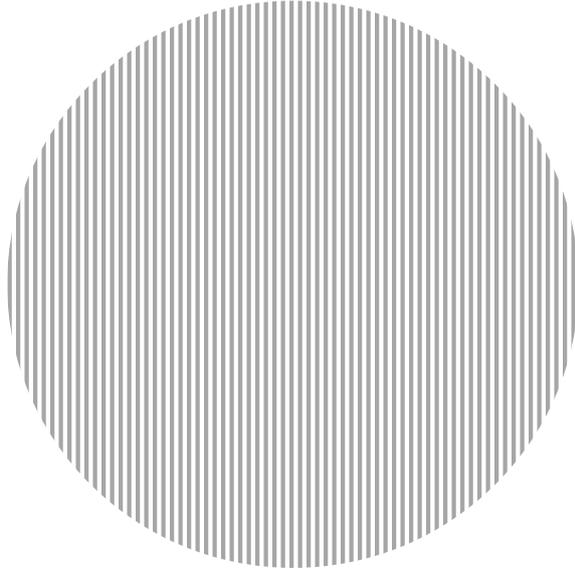
を裏付ける結果とも言えるでしょう。学校の他にも、フリースクールや居場所といった受け皿が増え、自宅でのひきこもりではない形で自分の将来を考える場ができ、子どもたちにとっては選択の幅が広がっているため、これらの地域資源との連携・協力を図っていくことも必要かもしれません。

総じて、この 10 年を全体として見れば、貧困問題の根幹にあたる就労状況については改善が見られると言えるでしょう。沖縄県のこどもの貧困を語る時、就労収入の低さと並んで正規雇用率の低さが指摘されることが多いと言えますが、父母ともに正規雇用率は増加の傾向が見え、これまでの沖縄県の施策が効果をもたらしていることを示しているでしょう。特に、全国のこどもの貧困率の改善の要因の一つとされる、母親の就労割合や正規雇用率の高まりと同じトレンドが沖縄県においても見られることは、中長期的に見ても貧困率が改善される方向にあることを示唆しているのではないのでしょうか。また、過去の 2021 年、2022 年沖縄県調査の分析において示されてきた、正規雇用の父親の低収入状況も改善の方向に向き始めたことも明らかにされました。ただし、本報告書の第 1 章でも示されているように、この正規雇用の父親の低収入状況は現状でも基本的には継続していることであり、継続した調査・分析、さらにこの 10 年間の詳細な分析が必要な点です。また同様に第 1 章で指摘されているように、正規雇用者以外の賃金上昇は現状でも鈍いものであり正規雇用者以外への対策も必要とされるでしょう。

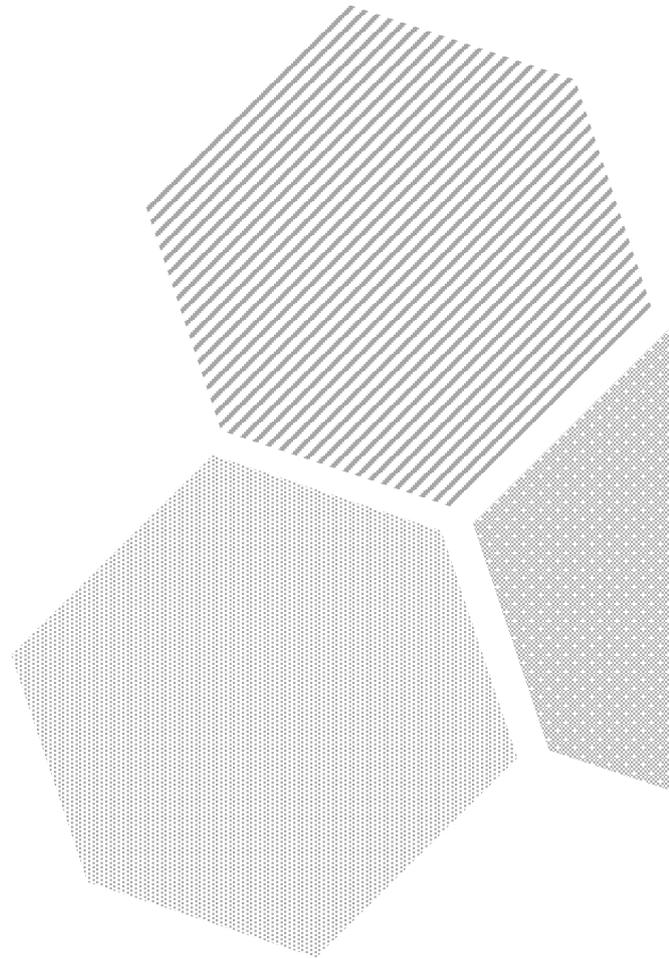
また、貧困の影響を緩和する施策の一つである、就学援助制度についても改善の方向性が認められました。この 10 年間で特に困窮層での利用率の拡大が認められました。テレビCMなど周知の促進に関する施策が効果をもたらしたと言えそうです。一方で、物価高の影響などから学用品などの負担の増える学年で、就学援助の額が学校生活における経費をカバーできないという保護者が増えていました。こうした点に対応し求められる施策としては、就学援助の充実とともに、学校教育費における自己負担（「隠れ教育費」と指摘されることもある）の軽減などが考えられるでしょう。

この 10 年であまり改善を見ることができなかった重要な指標として、食料が買えなかった経験があるでしょう。特に、学年によってですが、困窮層でその割合が悪化していました。この指標は、こども大綱（子供の貧困対策に関する大綱）でも取り上げられているものであり、所得を基に計算される貧困率とは異なり世帯の生活状況を直接的に測るものと言えます。これには物価高の影響が大きいと言えますが、こうした物価高などの経済の急変状況（コロナ禍なども含む）に対応するためにも、先に少し述べた子育てにかかる経費をできるだけ減らしていくことが求められているのではないのでしょうか。給食費の無償化などもこうした施策の一つと言えます。また、居場所における食事支援（食料配布）もこうした経済の急変状況に対処できる施策であり沖縄県独自の施策の有益性が高まっているのだと思います。一方で、衣服が買えなかった経験については改善の方向が見えていました。こうしたポジティブな結果も含め、本報告書第 4 章における滞納経験（こども大綱の指標の一つ）や生活における困窮感など貧困率以外の指標の動向を追っていく必要があるでしょう。

最後に、第 4 節、第 5 節は児童・生徒の内面の変化に関するものです。全般的には、自己肯定感が上昇していることと学校から心理的な距離を取る児童・生徒が増えたことが特徴と言えるでしょう。これは、本報告書の第 3 章における他者との関係性の改善や生活に対する満足度の上昇、さらには第 2 章における児童・生徒の進路に対する意識の変化、多様な進路を是認する傾向とも符合するものです。自己肯定感が上昇していることについては、コロナ禍（天災とも言えるもの）がこの間にあったことを考えると、それにもかかわらず自己肯定感や生活に対する満足度が高まっていることは、評価できる点でしょう。沖縄県の施策、さらには教員や居場所職員の地道な努力、それを支える教育委員会や市町村児童福祉担当部署の成果とも言える点だと思われます。一方で、学校から心理的な距離を取る児童・生徒が増えたことについては、コロナ禍や遠隔授業の実施など学校教育を含めた社会のあり方に対する価値観の変化を保護者や児童・生徒にもたらしている可能性を示唆するものです。本沖縄こども調査では、全国の傾向との異同にも注意を向けながら、低所得層の子どもにとって、この点がどのように推移していくかを今後も確認していく必要があるでしょう。



第1章
保護者の状況



母親の就労状況

図1-1-1から図1-1-3は、母親の就労状況を尋ねた結果を示しています(母親のいる世帯のみを対象に集計。本報告書の特集にて、2015年沖縄県調査との経年分析を行っています)。図1-1-2と図1-1-3は2021年沖縄県調査と比べた経年比較をしています(小1保護者はなし。以下同様)。

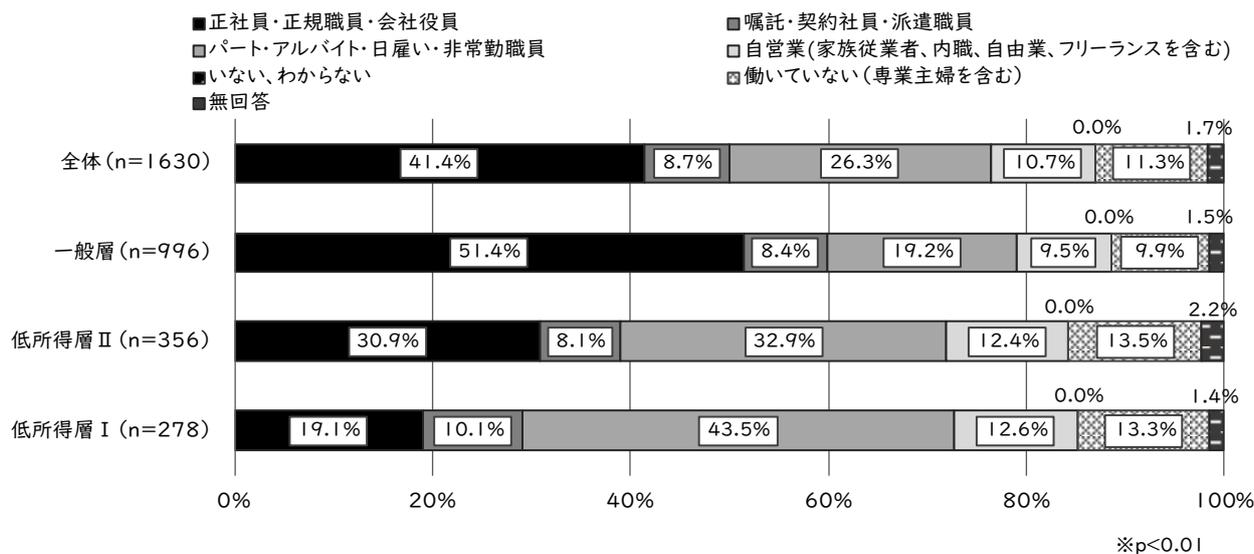
いずれの学年でも、母親が「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合は、全体ではもっとも高いものの、経済状況別に見ると、一般層と低所得層で傾向に大きな違いが見られます。一般層では「正社員・正規職員・会社役員」の割合がもっとも多いのに対し、低所得層ではその割合が低く、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」などの非正規就業の割合が高くなる傾向が、過去調査と同様、引き続き明確に見られます。また、2021年沖縄県調査から2024年沖縄県調査への経年変化として、中学2年生の母親において、正規雇用への移行が顕著に見られることが特徴です。

小学1年生(図1-1-1)の全体では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が41.4%ともっとも多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が26.3%となっています。一般層に目を向けると、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が51.4%と過半数を占め、就労が比較的安定していることがうかがえます。他方、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」は19.2%と全体よりも低い割合です。これに対し、低所得層Ⅰでは「正社員・正規職員・会社役員」の割合が19.1%にとどまり、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が43.5%ともっとも多くなっています。低所得層Ⅱでも同様の傾向が見られ、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は30.9%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」は32.9%となっています。

小学5年生(図1-1-2)の全体では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が34.5%ともっとも多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が32.0%となっています。一般層では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が45.5%と全体を上回り、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」は25.1%にとどまります。これに対して、低所得層Ⅱでは「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が37.0%ともっとも多く、正社員の割合は30.6%にとどまります。さらに、低所得層Ⅰでは「正社員・正規職員・会社役員」の割合が14.4%と低く、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が42.2%と突出しています。経年比較から、低所得層における「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が引き続き高いことが確認されます。「働いていない(専業主婦を含む)」層は、全体でもいずれの所得階層でも減少が見られます。

中学2年生(図1-1-3)の全体では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が39.9%ともっとも多く、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が28.0%となっています。一般層では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合が50.0%に達し、2021年の45.8%と比較して4.2ポイント増加しています。一方、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」は22.1%と、2021年の27.4%と比較して5.3ポイント減少しています。低所得層においても経年変化が見られます。低所得層Ⅱでは「正社員・正規職員・会社役員」の割合が2021年の27.7%から2024年には33.5%へと5.8ポイント増加しており、非正規雇用から正規雇用への移行が示されています。また、低所得層Ⅰでも同様の傾向が見られ、正社員の割合が16.8%から19.3%へ、2.5ポイント増加しています。「働いていない」層は、全体でもいずれの所得階層でも減少が見られ、低所得層Ⅰでは、4.2ポイント減少しています。

図1-1-1 【小1保護者／母親】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



経年比較

図1-1-2 【小5保護者／母親】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものをお答えください

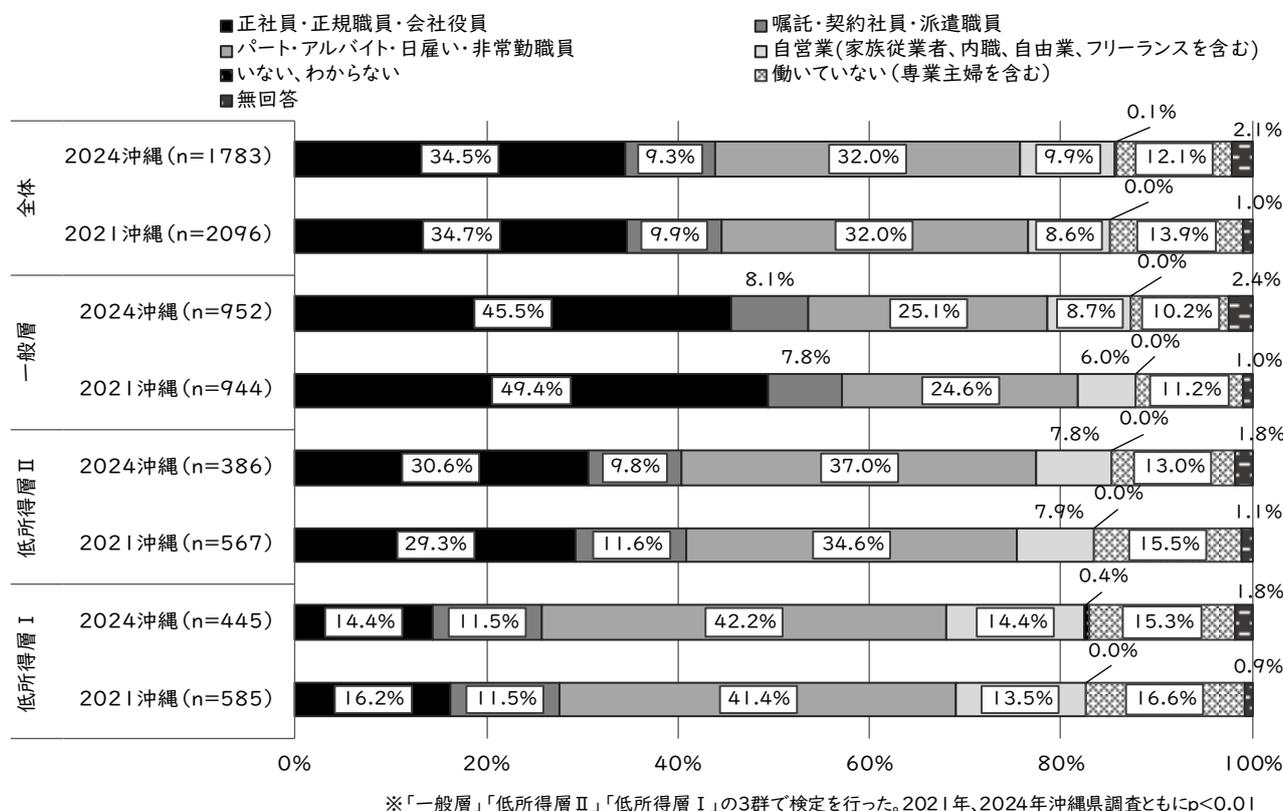
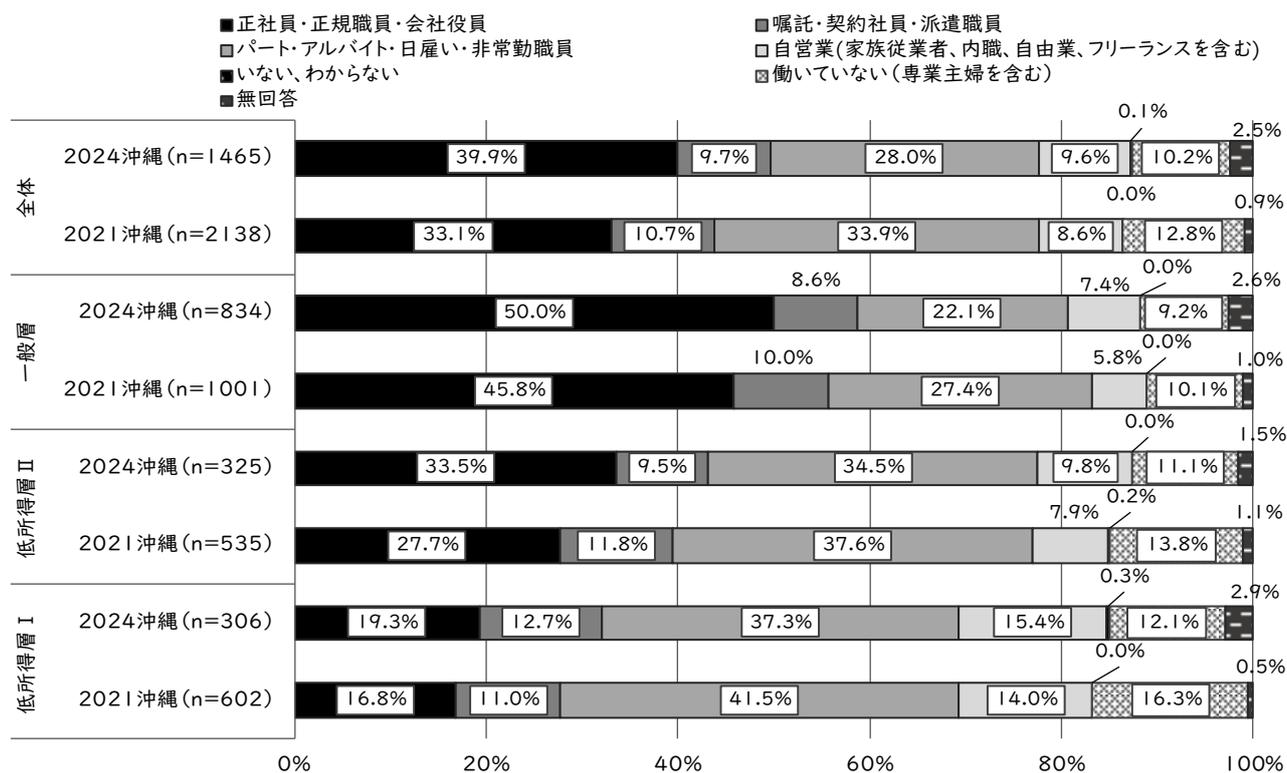


図1-1-3 【中2保護者／母親】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



※「一般層」「低所得層II」「低所得層I」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

東京都調査との比較

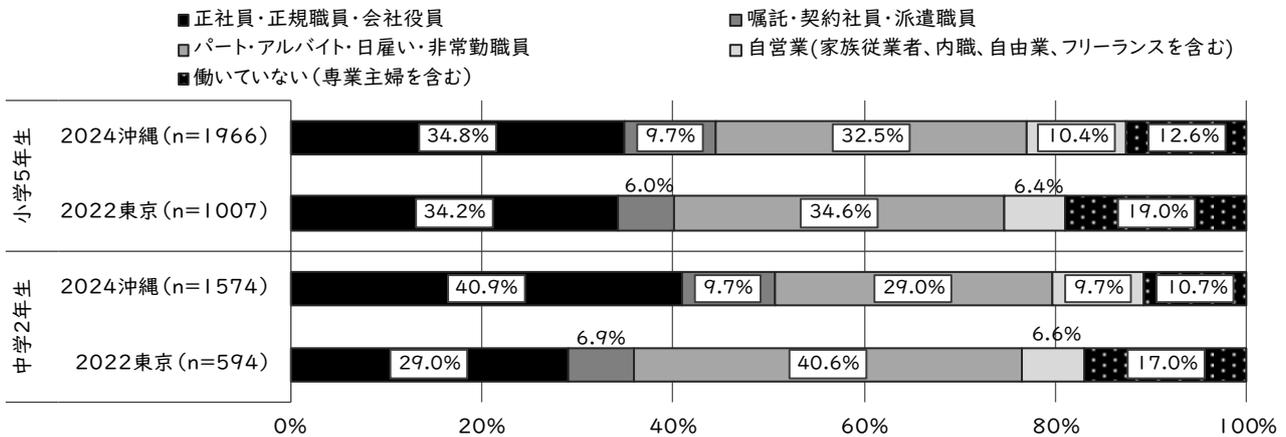
図1-1-4は、小学5年生と中学2年生の母親の就労状況について、2024年沖縄県調査と2022年東京都調査を比較した結果を示しています（「いない、わからない」「無回答」を除いて算出）。

小学5年生を見ると、沖縄県では「正社員・正規職員・会社役員」として働く母親の割合が34.8%で、東京都の34.2%とほぼ同等の水準となっています。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合は沖縄県では32.5%であるのに対し、東京都では34.6%と若干沖縄県の方が低い割合となっています。「働いていない（専業主婦を含む）」母親の割合は、沖縄県が12.6%、東京都が19.0%と、沖縄県の方が低い点が特徴的です。また、「嘱託・契約社員・派遣職員」として働く割合は沖縄県が9.7%、東京都が6.0%、「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）」の割合についても、沖縄県が10.4%、東京都が6.4%で、沖縄県の方が働く母親が多い結果となっています。

中学2年生の母親では、沖縄県と東京都の就労状況により顕著な違いが見られます。「正社員・正規職員・会社役員」として働く母親の割合は、沖縄県が40.9%で東京都の29.0%を大きく上回っています。一方、「働いていない」母親の割合は沖縄県が10.7%であるのに対し、東京都は17.0%と、こちらも小学5年生の母親と同じく沖縄県の割合が低い点が特徴です。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合については、沖縄県が29.0%、東京都が40.6%と大きな違いが見られます。

全体的な傾向として、沖縄県では、いずれの学年においても東京都より働く割合が高いことが特徴的です。地域社会における働く母親の割合の高さを反映していると推測されます。また、中学2年生の保護者においては「正社員・正規職員・会社役員」の割合が高いことも特徴的です。

図1-1-4 【小5・中2保護者／母親】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



※2022年東京都調査の選択肢は、以下のように区分して集計した。

「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」＝「正社員・正規職員・会社役員」

「自営業(家族従業者を含む)」「自由業」「その他の働き方をしている」「個人業務請負」＝「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)」

「専業主婦」「学生」「引退(退職)」「その他の無職」＝「働いていない(専業主婦を含む)」

2 母親の労働時間

図1-2-1から図1-2-3は、母親の1週間あたりの平均的な労働時間を示しています(母親のいる世帯、働いていると回答した母親を対象に集計)。いずれの学年においても、低所得層で「30 時間未満」の短時間労働の割合が高くなっています。

小学1年生(図1-2-1)の一般層では、「40~50 時間未満」の割合が41.7%と最も高く、「30~40 時間未満」が30.6%で続いています。「30 時間未満」の割合は19.1%で、全体よりも低い傾向にあります。これに対し、低所得層では異なる傾向が見られます。一般層に比べると、「30 時間未満」の割合が、低所得層Ⅰでは30.4%、低所得層Ⅱでも31.7%と高く、反対に、「40~50 時間未満」の割合は、低所得層Ⅰでは28.7%、低所得層Ⅱでは22.0%と低くなります。このように長時間労働に該当する母親の割合が低いことは、第1節の母親の就労状況で見たように、低所得層ほどパート・アルバイト等の割合が高いことが関係していると考えられます。

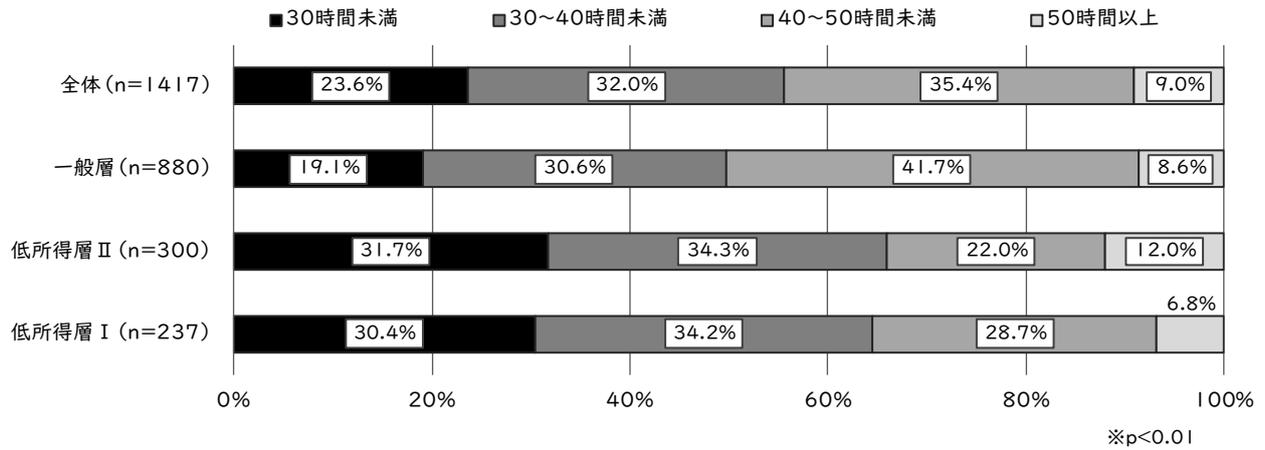
小学5年生(図1-2-2)の一般層では、「40~50 時間未満」の割合が36.7%と高く、ただし2021年沖縄県調査の39.0%から若干の減少が見られます。他方、低所得層Ⅰでは、「30 時間未満」の割合が38.7%と高く、低所得層Ⅱでも35.3%と高い割合を占めます。一方で、「40~50 時間未満」の割合は、低所得層Ⅰ・Ⅱともに2021年から若干の減少が確認されます。これらの層では、短時間労働が多い傾向が引き続き見られます。

中学2年生(図1-2-3)の一般層では、「40~50 時間未満」の割合が39.6%と最も高く、2021年の36.6%と比較して増加しています。「30 時間未満」の割合は21.2%と減少しており、労働時間が増加していることがうかがえます。低所得層では、「30 時間未満」の割合が依然として高い傾向にありますが、経年変化が見られます。一般層に比べると、低所得層Ⅰでは、「30 時間未満」の割合が27.1%と高いものの、2021年の39.0%に比べると、11.9ポイント減少しています。低所得層Ⅱでも、2021年33.6%から2024年29.3%へと4.3ポイント減少しています。他方で、低所得層Ⅰでは、「30~40 時間未満」の割合が、2021年27.1%から2024年34.5%へと7.4ポイントの増加、「40~50 時間未満」の割合が2021年22.7%から2024年27.1%と4.4ポイント増加しており、労働時間の増加が顕著です。

前述したように、全体的な傾向として、低所得層ほど短時間労働の割合が高い傾向にありますが、2021年との経年比較では、小学5年生では「30 時間未満」の割合がどの所得階層においても微増しており、反対に中学2年生では減少しています。中学2年生の母親の労働時間の長期化は、第1節で見た通り、「正社員・正規職員・会社役員」の割合増加と「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の減少が影響していると考えられます。

注目すべき点として、「40~50 時間未満」及び「50 時間以上」働いていると答えた割合が、低所得層Ⅰ・Ⅱともにいずれの学年でも3~4割程度存在している点があります。これは長時間働いているにもかかわらず、低賃金等の理由によって低所得の状態に置かれている状況があることが推測されます。

図1-2-1【小1保護者／母親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



経年比較

図1-2-2【小5保護者／母親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）

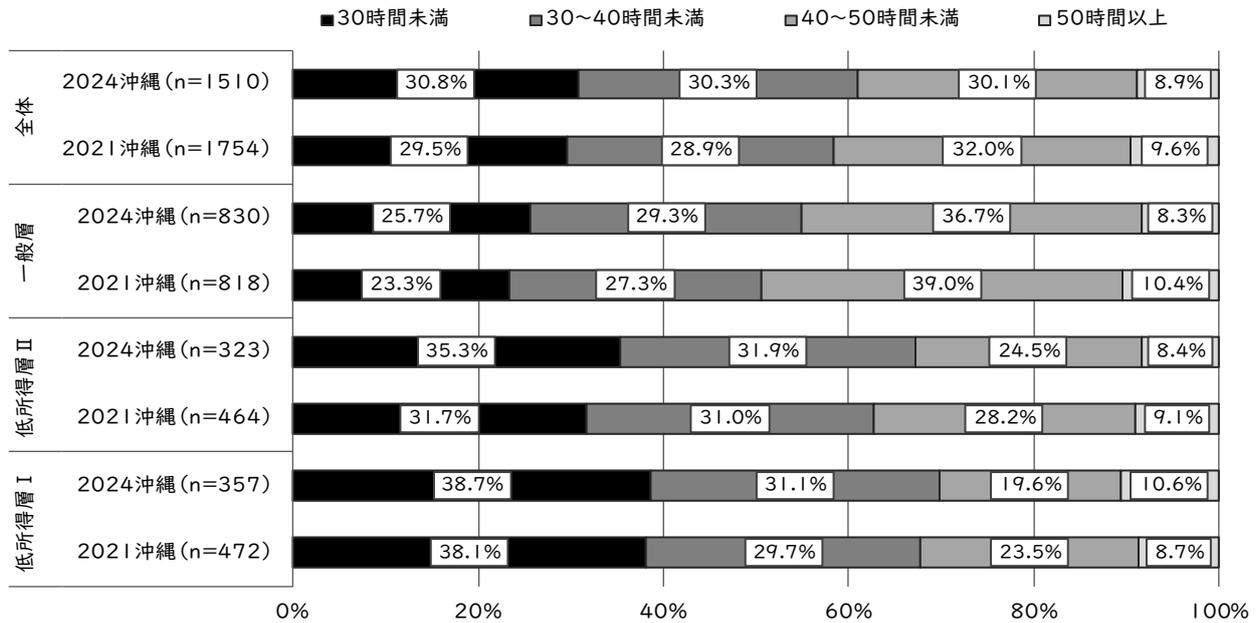
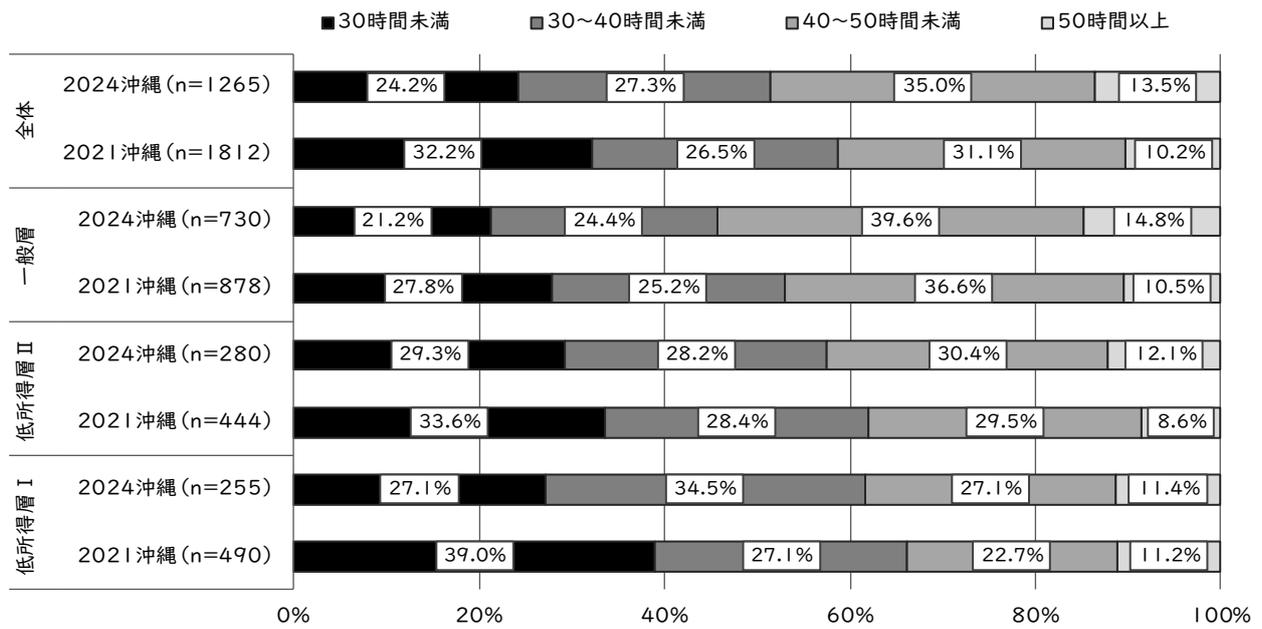


図1-2-3【中2保護者／母親】1週間の平均的な労働時間(残業時間を含む)



※「一般層」「低所得層II」「低所得層I」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

3 母親の就労収入

図1-3-1から図1-3-3は、母親が前年の同時期と比較して就労収入がどのように変化したかについて尋ねた結果を示しています（母親がいる世帯、働いていると回答した母親を対象に集計）。

小学1年生（図1-3-1）の全体では「変わらない」と回答した割合が51.7%でもっとも多く、次いで「増えた」が31.2%、「減った」が16.4%となっています。過半数の母親が就労収入に変化がなかったと回答しており、「増えた」とあわせると8割超で前年と同様か増加傾向にあることがわかります。経済状況別に見ると、「変わらない」の割合は一般層でも、低所得層Ⅰ・Ⅱでも5割を超えていますが、「増えた」と答えた割合では違いが見られます。一般層では「増えた」と回答した割合が35.0%であるのに対して、低所得層Ⅱでは27.3%、低所得層Ⅰでは21.9%にまで下がります。

小学5年生（図1-3-2）の全体では「変わらない」と回答した割合が51.8%でもっとも多く、次いで「増えた」が32.7%、「減った」が14.9%となっています。小学1年生と同様、過半数の母親が収入の変化を感じていません。経済状況別に見ると「増えた」と回答した割合は、一般層で37.0%ともっとも高く、低所得層Ⅱの32.5%、低所得層Ⅰの23.2%よりも大きい傾向が見られます。一方で、低所得層Ⅰでは他の所得階層と比べて「減った」と回答した割合が25.9%と高く、低所得層ほど収入が減少した割合が高くなります。

中学2年生（図1-3-3）の全体では「変わらない」と回答した割合が54.8%と過半数を占め、次いで「増えた」が31.8%、「減った」が12.8%となっています。ほかの学年と同様、「増えた」の割合は一般層でもっとも高く36.9%、低所得層Ⅱでは26.8%、低所得層Ⅰでは22.8%にとどまっています。「減った」と回答した割合は低所得層Ⅱで16.9%、低所得層Ⅰで20.5%と高い傾向にあります。

以上のことから、いずれの学年においても、前年の同時期に比べて就労収入が変化した割合は「増えた」と回答した割合が一般層の方が高く、「減った」と回答した割合が低所得層になるにつれて高くなる傾向が読み取れます。ここから近年の賃上げの効果や就労収入の増加は一般層の方に多く影響が出ており、低所得層への影響は限定的となっていることが推測されます。

図1-3-1 【小1保護者／母親】 昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか

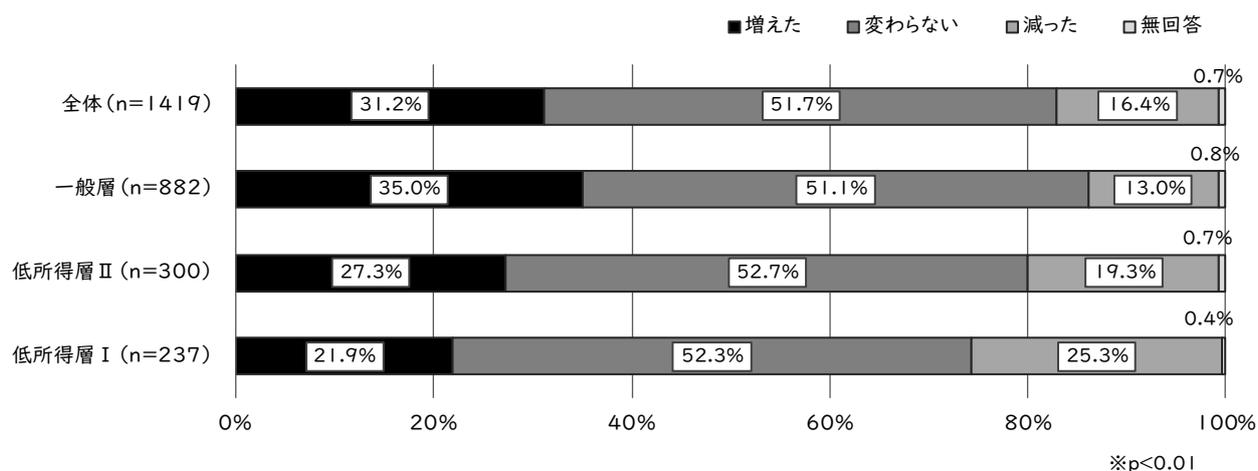


図1-3-2 【小5保護者／母親】 昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか

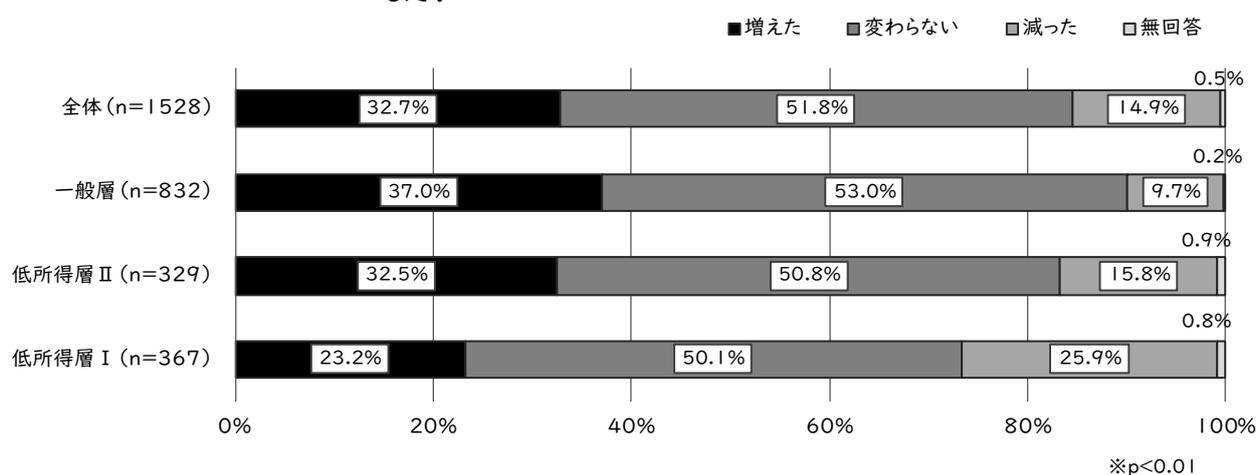
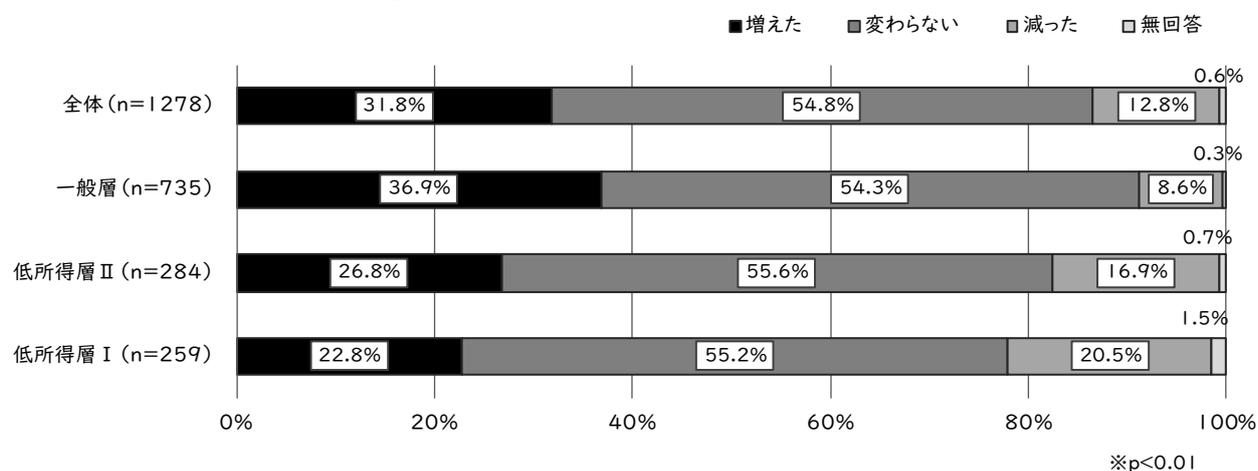


図1-3-3 【中2保護者／母親】 昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか



就労収入の変化 — 就業形態別

図1-3-4から図1-3-6は、母親の就業形態別の就労収入の変化を示しています（母親がいる世帯、働いていると回答した母親を対象に集計）。

いずれの学年においても、どの就業形態でも「変わらない」が約5～6割ともっとも多いですが、「正社員・正規職員・会社役員」では、「増えた」と回答した割合が約38～40%と他の就業形態に比べてもっとも高く、賃上げの恩恵をもっとも受けていることがわかります。なお、「減った」は8～9%程度と回答割合が低い傾向にあります。

一方で、「嘱託・契約社員・派遣職員」でも「増えた」が約31～41%と比較的高い割合を示しましたが、「減った」の割合がやや高い（約13～20%）点が特徴です。「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では、「増えた」が約26～29%と低く、非正規雇用の収入増加が限定的であることが示されています。

また、「自営業」では「増えた」が11.0～17.0%と他の就業形態よりも著しく低く、「減った」が約25～30%と他の就業形態に比べてもっとも高く、賃上げの効果よりも物価や資材高騰の影響を強く受けて収入減につながっている可能性があります。

これらの結果から、「正社員・正規職員・会社役員」、次いで「嘱託・契約社員・派遣職員」といった就業形態では一定の賃上げの影響が感じられる一方で、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」といった非正規雇用では収入増加や賃上げの影響は限定的であり、特に自営業では就労収入の減少が顕著であることがわかります。

図1-3-4 【小1保護者／母親】就業形態 × 就労収入（月給、時給、事業所得等）の変化

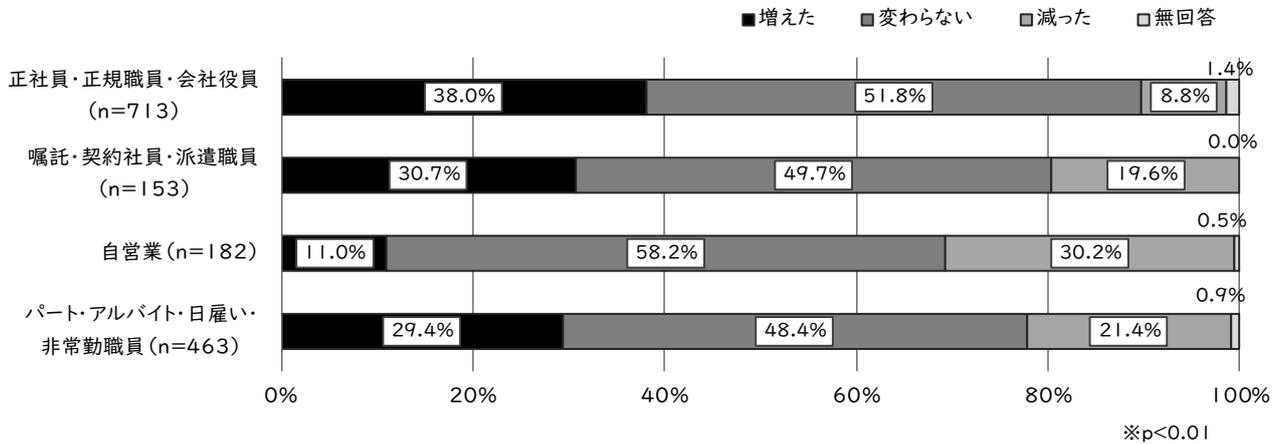


図1-3-5 【小5保護者／母親】就業形態 × 就労収入(月給、時給、事業所得等)の変化

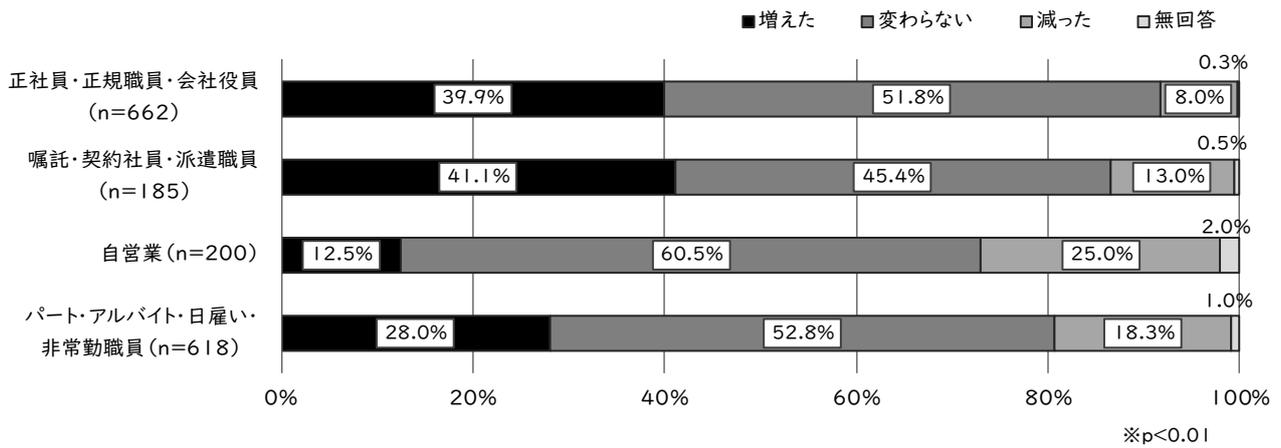
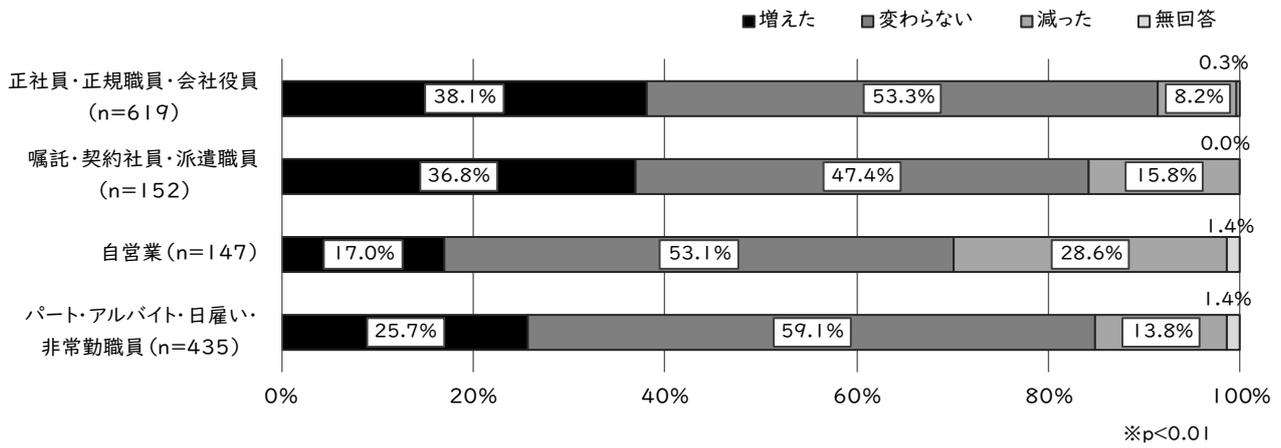


図1-3-6 【中2保護者／母親】就業形態 × 就労収入(月給、時給、事業所得等)の変化



就業形態 × 母親の収入

図1-3-7から図1-3-9では、就業形態別の母親の収入（年収）を示しています（母親がいる世帯、働いていると回答した母親を対象に集計）。

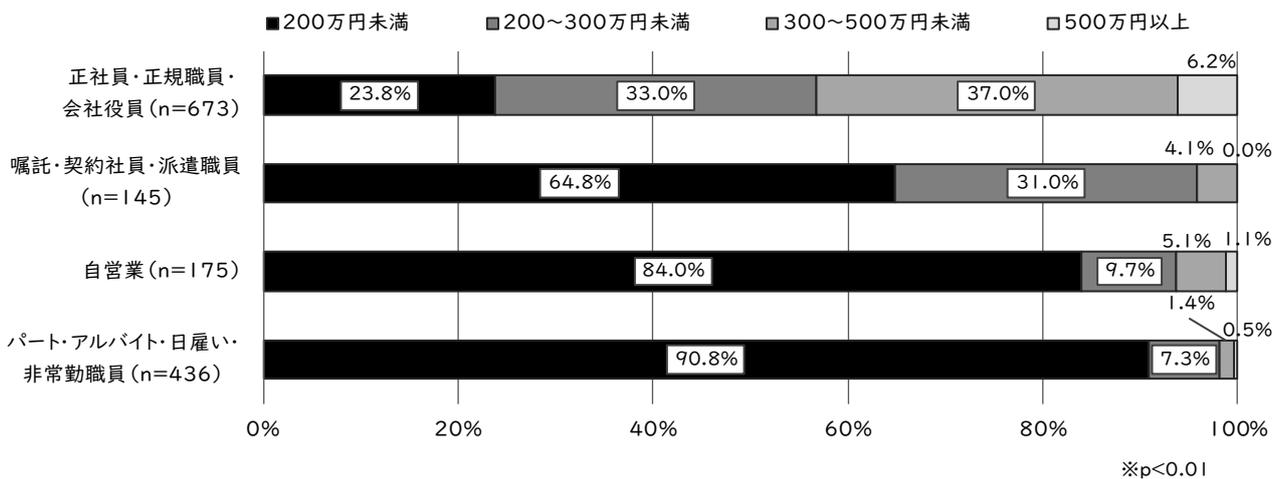
いずれの学年においても、「正社員・正規職員・会社役員」以外の就業形態では、「200万円未満」が大半を占めており、正規雇用であるかどうかで収入に大きな差があることがわかります。特に「嘱託・契約社員・派遣職員」では約6~7割、「自営業」では約8割、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では約9割が「200万円未満」であり、低収入が顕著です。

図1-3-8の小学5年生について、2021年沖縄県調査と2024年沖縄県調査を比べて「200万円未満」の割合がどう変化したかを見ると、「正社員・正規職員・会社役員」では30.3%から23.2%へ減少しており、賃上げの影響が正規雇用でより大きく表れていることが確認されます。また、「嘱託・契約社員・派遣職員」では78.0%から69.6%、「自営業」では90.2%から82.3%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では95.4%から92.5%へと、いずれも減少傾向が見られます。

図1-3-9の中学2年生についても、ほぼ同様の傾向が見られます。「200万円未満」の割合は「正社員・正規職員・会社役員」で30.6%から20.3%へ、「嘱託・契約社員・派遣職員」で76.8%から61.4%へ、「自営業」で87.0%から79.9%へ、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では94.2%から89.0%へと減少しています。

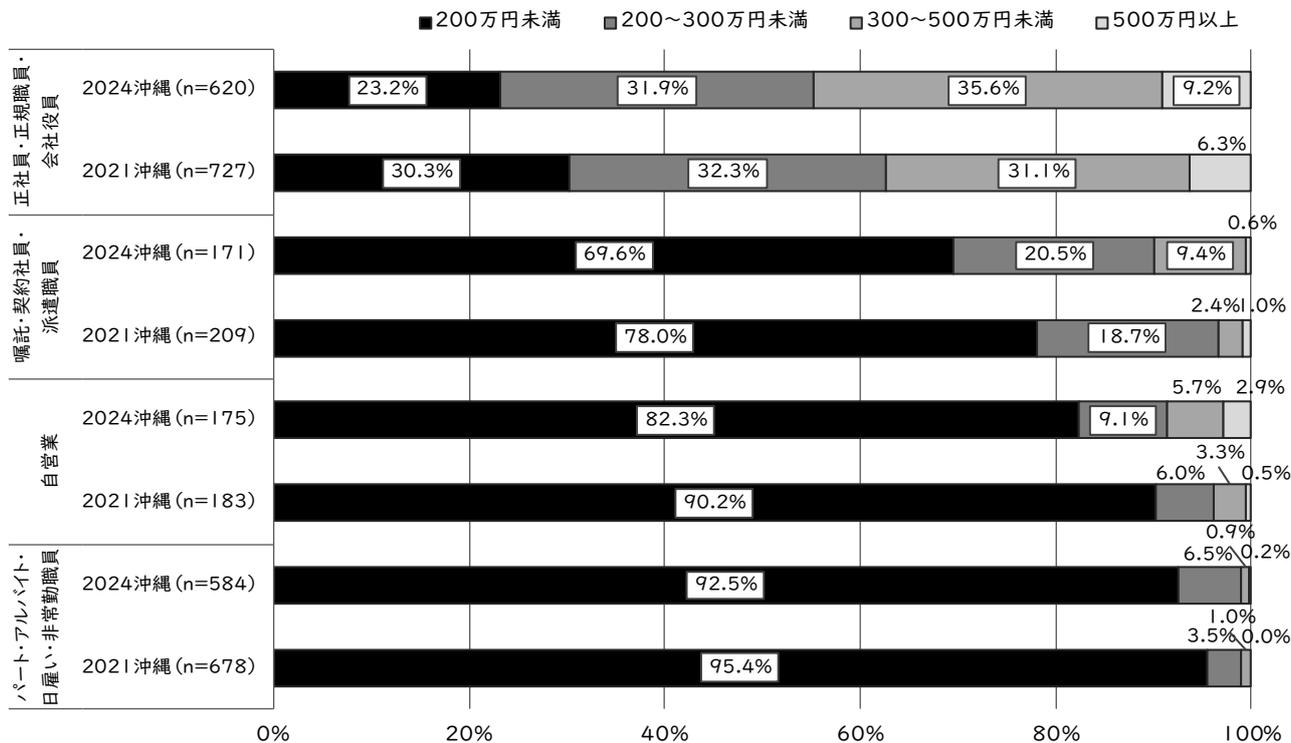
これらの結果から、賃上げの効果や就労収入の改善はどの就業形態でも一定程度見られるものの、就労収入の改善が進む「正社員・正規職員・会社役員」に比べ、「嘱託・契約社員・派遣職員」や「自営業」、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では依然として低収入層が大多数を占めており、収入格差が継続していることがわかります。

図1-3-7 【小1保護者／母親】母親の就業形態 × 母親の収入



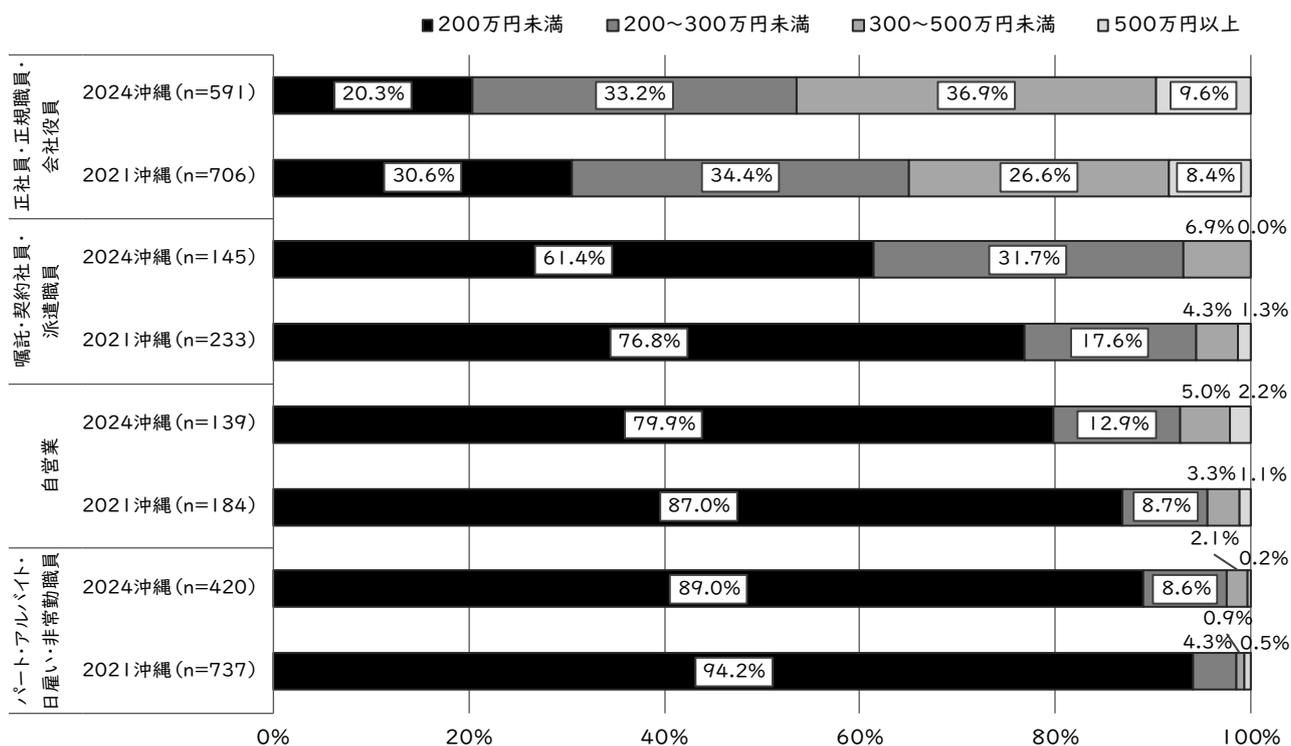
経年比較

図1-3-8 【小5保護者／母親】母親の就業形態 × 母親の収入



※「正社員・正規職員・会社役員」「嘱託・契約社員・派遣職員」「自営業」「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の4群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

図1-3-9 【中2保護者／母親】母親の就業形態 × 母親の収入



※「正社員・正規職員・会社役員」「嘱託・契約社員・派遣職員」「自営業」「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の4群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

4 働いていない理由（母親）

図1-4-1から図1-4-3は、母親が働いていない理由を尋ねた結果を示しています（母親のいる世帯、働いていないと回答した母親を対象に集計）。第1節（母親の就労状況）では、母親が「働いていない（専業主婦を含む）」と回答した割合は、所得階層による大きな違いはみられませんでした（9.2～15.3%。やや所得階層が低くなると回答割合が増加します）、働いていない理由の構成は、所得階層によって違いがでます。いずれの学年でも、「子育てを優先したいため」が主な理由として挙げられていますが、こどもの年齢や所得階層により比重に違いが見られます。

「子育てを優先したいため」は、小学1年生で52.2%を占めていましたが、小学5年生で47.9%、中学2年生では38.0%に低下しており、こどもが成長するにつれて、その割合は減少しています。一方で、所得階層も影響しており、所得階層が下がるにつれて「子育てを優先したいため」の割合も減少します。小学1年生の母親の場合、一般層の63.6%に対して低所得層Iでは29.7%、小学5年生では一般層57.7%に対して低所得層Iでは41.2%、中学2年生では一般層44.2%に対して低所得層Iでは21.6%となります。代わりに低所得層では、「自分の病気や障害のため」の割合が高い傾向にあります。中学2年生では、一般層の13.0%に対し、低所得層Iでは32.4%を占めており、健康上の問題が低所得層の母親にとって大きな就労障壁となっています。

また、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」という理由を挙げた割合は、いずれの学年でも全体で15%前後となっており、就労を希望する子育て世帯の母親と実際の求人の間に一定のミスマッチが存在していることを示しています。

「家族の介護・介助のため」という理由も、小学5年生を除いて低所得層で特に高い割合を示しており、介護負担が就労の障壁となっていることが示唆されます。中学2年生では低所得層Iで8.1%、低所得層IIで8.3%を占めており、家族介護に関する支援が十分でない可能性が考えられます。

図1-4-1 【小1保護者／母親】働いていないもっとも主な理由を教えてください

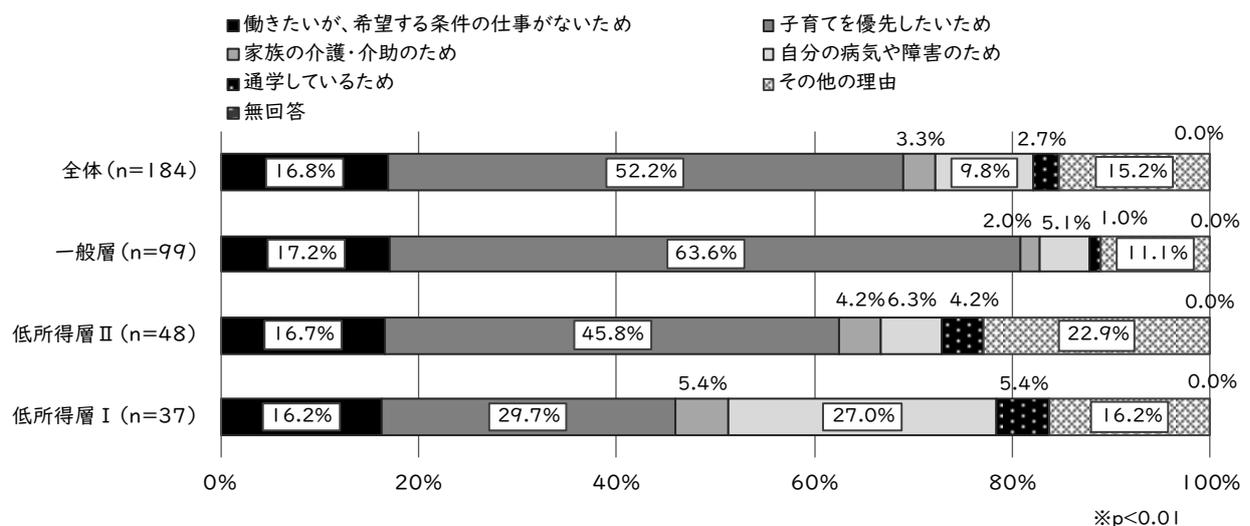


図1-4-2 【小5保護者／母親】働いていないもっとも主な理由を教えてください

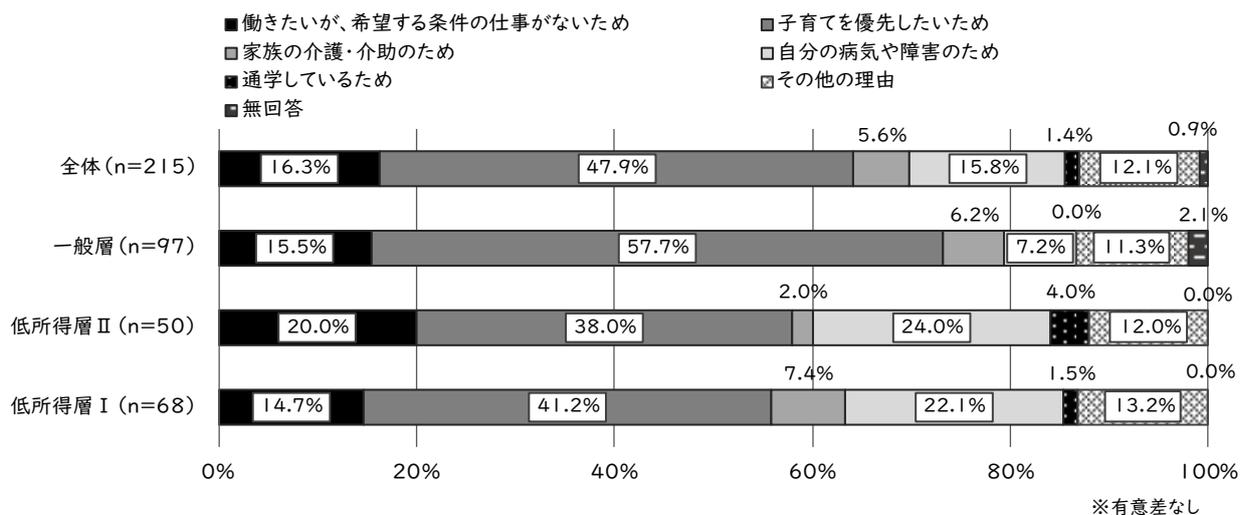
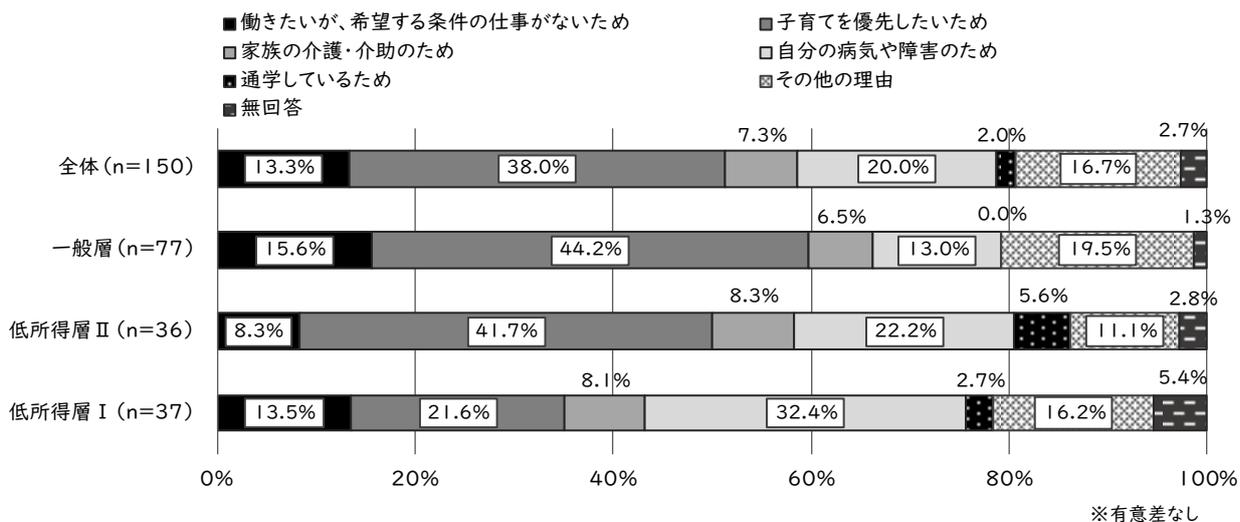


図1-4-3 【中2保護者／母親】働いていないもっとも主な理由を教えてください



5 父親の就労状況

図1-5-1から図1-5-3は、父親の就労状況について尋ねた結果を示しています（父親のいる世帯のみを対象に集計。本報告書の特集にて、2015年沖縄県調査との経年分析を行っています）。全体として、一般層では「正社員・正規職員・会社役員」として働く割合がもっとも高くなっていますが、低所得層ではその割合が顕著に低下し、代わりに「自営業（家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む）」や「働いていない（専業主夫を含む）」の割合が高くなっています。

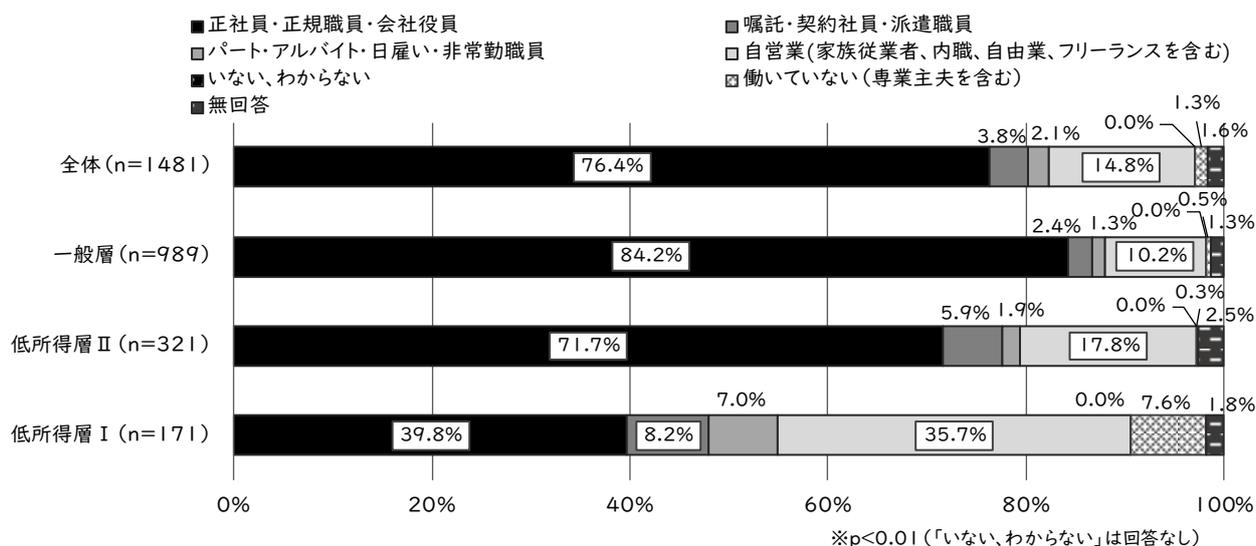
小学1年生（図1-5-1）の父親では、全体で「正社員・正規職員・会社役員」が76.4%を占めており、一般層では84.2%と他の所得階層に比べてもっとも高い割合です。しかし、低所得層Ⅱでは71.7%、低所得層Ⅰでは39.8%にまで減少しており、低所得層Ⅰでは「自営業」の割合が35.7%と顕著に高くなっています。

小学5年生（図1-5-2）の父親でも同様の傾向が見られます。「正社員・正規職員・会社役員」の割合は一般層で82.1%ですが、低所得層Ⅱで67.3%、低所得層Ⅰでは40.2%に減少しています。一方で、低所得層Ⅰでは「自営業」の割合が41.7%と特に高くなっています。

中学2年生（図1-5-3）の「正社員・正規職員・会社役員」の割合は全体で73.8%、一般層で83.0%と高くなっていますが、低所得層Ⅱで67.1%、低所得層Ⅰでは42.4%と大きく減少しています。また、低所得層Ⅰでは「自営業」の割合が34.5%に達しています。

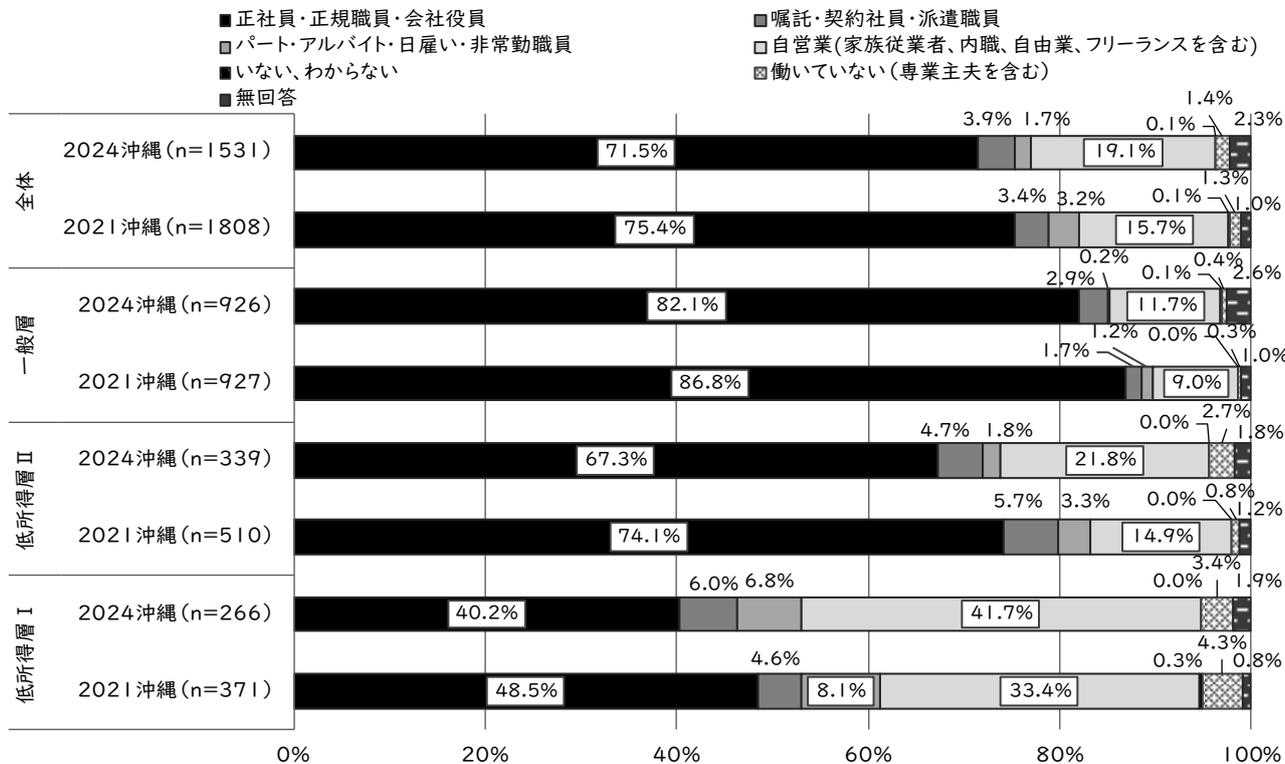
図1-5-2及び図1-5-3は、2021年沖縄県調査との比較が示されています。全体で見ると、中学2年生は大きな変化はないものの、小学5年生では「正社員・正規職員・会社役員」の割合が3.9ポイント減少しています。代わりに「自営業」の割合が3.4ポイント増加していることが確認されます。

図1-5-1 【小1保護者／父親】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



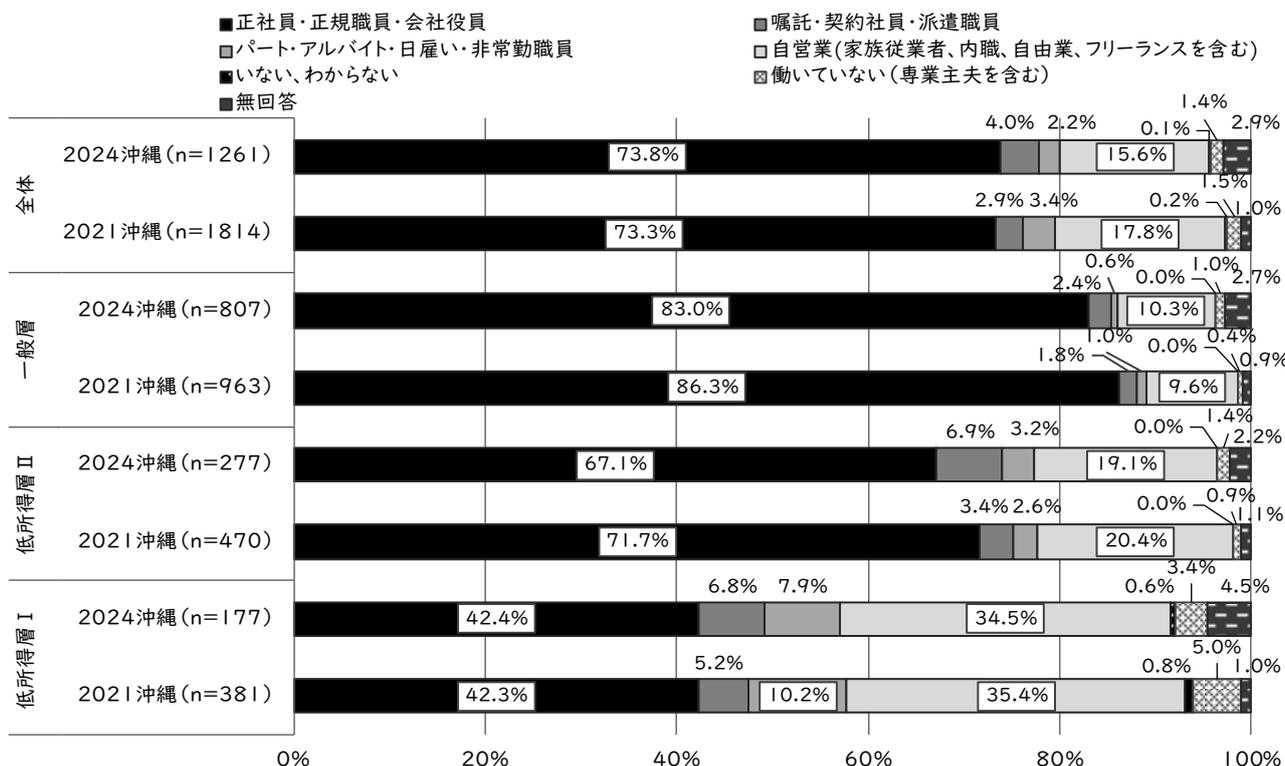
経年比較

図1-5-2 【小5保護者／父親】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



※「一般層」「低所得層II」「低所得層I」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

図1-5-3 【中2保護者／父親】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



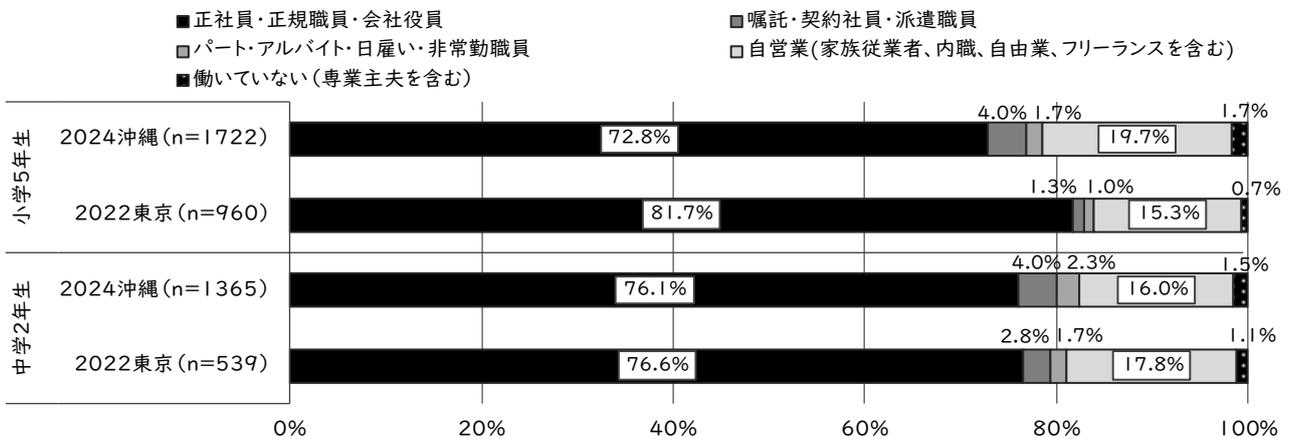
※「一般層」「低所得層II」「低所得層I」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

東京都調査との比較

図1-5-4は、小学5年生と中学2年生の父親の就労状況について、2024年沖縄県調査と2022年東京都調査を比較した結果を示しています（「いない、わからない」「無回答」を除いて算出）。

沖縄県では、中学2年生はわずかな差ですが、いずれの学年でも「正社員・正規職員・会社役員」の割合が東京都と比べて低く、小学5年生では東京都では81.7%であるのに対し、沖縄県が72.8%と8.9ポイントの差があります。また、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合は沖縄県が東京都を上回っています。

図1-5-4【小5・中2保護者／父親】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください



※2022年東京都調査の選択肢は、以下のように区分して集計した。

「会社役員」「民間企業の正社員」「公務員などの正職員」「団体職員」＝「正社員・正規職員・会社役員」

「自営業(家族従業者を含む)」「自由業」「その他の働き方をしている」「個人業務請負」＝「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)」

「専業主婦」「学生」「引退(退職)」「その他の無職」＝「働いていない(専業主夫を含む)」

6 父親の労働時間

図1-6-1から図1-6-3は、父親の1週間の平均労働時間を示したものです（父親のいる世帯、働いていると回答した父親を対象に集計）。全体として、低所得層では長時間労働が目立つ一方で、短時間労働の割合も増える傾向が見られます。また、労働時間の長さや所得の低さが併存する問題が浮き彫りとなっています。

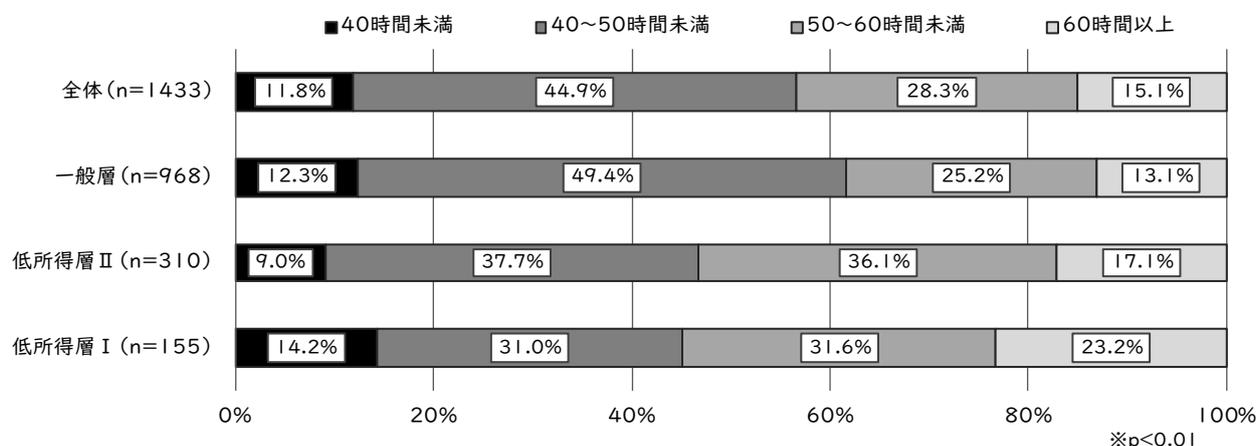
小学1年生（図1-6-1）の父親では、全体では「40～50 時間未満」の割合が全体で 44.9%と最も多く、一般層では 49.4%を占めています。しかし、低所得層Ⅱでは 37.7%、低所得層Ⅰでは 31.0%に減少し、「50～60 時間未満」の割合が低所得層Ⅱで 36.1%、低所得層Ⅰで 31.6%と増加しています。低所得層Ⅰでは、「40 時間未満」が 14.2%と他の所得階層と比べてもっとも高く、一方で、「60 時間以上」についても 23.2%と最も高い割合となっており、短時間労働と長時間労働が二極化しています。

小学5年生（図1-6-2）でも同様の傾向が見られ、「40～50 時間未満」の割合が全体で 40.9%、一般層で 45.3%を占める一方、低所得層Ⅱでは 38.3%、低所得層Ⅰでは 28.5%と減少しています。低所得層Ⅰでは、「40 時間未満」が 18.1%と他の所得階層に比べて高く、「60 時間以上」の割合は低所得層Ⅱで 17.4%、低所得層Ⅰで 16.9%と高くなっています。

中学2年生（図1-6-3）は、「40～50 時間未満」の割合が全体で 46.5%と最も多く、一般層で 49.2%を占めていますが、低所得層Ⅰでは 38.6%に減少しています。また、「60 時間以上」の長時間労働は低所得層Ⅱで 15.5%、低所得層Ⅰで 15.8%と、依然として高い割合を示しています。ただし、低所得層Ⅰの「60 時間以上」の割合は、2021 年沖縄県調査に比べると 3.7 ポイント減少しています。

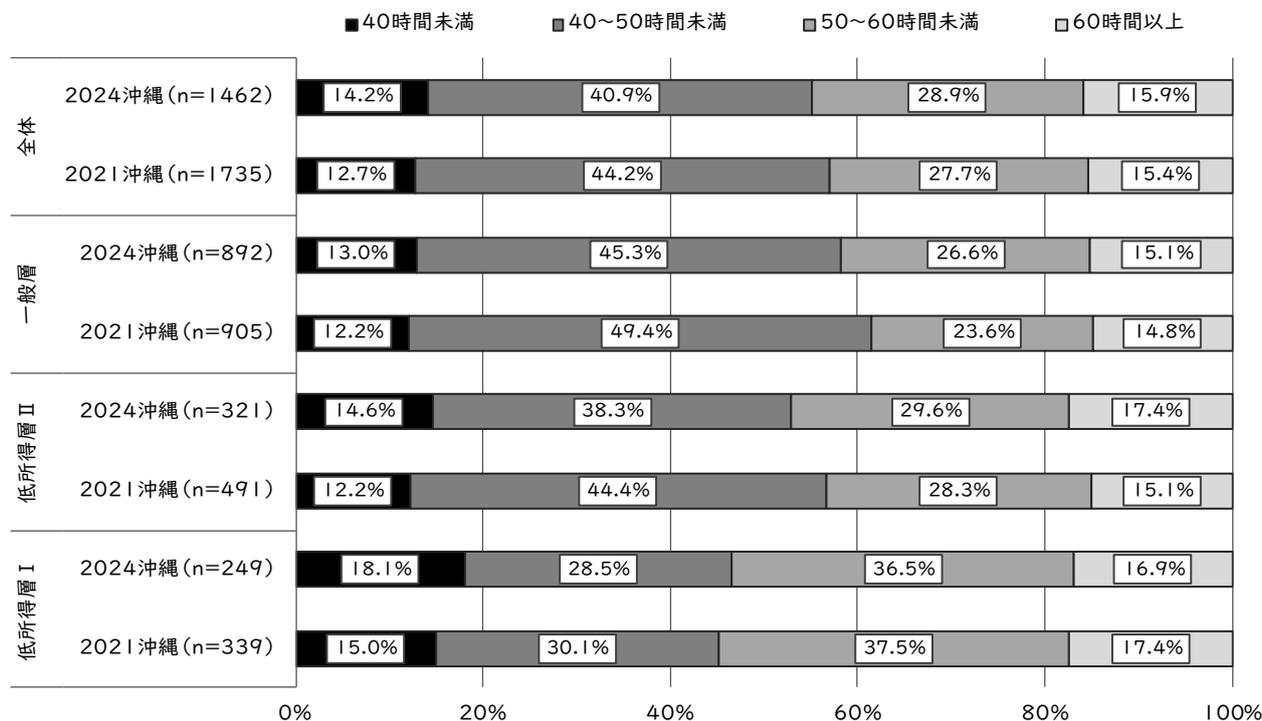
以上から、父親の労働時間は「40～50 時間未満」という標準的な労働時間が多くを占めますが、低所得層では、長時間労働と短時間労働の割合が高い点が特徴的です。短時間労働の低所得層の場合、不安定な収入、労働条件が理由となり、低所得状態となっていることが推測されます。一方で、長時間労働の低所得層は、別の問題となります。低所得層Ⅱでは「50～60 時間未満」が約 28～36%、「60 時間以上」が約 16～17%であり、低所得層Ⅰでは「50～60 時間未満」が約 30～37%、「60 時間以上」が約 16～23%に達します。長時間労働しているにもかかわらず低所得状態に置かれており、低賃金や不安定な雇用形態、自営業の不振などが主な理由と考えられます。

図1-6-1 【小1保護者／父親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



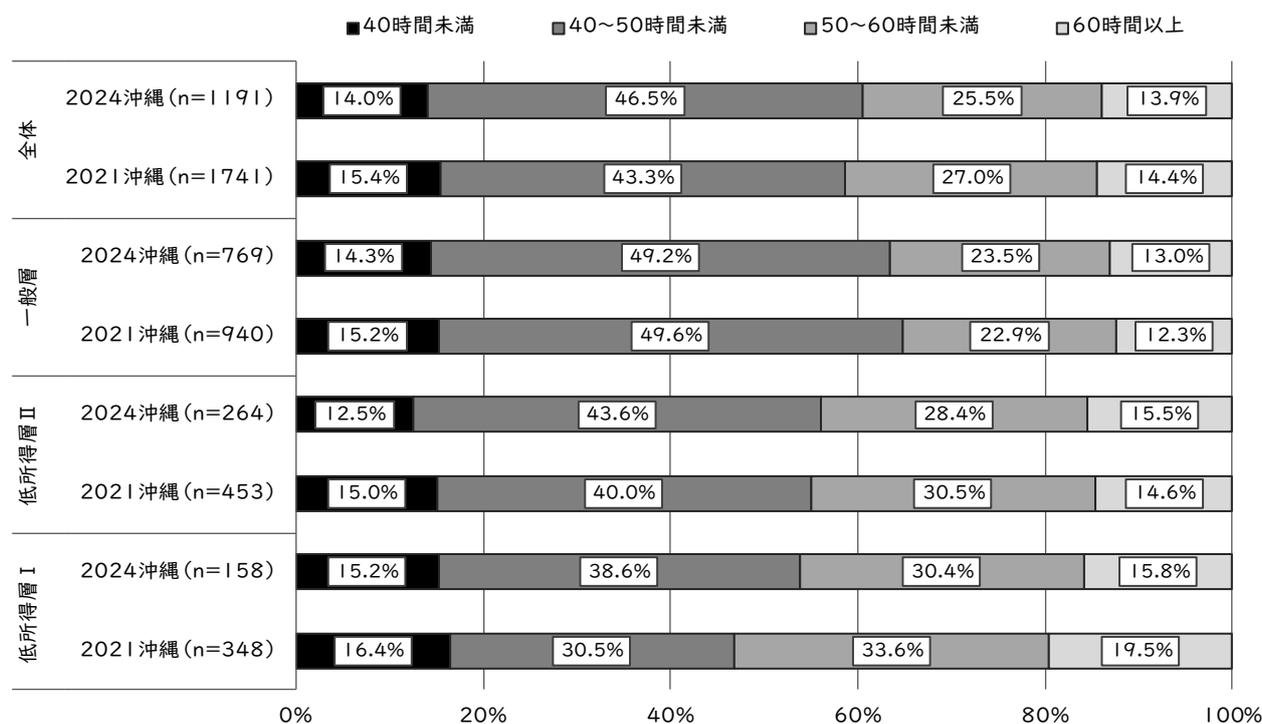
経年比較

図1-6-2 【小5保護者／父親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

図1-6-3 【中2保護者／父親】1週間の平均的な労働時間（残業時間を含む）



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年沖縄県調査は、 $p < 0.01$ 、2024年沖縄県調査は有意差なし

7 父親の就労収入

図1-7-1から図1-7-3では、父親が前年の同時期と比較して就労収入がどのように変化したかについて尋ねた結果を示しています（父親がいる世帯、働いていると回答した父親を対象に集計）。全体として、収入が「増えた」と回答した割合は一般層でもっとも高く、所得が低くなるほど減少する傾向が見られます。一方で、低所得層Ⅰでは「減った」と回答した割合が顕著に高く、就労収入の改善が限定的であることが示唆されます。

小学1年生（図1-7-1）の全体では、33.4%が「増えた」と回答しており、一般層では38.4%と他の所得階層と比べると高い割合を占めています。一方、低所得層Ⅱでは26.0%、低所得層Ⅰでは16.8%に減少しています。また、「減った」と回答した割合は低所得層Ⅰで23.2%に達し、他の所得階層と比較して顕著に高いことがわかります。

小学5年生（図1-7-2）の全体では、30.0%が「増えた」と回答していますが、一般層で36.1%、低所得層Ⅱで25.0%、低所得層Ⅰでは14.7%と、所得が低くなるほど減少しています。「減った」と回答した割合は、低所得層Ⅰで26.2%に上り、収入減少が特に深刻な問題となっています。

中学2年生（図1-7-3）は、収入が「増えた」と回答した割合は一般層で33.7%、低所得層Ⅱで24.3%、低所得層Ⅰでは9.9%と、低所得層Ⅰで顕著に低い水準にとどまっています。また、「減った」と回答した割合は低所得層Ⅰで29.0%に達しており、他の所得階層と比べて収入減少が目立ちます。

図1-7-1 【小1保護者／父親】 昨年の同時期と比べて、就労収入（月給、時給、事業所得等）に変化はありましたか

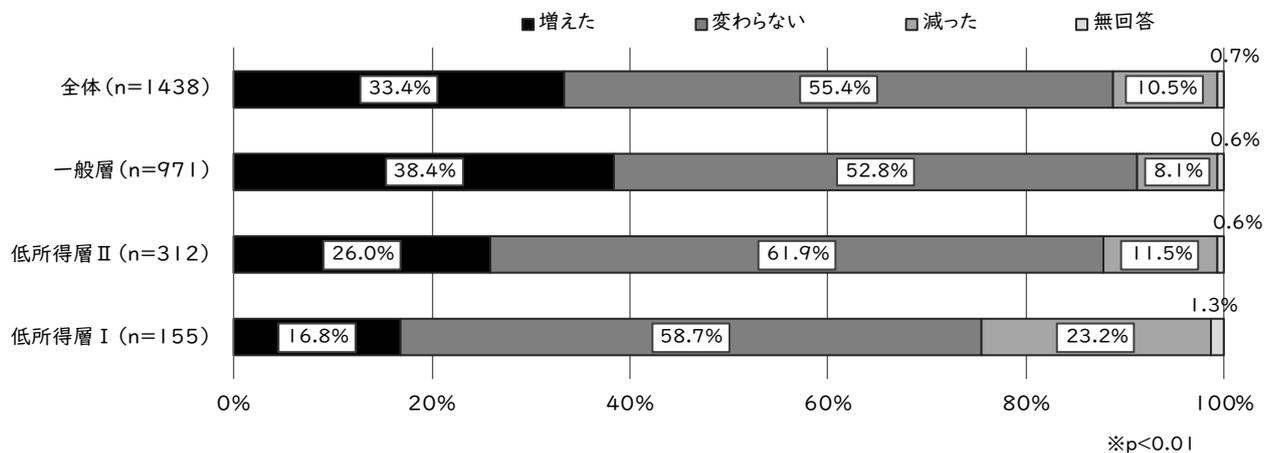


図1-7-2 【小5保護者／父親】 昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか

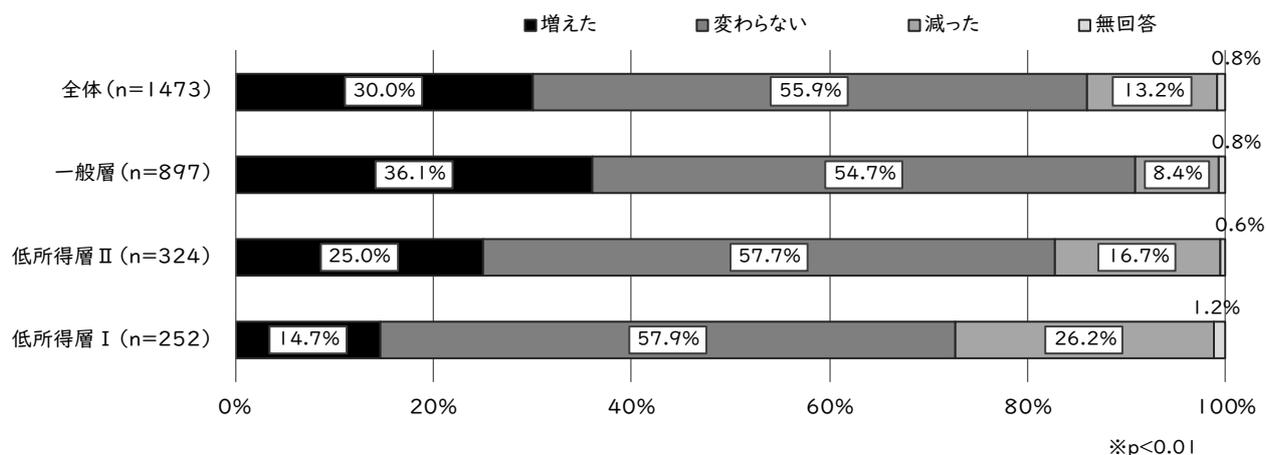
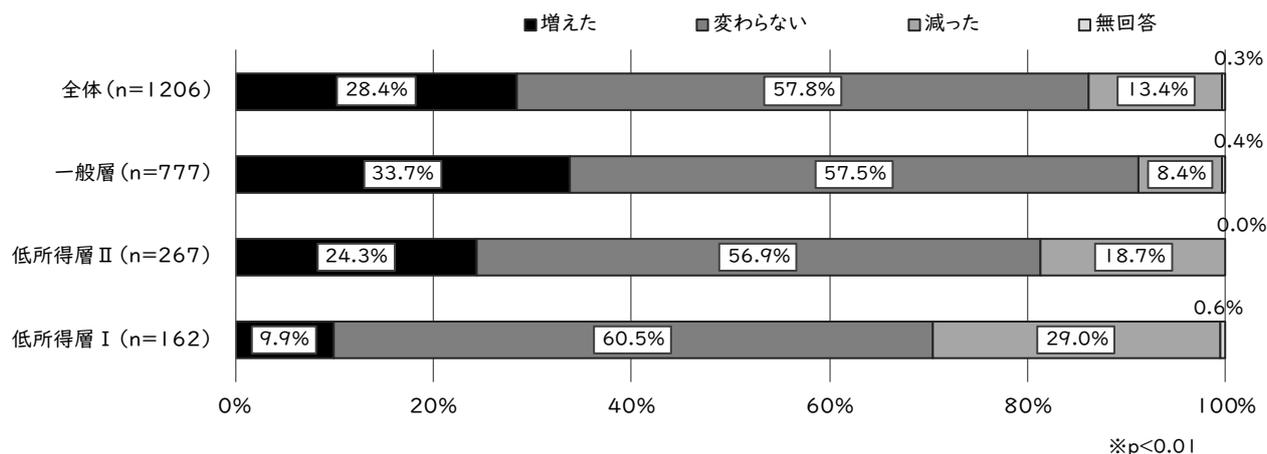


図1-7-3 【中2保護者／父親】 昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか



就労収入の変化 — 就業形態別

図1-7-4から図1-7-6は、父親の就業形態別における就労収入の変化を示しています（父親がいる世帯、働いていると回答した父親を対象に集計）。

いずれの学年においても、「正社員・正規職員・会社役員」では、「増えた」と回答した割合が約32～37%と他の就業形態と比べてもっとも高く、賃上げの恩恵をもっとも受けていることがわかります。また、「変わらない」が約55～60%と安定しており、「減った」は約8～10%と低い割合を示しています。

一方で、「嘱託・契約社員・派遣職員」では、「増えた」が約15～17%と比較的低い割合にとどまり、「変わらない」が約60～65%と高い安定性を示している一方で、「減った」の割合が約15～25%とやや高いことが特徴的です。

「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では、「増えた」が約11～28%と小学1年生を除いて他の就業形態よりも低く、収入増加が限定的であることが示されています。また、「減った」の割合が約22～43%と高い傾向にあり、不安定な雇用形態における収入減少の影響が顕著に表れています。

「自営業」では、「増えた」と回答した割合が約12～21%と低く、「変わらない」が約51～58%と安定している一方で、「減った」が約22～34%と高い割合を占めています。特に、「減った」が2～3割前後と一定の割合を占めており、自営業では物価や資材高騰の影響を強く受けている可能性が示唆されます。

図1-7-4 【小1保護者／父親】就業形態 × 就労収入（月給、時給、事業所得等）の変化

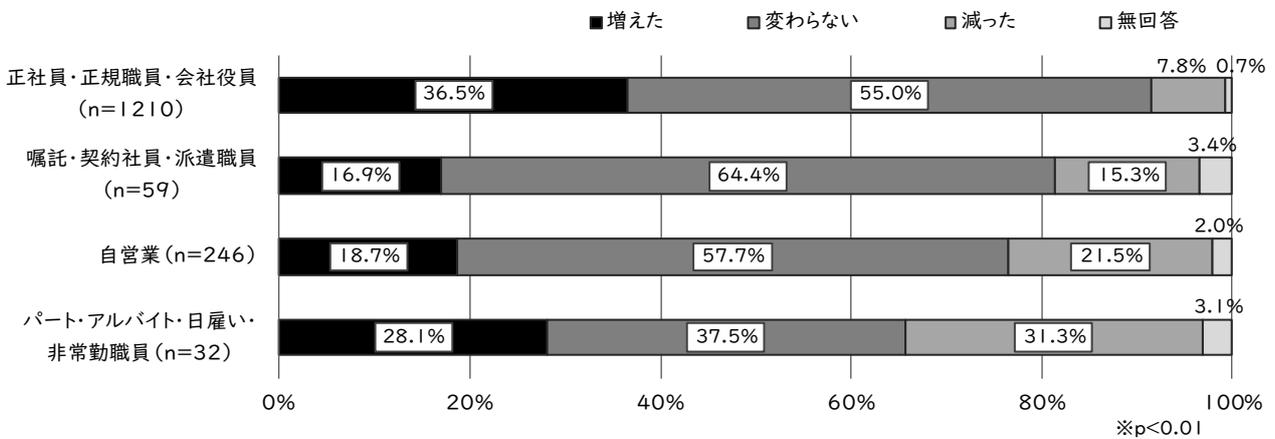


図1-7-5 【小5保護者／父親】就業形態 × 就労収入(月給、時給、事業所得等)の変化

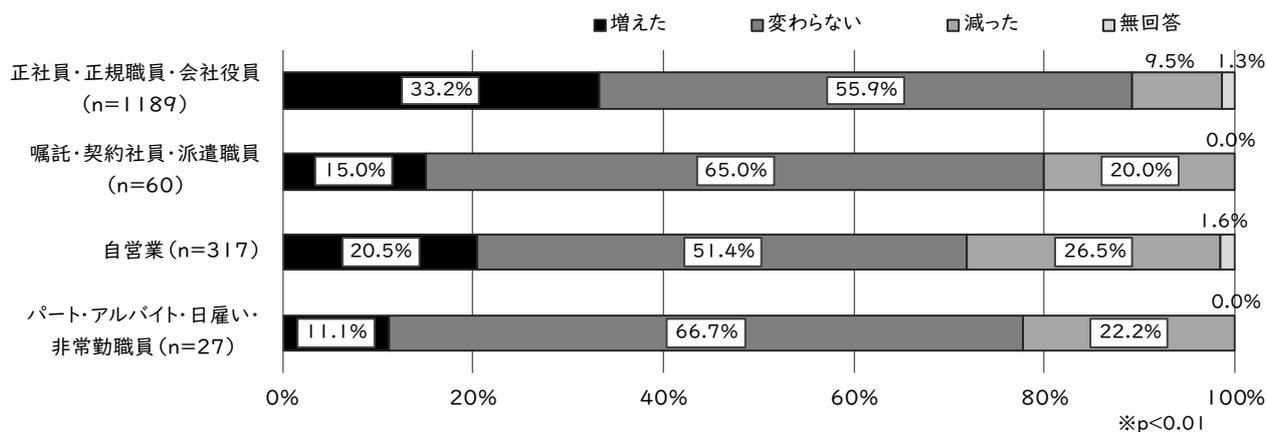
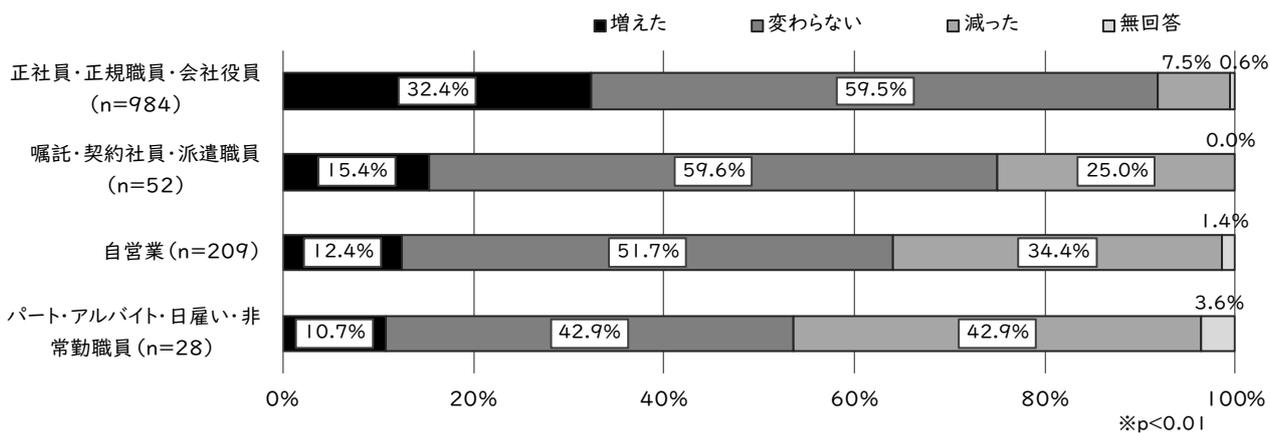


図1-7-6 【中2保護者／父親】就業形態 × 就労収入(月給、時給、事業所得等)の変化



就業形態 × 父親の収入

図1-7-7から図1-7-9では、父親の収入を2021年沖縄県調査と比較し、就業形態別の変化を示しています(父親がいる世帯、働いていると回答した父親を対象に集計)。

いずれの学年においても、「正社員・正規職員・会社役員」以外の就業形態では、年収「300万円未満」(「200万円未満」と「200~300万円未満」の合算、以下同)が大半を占めており、正規雇用であるかどうかで収入に大きな差があることがわかります。さらに「嘱託・契約社員・派遣職員」では3割前後、「自営業」では約3~4割、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では約7~8割が「200万円未満」であり、低収入が顕著です。

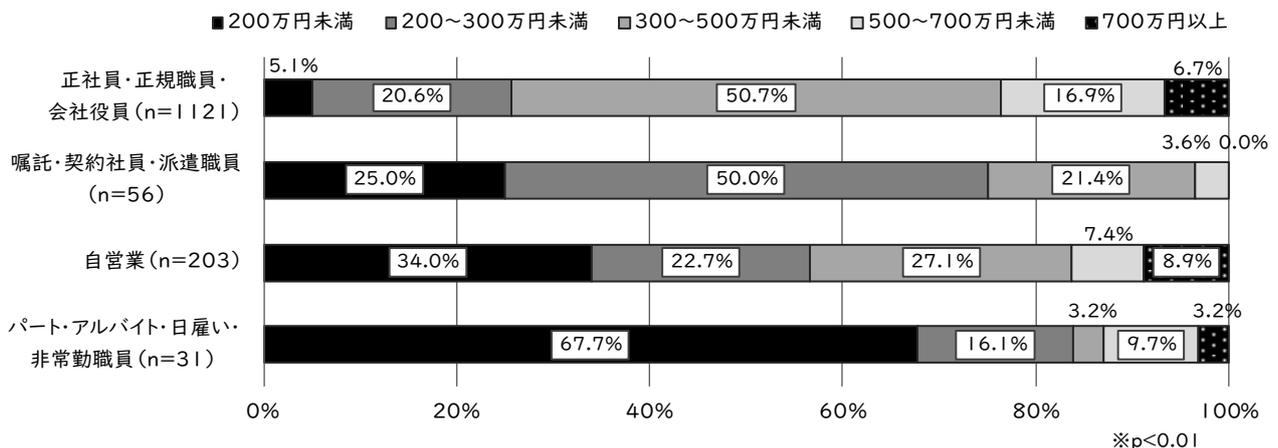
図1-7-8の小学5年生について、2021年沖縄県調査と2024年沖縄県調査を比べて「200万円未満」の割合がどう変化したかを見ると、「正社員・正規職員・会社役員」では9.7%から6.1%へ減少しています。また、「自営業」では45.9%から42.1%とやや減少していますが、「嘱託・契約社員・派遣職員」では29.0%から32.8%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では68.4%から76.0%と、むしろ低収入の割合が増加しています。

図1-7-9の中学2年生については、「200万円未満」の割合は全体的に減少しています。「正社員・正規職員・会社役員」で8.8%から6.6%へ、「嘱託・契約社員・派遣職員」で47.2%から32.0%へ減少しており、「自営業」でも44.6%から38.9%へ、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では80.0%から78.6%と減少幅が限定的ですが、いずれも減少しています。

これらの結果から、「300万円未満」の合算割合で見ると、小学5年生、中学2年生の双方において、いずれの就業形態でも減少しており、「300万円以上」の割合が増加していることから、賃上げの効果や就労収入の改善が感じられます。しかし、「正社員・正規職員・会社役員」で特に顕著に表れている一方で、「嘱託・契約社員・派遣職員」や「自営業」、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では低収入層が大多数を占め、収入改善が限定的と言えます。特に、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」における「200万円未満」の割合は依然としてもっとも高く、不安定な就業形態における収入格差がはっきりと見られます。

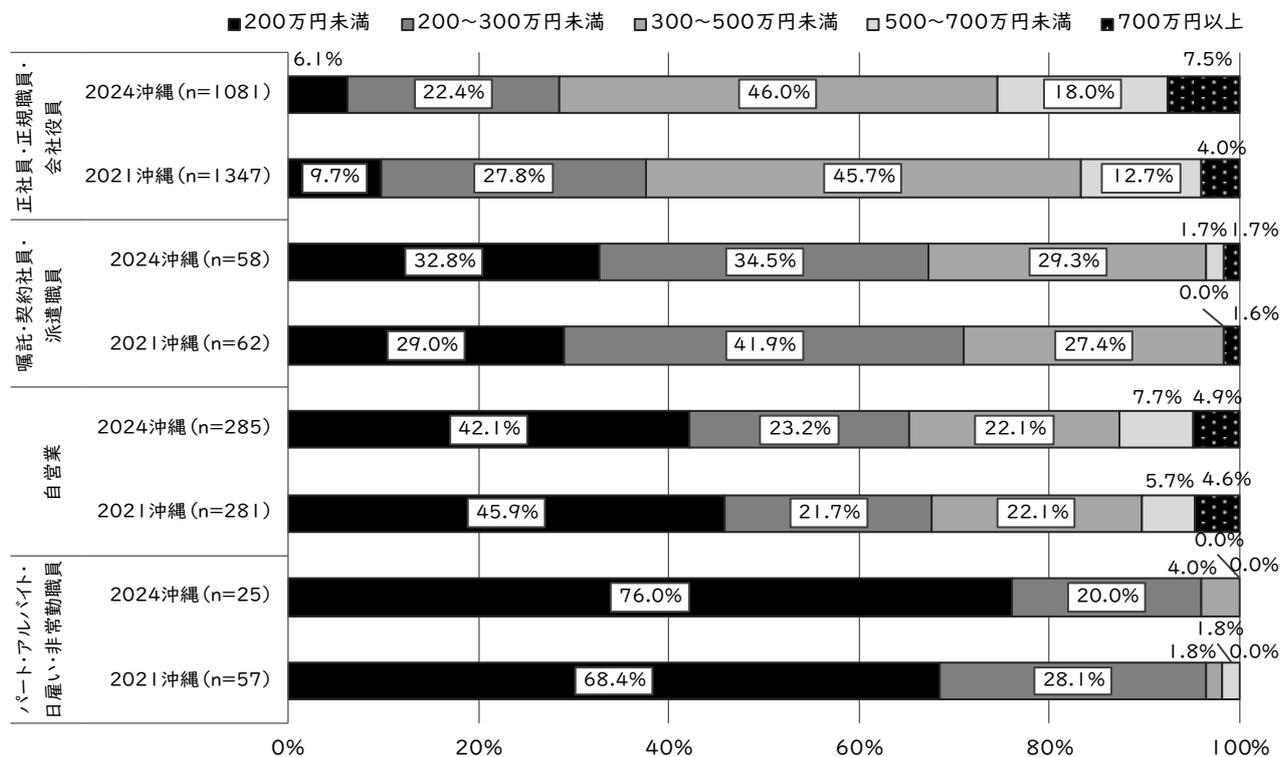
なお、「正社員・正規職員・会社役員」の収入について、「200万円未満」「200~300万円未満」は減少傾向にありますが、2024年時点でも合計26~29%程度の割合で占めていることは特徴的です。安定しているはずの就業形態でも、所得が300万円未満という正規雇用の低賃金構造は課題であると考えられます。

図1-7-7 【小1保護者／父親】父親の就業形態 × 父親の収入



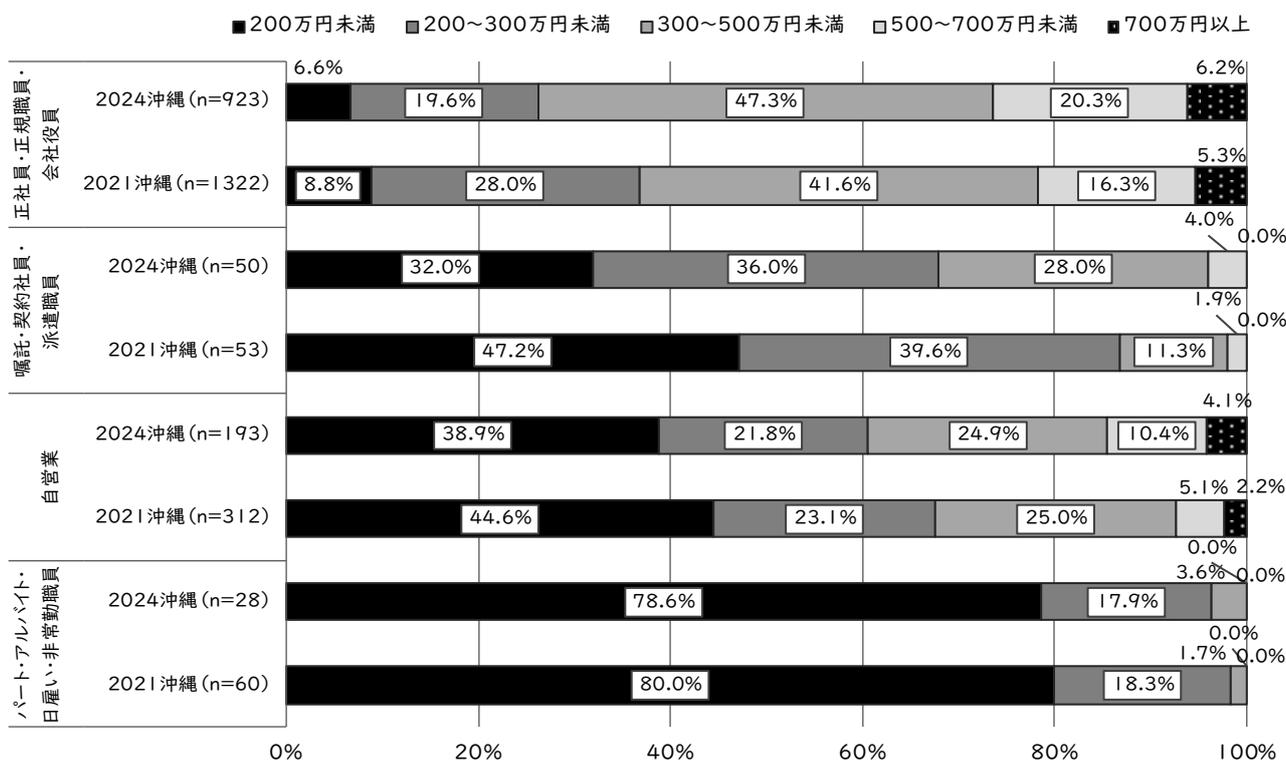
経年比較

図1-7-8 【小5保護者／父親】父親の就業形態 × 父親の収入



※「正社員・正規職員・会社役員」「嘱託・契約社員・派遣職員」「自営業」「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の4群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

図1-7-9 【中2保護者／父親】父親の就業形態 × 父親の収入



※「正社員・正規職員・会社役員」「嘱託・契約社員・派遣職員」「自営業」「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の4群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

母親・父親の学歴について分析しています。本報告書の特集にて、2015年沖縄県調査との経年比較を行っています。単純集計での分析になっているため、ここでは経済状況別での分析を行っています。

図1-8-1は、母親の最終学歴について尋ねた結果を示しています（母親がいる世帯のみを対象に集計。小学1年生、小学5年生、中学2年生を合算して算出）。一般層では「大学またはそれ以上」が3割を超え、「専門学校まで」「短大・高専まで」を合わせると76.8%に達します（「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の合計が22.8%）。一方、低所得層Ⅱでは「中学まで」「高校まで」を合わせて43.1%、低所得層Ⅰでは59.3%にまで増加します。6割近くが高校卒業以下の学歴であり、学歴に大きな格差が見られます。

図1-8-2は、父親の最終学歴について尋ねた結果を示しています（父親がいる世帯のみを対象に集計。小学1年生、小学5年生、中学2年生を合算して算出）。一般層では「大学またはそれ以上」が43.6%と最も多く、「専門学校まで」「短大・高専まで」を合わせると67.2%となります（「中学（中学部）まで」「高校（高等部）まで」の合計が32.5%）。低所得層Ⅰでは「高校まで」が43.3%、「中学まで」が20.4%を占め、6割以上が高校卒業以下となっています。これらの結果から、経済状況による学歴の差が大きいことが示されています。母親と同様に、所得階層によって学歴に大きな格差が見られます。

図1-8-1 【小1・小5・中2保護者／母親】お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）をお答えください

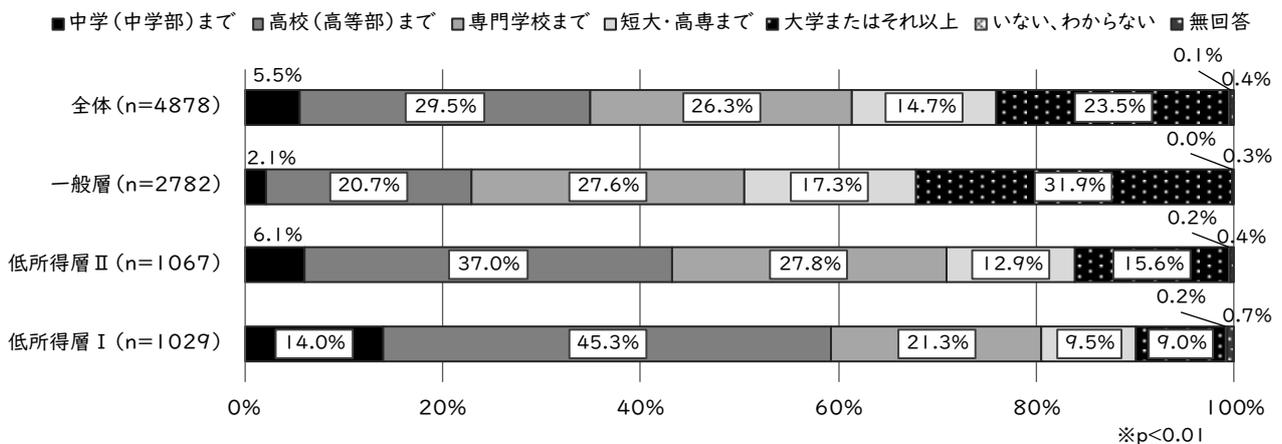
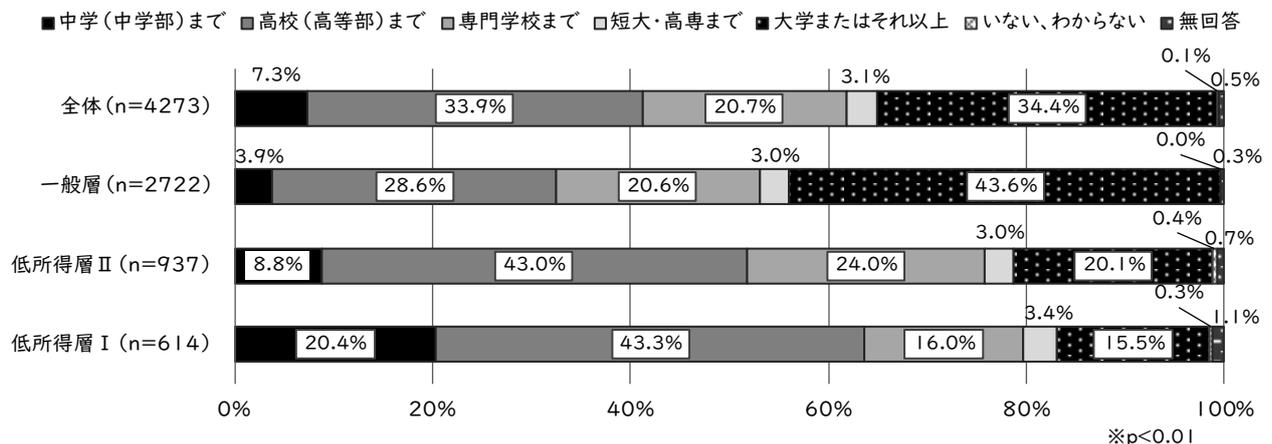


図1-8-2 【小1・小5・中2保護者／父親】お子さんの親の最終学歴（卒業した学校）をお答えください



第1章では、保護者の就労状況や収入、労働時間、学歴などについて、経済状況や就業形態の違いによる課題を見てきました。沖縄県の子育て世代の就労状況や所得の特徴として、父親の就労収入の低さ（低賃金）とそれを補う形で母親の就労率が高いことや、低賃金であることが挙げられます。ここでは今回の調査における子育て世代の保護者の就業形態や所得状況の特徴を確認し、加えて、ポストコロナ禍の2024年時点の賃上げの影響について考察します。

第1節の母親の就労状況では、全体では、「正社員・正規職員・会社役員」が約35～41%、次いで「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が約26～32%、「働いていない（専業主婦を含む）」が約10～12%となっており、こどもが小さい（小学1年生）時点から、多くの母親が就労に従事していることがわかります（小学1年生で「働いていない」は11.3%）。

一般層では「正社員・正規職員・会社役員」の割合がもっとも高い（約46～51%）一方で、低所得層では正規雇用の割合が低く、非正規雇用の割合が顕著に高いことが確認されました。また、2024年沖縄県調査では、2021年沖縄県調査に比べて、全体で「働いていない」割合が1.8～2.6ポイント低下していること、中学2年生の母親で正規雇用の割合が33.1%から39.9%に増加していることが確認されました。

2022年東京都調査と比べると、「働いていない」母親の割合が沖縄県は低く（6ポイント程度の差）、就労している母親の割合の高さが目立ちます。

第2節の母親の労働時間では、一般層に比べて低所得層Ⅰ・Ⅱの方が1週間の労働時間「30時間未満」の短時間労働の割合が高くなる一方で、「40～50時間未満」「50時間以上」の割合も3～4割程度確認されます。これは標準的な労働時間、あるいは長時間労働にもかかわらず不安定な就業形態や低賃金構造により低所得状態にあることを意味します。

第3節の母親の就労収入では、就業形態と収入の関係として、「正社員・正規職員・会社役員」、「嘱託・契約社員・派遣職員」、「自営業」、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の順に低賃金（200万円未満）の割合が増加していき、正規職員とそれ以外の就業形態で就労収入には大きな違いが出ます。なお、正規職員であるにもかかわらず200万円未満の割合が、約2割と一定数あることが特徴的です。一方、どの就業形態においても、2021年沖縄県調査に比べて、2024年沖縄県調査では収入状況は改善しており、賃上げ等の効果が確認されました。ただし、賃上げの恩恵は、低所得層よりも一般層で、就業形態別ではパート・アルバイト等や自営業よりも正規、契約社員等において強く確認されました。このことから、賃上げの効果が主に一般層、正規職員等の一部に集中しており、低所得層ではその効果は限定的なものにとどまっていると言えます。また、自営業については、前年度より収入が「減った」という回答が多く見られました。

第4節の母親の働いていない理由では、いずれの学年でも、「子育てを優先したいため」がもっとも多い理由ですが、こどもの年齢が上がるにつれて就労への障壁が緩和されることから、この回答は減少していきます。また、一般層に比べて低所得層Ⅰ・Ⅱの方が「自分の病気や障害のため」という健康問題を挙げる割合が増加しています。低所得と健康問題の関連が背景にあると考えられます。

第5節の父親の就労状況では、「正社員・正規職員・会社役員」が全体で約72～76%を占めています。一方で、低所得層ではその割合が大きく減少し、特に低所得層Ⅰでは約40～42%にとどまっています。代わりに、「自営業」の割合が低所得層Ⅰで約35～42%と顕著に高くなっており、自営業の割合が一般層

に比べて著しく高いことが確認されました。2021年沖縄県調査との比較では、大きな変化は確認されませんでした。また、2022年東京都調査とも就業形態の割合に大きな変化は確認されません（ただし、小学5年生の父親において、正規就業の割合に約9ポイントの差がありました）。

第6節の父親の労働時間では、「40～50 時間未満」という標準的な労働時間が多くを占めますが、低所得層では長時間労働の世帯と、短時間労働の世帯の二極化が見られます。低所得層Ⅰでは「40 時間未満」の割合が約 14～18%と短時間労働が多い一方で、「50～60 時間未満」や「60 時間以上」の長時間労働も5割前後の割合を占めています。このことから、低所得層の父親には短時間労働で収入が不安定な世帯と、長時間労働にもかかわらず低所得状態にある世帯が混在していることがわかります。

第7節の父親の就労収入では、「正社員・正規職員・会社役員」以外の就業形態では、年収「300 万円未満」が大半を占めており、就業形態の違いによる収入格差が顕著です。しかし、正規職員の場合でも、3割弱程度の割合で、「300 万円未満」が見られます。第5節の 2022 年東京都調査との比較で見たように、就業形態の割合では、沖縄県と東京都には大きな違いはありませんが、就業形態が安定しているはずの正規職員の低賃金構造という点が沖縄県の課題であることがわかります。

収入が「増えた」と回答した割合は一般層で約 34～38%と高い一方で、低所得層では「増えた」の割合が低く、特に低所得層Ⅰでは約 10～17%にとどまりました。逆に、「減った」と回答した割合は低所得層Ⅰで約 23～29%と顕著に高く、収入の減少が大きな問題となっています。また、就業形態と収入の関係では、「正社員・正規職員・会社役員」がもっとも賃上げの恩恵を受けやすく、「増えた」と回答した割合が約 32～37%に達しました。一方、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」では「減った」と回答した割合が約 22～43%と非常に高く、「自営業」でも、約 22～34%となっています。不安定な就業形態における収入減少が大きな課題であることが確認されました。

第8節の学歴に関する分析では、母親・父親ともに、所得階層による学歴格差が顕著であることが確認されました。一般層では大学卒業以上の割合が高い一方で、低所得層では「高校（高等部）まで」や「中学（中学部）まで」が多数を占めており、教育環境や進学機会の不平等が課題として浮き彫りになっています。

以上から、まず沖縄県の子育て世代の保護者の傾向として、父親（男性）の低賃金構造が挙げられます。就業形態において東京都調査との間で顕著な違いが見られない一方で、低賃金が低収入状況への大きな要因となっています。代表的なのが正規職の場合です。「正規職員」かつ「200 万円未満」が 5～7%程度、「300 万円未満」の場合、25.7～28.5%と全体の4分の1程度の割合になります。これを補う形で、沖縄県においては母親（女性）の就労率が高い傾向にあります。しかし、非正規等といった不安定で低賃金の就業形態での就労が多く、共働き世帯であっても低所得という状況も多いと推察されます。

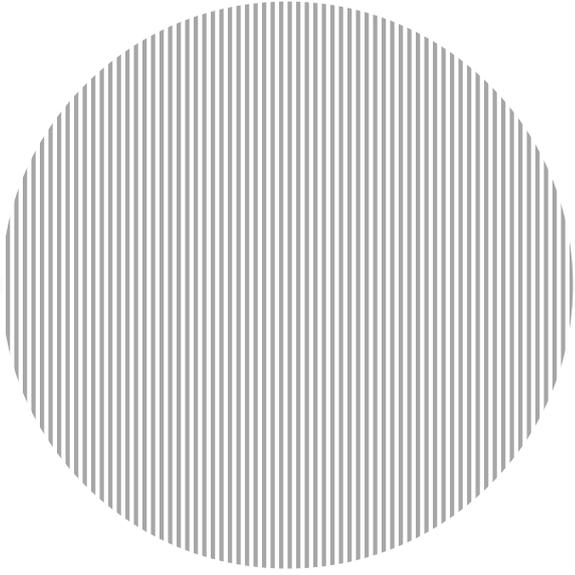
この状況を改善するうえで望まれるのが賃上げです。厚生労働省の「令和6年賃金引上げ等の実態に関する調査」によれば平均賃金の改定額は、2023 年度 3.2%、2024 年度は 4.1%と 1999 年以降最高を更新しています。また、最低賃金についても沖縄県は 2023 年 10 月に 853 円から 896 円へ、2024 年 10 月にはさらに 952 円（6.3%の引き上げ）となりました。2023 年からの賃上げ傾向の影響は、調査結果からも垣間見え、昨年同時期に比べて就労収入が「増えた」とした回答が、母親・父親ともに3割程度見られました。

しかしながら、この賃上げについても就業形態と所得階層の違いがはっきりと表れています。賃上げは、正規職員等が中心であり、パート・アルバイトや自営業においては、その多くで正規職員等に比べて「増えた」の割合は小さく、「減った」の割合が大きい傾向にあります。また、賃上げの恩恵は、一般層では大きく見られますが、所得が低くなるほど小さくなります。

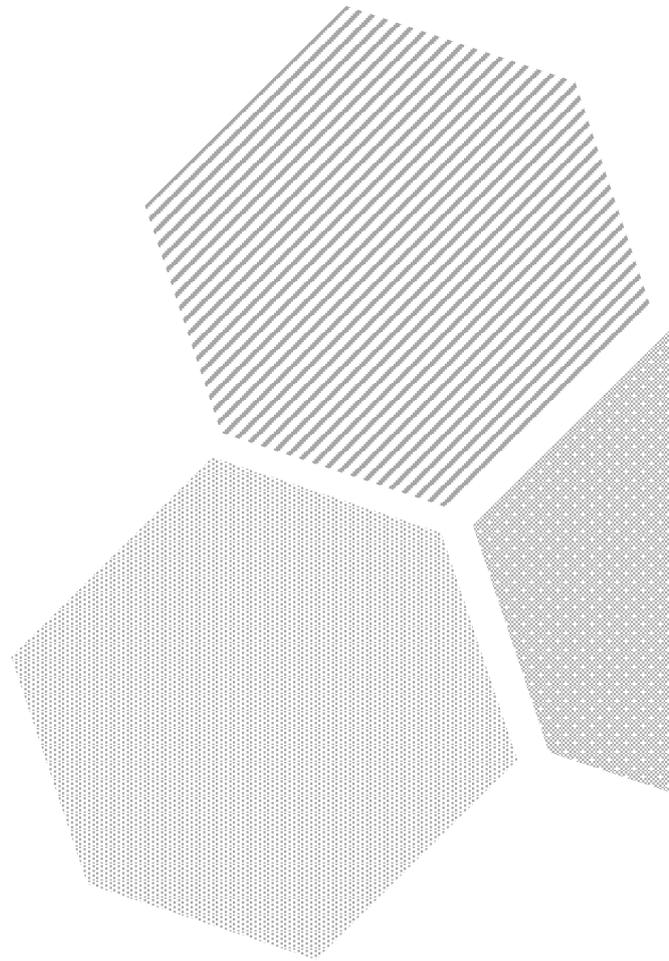
また、本報告書の第4章等で見るとおり、賃上げによる就労収入の増加以上に、物価高騰による支出の

増加によって家計は悪化しており、生活困窮感は増幅していることが新たな課題となっています。

本調査において、不安定な就業形態、低収入、長時間労働が、保護者と家庭の生活を制約する主な要因となっていることが明らかになりました。一方で、正規雇用への移行や就労収入増加など、部分的な改善も見られましたが、これらの変化が低所得層にまで十分に波及していない点が課題として残されています。



第 2 章 学校・学習状況



学校での学習

「学校の授業がわからないことがありますか」と尋ねたところ、小学5年生（図2-1-1）において、「いつもわかる」が一般層 17.7%、低所得層Ⅱ 12.7%、低所得層Ⅰ 9.3%、「だいたいわかる」がそれぞれ 44.2%、41.5%、37.1%と低くなっていきます。

また、中学2年生（図2-1-2）においても、「いつもわかる」が一般層 10.0%、低所得層Ⅱ 5.9%、低所得層Ⅰ 4.8%、「だいたいわかる」がそれぞれ 41.4%、36.0%、32.4%と低くなっていきます。

図2-1-3の2021年沖縄県調査との比較においては、大きな差は見られませんでした。

図2-1-1 【小5児童】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか

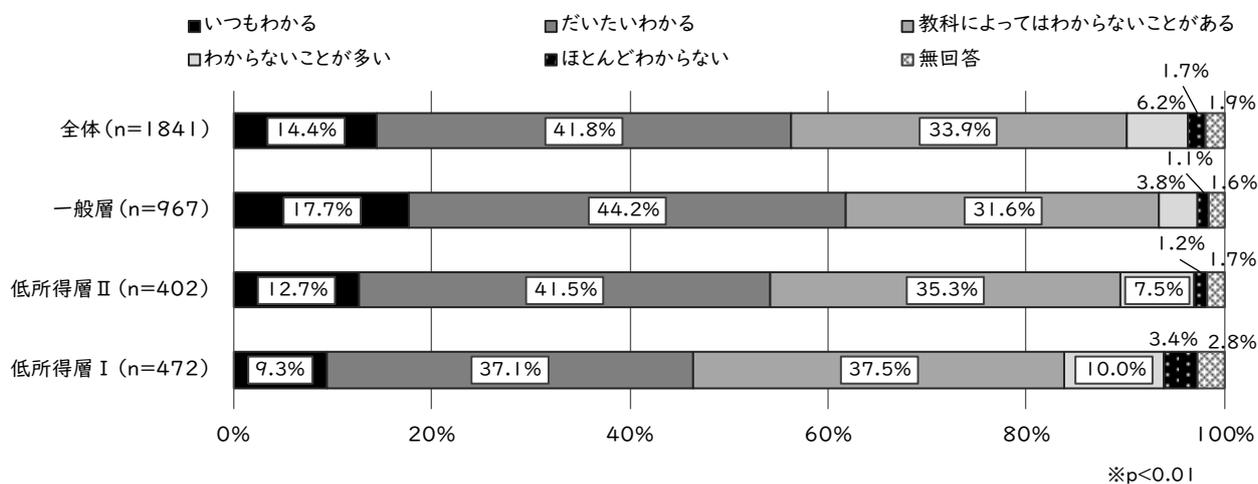
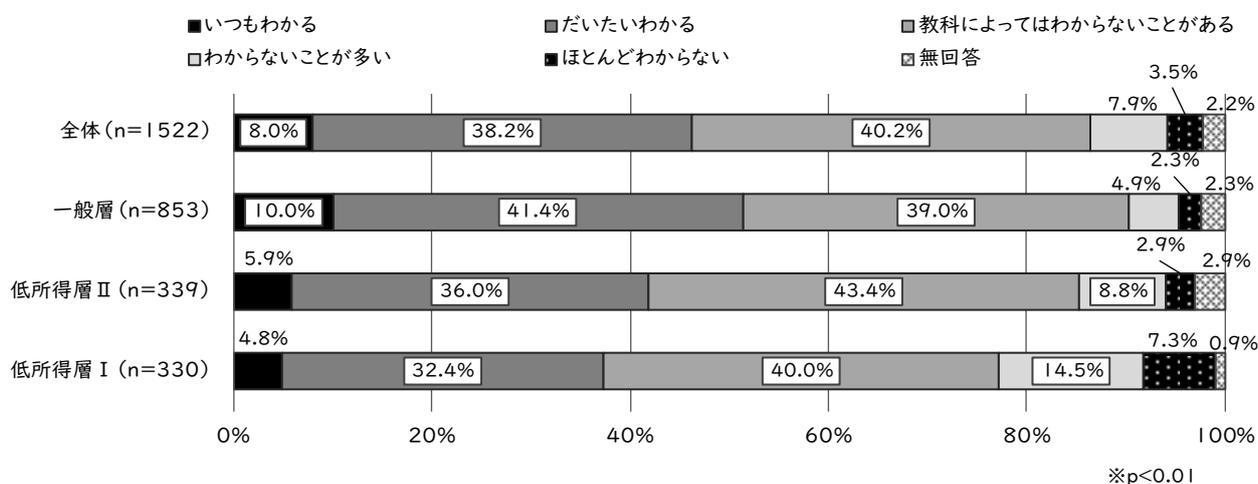
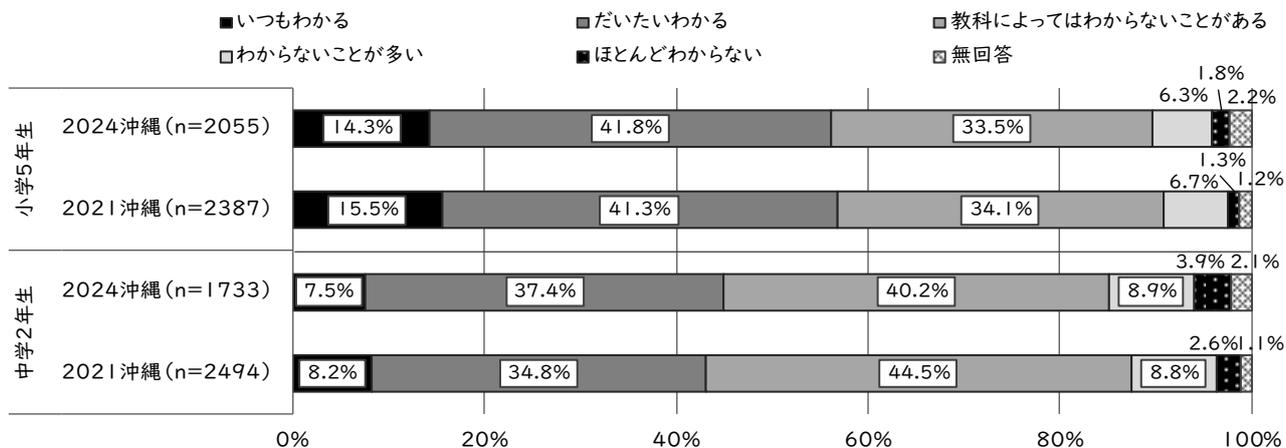


図2-1-2 【中2生徒】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか



経年比較

図2-1-3 【小5児童・中2生徒】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか



いつからわからないか

学校の授業が「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」と回答した児童・生徒に、授業がわからなくなった時期について尋ねました。

小学5年生(図2-1-4)においては、全体として「小学3・4年生のころ」が53.4%、続いて「小学5年生になってから」が36.4%になっています。一般層では「小学1・2年生のころ」が7.1%だったのに対し、低所得層Iでは10.8%となっています。

中学2年生(図2-1-5)においては、全体として「中学1年生のころ」が49.2%、続いて「中学2年生になってから」が22.0%になっています。中学生になる前にわからなくなった割合は、一般層では24.6%だったのに対し、低所得層Iでは32.3%となり、所得の低い方が小学生のうちからわからなくなる傾向が見られます。

図2-1-4 【小5児童】いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか

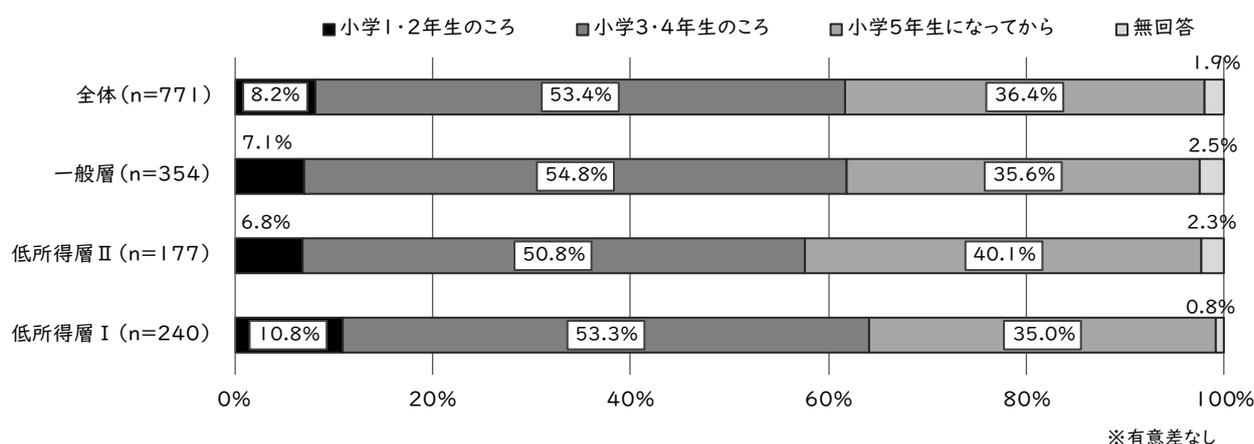
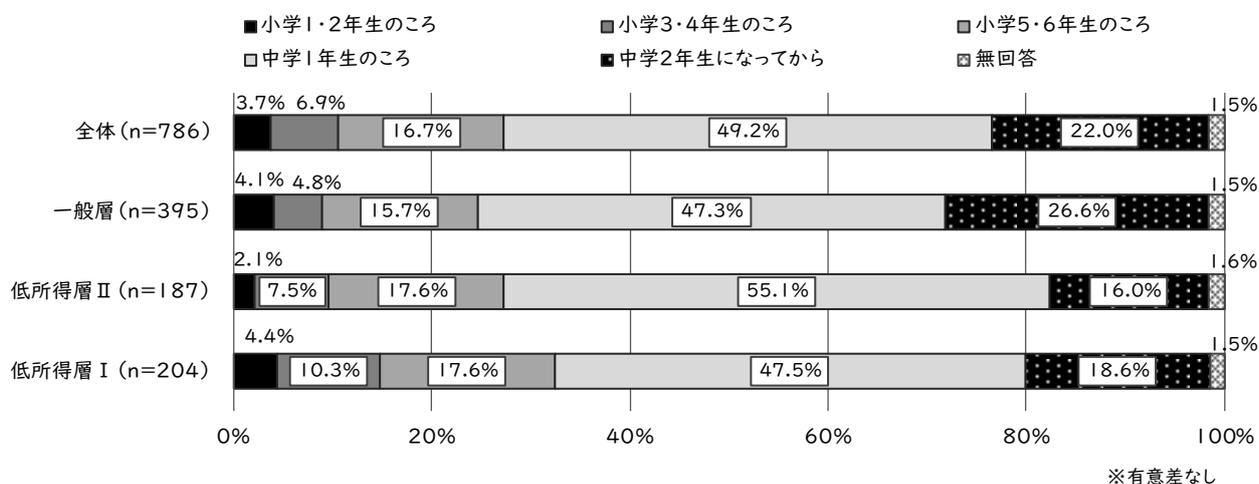


図2-1-5 【中2生徒】いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか



クラスの中の成績

「あなたの成績は、クラスの中でどれくらいだと思いますか」という問いに対し、小学5年生（図2-1-6）では、一般層においては「上のほう」が13.2%、「やや上のほう」が20.4%であるのに対し、低所得層Ⅱではそれぞれ8.2%と16.2%、低所得層Ⅰでは7.2%と15.5%と、所得が低いほど成績がよいと感じる割合が低くなる傾向にあります。

中学2年生（図2-1-7）においても、一般層では「上のほう」が15.1%、「やや上のほう」が22.0%であるのに対し、低所得層Ⅱではそれぞれ8.3%と17.1%、低所得層Ⅰでは7.0%と12.1%となり、小学5年生と同様の傾向が見られました。

図2-1-6 【小5児童】あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか

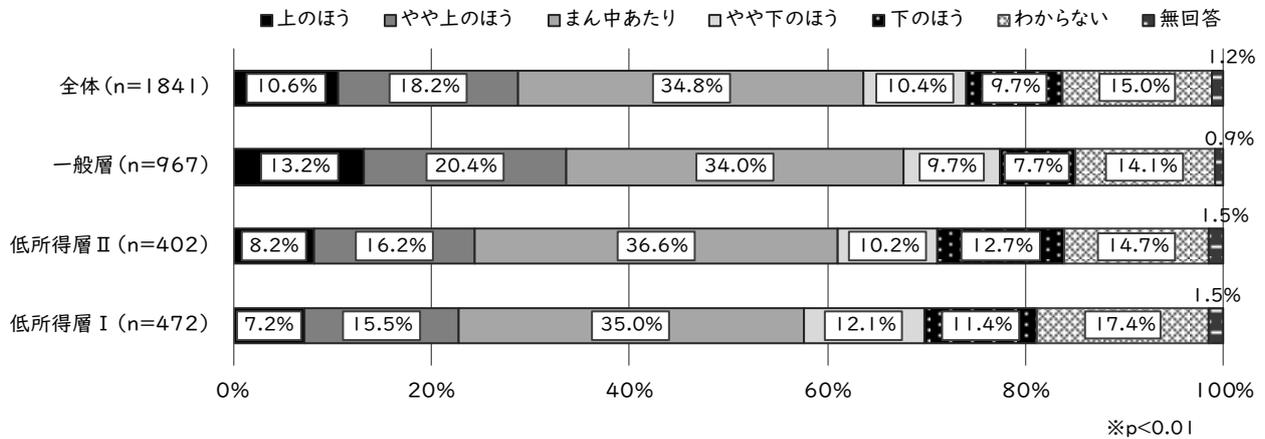
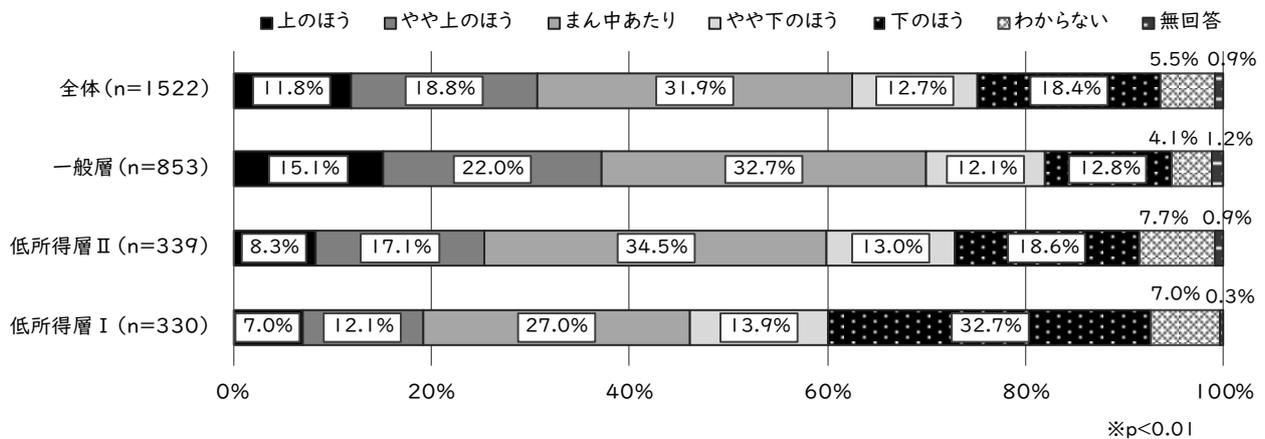


図2-1-7 【中2生徒】あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか

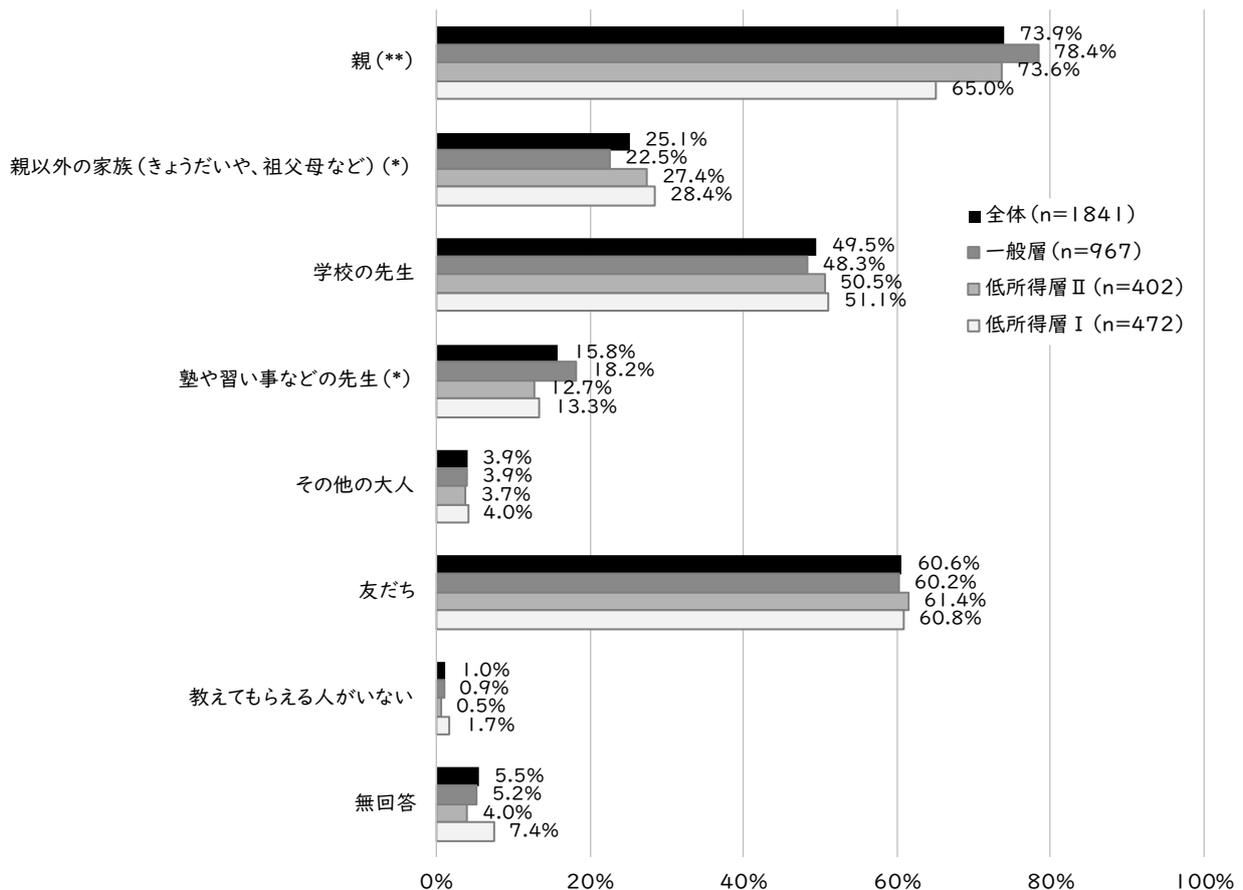


「勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか」という問に対し、小学5年生（図2-1-8）では、「親」が一般層 78.4%、低所得層Ⅱ 73.6%、低所得層Ⅰ 65.0%と低くなっていきます。一方、「親以外の家族（きょうだいや、祖父母など）」が一般層 22.5%、低所得層Ⅱ 27.4%、低所得層Ⅰ 28.4%と高くなる傾向にあります。また、中学2年生（図2-1-9）においても、「親」が一般層 45.5%、低所得層Ⅱ 34.5%、低所得層Ⅰ 25.8%と低くなっていきます。

「塾や習い事などの先生」は、小学5年生で一般層 18.2%、低所得層Ⅱ 12.7%、低所得層Ⅰ 13.3%となり、中学2年生では一般層 31.1%、低所得層Ⅱ 26.5%、低所得層Ⅰ 20.0%となり、経済状況による差が見られます。

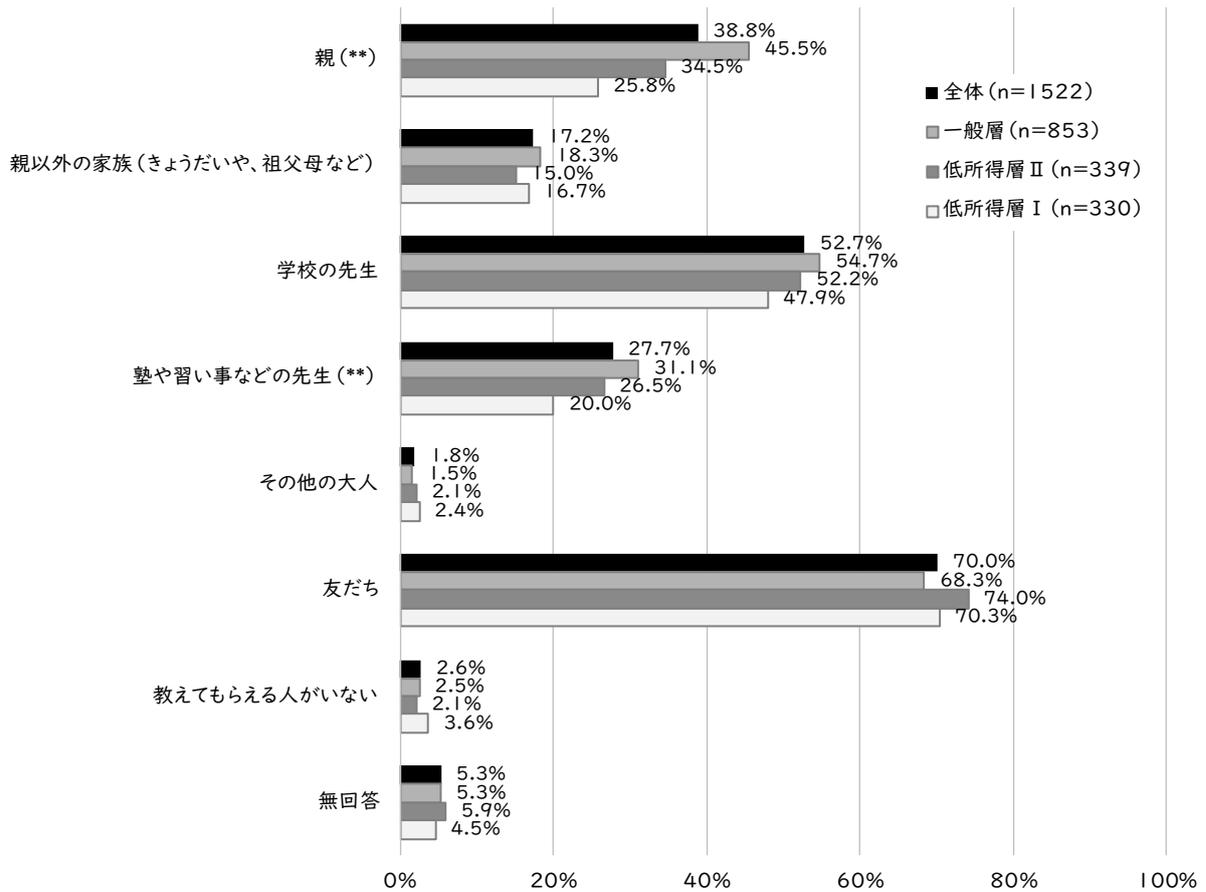
また、2022年東京都調査と比較すると、「塾や習い事などの先生」の選択率が小学5年生（図2-1-10）で東京都 39.6%、沖縄県 15.7%、中学2年生（図2-1-11）で東京都 52.5%、沖縄県 28.5%とその差が顕著に表れています。

図2-1-8 【小5児童】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか（複数選択）



※(**)は、p<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

図2-1-9【中2生徒】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか(複数選択)



※(**)は、 $p<0.01$ 、(*)は $p<0.05$ 、記載がないものは有意差なし

東京都調査との比較

図2-1-10【小5児童】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか(複数選択)

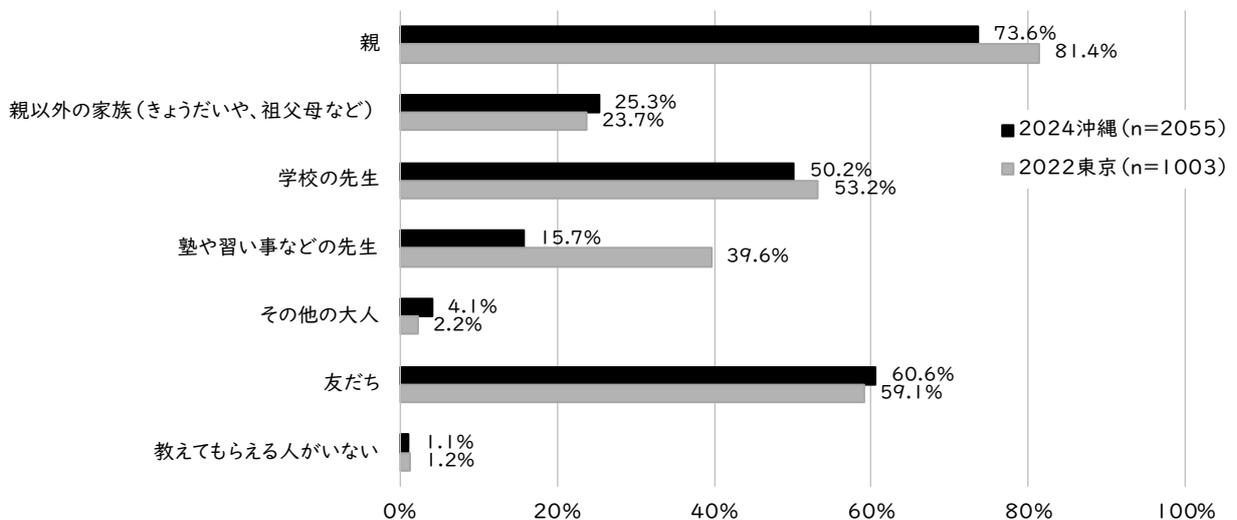
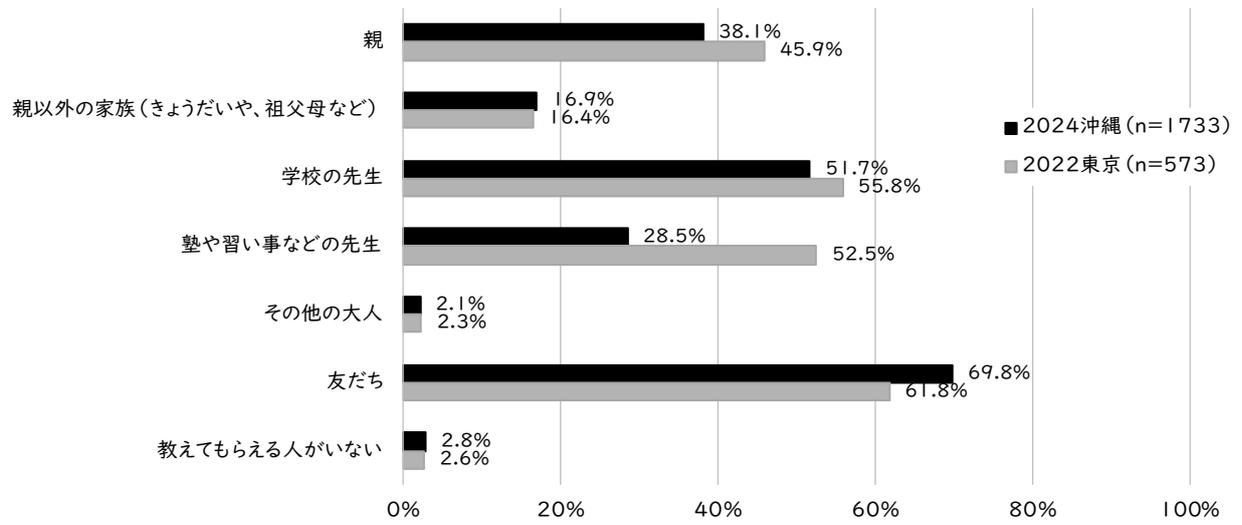


図2-1-11 【中2生徒】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか(複数選択)



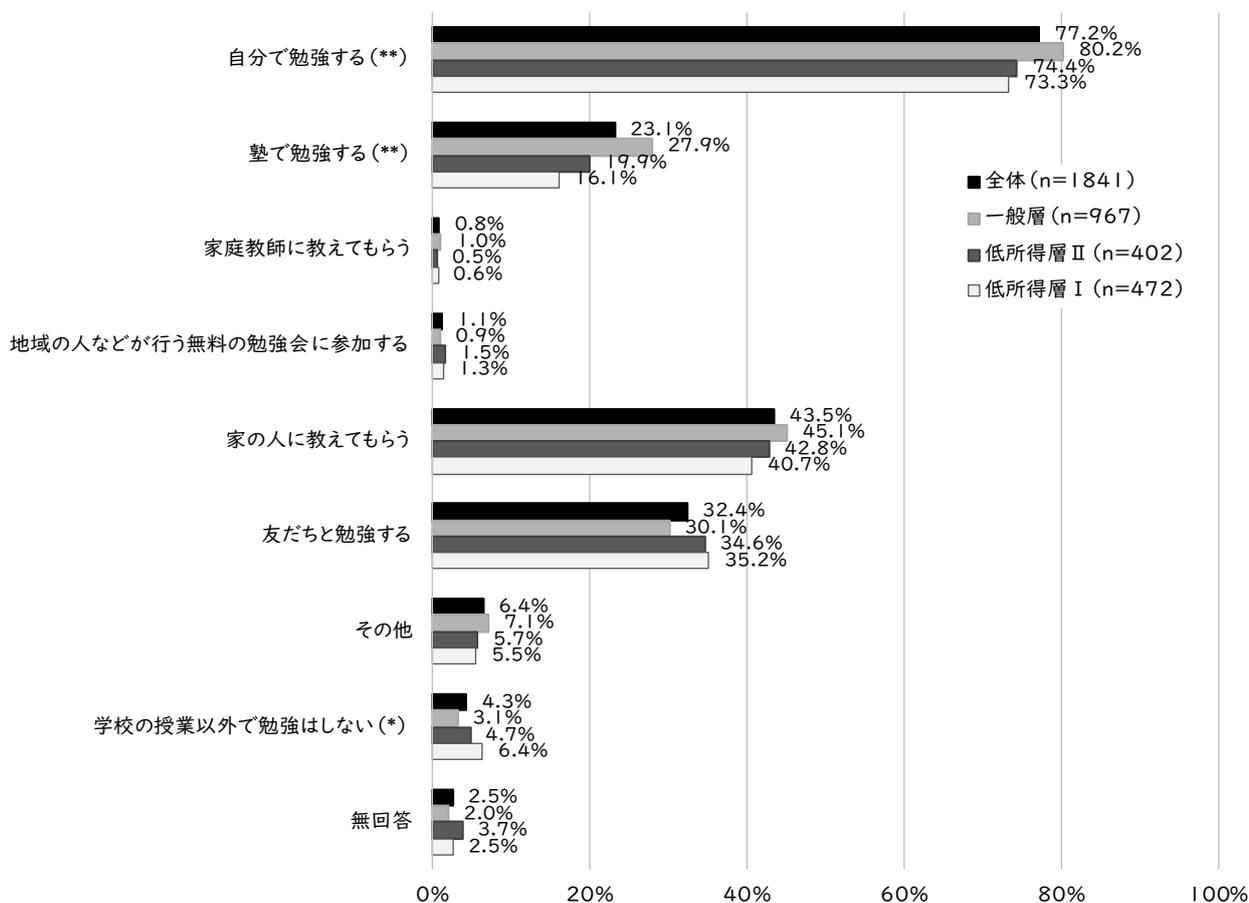
2 学校以外での学習状況

「あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか」という問について、小学5年生（図2-2-1）では、「自分で勉強する」が一般層の80.2%に対して、低所得層Ⅱ74.4%、低所得層Ⅰ73.3%と低くなっています。また、「塾で勉強する」も一般層の27.9%に対して、低所得層Ⅱ19.9%、低所得層Ⅰ16.1%と低くなっています。一方、「学校の授業以外で勉強はしない」は一般層の3.1%に対して、低所得層Ⅱ4.7%、低所得層Ⅰ6.4%と高くなる傾向が見られます。

中学2年生（図2-2-2）では、「自分で勉強する」が一般層の67.3%に対して、低所得層Ⅱ63.4%、低所得層Ⅰ55.8%と低くなっています。「塾で勉強する」にも同様の傾向が見られます。また、「家の人に教えてもらう」が一般層で23.3%であるのに対して、低所得層Ⅱ21.2%、低所得層Ⅰ14.2%と低くなっています。一方、小学5年生と同様に、「学校の授業以外で勉強はしない」は一般層の10.7%に対して、低所得層Ⅰは約2倍の21.5%となっています。

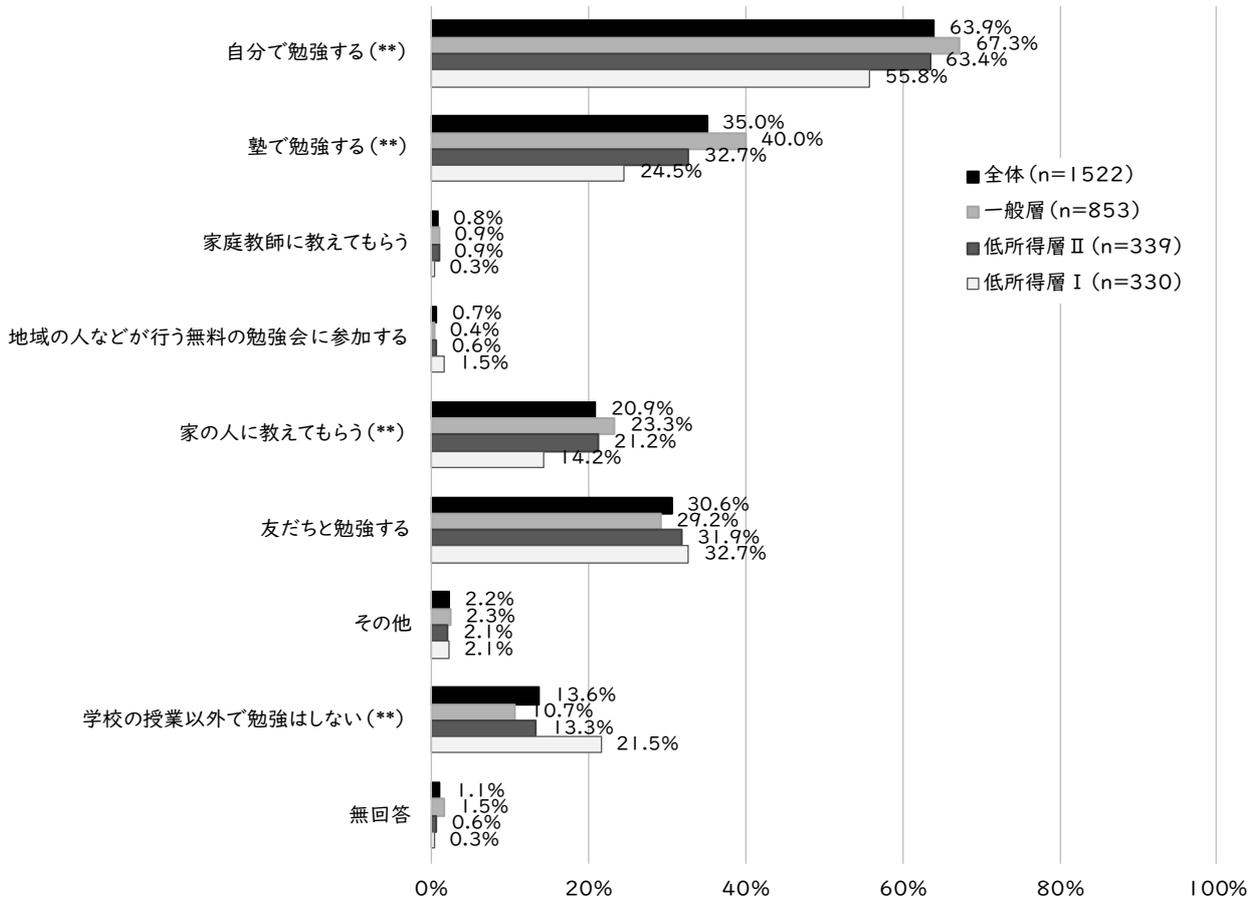
2021年沖縄県調査と比較したところ、小学5年生（図2-2-3）では「家の人に教えてもらう」が2.6ポイント減少しています。中学2年生（図2-2-4）では「自分で勉強する」が8.8ポイント減り、「友だちと勉強する」と「学校の授業以外で勉強はしない」がいずれも4.4ポイント増加しています。

図2-2-1 【小5児童】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか（複数選択）



※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

図2-2-2【中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか(複数選択)



※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

経年比較

図2-2-3 【小5児童】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか（複数選択）

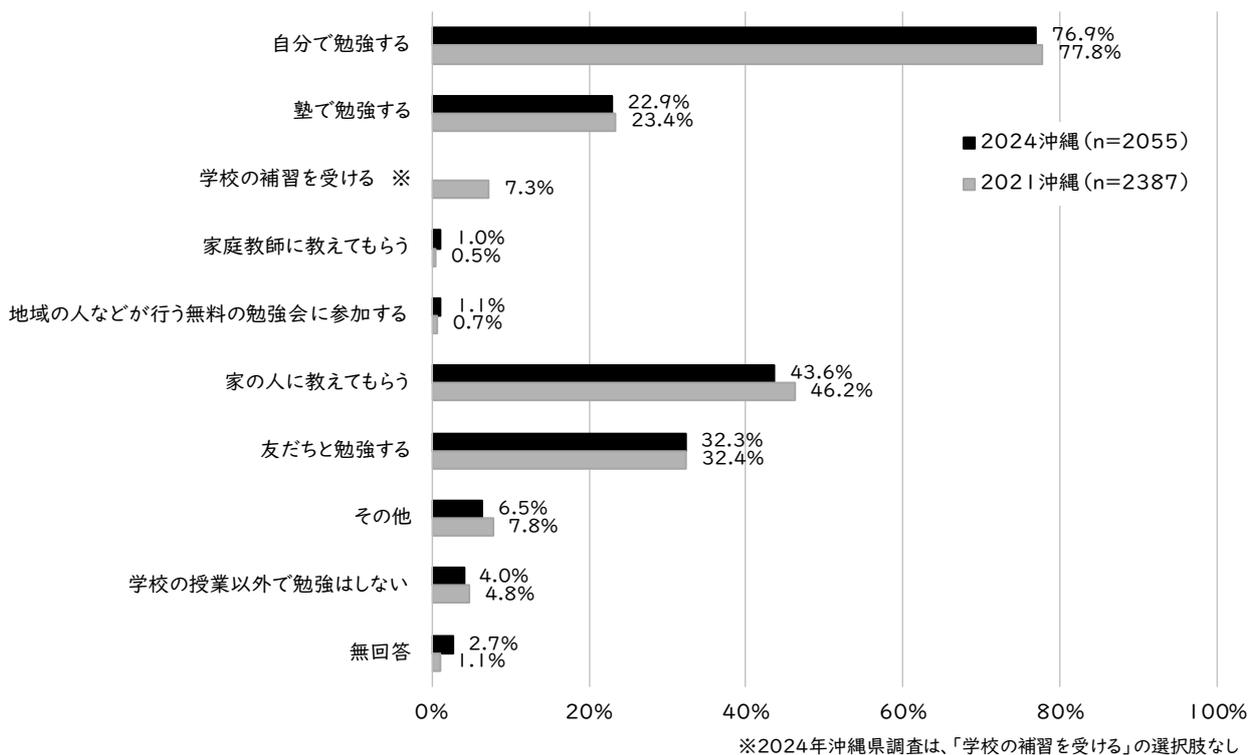
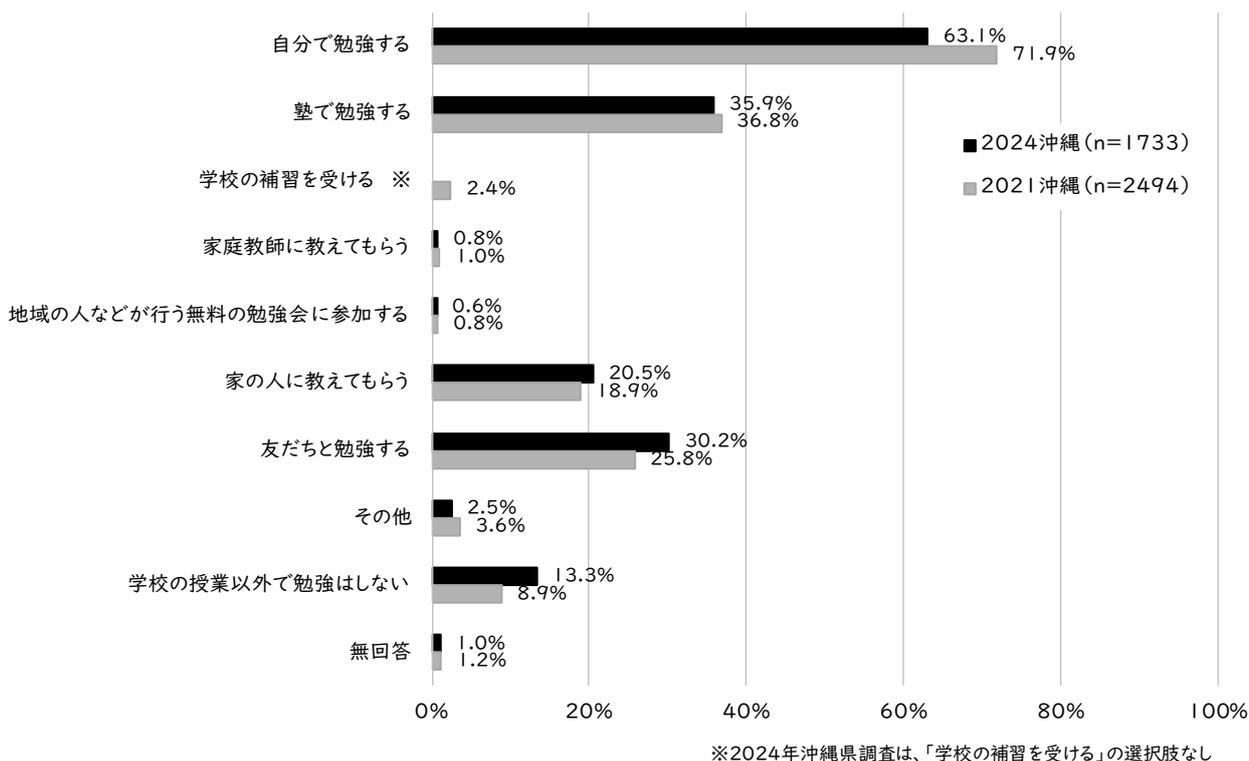


図2-2-4 【中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか（複数選択）



学校の授業以外の勉強時間 — 学校がある日

学校の授業以外の勉強時間（学校がある日）について尋ねたところ、小学5年生（図2-2-5）では経済状況別の差はなく、全体的に「30分以上、1時間より少ない」が38.2%と最も多く、続いて「30分より少ない」が25.8%となっています。中学2年生（図2-2-6）では、経済状況別での差が見られ、「まったくしない」と答えた生徒は一般層で16.8%、低所得層Ⅱ22.1%、低所得層Ⅰ28.2%と、所得の低い世帯ほど高くなっていきます。

2015年、2021年沖縄県調査との比較では（図2-2-7）、小学5年生において「まったくしない」「30分より少ない」と回答した児童は、2015年で13.1%、2021年で18.2%、2024年で28.5%と増加しています。中学2年生においても同様に、2015年で27.8%、2021年で30.9%、2024年で44.5%と大幅に増加しています。特に、中学2年生の2割が「まったくしない」と回答しています。

2022年東京都調査との比較では（図2-2-8）、小学5年生において「2時間以上、3時間より少ない」「3時間以上」と回答した児童は、沖縄県が10.1%であるのに対し、東京都は約3倍の30.6%となっています。中学2年生においては「まったくしない」と回答した生徒は、東京都が8.7%であるのに対し、沖縄県は2倍以上の20.0%となっています。

図2-2-5 【小5児童】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか
— 学校がある日（月～金曜日） —

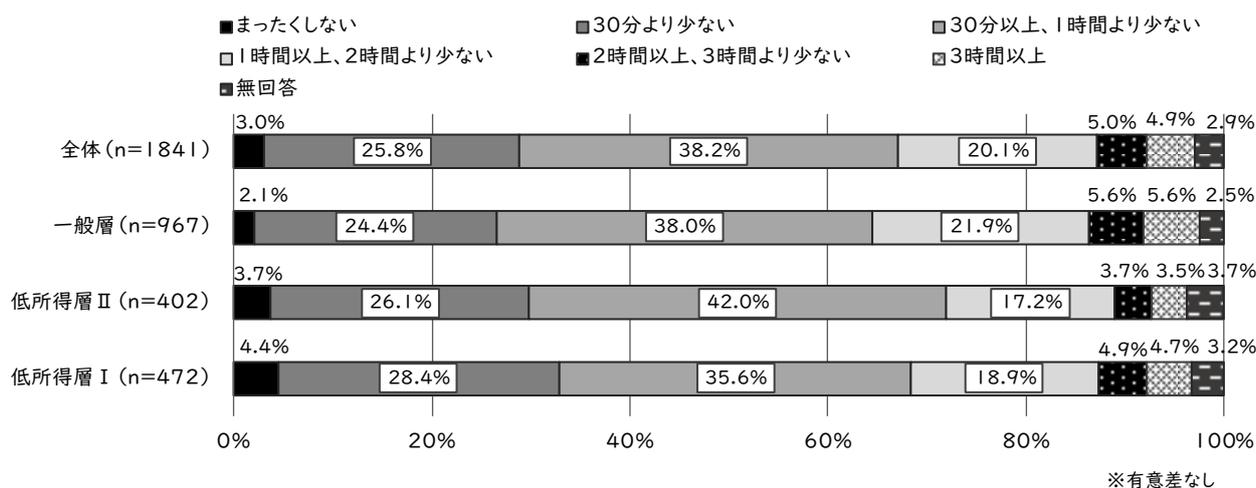
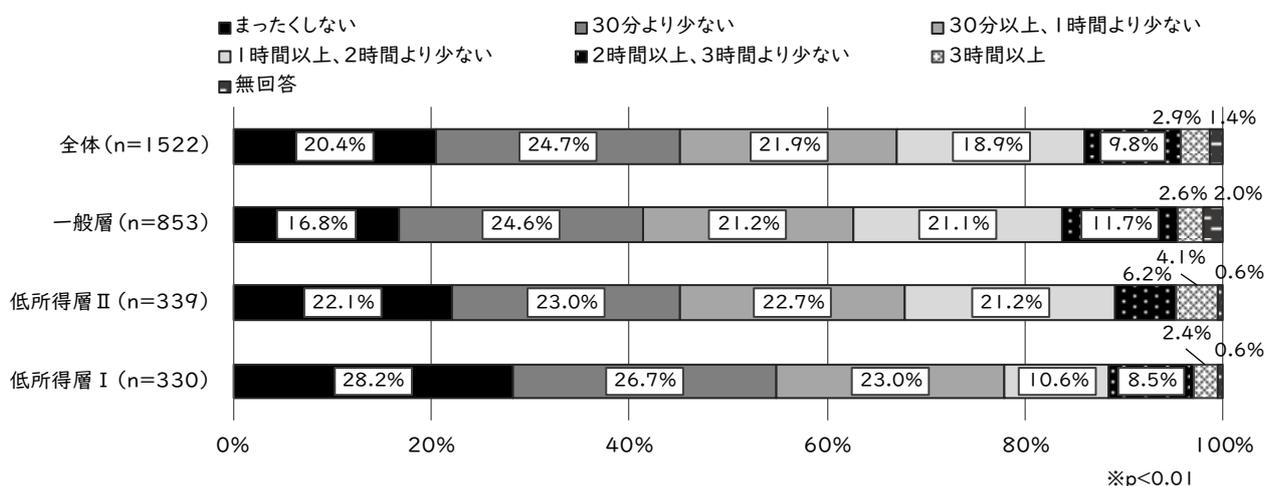
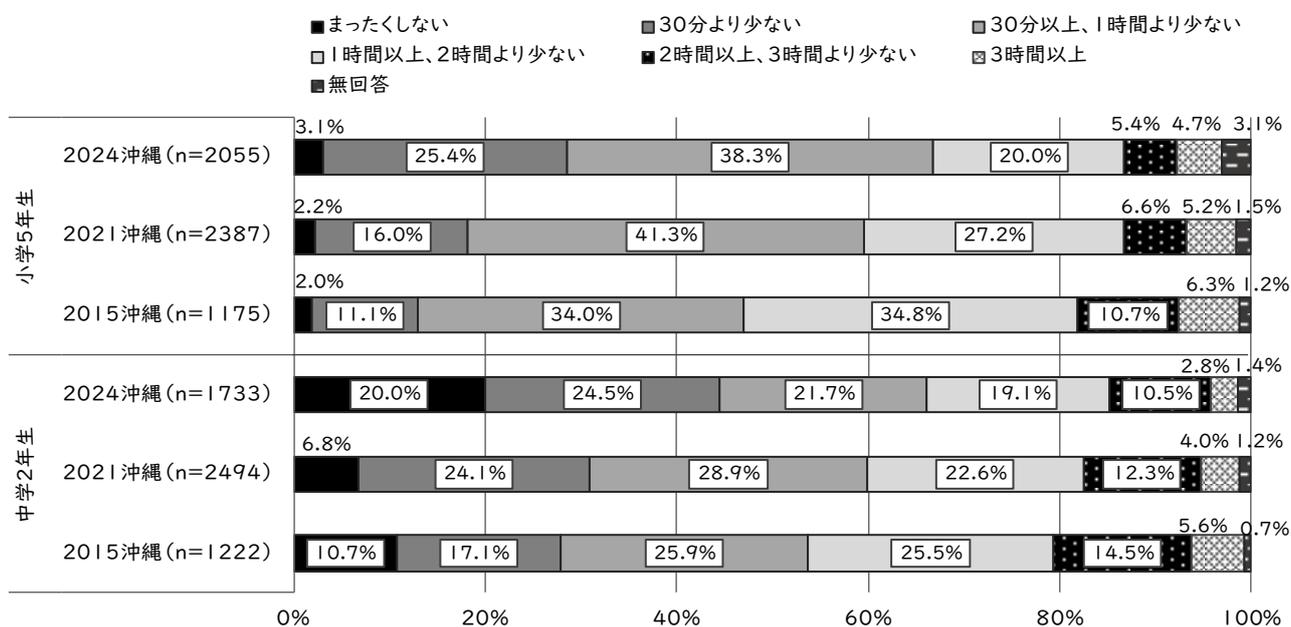


図2-2-6 【中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか
— 学校がある日（月～金曜日） —



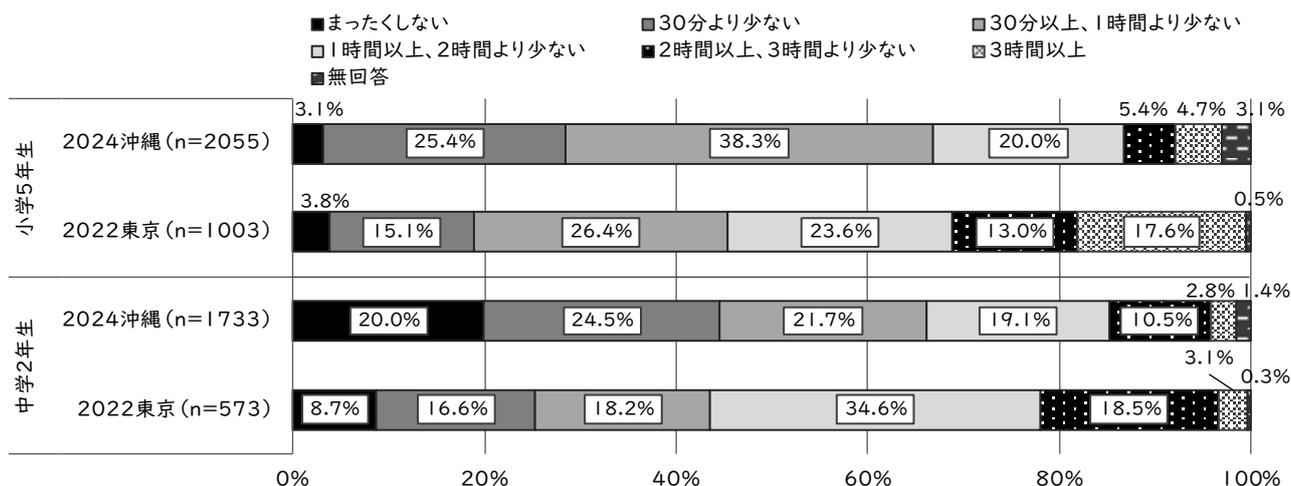
経年比較

図2-2-7 【小5児童・中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか — 学校がある日(月～金曜日) —



東京都調査との比較

図2-2-8 【小5児童・中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか — 学校がある日(月～金曜日) —



学校の授業以外の勉強時間 — 学校がない日

学校の授業以外の勉強時間（学校がない日）について尋ねたところ、小学5年生（図2-2-9）及び中学2年生（図2-2-10）のいずれにおいても、「まったくしない」の割合が一般層よりも低所得層の方が高くなる傾向が見られます。

2021年沖縄県調査と比較したところ（図2-2-11）、小学5年生及び中学2年生のいずれにおいても、学校のない日の勉強時間が著しく短くなっています。とりわけ、「まったくしない」と回答した中学2年生は、2021年は14.9%でしたが、本調査では31.0%となっており、約2倍となっています。

図2-2-9 【小5児童】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか
— 学校がない日（土・日曜日・祝日） —

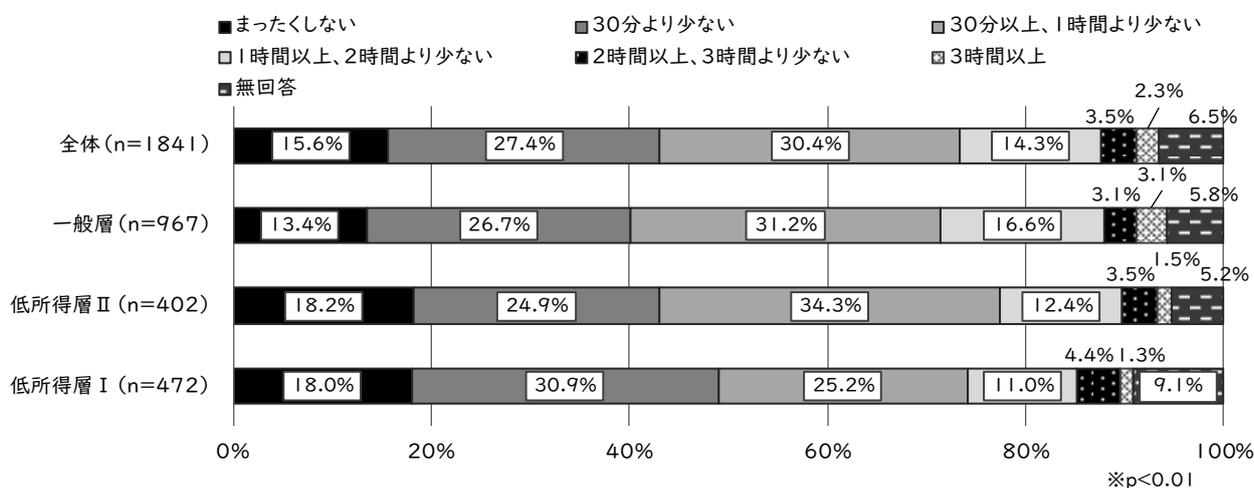
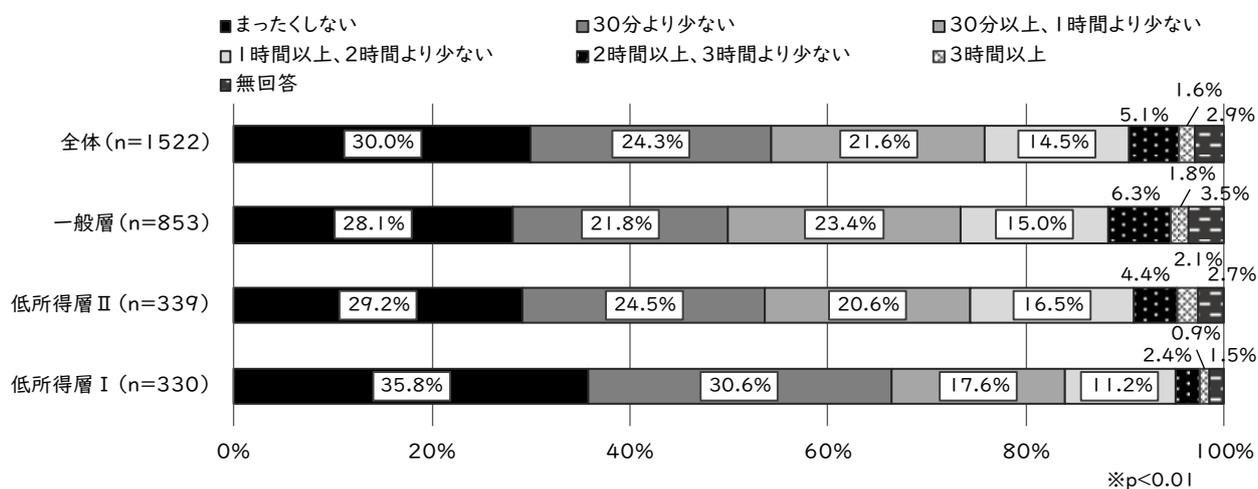
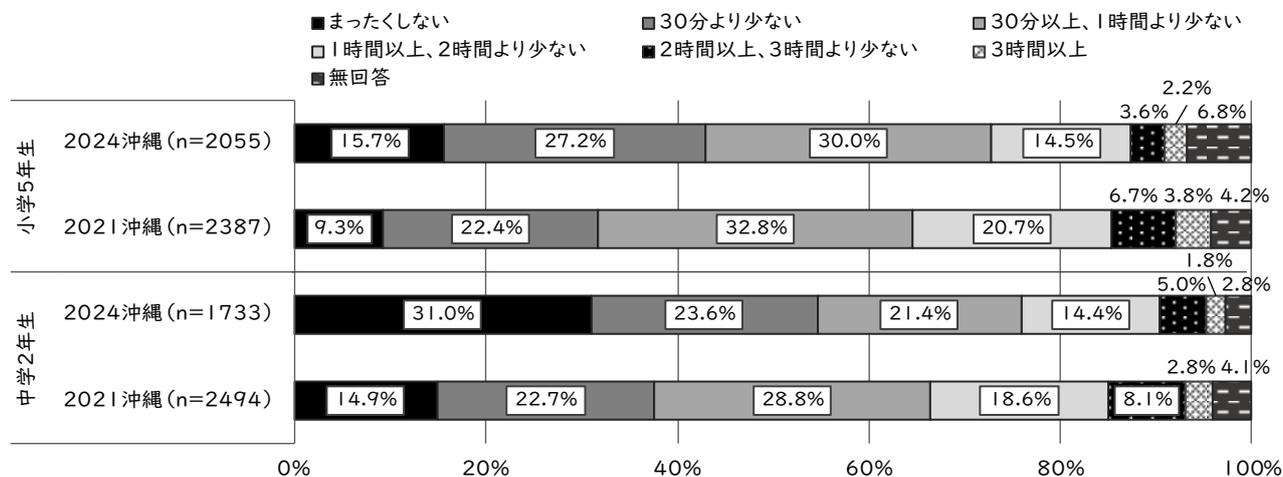


図2-2-10 【中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか
— 学校がない日（土・日曜日・祝日） —



経年比較

図2-2-11 【小5児童・中2生徒】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか — 学校がない日(土・日曜日・祝日) —



3 進路(児童・生徒)

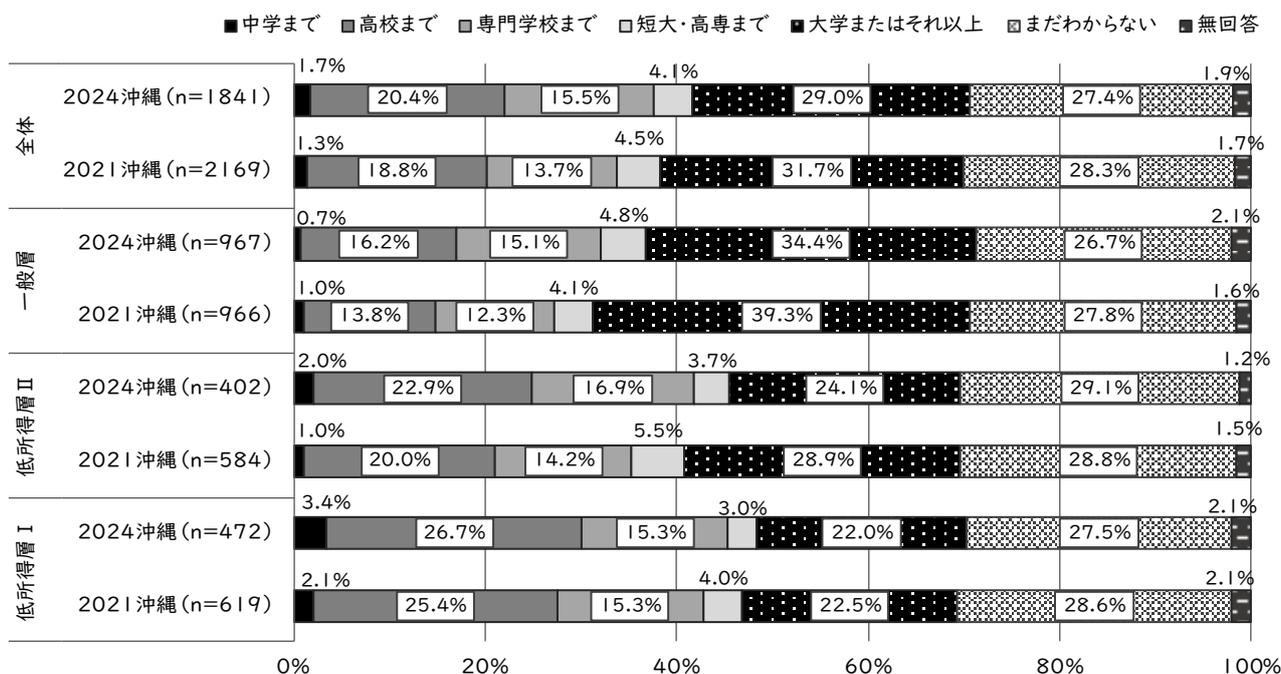
希望の進路先に関して、「あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか」という問に対する回答を2021年沖縄県調査と比較しました。

小学5年生(図2-3-1)においては、大学進学を目指している割合が、2021年は一般層で39.3%、低所得層Ⅱで28.9%、低所得層Ⅰで22.5%でした。本調査ではその割合が、34.4%、24.1%、22.0%といずれも低くなっています。一方で、「高校まで」と答えたのは、2021年は一般層で13.8%、低所得層Ⅱで20.0%、低所得層Ⅰで25.4%であったものが、本調査では16.2%、22.9%、26.7%といずれも高くなっています。「専門学校まで」と答えたのは、一般層で12.3%、低所得層Ⅱで14.2%であったものが、本調査では15.1%、16.9%となっています。

中学2年生(図2-3-2)においては、2021年は一般層の51.5%が大学進学を目指していましたが、本調査では半数を切り、46.7%となっています。また、「高校まで」と答えたのは、一般層で10.1%、低所得層Ⅱで20.2%、低所得層Ⅰで24.4%だったものが、本調査では13.1%、26.3%、28.5%といずれも高くなっています。

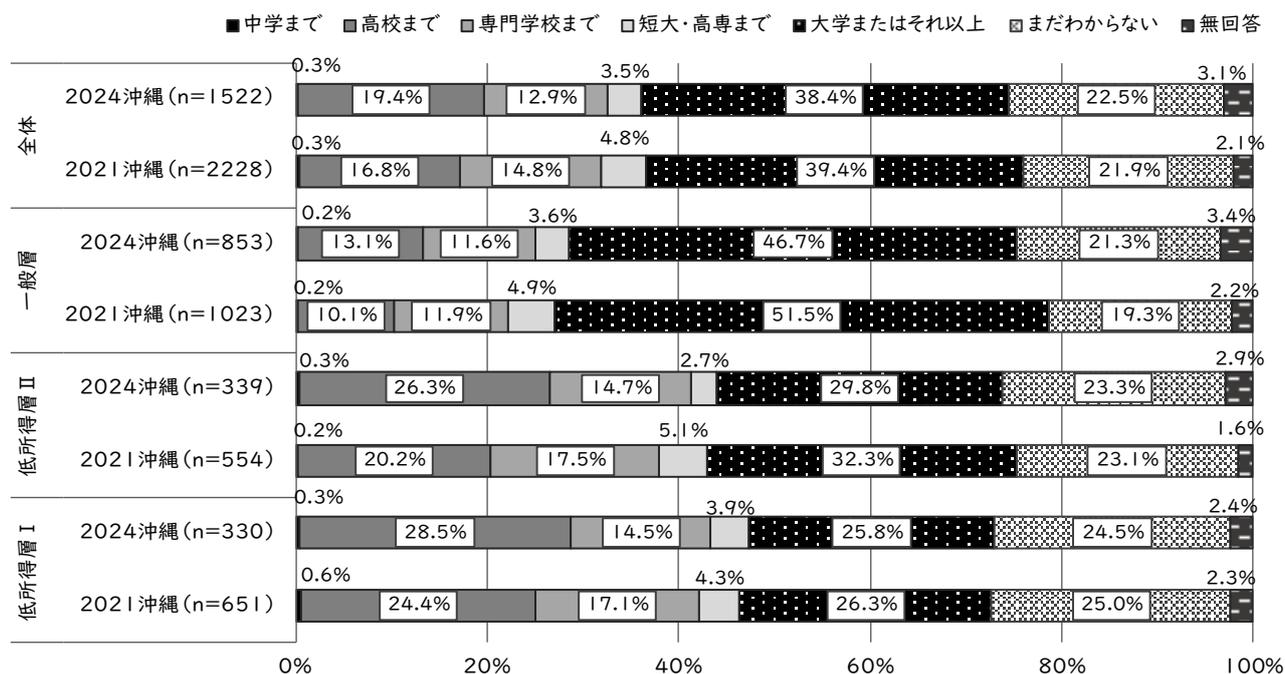
また、2022年東京都調査と比較する(図2-3-3)と、「大学またはそれ以上」を希望する割合は、東京都では小学5年生で56.5%、中学2年生で65.1%となっていますが、沖縄県では小学5年生で28.9%、中学2年生で37.7%にとどまっています。一方、「高校まで」と答えたのは、東京都では小学5年生で8.9%、中学2年生で8.4%となっているのに対し、沖縄県では小学5年生で20.2%、中学2年生で19.7%となっています。

図2-3-1 【小5児童】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともにp<0.01

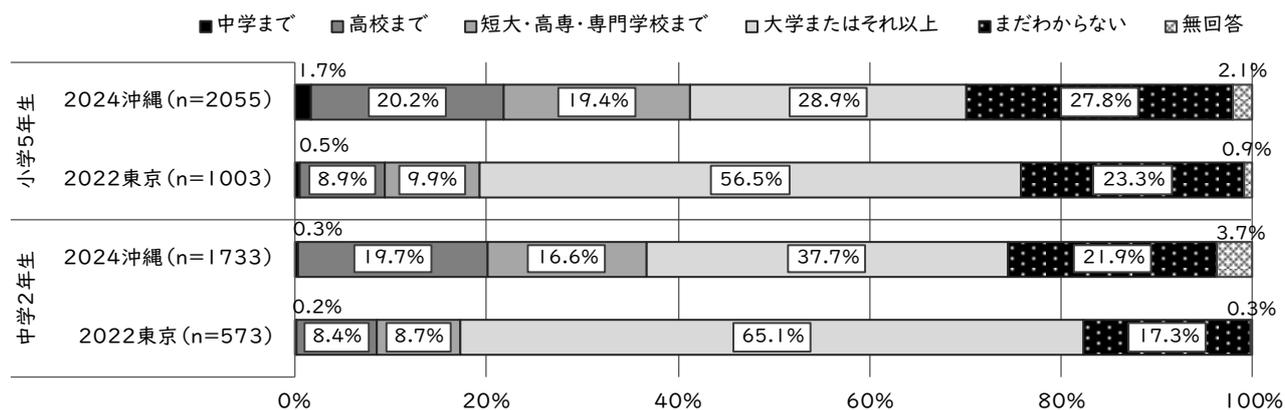
図2-3-2 【中2生徒】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

東京都調査との比較

図2-3-3 【小5児童・中2生徒】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか



※2022年東京都調査の選択肢にあわせて、「専門学校まで」「短大・高専まで」をまとめて集計した

+

選択した理由

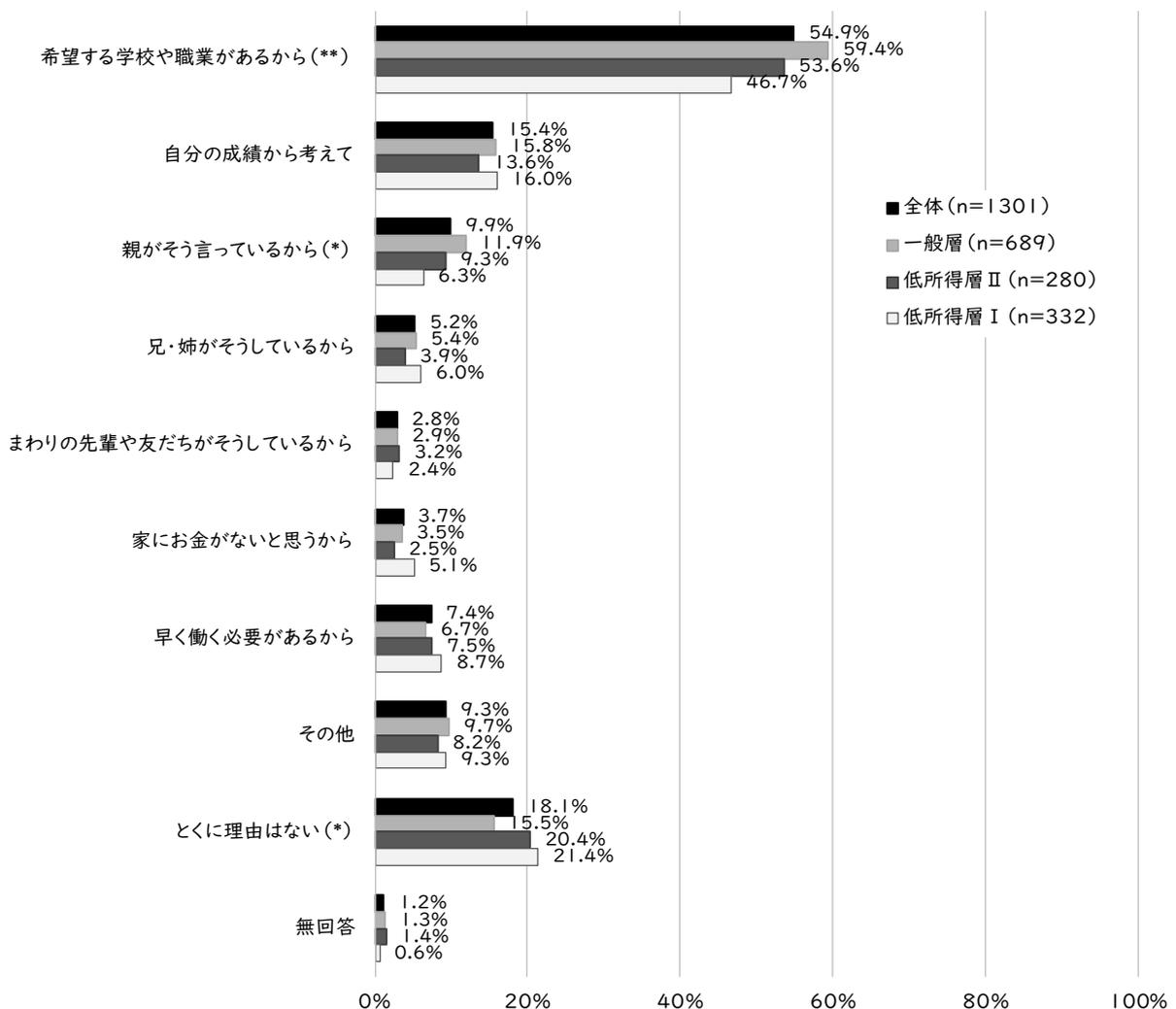
将来の進学先に関する質問で、「中学まで」から「大学またはそれ以上」を選択した児童・生徒に、その進学を選択した理由を尋ねました。

小学5年生（図2-3-4）においては、「希望する学校や職業があるから」という回答は、一般層では59.4%、低所得層Ⅱでは53.6%、低所得層Ⅰでは46.7%と、所得の低い世帯ほど低くなっています。また、「親がそう言っているから」も同様の傾向が見られ、一般層では11.9%、低所得層Ⅱでは9.3%、低所得層Ⅰでは6.3%となっています。

中学2年生（図2-3-5）では、「家にお金がないと思うから」は、一般層では0.9%、低所得層Ⅱでは1.6%、低所得層Ⅰでは3.7%と統計的な差が見られました。「早く働く必要があるから」においても、一般層では3.1%、低所得層Ⅱでは4.0%、低所得層Ⅰでは7.1%となり、同様の傾向が見られました。

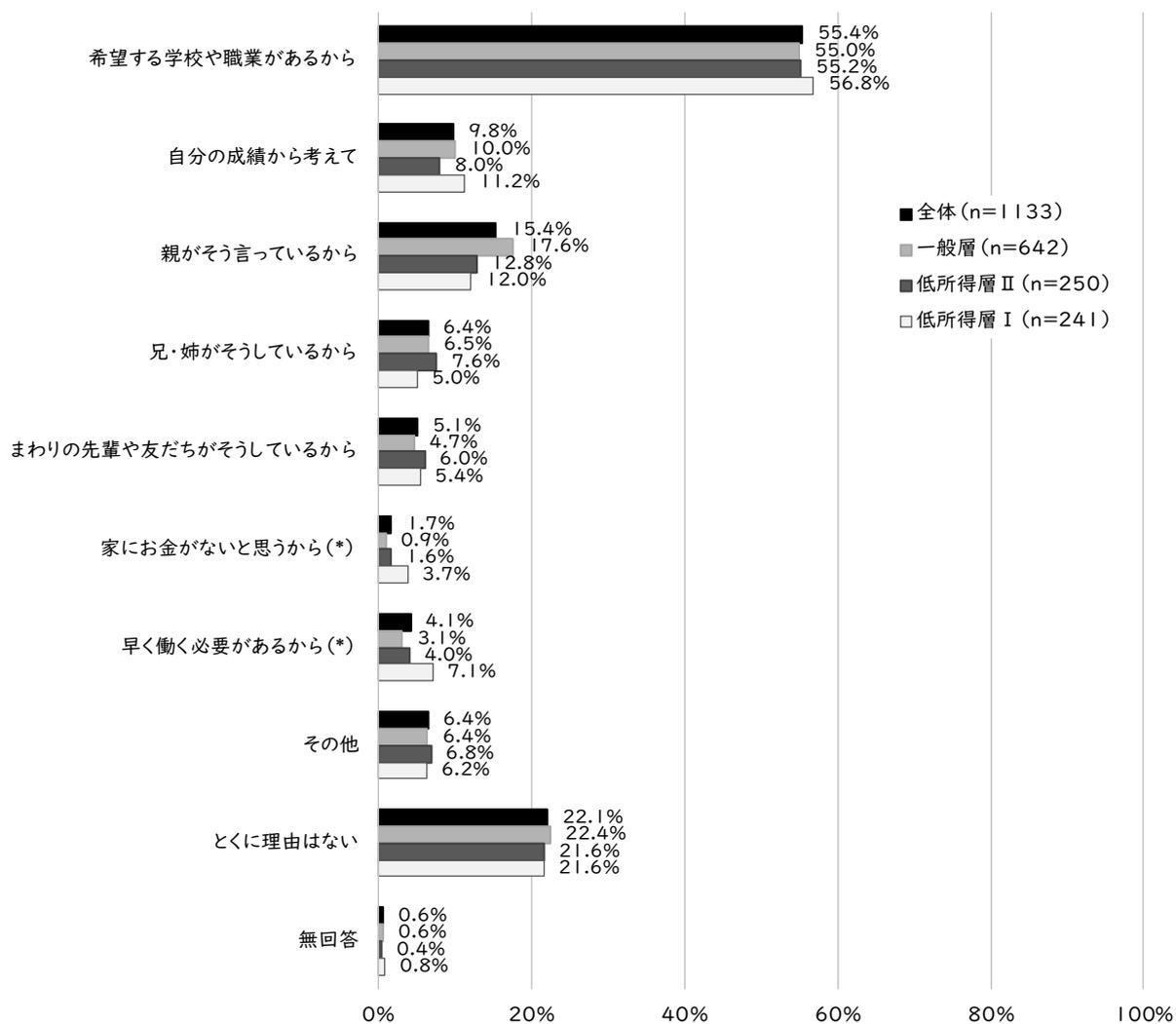
2021年沖縄県調査と比較した場合、小学5年生（図2-3-6）においては、「親がそう言っているから」が7.5%から10.0%へ、「早く働く必要があるから」が5.4%から7.4%へ高くなっています。中学2年生（図2-3-7）においては、「希望する学校や職業があるから」が57.0%から54.4%へと低くなっており、「親がそう言っているから」が12.7%から15.3%へと高くなっています。

図2-3-4 【小5児童】その理由を教えてください（複数選択）



※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

図2-3-5 【中2生徒】その理由を教えてください(複数選択)



※(**)は、p<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

経年比較

図2-3-6 【小5児童】その理由を教えてください(複数選択)

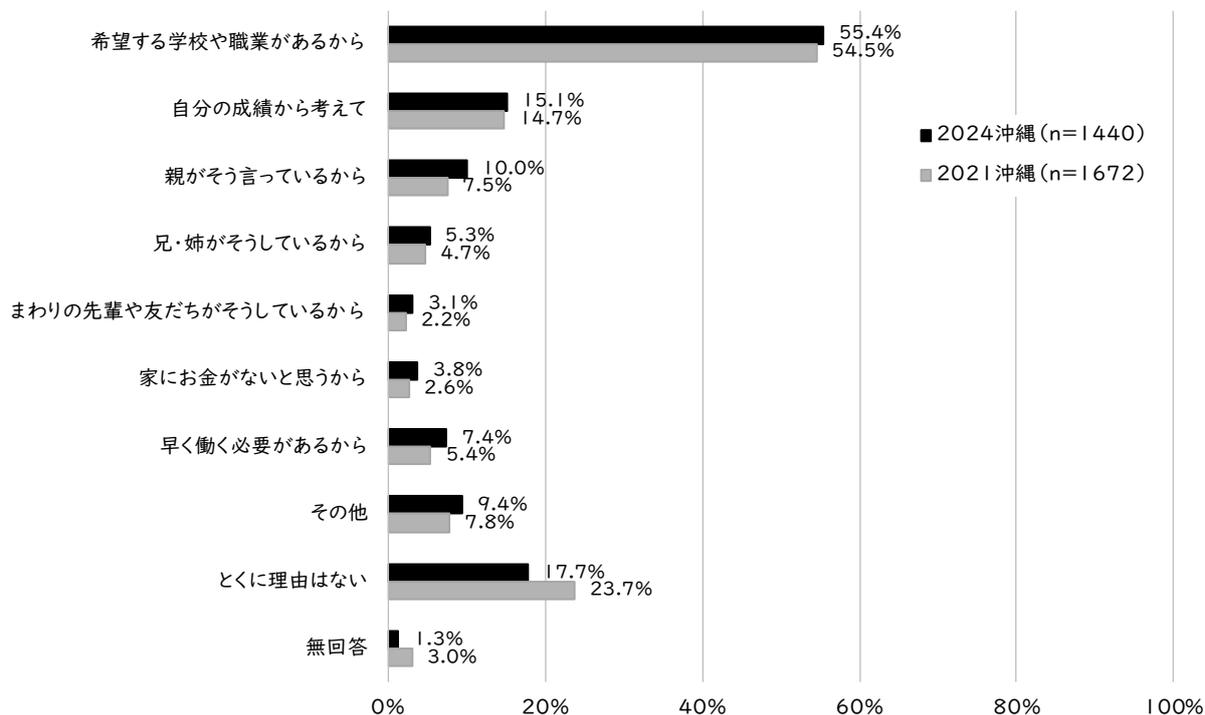
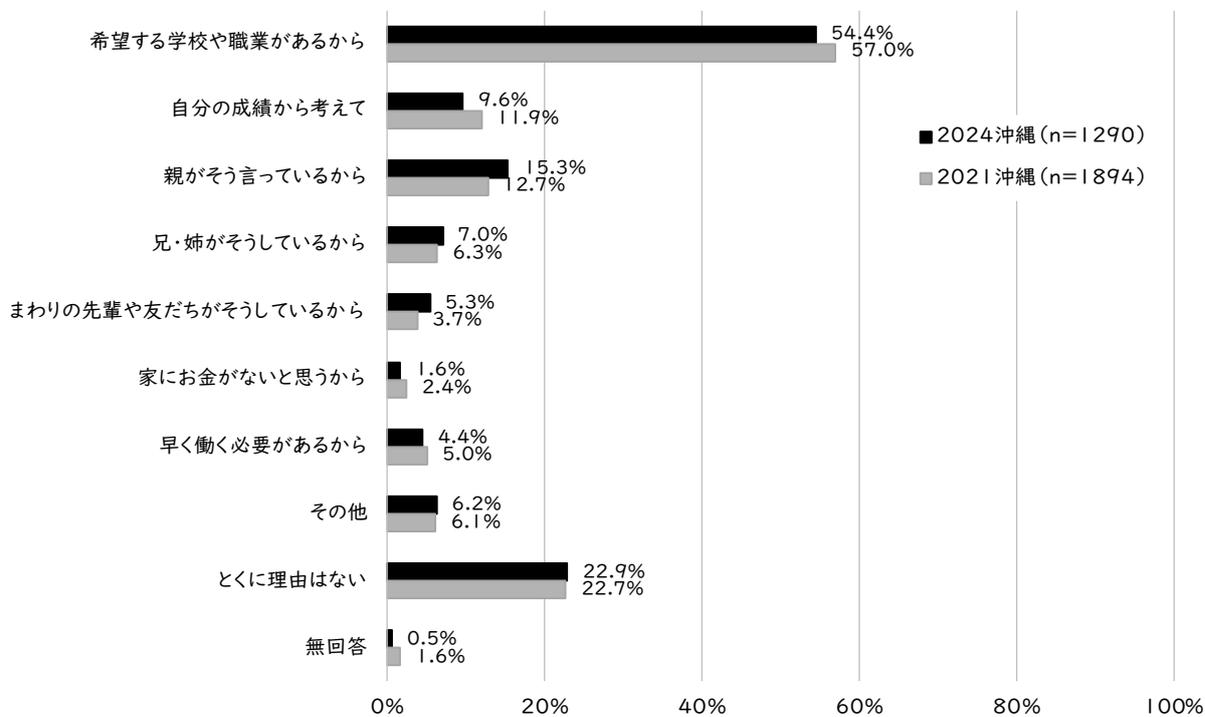


図2-3-7 【中2生徒】その理由を教えてください(複数選択)



4 進路（保護者）

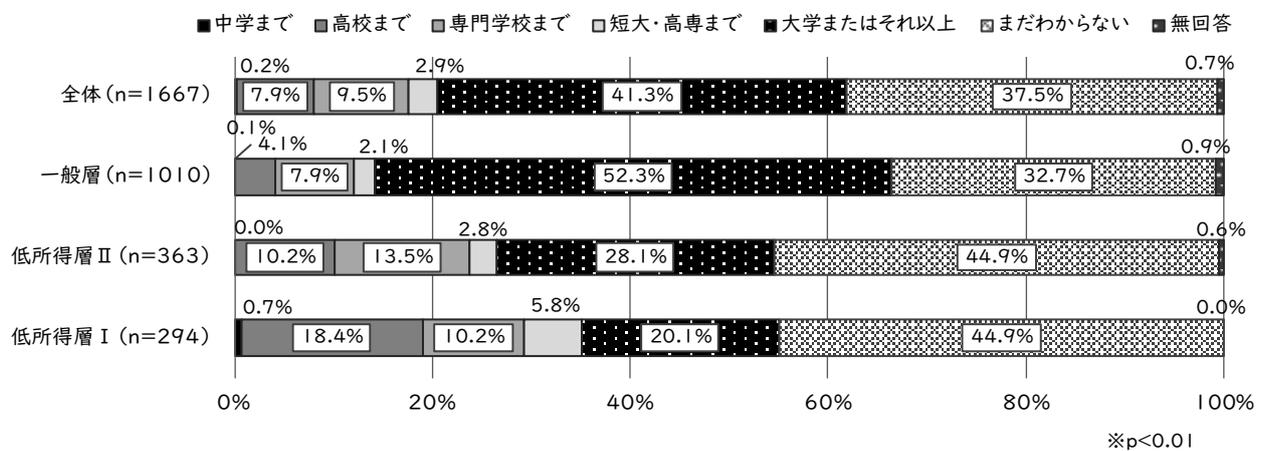
保護者に対し「お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか」と尋ねました。

小学1年生（図2-4-1）では、一般層においては52.3%が「大学またはそれ以上」としているのに対し、低所得層Ⅱでは28.1%、低所得層Ⅰでは20.1%となっています。一方、「高校まで」は一般層では4.1%であるのに対し、低所得層Ⅱでは10.2%、低所得層Ⅰでは18.4%となっており、所得が低くなるほど高くなっていました。

2021年沖縄県調査と比較した場合（図2-4-2）、小学5年生の一般層においては「大学またはそれ以上」が54.8%から47.6%へと低くなり、「まだわからない」が18.5%から26.9%へと増加しています。低所得層Ⅱにおいても同様の傾向が見られ、「大学またはそれ以上」が35.6%から27.6%へと低くなり、「まだわからない」が22.8%から33.8%へと高くなっています。低所得層Ⅰでは、「高校まで」「専門学校まで」「短大・高専まで」「大学またはそれ以上」がそれぞれ低下した一方で、「まだわからない」が23.6%から34.7%へと増加しています。

中学2年生（図2-4-3）では、一般層においては小学5年生と同様に、「大学またはそれ以上」が低下し、「まだわからない」が14.7%から20.5%へと増加しています。低所得層Ⅱと低所得層Ⅰにおいても、「まだわからない」が大幅に増加し、低所得層Ⅱでは19.1%から30.1%、低所得層Ⅰでは18.4%から32.4%へと変化が見られました。

図2-4-1 【小1保護者】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか



経年比較

図2-4-2【小5保護者】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか

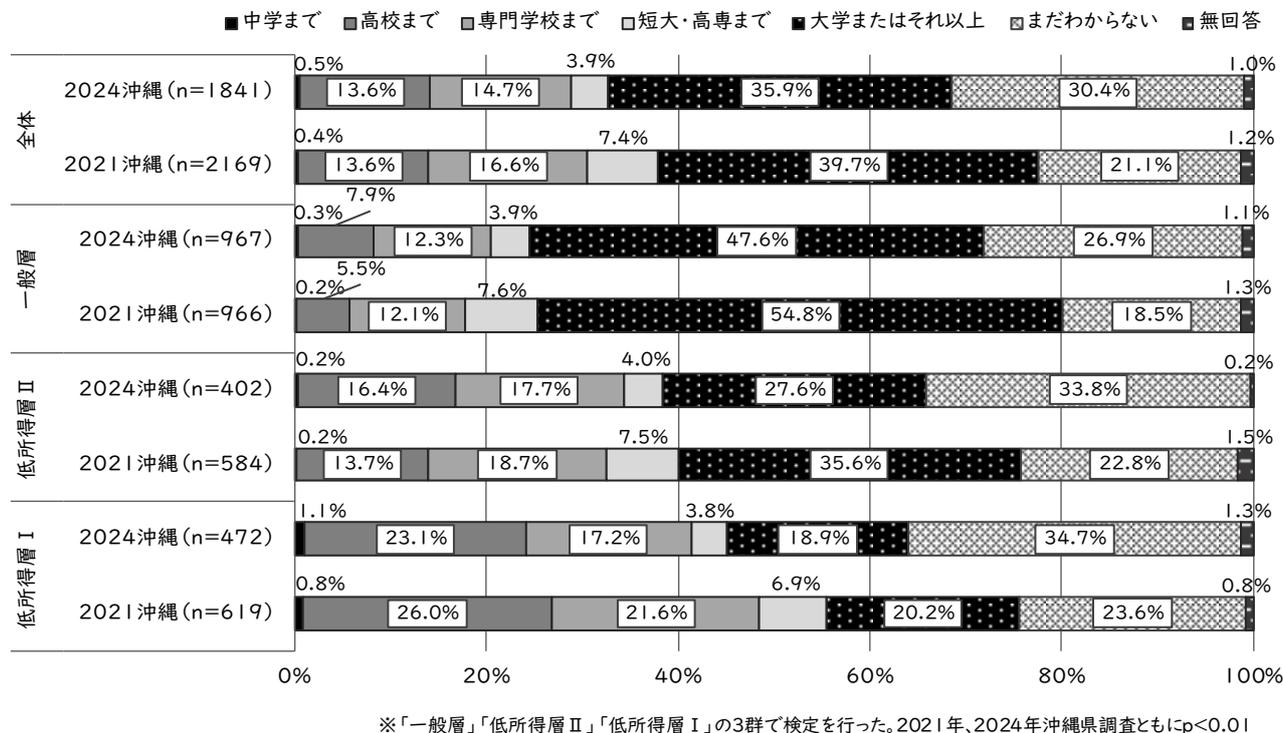
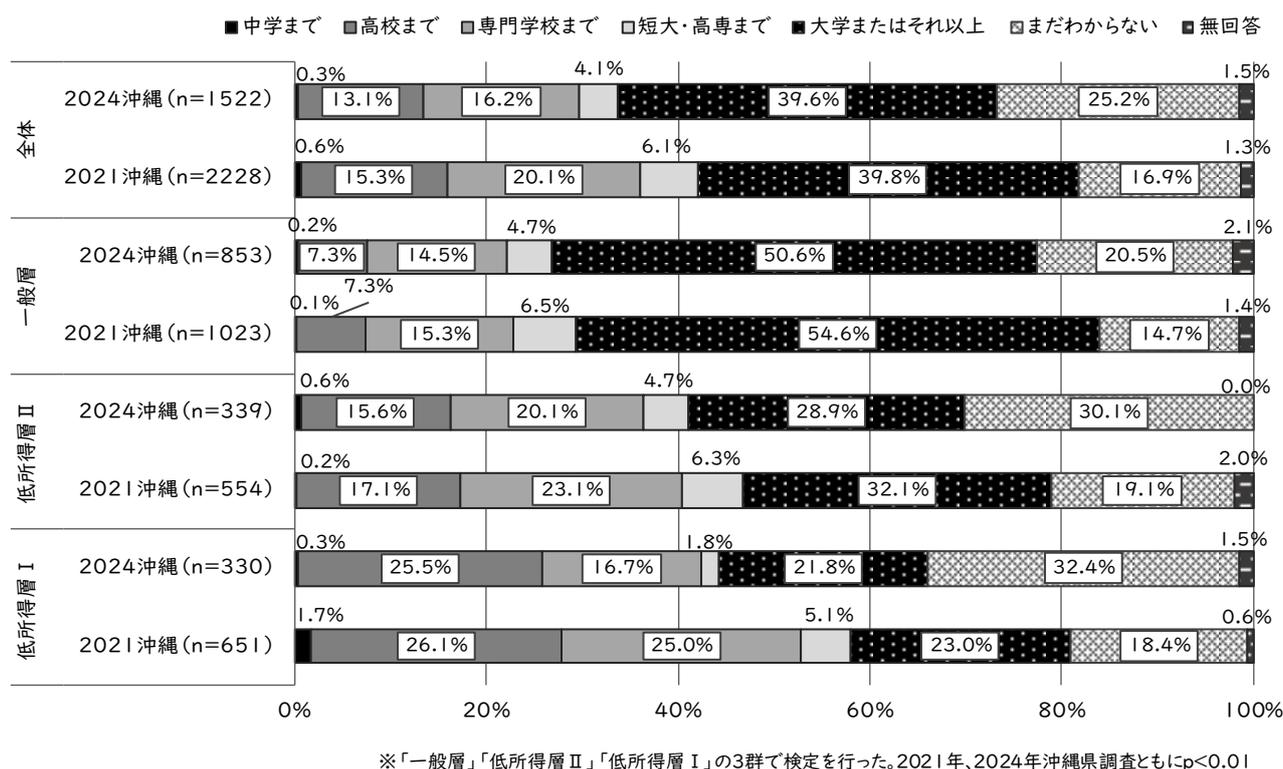


図2-4-3【中2保護者】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか



本章では、学校と学習状況について分析しました。

第1節は、学校での学習理解と成績についての分析です。図2-1-1及び図2-1-2によると、低所得層ほど学校の授業が「わかりにくい」と感じる児童の割合が高いことが示されています。特に小学5年生では、「いつもわかる」と答えた割合が一般層で17.7%に対し、低所得層Iでは9.3%と大きな差があります。また、「いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか」と尋ねたところ、小学5年生(図2-1-4)では、経済的な状況に依らず「小学3・4年生のころ」の回答がもっとも多く、学習内容の理解が早い段階で停滞していることが明らかです。

自己評価については経済状況の影響が顕著で、低所得層Iの小学5年生及び中学2年生で学業成績が「上のほう」と答えた割合はそれぞれ7.2%、7.0%にとどまり、一般層(13.2%、15.1%)の約半分となっています。これらの結果は、低所得層のこどもたちに学業成績への自信の欠如が見られることを示唆しています(図2-1-6及び図2-1-7)。

第2節は、学校以外の学習状況についての分析です。低所得層では、学校外での学習時間が短く、学習を行わない児童・生徒の割合が高いことが図2-2-1及び図2-2-2から明らかです。特に中学2年生では、低所得層Iの21.5%が「学校の授業以外で勉強はしない」と答えており、一般層(10.7%)の約2倍に達しています。さらに、図2-2-6によると学校がある日の勉強を「まったくしない」と回答した中学2年生の割合は、低所得層Iで28.2%となっており、一般層(16.8%)の約1.7倍となっています。

また、塾や家庭での支援においても格差が顕著です。図2-2-8では、東京都と比較した場合、沖縄県の小学5年生で2時間以上勉強する割合が10.1%にとどまり、東京都(30.6%)の約3分の1に過ぎません。

第3節は、児童・生徒自身の進路に関する希望と選択理由についての分析です。図2-3-1及び図2-3-2によると、低所得層では進学希望が低いことが明らかです。例えば、小学5年生で「大学またはそれ以上」と答えた割合は一般層の34.4%に対し、低所得層Iでは22.0%にとどまります。一方、「高校まで」と答えた割合は一般層の16.2%に対し、低所得層Iで26.7%と高く、経済的な要因が進学希望に影響を与えていることがうかがえます。

さらに、進学を選択した理由(図2-3-4、図2-3-5)を見ると、低所得層Iでは「家にお金がないと思うから」「早く働く必要があるから」という回答が目立ちます。中学2年生で「早く働く必要があるから」と答えた割合は7.1%で、一般層(3.1%)の2倍以上に達しています。この結果から、経済的な要因が進路選択に強く影響していることがわかります。

第4節は、保護者の進学期待についての分析です。図2-4-1では、保護者の進学期待にも経済的な違いが顕著に表れています。小学1年生の保護者で「大学またはそれ以上」と回答した割合は、一般層で52.3%、低所得層Iで20.1%と大きな差があります。また、中学2年生の保護者において「まだわからない」と答えた割合が低所得層Iで32.4%と高く、経済状況が進学期待の不確実性に影響していることが示されています。

以上のことから、沖縄のこどもたちが置かれている状況は、経済的制約が学習理解や進路選択に多大な影響を及ぼしていることが明らかで、何らかの対策が求められます。

まず、小学校低学年で学習につまずく傾向が低所得層で顕著であることから、特に小学3・4年生の段

階でのつまづきを防ぐために、補習や放課後学習の充実が求められます。「小4の壁」や「9歳の壁・10歳の壁」と呼ばれるように、この時期は学習内容の抽象度が高まり、つまづきが生じやすい時期とされています。また、発達段階においては、思春期に向かう過程で自分と他者を比較する傾向が強まり、「できない自分」というイメージが学習面でのつまづきをきっかけに増幅される可能性があります。これにより、自己肯定感の低下や情緒面への影響が懸念されます。さらに、この時期は親子関係においてこどもが親に相談しにくくなる時期とも重なるため、問題が表面化しにくい状況を生む可能性があります。そのため、このような発達段階にあるこどもたちの心理的側面を理解した上で、積極的に働きかけることが重要です。

また、保護者への啓発と経済的支援も重要です。低所得層では保護者の進学期待が低い傾向があり、それがこどもの進路希望にも反映されていることから、保護者への啓発活動の実施も重要です。学習面でのつまづきを適切に支援することは、結果としてこどもたちの希望する進路の選択肢を広げる可能性があります。沖縄県では、子育て総合支援事業の一環として、就学援助を受給している世帯を対象に学習支援を行っています。困り感を抱えながらもそれを表明できないこどもたちに対して、より積極的な周知活動を進める必要があります。特に、低所得層では学習理解の遅れが小学校低学年（1・2年生）の段階で顕在化することが多いため、この時期に学習の基礎（読み書きや計算力）を徹底的にサポートする施策が求められます。

保護者の自由記述からは、物価高騰や低賃金、奨学金返済の負担により、多くの家庭が経済的に苦しく、こどもの将来の教育費や生活費に強い不安を感じていることが読み取れます。特に進学時の費用負担が重く、収入による制限なく、大学や専門学校の授業料や修学旅行費、通学費・生活費などを無償化あるいは広く支援してほしいとの要望もあり、経済格差が教育格差を生み、次世代へ連鎖することへの強い危機感が共通して示されています。生活費や教育費への補助をさらに拡充することで、経済的制約を緩和し、こどもたちの進学機会を広げていく必要があります。

こうした支援のほか、「働き方」の多様化と公平な未来の実現に向けた視点も重要です。

今回の調査では、一般層においても「大学またはそれ以上」の進学を希望する割合が2021年沖縄県調査と比較して減少していました。具体的には、小学5年生で4.9ポイント（図2-3-1）、中学2年生で4.8ポイント（図2-3-2）減少しており、進学を目指すこどもたちの意識の変化が生じていることが示されています。この背景には、大学進学を経ずとも多様な働き方が可能だと考える意識の拡大や、進学に伴う経済的負担への懸念があると考えられます。

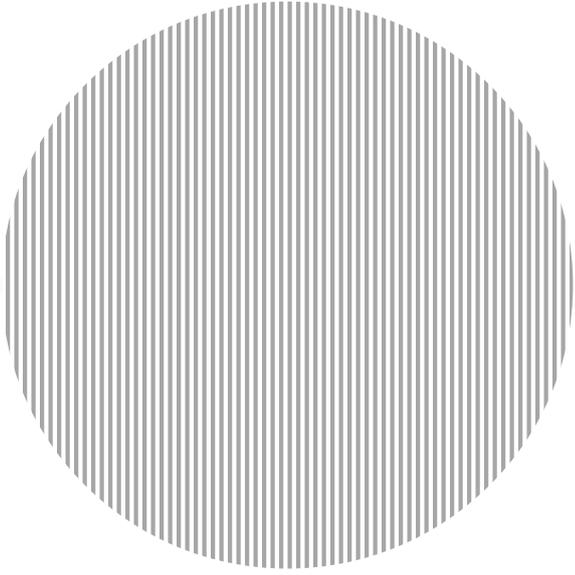
キャリア教育が推進される中で、現代のこどもたちが描く「働き方」は従来の枠組みを超え、より自由で幅広い概念へと変化しています。例えば、正社員としての安定した働き方だけでなく、テクノロジーを活用して時間や場所に縛られずに働くスタイル、副業で趣味やスキルを活かして収入を得る働き方、さらにはSNSや動画配信を活用してクリエイティブな収益活動を行う選択肢が挙げられます。また、デジタル技術に親しみ育った世代は、仮想空間やAI技術を活用した新しい職業にも目を向けています。このように、未来の「働き方」は、多様性や柔軟性を富むと同時に、従来の労働観を大きく塗り替える可能性を秘めています。

しかし、こうした「働き方」の選択肢が、生まれ育った家庭環境や経済的背景によって制約を受けるような状況をつくってはなりません。すべてのこどもたちが平等に自分らしい働き方を見つけられる環境を整えることが求められています。そのためには、教育現場で職業の多様性や新しい働き方について具体的に学ぶ機会を提供するとともに、若者が自分自身の興味や能力を活かし、変化の激しい社会に柔軟に対応する「生きる力」を育む支援が不可欠です。

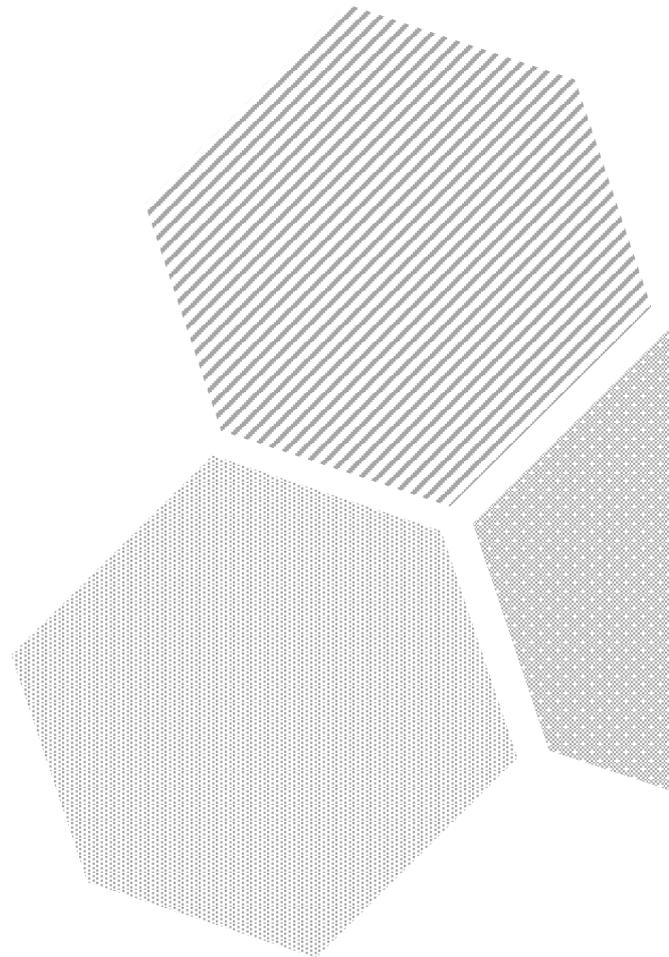
ここで言う「生きる力」とは、自己の価値を理解し、主体的に働き方を選択する力、そして他者と協力しながら社会の中で意義ある役割を果たす力を指します。さらに、安定性や収入の確保について現実的な視点を持ち、将来の選択肢を冷静に見極める力も含まれます。

これらを実現するためには、経済的な状況に左右されることなく、すべてのこどもたちに公平に学習の基礎を身につける機会を提供する社会づくりが必要です。教育の格差を解消し、こどもたちが進路選択の自

由を得られる環境を整備することが、持続可能な社会の構築に繋がります。この目標を実現するには、教育、家庭、地域社会が一体となり、こどもたちの可能性を最大限に引き出す仕組みを強化することが重要です。



第 3 章 ふだんの暮らし(児童・生徒)



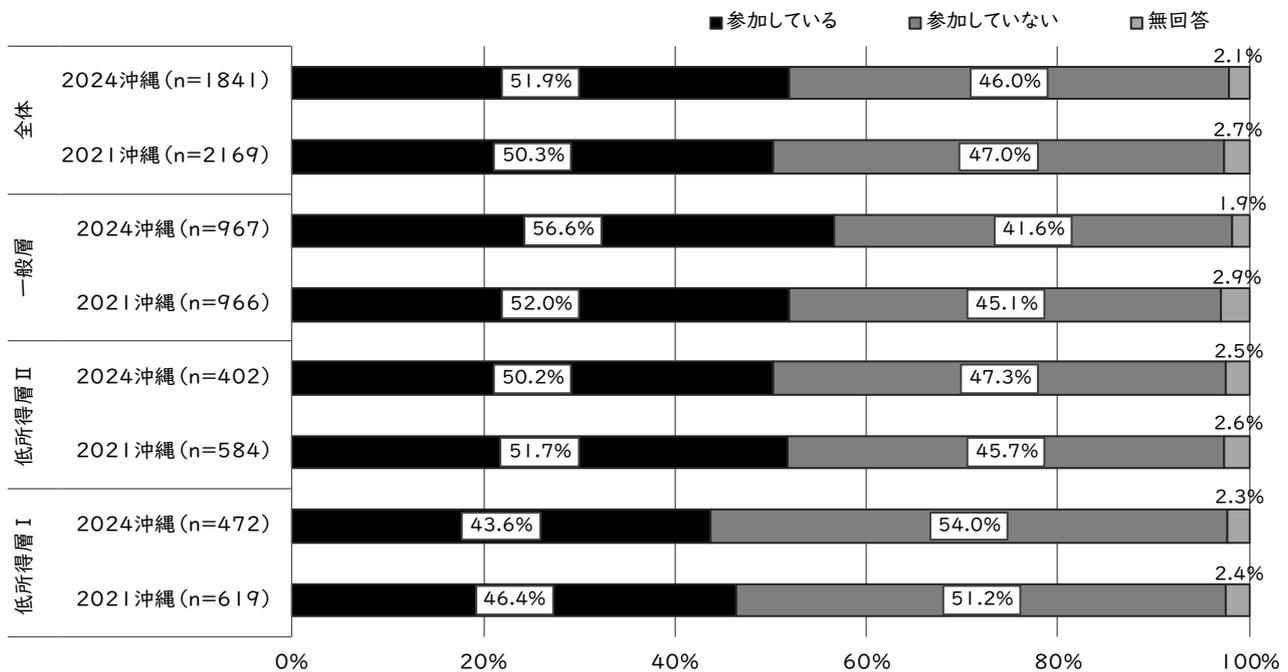
部活動

地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動への参加状況について児童・生徒に尋ねています。

小学5年生（図3-1-1）については、全体では「参加している」が51.9%、「参加していない」が46.0%となっています。経済状況別に見ると、所得が低い世帯ほど「参加していない」割合は高く、低所得層Ⅰでは54.0%となっています。経年比較で見ると、2021年沖縄県調査に比べて部活動等に「参加している」割合が全体では1.6ポイント増加しています。一方で、低所得層Ⅰでは、2.8ポイント減少していることが把握できます。一般層と低所得層Ⅰの「参加している」割合の差は、2021年で5.6ポイントの差であったものが、2024年では13.0ポイントに広がっています。2021年に統計的に有意差がなかったものが、2024年では有意な差となっています。

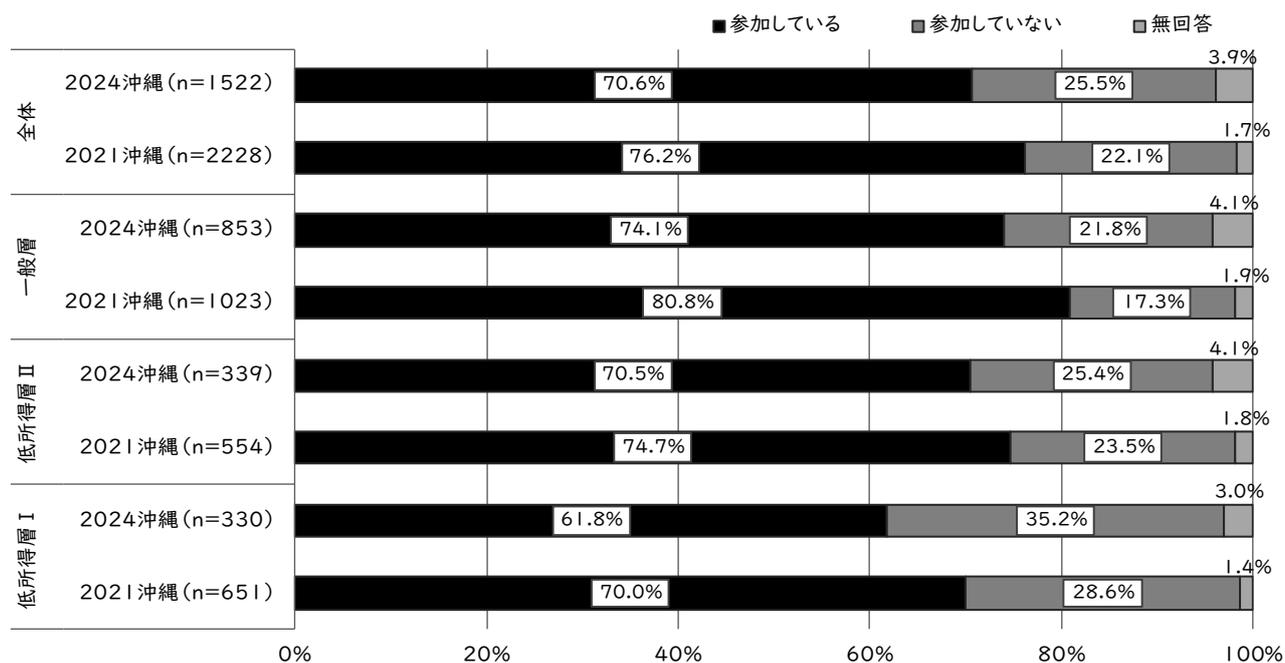
中学2年生（図3-1-2）については、全体では「参加している」が70.6%、「参加していない」が25.5%となっています。経済状況別に見ると、所得が低い世帯ほど「参加していない」割合は高く、低所得層Ⅰでは35.2%となっています。経年比較で見ると、2021年に比べて部活動に参加している割合が全体では5.6ポイント、低所得層Ⅰでは、8.2ポイント減少していることが把握できます。一般層と低所得層Ⅰの「参加している」割合の差は、2021年で10.8ポイントの差であったものが、2024年では12.3ポイントに広がっています。

図3-1-1 【小5児童】あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年沖縄県調査は、有意差なし。2024年沖縄県調査は、 $p < 0.01$

図3-1-2【中2生徒】あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

参加していない理由

部活動に「参加していない」と回答した児童・生徒に、部活動をしない理由を尋ねました。

小学5年生（図3-1-3）について、理由を経済状況別に見ると、統計的には有意差はありませんでしたが、低所得層Ⅰでは「費用がかかるから」（13.7%）、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」（9.8%）が、他の世帯に比べ高くなっていました。他方、「塾や習い事が忙しいから」は、低所得層Ⅰが他の世帯に比べ低くなっていました（有意差あり）。

中学2年生（図3-1-4）について、理由を経済状況別に見ると、統計的には有意差はありませんでしたが、他の世帯に比べ、低所得層Ⅰでは「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」（6.9%）が高く、低所得層Ⅱでは「費用がかかるから」（11.6%）が高くなっていました。他方、「塾や習い事が忙しいから」は低所得層Ⅰが他の世帯に比べ低くなっていました（有意差なし）。

経年比較では、小学5年生（図3-1-5）についてすべての理由でその割合が増加していますが、特に気になるのは「費用がかかるから」の割合が 4.1 ポイント、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」が 1.1 ポイント増加していることでしょう。

中学2年生（図3-1-6）について見ると、「費用がかかるから」の割合はほとんど変化がなく、「家の事情（家族の世話、家事など）があるから」は 2.4 ポイント減少していました。

図3-1-3 【小5児童】参加していない理由は何ですか（複数選択）

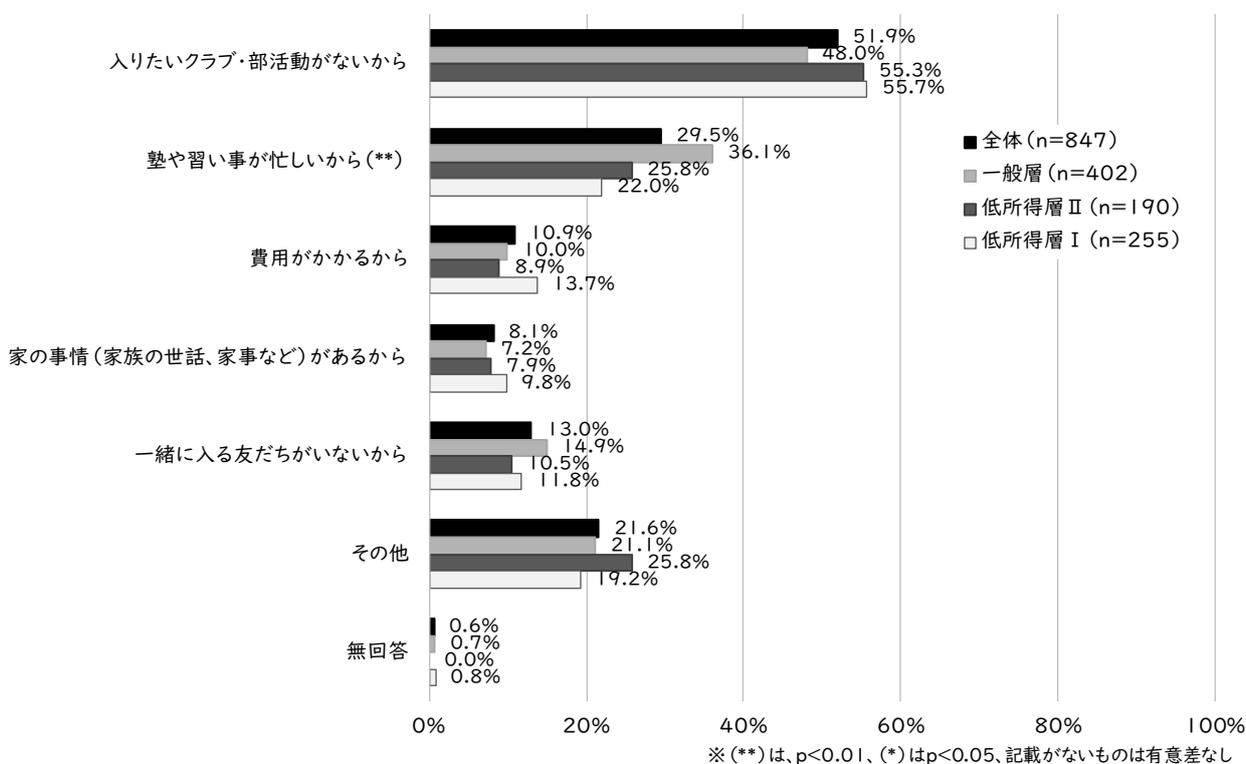
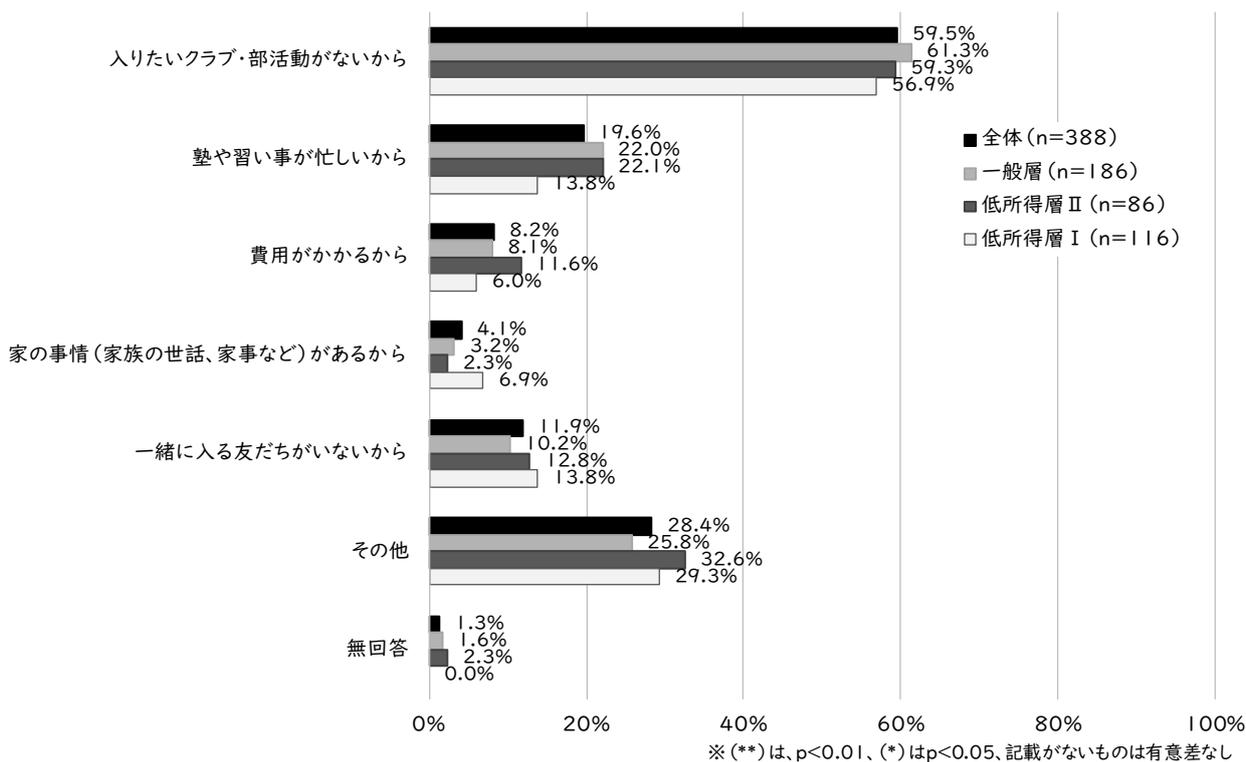


図3-1-4 【中2生徒】参加していない理由は何ですか(複数選択)



経年比較

図3-1-5 【小5児童】参加していない理由は何ですか(複数選択)

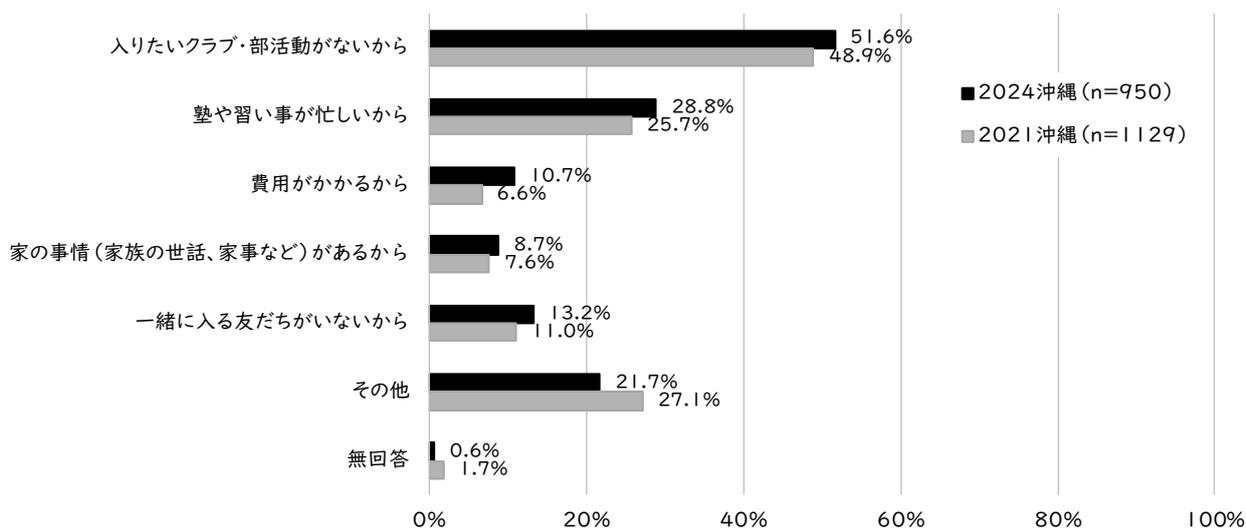
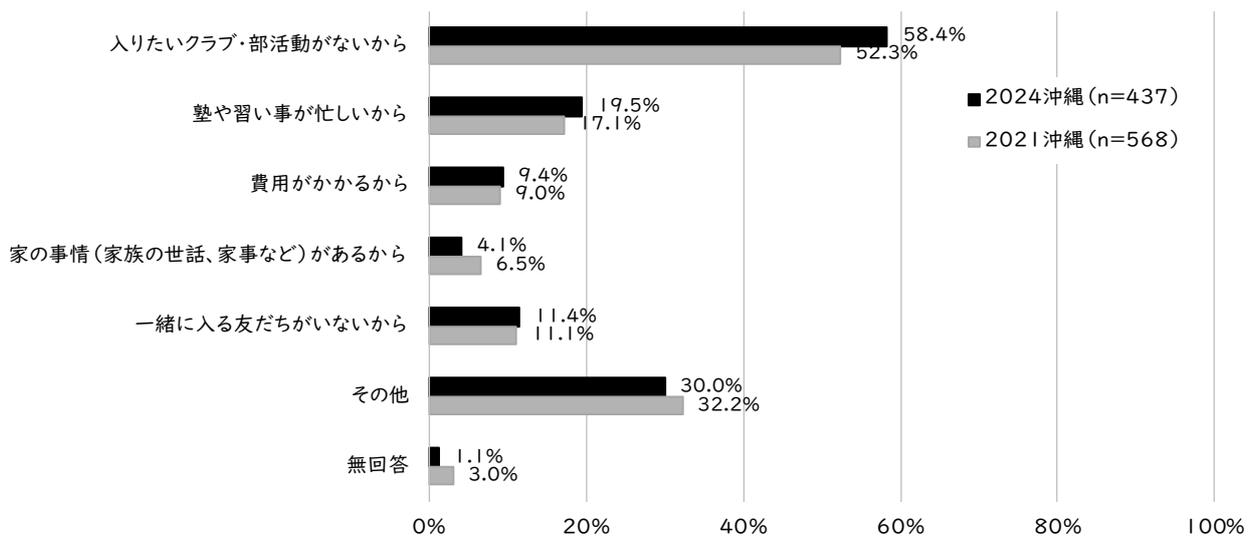


図3-1-6 【中2生徒】参加していない理由は何ですか(複数選択)



指導を受けてどう感じているか

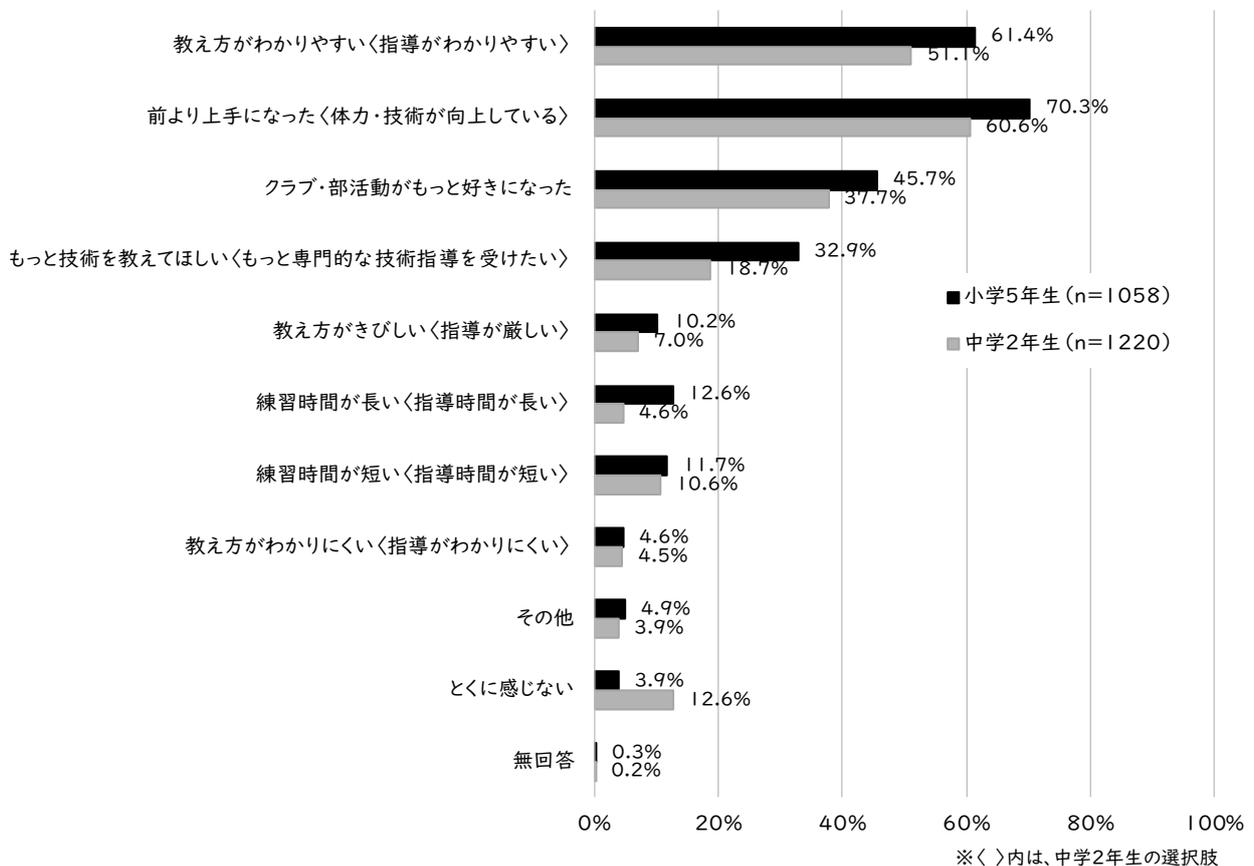
図3-1-7は、顧問やコーチなどからの指導を受けてどう感じたかを尋ねたものです。今回の調査で初めて質問しました。スポーツ庁（2018年）『平成29年度運動部活動等に関する実態調査報告書』（以下、2018年スポーツ庁調査）における質問項目を参考にしています。

全体として、「教え方がわかりやすい<指導がわかりやすい>」（〈〉内は、中学2年生の選択肢、以下同）「前より上手になった<体力・技術が向上している>」「クラブ・部活動がもっと好きになった」などの指導を好意的に感じている割合が高いことがわかりました。一方で、「教え方がきびしい<指導が厳しい>」などの割合も一定数存在し、留意しなければならない点です。

前述の2018年スポーツ庁調査においては、中学校運動部所属の生徒の回答割合が記載されています（ただし、2年生に限定したものではありません）。これと2024年沖縄県調査における中学2年生の結果を比較してみます。2024年沖縄県調査の数値：スポーツ庁の数値（すべて%）で表記しています。「指導がわかりやすい」（51.1：36.3）、「体力・技術が向上している」（60.6：35.9）、「クラブ・部活動がもっと好きになった」（37.7：16.3）、「もっと専門的な技術指導を受けたい」（18.7：14.1）、「指導が厳しい」（7.0：8.0）、「指導時間が長い」（4.6：6.2）、「指導時間が短い」（10.6：4.1）、「指導がわかりにくい」（4.5：8.4）でした。「指導が厳しい」「指導時間が長い」「指導がわかりにくい」以外は、沖縄県の方が数値が高いことがわかり、指導を前向きにとらえている生徒が多いことが推察されました。

また、小学5年生の方がすべての項目で高い割合となっていますが、これは小学5年生に対する選択肢がややわかりやすいものとなっており、選択しやすくなっていたことが影響したことが考えられるでしょう。

図3-1-7 【小5児童・中2生徒】あなたは、クラブや部活動の顧問や監督、指導者（コーチ）からの指導を受けてどのように感じていますか（複数選択）



2 食事・学校生活

児童・生徒に食事や遅刻(学校)の状況について尋ねています。

食事のうち「朝食」を「毎日食べる(週7日)」割合について、全体では、小学5年生(図3-2-1)で86.5%、中学2年生(図3-2-2)では、80.4%でした。経済状況別に見ると、小学5年生、中学2年生ともに、所得が低い世帯ほど「毎日食べる」の割合は低く、低所得層Ⅰでは小学5年生で83.1%、中学2年生で72.1%となっていました。

「夕食」を「毎日食べる」割合については、全体では、小学5年生(図3-2-3)で94.8%、中学2年生(図3-2-4)では95.7%となっていました。経済状況別に見ると、小学5年生、中学2年生ともに、所得が低い世帯ほど「毎日食べる」の割合は低く、低所得層Ⅰでは小学5年生、中学2年生ともに93.0%となっていました。

「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」については、小学5年生(図3-2-5)で87.7%、中学2年生(図3-2-6)では81.9%となっていました。経済状況別に見ると、小学5年生、中学2年生ともに、所得が低い世帯ほど「毎日食べる」の割合は低く、低所得層Ⅰでは小学5年生で82.8%、中学2年生で75.5%となっていました。

一方で、「毎日食べる」の割合の経済状況別の差(一般層と低所得層Ⅰの差)を分析すると、「夕食」に比較して「朝食」「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」において、顕著に差が見られることが推察されました。「夕食」の場合、一般層と低所得層Ⅰの差は、小学5年生、中学2年生でそれぞれ、2.7ポイント、4.3ポイントでしたが、「朝食」ではそれぞれ5.7ポイント、12.0ポイントの差があり、「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」ではそれぞれ7.0ポイント、10.3ポイントでした。

経年比較では、小学5年生(図3-2-7)の「毎日食べる」の割合はほとんど変化がないように推察できます。一方で、中学2年生(図3-2-8)では、「夕食」において、若干(2.1ポイント)の改善が見られます。

朝食

図3-2-1 【小5児童】朝食

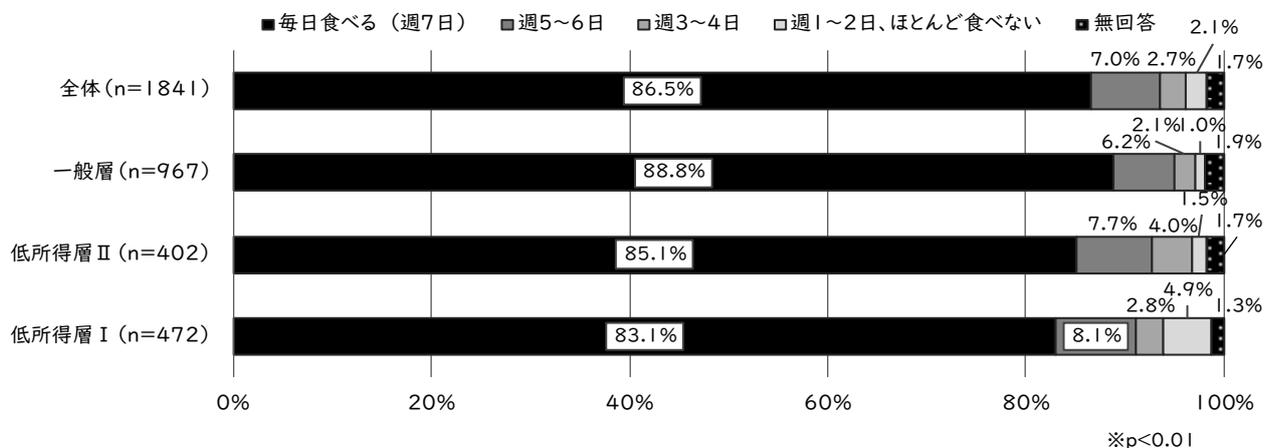
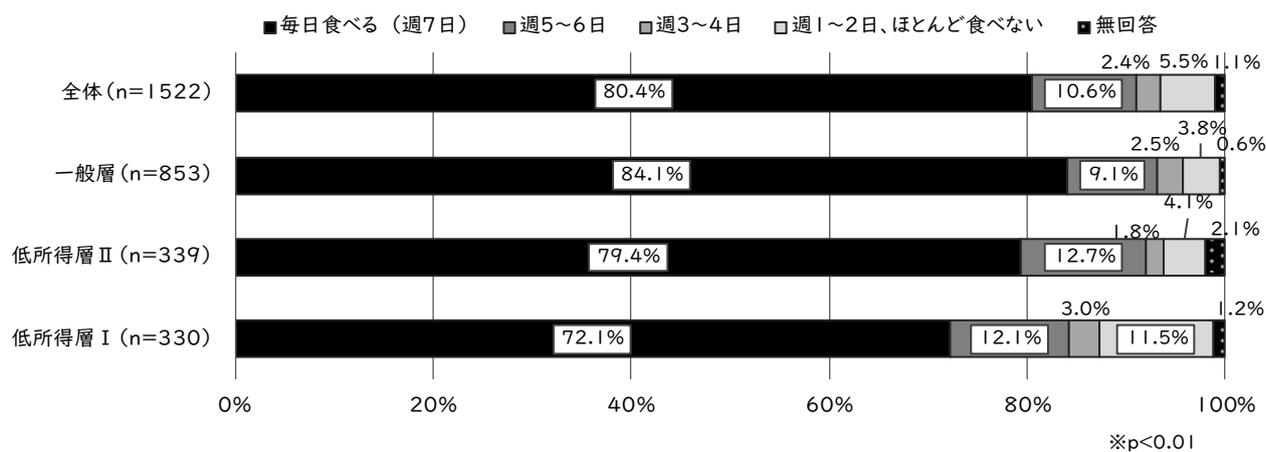


図3-2-2 【中2生徒】朝食



夕食

図3-2-3 【小5児童】夕食

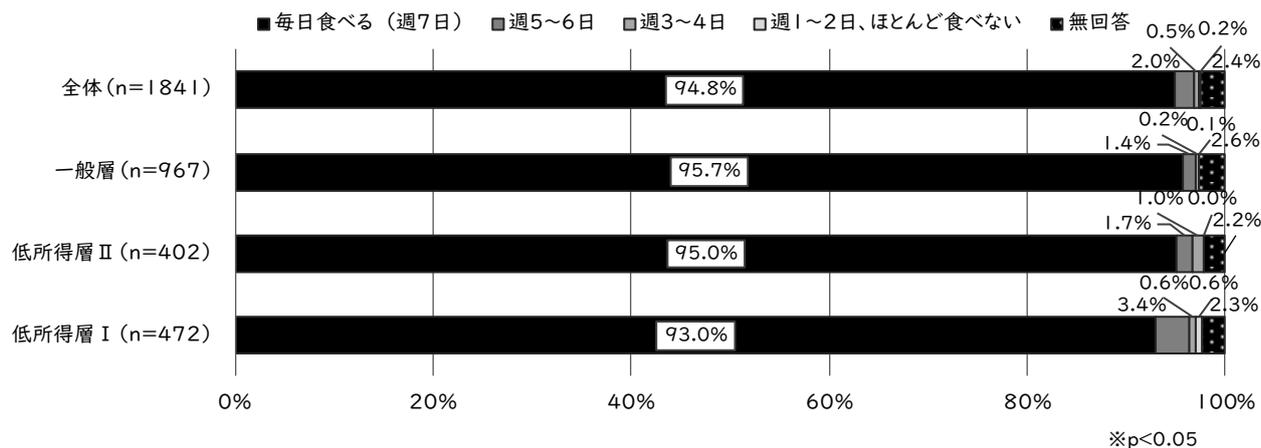
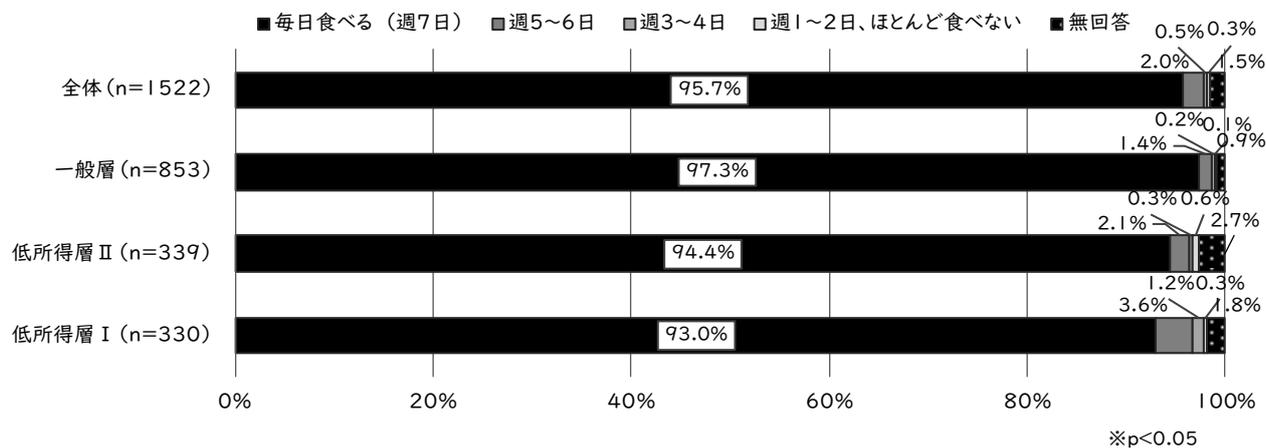


図3-2-4 【中2生徒】夕食



夏休みや冬休みなどの期間の昼食

図3-2-5 【小5児童】夏休みや冬休みなどの期間の昼食

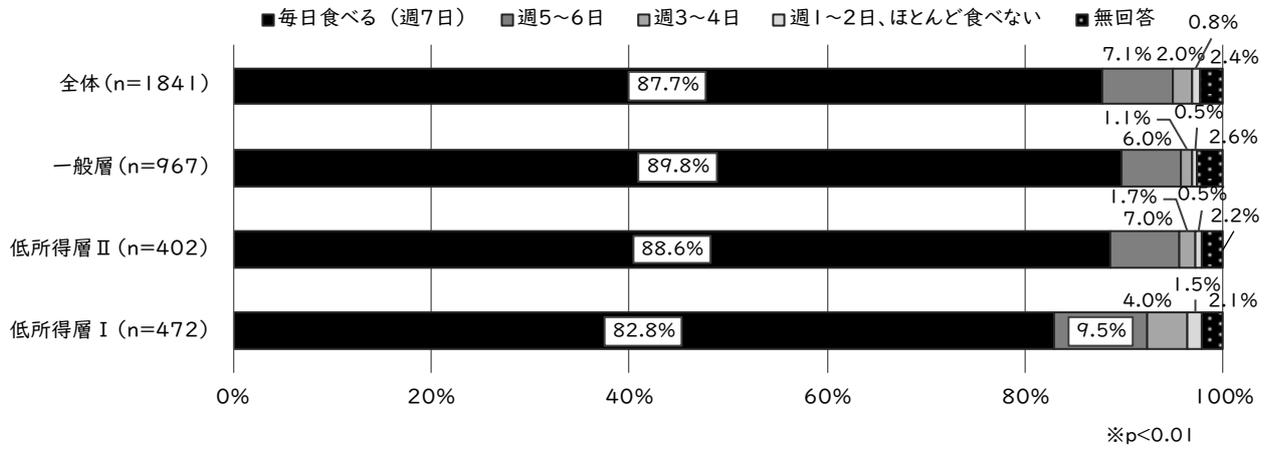
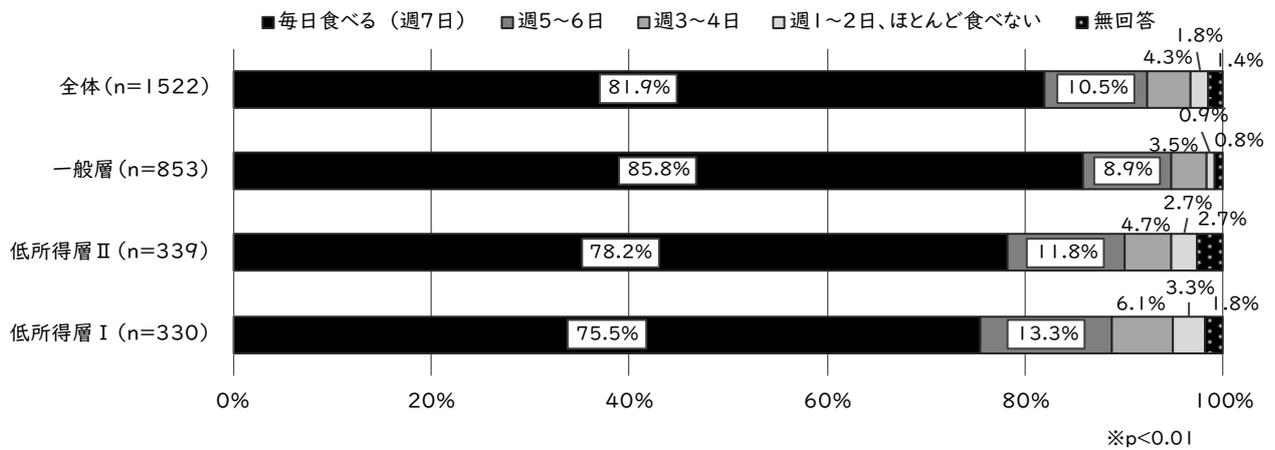


図3-2-6 【中2生徒】夏休みや冬休みなどの期間の昼食



経年比較

図3-2-7 【小5児童】あなたは、週にどのくらい食事をしていますか

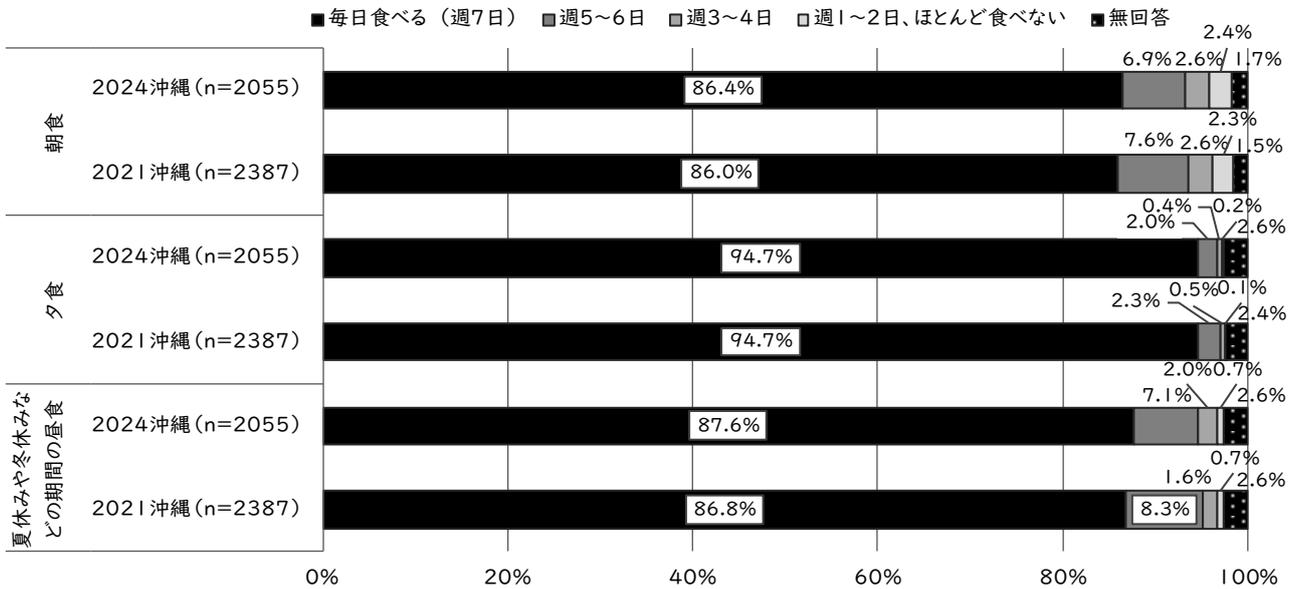
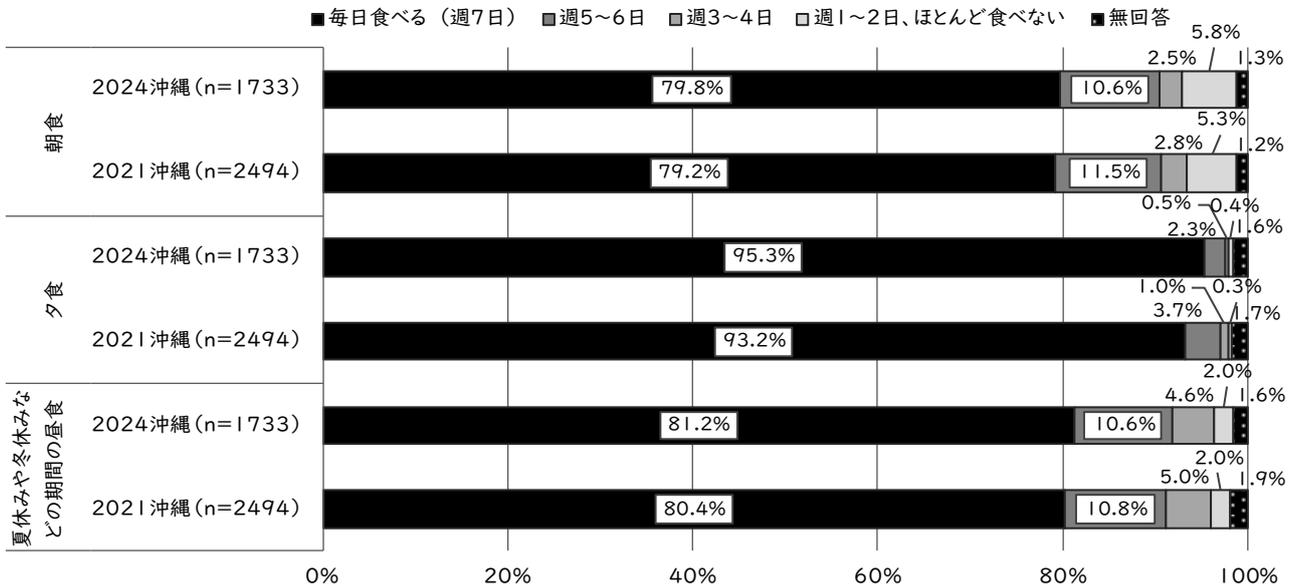


図3-2-8 【中2生徒】あなたは、週にどのくらい食事をしていますか



遅刻した

「学校に遅刻した」ことがあるかを経済状況別に見ています。

小学5年生（図3-2-9）、中学2年生（図3-2-10）ともに、「よくあった」「時々あった」の割合は、所得が低い世帯ほど高くなっています。「よくあった」と「時々あった」の合計は、小学5年生、中学2年生の順でそれぞれ、一般層で18.7%、13.2%、低所得層Ⅱで27.6%、20.9%、低所得層Ⅰで32.9%、27.3%でした。

図3-2-11は、2018年沖縄県調査、2021年沖縄県調査と経年比較したものです。「よくあった」と「時々あった」の合計は、全体的に増加している傾向がうかがえます。小学5年生において、2018年からの比較で20.7%から24.7%に増加し、中学2年生において、13.5%から19.3%に増加しています。

図3-2-9【小5児童】学校に遅刻した

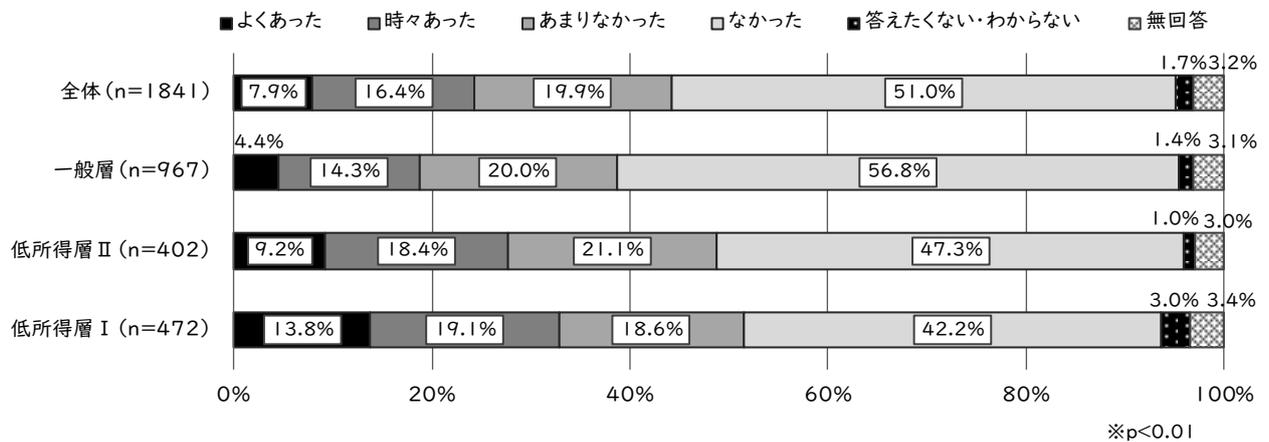
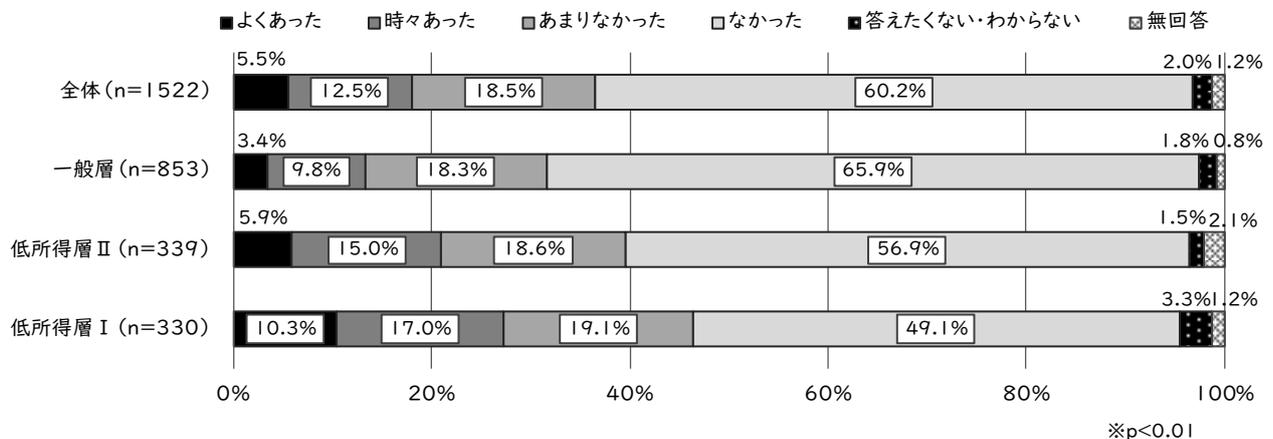
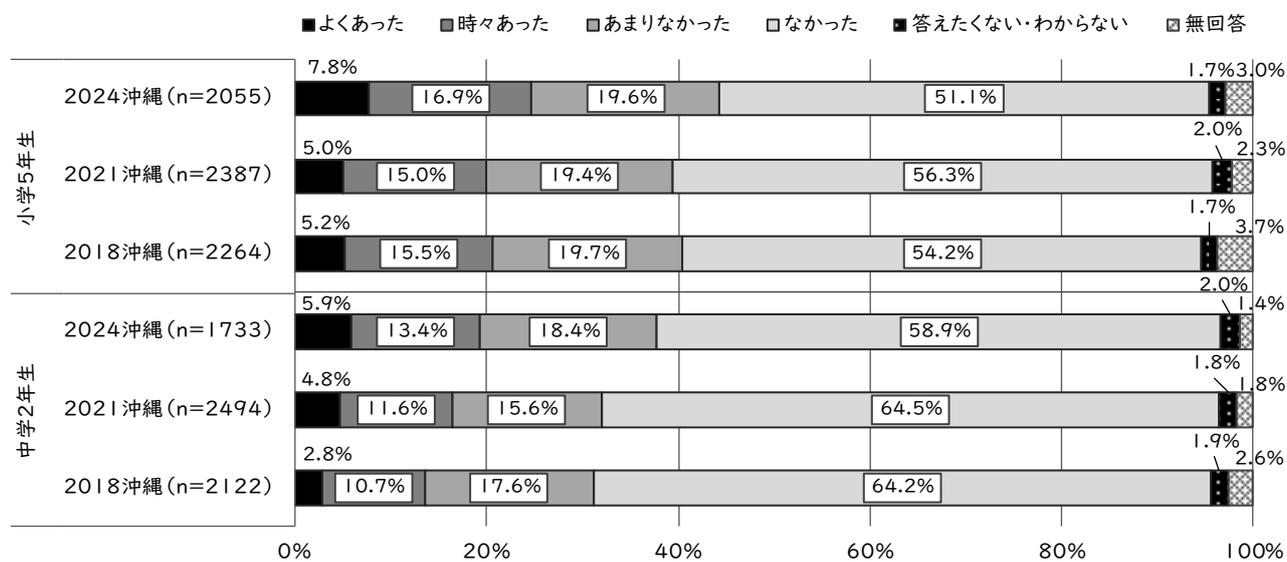


図3-2-10【中2生徒】学校に遅刻した



経年比較

図3-2-11 【小5児童・中2生徒】学校に遅刻した



3 ゲーム・SNSなどの利用、屋外での運動

児童・生徒がゲーム及びSNS（LINEなど）をどのぐらい利用しているのか、テレビやインターネット（YouTubeなど）をどのぐらい視聴しているのか、屋外での運動をどの程度やっているかを尋ねました（図3-3-1から図3-3-8）。

経済状況別に見ると、小学5年生のSNS（LINEなど）（図3-3-3）を除くと、統計的に有意な差が見られました。一方で、ゲーム、SNS（LINEなど）、テレビやインターネット（YouTubeなど）の3つと、屋外での運動では異なる傾向が見えました。小学5年生のSNS（LINEなど）で差が見られないのは、利用している児童が半数程度と少ないことが影響しているのではないのでしょうか。

前者3つでは、「毎日4時間以上」と「毎日2～4時間」という長時間利用・視聴している割合において、低所得層ほど高い傾向があることが推察されました。他方、屋外での運動に関しては、長時間行っている割合に経済状況別の差は顕著ではなく、「全然しない（あてはまらない）」割合が低所得層ほど高い傾向があることが推察されました。

ゲームをする

図3-3-1 【小5児童】ゲーム(ゲーム機、ウェブなど)をする

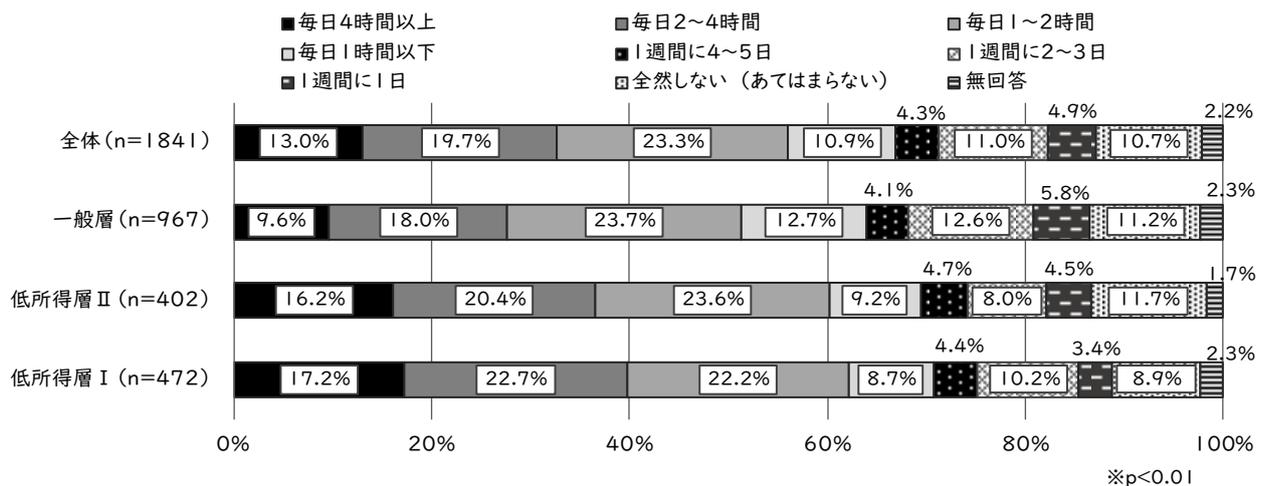
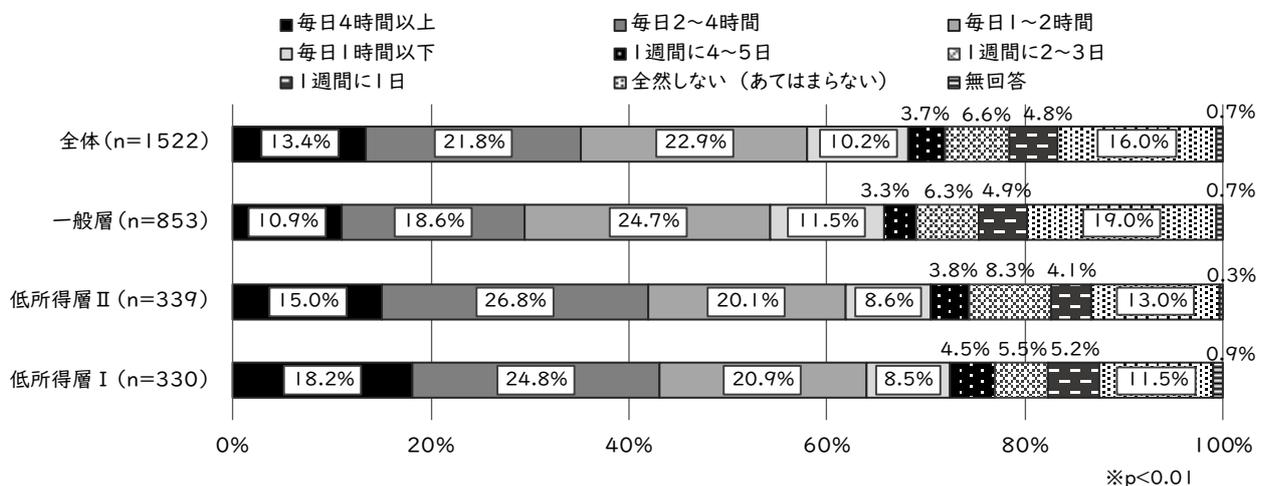


図3-3-2 【中2生徒】ゲーム(ゲーム機、ウェブなど)をする



SNS を見たり、書きこんだりする

図3-3-3 【小5児童】SNS (LINEなど) を見たり、書き込んだりする

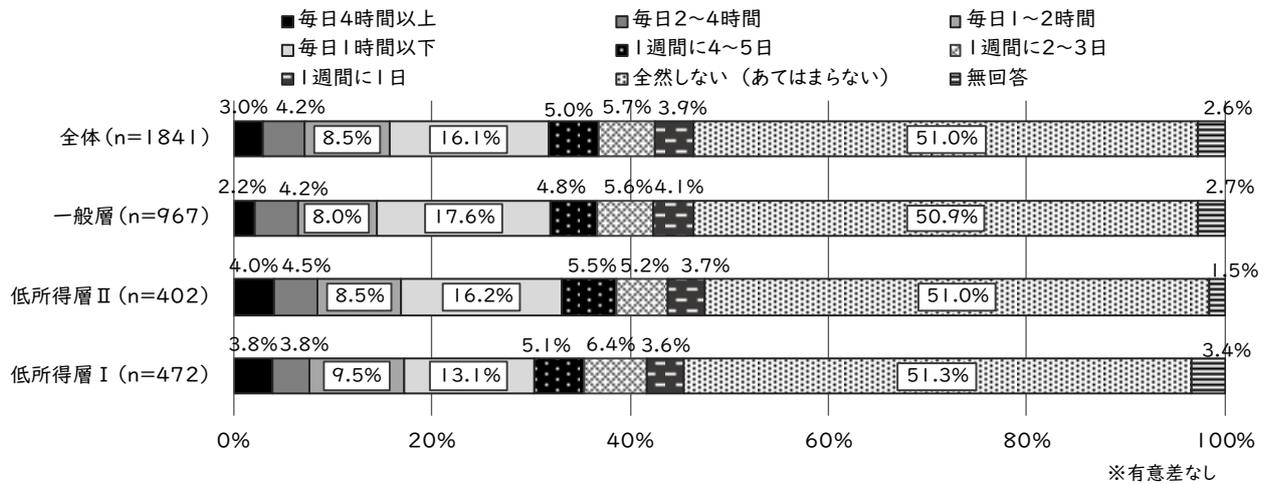
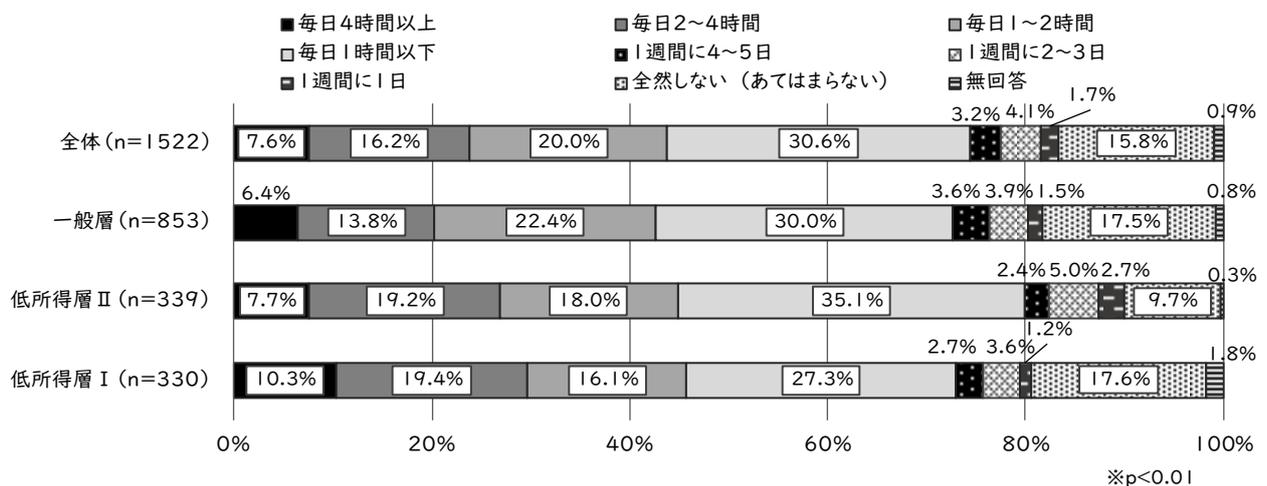


図3-3-4 【中2生徒】SNS (LINEなど) を見たり、書き込んだりする



テレビやインターネットをみる

図3-3-5 【小5児童】テレビやインターネット (YouTubeなど) をみる

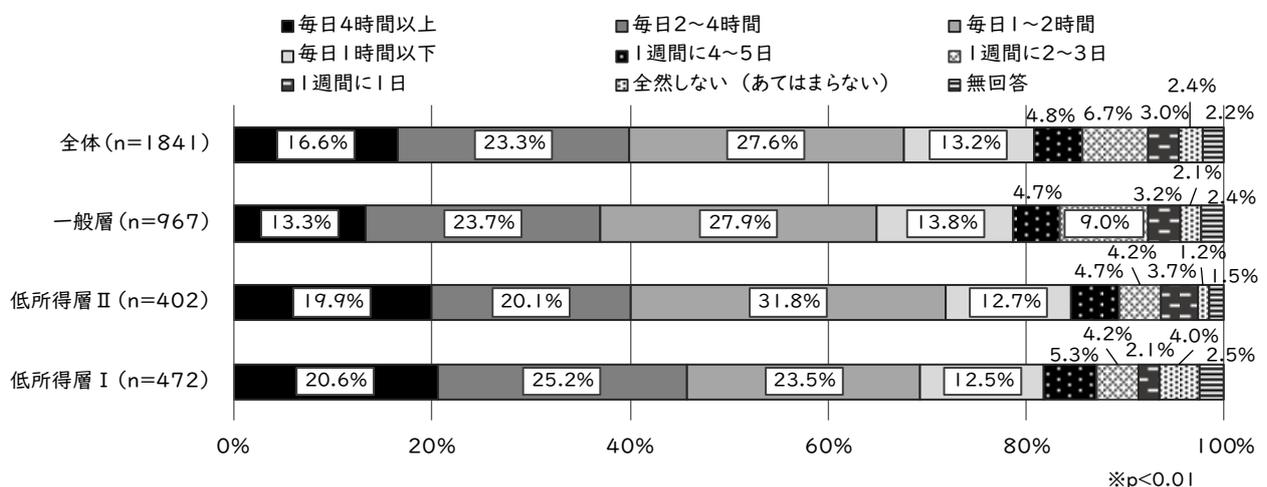
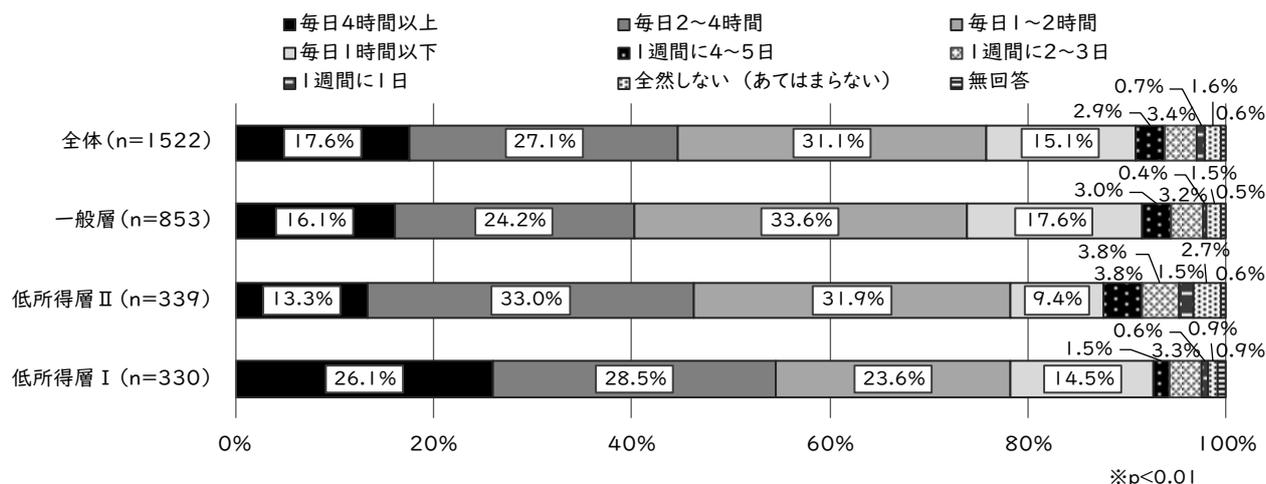


図3-3-6 【中2生徒】テレビやインターネット(YouTubeなど)をみる



屋外での運動

図3-3-7 【小5児童】屋外での運動

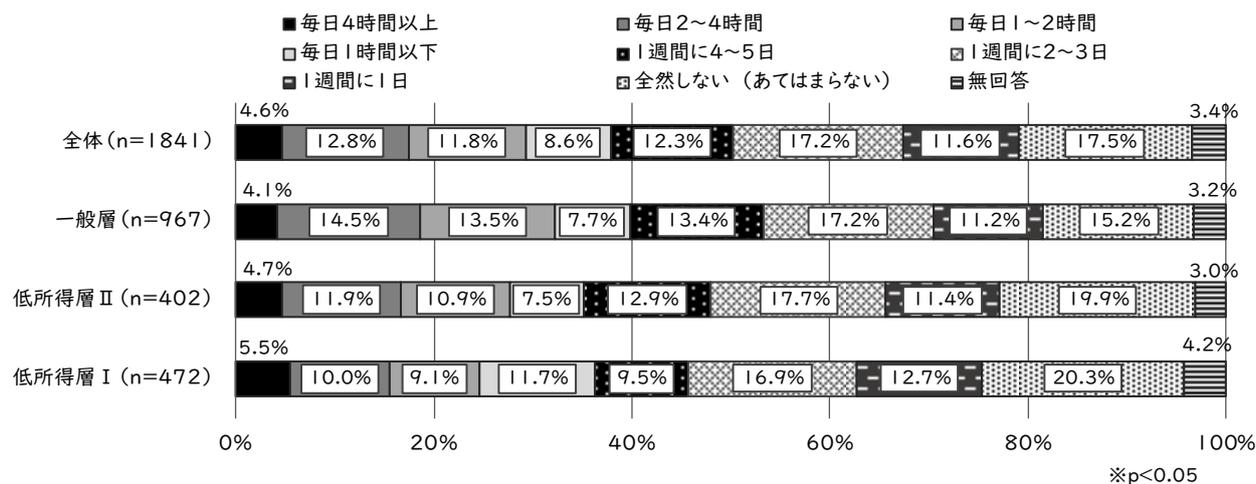
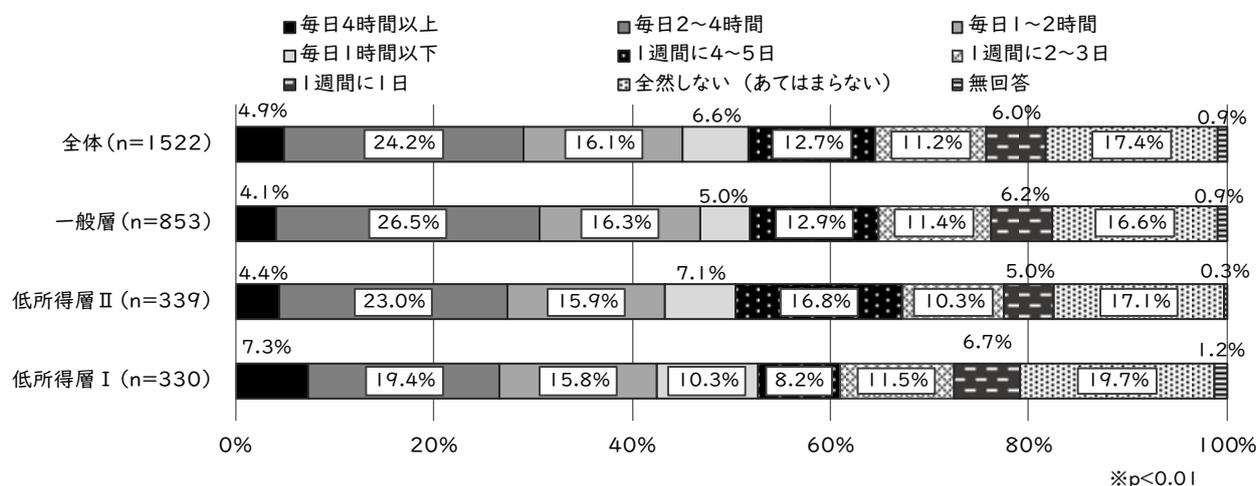


図3-3-8 【中2生徒】屋外での運動



東京都調査との比較

図3-3-9(小学5年生)と図3-3-10(中学2年生)は、2022年東京都調査との比較を行ったものです。小学5年生と中学2年生では異なる傾向が見えました。

小学5年生では、ゲーム、SNS(LINEなど)、テレビやインターネット(YouTubeなど)の3つにおいて、「毎日4時間以上」と「毎日2~4時間」という長時間利用・視聴している割合が、2024年沖縄県調査の方が高いことが推察できました(ただし、SNSについては、長時間利用しているのはどちらも少数でした)。一方で、屋外での運動においては、長時間行っている割合での差はあまりありませんでしたが、「全然しない(あてはまらない)」割合は沖縄県の方が約6ポイント高いことが見えました。

中学2年生では、小学5年生とは異なる傾向が見え、ゲーム、SNS、テレビやインターネット(YouTubeなど)の3つにおいては、「毎日4時間以上」「毎日2~4時間」という長時間利用・視聴している割合は、ほとんど変わらないことが推察できました。一方で、屋外での運動においては、長時間行っている割合は、沖縄県の方が高く、「1週間に2~3日」「1週間に1日」などあまり屋外での運動を行わない場合や、「全然しない」割合は東京都の方が高いことが見えました。

図3-3-9【小5児童】あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか

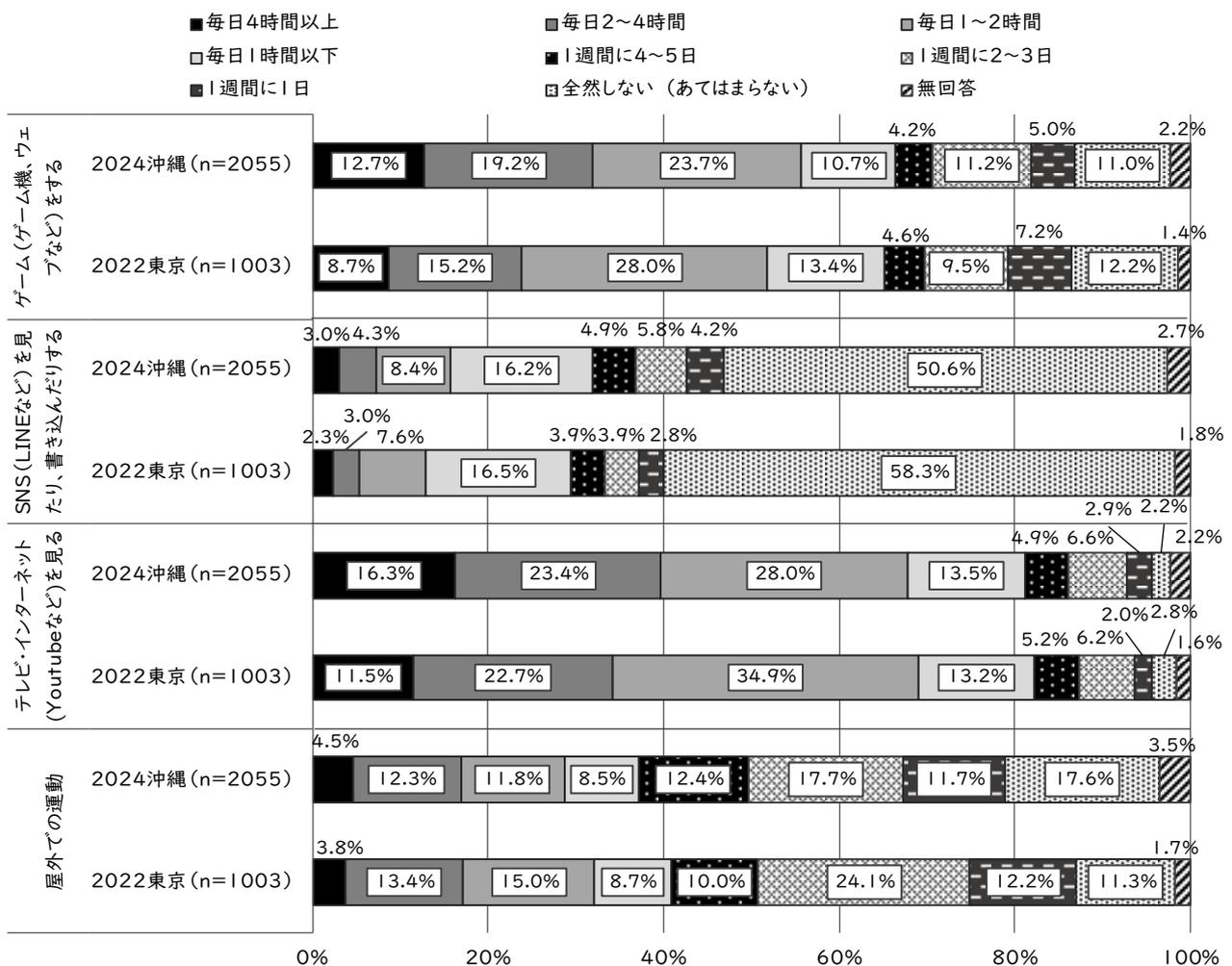
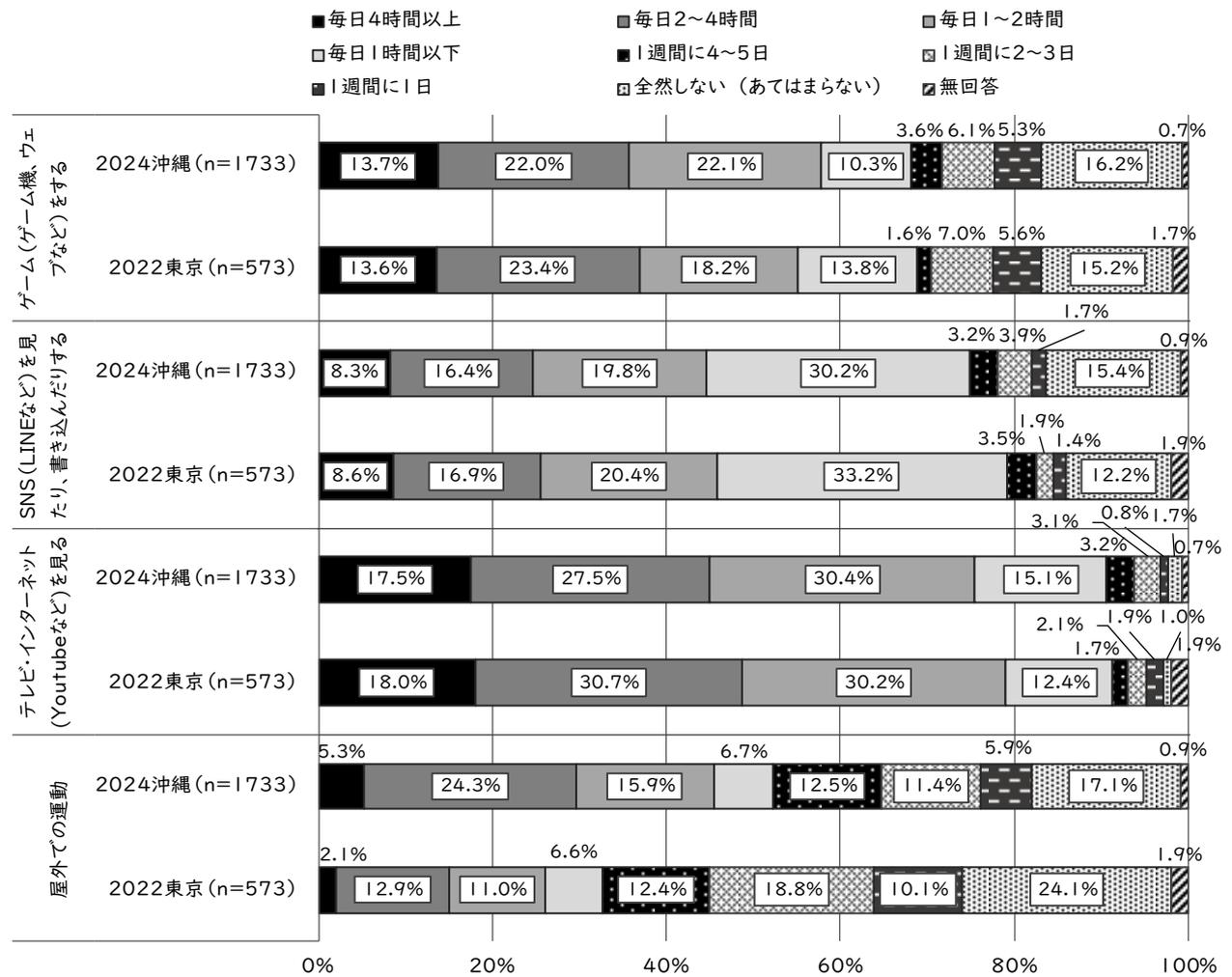


図3-3-10【中2生徒】あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか



4 家事や家族の世話

本調査では、家事や家族の世話など、いわゆるヤングケアラーに関連する質問を児童・生徒に尋ねており、本節はそれに関する分析となります。

ヤングケアラーの定義(こども家庭庁)は、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っているこども・若者」とされています。ただ、定義としての広さも専門家から(積極的な意味で)指摘されるところです(参考文献参照)。

この調査では、一つにはケアする内容を分類し質問をしてみました。家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)、弟や妹の世話、父母・祖父母など家族の介護・看病、さらに家族の通訳や手続きの手伝いです。前者の二つ(家事と弟や妹の世話)は、多くの児童・生徒が通常家庭内で行っているものと考えられます。それに対して、後者の二つ(父母・祖父母など家族の介護・看病と家族の通訳や手続きの手伝い)は、あまり通常の児童・生徒が家庭内で担わないものと考えられ、特に通訳や手続きの手伝いは主に外国につながる家族内で生じるものと思われれます。

さらに、以上の4点の内容に頻度を加えることで、「日常的」という観点を探ってみました。頻度については、「毎日4時間以上」「毎日2～4時間」「毎日1～2時間」「毎日1時間以下」「1週間に4～5日」「1週間に2～3日」「1週間に1日」の7つの選択肢を用意しました。

なお、本質問は2022年沖縄県調査(高校生対象)で初めて用いられたものですが、調査の分析の中では、毎日1時間以上という長時間、家族のケアを担っている児童・生徒の割合には経済状況による差が認められたことから、毎日1時間以上ケアを行うものに焦点をあてて分析しています。また、同様の質問を用いている2022年東京都調査でも、家事、弟や妹の世話については、毎日1時間以上ケアを行っている児童・生徒をヤングケアラーとして分析を行っています。また、東京都調査では、頻度が家事や弟や妹の世話と比べて顕著に少ない、父母・祖父母など家族の介護・看病と家族の通訳や手続きの手伝いについては、週1日以上をヤングケアラーとして分析を行っています。こうしたことから、本調査においても、前者二つについては、毎日1時間以上ケアを行っている児童・生徒を、後者二つの場合は1週間に1日以上をヤングケアラーとして分析を行うこととします。

【参考文献】

・村上靖彦(2022)『「ヤングケアラー」とは誰か一家族を“気づかう”子どもたちの孤立』朝日選書

「家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）」について、小学5年生（図3-4-1）では、毎日1時間以上（「毎日4時間以上」「毎日2～4時間」「毎日1～2時間」の合計）行っている割合は全体で 8.7%でした。経済状況別に見ると、家事を1時間以上行っている割合には、大きな差がないように見えます。

一方で、中学2年生（図3-4-2）では、毎日1時間以上家事を行っている割合は全体で 13.6%でした。経済状況別に見ると、所得が低い世帯ほど、1時間以上行っている割合は高くなっており、低所得層 I では 20.0%でした。

図3-4-3は、同様の質問をしている 2022 年東京都調査との比較です。毎日1時間以上のみ掲載しています。小学5年生においても、中学2年生においても、沖縄県の方が毎日1時間以上家事を行っている児童・生徒の割合が高いことがわかり、特に中学2年生については、沖縄県は 13.8%、東京都は 6.4%であることから2倍以上の差があることがわかりました。

図3-4-1 【小5児童】家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）

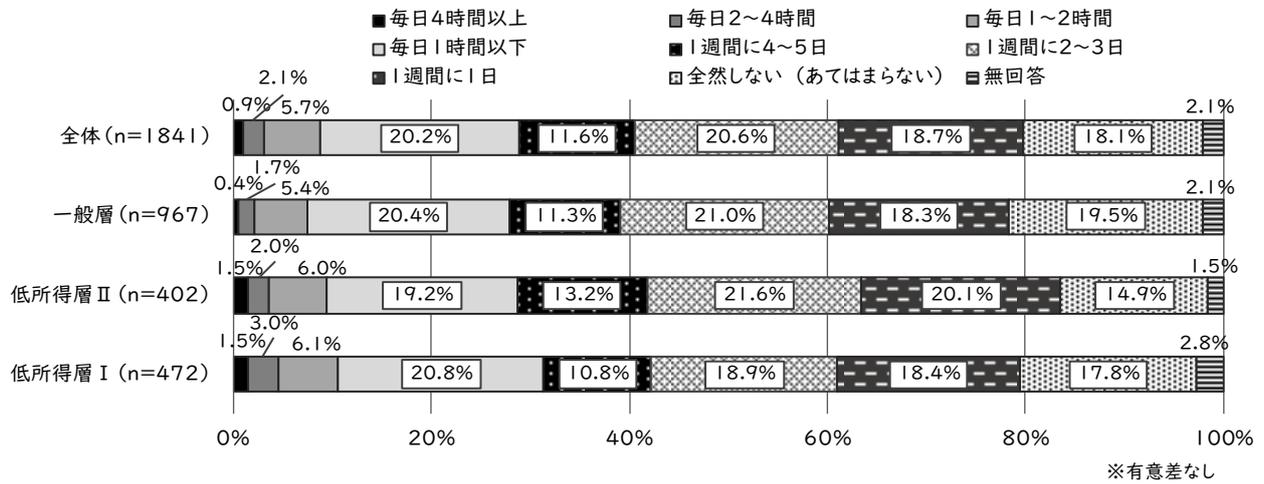
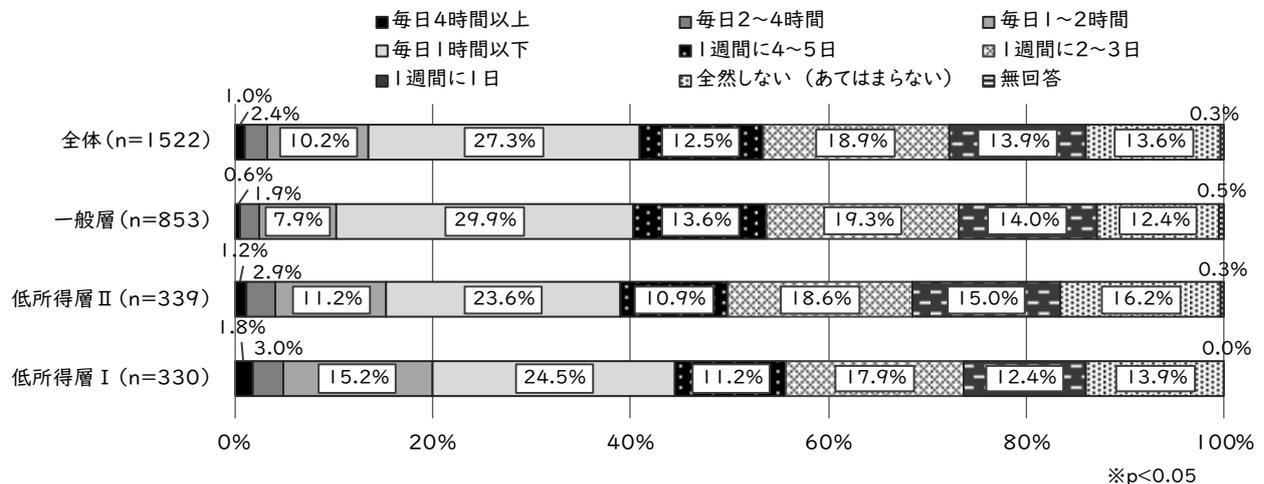
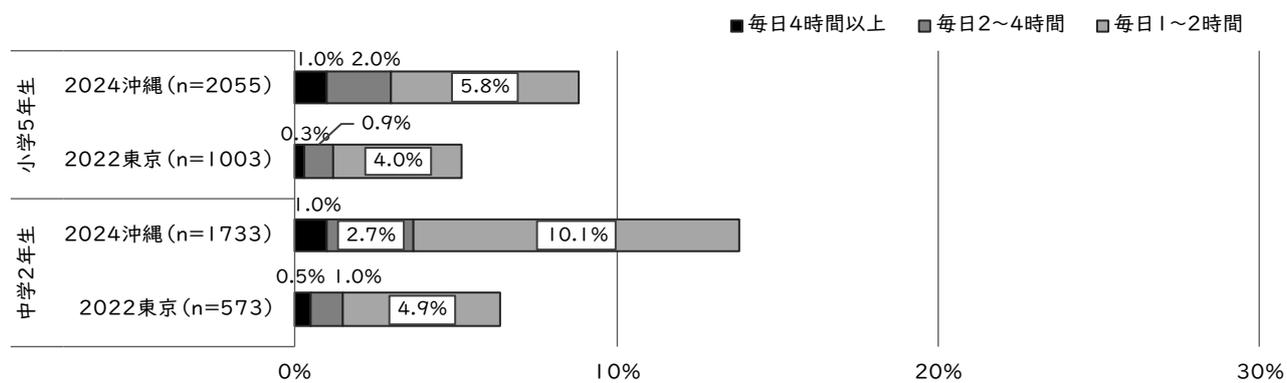


図3-4-2 【中2生徒】家事（洗濯、掃除、料理、片付けなど）



東京都調査との比較

図3-4-3 【小5児童・中2生徒】家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)

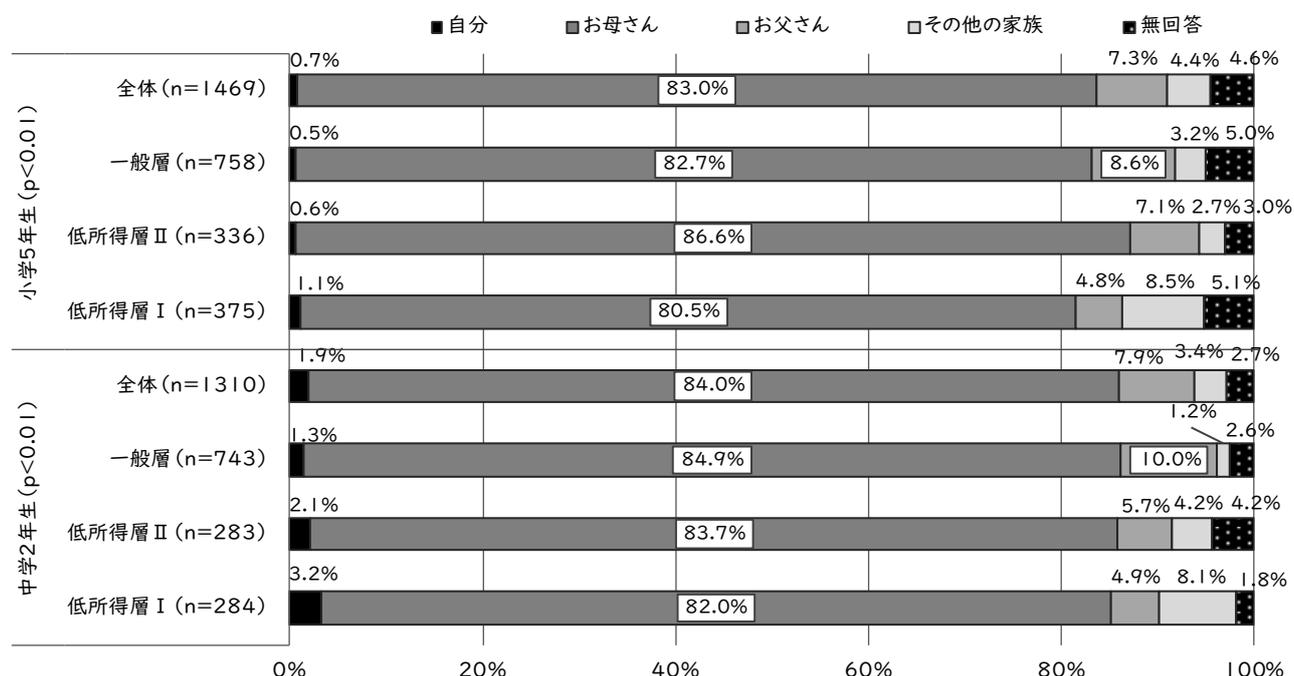


家事をもっとも多く担っている人

図3-4-4は、家族の中で主に誰が家事を担っているかを分析したものです。経済状況別に違いが見られ、小学5年生では、低所得層Ⅰでは「その他の家族」の割合が高く、一般層と低所得層Ⅱでは「お父さん」の割合が高くなっていました。中学2年生では、所得が低い世帯ほど、「自分」（生徒自身）と「その他の家族」の割合が高くなっており、生徒自身については、低所得層Ⅰは3.2%となっていました。

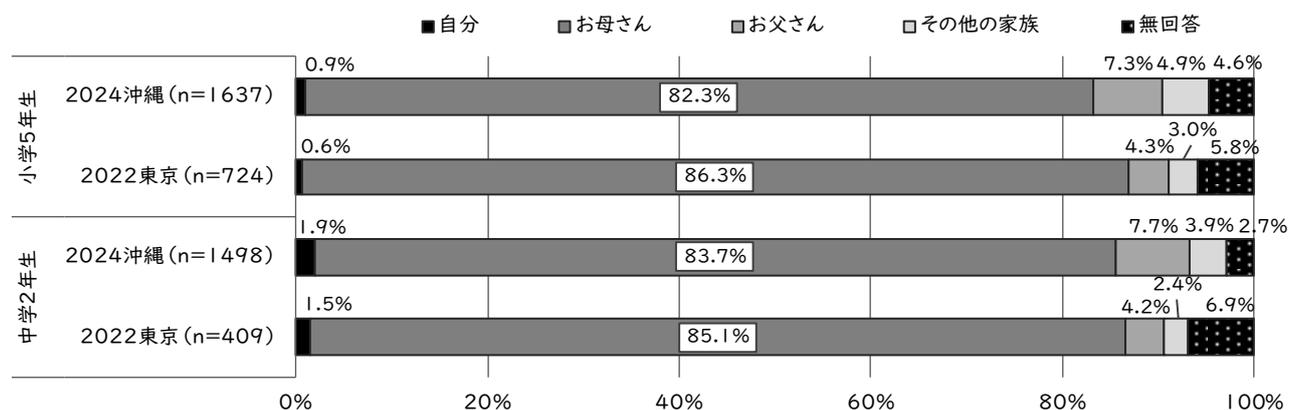
図3-4-5は、2022年東京都調査との比較です。小学5年生においても中学2年生においても、沖縄県の方が「お父さん」や「その他の家族」の割合が高いことがわかりました。

図3-4-4 【小5児童・中2生徒】家族の中で、家事をもっとも多く担っている人はだれですか



東京都調査との比較

図3-4-5 【小5児童・中2生徒】家族の中で、家事をもっとも多く担っている人はだれですか



弟や妹の世話

「弟や妹の世話」について、小学5年生（図3-4-6）では、毎日1時間以上（「毎日4時間以上」「毎日2～4時間」「毎日1～2時間」の合計）行っている割合は全体で15.5%でした。経済状況別に見ると、弟や妹の世話を1時間以上行っている割合には、大きな差がないように見えます。

一方で、中学2年生（図3-4-7）では、毎日1時間以上家事を行っている割合は全体で12.0%でした。経済状況別に見ると、統計的な有意差はありませんが、1時間以上行っている割合は、低所得層Ⅰでは13.9%、低所得層Ⅱでは15.6%と若干高くなっていました。

図3-4-8は、同様の質問をしている2022年東京都調査との比較です。毎日1時間以上のみ掲載しています。小学5年生においても、中学2年生においても、沖縄県の方が弟や妹の世話をしている児童・生徒の割合が高いことがわかりました。

図3-4-6 【小5児童】弟や妹の世話

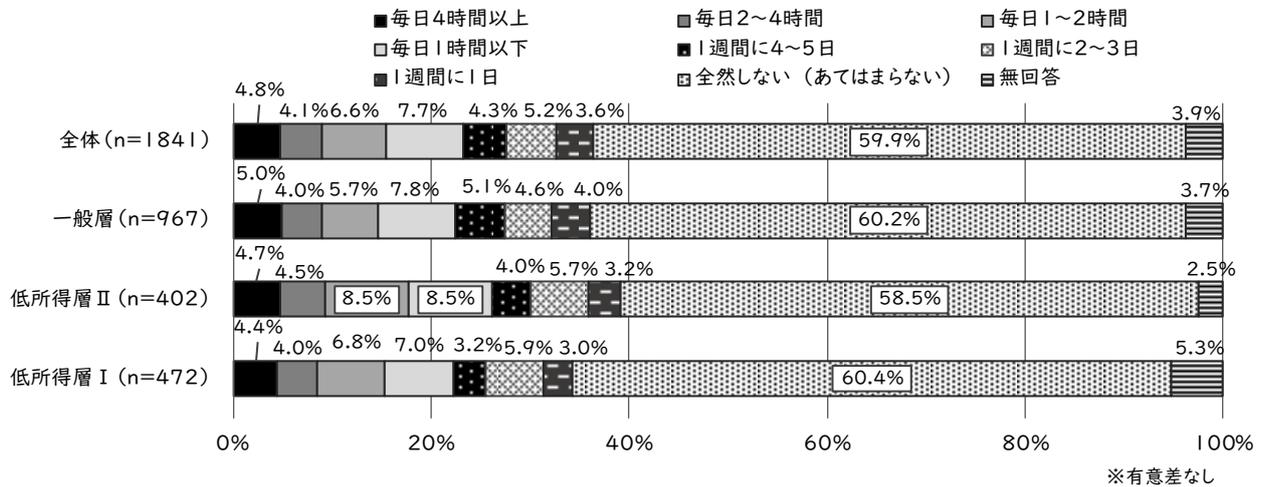
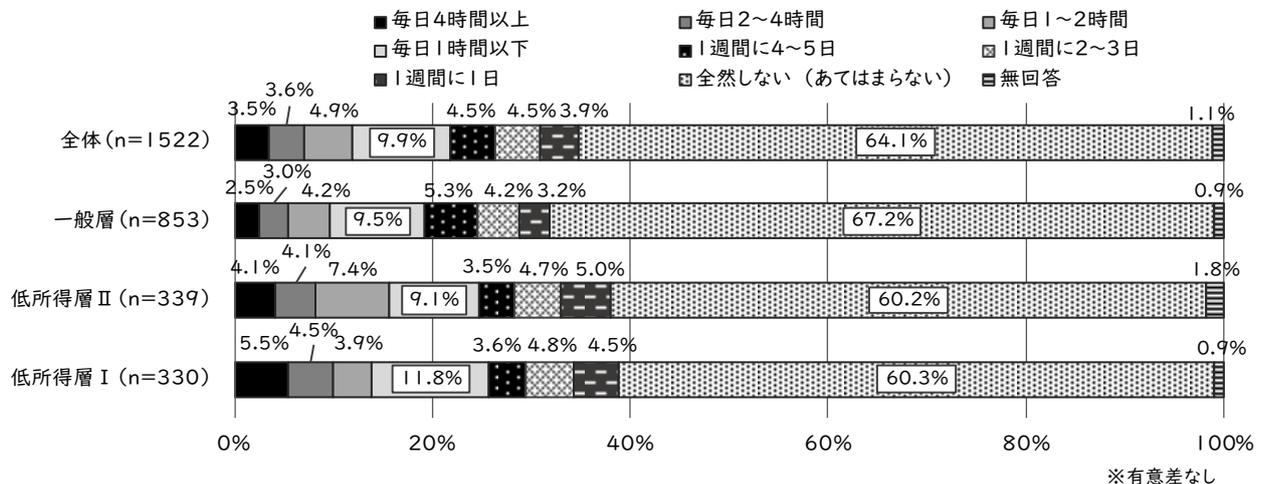
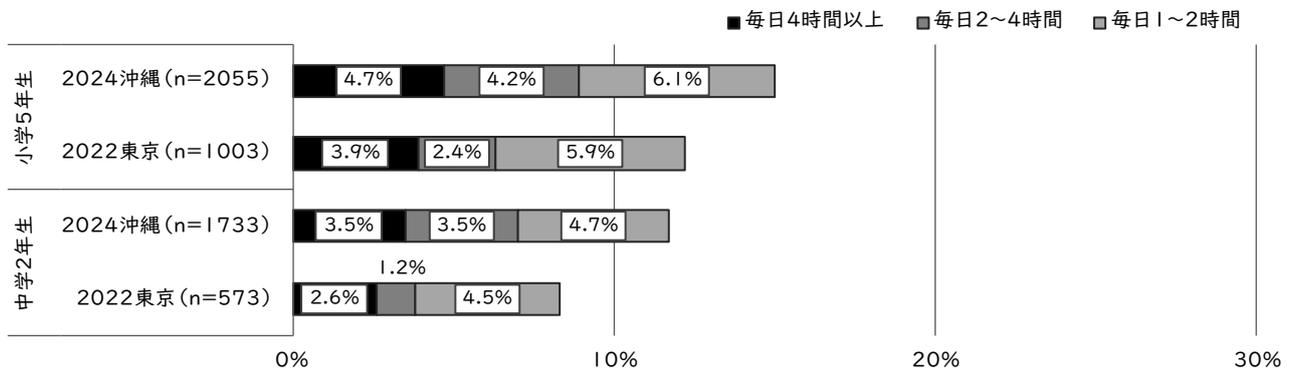


図3-4-7 【中2生徒】弟や妹の世話



東京都調査との比較

図3-4-8 【小5児童・中2生徒】弟や妹の世話



父母・祖父母など家族の介護・看病

「父母・祖父母など家族の介護・看病」について、小学5年生（図3-4-9）では、1週間に1日以上（「毎日1時間以上」「毎日1時間以下」「1週間に4～5日」「1週間に2～3日」「1週間に1日」の合計。「毎日4時間以上」「毎日2～4時間」「毎日1～2時間」の数値がかなり小さいことから、合算して「毎日1時間以上」としてまとめている）を行っている割合は全体で 5.5%でした。経済状況別に見ると、統計的な有意差はありませんが、父母や祖父母などの介護・看病を1週間に1日以上行っている割合は、低所得層Ⅰでは 7.3%と若干高くなっていました。

一方で、中学2年生（図3-4-10）では、1週間に1日以上父母や祖父母などの介護・看病を行っている割合は全体で 4.1%でした。経済状況別に見ると、やはり統計的な有意差はありませんが、1週間に1日以上行っている割合は、低所得層Ⅰでは 5.4%と若干高くなっていました。

図3-4-11は、同様の質問をしている2022年東京都調査との比較です。1週間に1日以上のみ掲載しています。小学5年生においても、中学2年生においても、沖縄県の方が父母や祖父母などの介護・看病を行っている児童・生徒の割合が高いことがわかりました。特に、小学5年生については、沖縄県は 5.8%、東京都は 2.6%であることから2倍以上の差があることがわかりました。

図3-4-9 【小5児童】父母・祖父母など家族の介護・看病

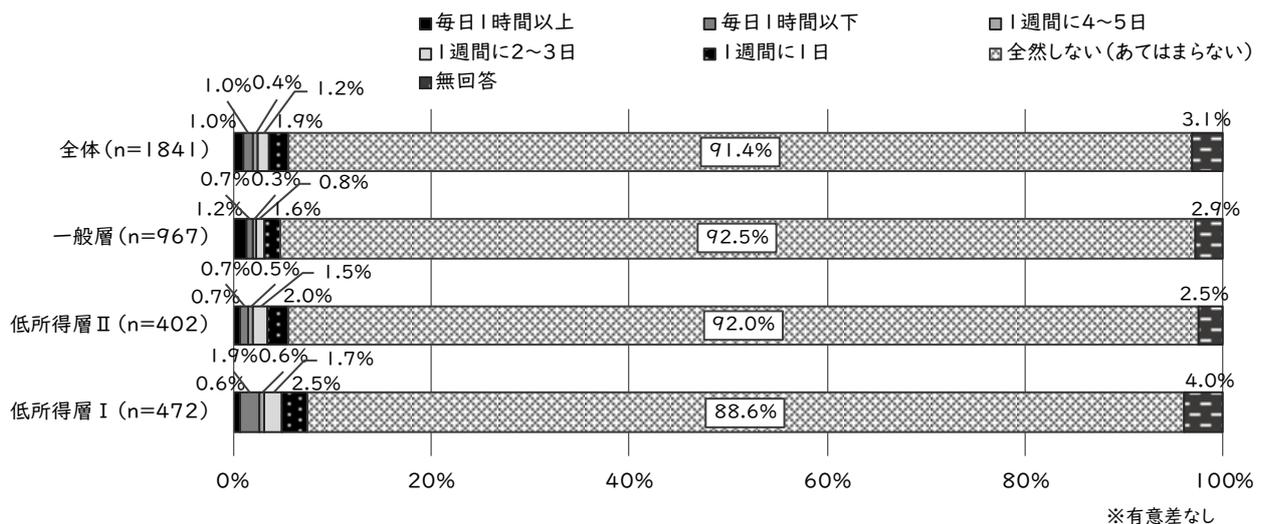
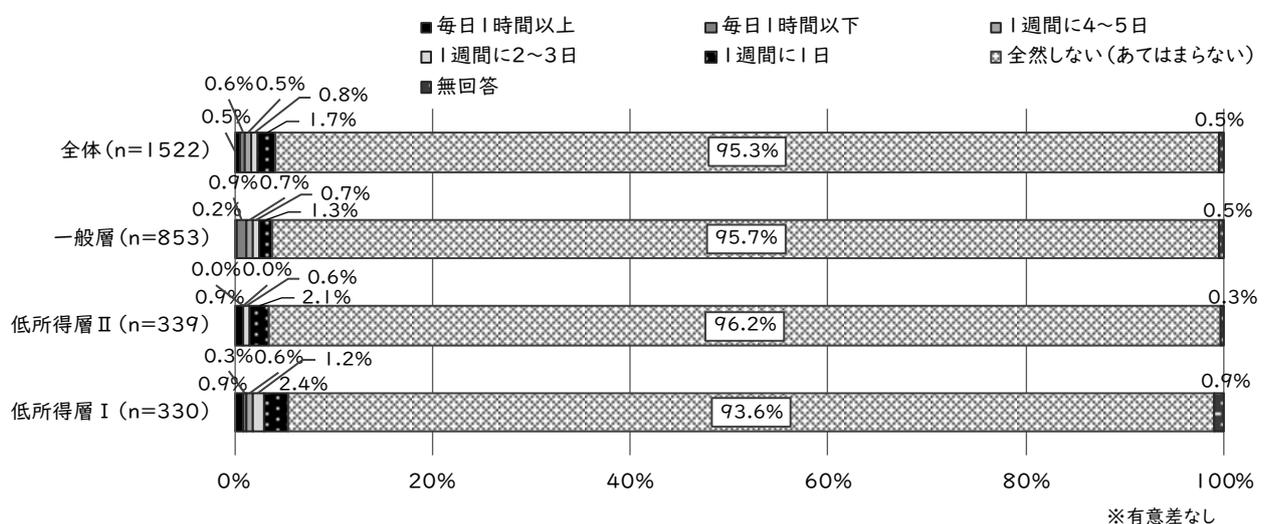
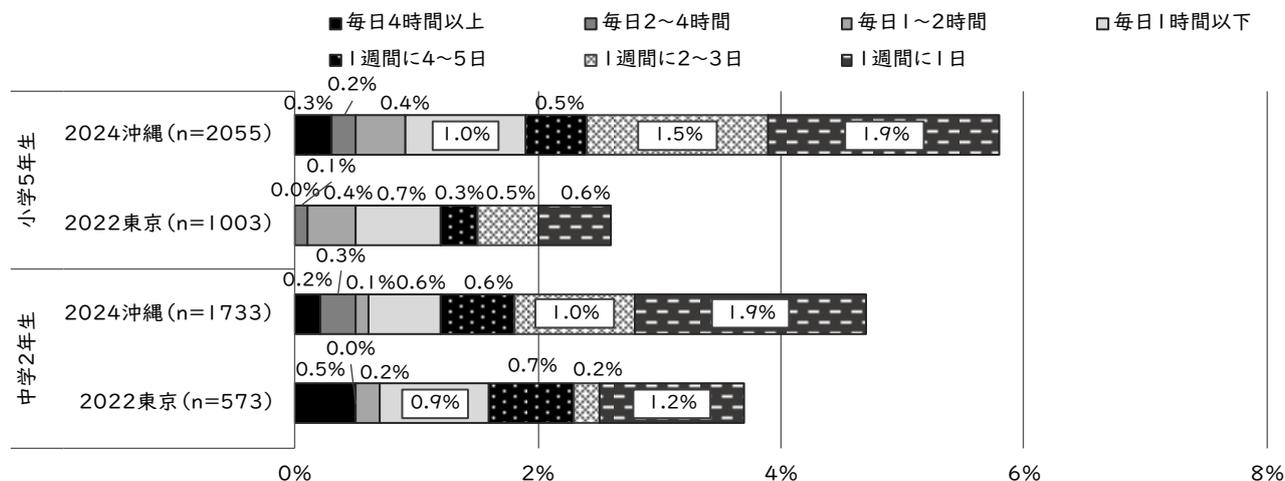


図3-4-10 【中2生徒】父母・祖父母など家族の介護・看病



東京都調査との比較

図3-4-11 【小5児童・中2生徒】父母・祖父母など家族の介護・看病



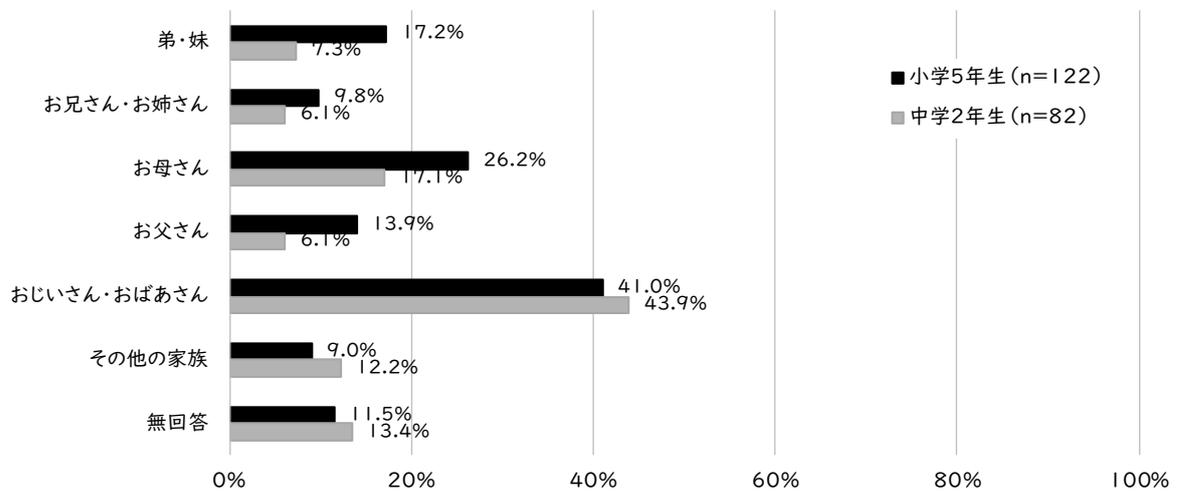
介護・看病している人

図3-4-12は、児童・生徒が介護・看病しているのは誰かを尋ねた結果です。介護・看病を「全然しない」と「無回答」は除いています。

すると、小学5年生・中学2年生とも似たような傾向が見えました。「おじいさん・おばあさん」の割合がどちらももっとも高く、次に「お母さん」の割合が高いことが見えました。「お母さん」の割合は、小学5年生の方が高くなっていました。

一方で、小学5年生では、「弟・妹」の割合が「お母さん」に次いで高く、中学2年生よりも10ポイント近く高いことが見えました。これは、小学5年生の方が、年齢の若い弟や妹がいることが多いことからくるものと思われます。中学2年生について、3番目に高いのは「その他の家族」でした。

図3-4-12 【小5児童・中2生徒】あなたが介護・看病している人はだれですか（複数選択）



家族の通訳や手続きの手伝い

「家族の通訳や手続きの手伝い」について、小学5年生(図3-4-13)では、1週間に1日以上(「毎日1時間以上」「毎日1時間以下」「1週間に4~5日」「1週間に2~3日」「1週間に1日」の合計。「毎日4時間以上」「毎日2~4時間」「毎日1~2時間」の数値がかなり小さいことから、合算して「毎日1時間以上」としてまとめている)行っている割合は全体で9.6%でした。経済状況別に見ると、統計的な有意差はありませんが、通訳や手続きの手伝いを1週間に1日以上行っている割合は、低所得層Ⅰでは11.1%、低所得層Ⅱでは10.8%と若干高くなっていました。

一方で、中学2年生(図3-4-14)では、1週間に1日以上、家族の通訳や手続きの手伝いを行っている割合は全体で4.2%でした。経済状況別に見ると、やはり統計的な有意差はありませんが、1週間に1日以上行っている割合は、低所得層Ⅰでは6.0%と若干高くなっていました。

図3-4-15は、同様の質問をしている2022年東京都調査との比較です。1週間に1日以上のみ掲載しています。小学5年生においては、沖縄県の方が家族の通訳や手続きの手伝いを1週間に1日以上行っている児童の割合が高いことがわかりました(東京都は4.9%、沖縄県は9.7%であることから約2倍の違いがありました)。一方、中学2年生においては、東京都の方が1週間に1日以上行っている生徒の割合が高くなっていました。

図3-4-13【小5児童】家族の通訳や手続きの手伝い

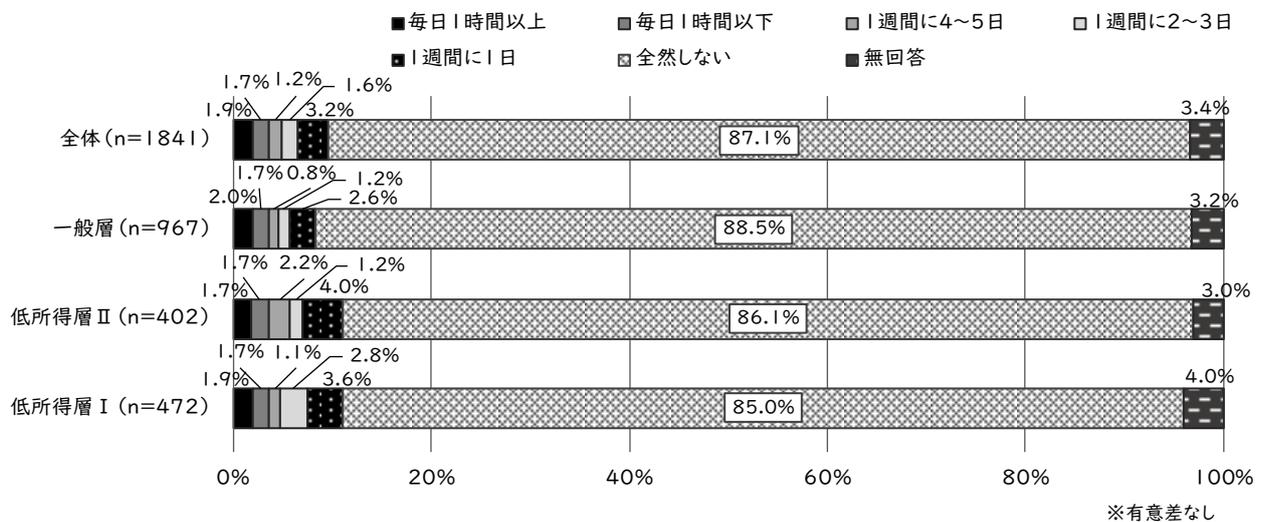
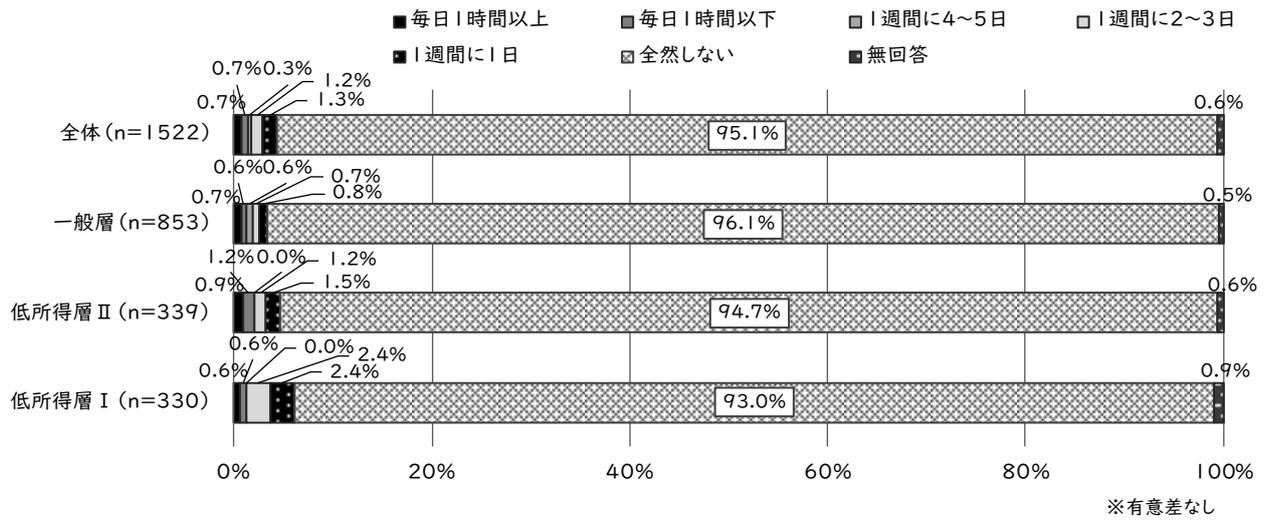
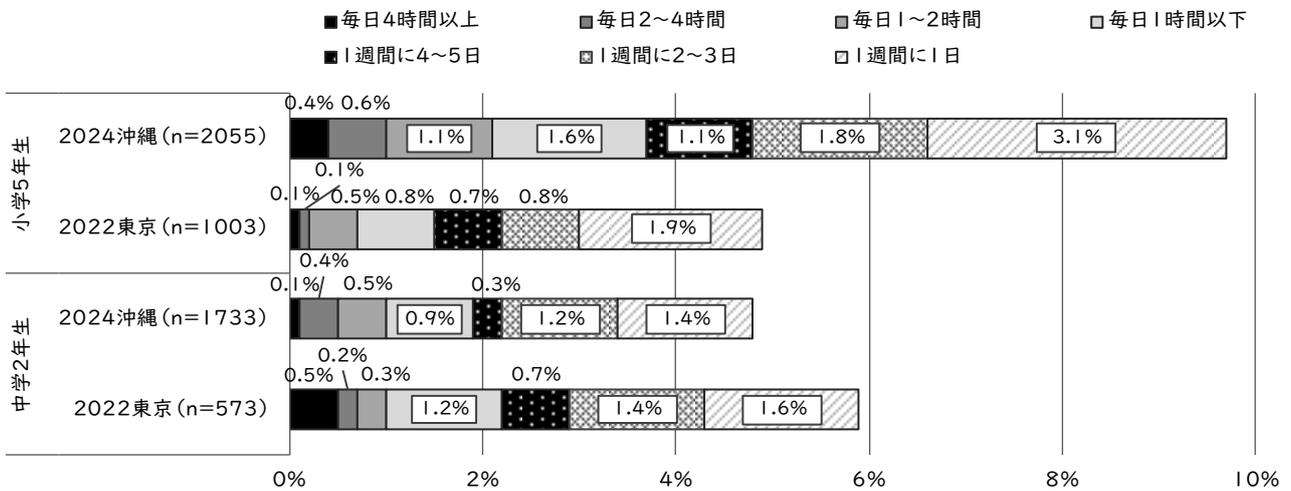


図3-4-14 【中2生徒】家族の通訳や手続きの手伝い



東京都調査との比較

図3-4-15 【小5児童・中2生徒】家族の通訳や手続きの手伝い



5 逆境体験

中学2年生に、これまでの人生のなかで困難で苦しい状況をどのくらい体験したことがあるかを尋ねています。「逆境体験」(Adverse Childhood Experience: ACE)と言われるものです。内閣府の「子供の生活状況調査」(2021年)で使用された8項目に、「家族の世話をしているため、やりたいことができないことがある」を追加しています。

図3-5-1では、全体でも経済状況別においても、9項目どれも体験したことがない(「あてはまるものはない」)割合が、もっとも多くなっていました。「あてはまるものはない」については、経済状況による有意差が認められ、一般層の76.9%に対して、低所得層Ⅰでは46.1%と、5割未満にとどまっていた。

体験している者のうち、もっとも多いのは、「両親が、別居または離婚したことが一度でもある」で、低所得層ほど、その割合は高いことが判明しました。

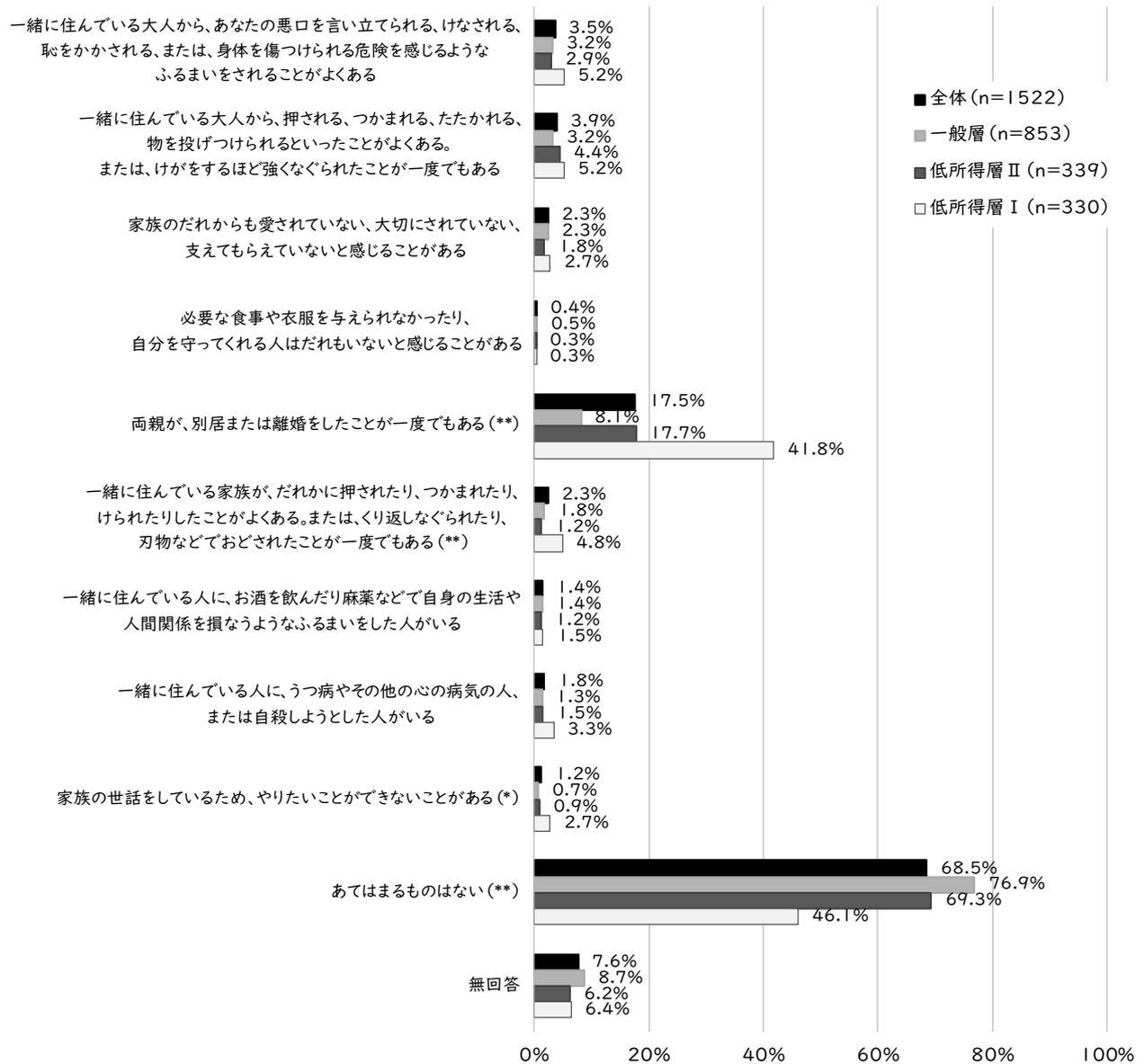
また、多くの項目で低所得層Ⅰにおいてその割合が高いことが見えましたが、特に統計的に有意な差があるものとして、先の別居または離婚のほかに、ふたつの項目がありました。「一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある」という、家族間(が想像される)身体的暴力(つまりDV)にさらされた経験をもつ生徒は、低所得層Ⅰでもっとも高く(4.8%)、また「家族の世話をしているため、やりたいことができないことがある」というヤングケアラー状況にある生徒も、低所得層Ⅰでもっとも高い(2.7%)こともわかりました。

図3-5-2は、2022年東京都調査と比較したものです。

沖縄県の方が「両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある」が約5ポイント高く、さらに家族からの暴力(身体的・心理的)を体験してきた(「一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある」「一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある」と回答する割合が1ポイント以上高いことがわかりました。

また、東京都の方が「あてはまるものはない」が約7ポイント高く、さらに「一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる」という回答は1ポイント以上高くなっていました(ただし、沖縄県の方が一つ選択肢が多い点には留意が必要です)。

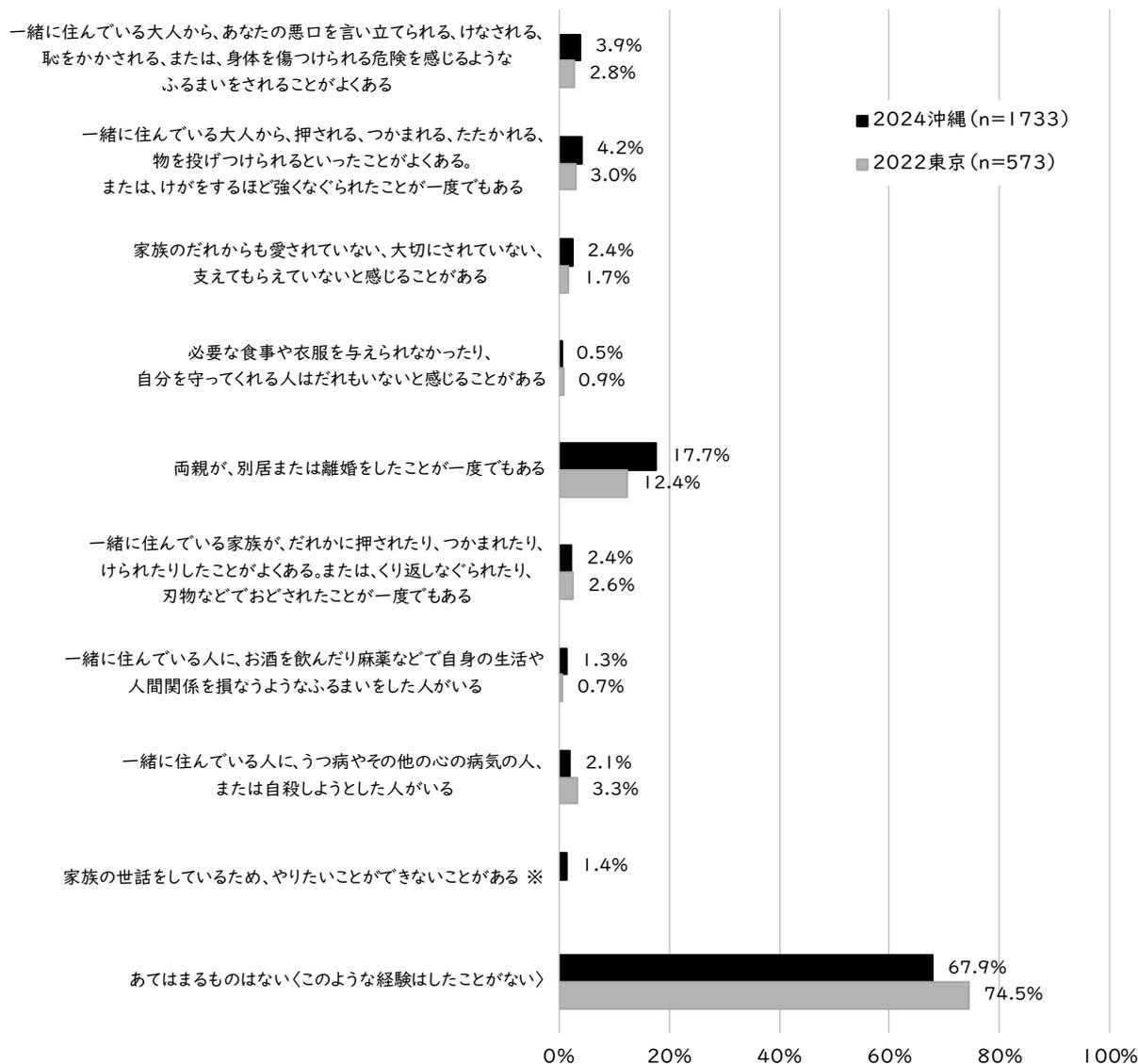
図3-5-1 【中2生徒】あなたは、今までに以下のようなことがありましたか(複数選択)



※ (**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

東京都調査との比較

図3-5-2【中2生徒】あなたは、今までに以下のようなことがありましたか(複数選択)



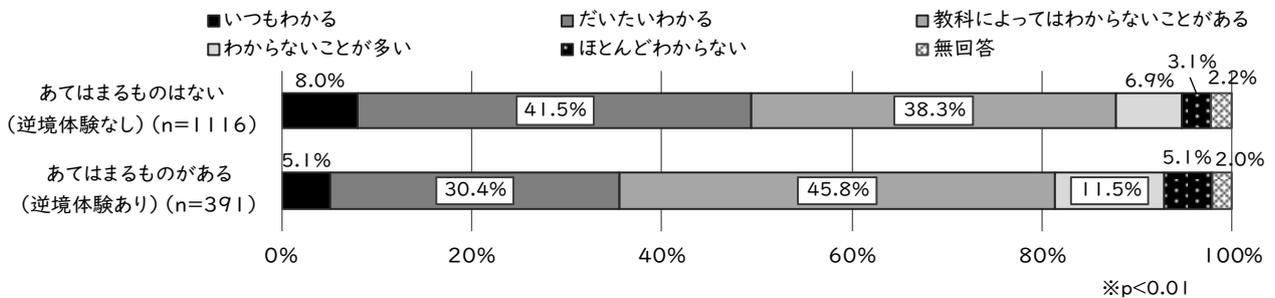
※2022年東京都調査には、「家族の世話をしているため、やりたいことができないことがある」の選択肢はない。〈〉内は、2022年東京都調査の選択肢

逆境体験の有無 × 学校の授業の理解

図3-5-3は、中学2年生の生徒について、図3-5-1における逆境体験について「あてはまるものがない」という（つまりは逆境体験がまったくない）生徒と、一つでも質問項目にあてはまるものがある（つまりは逆境体験がある）生徒間で、学校の授業がわからないことがあるかという質問に対する回答割合が異なるかを検討したものです。無回答については除いて分析しています。

すると、「いつもわかる」「だいたいわかる」割合は、あてはまるものがある（つまり逆境体験がある）生徒の方が低く、「教科によってはわからないことがある」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」割合については、逆境体験がない生徒の方が低いことがわかりました。特に、「だいたいわかる」については、約11ポイント、「教科によってはわからないことがある」は約8ポイント、「わからないことが多い」は約5ポイントの差がありました。

図3-5-3 【中2生徒】逆境体験の有無 × 学校の授業の理解



6 相談相手

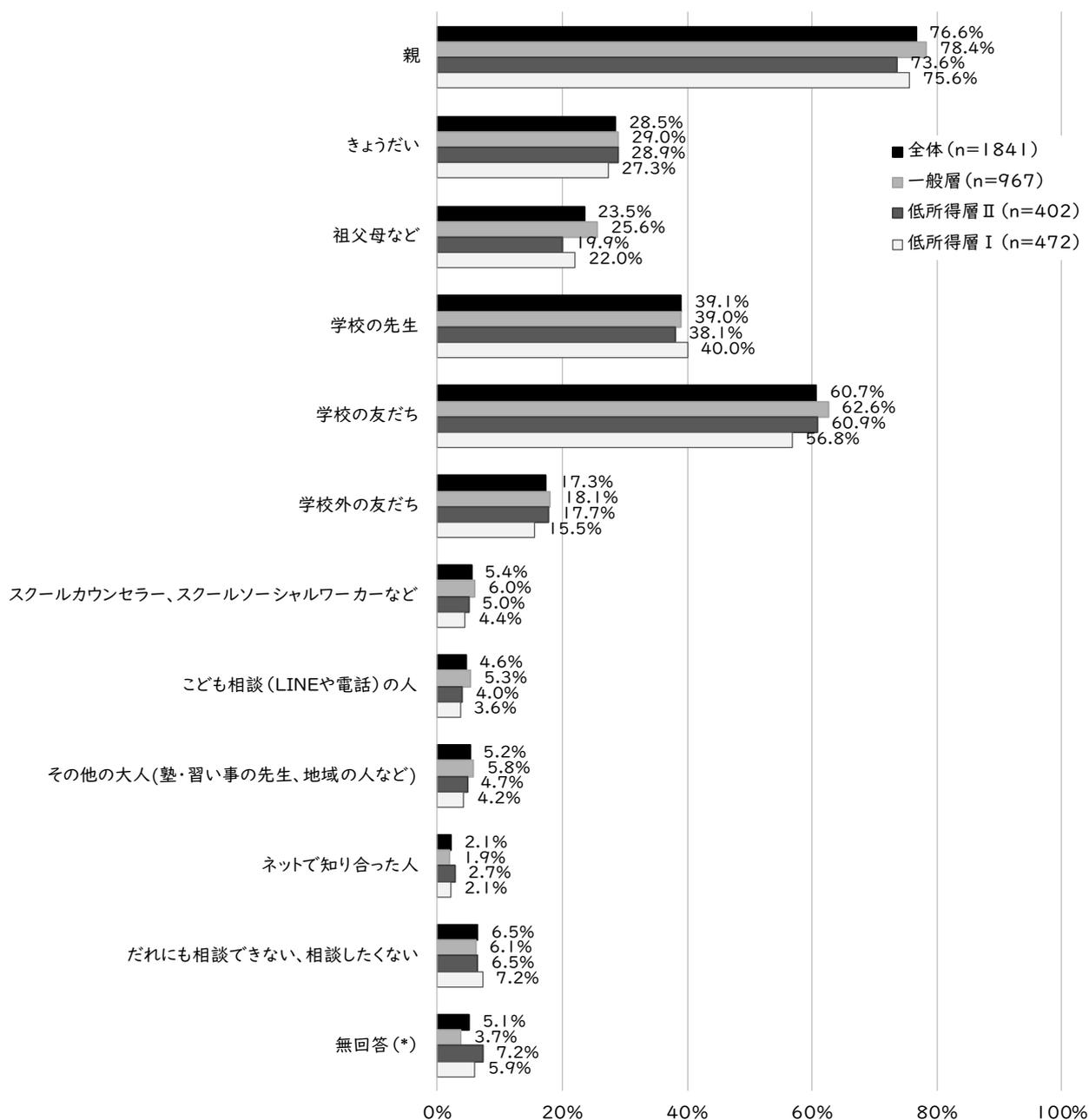
児童・生徒に、困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人について尋ねています。

小学5年生(図3-6-1)では、全体で「親」が76.6%、「学校の友だち」が60.7%、「学校の先生」が39.1%と高いことがわかりました。経済状況別に見ると、顕著な差は見られませんでした。

中学2年生(図3-6-2)では、全体で「親」が68.5%、「学校の友だち」が67.6%、「学校の先生」が30.4%、の順となっています。小学5年生と比較して、「学校の友だち」が増え、「親」及び「学校の先生」が減っています。また、割合は少ないながら「ネットで知り合った人」や「だれにも相談できない、相談したくない」の割合は増えています。経済状況別に見ると、「親」「学校の友だち」「学校の先生」については、低所得層Ⅰは他の世帯に比べ割合が低くなっていることがわかります(有意差あり)。一方で、「ネットで知り合った人」「だれにも相談できない、相談したくない」は、有意差はありませんが、低所得層Ⅰでは他の世帯に比べ高くそれぞれ7.0%、10.9%となっています。

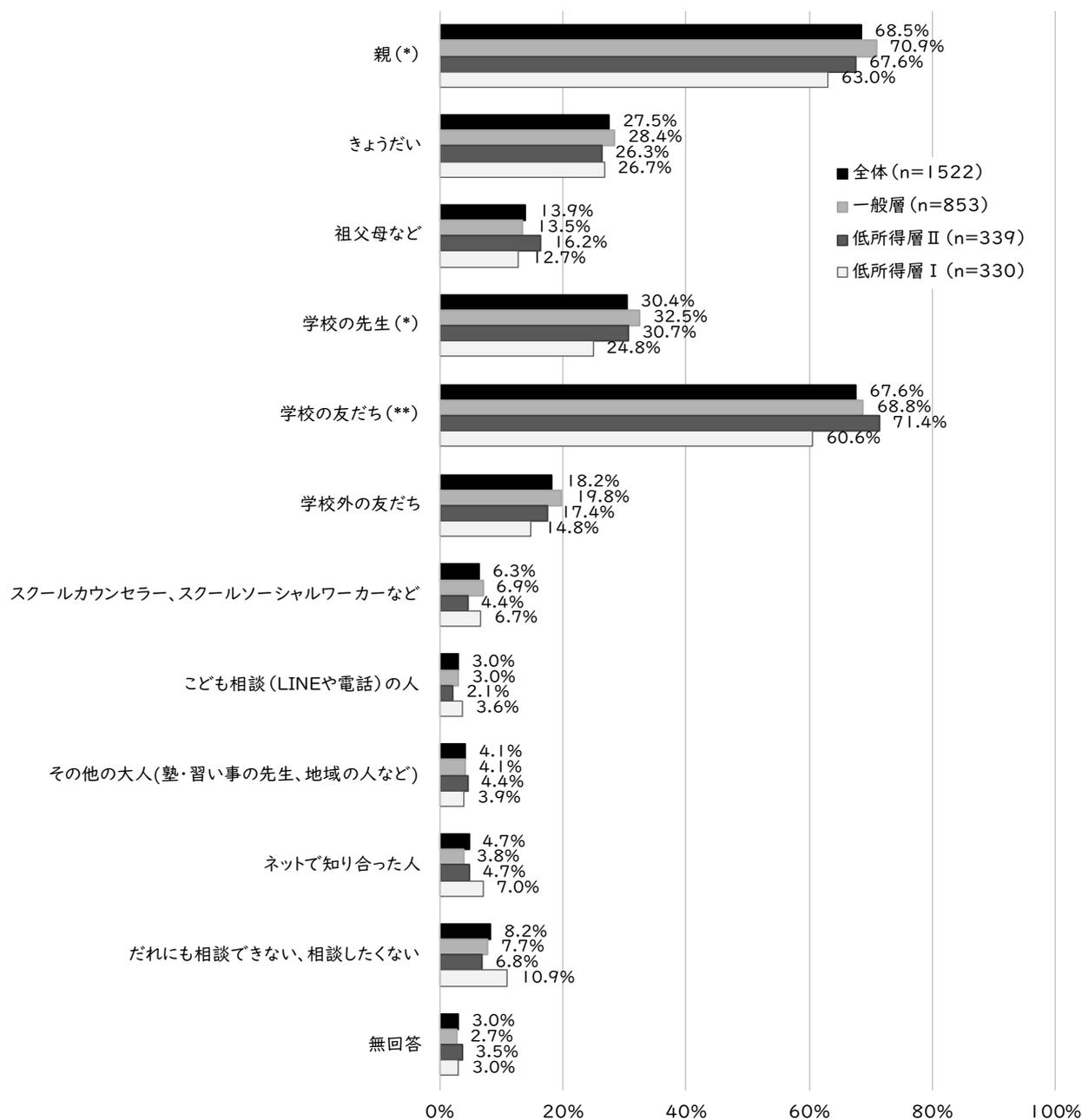
経年比較(図3-6-3、図3-6-4)では、小学5年生では「だれにも相談できない、相談したくない」、中学2年生では「ネットで知り合った人」「だれにも相談できない、相談したくない」の割合が減り、他の選択肢についてはすべて増加していました。

図3-6-1 【小5児童】あなたに困っていることや悩み事があるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか(複数選択)



※ (**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

図3-6-2【中2生徒】あなたに困っていることや悩み事があるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか(複数選択)



※(**)は、 $p<0.01$ 、(*)は $p<0.05$ 、記載がないものは有意差なし

経年比較

図3-6-3 【小5児童】あなたに困っていることや悩み事があるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか(複数選択)

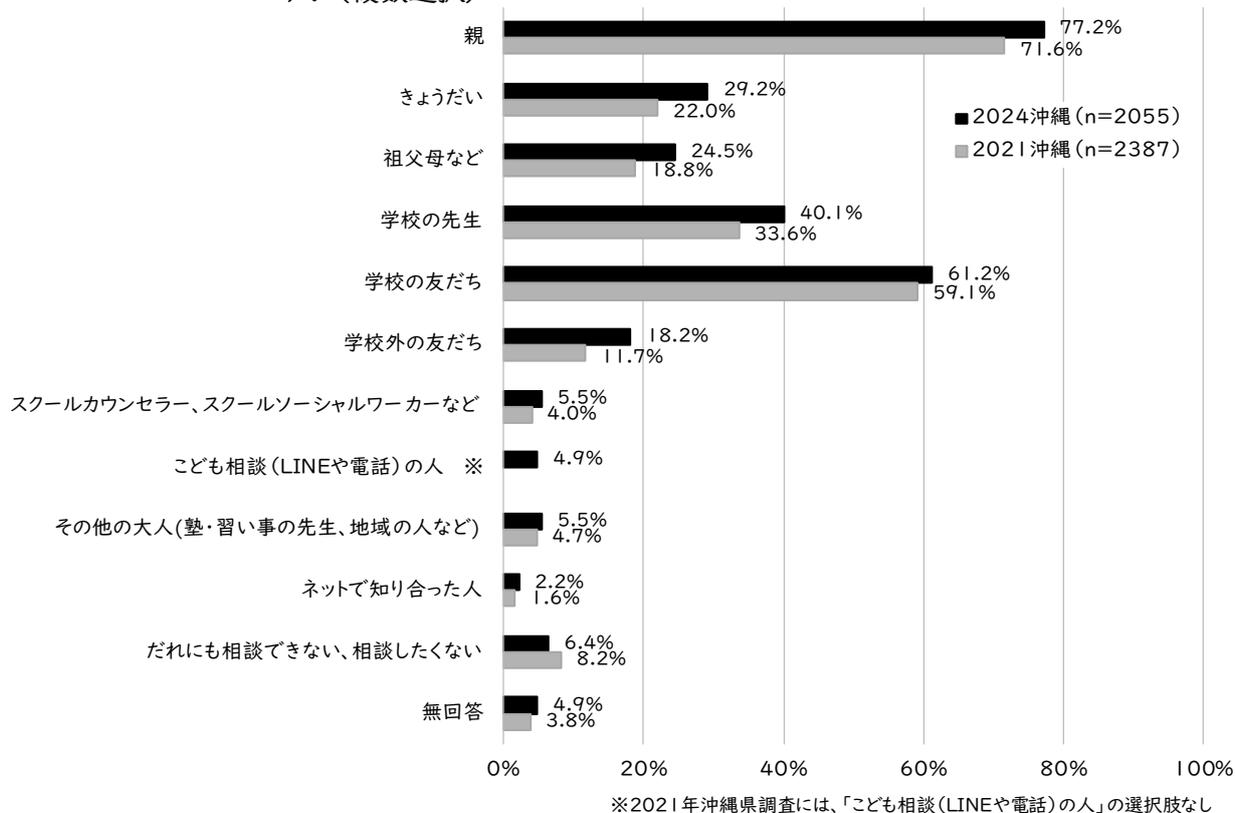


図3-6-4 【中2生徒】あなたに困っていることや悩み事があるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか(複数選択)

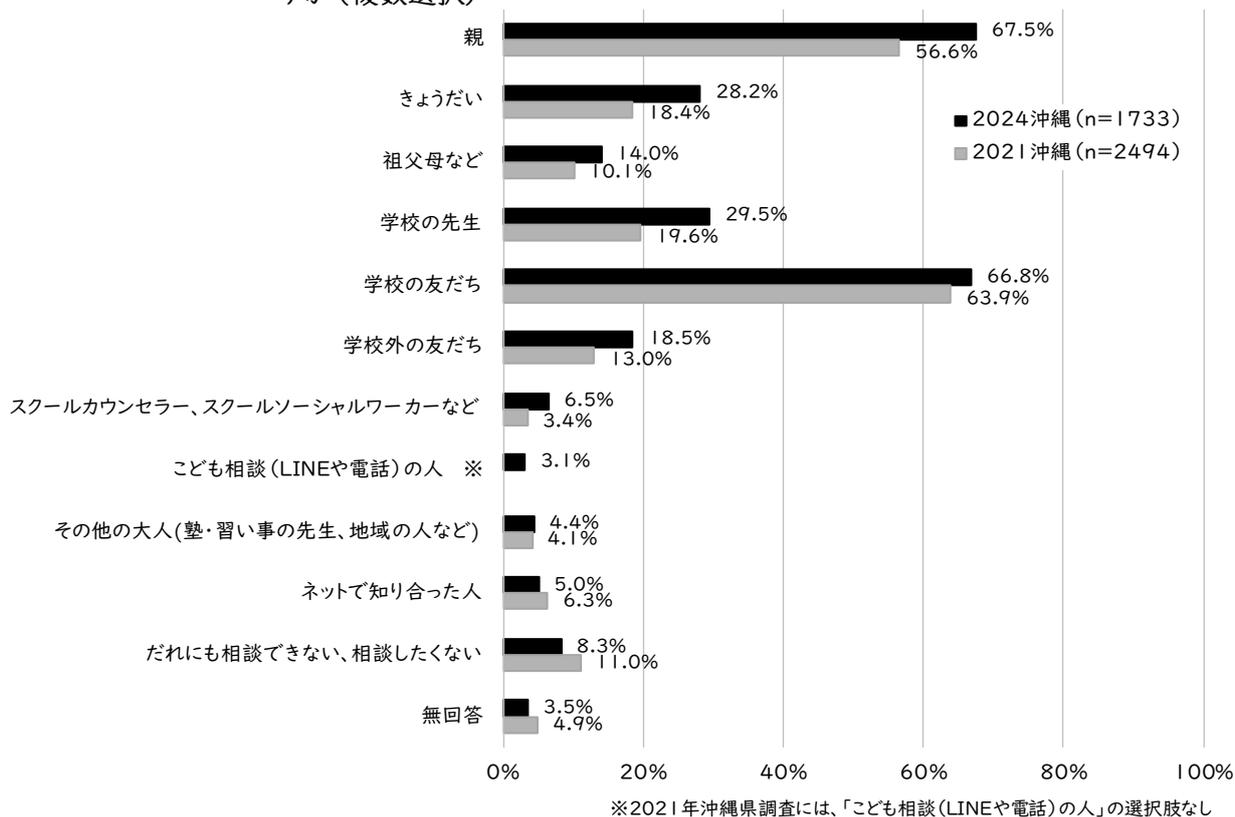
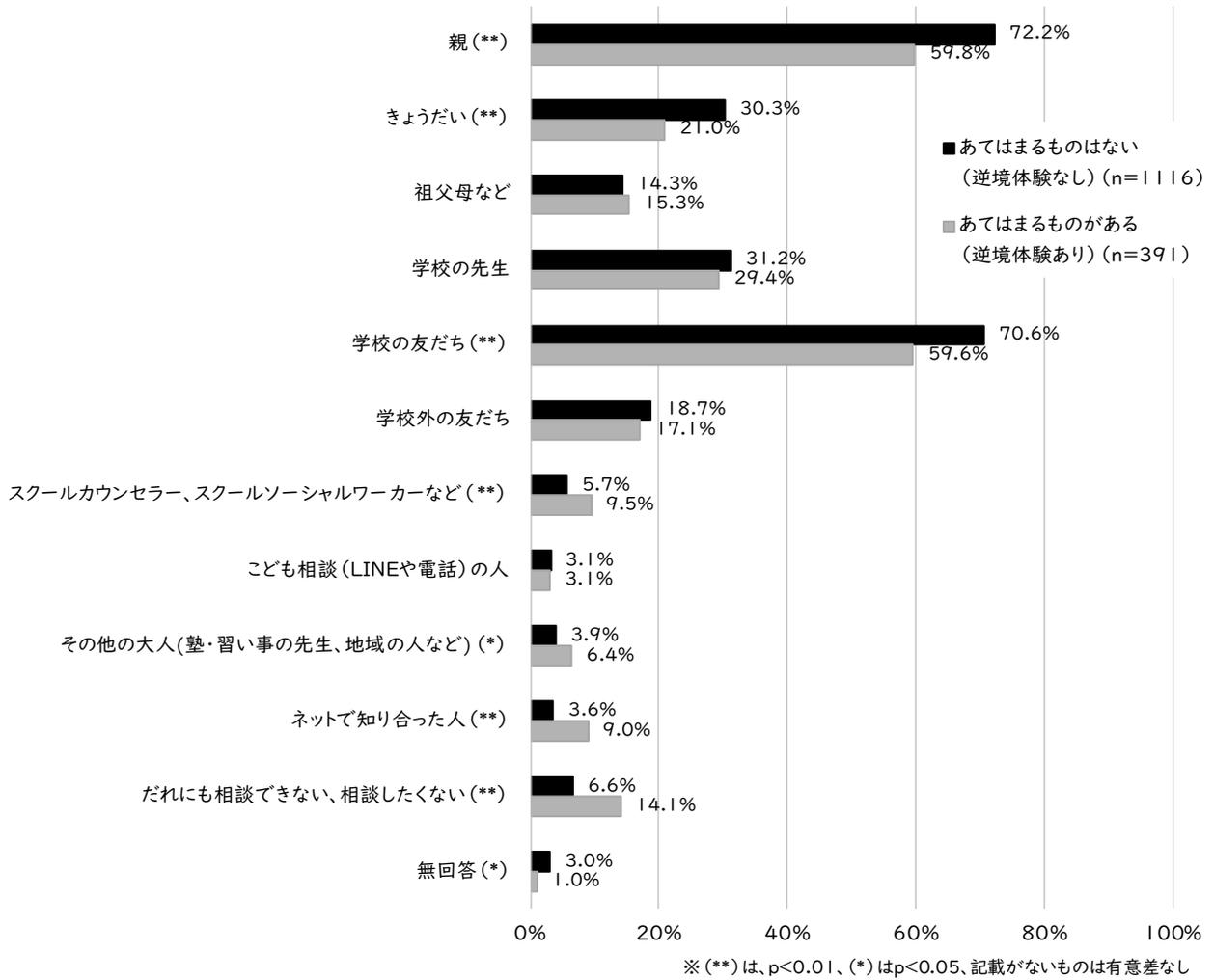


図3-6-5は、中学2年生の生徒について、図3-5-1における逆境体験について「あてはまるものがない」という（つまりは逆境体験がまったくない）生徒と、一つでも質問項目にあてはまるものがある（つまりは逆境体験がある）生徒間で、図3-6-2の困っていることや悩みごとがあるとき相談できると思う人に対する回答割合が異なるかを検討したものです。無回答については除いて分析しています。

結果として、まず注目すべきなのは、あてはまるものがある（つまり逆境体験がある）生徒の方が、「だれにも相談できない、相談したくない」と答える割合が高いことでしょう（約8ポイントの差）。また、「親」「きょうだい」「学校の友だち」という身近な相談相手については、逆境体験がある生徒の方が低くなっていました。特に、相談相手として頻度の高い、「親」「学校の友だち」についてはそれぞれ約12ポイント、約11ポイントの差がありました。一方で、「ネットで知り合った人」「その他の大人（塾・習い事の先生、地域の人など）」については割合としては小さいながら、逆境体験のある生徒の方が高くなっており、特に「ネットで知り合った人」は2倍以上逆境体験のある生徒の方が高いことがわかりました。

もう一点、記しておくべきこととしては、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーについては、割合としては小さいながら逆境体験がある生徒の方が高い割合（有意差あり）であり、学校の先生については逆境体験の有無では差が出ないという点です。特に、先述したように全体としては逆境体験がある生徒は「だれにも相談できない、相談したくない」場合が多く、また親や友人が相談相手としては割合が少なくなっている一方で、（学校関係者である）スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの割合が高いことからすれば、先生が相対的に彼らの相談相手としての役割を期待されていることを示しているのではないのでしょうか。

図3-6-5 【中2生徒】逆境体験 × 相談相手



7 暮らしの満足度

児童・生徒に最近の生活の満足度を尋ねています。「0:まったく満足していない」から「10:十分に満足している」の11段階で回答をしてもらったものを、5つに再分類し分析を行いました。

経済状況別に見ると、小学5年生(図3-7-1)では、統計的な有意差はなく大きな差はないと言えます。ただ、低所得層Iでは満足度の高い「8~10」に該当する割合は低く、61.7%となっています。

一方、中学2年生(図3-7-2)では、統計的な有意差があり、所得が低い世帯ほど「8~10」に該当する割合は低く、低所得層Iでは51.8%となっています。

経年比較(図3-7-3)では、小学5年生・中学2年生ともに改善している傾向が見えます。「8~10」に該当する割合がそれぞれ高くなっていました。また、満足度の低い「0~2」「3~4」「5」の割合はそれぞれ減少していました。

図3-7-1 【小5児童】全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか

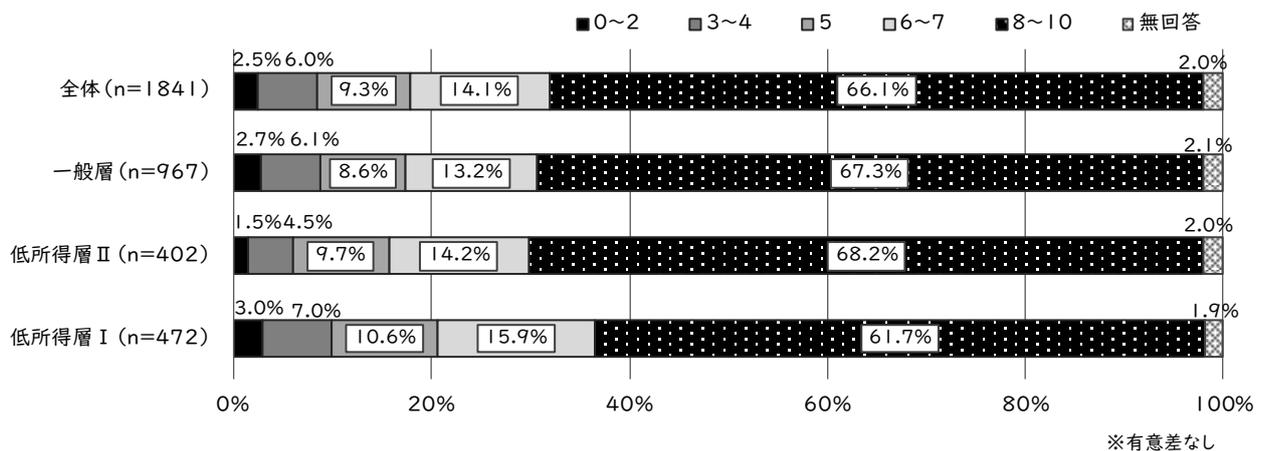
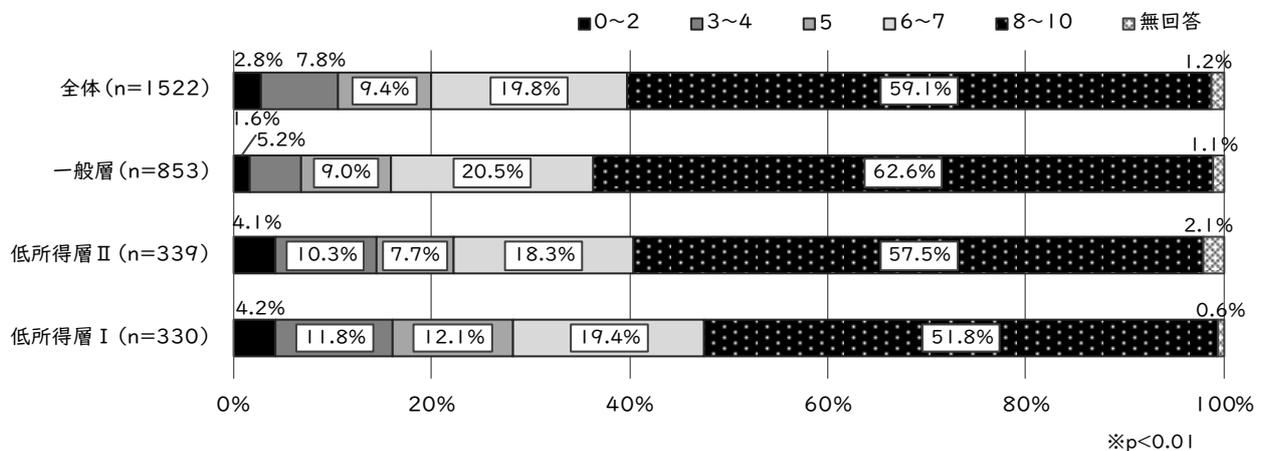
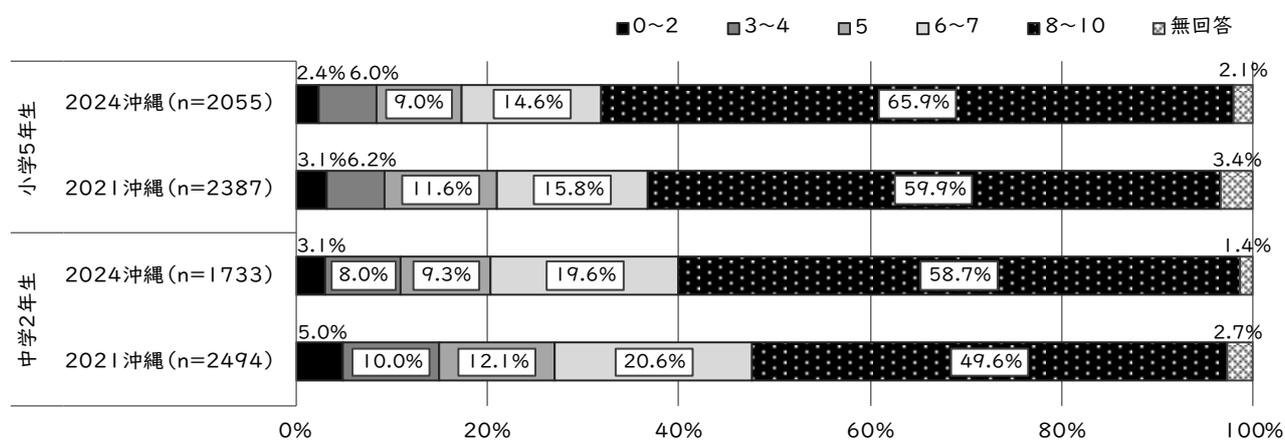


図3-7-2 【中2生徒】全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか



経年比較

図3-7-3 【小5児童・中2生徒】全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか



本報告書の特集で10年間の変化を見た、自己肯定感の指標について、2022年東京都調査との比較を行ったものが、図3-8-1と図3-8-2になります（特集では、いくつかの質問項目で、沖縄県のこどもの自己肯定感が10年間に高くなっていることがわかりました）。

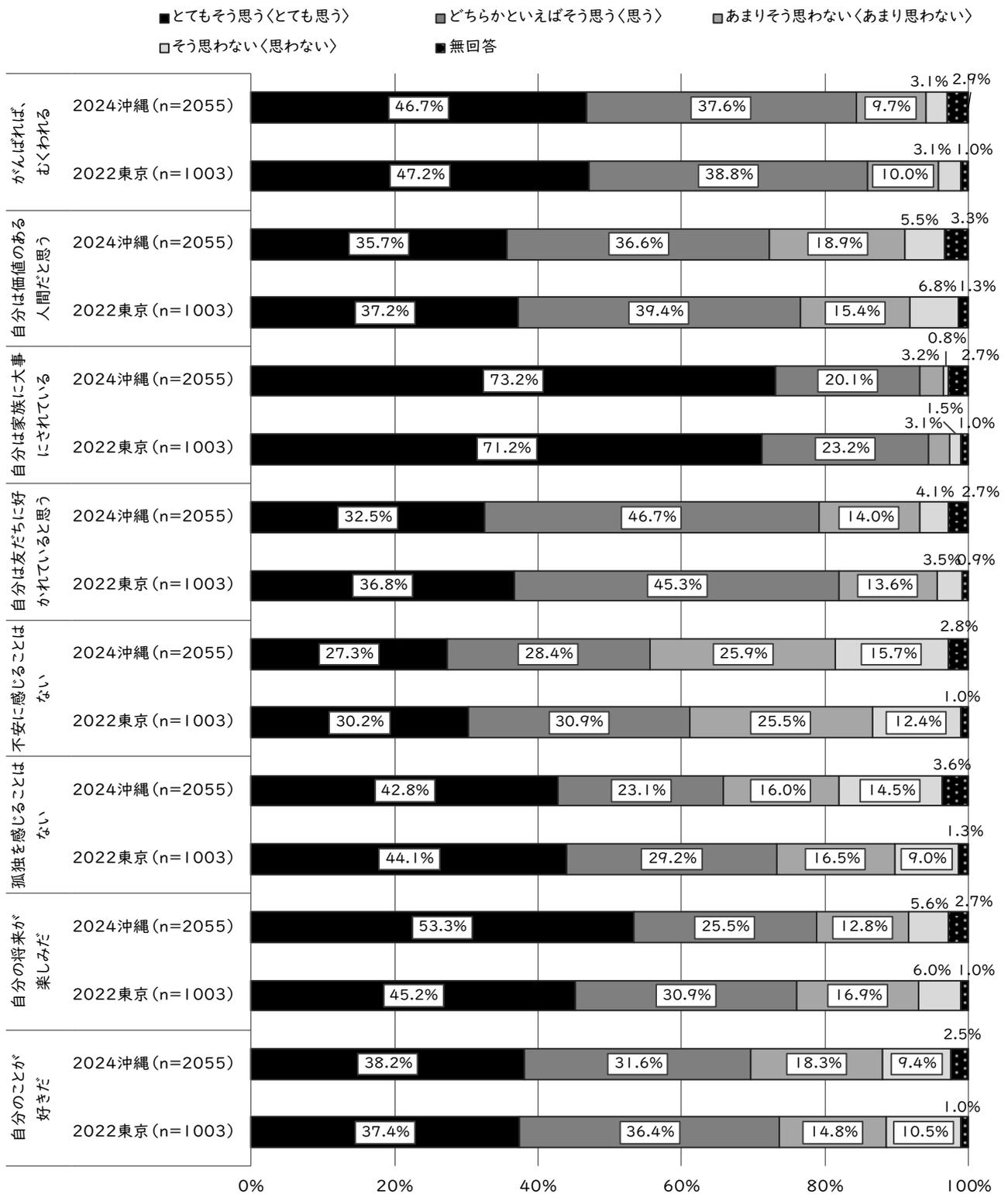
小学5年生（図3-8-1）では、「とてもそう思う<とても思う>」（〈 〉内は東京都調査）に注目すると、多くの項目では東京都と沖縄県ではその割合に大きな相違はないように見えます。一方で、「自分の将来が楽しみだ」については沖縄県の方が約8ポイント高いことが見て取れます。また、「自分は友だちに好かれていると思う」や「不安に感じることはない」は、沖縄県の方が3~4ポイント少ないことがわかります。

小学5年生の「そう思わない<思わない>」に目を向けると、沖縄県の方が「孤独を感じることはない」は約6ポイント、「不安に感じることはない」は約3ポイント高くなっていました。

中学2年生（図3-8-2）では、「とてもそう思う<とても思う>」に注目すると、すべての項目で沖縄県の方がその割合が高いことが見て取れます。10ポイント以上沖縄県の方が高い項目として「自分の将来が楽しみだ」、5~10ポイント沖縄県の方が高い項目として、「がんばれば、むくわれる」「自分は家族に大切にされている」「不安に感じることはない」「孤独を感じることはない」の4項目がありました。また、「自分は友だちに好かれていると思う」と「自分のことが好きだ」も4ポイント以上の差がありました。全体的に見て、沖縄県の中学2年生の方が東京都に比べ、自己肯定感が高いように思われます。ただ、「どちらかといえばそう思う<思う>」では、東京都の方がすべての項目でその割合が高いことも留意しておく必要があるでしょう。

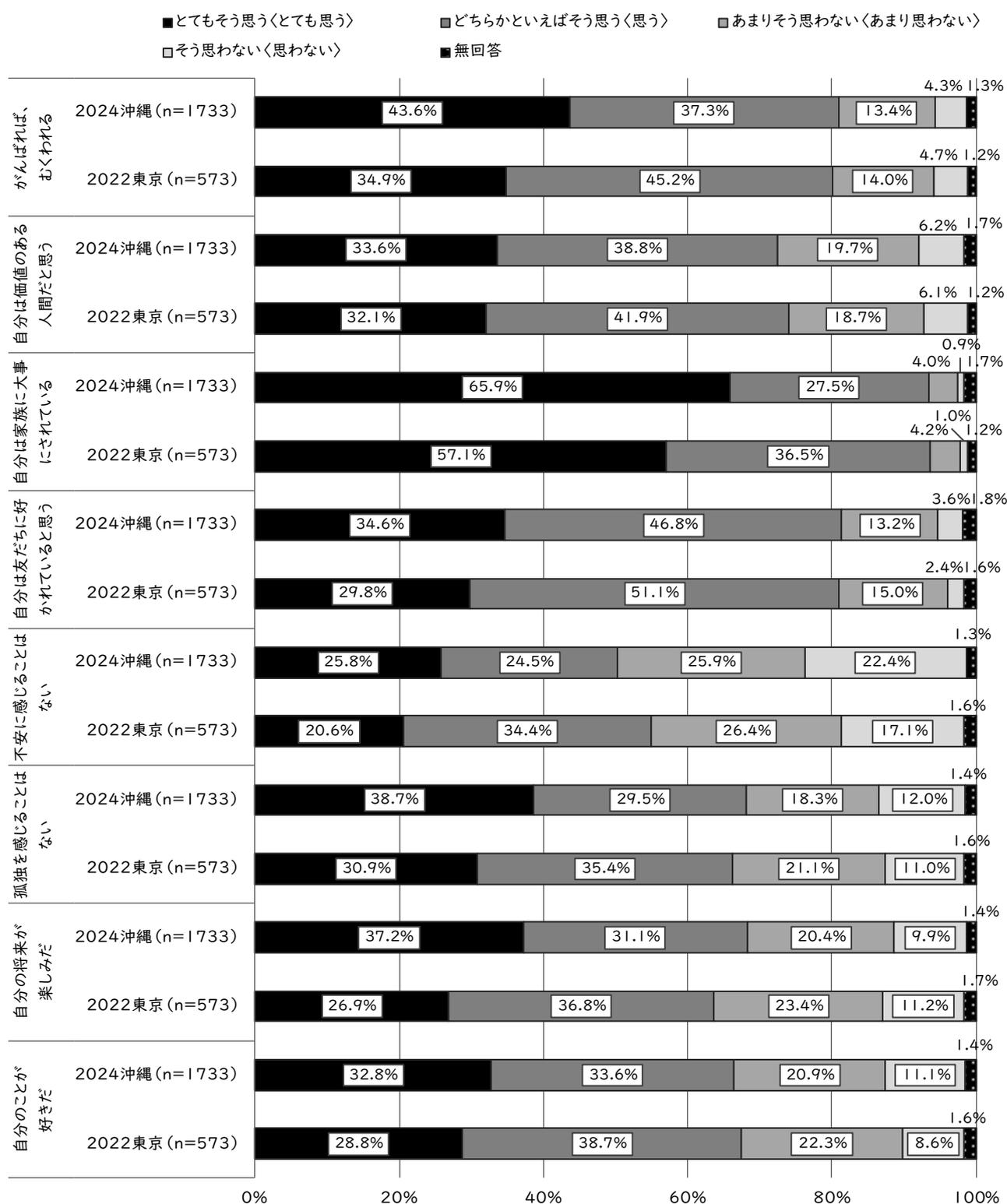
中学2年生の「そう思わない<思わない>」に目を向けると、沖縄県の方が「不安に感じることはない」は約5ポイント高くなっていました。

図3-8-1 【小5児童】あなたの思いや気持ちを聞かせてください



※〈 〉内は、2022年東京都調査の選択肢

図3-8-2【中2生徒】あなたの思いや気持ちを聞かせてください



※〈 〉内は、2022年東京都調査の選択肢

本章は、児童・生徒のふだんの生活について、いくつかの点にわたって分析したものです。ここでは、特徴的な点や、低所得層の児童・生徒にとって生活上重要なものを数点取り上げ考察を加えています。

第1節の部活動（地域のスポーツクラブ等を含む）等の参加の経済的格差については、2022年沖縄県子ども調査（高校生対象）でも、その厳しさが指摘されることです。ただ、本調査のような、義務教育年齢においても、部活動等の参加の経済的格差が厳然と存在することは社会的・政策的に明記しておくべきことでしょう。また、本調査では経年比較分析で、2021年沖縄県調査に比べて、一般層と低所得層Ⅰの格差が、小学5年生、中学2年生、両方で拡大していることが見て取れました。本報告書の第5章でも少し詳しく分析されているように、こどもの「体験格差」の存在がここ数年注目されていますが、公的な教育の場である義務教育学校段階でも、このような格差が存在する可能性があることは、こどもの権利の観点からも留意しておく必要があるでしょう。なお、こどもの「体験格差」については本考察の第3節の段落でも触れています。

第2節の食事については、「毎日食べる」割合に注目すると低所得世帯ほど低い割合であることがわかりました。特に、「夕食」以上に「朝食」「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」で、経済状況別の格差が顕著であることも推察できました。食生活習慣は、こどもの成長や健康にも影響を与える可能性をもつものであり、上記のスポーツや文化活動を含む様々な体験とともに、文化資本の一つとしても位置づくものと言えます。そうしたものが、世帯の所得によって影響を受けていることを示す分析結果ですが、ここで留意しなければならないのは、食生活（を含む文化資本）は世帯所得のみが影響を与えているものではなく、世帯所得が関連している、様々なものが直接・間接的に影響している可能性がある点です。例えば、保護者の労働時間（早朝や深夜の労働も含む）、障害や病気の有無、余裕のなさ、将来に対する不安、世帯の住宅環境などによっても影響を受けます。それら複数の要因が複合的に作用しているものと考えべきでしょう。

さらに、「夕食」以上に「朝食」「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」において格差が顕著な点、さらにそれが小学5年生から中学2年生にかけて拡大する点について考察してみます。まず、「夕食」以上に「朝食」「夏休みや冬休みなどの期間の昼食」は、児童・生徒の自主性に任せられる部分があり、小学生以上に中学生はそれが大きくなる可能性があるからではないでしょうか。さらに、先に述べた保護者の労働時間、障害や病気の有無、余裕のなさなどがその可能性を増幅してしまう部分もあると思われます。

こうした点を補うことに寄与できる施策として、学校における給食や居場所における食事支援があるのではないのでしょうか。それらを充実させていくことが必要なことを上記の結果は示唆しているのだと言えます。

第3節のゲームなどの利用に関しては、総じて、経済状況が厳しい層ほど、ゲーム及びSNSを長時間利用し、テレビやインターネットを長時間視聴している傾向が見られました。屋外での運動も「全然しない」割合が低所得層ほど高くなっていました。こうしたことから、経済状況によって余暇時間の使い方に相違があることが示唆されます。こうした点が生じるのは、先述の保護者の労働時間、障害や病気の有無、余裕のなさなどによって、保護者が関わる時間が制限されることに加え、第1節で述べたような児童・生徒の余暇時間における部活動や地域のスポーツ活動における格差、本報告書の第5章で分析されている習い事などにおける格差も影響をしているでしょう。特に、地域のスポーツ活動や習い事における商業化が進行しており、経済的に困窮した児童・生徒は参加しにくくなっているのではないのでしょうか。つまり、低所得層の児童・生徒たちの場合、時間をつぶすために、ゲームやSNSが利用されている可能性もあるのではないのでしょうか。本分析は、そうした意味で本考察において上述し、また本報告書の第5章でも分析されているこどもの「体験格差」とも深く関連すると言えるでしょう。

沖縄県でこれまで展開されてきたこどもの居場所の運営支援は、上記のような「体験格差」を埋めるためにも有効な施策の一つと言え、今後も継続・発展させていくことが求められるでしょう。

第4節は、ヤングケアラーについての分析です。ヤングケアラーについては、2022年沖縄県子ども調査（高校生対象）において質問項目に加え、こどもの貧困という視点から全国に先駆けて分析を行いました。今回は、小中学生において同様の質問を行いました。さらに、同様の質問を行っている2022年東京都調査の定義を活用して同調査との比較も試みています。すると、小中学生においても、低所得層の児童・生徒がケアをする頻度が高いことや、東京都との比較において、多くのケアの内容で沖縄県の児童・生徒の方が高い割合であることがわかりました。

ヤングケアラーと貧困との深い関連性を本分析は示し、こどもの貧困対策がヤングケアラー支援にも有効なことを示唆していると言えますが、では、なぜこのような格差が生まれるのでしょうか。

少し考察を加えてみると、一つには、低所得層におけるケア環境の厳しさがあります。もともと子育て世帯においても介護を必要とする場合においても、労働環境においてケア（家事等も含む）と働くことの両立がしづらい状況があり、家庭内のケアは後回しにせざるを得ません。さらに、低所得層ほど中小企業などに従事する割合が高く、中小企業では休暇制度が不十分、また人員体制に厳しさがあるなど、余裕のない労働環境にあることが多いために、保護者は児童・生徒によるケアに頼らざるを得なくなってしまう、こうした格差が生まれる可能性があるのではないのでしょうか。特にひとり親世帯（低所得である場合が多く、中小企業で働く場合も多い）では、保護者が働くことを優先せざるを得ずこうした問題が生じやすくなってしまいます。

2点目に、介護やケアを必要とする高齢者や障害者（保護者や子どもを含む）を抱える家族は、正規雇用に従事することをあきらめ非正規雇用を選択せざるを得ず、貧困に陥ってしまうという経路も考えられるでしょう。

3点目として、日本では高齢者や障害児・者への公的なケアの提供量が不足しており、さらに介護保険制度を代表として様々なサービス利用には（基本的には定率の）自己負担額が生じることから低所得層がそうした公的ケアを利用しにくいものとなっている点があるのではないのでしょうか。

最後に、本調査でも明らかにされているように、低所得層では保護者や家族の生活上の諸課題（抑うつの高さ、DV経験など）を抱える割合が高いことも影響しているでしょう。低所得層では、保護者や家族のケアの必要性が高まる可能性があります。

第5節の逆境体験では、統計的には有意な差がないものが多いとは言え、低所得層Ⅰの生徒において、これまで様々な困難な体験をしてきた生徒が多いことが見えました。

ここで留意しなければならないのは、本節の質問で尋ねた質問内容はどれも非常にショッキングな内容であるということです。ゆえに、本調査でも中学2年生に限定して実施しました。

そうした意味では、多くの項目で全体で1%以上の回答があったことは留意すべきことです。さらには家族「から」の身体的・心理的暴力（図3-5-1の上から1番、2番の選択肢）を体験してきた生徒が、全体でも3~4パーセントに及んでいること、心理的ネグレクト（3番目の選択肢）、また家族間の身体的暴力（つまりDV）にさらされた経験（6番目の選択肢）のある生徒が全体でも約2パーセントあることは重く受け止めるべきでしょう。

逆境体験は、将来（成人後を含む）の成長のあり方に深く影響することが知られています。本調査でも学校の授業の理解度（図3-5-3）や相談相手の有無（図3-6-5）に影響を与えていました。特に、「だれにも相談できない、相談したくない」生徒が有意に多いことは、生徒が逆境体験を誰にも話せずため込んでしまっていることを示唆しています。一方で、教員やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが相談相手として期待されている可能性も分析からは示されており、学校の教員たちが彼らの困り感や傷つきに気づき相談相手として余裕をもって接することができるような条件を整備していくことが求められるでしょう。

第6節では相談相手について尋ねたものですが、視点を変えれば児童・生徒の身近な他者との関係性を質問したものとも考えることができます。ここでは、小学5年生と中学2年生間での違いについて考察してみます。

中学2年生では、小学5年生と比較して、全体として「学校の友だち」が増え「親」「学校の先生」が減っています。これは、中学2年生の思春期における成長に伴い、身近な他者（親や先生）との関係に様々な葛藤をもち始めていることを表しているのでしょう。一方で、低所得層Ⅰでは、「親」「学校の先生」の割合が他の所得階層に比べて低くなっており、貧困等の影響によって身近な他者との葛藤等がより大きくなっている可能性を示唆していました。特に教員については、毎日出会う大人であり、親との折り合いが悪くなった場合に橋渡し役を果たすことができる存在であり、そうした意味で（第5節でも述べたように）貧困状況にある思春期の生徒にゆっくり向き合えるような環境が望まれるでしょう。

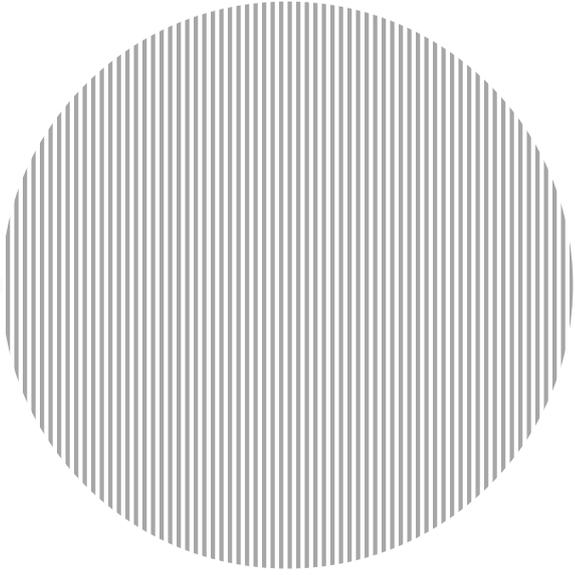
さらに、中学2年生で「学校の友だち」について、低所得層Ⅰでその割合が低いことは非常に気になることです。親や先生との間でなんらかの問題を抱えても、友だちはそのネガティブな気持ちを補ってくれる存在だからです。思春期の生徒を支援する上では留意すべき点ではないでしょうか。

一方で、経年比較でみると、小学5年生、中学2年生ともほとんどの選択肢で割合が増加し、他者との関係性が改善していることが示唆されました。

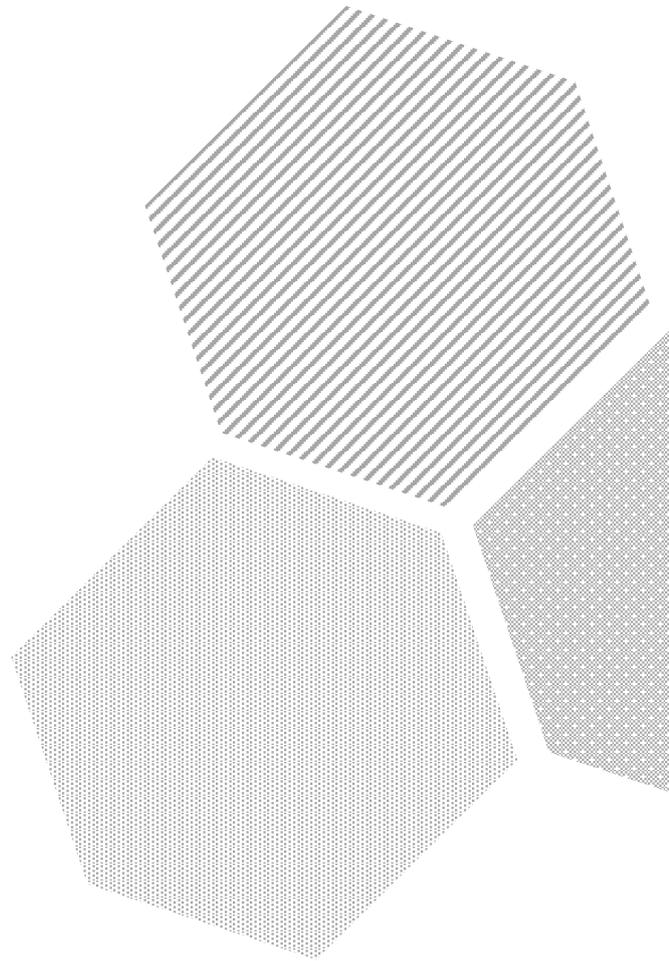
こうした他者との関係性の年齢による変化を反映しているものとして、第7節を見ることもできそうです。児童・生徒は関係性の中に生きており、それによって生活の満足度は影響される部分も大きいからです。

生活の満足度が、小学5年生から中学2年生になるに連れて悪化しているのは思春期の変化を、低所得層で悪化が大きいのは、貧困による他者との関係性の悪化を反映しているのかもしれませんが。また、経年比較において改善が見られるのも、第6節における改善が関連しているものと思われます。

最後に、第8節からは、東京都に比べ沖縄県の児童・生徒は全体的に自己肯定感が高く、（第6節、第7節における改善ともに）少し明るい兆しが見えていることも指摘できるとでしょう。



第4章 ふだんの暮らし(保護者)



1 ふだんの暮らし、物価高騰の影響

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者に日々の暮らしや生活経験について尋ねています。

図4-1-1から図4-1-3は保護者に現在の暮らしの状況をどのように感じているかを尋ねた結果です。いずれの学年でも、低所得層ほど「大変苦しい」「苦しい」と回答した割合が高くなっています。また、経年変化では生活実感が顕著に悪化していることがわかります。

図4-1-1の小学1年生について見ると、一般層では「ふつう」という回答が59.8%と最も多く、「苦しい」「大変苦しい」と答えた割合はそれぞれ18.4%と3.2%となっています。それに対して低所得層Ⅰでは、「ふつう」が34.0%にとどまり、「苦しい」「大変苦しい」と答えた割合がそれぞれ38.1%と24.5%と大幅に高くなっており、合わせると62.6%が生活に困難を感じていることがわかります。

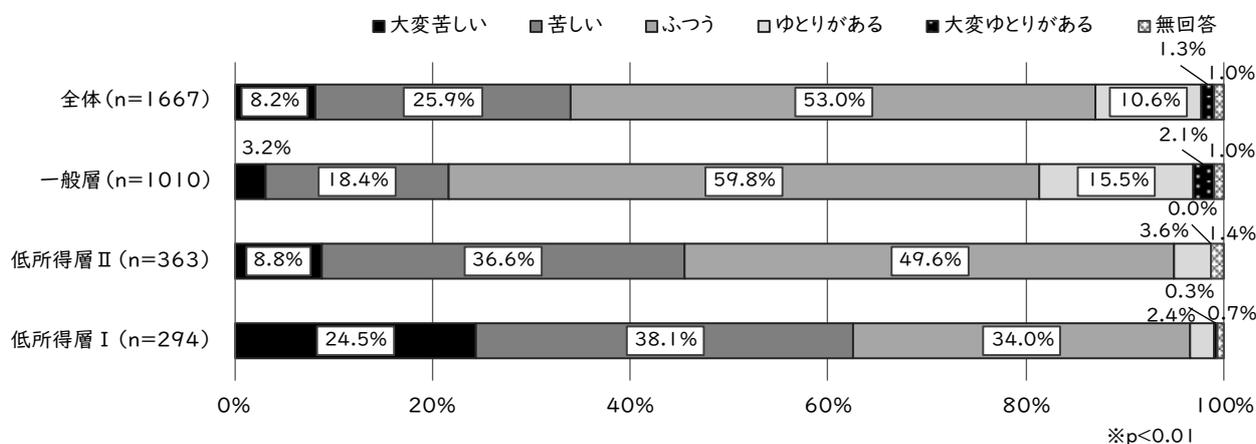
図4-1-2の小学5年生では、一般層では「ふつう」と回答した割合が59.4%と最も多く、「苦しい」は19.6%、「大変苦しい」は3.0%にとどまっていますが、低所得層Ⅰでは「苦しい」が44.7%、「大変苦しい」が18.2%となり、生活困窮感を抱える割合が62.9%に達しています。

図4-1-3の中学2年生でも、ほぼ同様の傾向が見られますが、低所得層Ⅰで「苦しい」と答えた割合が42.1%、また「大変苦しい」と答えた割合が23.6%と最も多く、合わせて65.7%が生活の困難を感じていることが確認されました。

2021年沖縄県調査と比較すると(図4-1-2、図4-1-3)、「苦しい」「大変苦しい」と回答した割合は、2024年沖縄県調査において全体的に増加しています。具体的には、小学5年生では2021年28.4%から2024年39.4%へと11.0ポイントの増加、中学2年生では2021年28.6%から2024年40.7%へと12.1ポイント増加と3年間で10ポイント以上増加しています。一般層においても、小学5年生では2021年10.4%から2024年22.6%へ、中学2年生では2021年11.1%から2024年24.1%へと増加しており、生活を苦しいと思う世帯の広がりは顕著です。

特に低所得層Ⅰでは、小学5年生で2021年の53.0%から2024年の62.9%へ約10ポイントの増加、中学2年生では2021年度の53.3%から2024年の65.7%に12.4ポイント増加しており、この層の暮らしの状況の深刻な悪化が見られます。

図4-1-1 【小1保護者】あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか



経年比較

図4-1-2 【小5保護者】あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか

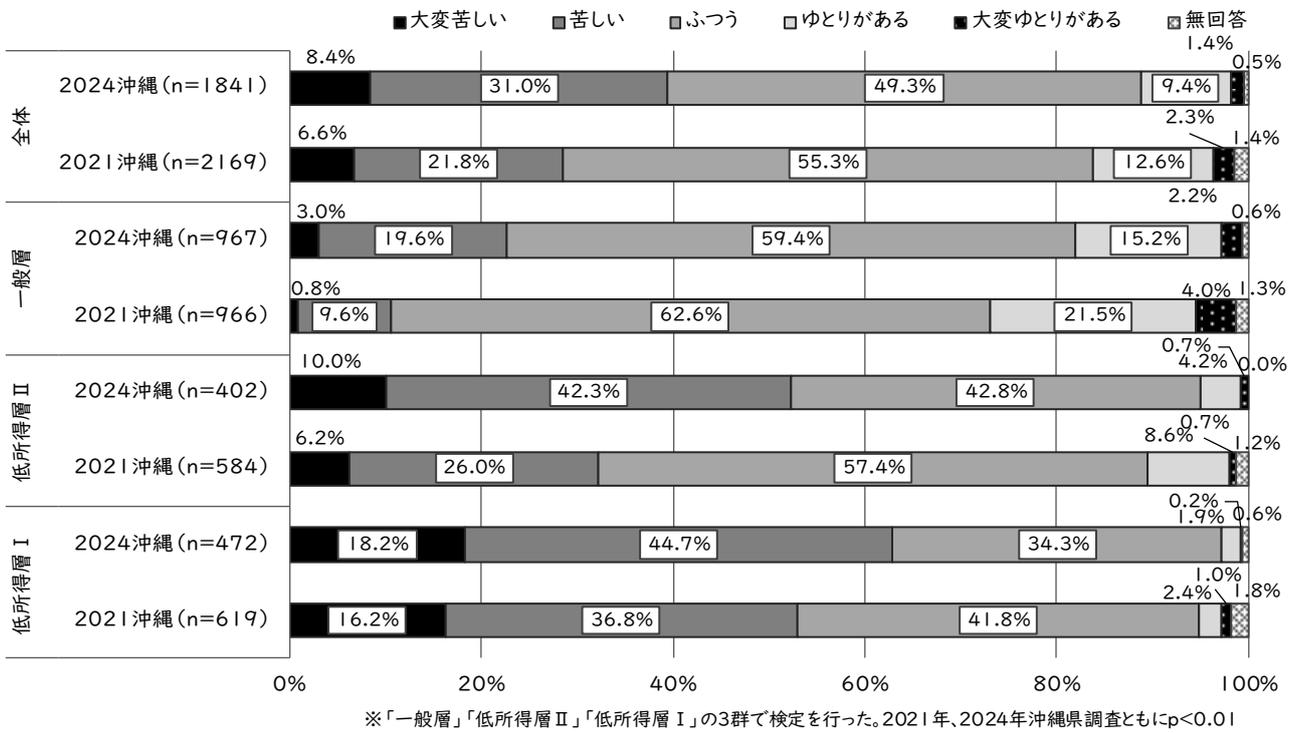
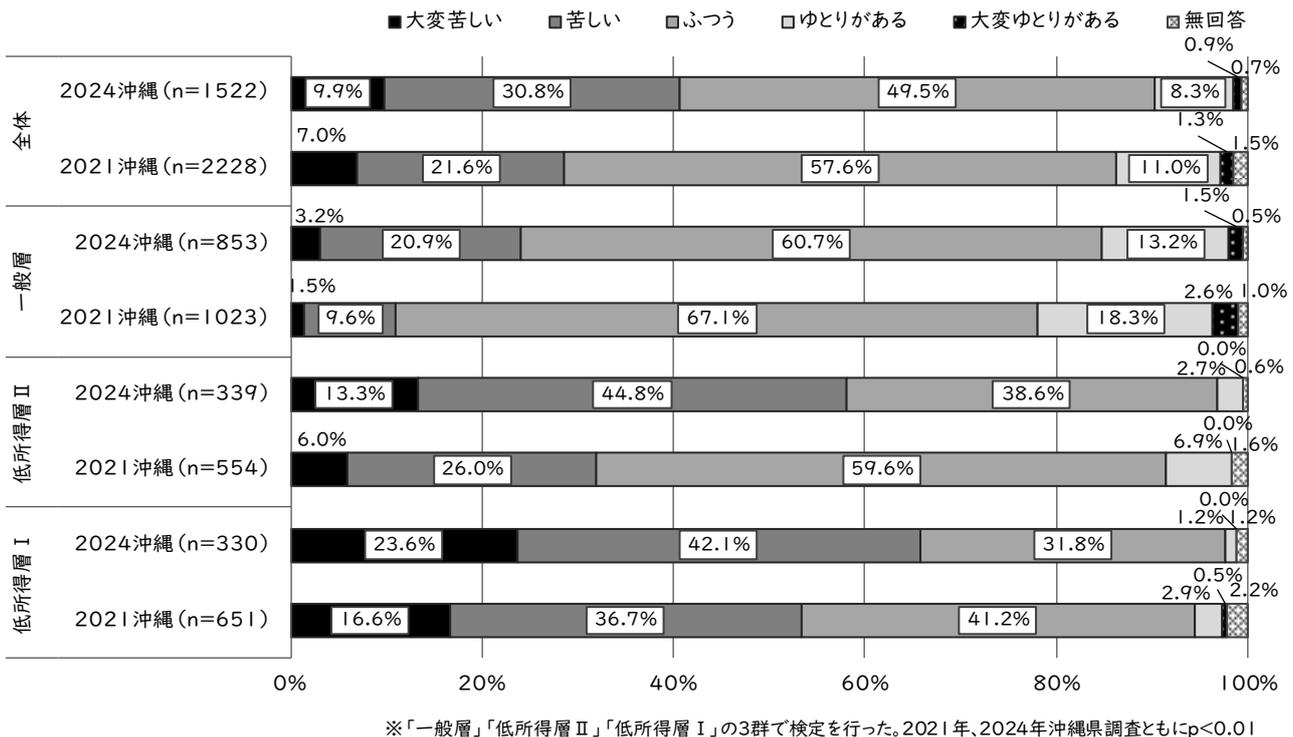


図4-1-3 【中2保護者】あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか



物価高騰で生活は苦しくなったと感じるか

図4-1-4から図4-1-6は、最近の物価高騰が生活にどのような影響を与えているかについて、保護者に尋ねた結果を示しています。この調査から、物価高騰の影響が全体的に深刻である一方、特に低所得層ほどその影響が顕著であることが明らかになりました。

物価高騰により生活が苦しくなったとの質問に対して、全体で「おおいに感じる」「ある程度感じる」と答えた割合が小学1年生の保護者で92.4%、小学5年生91.4%、中学2年生91.7%と、どの学年においても9割以上の方が物価高騰による生活苦を訴えています。しかしこの影響は特に低所得層において顕著に表れています。生活が苦しくなったと「おおいに感じる」割合は、一般層では44.7~48.0%と4割台であるのに対して、低所得層Ⅱでは68.6~69.9%、低所得層Ⅰでは74.2~75.4%と約7割に達します。いずれも低所得層になるほど物価高騰の影響が極めて深刻に表れていることが確認されます。

これらの結果は、物価高騰がほぼすべての世帯の生活実感に影響が出ていること、特に低所得層での生活困難をさらに増幅させていることを強く示しています。

図4-1-4 【小1保護者】最近の物価高騰で生活は苦しくなったと感じていますか

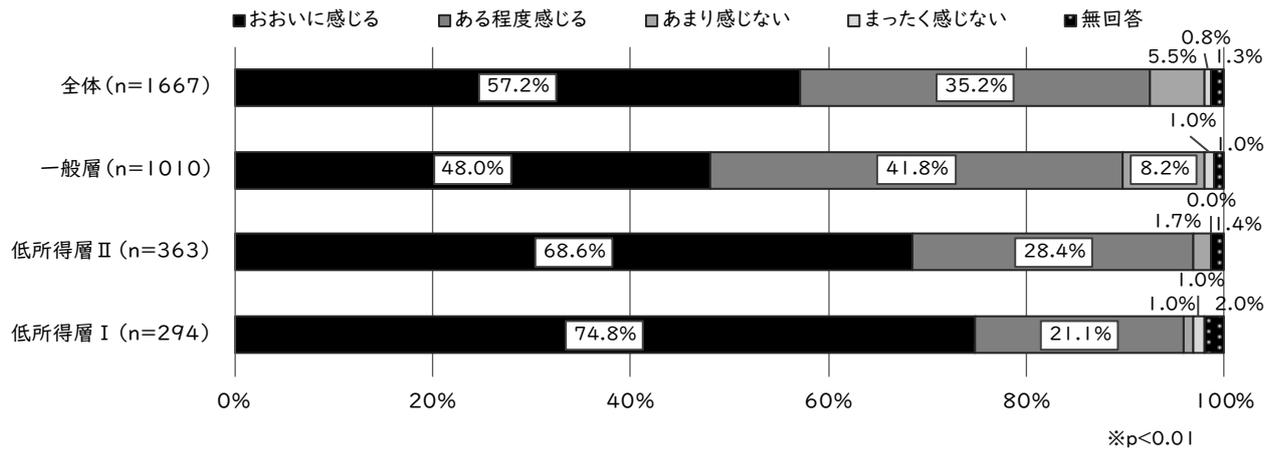


図4-1-5 【小5保護者】最近の物価高騰で生活は苦しくなったと感じていますか

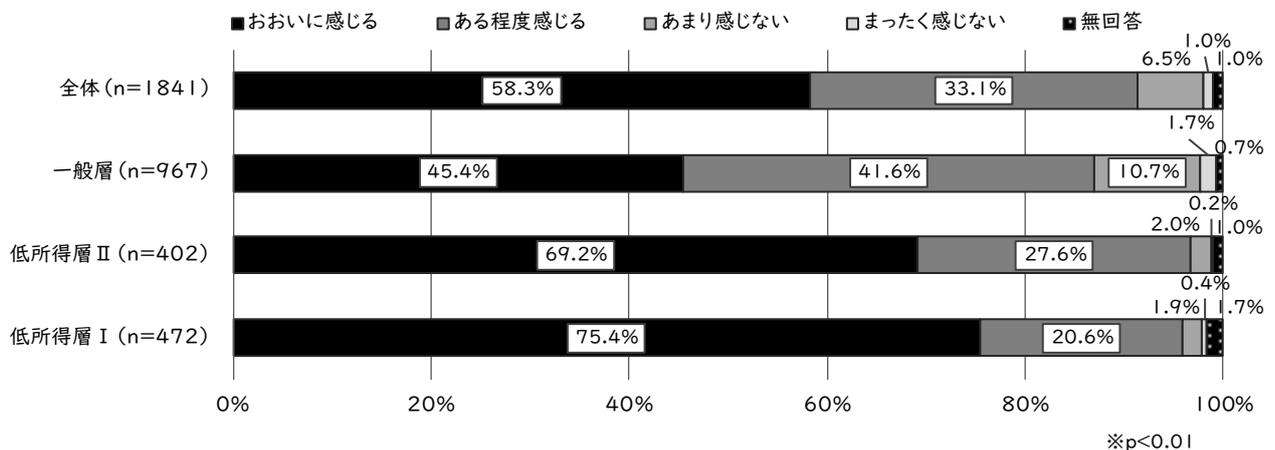
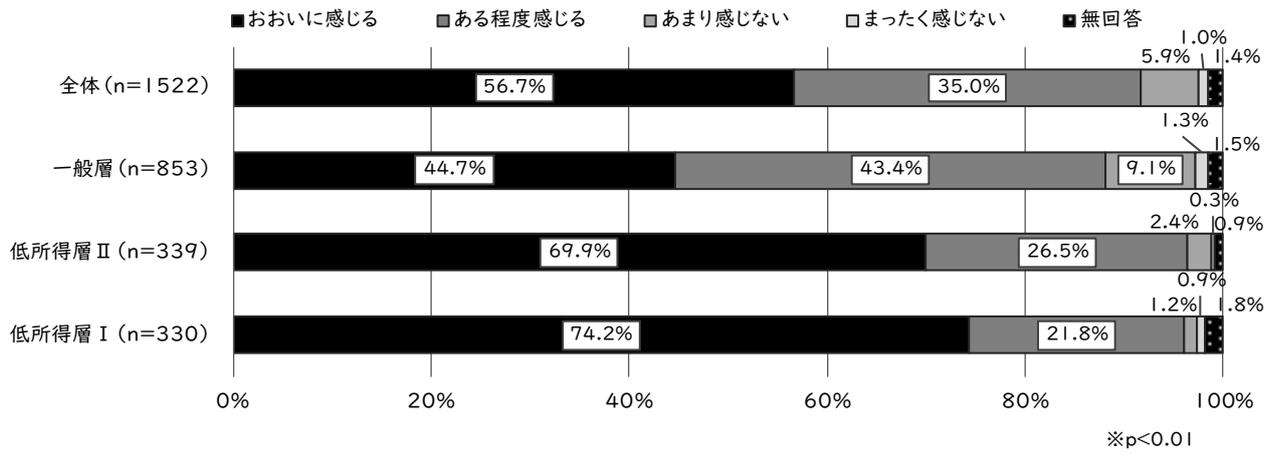


図4-1-6【中2保護者】最近の物価高騰で生活は苦しくなったと感じていますか



物価高騰の影響で増えた毎月の支出額

図4-1-7から図4-1-9は、物価高騰の影響によって毎月の支出がどの程度増えたかについて、保護者に尋ねた結果を示しています。支出額には所得階層ごとの大きな違いは見られず(1~5万円程度の支出増が多く見られる)、一方で、所得状況の違いにより家計に与える影響が異なることが推察されます。

図4-1-7の小学1年生の保護者において、全体では「2~3万円未満」(26.7%)がもっとも多く、この結果はいずれの学年、どの所得階層においても同様です。次いで「1~2万円未満」「3~4万円未満」「4~5万円未満」がそれぞれ20.9%、15.7%、11.9%と多く、1~5万円程度の支出増がボリュームゾーンであることが確認されます。この傾向は小学5年生(図4-1-8)及び中学2年生(図4-1-9)の保護者でも同様であり、所得階層による支出額の大きな差異は見られません。

ただし、支出額に大きな差異が見られないということは、低所得層Ⅰ及びⅡでは、所得に占める支出増加の割合が大きいことを意味します。同程度の金額の支出増であっても所得に占める割合、家計への影響は低所得層になるほど大きくなります。この結果が、先の図4-1-4から図4-1-6で明らかになった低所得層ほど物価高騰による生活苦を大きく感じているという回答結果につながっていると考えられます。

図4-1-7 【小1保護者】1年前と比べて、物価高騰の影響で毎月の支出はどの程度増えましたか

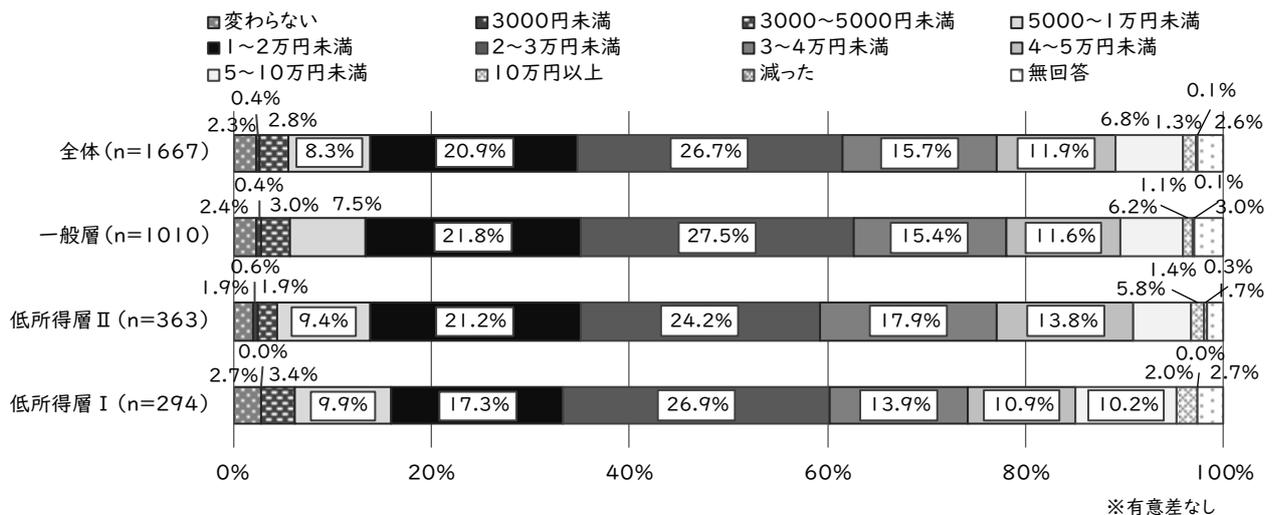


図4-1-8【小5保護者】1年前と比べて、物価高騰の影響で毎月の支出はどの程度増えましたか

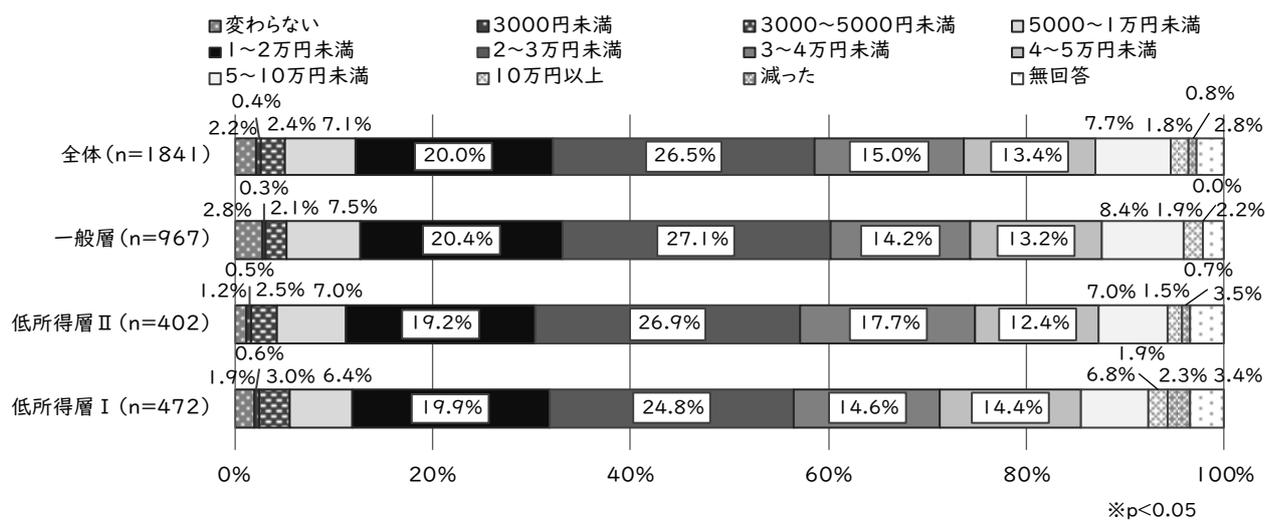
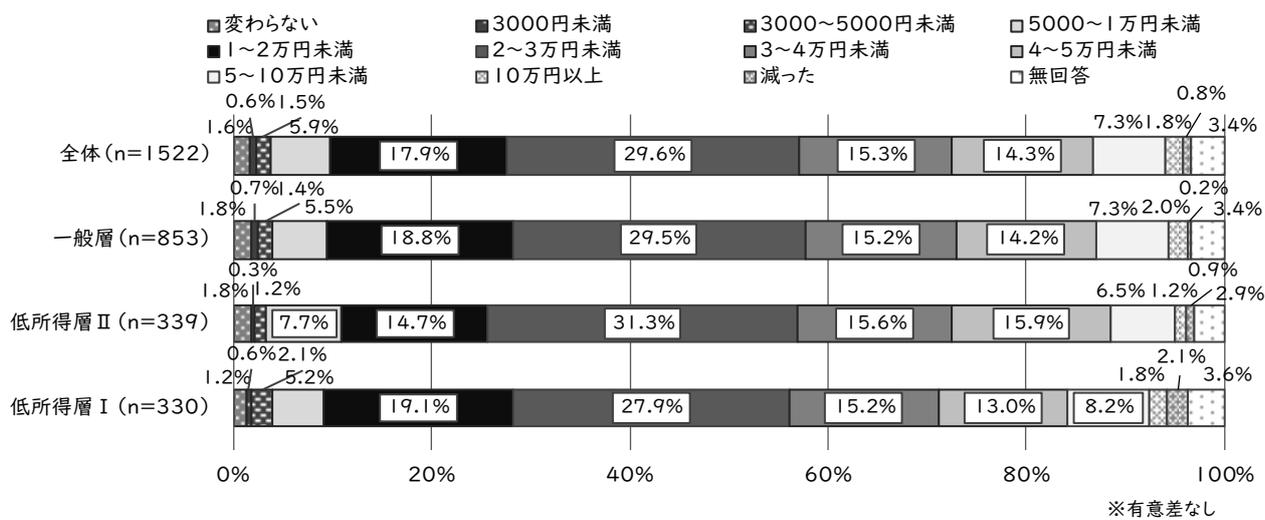


図4-1-9【中2保護者】1年前と比べて、物価高騰の影響で毎月の支出はどの程度増えましたか



2 貯蓄

図4-2-1から図4-2-4は、保護者に世帯がもつ貯蓄額について尋ねた結果を示しています。この調査から、特に低所得層Ⅰにおける貯蓄ゼロの割合が非常に高いこと、また2022年国民生活基礎調査(全国調査。18歳未満の未婚のこどもがいる世帯の集計結果で、沖縄県調査と対象が異なる)と比較して沖縄県の貯蓄状況が厳しいことが明らかになりました。

図4-2-1の小学1年生の保護者において、全体では「貯蓄がない」と回答した世帯が21.7%であるのに対し、低所得層Ⅰでは50.0%と全体の2倍以上の割合となっています。同様の傾向は小学5年生(図4-2-2)及び中学2年生(図4-2-3)の保護者でも確認され、低所得層Ⅰでの貯蓄ゼロの割合はそれぞれ50.0%、52.1%となっています。

また、「貯蓄がない」世帯に加えて、貯蓄額が「10万円未満」及び「10~50万円未満」を合算して、「50万円未満」の割合を求めると、例えば、中学2年生の保護者では、全体では39.7%と4割近くに上ります。低所得層Ⅱの場合、「50万円未満」は51.6%、低所得層Ⅰでは70.3%にまで達します。低所得層だけでなく、資産もない「低所得・無資産層」が大きなボリュームを占めていることが推察されます。

また、特筆すべき点として、所得の安定している一般層においても、「貯蓄なし」及び「50万円未満」の割合が一定程度あることです。小学5年生の保護者で例を挙げると、一般層の15.5%が「貯蓄なし」であり、「50万円未満」は24.9%と全体の4分の1にいたります。

さらに、図4-2-4に示されるように、2022年国民生活基礎調査と比較すると、沖縄県の保護者世帯は貯蓄が乏しいことが浮き彫りとなっています。具体的には、「貯蓄がない」、「50万円未満」(「貯蓄がない」+「50万円未満」)の割合は、全国では9.2%、12.7%であるのに対し、沖縄県では25.1%、38.5%と約3倍の差が見られます。

これらの結果から、沖縄県における保護者世帯は全国と比較して厳しい貯蓄状況にあり、特に低所得層では貯蓄の欠如が家計の脆弱性を高めて、生活苦につながっていることが示唆されます。

図4-2-1 【小1保護者】あなたの世帯の貯蓄額を教えてください

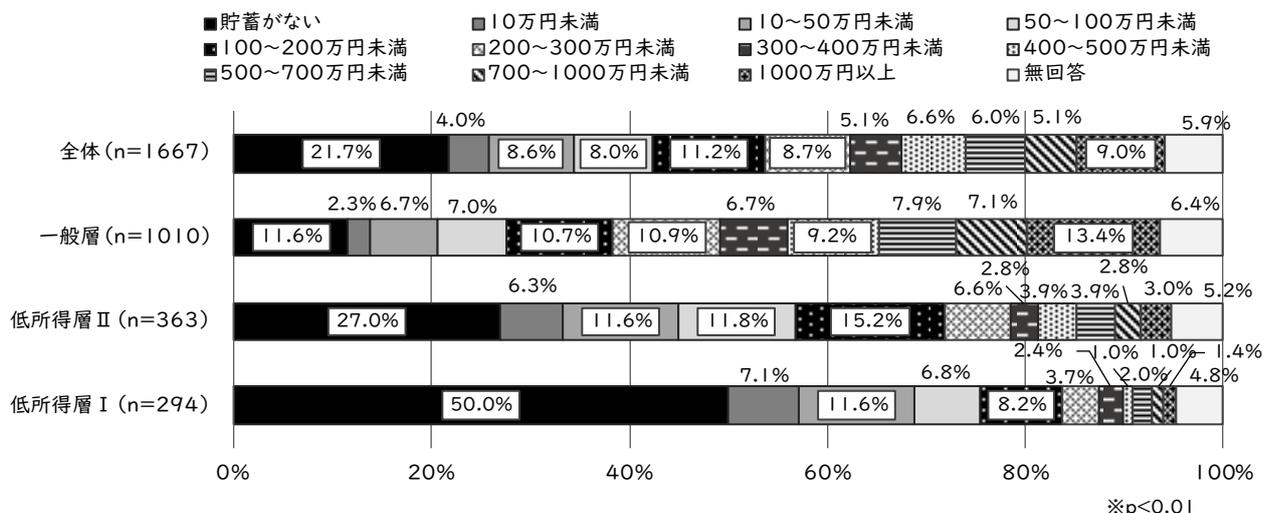


図4-2-2 【小5保護者】あなたの世帯の貯蓄額を教えてください

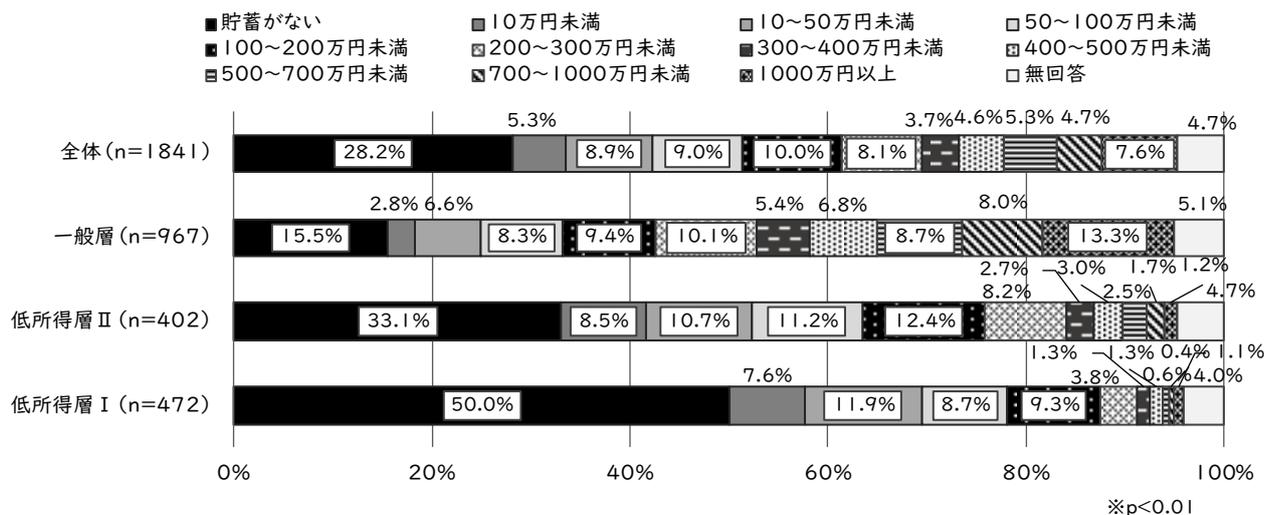
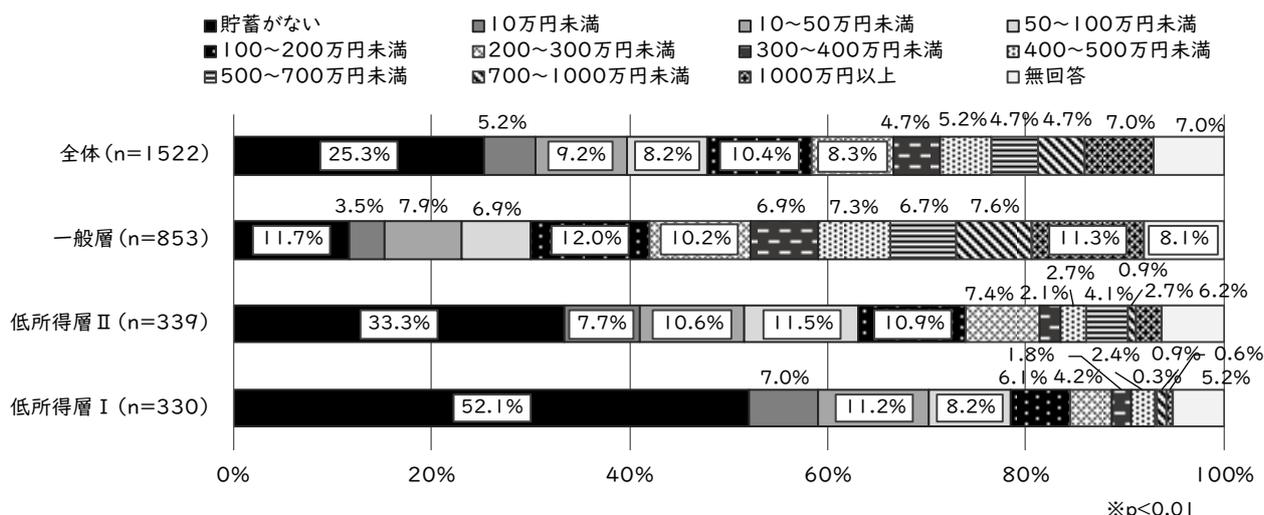
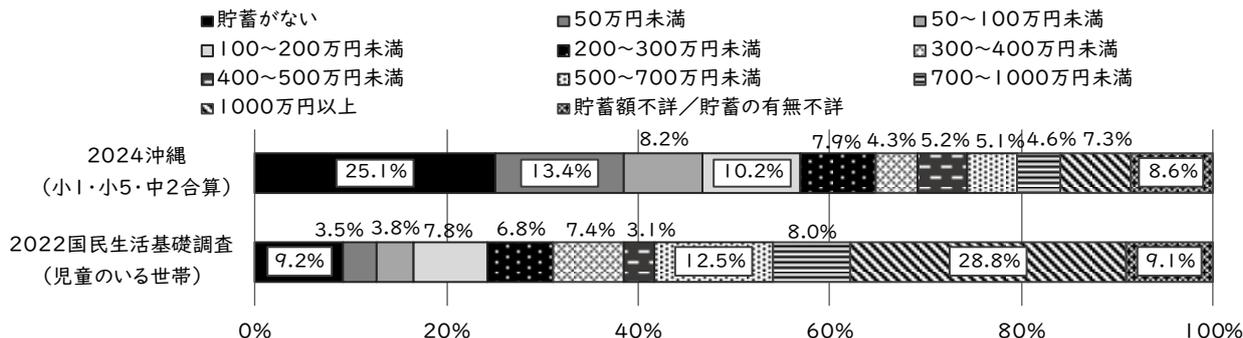


図4-2-3 【中2保護者】あなたの世帯の貯蓄額を教えてください



国民生活基礎調査との比較

図4-2-4 【小1・小5・中2保護者】あなたの世帯の貯蓄額を教えてください



貯蓄の増減

図4-2-5から図4-2-8は、世帯の現在の貯蓄額が昨年と比べてどう変わったかについて尋ねた結果を示しています。この調査から、貯蓄が減った世帯が多く、特に低所得層においてその影響が顕著であることがわかります。

図4-2-5の小学1年生の保護者では、全体で「貯蓄が減った」と回答した割合が46.7%であり、「貯蓄が増えた」と回答した割合の12.1%を大きく上回っています。この傾向は、小学5年生(図4-2-6)や中学2年生(図4-2-7)の保護者でも同様で、「貯蓄が減った」と答えた割合がそれぞれ45.7%、50.2%に達しています。特に低所得層では、その割合がさらに高くなっています。小学1年生の保護者では、低所得層Ⅱで「貯蓄が減った」が56.5%、低所得層Ⅰで50.0%(図4-2-5)、小学5年生では、低所得層Ⅱで51.2%、低所得層Ⅰで51.7%(図4-2-6)、中学2年生では低所得層Ⅱで51.9%、低所得層Ⅰで55.5%(図4-2-7)と、いずれも全体を上回っています。一方で、「貯蓄が増えた」と答えた割合は非常に低く、低所得層Ⅰで1.5~3.4%にとどまっています。

調査年度が異なるため注意が必要ですが、2022年国民生活基礎調査(全国調査)と比較すると(図4-2-8)、沖縄県においては「貯蓄が増えた」と回答した割合が9.5%と国民生活基礎調査の22.3%に比べて著しく低く、「貯蓄が減った」と回答した割合が46.9%と、全国の32.4%を大きく上回っています。

これらの結果から、物価高騰などに伴う支出増加の影響により、貯蓄を取り崩して家計を維持している世帯が大きく増加していることが示唆されます。特に低所得層での影響が深刻であり、貯蓄が減少することで家計の脆弱性がさらに増していると考えられます。

図4-2-5 【小1保護者】あなたの世帯の現在の貯蓄額は、昨年と比べて変わりましたか

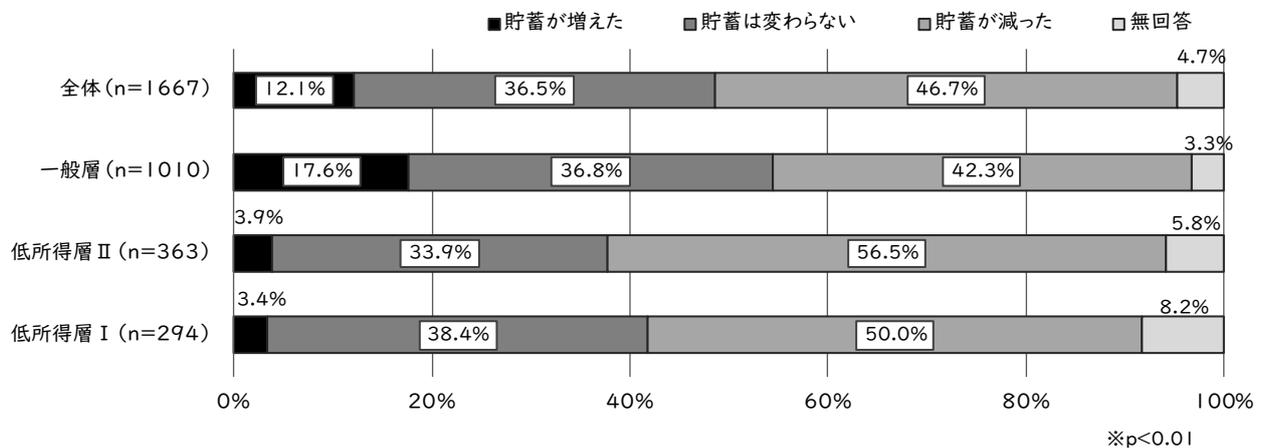


図4-2-6 【小5保護者】あなたの世帯の現在の貯蓄額は、昨年と比べて変わりましたか

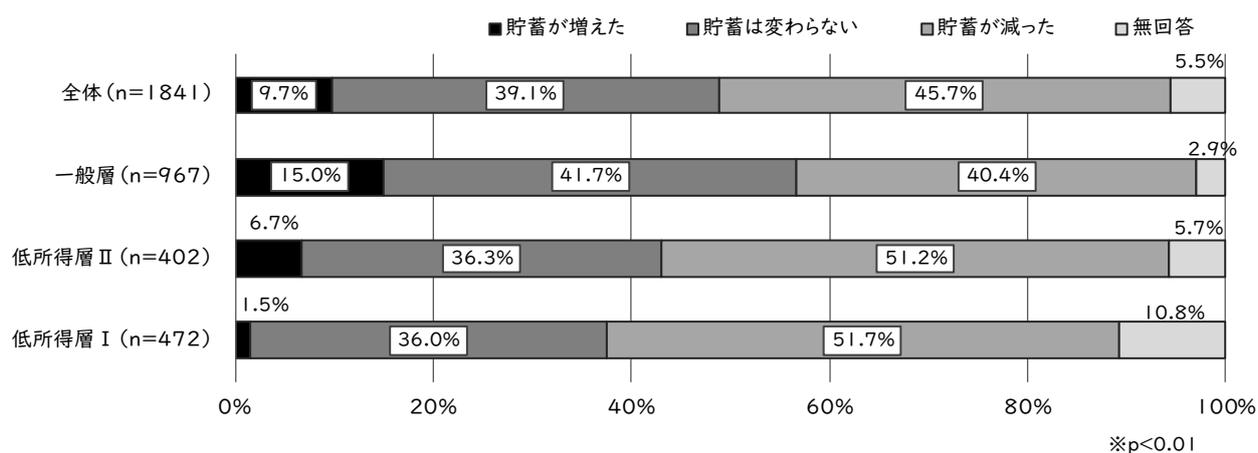
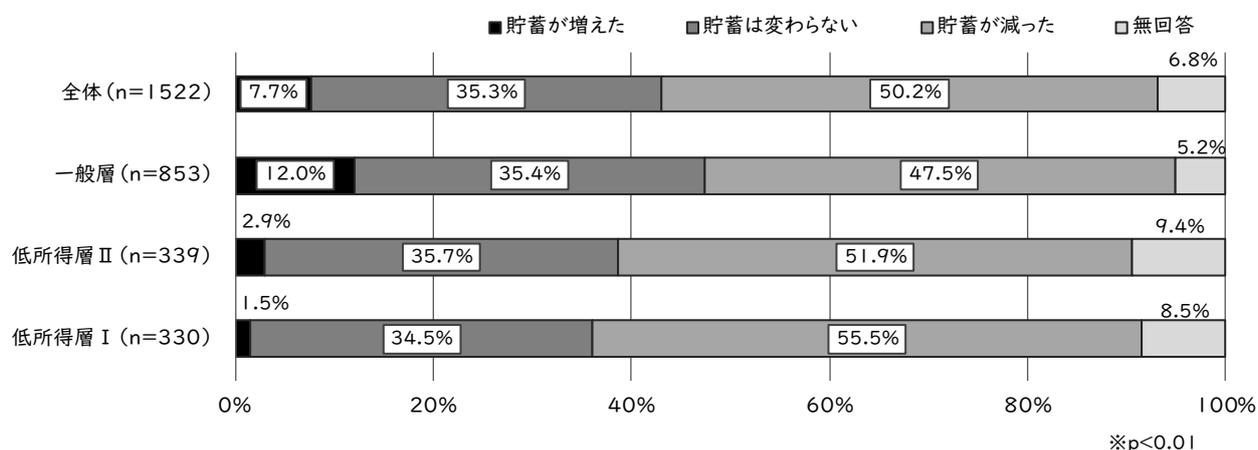
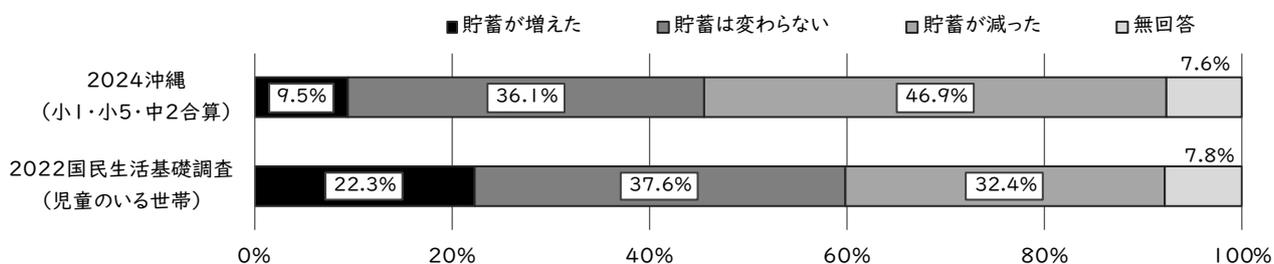


図4-2-7 【中2保護者】あなたの世帯の現在の貯蓄額は、昨年と比べて変わりましたか



国民生活基礎調査との比較

図4-2-8 【小1・小5・中2保護者】あなたの世帯の現在の貯蓄額は、昨年と比べて変わりましたか



3 食料・衣服が買えなかった経験

保護者に、食料や衣服が買えなかった経験があったかを尋ねています（本報告書の特集でも、食料、衣服が買えなかった経験について、2015年との経年比較を主に分析をしています）。

食料が買えなかった経験

図4-3-1から図4-3-4は、過去1年の間にお金が足りなくて家族が必要とする食料が買えなかった経験について尋ねた結果を示しています。この調査では、食料を買えなかった経験を有する世帯（「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合算）が、全体の2～3割に上るという結果がでました。一般層では「まったくなかった」と回答する割合が高い一方で、低所得層では「よくあった」「ときどきあった」と答える割合が顕著に高いことがわかります。

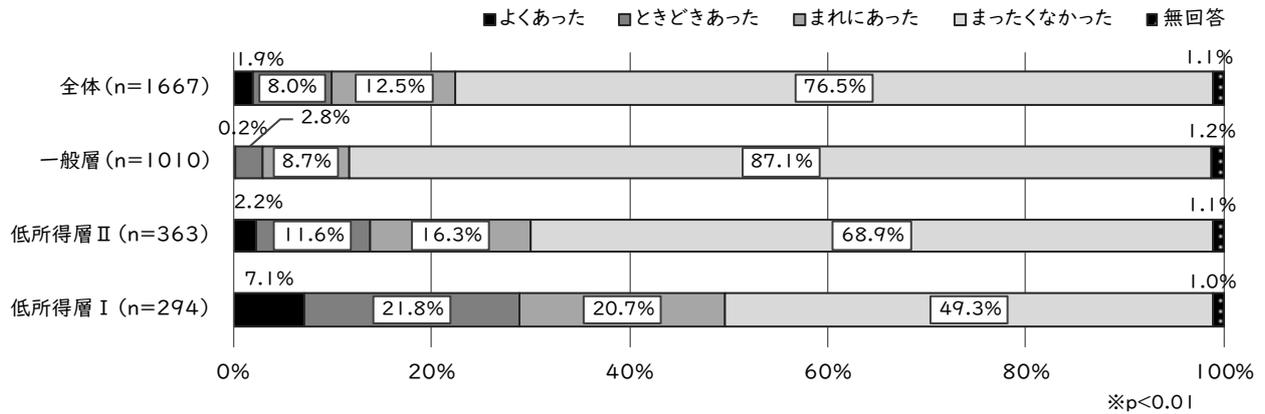
図4-3-1の小学1年生の保護者では、全体では76.5%が「まったくなかった」と回答していますが、一般層では87.1%とさらに高い割合となっています。一方、低所得層Ⅰでは「よくあった」「ときどきあった」と答えた割合がそれぞれ7.1%と21.8%に達し、「まれにあった」（20.7%）も含めると49.6%が食料を買えなかった経験があると回答しています。

図4-3-2の小学5年生や図4-3-3の中学2年生の保護者でも同様の傾向が見られ、低所得層Ⅰでは「よくあった」と答えた割合がそれぞれ6.8%、7.0%となり、「ときどきあった」「まれにあった」を含めると小学5年生で48.6%、中学2年生では58.2%にまで達しています。これは低所得層Ⅱ（35～40%台）や一般層（15%未満）と比較して大幅に高い割合となっています。

経年比較（図4-3-2、図4-3-3）を見ると、2021年沖縄県調査に比べて、2024年沖縄県調査の状況がさらに悪化していることがわかります。小学5年生、中学2年生のどの所得階層においても、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」を合わせた回答割合が増加しており、小学5年生の全体では、21.8%から28.0%へ6.2ポイントの悪化、中学2年生の全体では、23.6%から29.7%へ6.1ポイントの悪化となっています。新型コロナウイルス感染症の影響が強かった2021年度よりも2024年度の方がより食料を買えなかった経験をもつ世帯が広がっており、家計の困難さが食生活に直接的な影響を及ぼしていることがわかります。

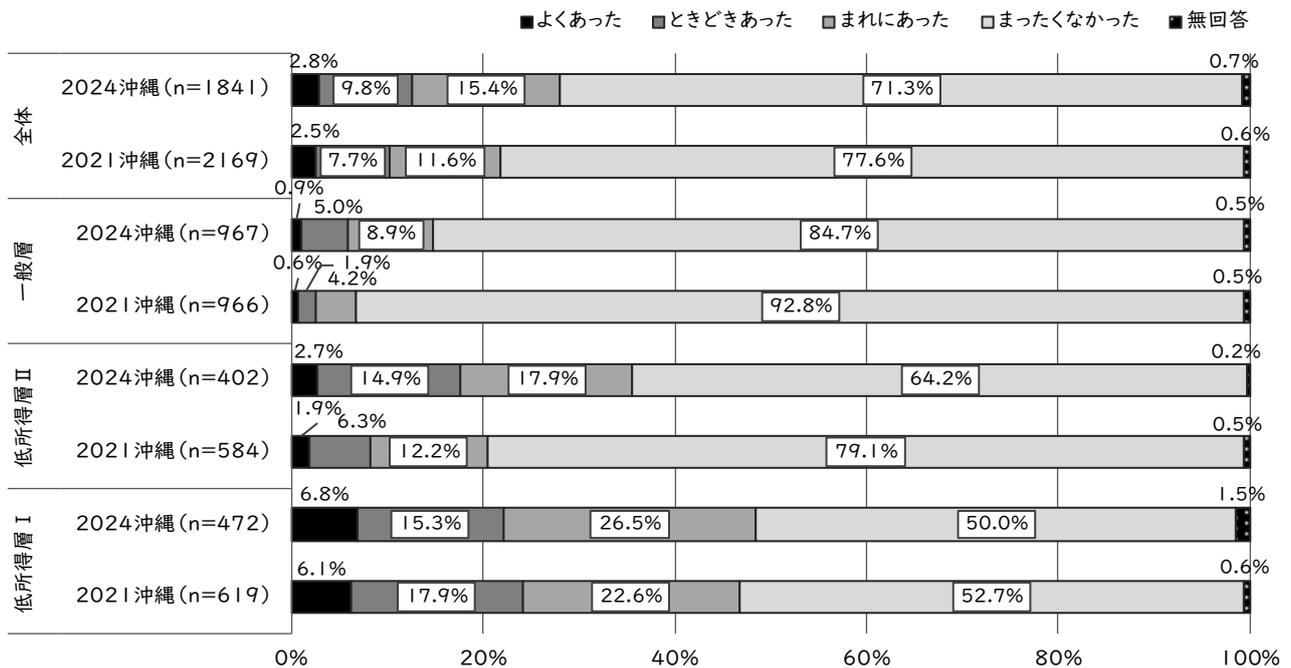
また、図4-3-4に示されるように、2022年東京都調査を比較すると、食料を買えなかった経験がある割合は、沖縄県の方が全体的に顕著に高くなっています。東京都では「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合算値は、小学5年生、中学2年生の順に6.5%、10.0%ですが、沖縄県ではそれぞれ27.7%、29.5%となっています。食料という基本的なニーズを満たすことのできない経験があった世帯の割合が、他地域（東京都）と比べても格段に高く、しかも2021年に比べて状況が悪化していることは深刻に受け止める必要があります。

図4-3-1 【小1保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか



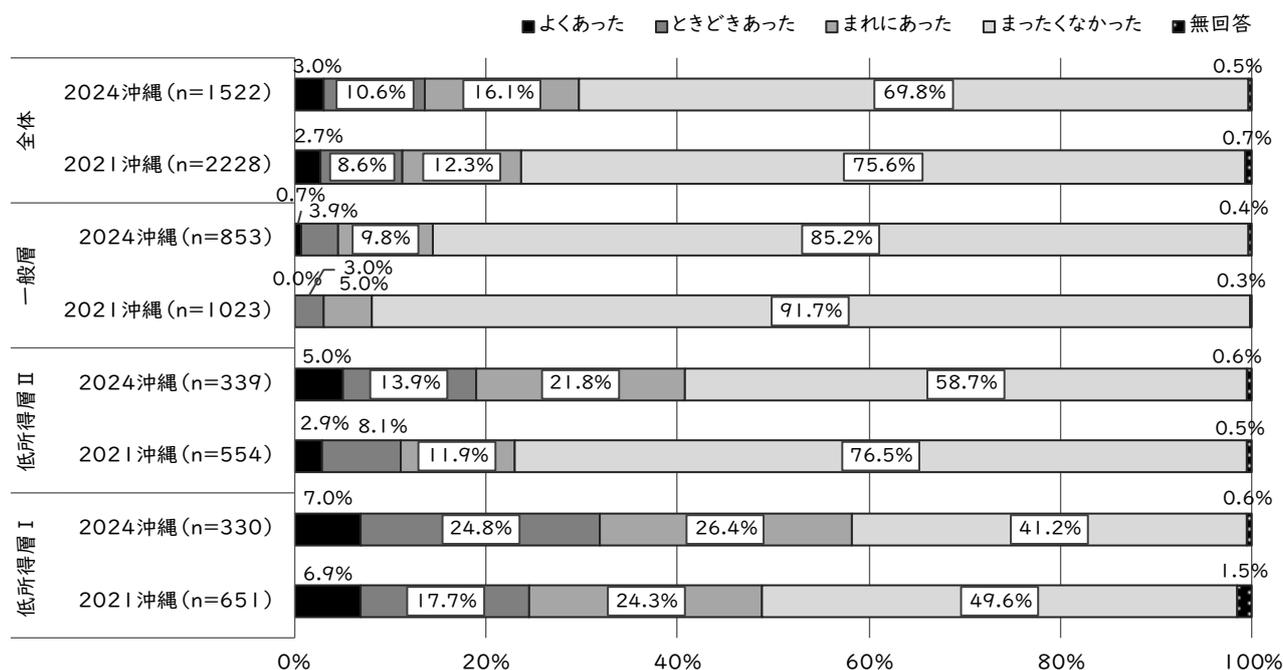
経年比較

図4-3-2 【小5保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともにp<0.01

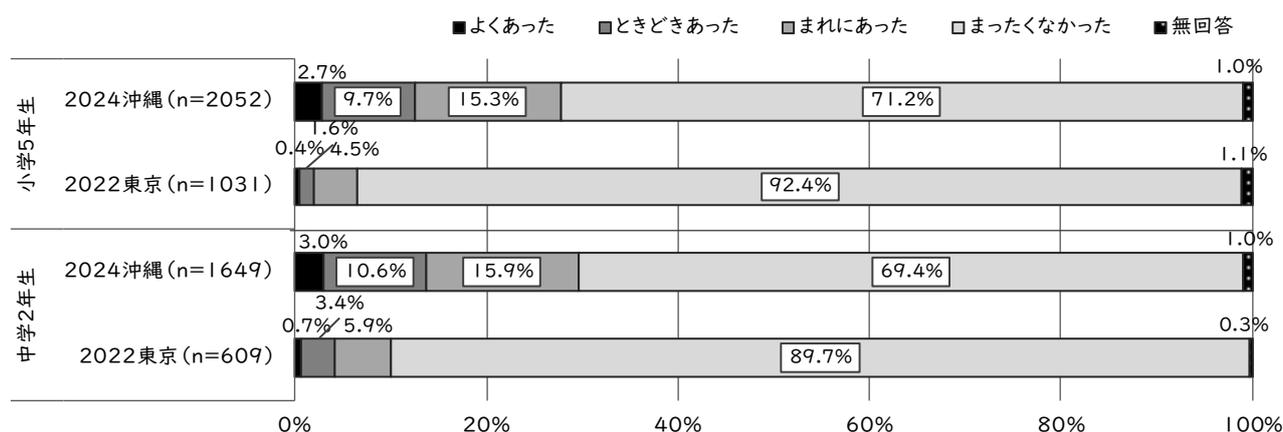
図4-3-3 【中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか



※「一般層」「低所得層II」「低所得層I」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

東京都調査との比較

図4-3-4 【小5・中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか



※2022年東京都調査の質問は、「あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料を買えないことがありましたか」

衣服が買えなかった経験

図4-3-5から図4-3-8は、過去1年の間にお金が足りなくて家族が必要とする衣服が買えなかった経験について尋ねた結果を示しています。この調査では、全体の約2～3割が衣服を買えなかった経験を有しており、低所得層ではその割合がさらに高いことがわかります。

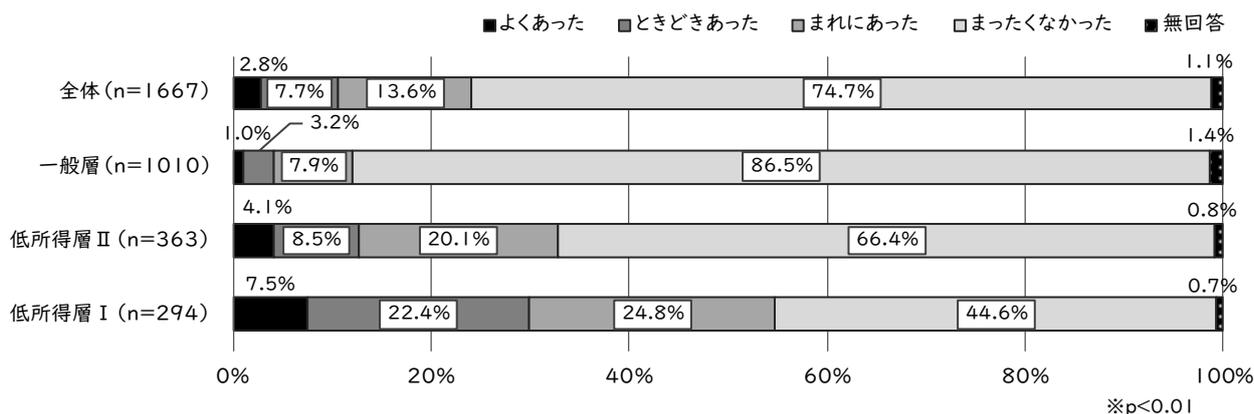
図4-3-5の小学1年生の保護者では、全体では74.7%が「まったくなかった」と回答しており、一般層では86.5%とさらに高い割合となっています。一方、低所得層Ⅰでは「よくあった」が7.5%、「ときどきあった」が22.4%、「まれにあった」が24.8%と、合算値が54.7%と半数を超えています。この傾向は図4-3-6（小学5年生）や図4-3-7（中学2年生）の保護者でも見られ、低所得層Ⅰの合算値はそれぞれ52.2%、61.2%と、特に中学2年生の世帯への影響が顕著です。どの学年でも、低所得層Ⅰの過半数を超える世帯が衣服を買えなかった経験を有していることがわかります。

図4-3-6、図4-3-7で、2021年沖縄県調査と2024年沖縄県調査を比較すると、全体的に「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合算値が増加しており、2024年の状況が悪化していることがわかります。例えば、小学5年生では合算値が2021年の24.9%から2024年は30.9%へ、中学2年生では26.9%から32.4%へと悪化しています。

また、図4-3-8に示されるように、2024年沖縄県調査と2022年東京都調査を比較すると、「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」の合算値は、東京都の小学5年生8.9%、中学2年生12.7%に対し、沖縄県では小学5年生30.9%、中学2年生32.1%とそれぞれ約3倍に上ります。このように、衣服が買えないという経験が沖縄県の実態においてより広範に確認されます。

これらの結果は、低所得層を中心に衣服購入が困難な世帯が増加していることを示しており、食料とあわせて生活の基本的なニーズに直接的な影響を及ぼしていることを浮き彫りにしています。

図4-3-5 【小1保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか



経年比較

図4-3-6 【小5保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか

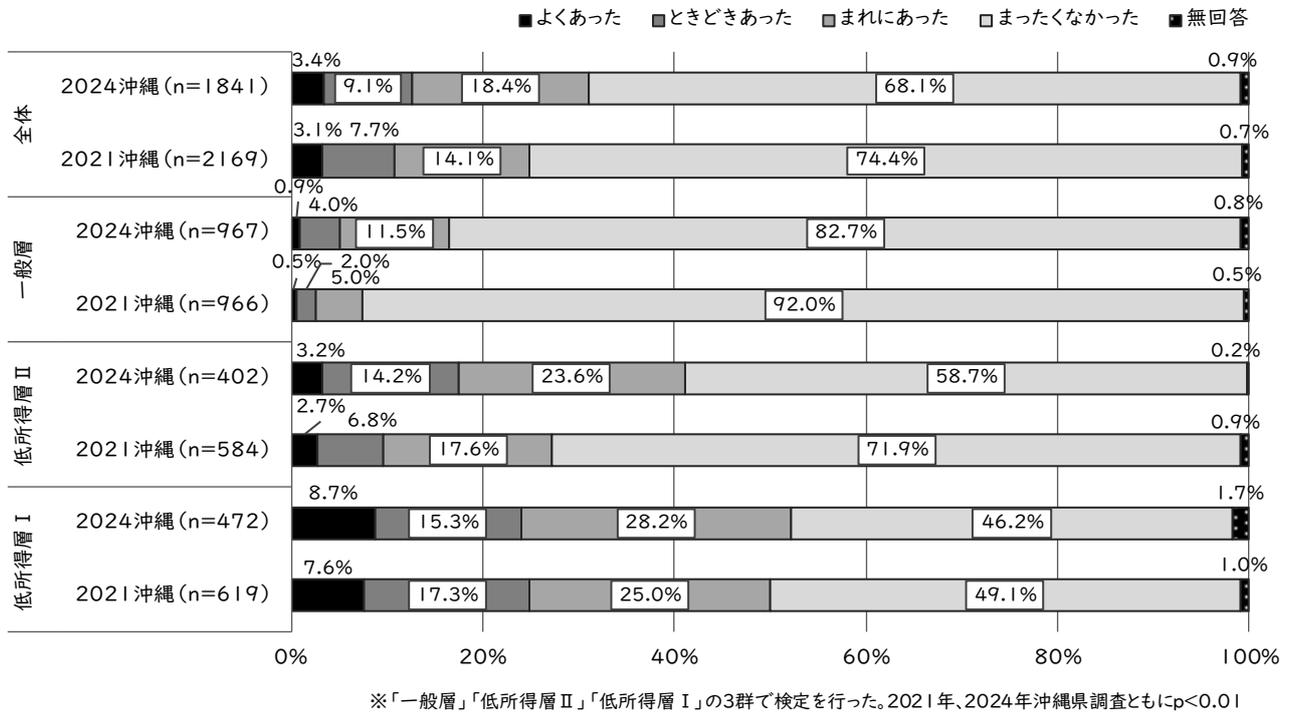
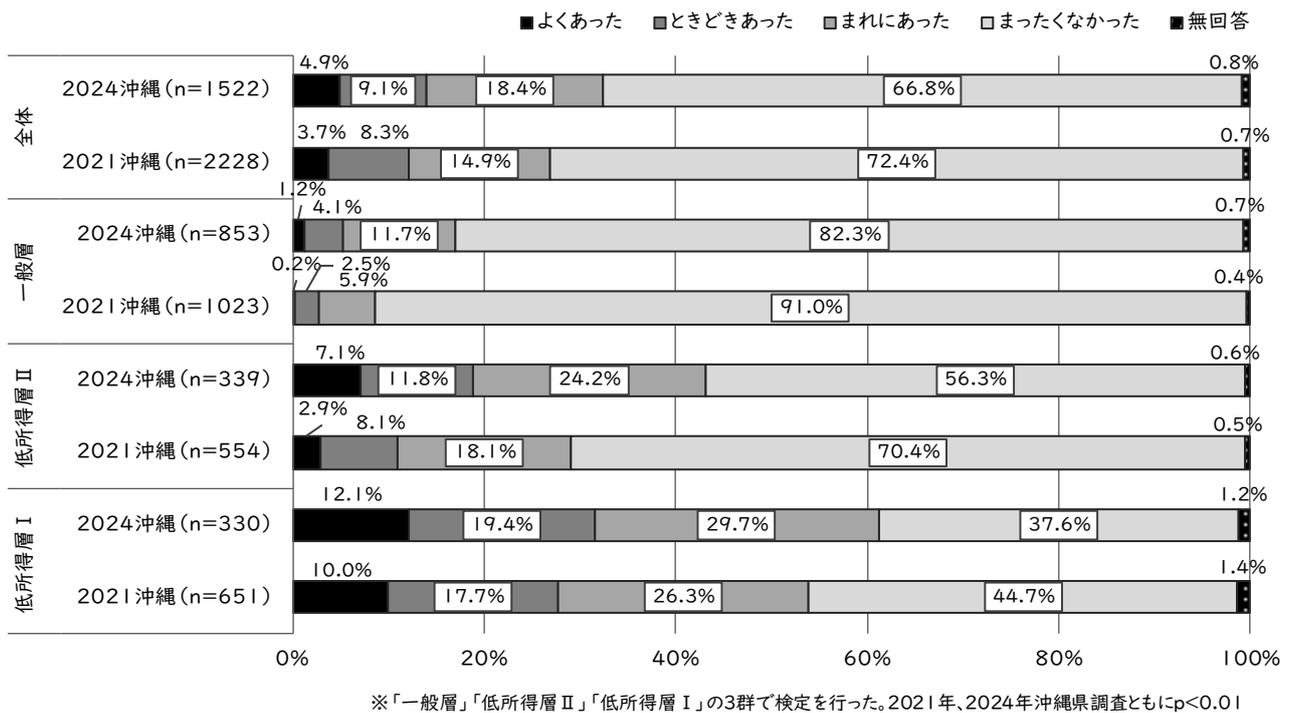
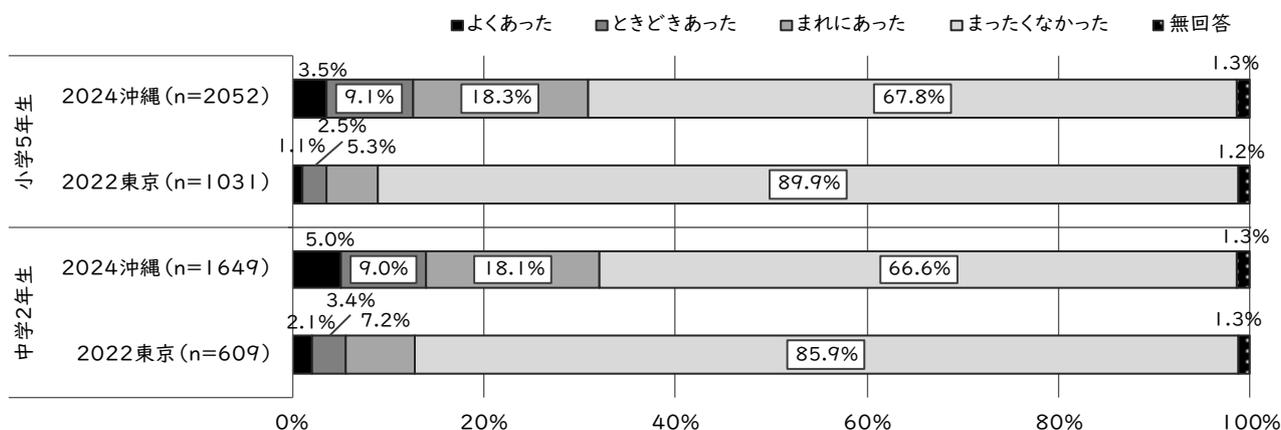


図4-3-7 【中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか



東京都調査との比較

図4-3-8 【小5・中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか



※2022年東京都調査の質問は、「あなたのご家庭では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣類が買えないことがありましたか」

図4-4-1から図4-4-6は、過去1年間に経済的な理由で月々の料金支払いや家賃、住宅ローン、債務の返済が滞った経験について尋ねた結果を示しています。

公共料金に分類される電気料金、ガス料金、水道料金及び電話料金については、低所得層Ⅰで滞納経験が「あった」と回答した割合が他の層に比べて顕著に高くなっています。例えば、電気料金では、全体では8.5～9.4%にとどまる一方、低所得層Ⅱでは、11.6～13.0%、低所得層Ⅰでは18.4～23.5%が滞納を経験しています。同様に低所得層Ⅰについて、ガス料金では17.2～21.4%、水道料金では15.6～16.5%となっています。電話料金では17.4～21.2%が滞納経験を有していました。

家賃の滞納についても、低所得層Ⅰで高い割合が見られます。家賃では16.3～19.7%が滞納が「あった」と回答しています。

一方で、住宅ローンについては、「該当しない」という回答が多いため、滞納経験が「あった」と答えた割合は高くありません。

クレジットカードや借金の返済については、滞納経験の割合がさらに高くなっています。低所得層Ⅱで18.7～24.6%、低所得層Ⅰで26.1～31.6%が滞納が「あった」と回答しています。

また、税金や社会保険料の滞納についても、低所得層Ⅱで12.7～18.6%、低所得層Ⅰでは23.5～25.2%が滞納が「あった」と回答しています。

電話料金、電気料金、ガス料金、水道料金

図4-4-1 【小I保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができないことがありましたか

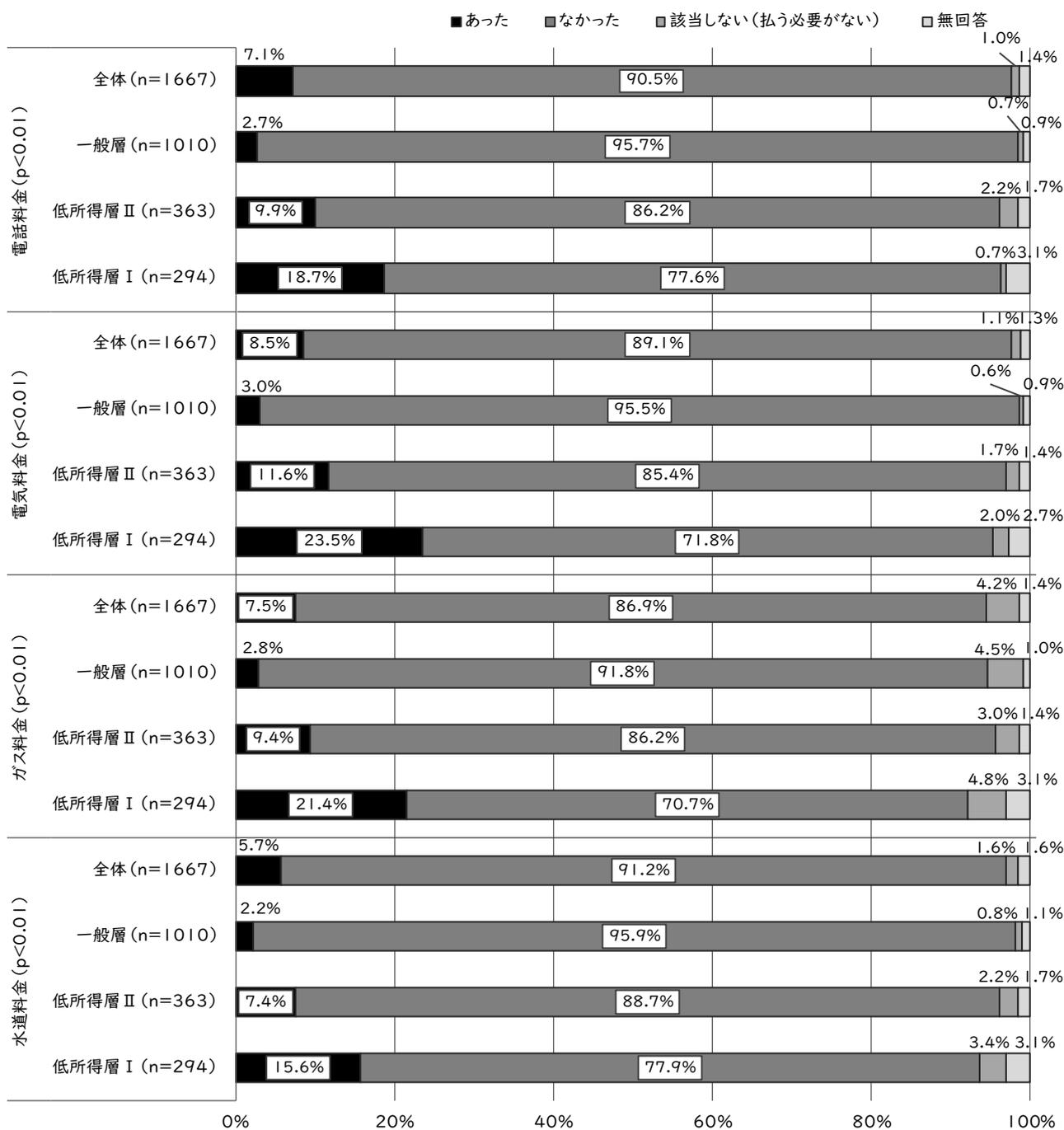


図4-4-2 【小5保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか

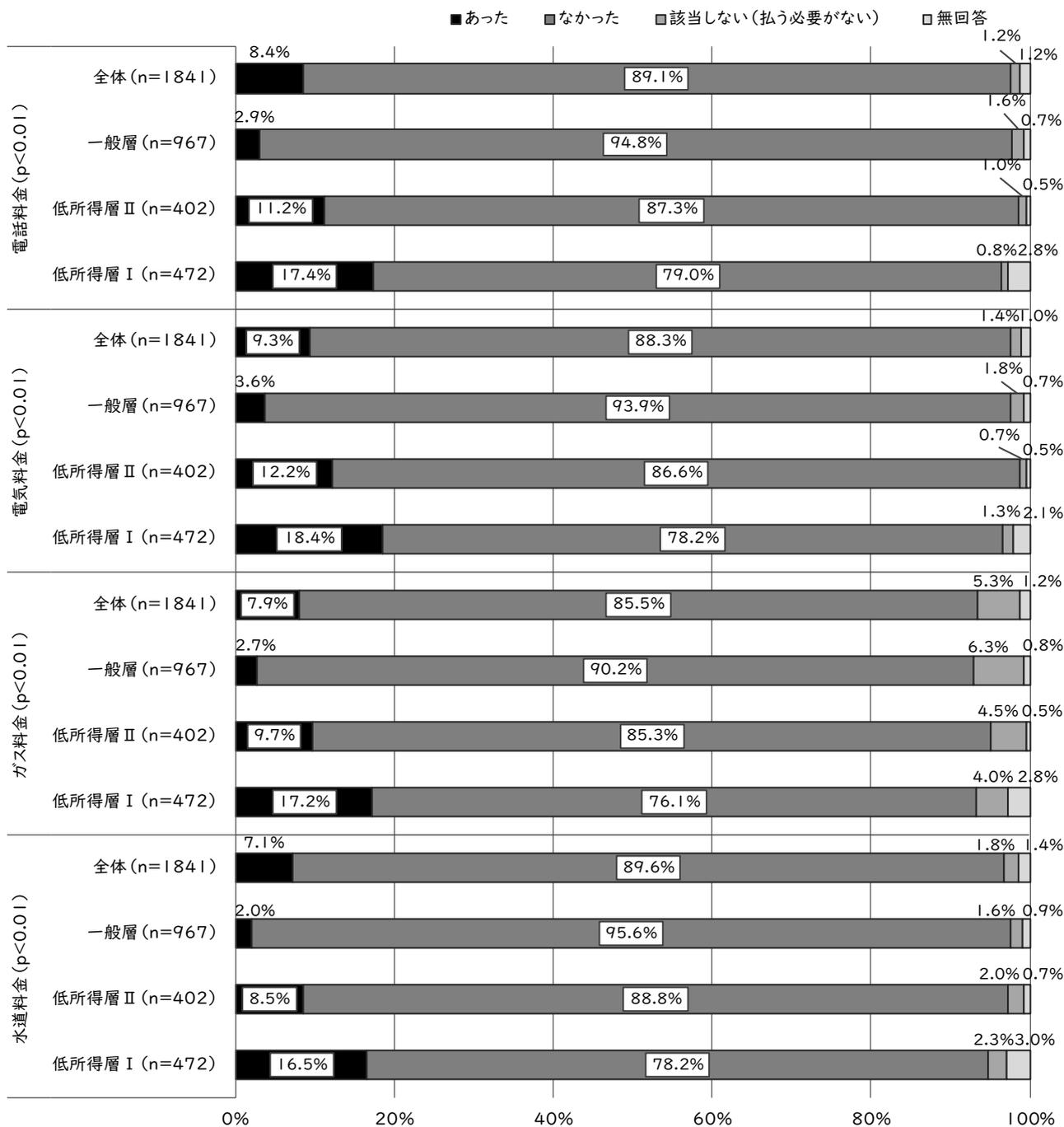
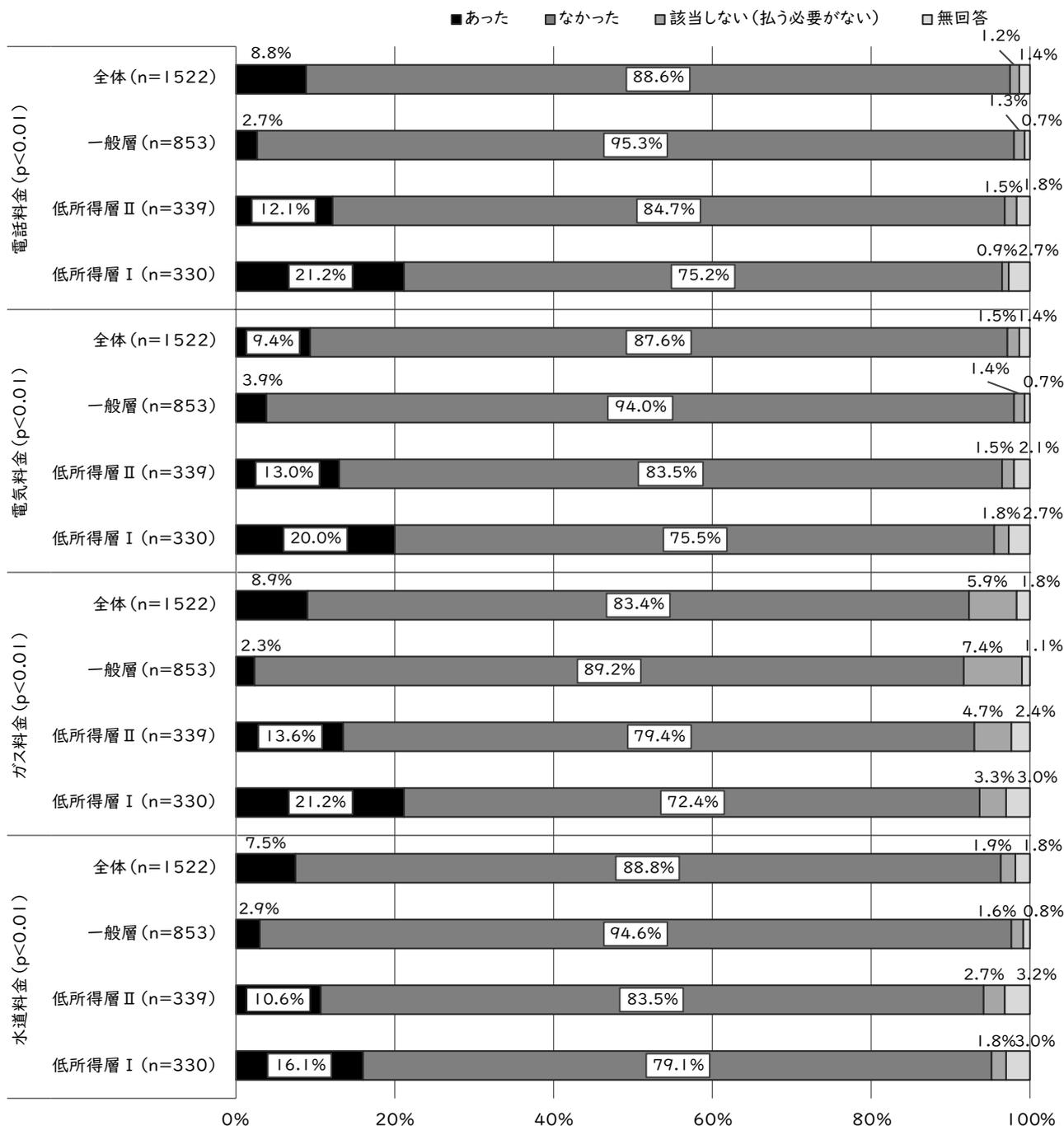


図4-4-3 【中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか



家賃、住宅ローン、クレジットやほかの借金の支払い、税金・社会保険料

図4-4-4 【小I保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができないことがありましたか

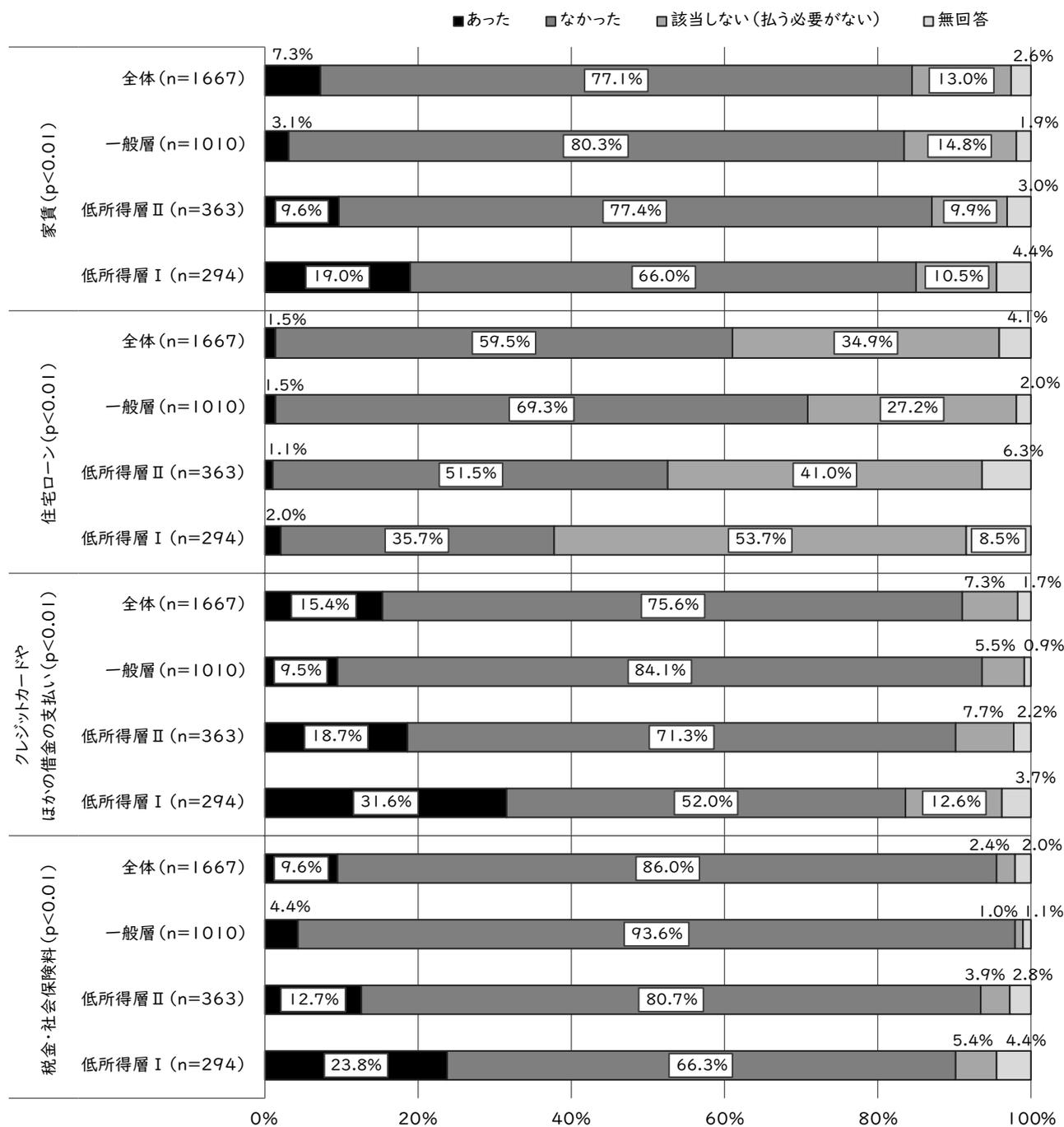


図4-4-5 【小5保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか

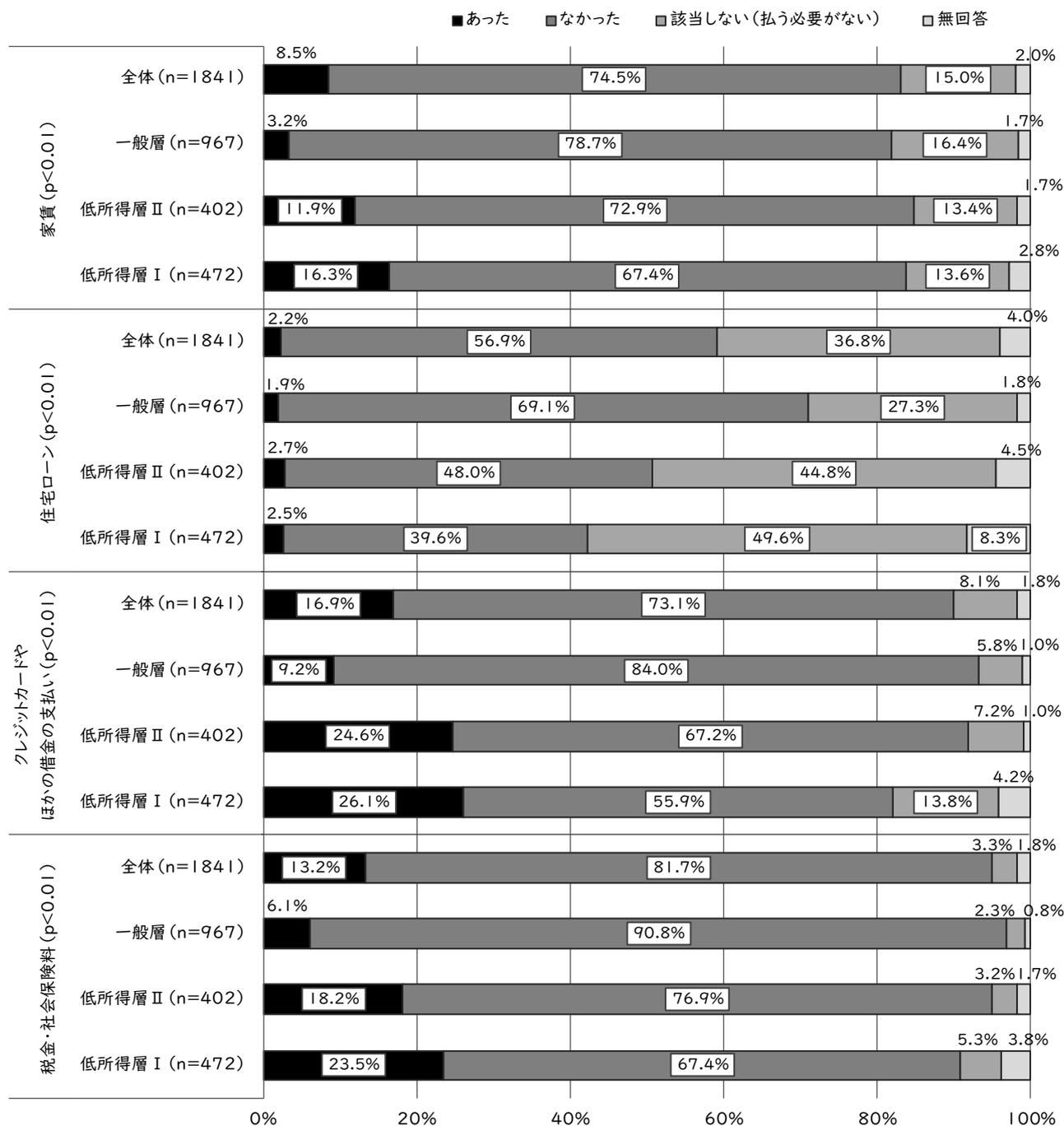
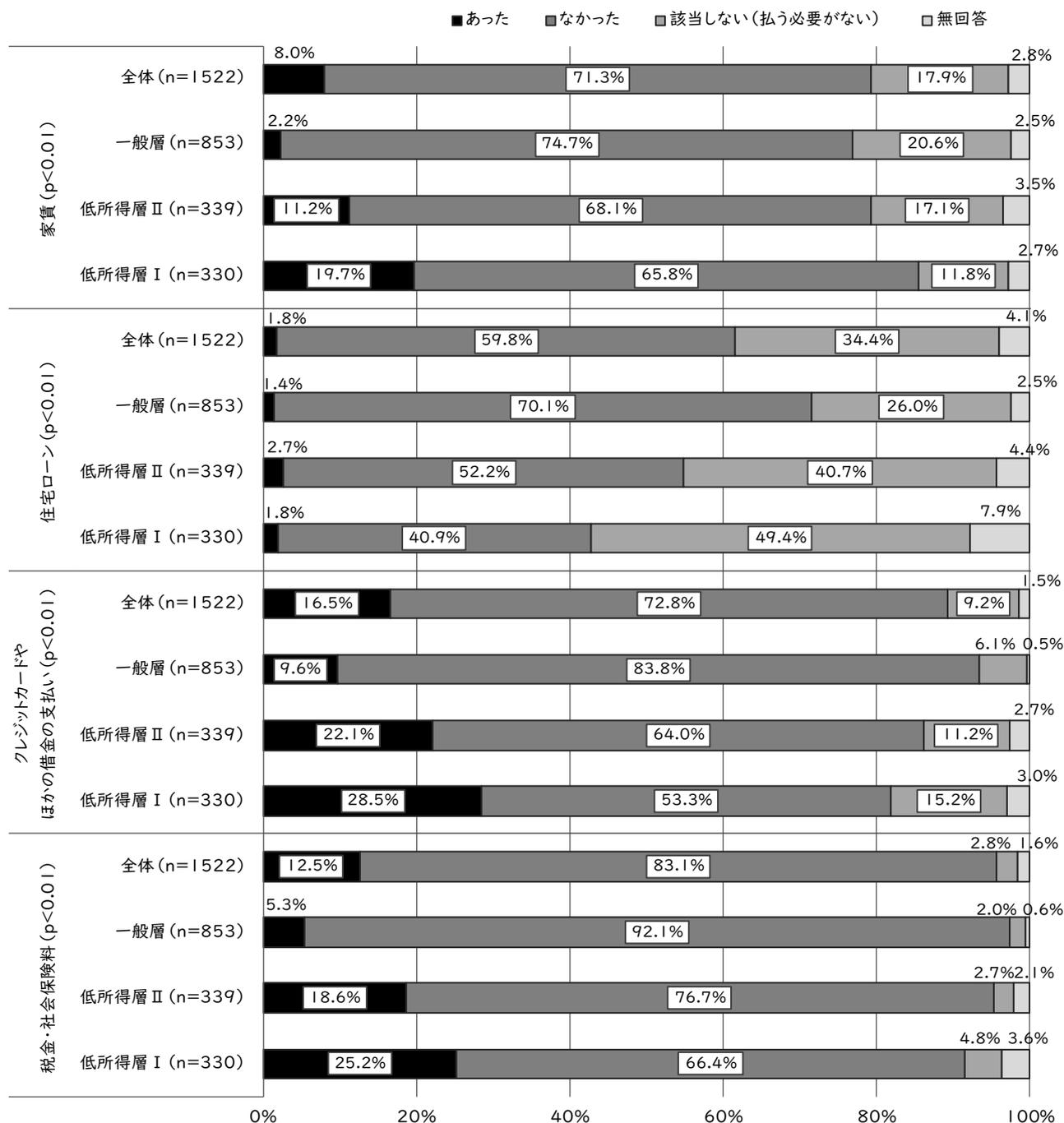


図4-4-6 【中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか



東京都調査との比較

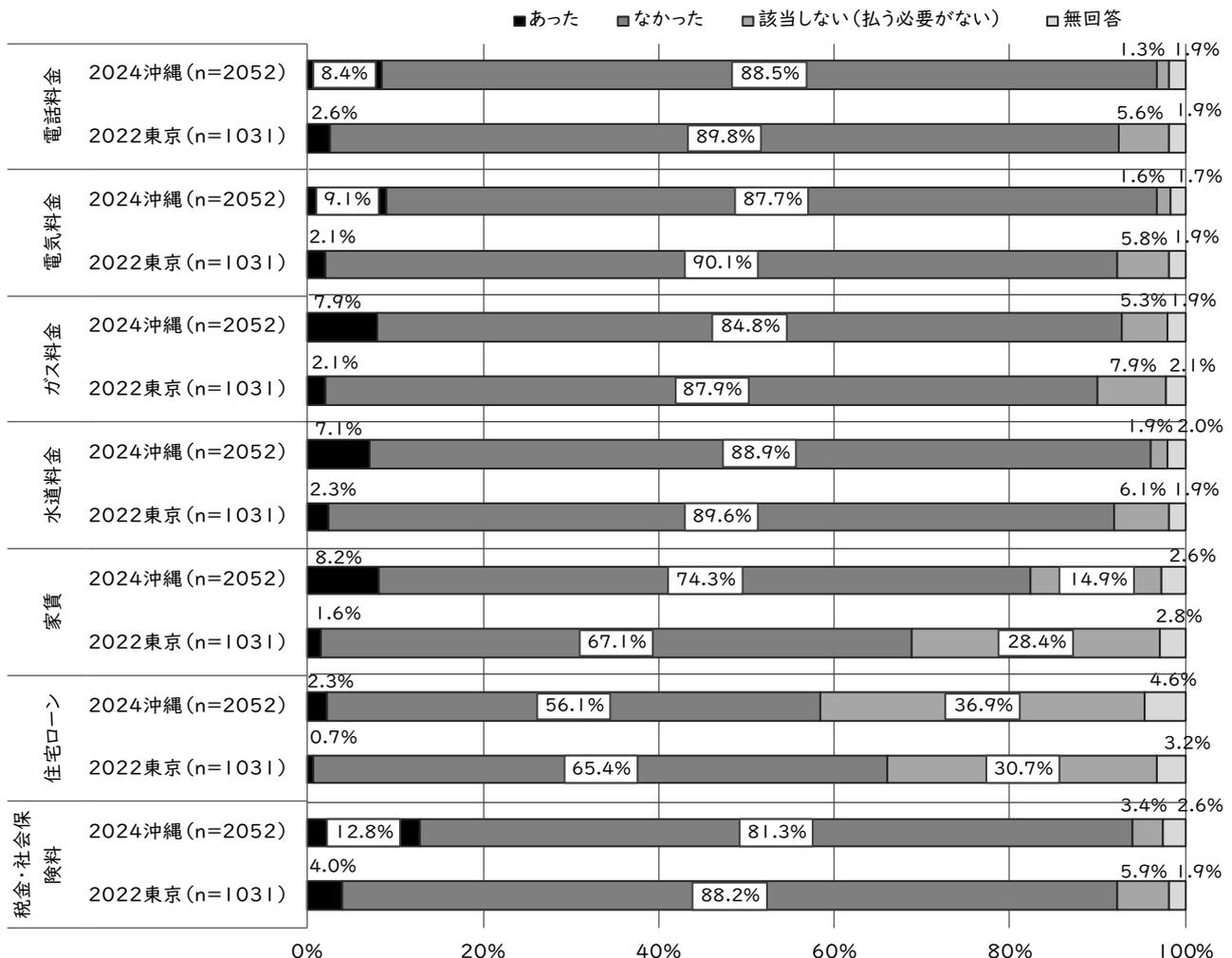
図4-4-7及び図4-4-8は、2024年沖縄県調査と2022年東京都調査における滞納経験の比較を示しています。この調査から、沖縄県の方が東京都に比べて滞納経験の割合が全般的に高いことが明らかになりました。

公共料金（電気料金、ガス料金、水道料金）、電話料金の滞納経験を見ると、いずれの項目でも沖縄県の滞納率が東京都を上回っています。例えば、電気料金では沖縄県が9.1～9.6%であるのに対し、東京都は2.1～3.3%となります。同様に、ガス料金、水道料金では沖縄県が7.9～9.0%、7.1～7.6%であるのに対して、東京都は2.1～2.8%、2.1～2.3%にとどまっています。

家賃の滞納についても、沖縄県の割合が高く、8.1～8.2%が滞納経験が「あった」と回答しています。これに対し、東京都では1.6～2.5%と約3～5倍の差があります。また、税金・社会保険料の滞納については、沖縄県が12.5～12.8%であり、東京都4.0～4.4%を3倍程度大きく上回っています。

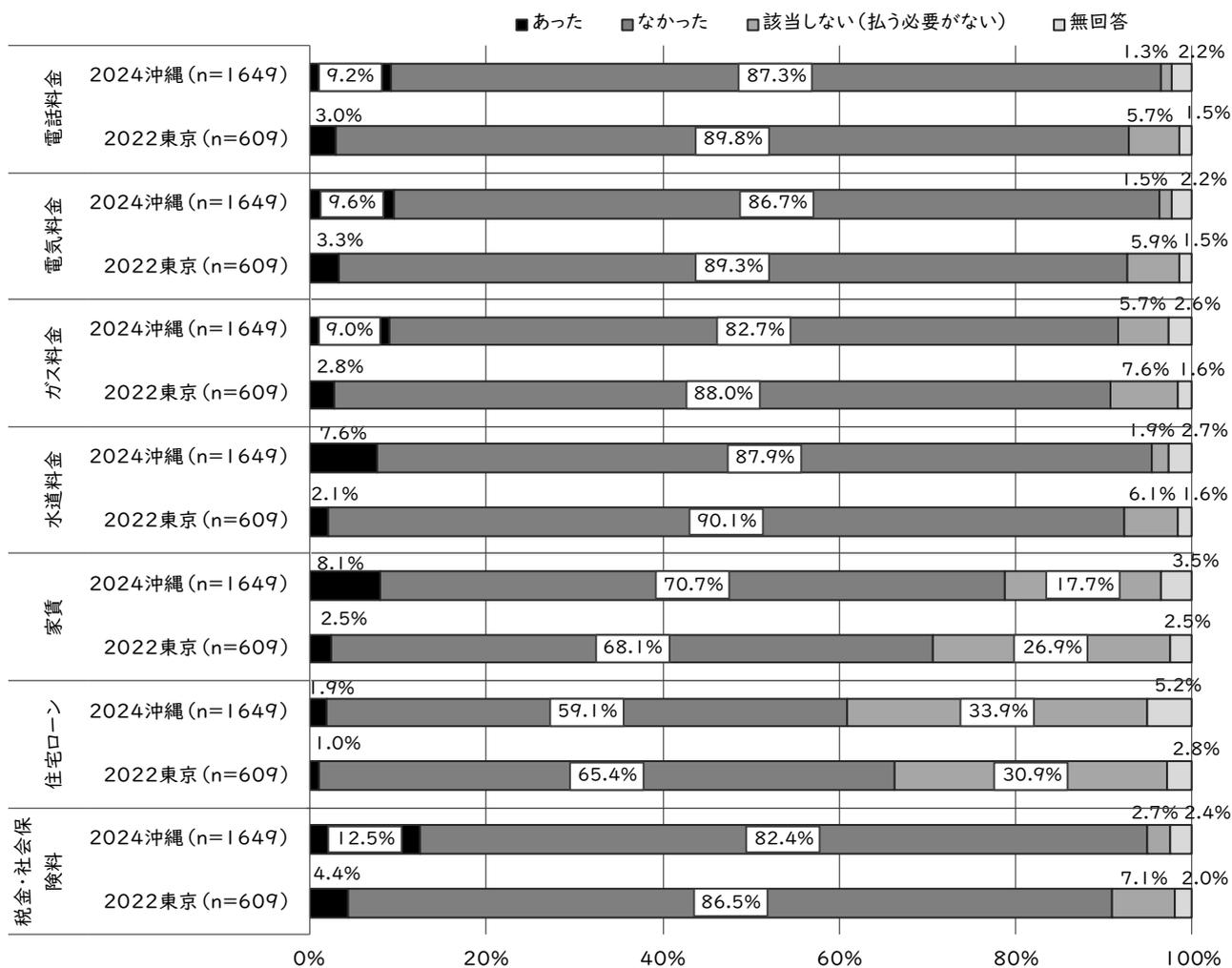
これらの結果から、沖縄県の滞納率は公共料金、家賃、税金・社会保険料等のいずれの項目でも東京都を大きく上回っています。生活インフラに関する費用や、家賃、税金・社会保険料の滞納割合が顕著に高いことは、沖縄県では低所得層を中心に経済的困窮が深刻であることを示唆しています。

図4-4-7 【小5保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか



※2022年東京都調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA～Hのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図4-4-8 【中2保護者】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができなかったことがありましたか



※2022年東京都調査の質問は、「過去1年の間に、経済的な理由で、以下のA~Hのサービス・料金について、支払えないことがありましたか」

図4-5-1から図4-5-3は、保護者が学校教育費の中で経済的負担が大きいと感じる項目について尋ねた結果を示しています。この調査では、こどもの学年や所得階層によって負担感の感じ方に違いが見られるものの、特に「給食費」、「通学用品費（ランドセル、かばん、通学用くつなど）」、「体育用品費（体育授業で使用する運動靴、体育着・体育帽、水泳着など）」の3つが全体的に高い割合を占めることがわかりました。

小学1年生（図4-5-1）では、「通学用品費」が全体で56.4%ともっとも高い割合を示しており、次いで「体育用品費」が42.3%、3番目に「給食費」が40.6%となっています。回答が小学1年生の保護者であり、特に就学準備にかかる費用が保護者にとって大きな経済的負担となっていることが理由と考えられます。

小学5年生（図4-5-2）では、「給食費」が41.2%でもっとも高い割合となっています。また、「体育用品費」が40.2%でこれに次いでおり、「通学用品費」（32.3%）、「学用品費（授業で使用する筆記用具、絵・習字用具など文房具類）」（32.1%）、「宿泊学習費（自然教室、修学旅行など）」（28.5%）と続きます。

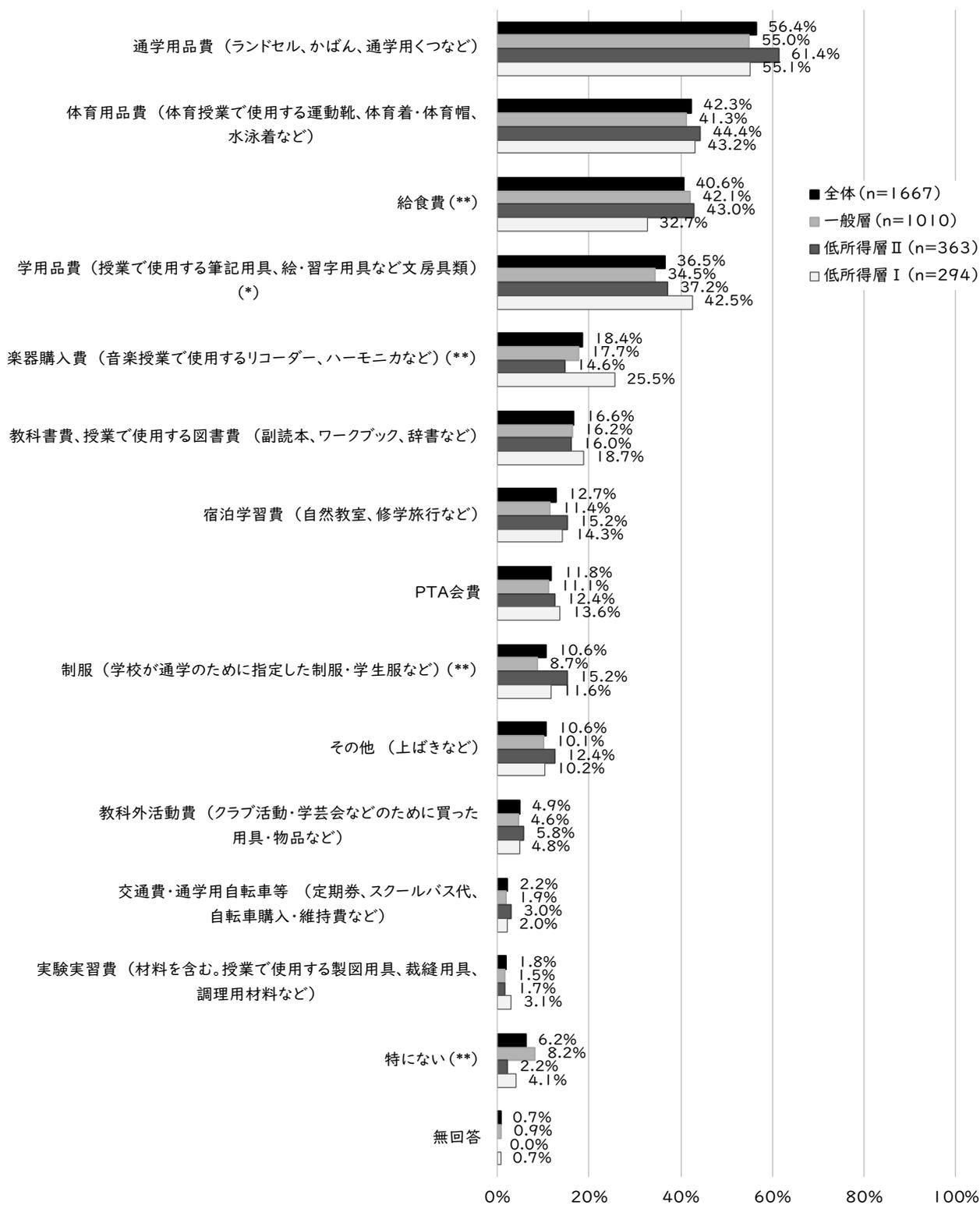
中学2年生（図4-5-3）では、「制服（学校が通学のために指定した制服・学生服など）」が全体で72.0%と圧倒的に高い割合を占めています。次に、「宿泊学習費」も59.1%と高い割合であり、中学2年生の保護者にとって、これら学校行事に伴う一時的な費用が大きな負担と感じていることがわかります。

これらの結果から、学年ごとの特徴として、小学1年生では就学準備費用、小学5年生では給食費、中学2年生では制服や宿泊学習費が経済的負担として挙げられることがわかります。特に給食費は継続的な負担であり、小学1年生や中学2年生の保護者においても負担が大きいものとして第3位に入っています。他の項目に比べて長期的に家庭の経済状況に影響を与える可能性が高いと考えられます。

特筆すべき点として、経済状況別にみると、「給食費」については、低所得層Ⅰでは他の所得階層に比べて、負担と回答する割合が小さいことがわかります。例えば、小学5年生の保護者の場合、「給食費」を経済的な負担が大きいと回答した割合は、全体で41.2%、一般層で44.3%、低所得層Ⅱでは47.0%に上りますが、低所得層Ⅰでは29.9%にまで下がります。これは低所得層Ⅰが就学援助等の支援制度によって給食費の減免や補助を受けている可能性が考えられます。他の項目では、低所得層Ⅰの方が負担を感じる割合が大きくなる傾向が見られていることを考慮すると、就学援助等の制度によって低所得世帯の給食費の負担軽減へ寄与している可能性が高く、制度が有効に機能している証左であるといえます。

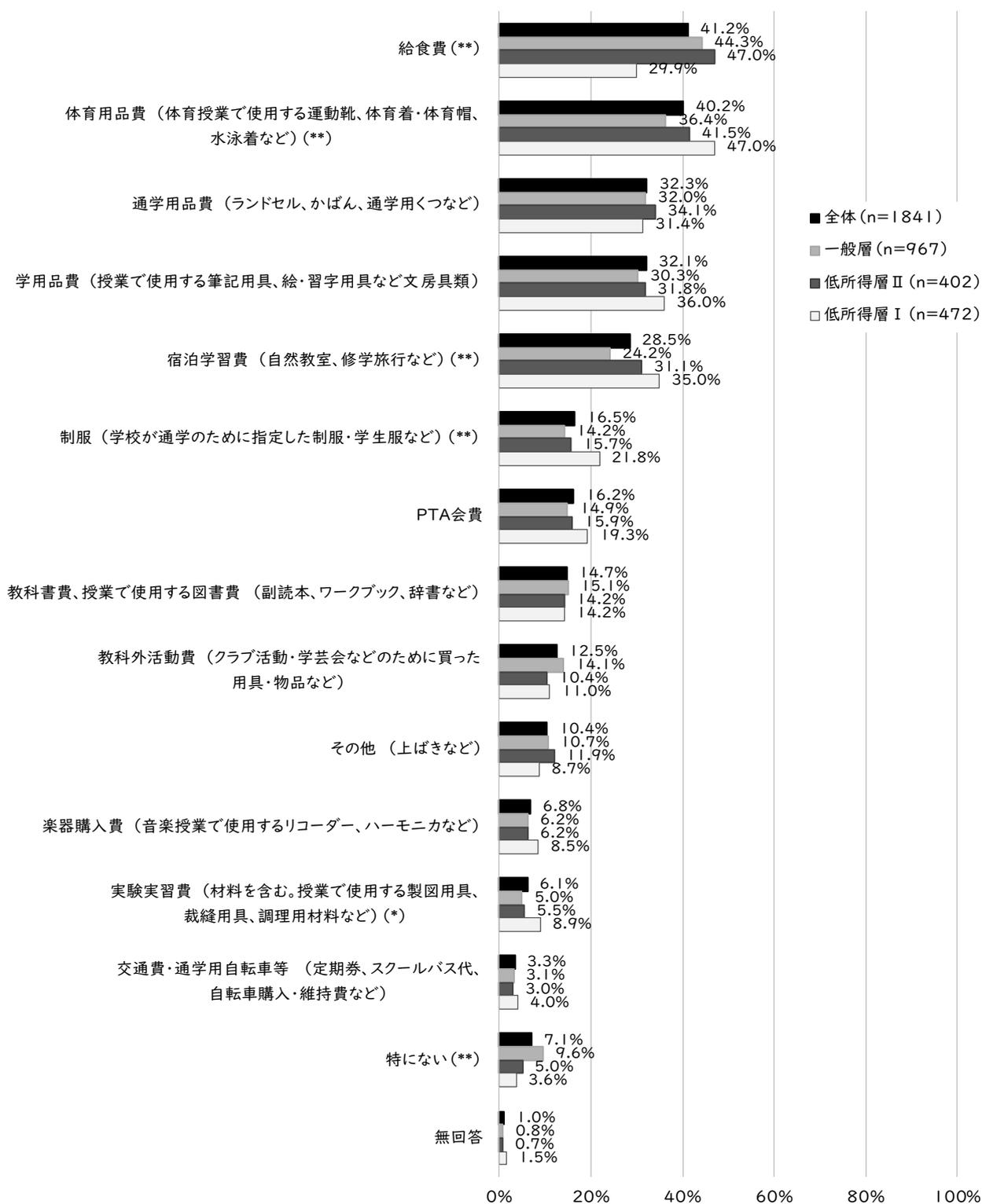
一方で、低所得層Ⅱにおいては、どの年代においても給食費の負担を回答している割合が他の層に比べて高く、同層のうち就学援助を利用していない世帯（対象外を含む）において、給食費が大きな負担となっていることが推測できます。なお、給食費については、自治体の施策の違い（無償化や半額補助など）によって保護者負担の実情には違いが生じているため、各地域の回答には県平均と比べて地域的偏りがある可能性があります。

図4-5-1 【小1保護者】あなたの世帯にとって、お子さんの学校教育費のなかで経済的な負担が大きいものはどれですか(1~3番目合算)



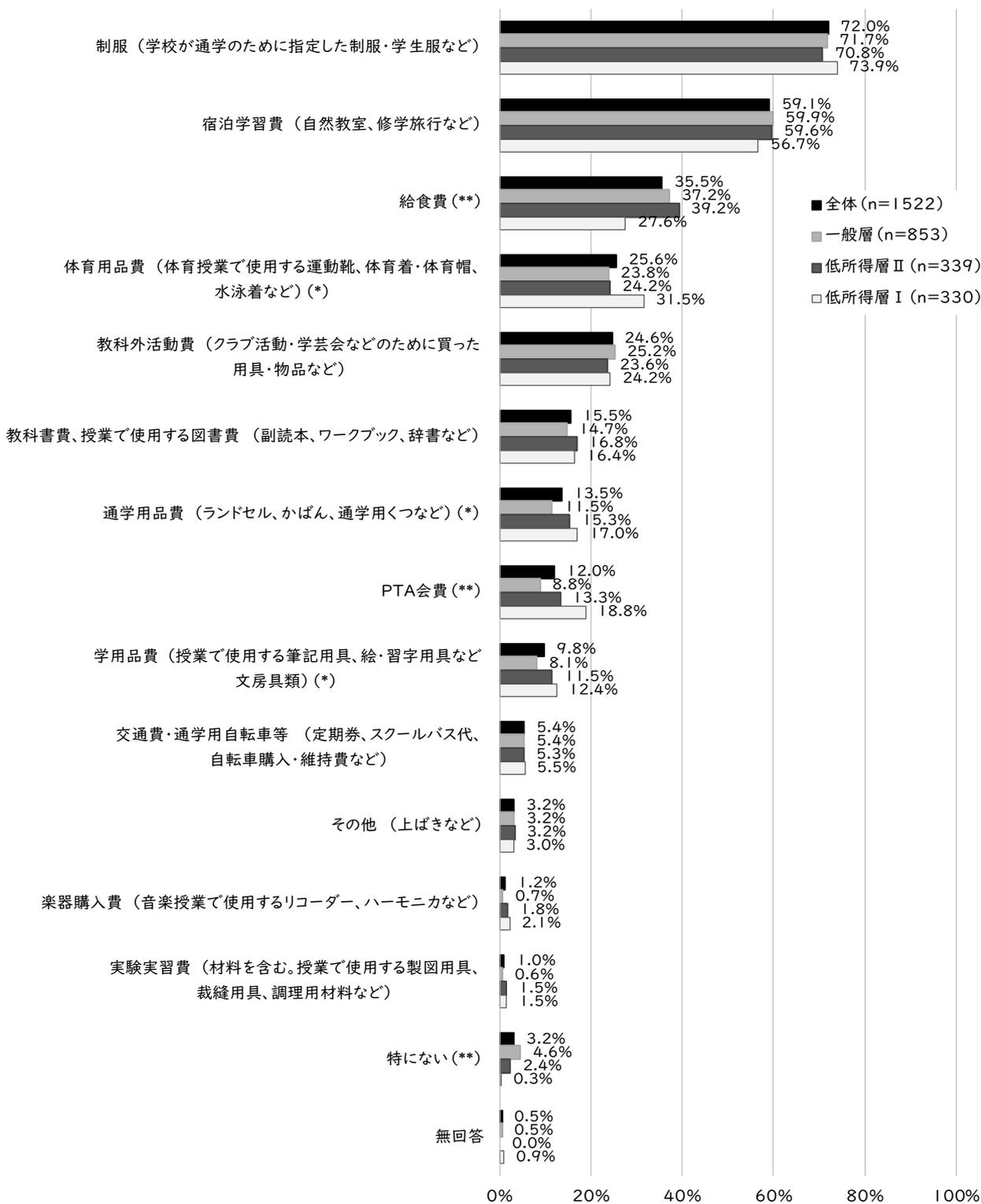
※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

図4-5-2 【小5保護者】あなたの世帯にとって、お子さんの学校教育費のなかで経済的な負担が大きいものはどれですか(1~3番目合算)



※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

図4-5-3 【中2保護者】あなたの世帯にとって、お子さんの学校教育費のなかで経済的な負担が大きいものはどれですか(1~3番目合算)



※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

6 相談相手

図4-6-1から図4-6-3は、「子育てに関する相談」「重要な事柄の相談」「いざという時のお金の援助」という3つの事柄において頼れる人がいるかを尋ねた結果を示しています。この調査では、所得が低くなるにつれて頼れる人が少なくなる傾向が確認され、人間関係の面でも社会的孤立状態にある可能性が示唆されます。

「子育てに関する相談」では、全体では84.8～88.5%が「頼れる人がいる」と回答していますが、低所得層Ⅰではその割合が77.3～84.0%に低下しています。特に中学2年生では、低所得層Ⅰで「いない」と回答した割合が14.2%と他の所得階層に比べて高く、子育てにおいて孤立している家庭が少なくないことがわかります。

「重要な事柄の相談」では、全体で81.7～85.5%が「頼れる人がいる」と回答していますが、低所得層Ⅰでは70.0～77.9%に減少しています。特に中学2年生では、「いない」と回答した割合が19.7%、「そのことでは人に頼らない」と回答した割合が8.8%になっており、所得が低くなるにつれて重要な意思決定において孤立する状況が浮き彫りとなっています。

「いざという時のお金の援助」については、全体で52.5～57.1%が「頼れる人がいる」と回答していますが、所得階層による違いが顕著になっています。一般層では、59.6～64.3%であるのに対して、低所得層Ⅱでは50.4～53.7%と低下し、低所得層Ⅰでは36.4～46.9%とさらに低くなっています。経済的なりすくに遭遇しやすい低所得層ほど、経済的な援助を頼める相談相手が少なく、孤立状態にあることがうかがわれます。

これらの結果から、所得が低い層ほど「頼れる人がいない」と回答する割合が高くなる傾向が明らかになりました。特に低所得層Ⅰでは、子育てや重要な意思決定においても相談できる人が少ない上、金銭的な援助を得られる人がいない割合が顕著に高くなっています。この状況は、経済的な困窮だけでなく、社会的孤立の問題も抱えていることを示しています。

図4-6-1 【小1保護者】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか

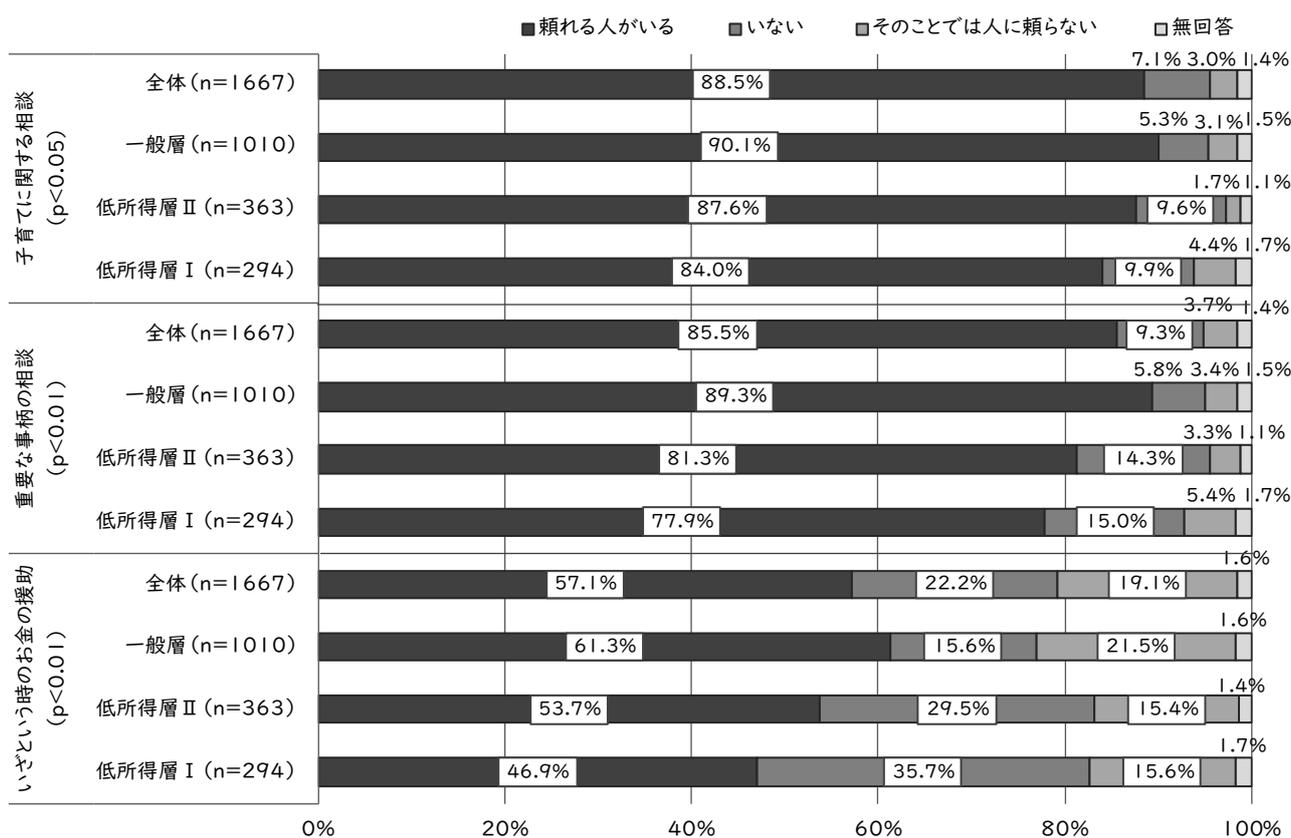


図4-6-2 【小5保護者】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか

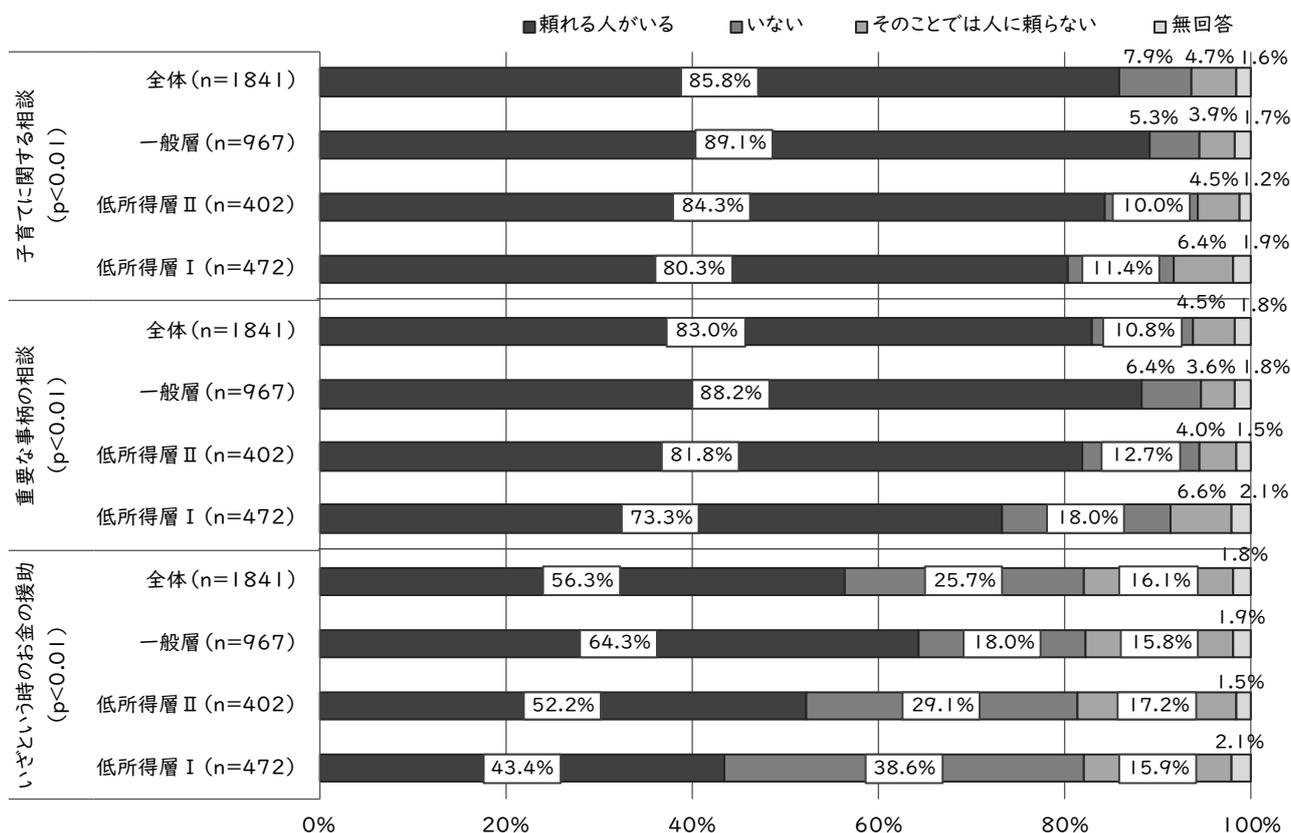
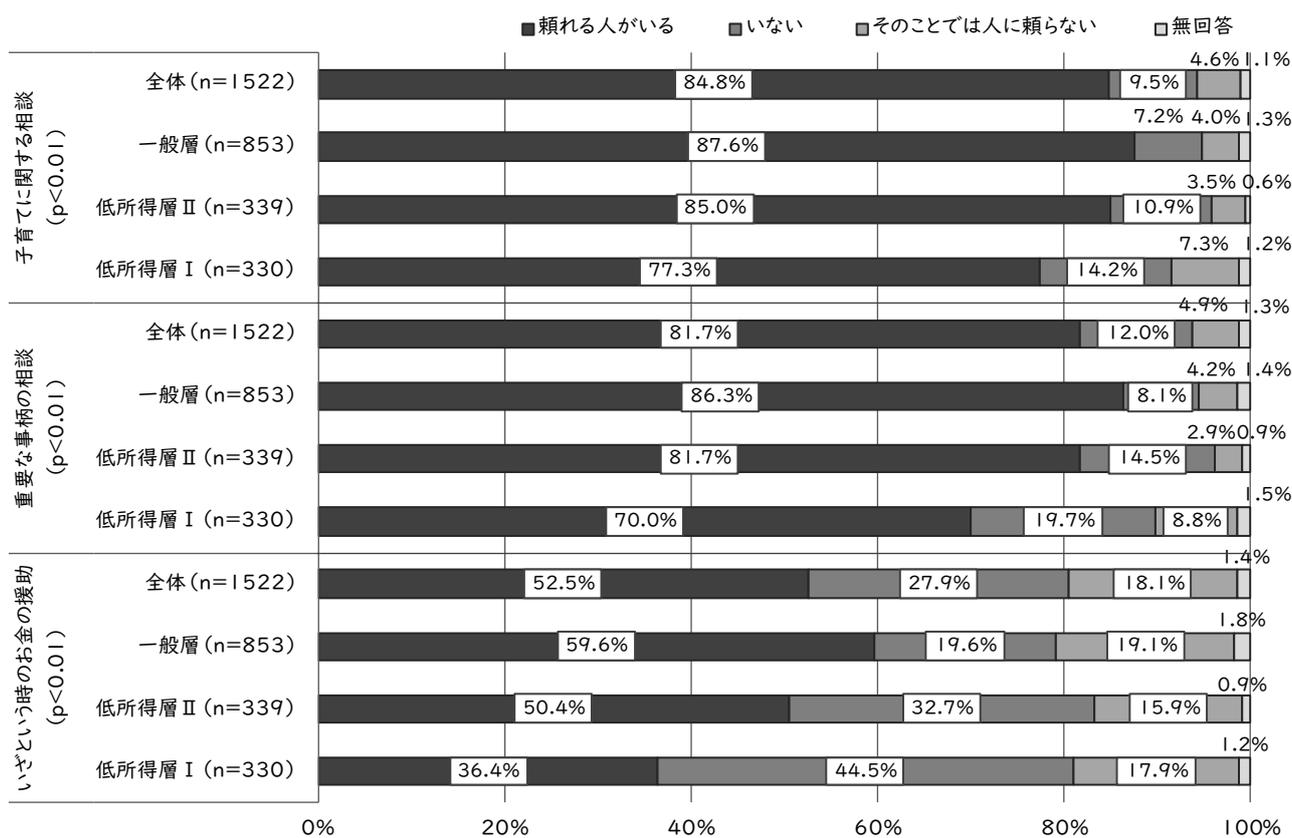


図4-6-3【中2保護者】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか



経年比較

図4-6-4及び図4-6-5は、2024年沖縄県調査と2021年沖縄県調査における相談相手の有無についての比較を示しています。この調査では、すべての項目において「頼れる人がいる」と回答した割合が減少している結果が確認されました。

まず「子育てに関する相談」では、「頼れる人がいる」と回答した割合が小学5年生の保護者で2021年92.7%から2024年85.3%に7.4ポイント低下し、中学2年生の保護者でも91.7%から84.1%へと7.6ポイント低下しています。

次に「重要な事柄の相談」では、小学5年生では、2021年89.1%から、2024年には82.4%へ、中学2年生では88.1%から81.0%へと減少しています。

「いざという時のお金の援助」では、2021年に「頼れる人がいる」と回答した割合が小学5年生では、64.3%であったのに対し、2024年には55.7%と8.6ポイント低下し、中学2年生の保護者でも63.9%から51.8%へと12.1ポイント減少しています。

2021年から2024年にかけての経年変化を見ると、子育て、重要な事柄、お金の援助といった様々な場面において「頼れる人がいる」と回答する割合が急減少していることがわかります。この傾向は、沖縄県特有の地域コミュニティや親族間の支え合いといった相互扶助の枠組みが、近年急速に弱まりつつあり、子育て世帯の社会的孤立が進行している可能性を示唆しています。

図4-6-4 【小5保護者】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか

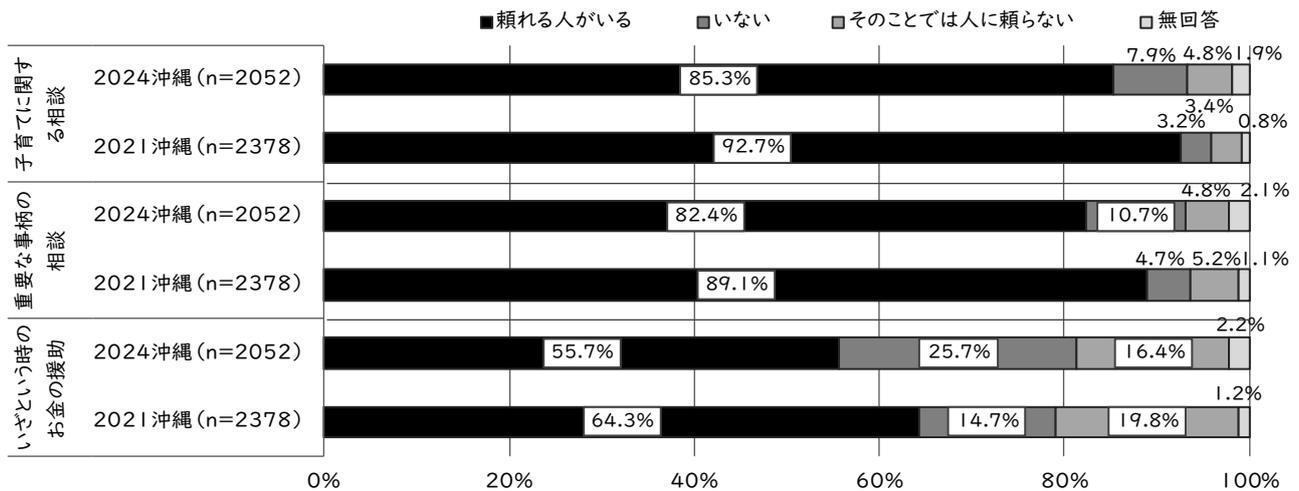
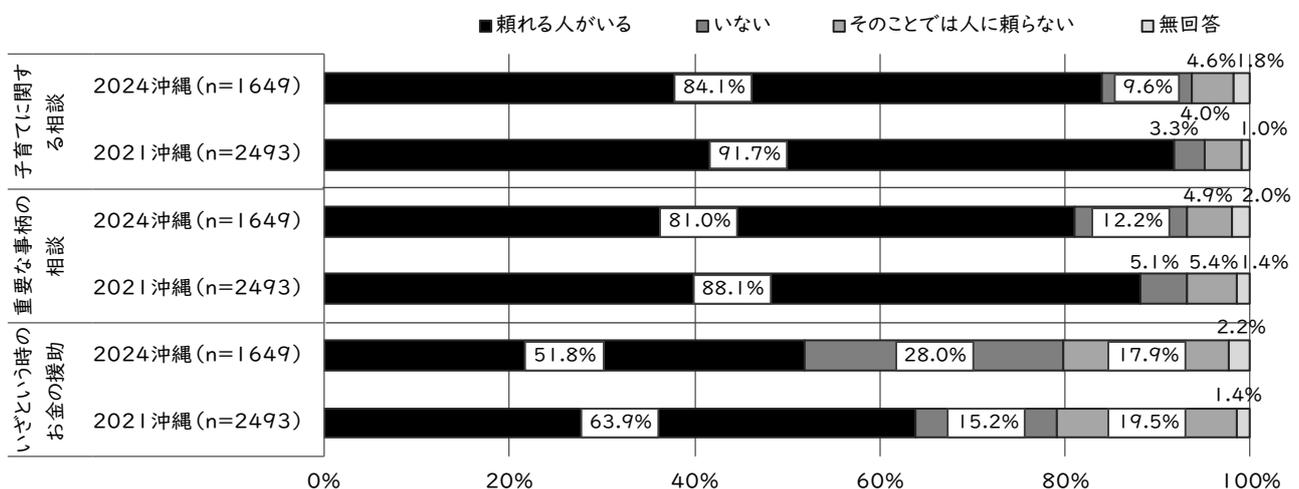


図4-6-5 【中2保護者】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか



7 逆境体験

図4-7-1から図4-7-3は、保護者が子どもをもってから経験した「逆境体験」の有無について尋ねた結果を示しています。この調査では、所得が低くなるほど逆境体験の割合が増加する傾向が見られました。特に低所得層Ⅰでは、配偶者との間での頻繁な口げんかや暴力、子どもへの行き過ぎたしつけ、育児放棄、希死念慮（自殺を考えたことがある）などの深刻な問題が高い割合で報告されています。

例えば、「配偶者またはパートナー（元配偶者等を含む）との間で頻繁な口げんかがあった」割合は全体で31.7～37.9%ですが、低所得層Ⅰでは42.5～47.9%に達します。「配偶者またはパートナー（元配偶者等を含む）から暴力をふるわれたことがある」割合も全体の4.9～7.6%に対し、低所得層Ⅰでは13.1～18.2%と約2～3倍となっています。さらに、「育児放棄になった時期がある」や「出産や育児でうつ病（状態）になった時期がある」、「自殺を考えたことがある」（希死念慮）についても、低所得層Ⅰで他の所得層を上回る割合が確認されており、特に中学2年生の保護者では、希死念慮が22.4%と深刻な状況が見られました。

一方で、逆境体験をまったく経験しなかった割合は全体で43.0～48.5%であるのに対し、一般層では47.8～54.0%と高い一方で、低所得層Ⅱでは40.8～42.4%、低所得層Ⅰでは31.5～37.1%と低く、逆境体験の多さが明らかです。

これらの結果は、低所得の子育て世帯において、パートナー間での関係性の問題に直面する頻度が高く、子どもへの行き過ぎたしつけ（体罰等）や育児放棄、また出産や育児によるうつ病（状態）、希死念慮などメンタル面での悪化といった経験を多く体験していることがわかります。

図4-7-1 【小1保護者】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか（複数選択）

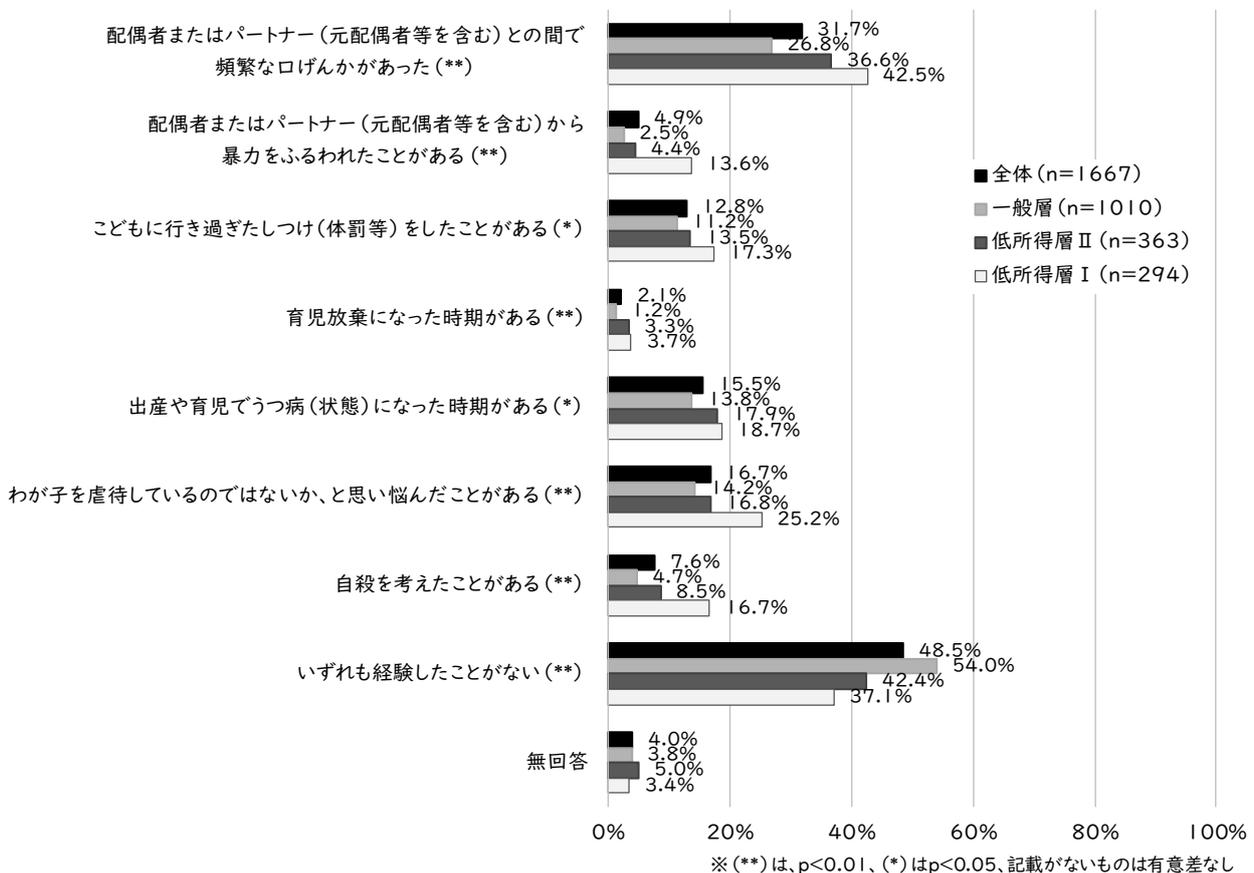


図4-7-2 【小5保護者】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか(複数選択)

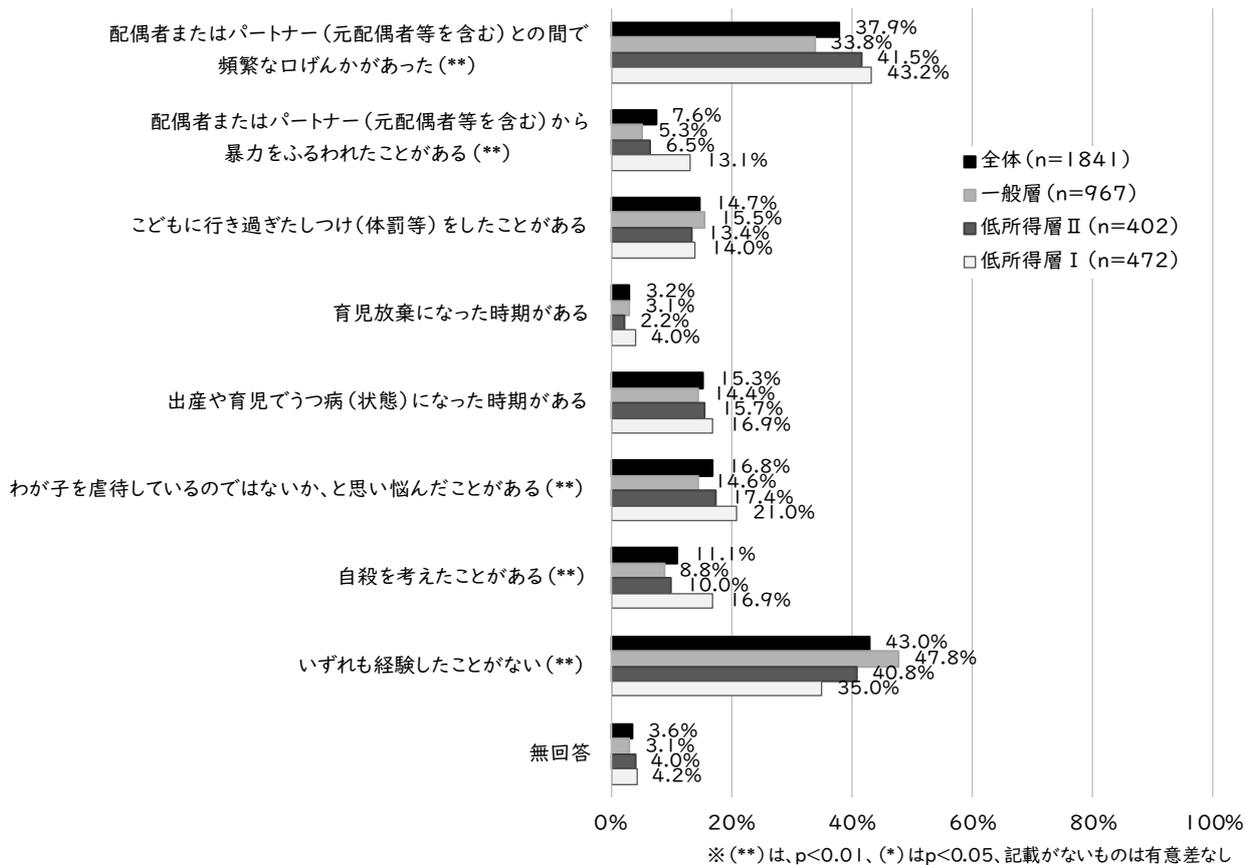
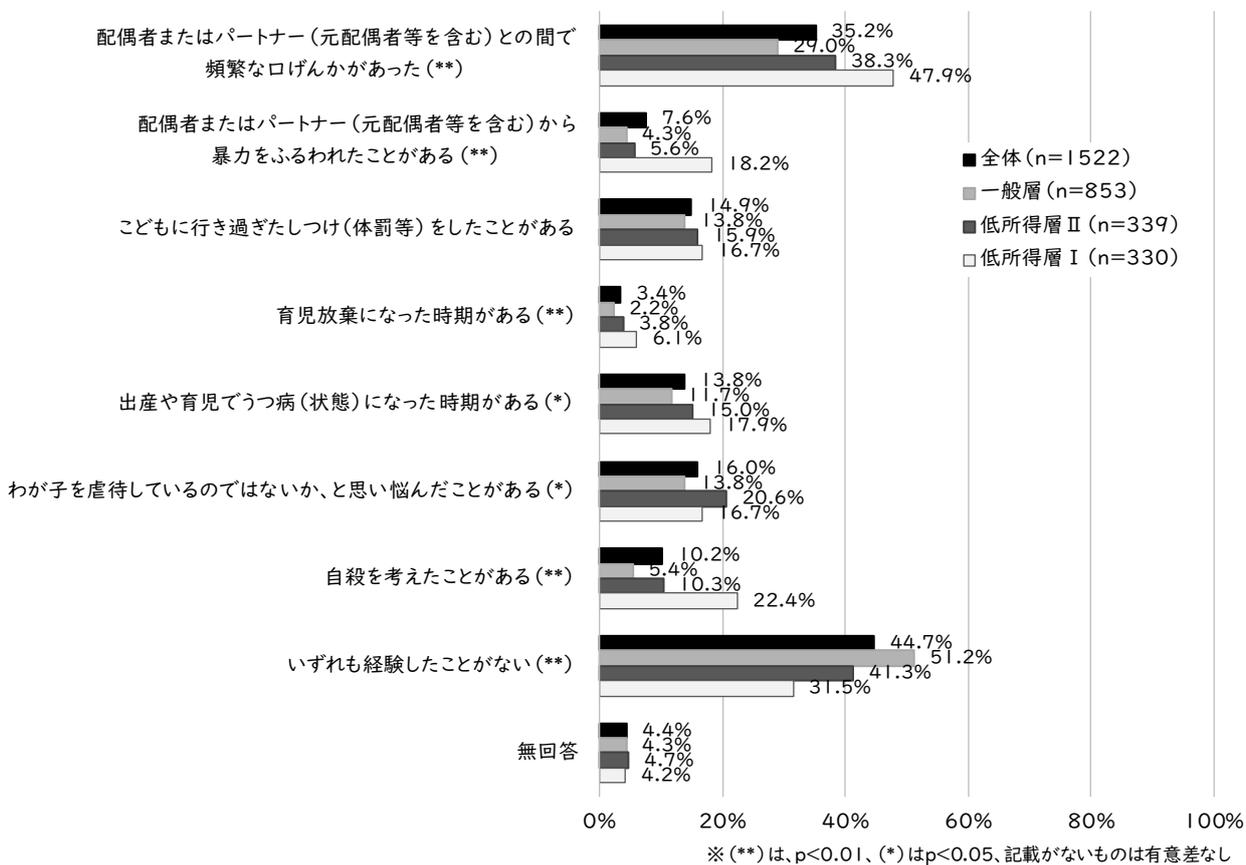


図4-7-3 【中2保護者】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか(複数選択)

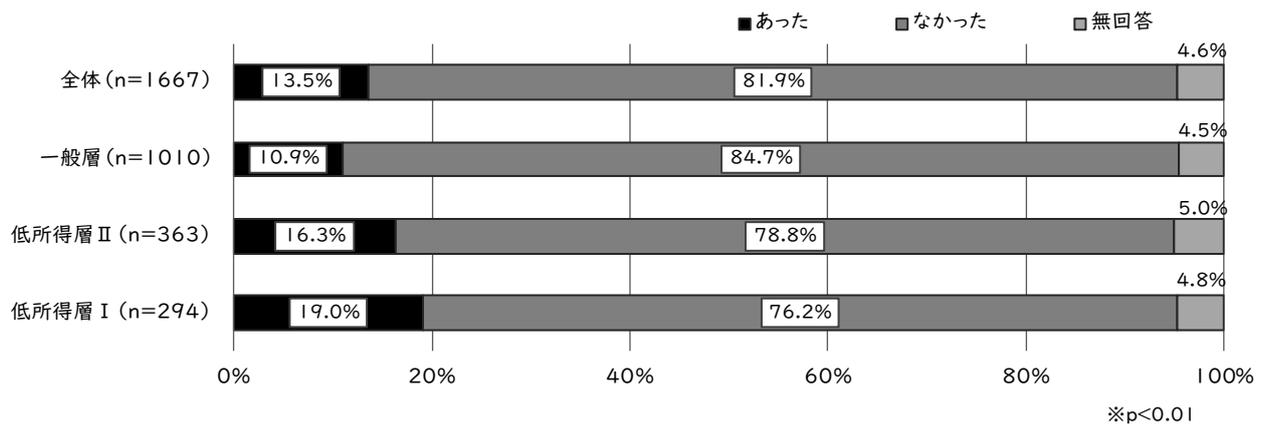


8 こどもを受診させられなかった経験

図4-8-1から図4-8-3は、過去1年の間にこどもを医療機関で受診させられなかった経験があるかどうかを示しています。全体では13.5～16.3%が受診させられないことが「あった」と回答しており、所得が低くなるほどその割合が高くなる傾向が見られます。特に低所得層Ⅱでは、14.9～17.1%、低所得層Ⅰでは19.0～23.9%と一般層に比べて、高い割合を示しています。

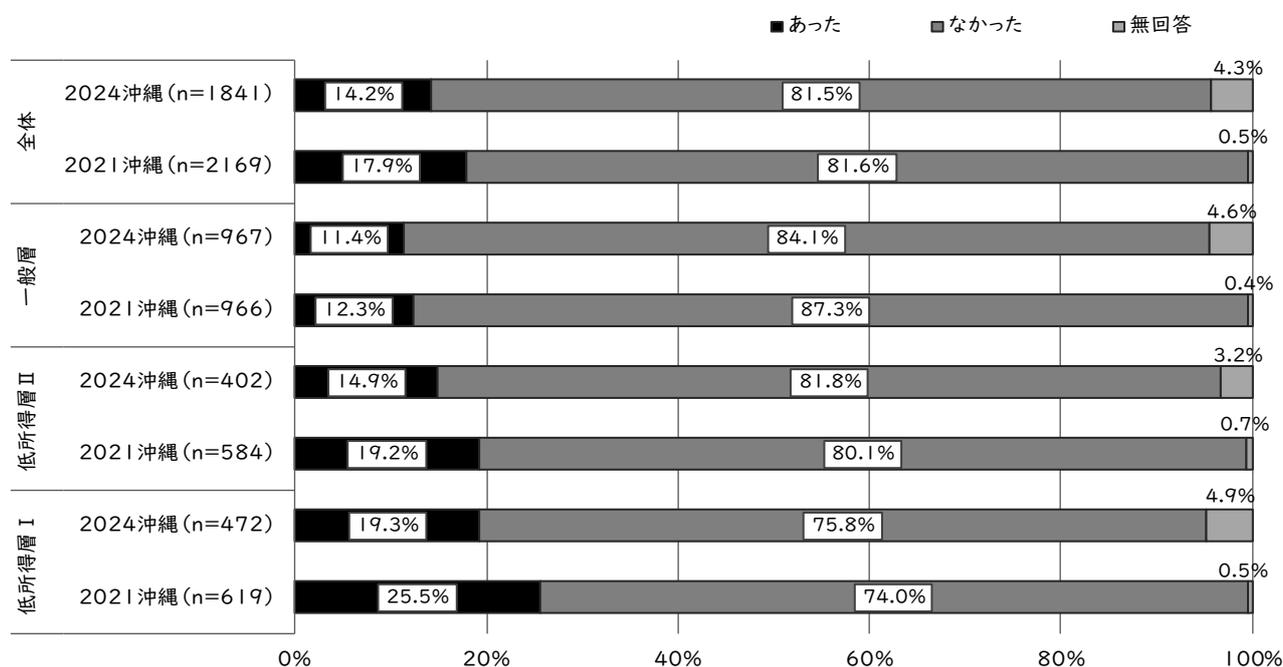
一方、経年比較(図4-8-2、図4-8-3)では、2021年沖縄県調査から2024年沖縄県調査にかけて全体での受診させられないことが「あった」割合は減少しており、特に低所得層Ⅰにおいては、小学5年生の場合、2021年25.5%から2024年19.3%へと6.2ポイントの低下、中学2年生の場合、2021年28.9%から2024年23.9%へ5.0ポイントの低下が見られました。この改善には、後述するとおり、医療費助成制度(窓口負担の無料化)や福祉施策の影響が一定程度寄与していると考えられます。

図4-8-1 【小1保護者】過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか



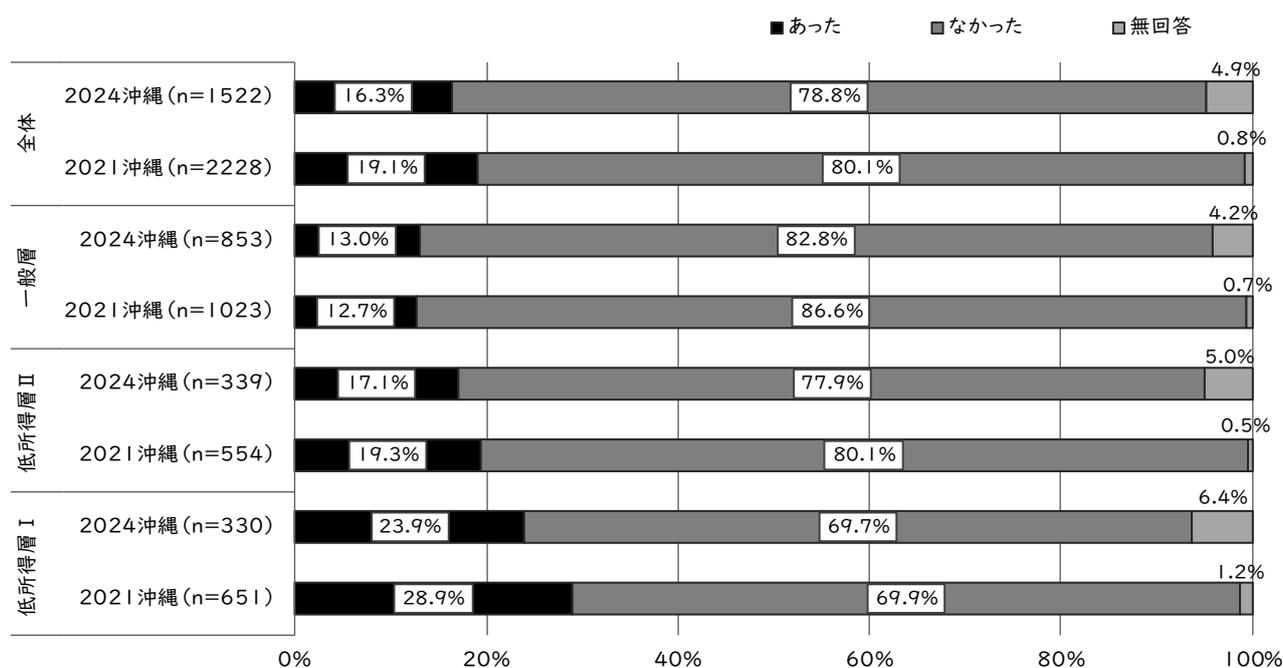
経年比較

図4-8-2【小5保護者】過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

図4-8-3【中2保護者】過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか



※「一般層」「低所得層Ⅱ」「低所得層Ⅰ」の3群で検定を行った。2021年、2024年沖縄県調査ともに $p < 0.01$

受診させられなかった理由

図4-8-4から図4-8-6は、過去1年において、子どもを医療機関で受診させられなかった経験が「あった」と回答した方に、その理由を尋ねた結果を示しています。全体では「仕事で連れていく時間がなかった」という回答がもっとも多く、小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者いずれにおいても約6～7割で共通して見られました。この理由は一般層、低所得層ともに広く挙げられ、経済状況にかかわらず時間的制約が大きな課題となっていることがわかります。特に、小学1年生の保護者の一般層ではこの理由による回答が80.9%に上り、仕事の影響が強い要因となっていることがわかります。

一方で、「家計が苦しかった」という回答は、低所得層で特に高い割合を示しており、低所得層Ⅱでは、15.0～22.4%、低所得層Ⅰでは16.1～27.5%に達しています。これは一般層の約2～4倍に相当し、経済的な理由が受診の障壁となっている実態を示唆しています。さらに、「保険証がなかった」という回答も低所得層Ⅰで2.5～4.4%の割合ですが見られます。経済的困難が医療アクセスに与える影響の一端が見受けられます。

また、「ほかのこどもの世話で時間がなかった」という理由も低所得層ⅠやⅡで15.5～25.0%と高く、複数の子どもを育てる世帯での負担がより顕著であることがうかがえます。加えて、「病院が遠い」や「自分の健康状態が悪く連れていけなかった」という回答も一定割合見られ、経済的、時間的な制約に加えて地域や家庭環境の影響が受診機会をさらに制限していることが示唆されます。

図4-8-4 【小1保護者】その理由を教えてください(複数選択)

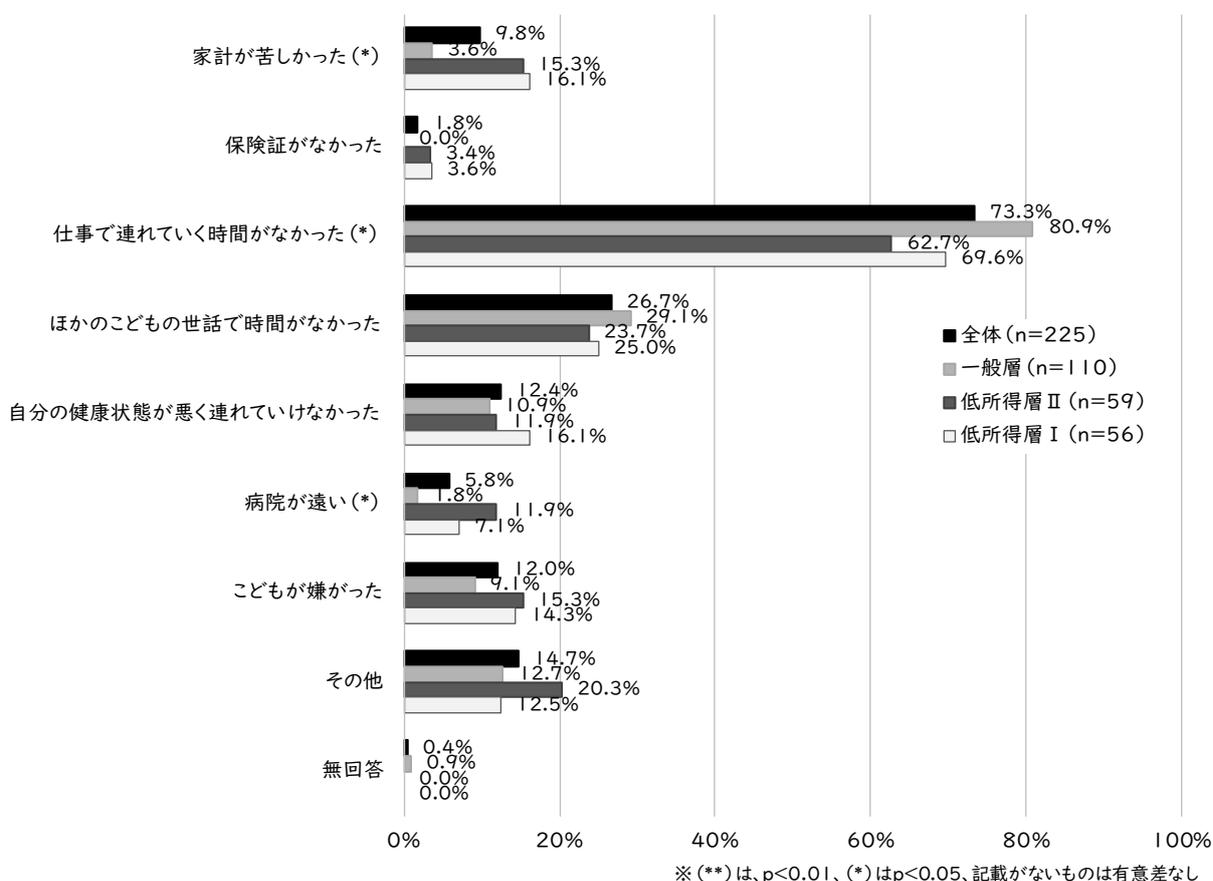


図4-8-5 【小5保護者】その理由を教えてください(複数選択)

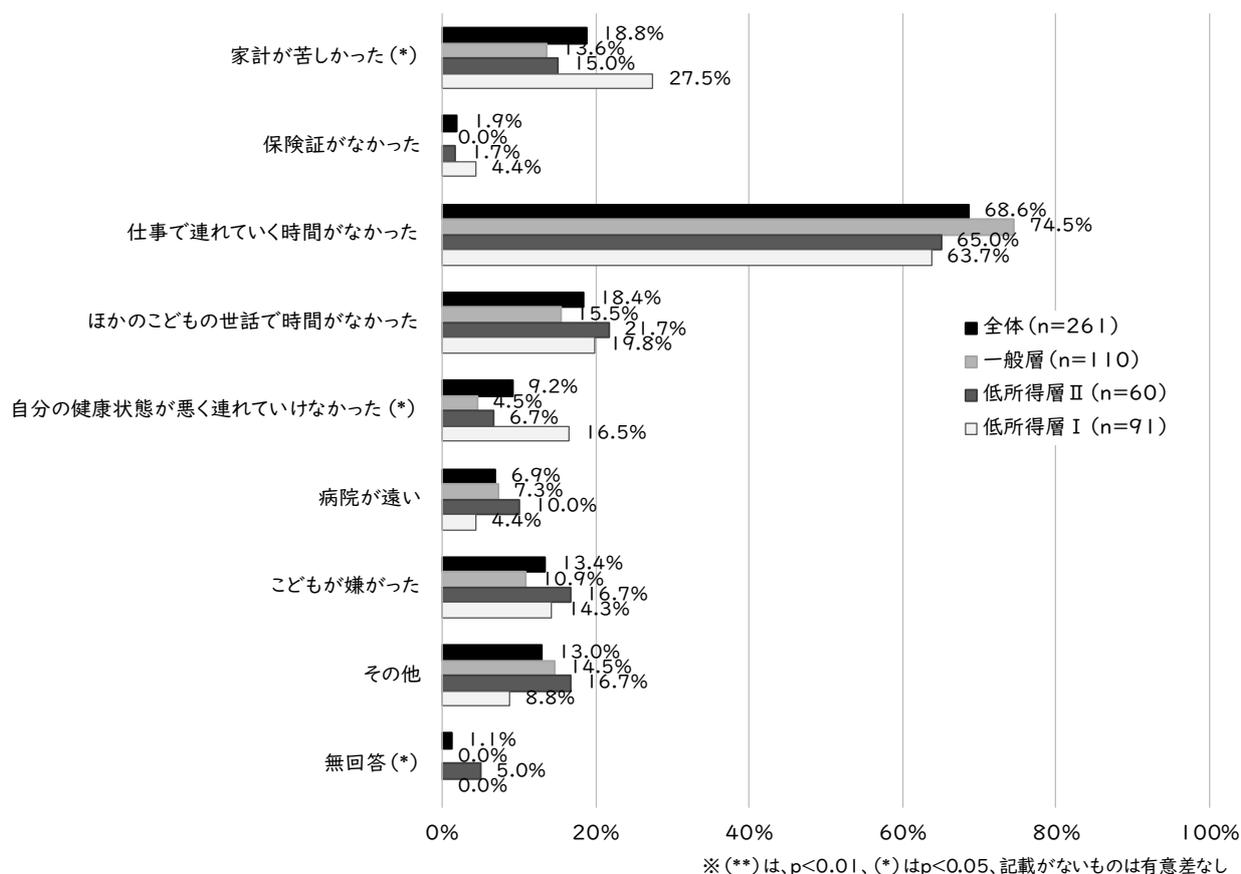
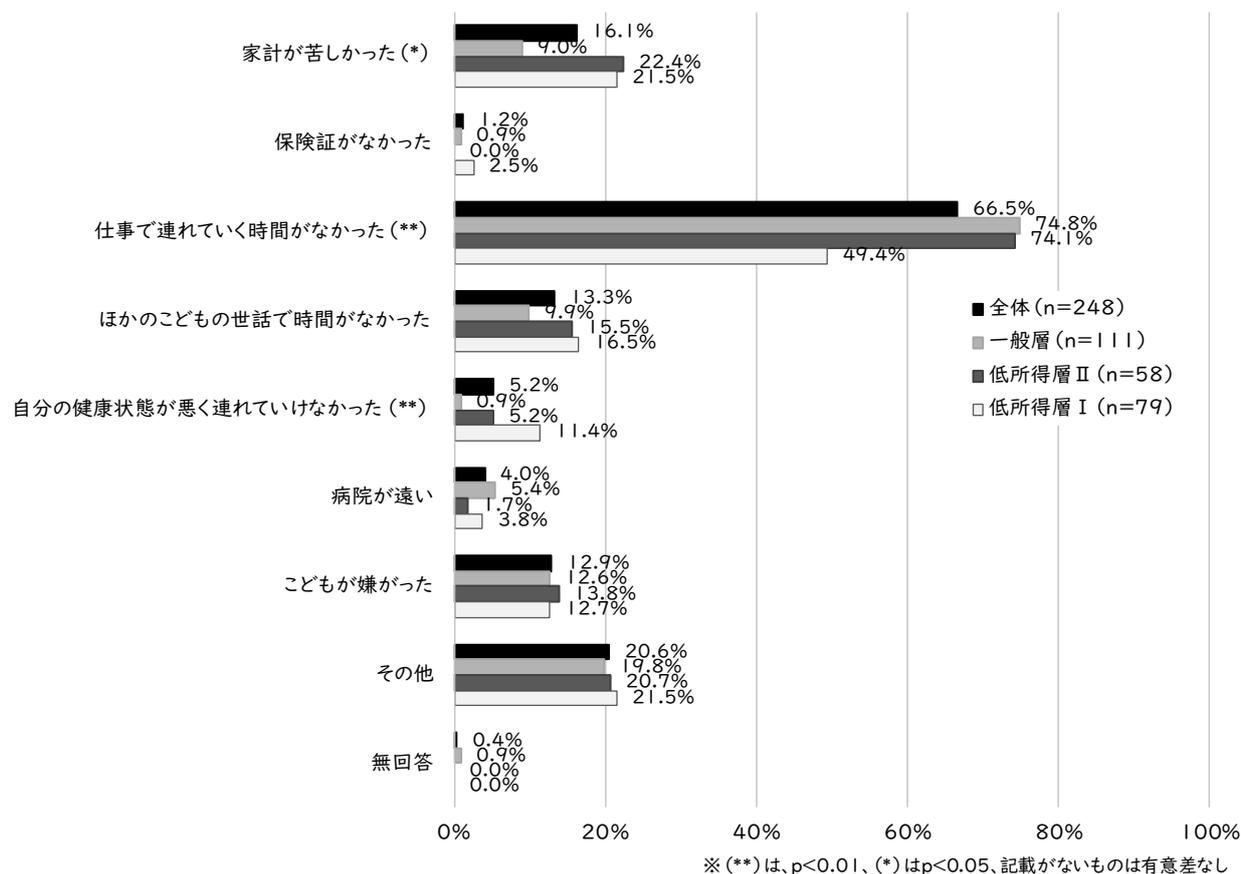


図4-8-6 【中2保護者】その理由を教えてください(複数選択)



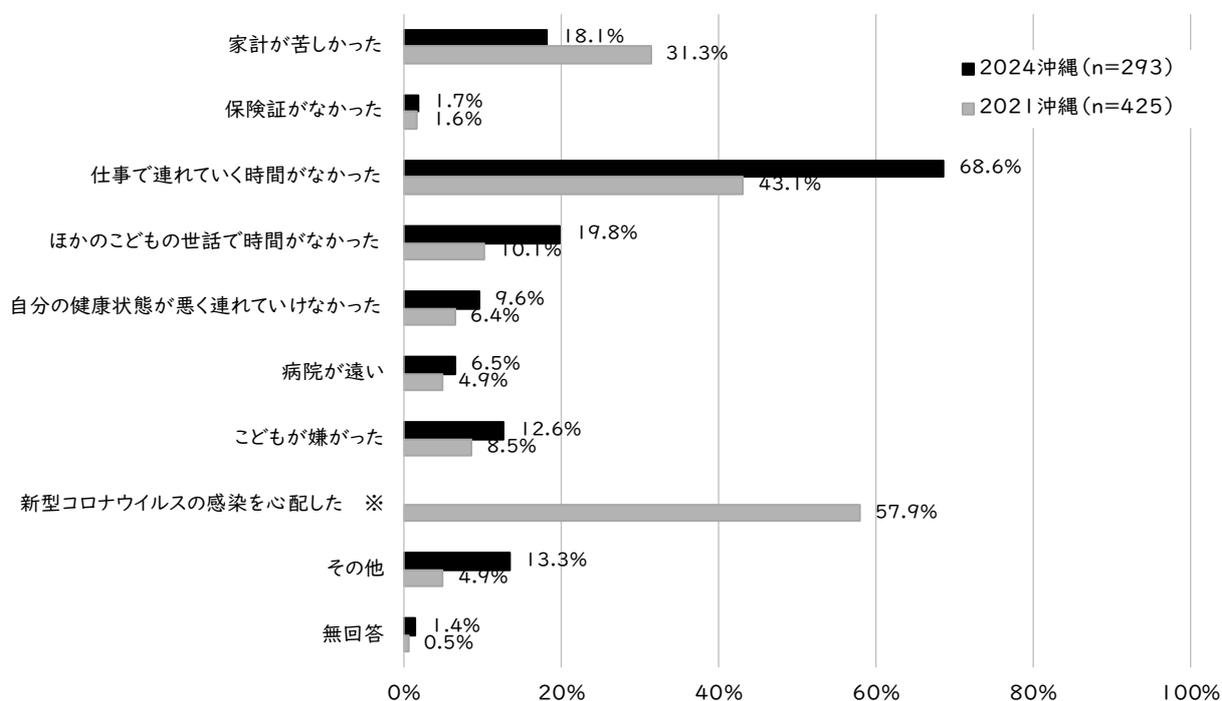
受診させられなかった理由 — 経年比較

図4-8-7及び図4-8-8は、受診させられなかった理由について2021年沖縄県調査と2024年沖縄県調査の経年比較の結果を示しています。また、図4-8-9及び図4-8-10では、「家計が苦しかった」と「仕事で連れていく時間がなかった」の理由について、経年比較を経済状況別に詳細に示しています。

図4-8-7及び図4-8-8によると、「家計が苦しかった」という理由は、小学5年生では2021年31.3%から2024年18.1%へと13.2ポイント低下し、中学2年生でも2021年34.7%から2024年16.8%へと17.9ポイント大幅に低下しています。この減少は、図4-8-9及び図4-8-10のとおり、低所得層においてより顕著であり、低所得層Ⅰでは小学5年生で43.0%から27.5%へ、中学2年生では50.5%から21.5%に、低所得層Ⅱにおいても、小学5年生で34.8%から15.0%へ、中学2年生では38.3%から22.4%へと減少しました。この点については、特に、沖縄県が2022年4月に医療費助成（窓口負担無料化）の対象者を、従来の未就学児から、中学生まで対象拡大した政策の影響も作用したと肯定的に評価できます。

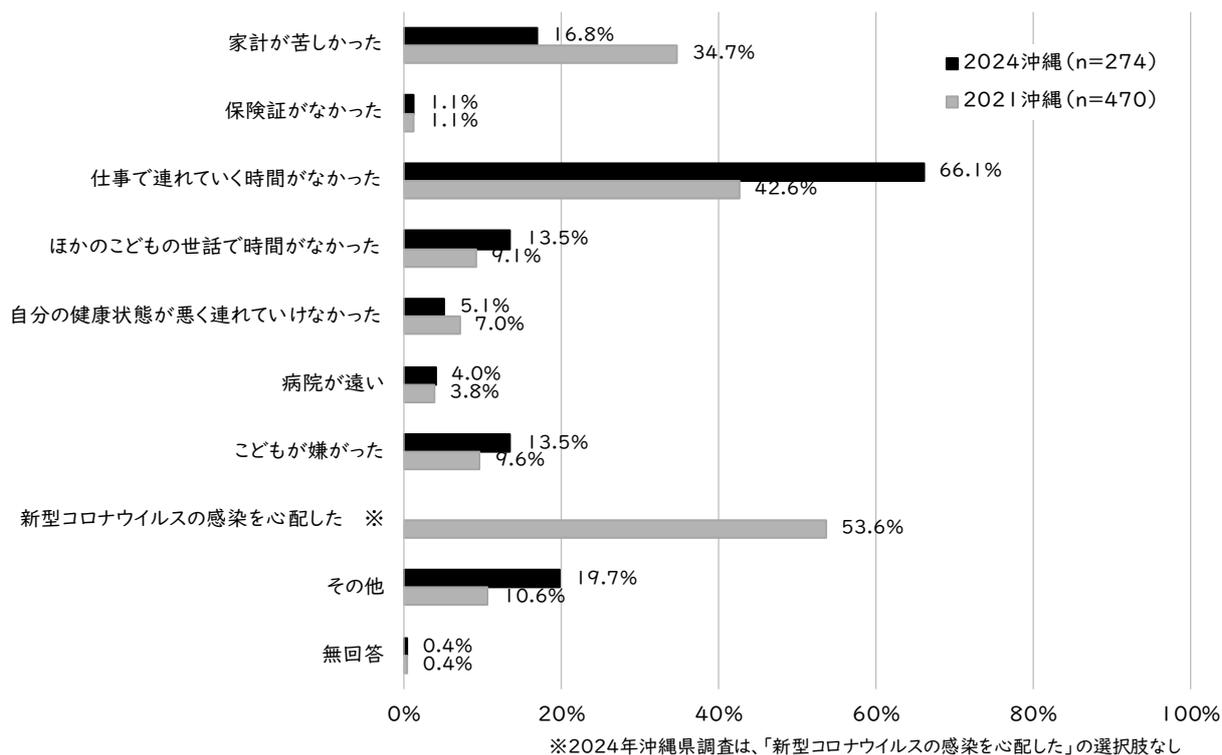
一方で、「仕事で連れていく時間がなかった」という理由は、全体的に高い割合を維持しており、小学5年生で2021年43.1%から2024年68.6%へ増加（図4-8-7）、中学2年生で42.6%から66.1%へ大きく増加しており（図4-8-8）、今後の課題として考えられます。この増加は、本報告書の第1章で見られたような就労時間の増加が影響している可能性があります。

図4-8-7【小5保護者】その理由を教えてください（複数選択）



※2024年沖縄県調査は、「新型コロナウイルスの感染を心配した」の選択肢なし

図4-8-8 【中2保護者】その理由を教えてください(複数選択)



経済状況別 — 「家計が苦しかった」「仕事で連れていく時間がなかった」

図4-8-9 【小5保護者】その理由を教えてください(複数選択)

— 「家計が苦しかった」「仕事で連れていく時間がなかった」 —

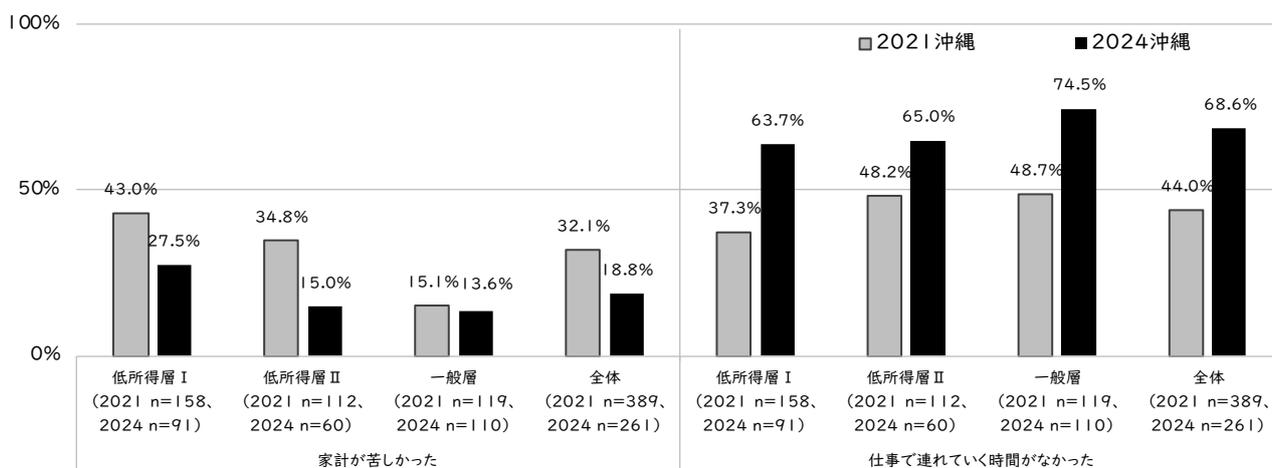
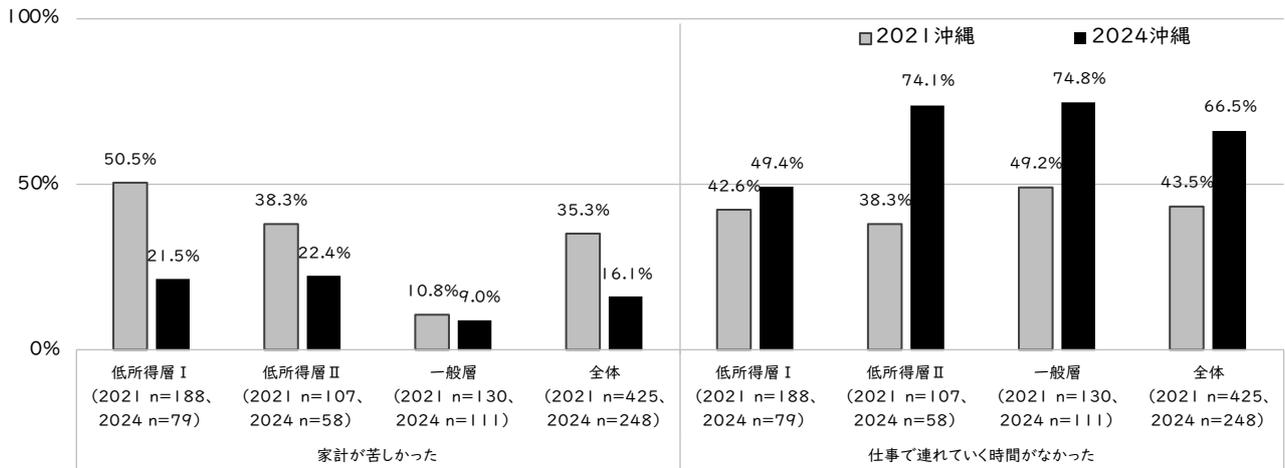


図4-8-10【中2保護者】その理由を教えてください(複数選択)

— 「家計が苦しかった」「仕事で連れていく時間がなかった」 —



9 抑うつ傾向（心理的ストレス）

図4-9-1から図4-9-3は、保護者の抑うつ傾向を示したものです。心理的ストレスの指標として、K6スコアを基に「5点以上」「9点以上」「10点以上」「13点以上」の4つの区分で評価されています。K6は、国民生活基礎調査などでも用いられる、一般の方の抑うつ傾向を測定する代表的な指標の一つです。K6は、過去30日間に「神経過敏に感じた」頻度や「絶望的に感じた」頻度などを尋ねる6つの質問に5段階で回答し、0～24点で評価されます。点数が高いほど、抑うつ傾向や不安感が強いとされます。心理的ストレス反応相当（5点以上）、中等度の気分・不安症相当（9点及び10点以上）、重度の抑うつ・不安症相当（13点以上）に該当する割合がグラフで示されています。なお、6つの質問のうち一つでも無回答の場合は、分析から外しています。

全体では、「心理的ストレス・5点以上」に該当する割合が小学1年生、小学5年生、中学2年生でそれぞれ43.7%、45.6%、44.3%と比較的高い値を示しています。「心理的ストレス・10点以上」の割合は、全体でそれぞれ20.1%、21.2%、20.3%であり、経済状況別では、特に低所得層Ⅰで顕著に高い割合が見られます（小1：37.2%、小5：32.2%、中2：35.4%）。また、「心理的ストレス・13点以上」という特に重度の抑うつ傾向を示す割合についても同様に低所得層Ⅰで高く、小学1年生で19.5%、小学5年生で20.0%、中学2年生で17.5%となっています。所得が低い世帯ほど心理的ストレスの高い割合が顕著であり、特に低所得層Ⅰでは「心理的ストレス・10点以上」が全体の1.5～1.9倍に上ります。

図4-9-4は2018年、2021年、2024年沖縄県調査を経年比較したものです。「心理的ストレス・5点以上」は2018年と比較して2021年、さらに2024年まで増加傾向にあり、同様に「9点以上」「10点以上」「13点以上」の割合も増加傾向にあります。

図4-9-5では2022年東京都調査と比較しています。東京都と沖縄県の間では、心理的ストレスは「5点以上」「9点以上」「10点以上」「13点以上」のいずれの割合においても東京都より沖縄県は高い傾向を示しており、1.3～2.3倍の差があります。このことから、沖縄県の子育て世帯の保護者の抑うつ傾向（心理的ストレス）の問題がきわめて深刻化している傾向にあるといえます。

図4-9-1 【小1保護者】抑うつ傾向

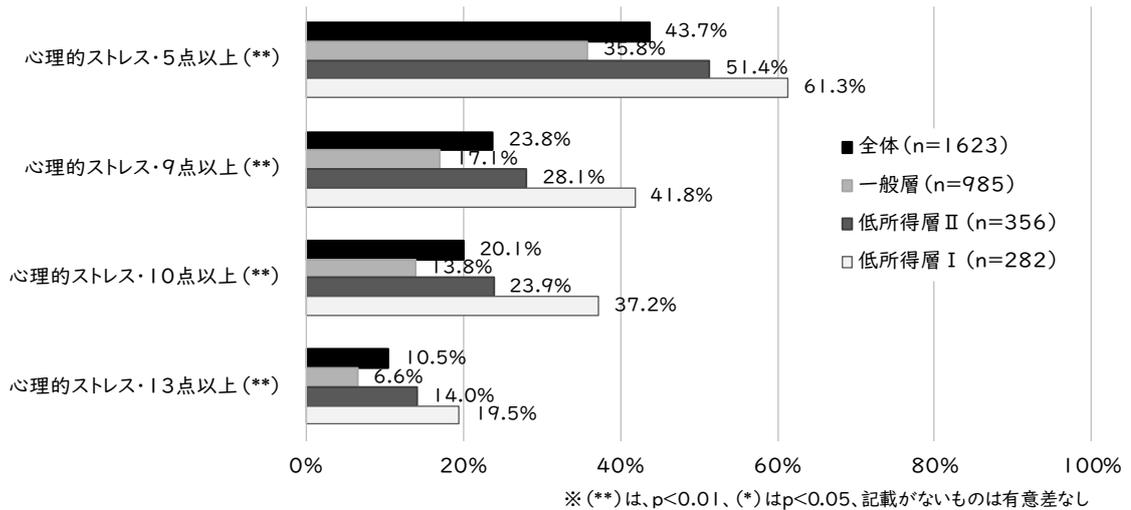


図4-9-2 【小5保護者】抑うつ傾向

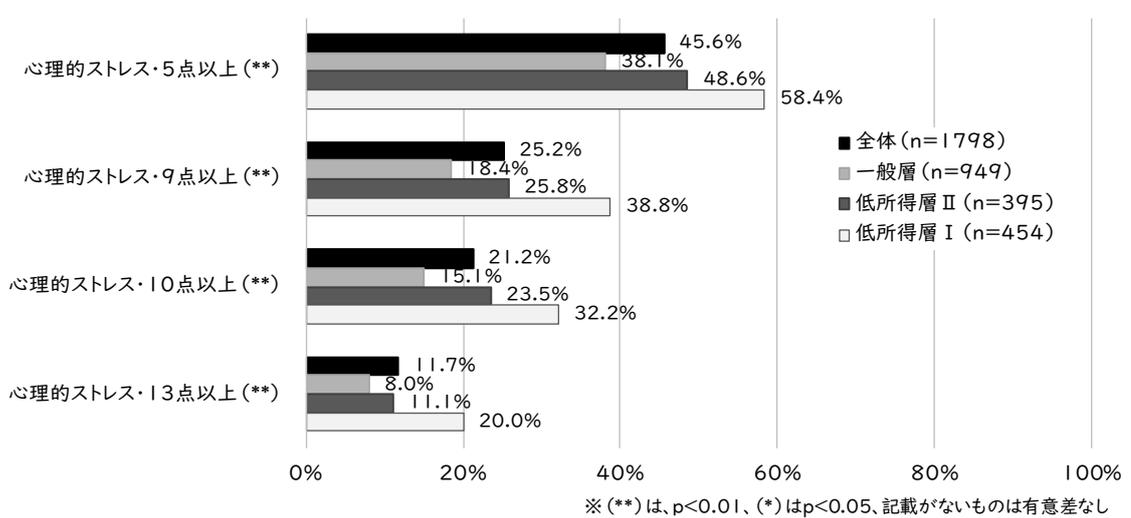
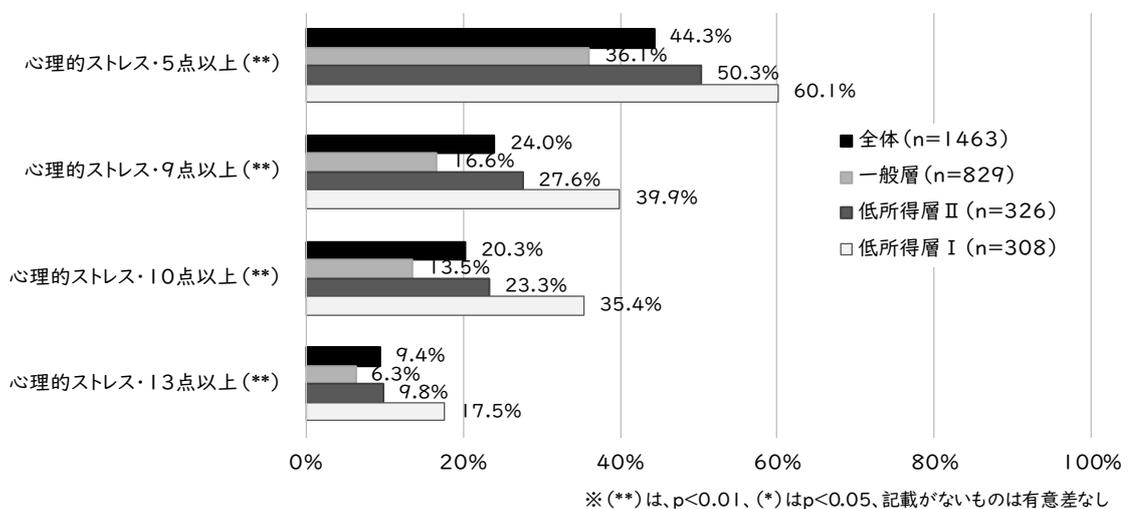
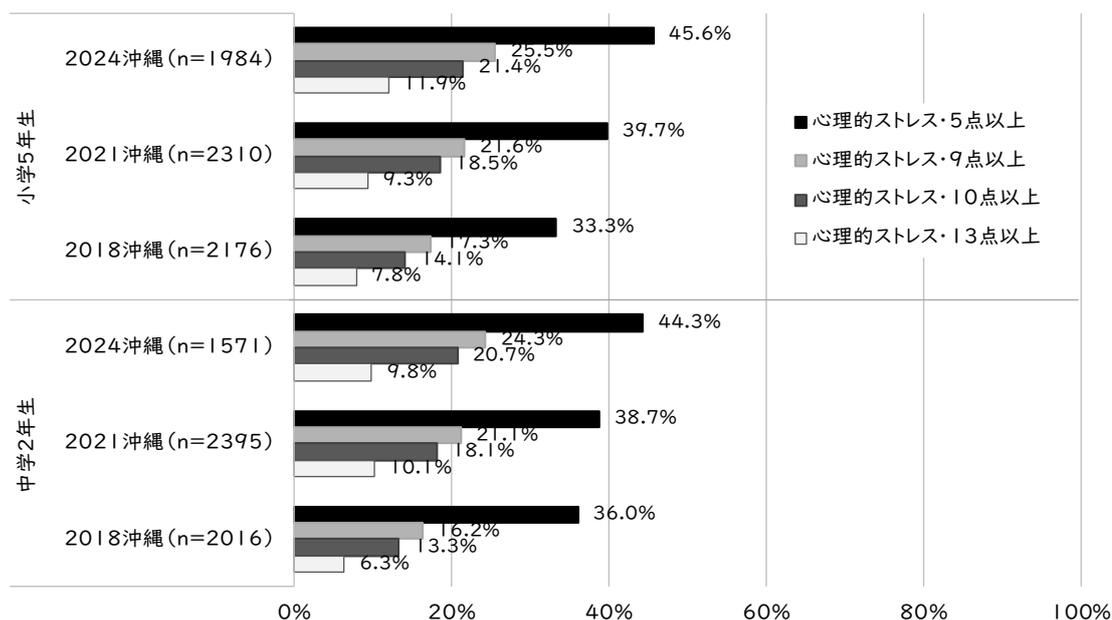


図4-9-3 【中2保護者】抑うつ傾向



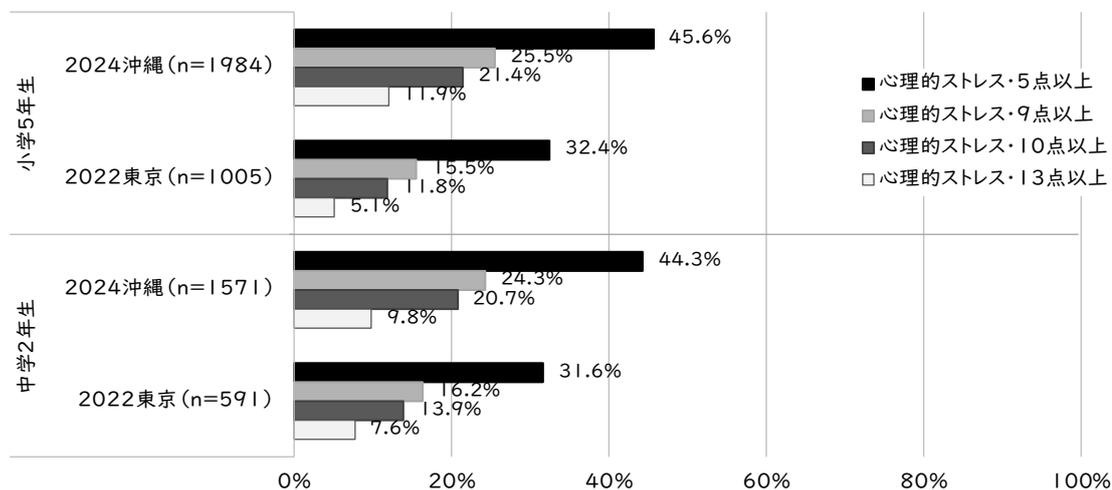
経年比較

図4-9-4 【小5・中2保護者】抑うつ傾向



東京都調査との比較

図4-9-5 【小5・中2保護者】抑うつ傾向



本章では、保護者の生活状況、経済的困難、社会的孤立、逆境体験、こどもの受診状況、抑うつ傾向について分析を行い、それぞれのテーマに基づく課題を明らかにしました。以下、テーマごとの要点を考察します。

第1節では、保護者の現在の暮らしの状況や物価高騰の影響について分析しました。低所得層ほど普通の生活が「苦しい」「大変苦しい」と感じる割合が顕著に高く、特に低所得層Ⅰでは、小学5年生で62.9%、中学2年生では65.7%が生活の困難を感じていることが確認されました。2021年沖縄県調査と比較すると、就労収入を含めて世帯の収入状況に増加が見られるにもかかわらず、生活困窮感が全体で約10ポイント増加しています。この要因の一つとして、世帯の収入増を上回る物価高騰の影響が考えられます。特に、最近の物価高騰で生活が苦しくなったと回答した割合（「おおいに感じる」「ある程度感じる」）は、全体で9割を超えており、さらに低所得層になると状況は悪化し、低所得層Ⅰでは「おおいに感じる」だけで7割を超えています。物価高の影響は低所得層に一層深刻に表れています。

第2節では、世帯の貯蓄状況について分析しました。低所得層Ⅰでは「貯蓄がない」と回答した割合が約50%に達し、特に貯蓄額「50万円未満」の割合は約70%に上ることが確認されました。さらに、全体としても昨年と比較して「貯蓄が減った」と回答した割合は約5割となっており、低所得層ではこの割合がさらに高くなっています。これにより、家計の脆弱性が一層顕著になっており、貯蓄の欠如が生活の不安定さを高めていることが示唆されます。

第3節では、過去1年間にお金が足りず食料や衣服を買えなかった経験について分析しました。低所得層Ⅰでは食料を買えなかった割合が小学5年生で48.6%、中学2年生では58.2%に達しており、衣服を買えなかった割合も過半数を超えています。これらの経験に関する回答割合は、2021年沖縄県調査と比較してさらに増加しており、家庭の基本的なニーズに直接的な影響を及ぼしていることが示唆されます。2022年東京都調査との比較でも、沖縄県の回答割合が約3倍程度高く、食料や衣服という生活必需品を満たすことのできない世帯が全体の2~3割に達するという深刻な様相が浮き彫りになっています。

第4節では、公共料金や電話料金、家賃、クレジットカード債務等の滞納経験について分析しました。低所得層Ⅰでは滞納経験を有する割合が全体より顕著に高く、例えば電気料金やガス料金では約2割が滞納を経験していることが確認されました。また、2022年東京都調査と比べても、沖縄県の滞納率が全般的に高く、経済的困窮が生活インフラの維持や債務支払いに大きく影響していることがわかりました。

第5節では、学校教育費の中で保護者が経済的負担を感じる項目について分析しました。学年ごとの特徴として、小学1年生では就学準備費用、小学5年生では給食費、中学2年生では制服や宿泊学習費が挙げられました。特に給食費については、低所得層Ⅰでの負担割合が他の所得階層より低いことから、就学援助等の支援制度が有効に機能していると考えられます。一方で、低所得層Ⅱでは支援の網が及ばず負担感が大きい状況が見られます。

第6節では、保護者が頼れる相談相手について分析しました。低所得層Ⅰでは「頼れる人がいない」と回答する割合が全体より高く、特に「いざという時のお金の援助」において顕著です。この結果から、経済的困窮だけでなく、社会的孤立の問題が浮き彫りになり、従来の相互扶助の枠組みが弱まりつつあることが示唆されます。

第7節では、保護者が子どもをもってから経験した「逆境体験」の有無について分析しました。低所得層Ⅰでは、配偶者との関係性の問題や子どもへのしつけ、育児放棄、希死念慮などの逆境体験の割合が他の所得階層を大きく上回っています。これらの経験が保護者のメンタルヘルスや家庭環境に深刻な影響を与えていることが明らかです。

第8節では、子どもを医療機関で受診させられなかった経験について分析しました。2021年沖縄県調査と比較して受診させられなかった経験が「あった」と回答した割合は全体的に減少し、特に低所得層Ⅰでその理由として「家計が苦しかった」を挙げた割合の減少が顕著でした。この改善には2022年に開始された子ども医療費助成制度の拡充（窓口負担の無料化）が一定程度寄与していると考えられます。一方で、「仕事で連れていく時間がなかった」という理由は増加しており、就労時間の増加が課題として浮き彫りになっています。

第9節では、保護者の抑うつ傾向を分析しました。低所得層ほど心理的ストレスが高い割合を示しており、特に低所得層Ⅰでは「心理的ストレス・10点以上」の割合が全体平均の1.5~1.9倍に達しています。2018年以降の沖縄県調査との経年比較では心理的ストレスが増加傾向にあり、2022年東京都調査との比較でも沖縄県の保護者の抑うつ傾向が深刻であることが確認されました。

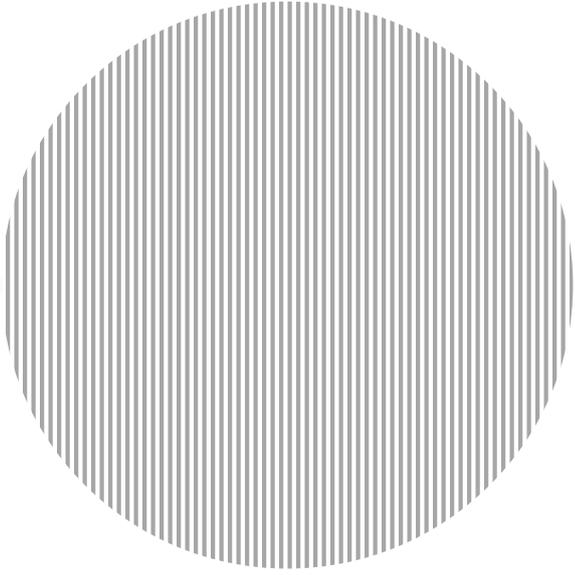
本章で示された結果から、沖縄県の子育て世帯の苦しい生活実態が浮き彫りになりました。本報告書の第1章を含む今回の調査結果から、就労収入の増加等により全体の世帯収入は上向き傾向にあり、所得で見た困窮世帯の割合も若干の改善が見られます。しかし、困窮世帯の割合や世帯所得だけで状況が緩和されたと判断するのは早計です。実際に、2021年沖縄県調査に比べても、生活で苦しさを感じている子育て世帯は明らかに増加しています。これは物価高騰などによって実際の生活レベルが悪化している世帯が増加していることを意味しており、貧困がより深刻化している可能性を示唆します。特に低所得層ではその影響が顕著であり、生活困難を抱える世帯の割合が他の所得階層と比較して非常に高いことが確認されました。さらに、第2節で示されたように、沖縄県では、貯蓄のない世帯の割合が全国に比べて著しく高く、低所得層Ⅰでは半数以上が「貯蓄がない」と回答しており、単に低所得だけでなく、資産もない「低所得・無資産層」という非常に苦しい状況が明らかになりました。

こうした経済的困窮は、食料や衣服といった最低限の生活必需品すら購入できない世帯の増加を招き、さらに公共料金や家賃の滞納、保護者の心理的ストレスの悪化や社会的孤立の深刻化といった問題へとつながっています。特に第9節で分析されたように、保護者の抑うつ傾向は低所得層で顕著であり、生活の困難さが心理的健康状態に深刻な影響を及ぼしていることが示唆されました。これらの結果は、貧困が単なる経済的問題にとどまらず、物質的欠乏や心理的ストレスを伴う複合的な影響を及ぼす問題であることを示しています。

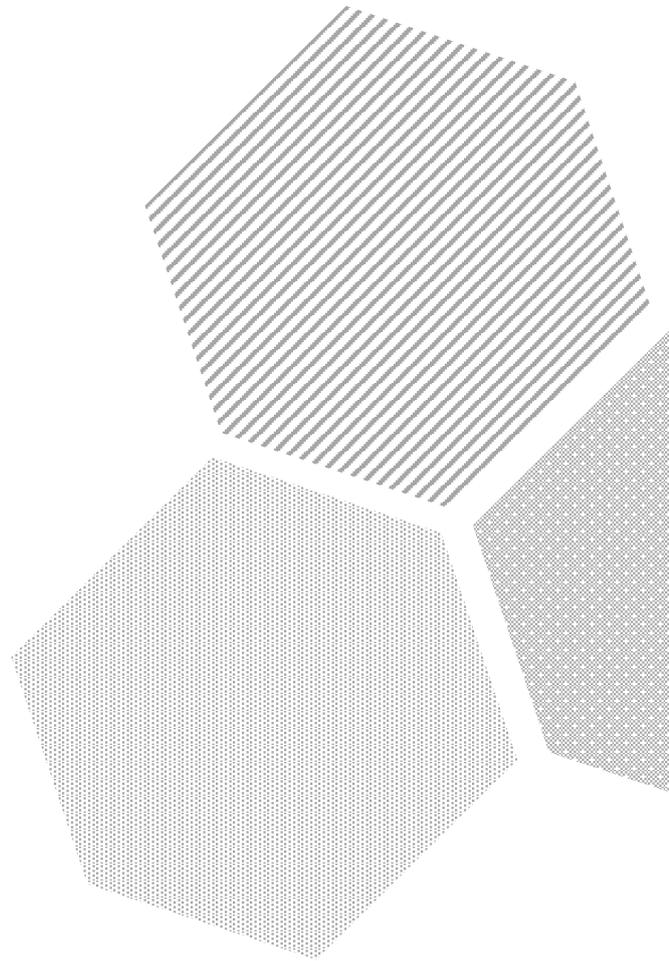
一方で、子ども政策において、一定の成果が確認されています。例えば、就学援助によって低所得層Ⅰの給食費の負担感が軽減されていることや、2022年に医療費助成の対象が中学生まで拡大されたことによって、経済的理由で医療機関を受診させられなかった割合が低所得層においても減少していることが挙げられます。これらは政策効果として肯定的に評価でき、特に低所得層に対する経済支援の重要性を示しています。

しかしながら、生活苦を感じる世帯の広がりや、物価高騰による影響がより多くの世帯に及んでいる現状を鑑みると、貧困・低所得の子育て世帯への政策対応は依然として急務であると言えます。特に子どもの貧困の中心は経済的な問題であり、物質的な欠乏が顕著であることを踏まえた支援策が必要です。具体的には、食料や衣服といった最低限の生活必需品に係る支援の拡充、給食費や学用品費などに関する助成や無償化、さらには困窮状態に陥った世帯が生活保護などの公的制度を速やかに利用できる環境づくりなどが重要です。

本調査で明らかになったように、貧困は単に所得の低さだけでなく、経済的な脆弱性や物質的欠乏、さらには社会的孤立や心理的ストレスといった多面的な問題へと深く関連しています。これらの複合的な問題が子どもや保護者に与える影響は大きく、今後も現状の把握と課題解決のための具体的な政策対応が求められます。



第 5 章
所有物・体験の欠如



1 所有物の欠如 — こどもの視点

児童・生徒に、現在の日本において多くの小学5年生・中学2年生が所有している物品等について、所持の有無を尋ねています。そうした物品等を自発的に所有したくないと考えている児童・生徒もいるため、「ある」「ない」だけでなく、「ない」場合に「ほしい」と「ほしくない」も尋ね、「ある」「ない(ほしい)」「ない(ほしくない)」の3つの選択肢で所有状況を聞きました。

「自分の楽しみのための本(マンガやダウンロードするものをふくむ)」「こども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)」「(自宅で)インターネットにつながる環境」「自宅で宿題をすることができる場所」「スポーツ用品」「自転車」「月500円(小学5年生)／月2000円(中学2年生)ほどの、自分で自由に使えるお金(おこづかい)」「2足以上のサイズのあった靴」「スマートフォン」「学習塾(または家庭教師、オンラインふくむ)」「1年に1回の家族旅行(1泊以上)」「友だちが持っているような文具(えんぴつ、消しゴム、筆箱など)／(シャープペン、色ペン、ペンケースなど)」「(えんぴつ～は小学5年生、シャープペン～は中学2年生)」「新しい(お古でない)洋服」「習い事(音楽、スポーツ、習字など)」の14品目について尋ねました。さらに、「めがねまたはコンタクトレンズ(矯正用)」と「生理用品」の2品目について、中学2年生のみに質問しています(図5-1-1から図5-1-16)。

経済状況別に見ると、小学5年生、中学2年生で似た傾向が見え、多くの品目で、所得が低い世帯ほど「ある」割合は低く、「ない(ほしい)」割合は高くなる傾向が見え、統計的に有意な差が見られました。特に、一般層と低所得層Ⅰの間で「ない(ほしい)」の割合が10ポイント以上差があるものとしては、小学5年生、中学2年生ともに「こども部屋」、「1年に1回の家族旅行」の2項目、小学5年生の「自転車」でした。いずれの項目とも、児童・生徒の学びや体験に関連するものですが、低所得層Ⅰでは、小学5年生の41.3%、中学2年生の33.0%が、きょうだいと使っている場合も含め「こども部屋」を欲しいが得られていない、小学5年生の53.2%、中学2年生の49.4%が「1年に1回の家族旅行」に行きたくても行けない、小学5年生の30.5%が「自転車」を欲しいが得られていないと答えていました。

図5-1-1 【小5児童・中2生徒】自分の楽しみのための本(マンガやダウンロードするものをふくむ)

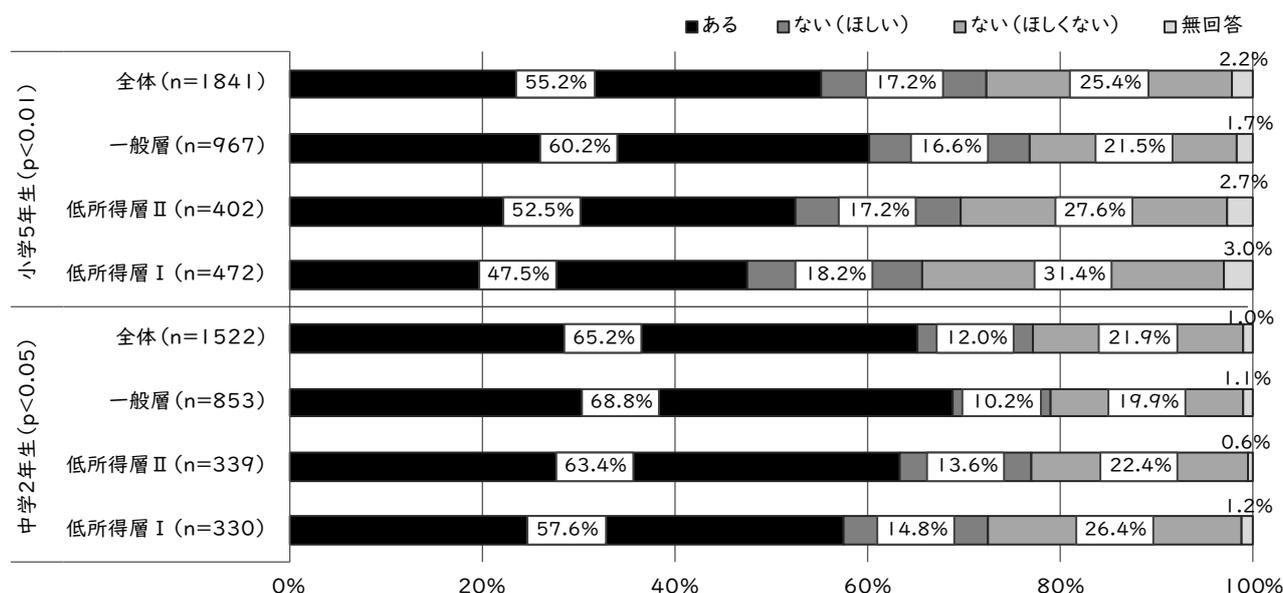


図5-1-2 【小5児童・中2生徒】子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)

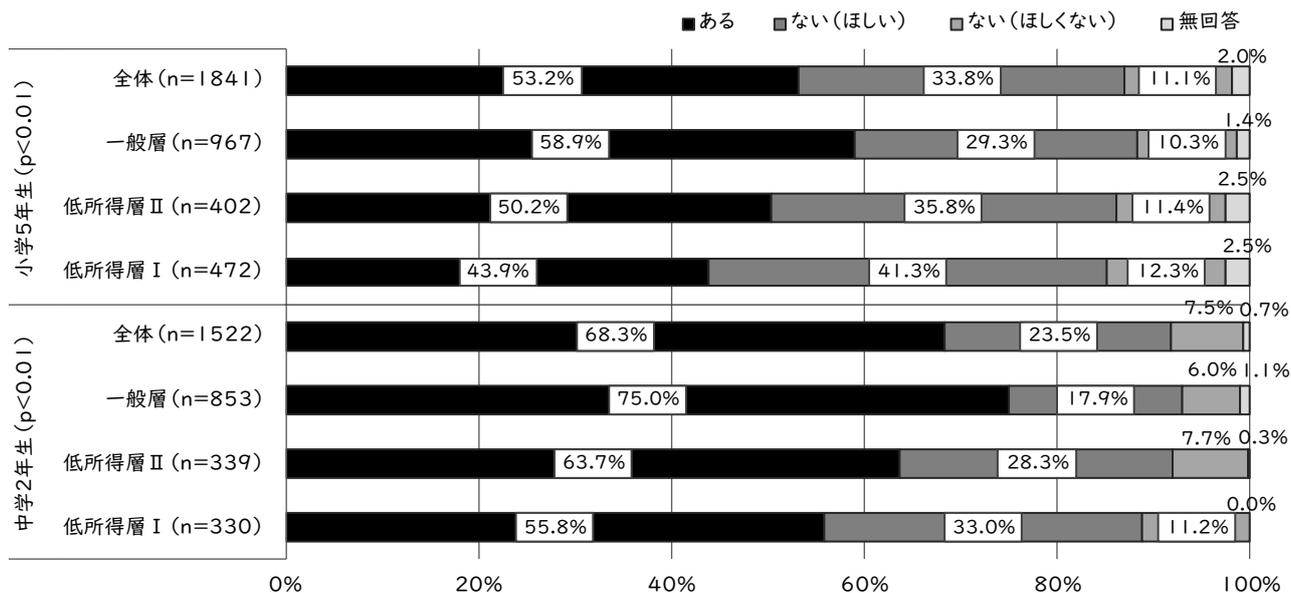


図5-1-3 【小5児童・中2生徒】(自宅で)インターネットにつながる環境

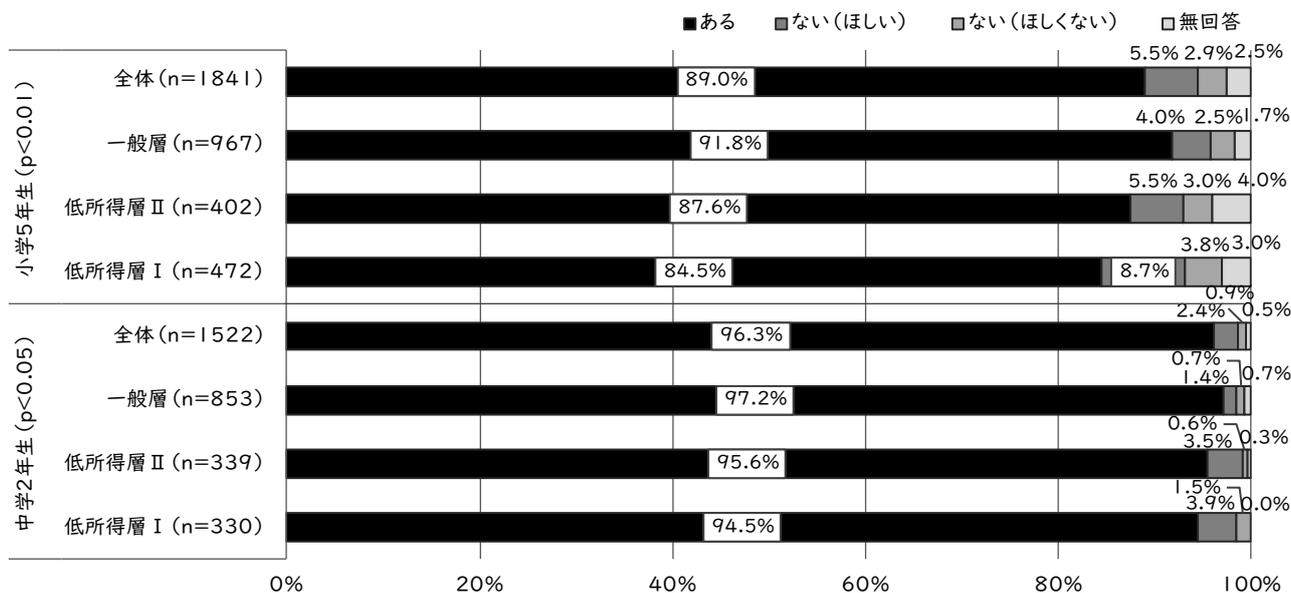


図5-1-4 【小5児童・中2生徒】自宅で宿題をすることができる場所

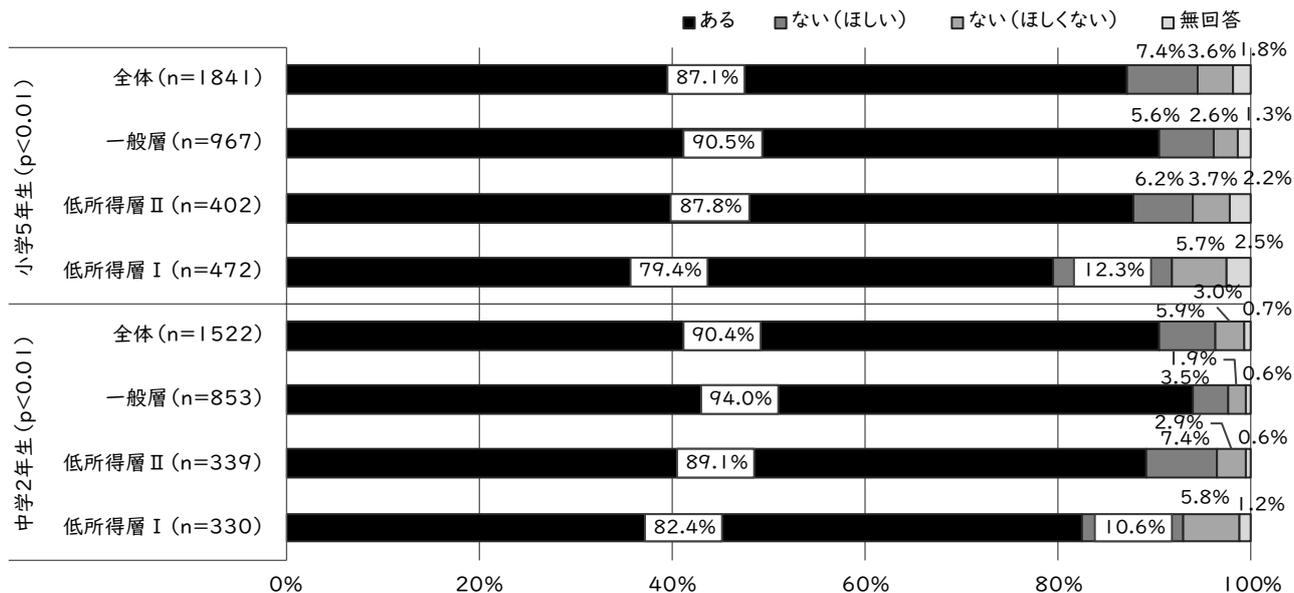


図5-1-5 【小5児童・中2生徒】スポーツ用品

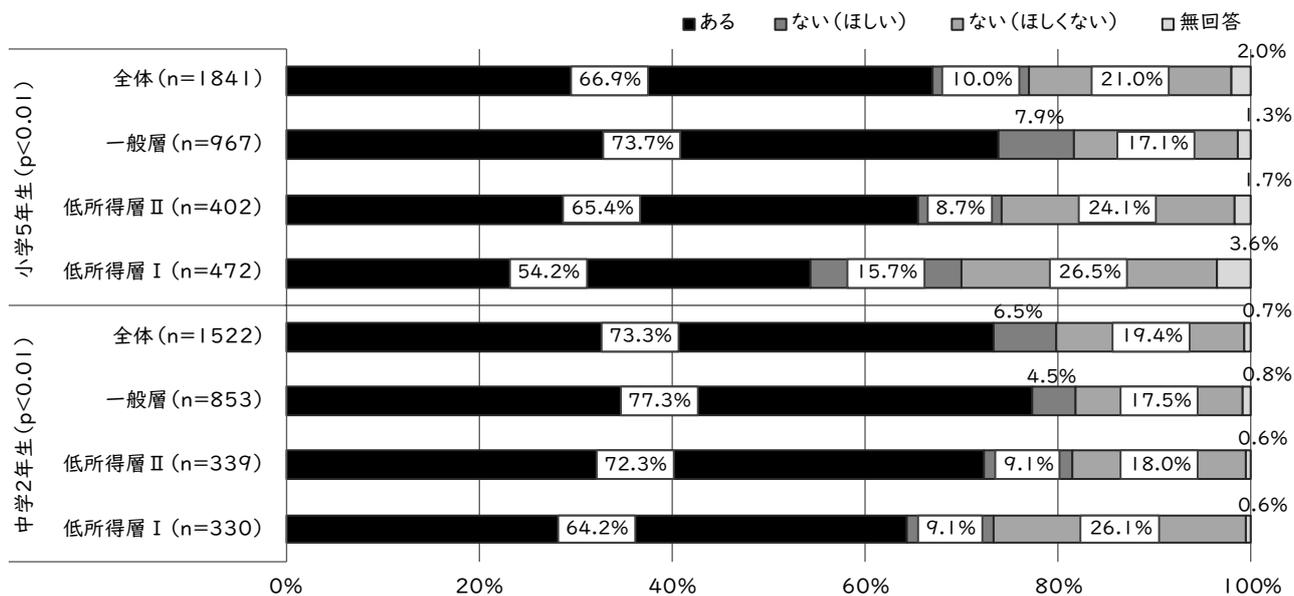


図5-1-6 【小5児童・中2生徒】自転車

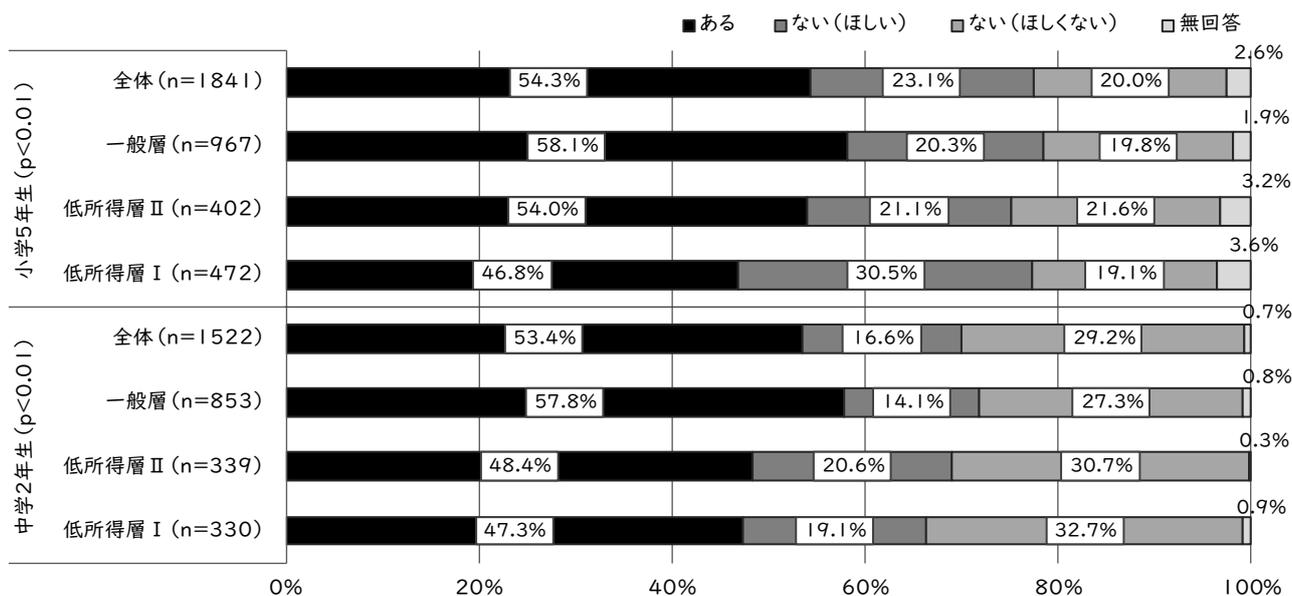


図5-1-7 【小5児童・中2生徒】月500円／月2000円ほどの、自分で自由に使えるお金(おこづかい)

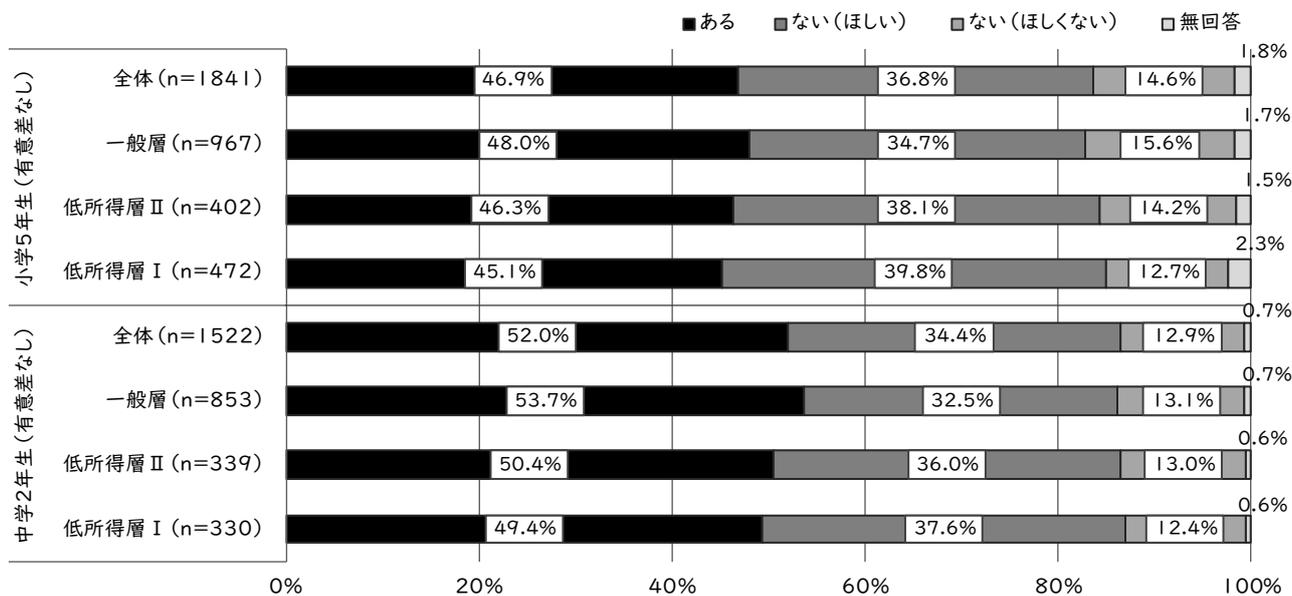


図5-1-8 【小5児童・中2生徒】2足以上のサイズのあった靴

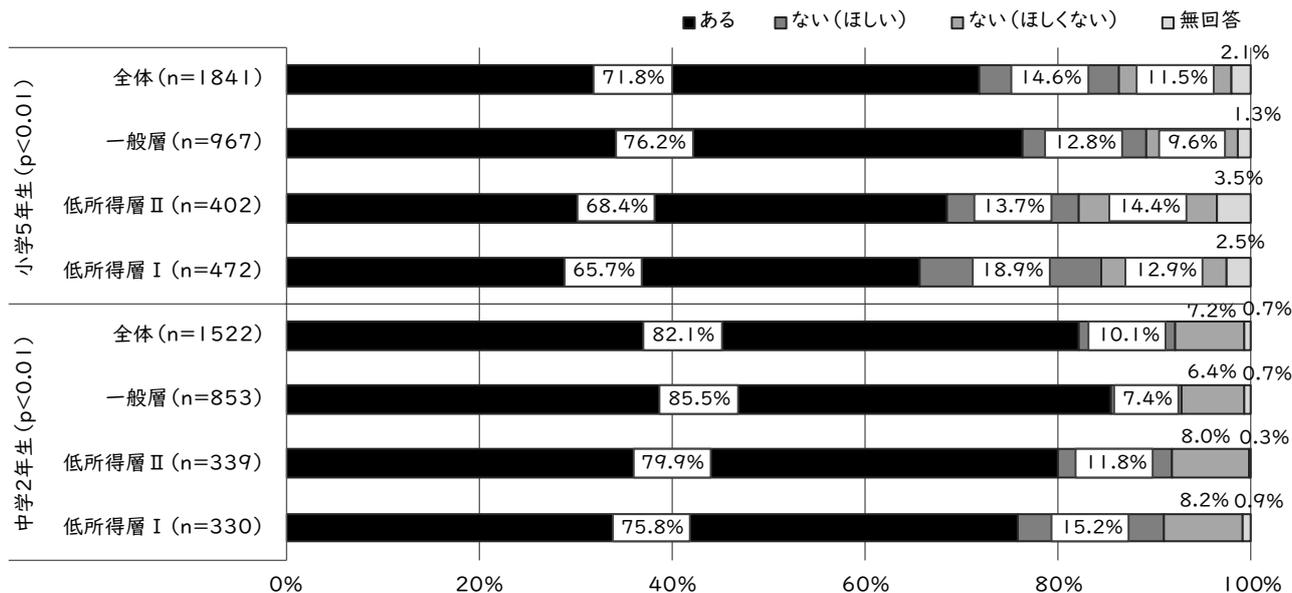


図5-1-9 【小5児童・中2生徒】スマートフォン

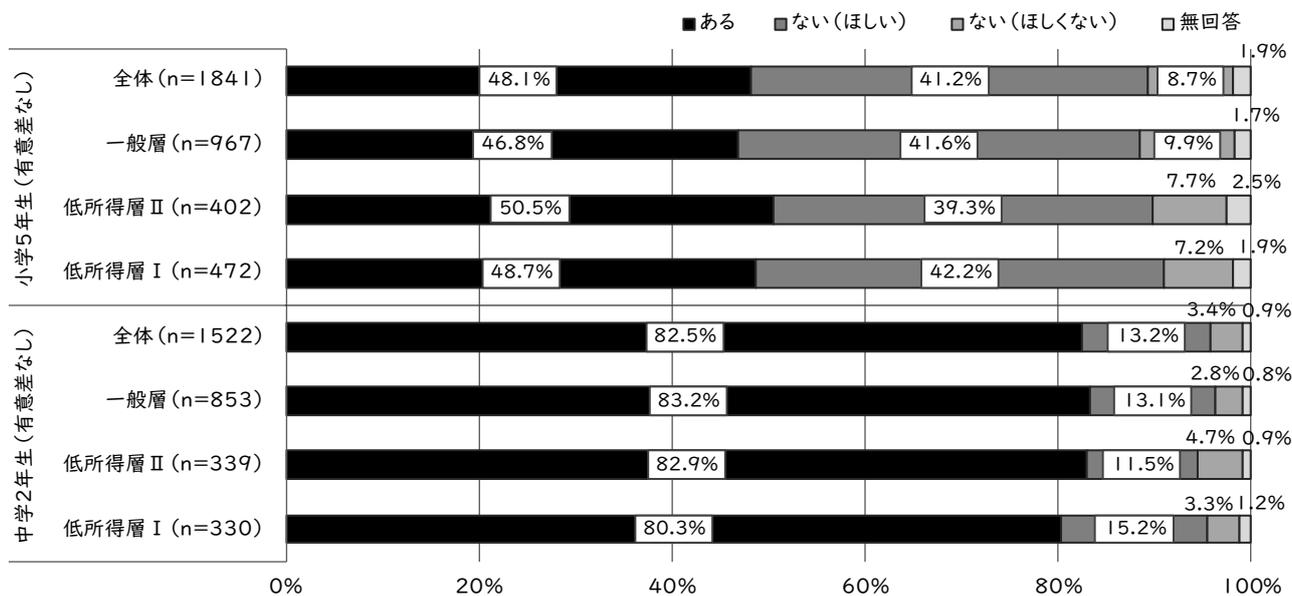


図5-1-10【小5児童・中2生徒】学習塾(または家庭教師、オンラインふくむ)

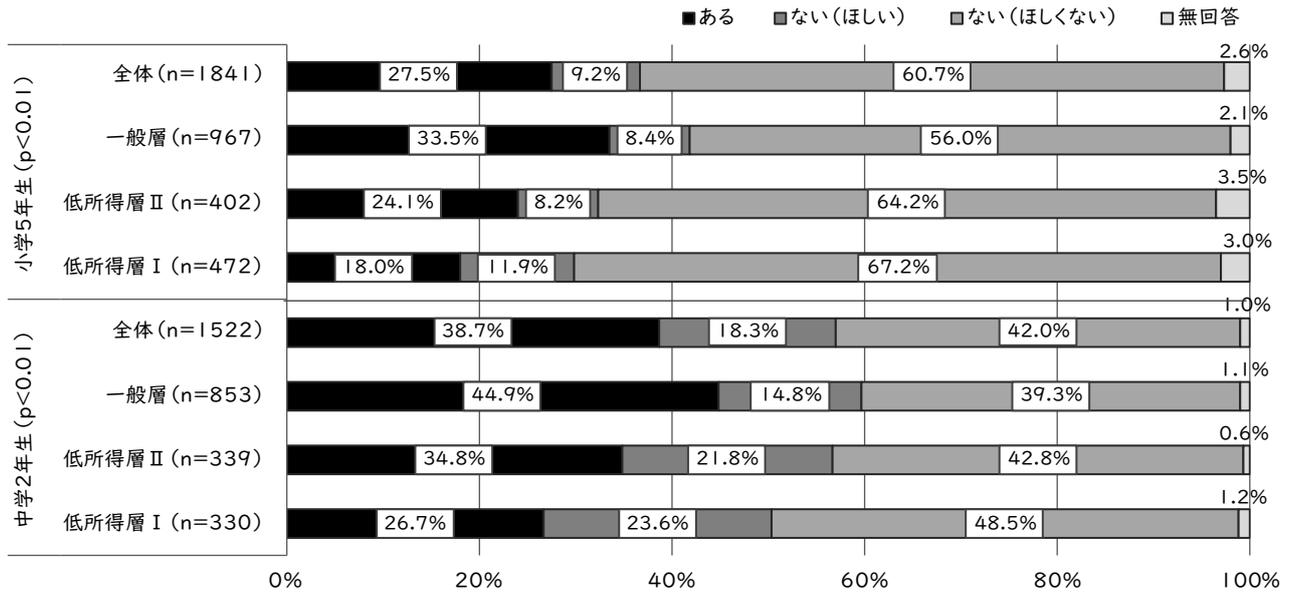


図5-1-11【小5児童・中2生徒】1年に1回の家族旅行(1泊以上)

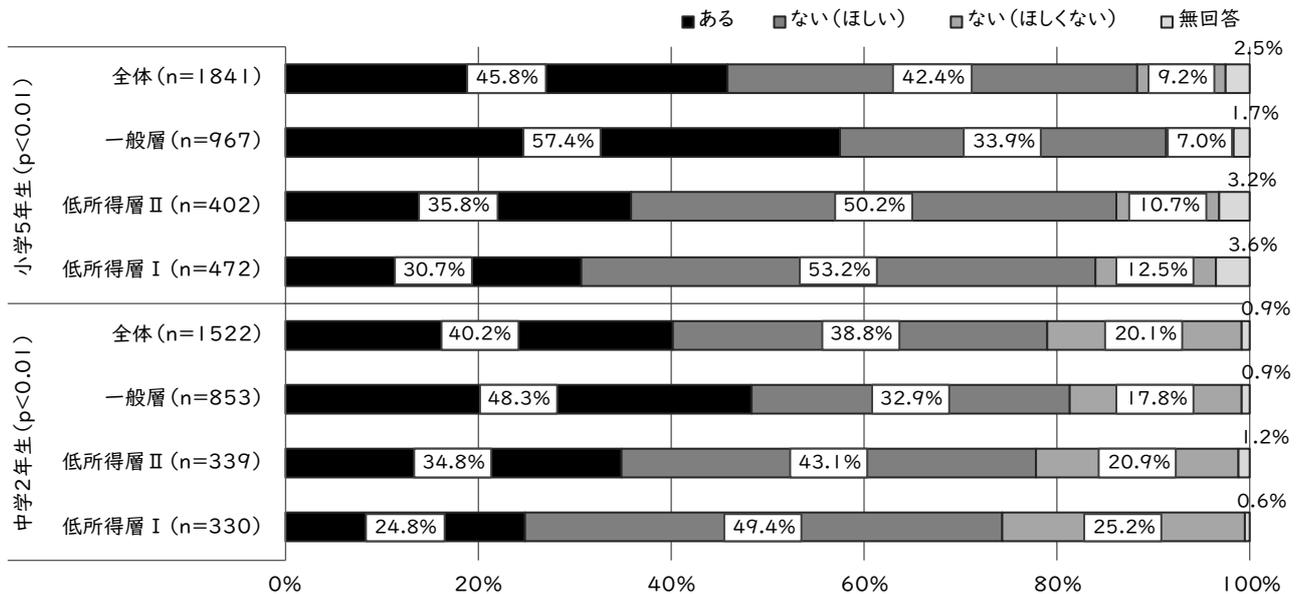


図5-1-12 【小5児童・中2生徒】友だちが持っているような文具(えんぴつ、消しゴム、筆箱など) / (シャープペン、色ペン、ペンケースなど)

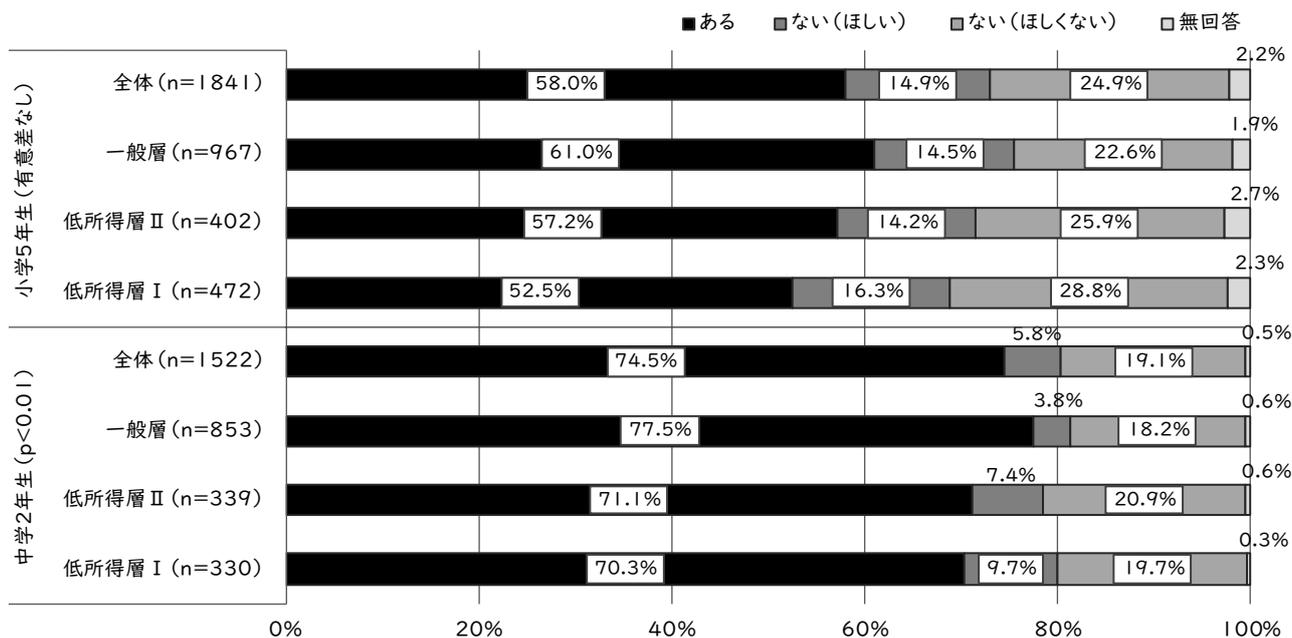


図5-1-13 【小5児童・中2生徒】新しい(お古でない)洋服

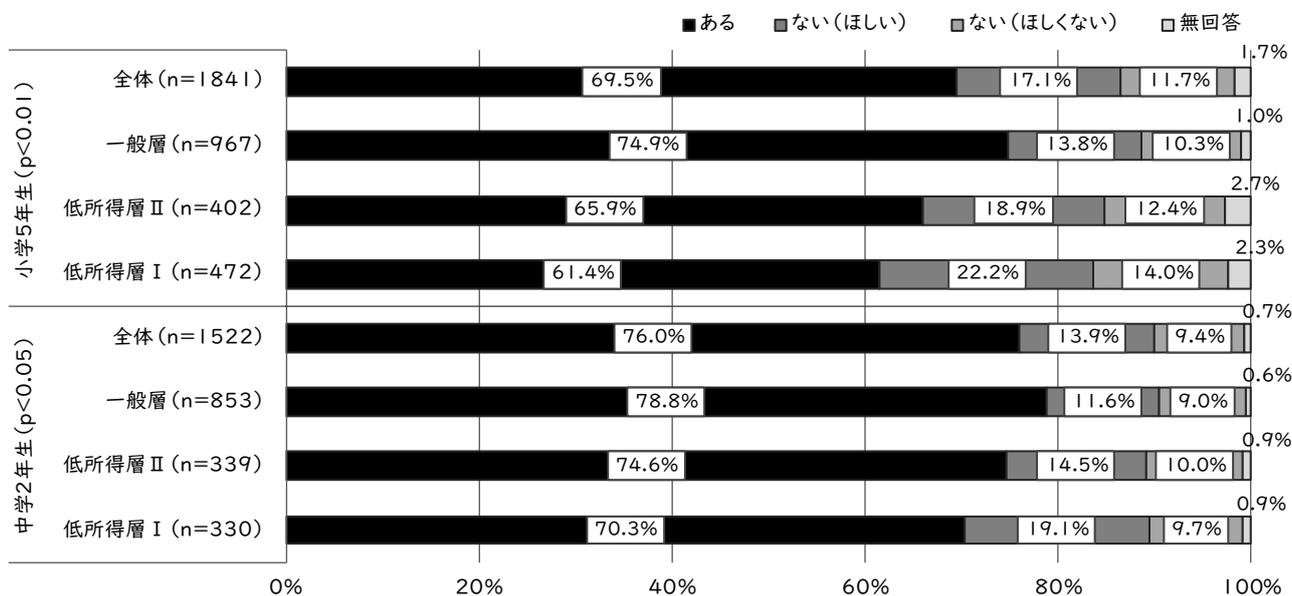


図5-1-14 【小5児童・中2生徒】習い事(音楽、スポーツ、習字など)

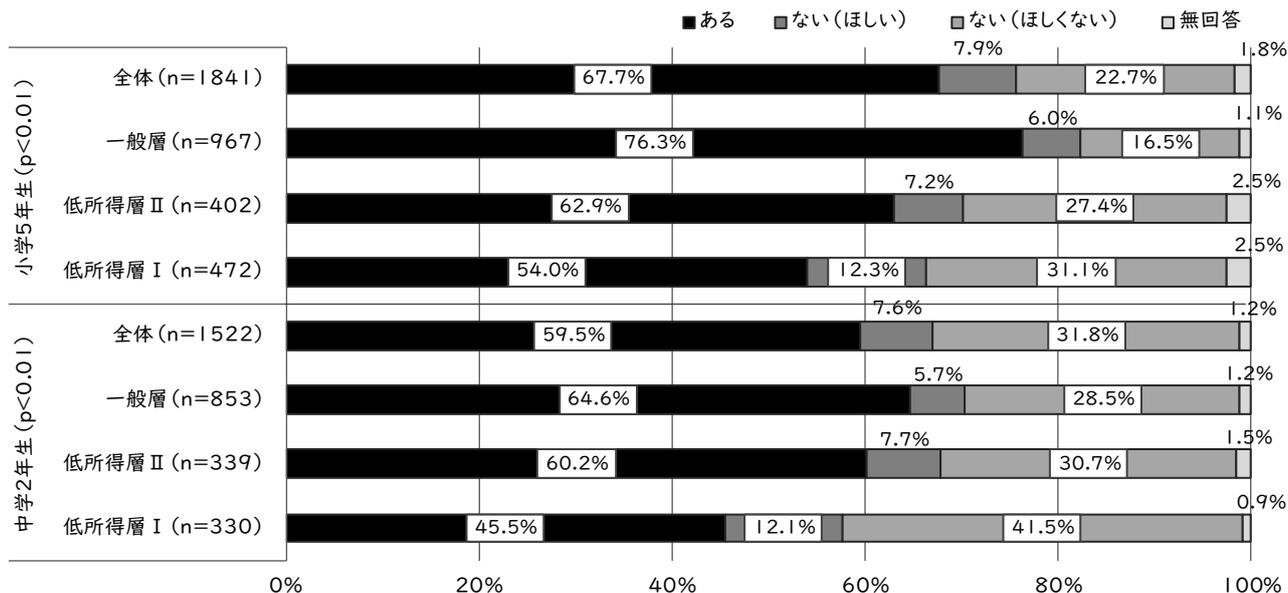


図5-1-15 【中2生徒】めがねまたはコンタクトレンズ(矯正用)

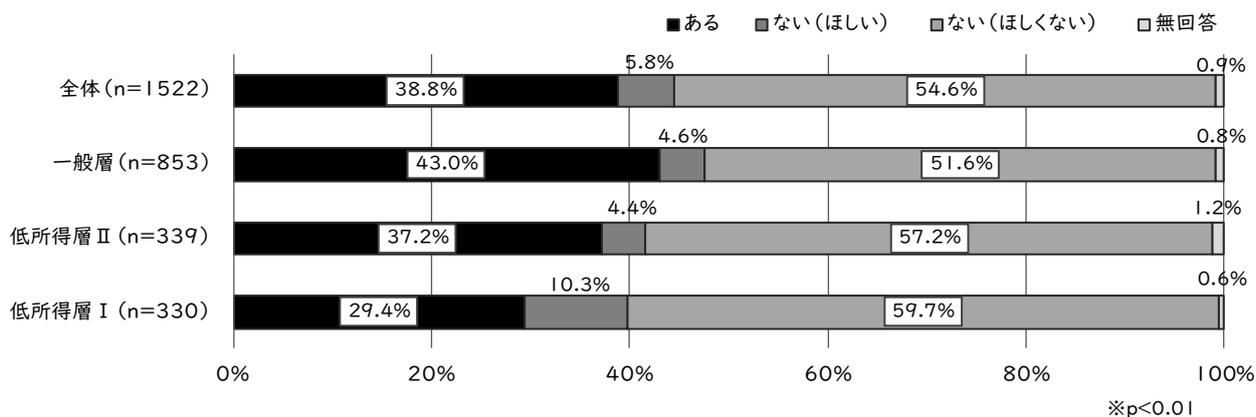
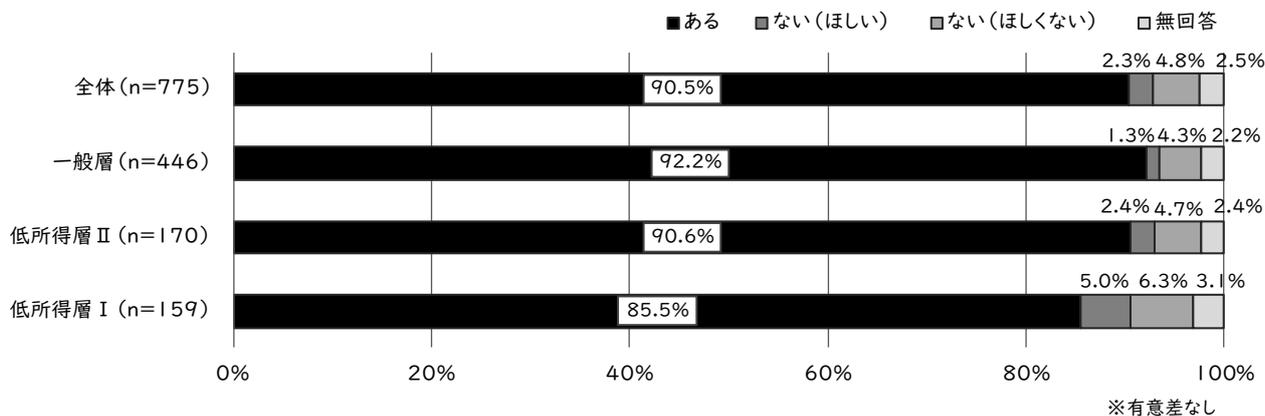


図5-1-16 【中2生徒/女子】生理用品

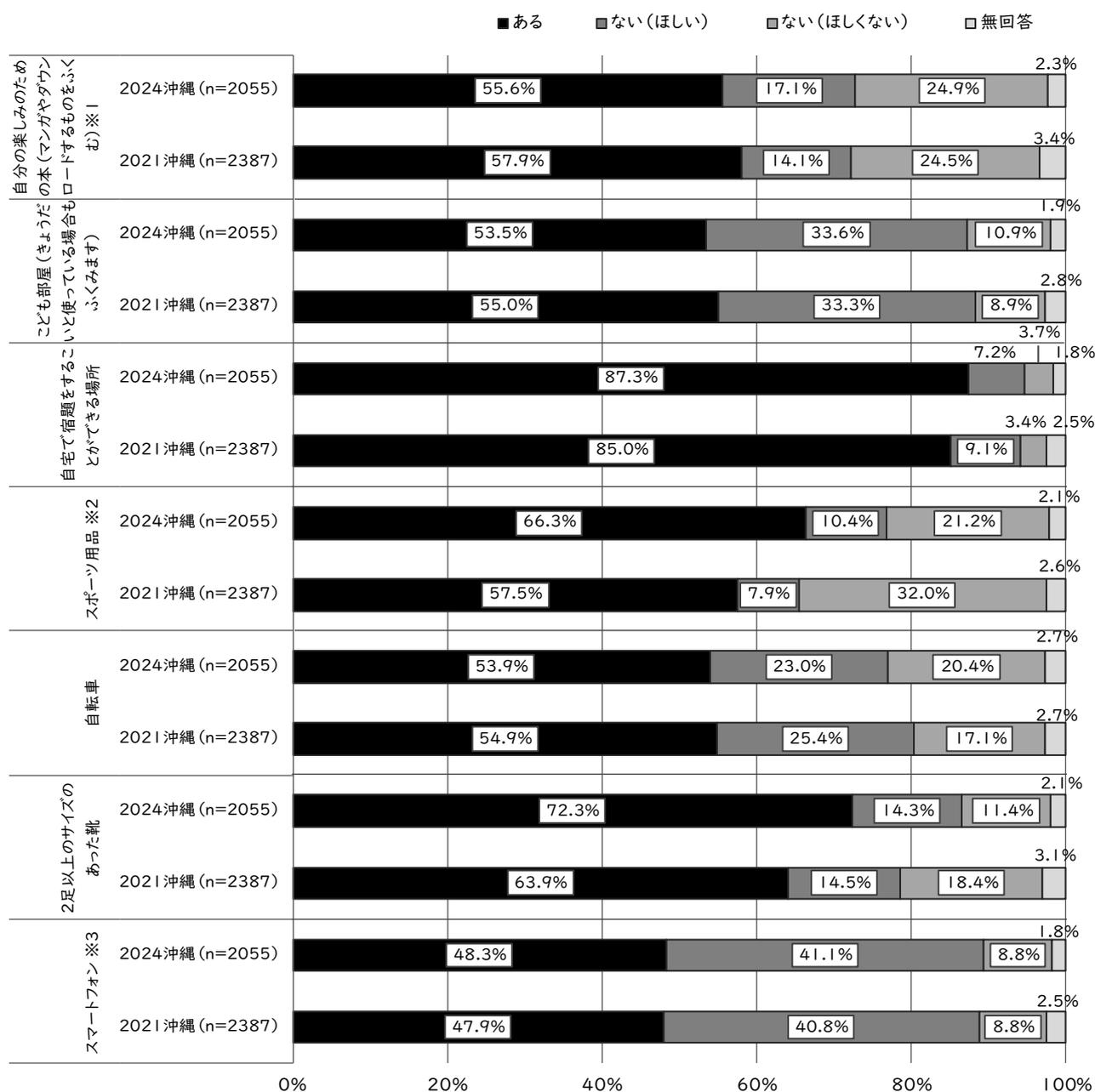


経年比較

図5-1-17と図5-1-18では、2021年沖縄県調査と同一またはほぼ同様の項目(7項目)について経年比較をしています。多くの項目で、「ある」や「ない(ほしい)」割合には大差がないように推察できます。

一方で、「ある」割合について、小学5年生の「スポーツ用品」「2足以上のサイズのあった靴」で10ポイント程度、中学2年生の「自分の楽しみのための本」「スポーツ用品」「2足以上のサイズのあった靴」「スマートフォン」で5ポイント程度の改善が見られました。

図5-1-17【小5児童】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか

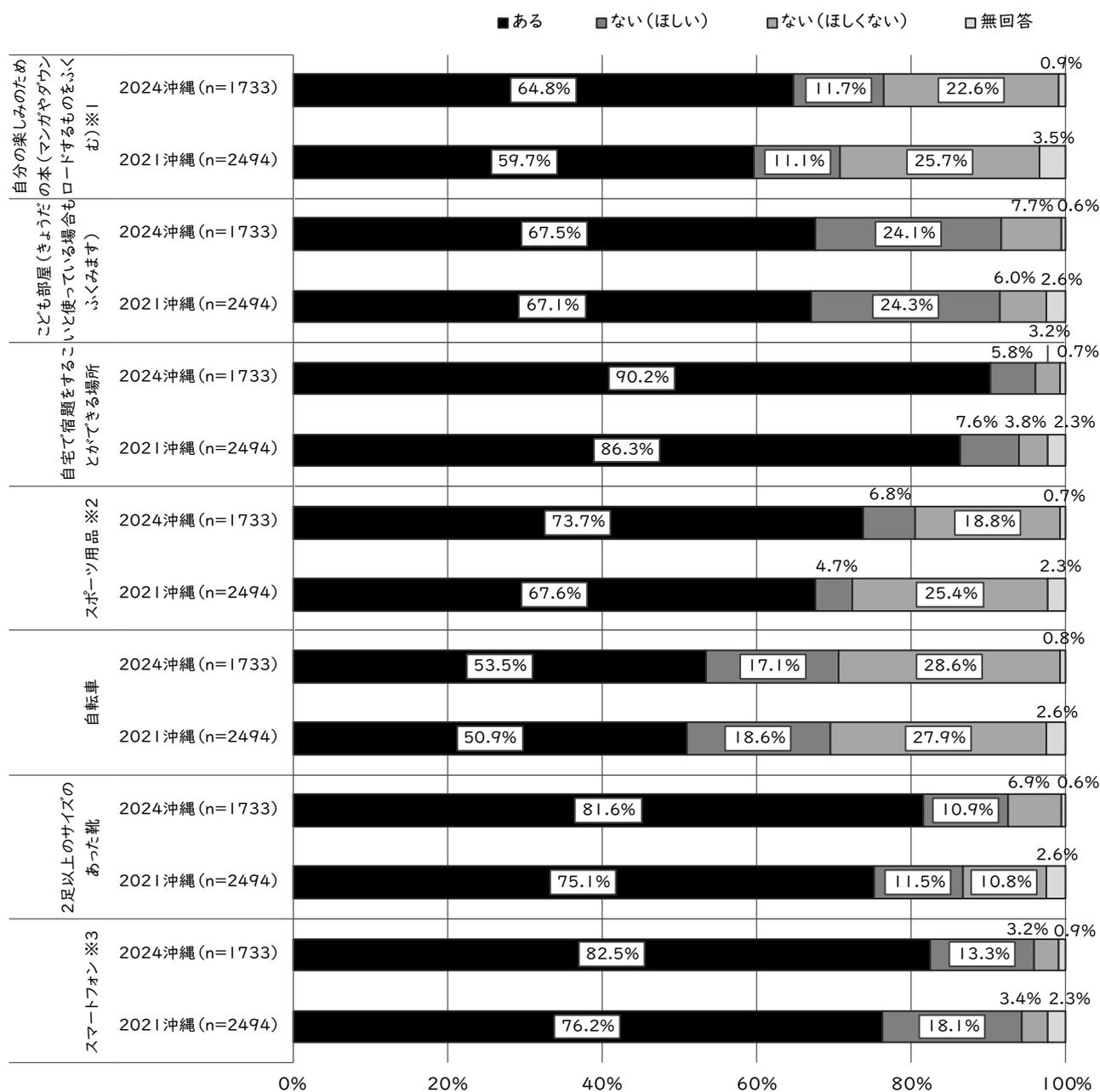


2021年沖縄県調査は、以下で尋ねている。

*1<自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく)> *2<スポーツ用品(野球のグローブや、サッカーボールなど)>

*3<けいたい電話、スマートフォン>

図5-1-18【中2生徒】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか



2021年沖縄県調査は、以下で尋ねている。

※1〈自分だけの本(学校の教科書やマンガはのぞく)〉 ※2〈スポーツ用品(野球のグローブや、サッカーボールなど)〉

※3〈けいたい電話、スマートフォン〉

同一の項目について、2022 年東京都調査との比較を行っています。「所有物」(7~8項目)と「体験等」(6項目)に分類して掲載しています。

「所有物」の図5-1-19(小学5年生)と図5-1-20(中学2年生)からは、小学5年生のスマートフォンを除く多くの項目で、沖縄県の方が東京都と比較して、「ある」割合が低く、「ない(ほしい)」が高いことがわかりました。

「体験等」の図5-1-21(小学5年生)と図5-1-22(中学2年生)においても「所有物」と同様の傾向が見えました。

所有物

図5-1-19【小5児童】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか

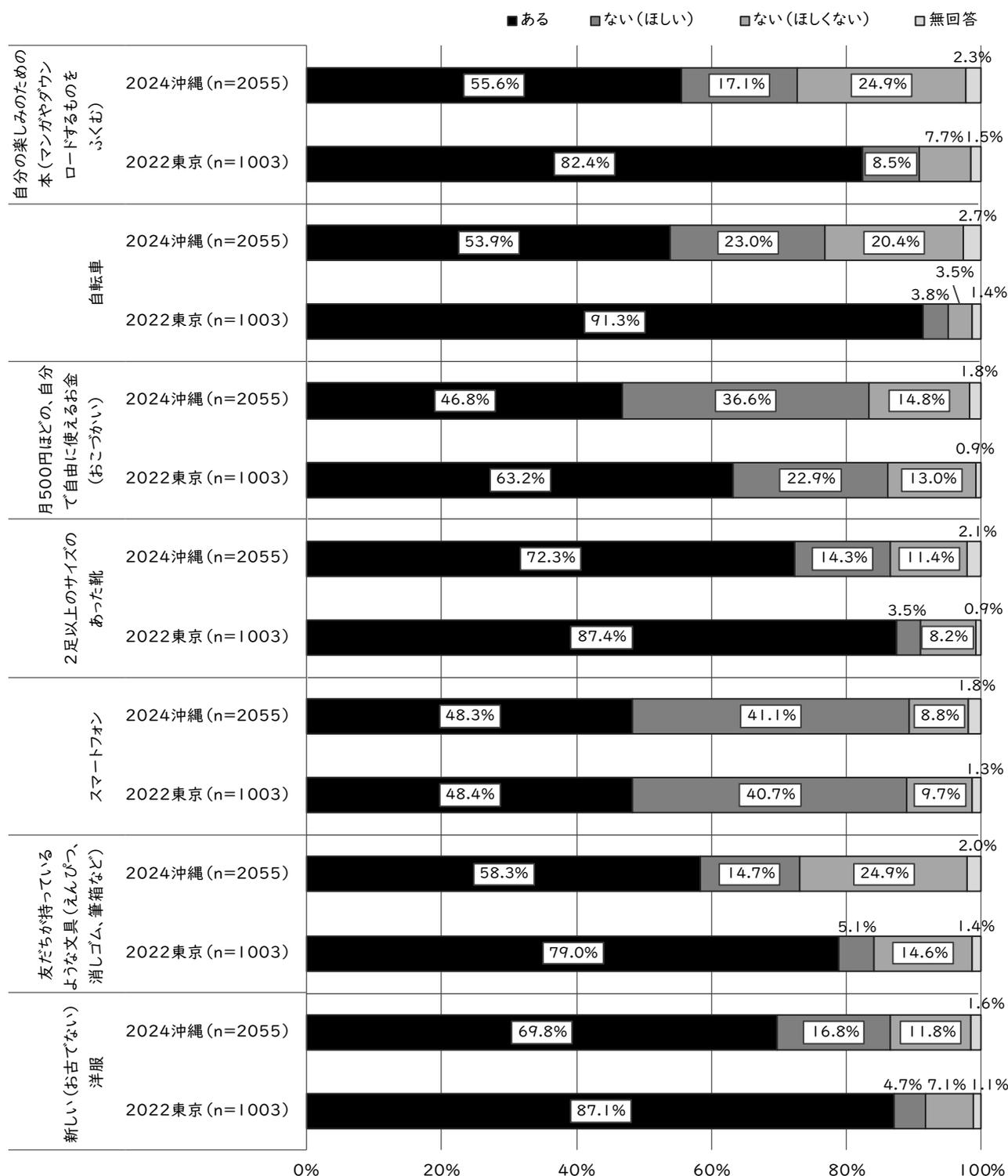
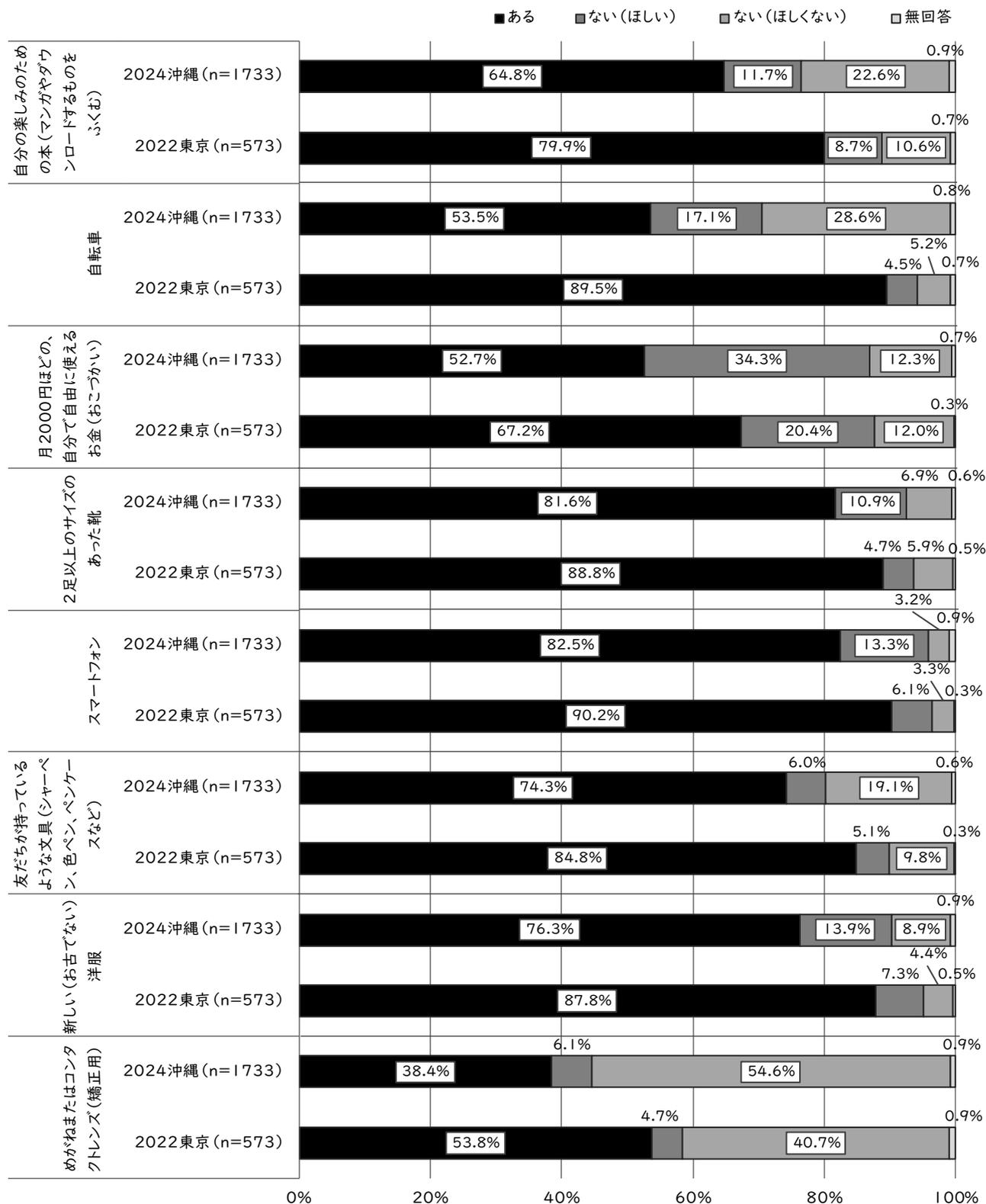


図5-1-20【中2生徒】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか



体験等

図5-1-21 【小5児童】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか

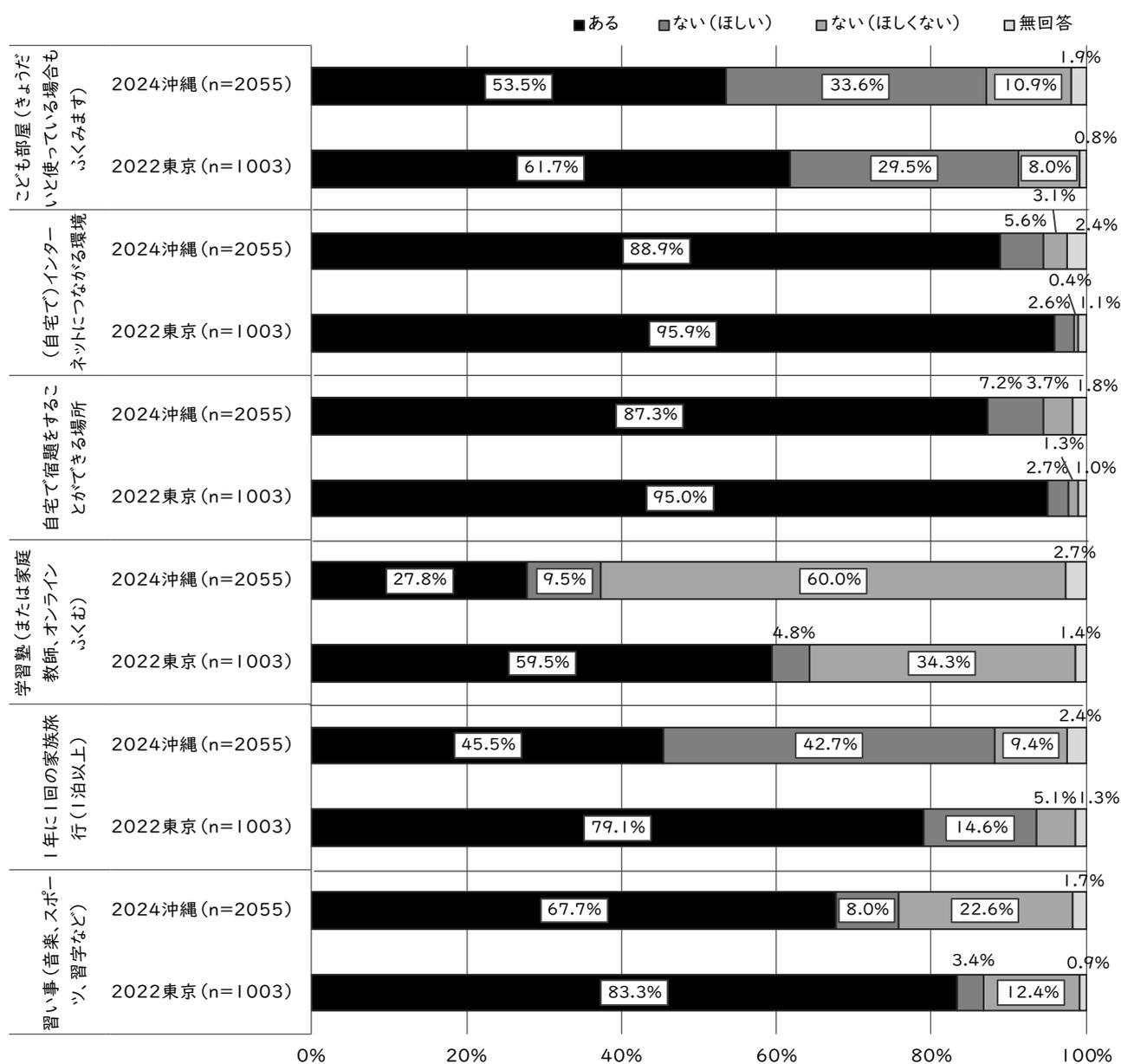
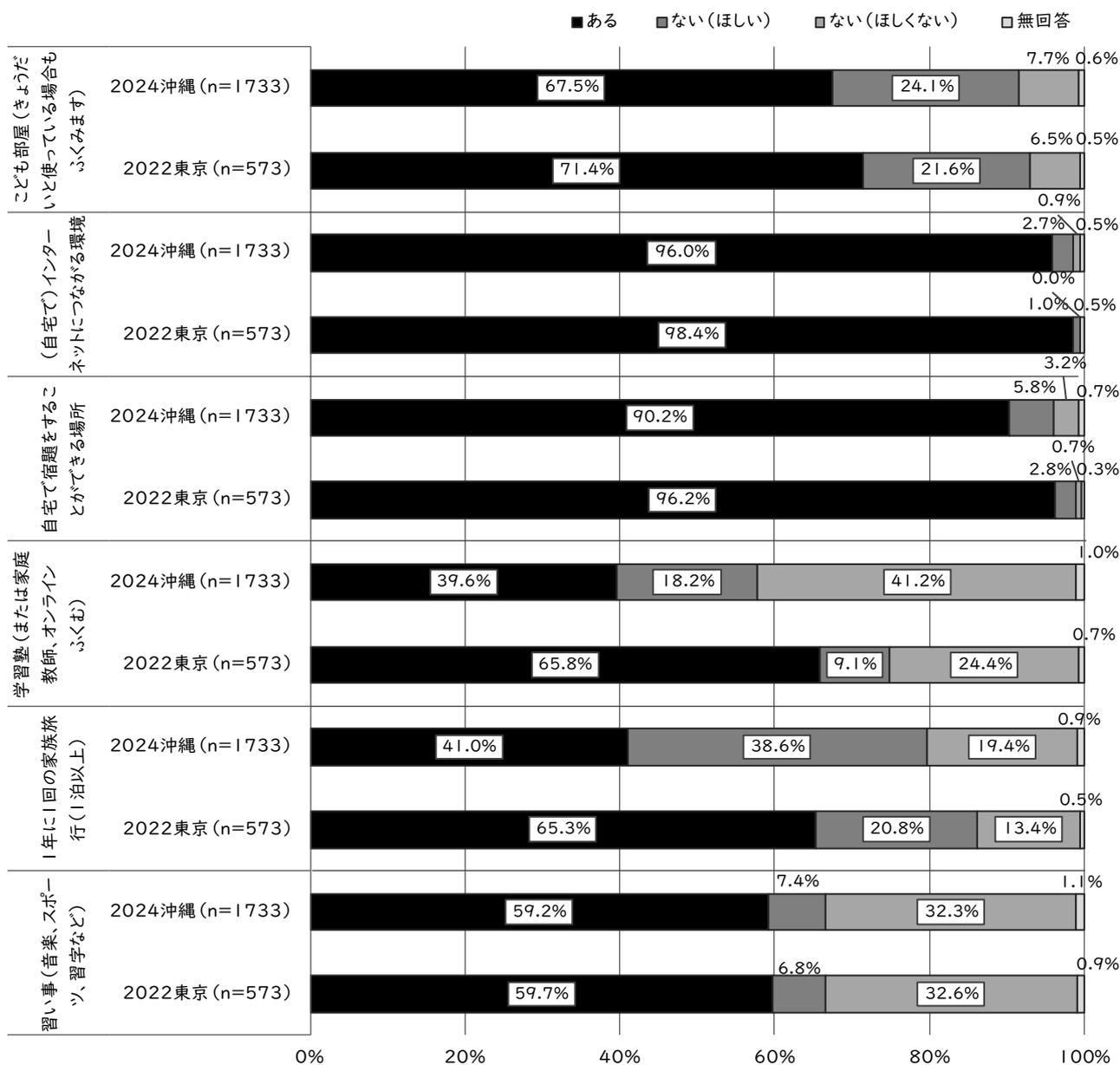


図5-1-22 【中2生徒】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか



2 こどものための支出 — 保護者の視点

図5-2-1から図5-2-14は、多くの児童・生徒が所有している物品を、保護者の視点から与えたくても経済的に購入できない、与えられない状況を見たものです。

保護者に対して、「毎月お小遣いを渡す」「毎年新しい(お古でない)洋服・靴を買う」「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる」「学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう、オンライン含む)」「お誕生日のお祝いをする」「1年に1回くらい家族旅行に行く」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」「修学旅行などお金がかかる学校の活動」「パソコンかタブレットを与える」「スマートフォンを与える」ことをしているかを尋ねています。家庭の方針で支出していない場合もあるので、「している」「したくない(方針ではない)」「経済的にできない」の3つから選択してもらいました。

経済状況別に見ると、どの項目・どの学年にも統計的に有意差があり、所得が低い世帯ほど「している」割合は低く、「経済的にできない」割合は高くなる傾向が見えました。特に、低所得層Ⅰで「経済的にできない」割合が全学年で30%を超えているのは、「毎月お小遣いを渡す」「習い事に通わせる」「学習塾に通わせる」「1年に1回くらい家族旅行に行く」「パソコンかタブレットを与える」の5項目でした。特に、「1年に1回くらい家族旅行に行く」はどの学年も70~80%、「学習塾に通わせる」は50~60%と高い割合でした。

図5-2-1 【小1・小5・中2保護者】毎月お小遣いを渡す

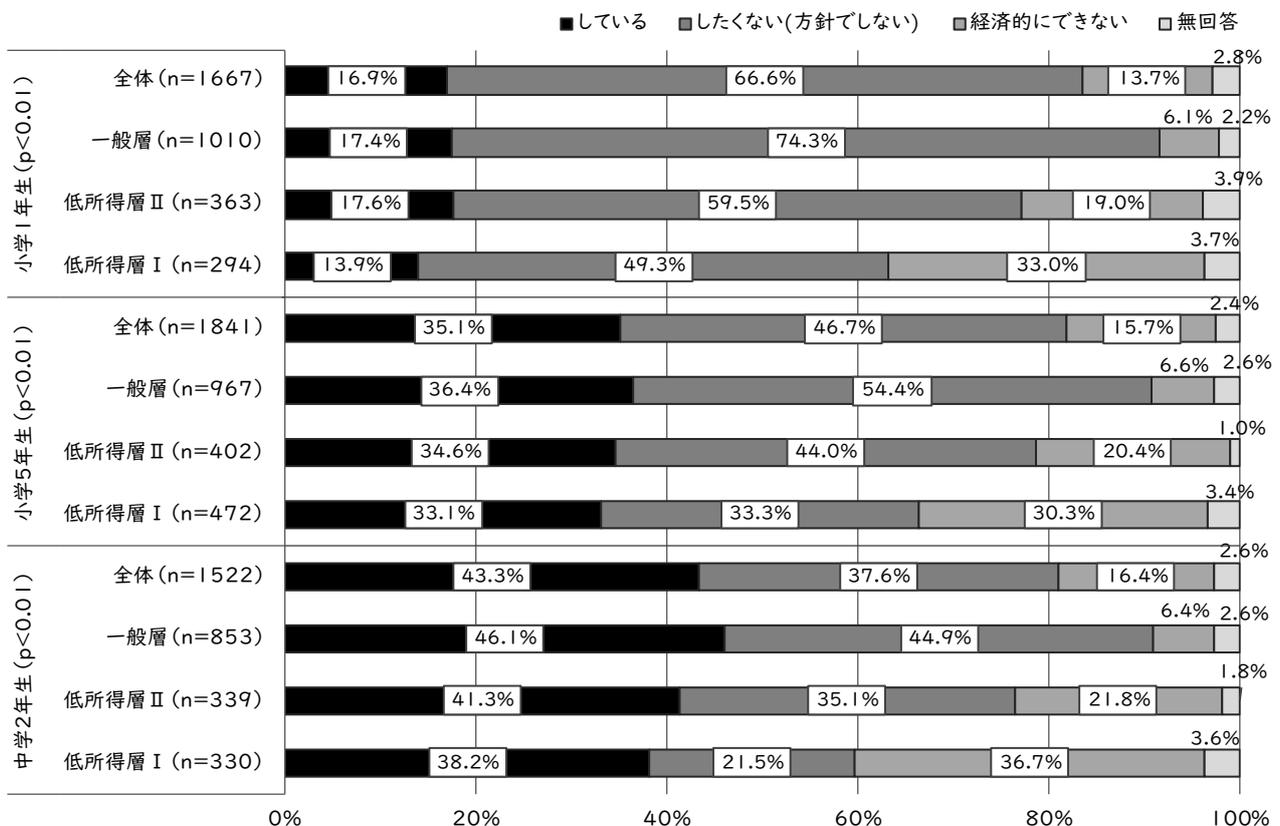


図5-2-2 【小1・小5・中2保護者】毎年新しい(お古でない)洋服・靴を買う

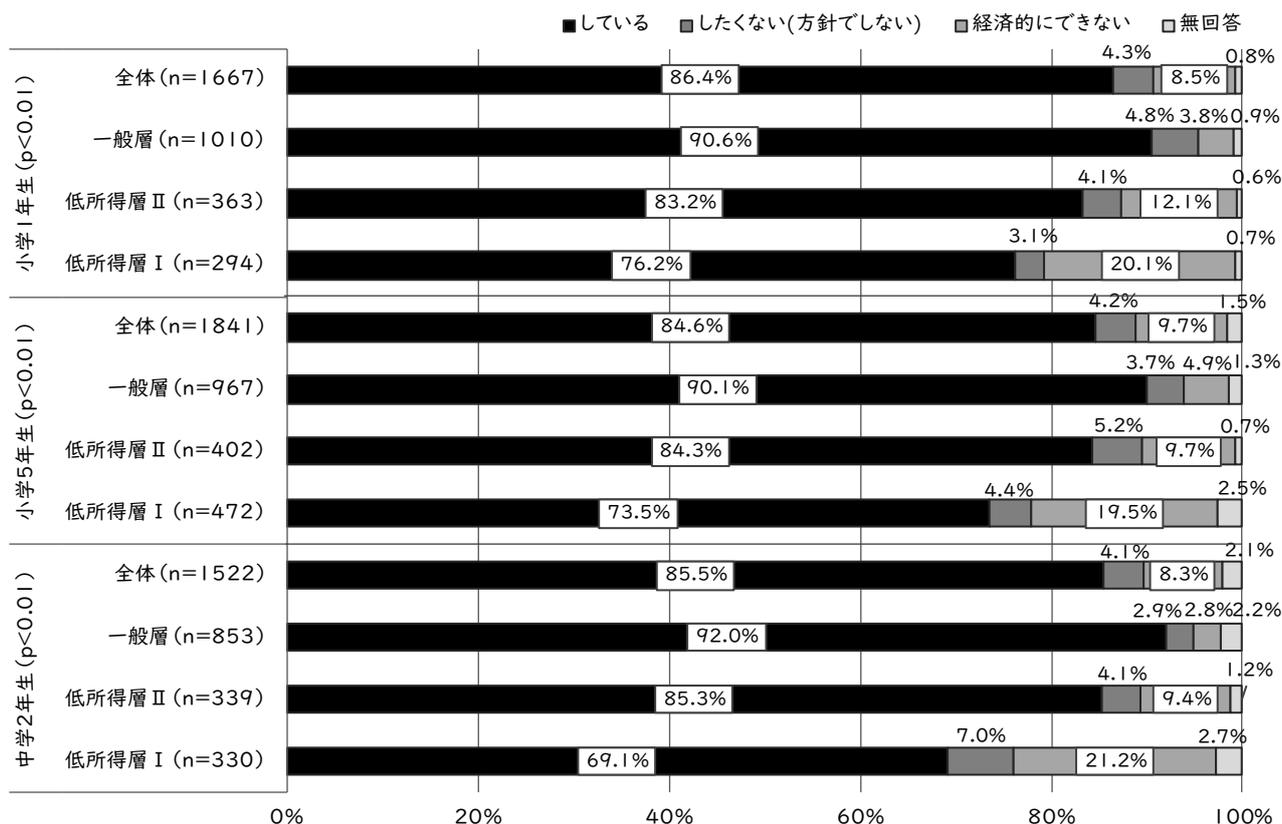


図5-2-3 【小1・小5・中2保護者】習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

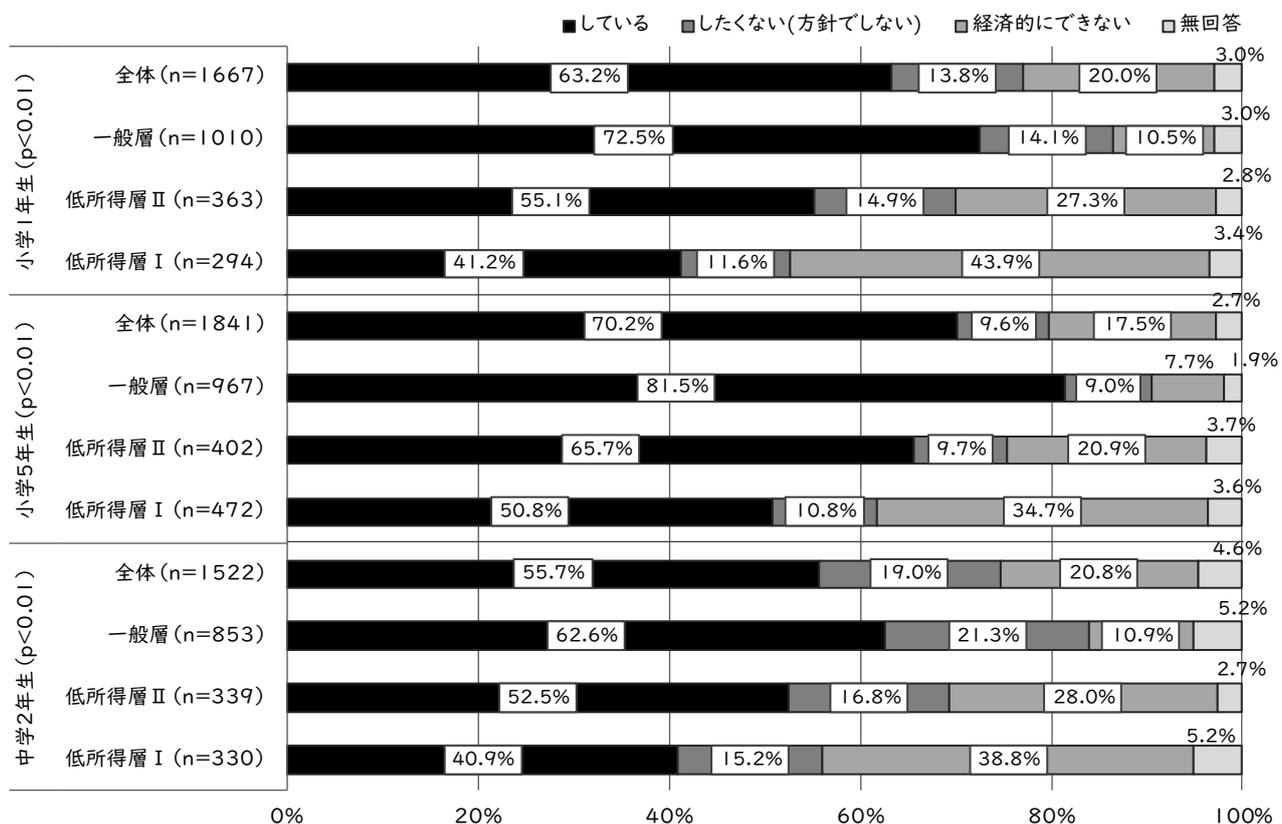


図5-2-4 【小1・小5・中2保護者】学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう、オンライン含む)

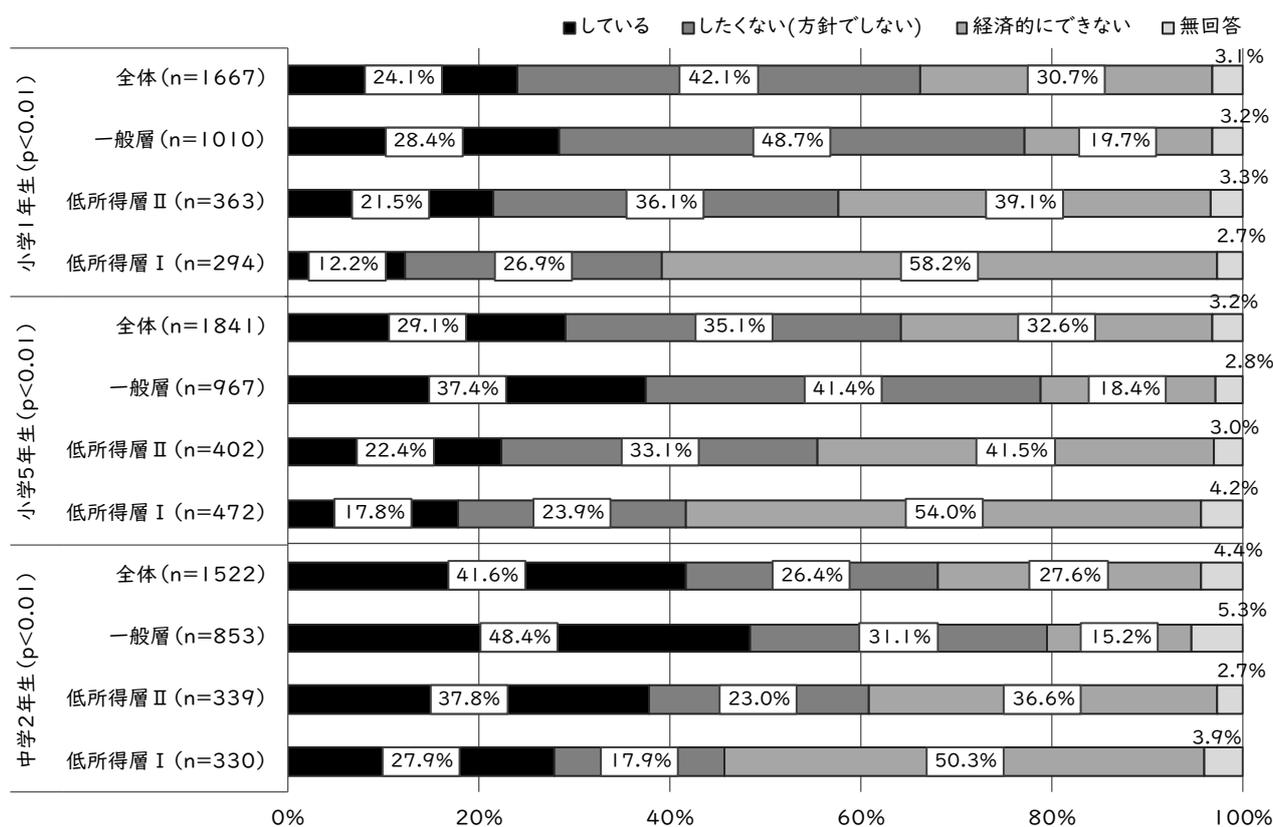


図5-2-5 【小1・小5・中2保護者】お誕生日のお祝いをする

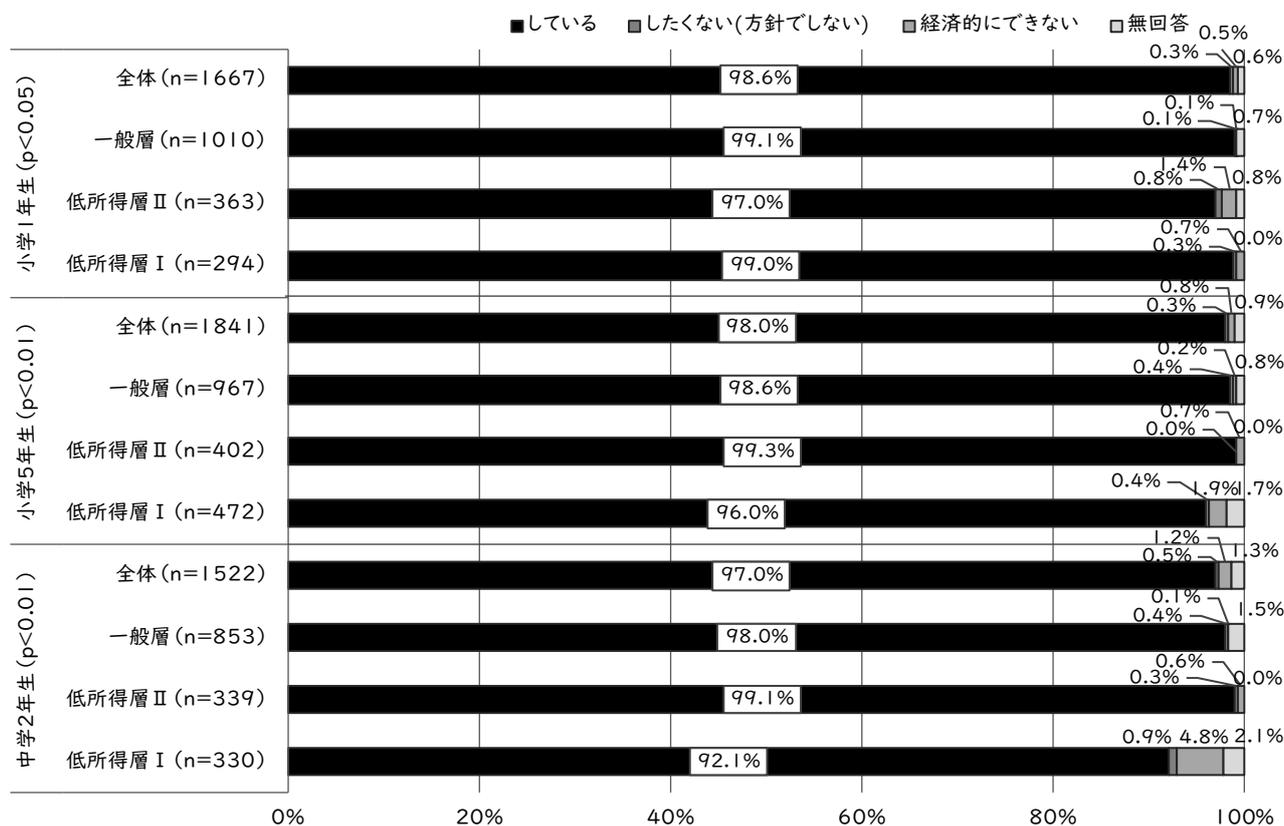


図5-2-6 【小1・小5・中2保護者】1年に1回くらい家族旅行に行く

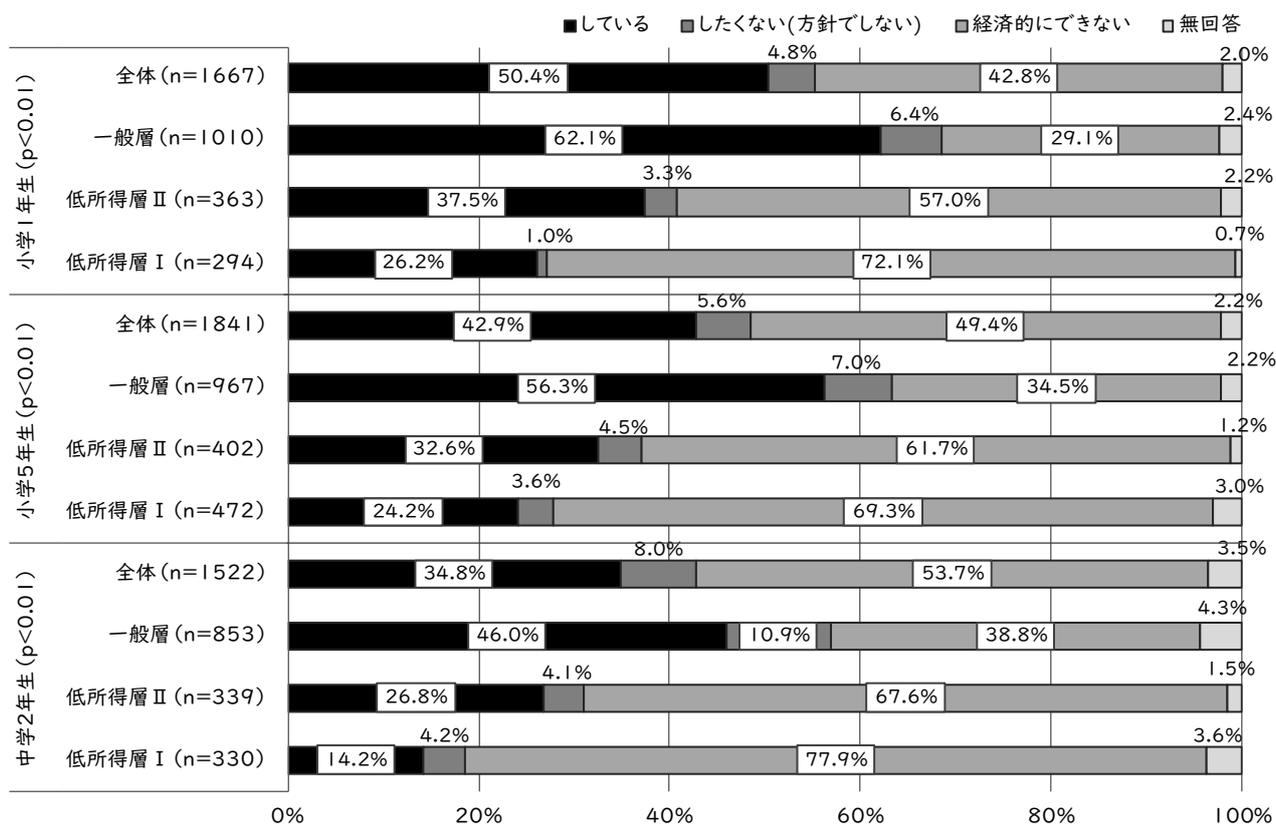


図5-2-7 【小1・小5・中2保護者】クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

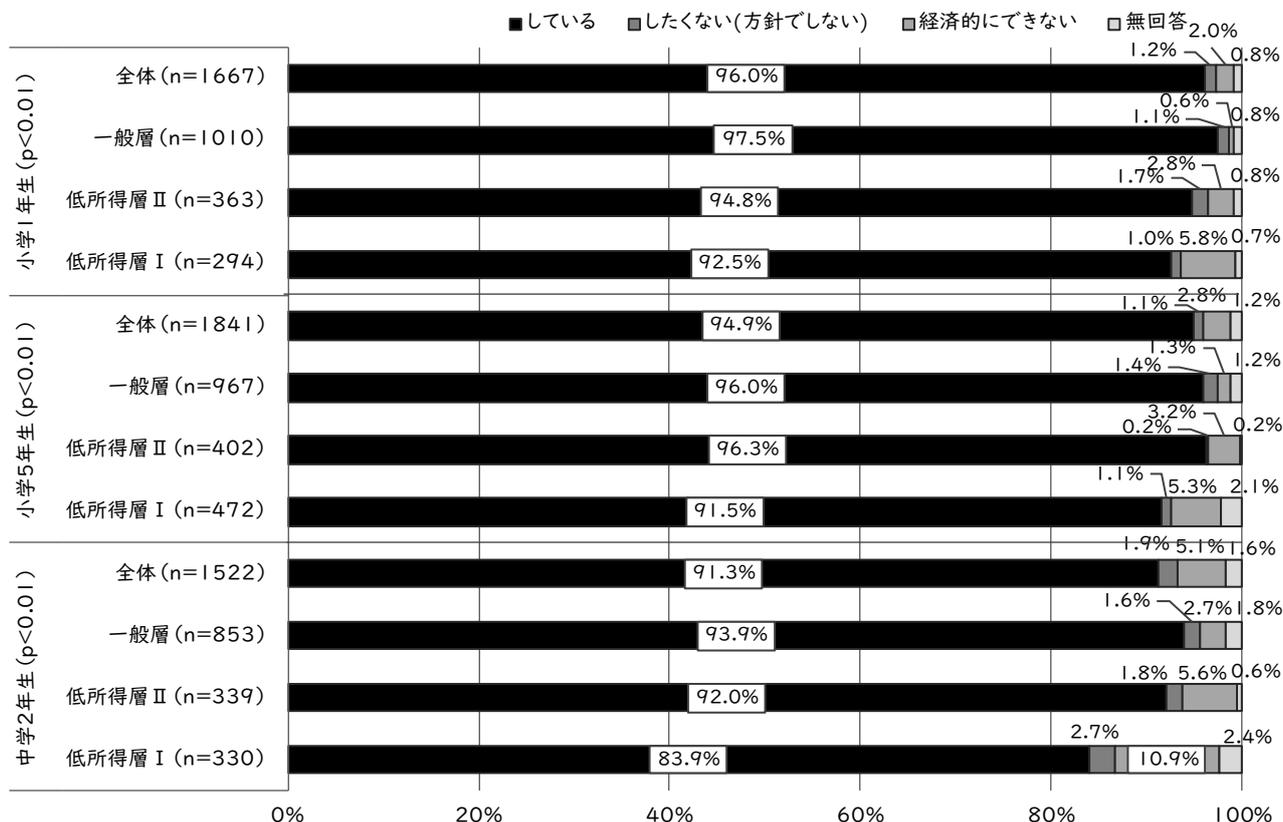


図5-2-8 【小1・小5・中2保護者】修学旅行などお金がかかる学校の活動

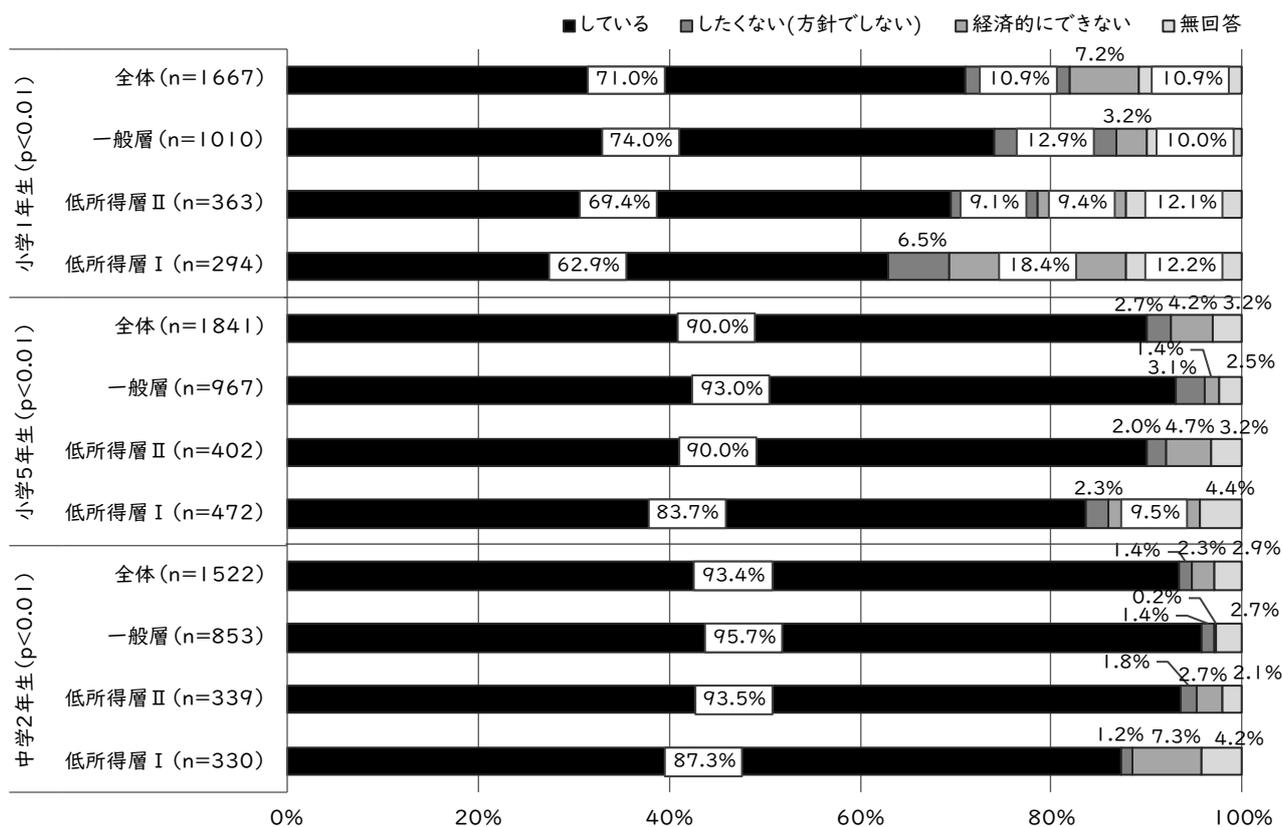


図5-2-9 【小1・小5・中2保護者】パソコンかタブレットを与える

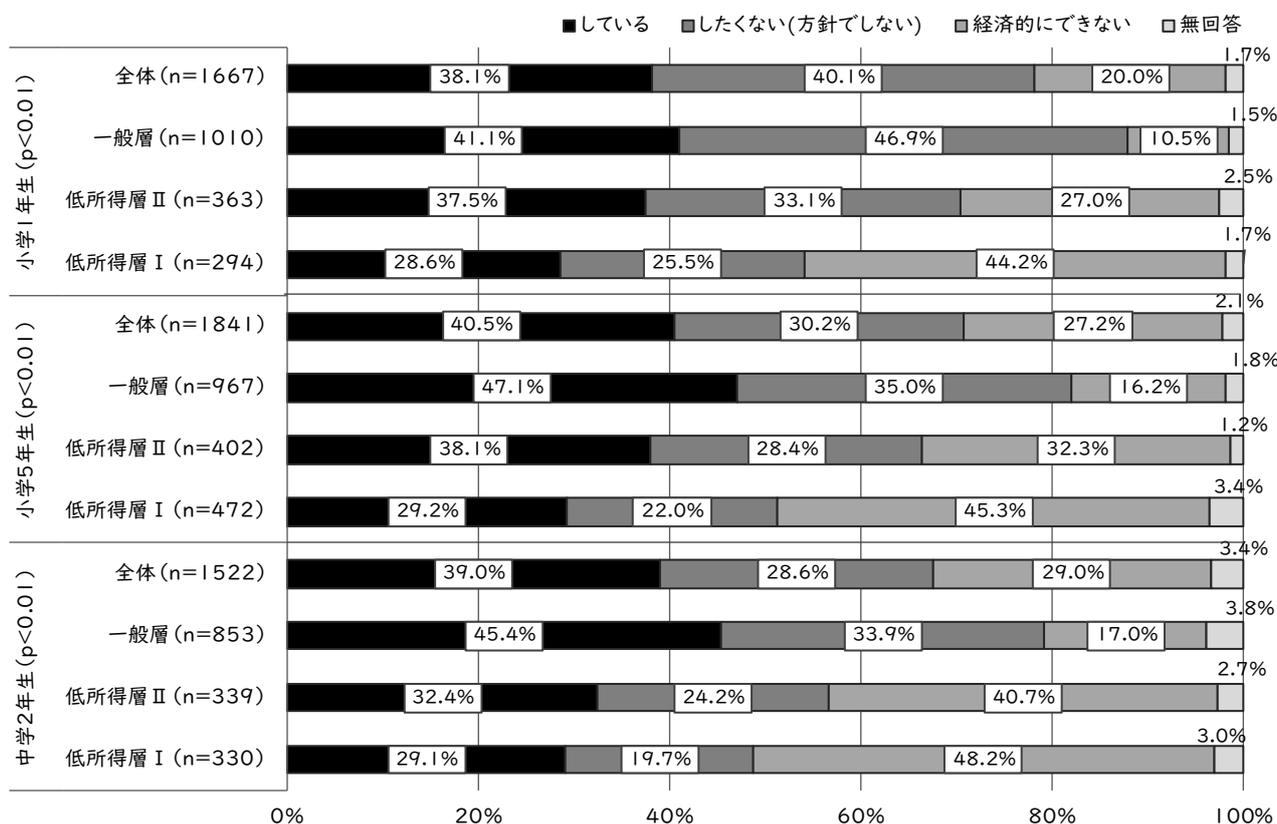
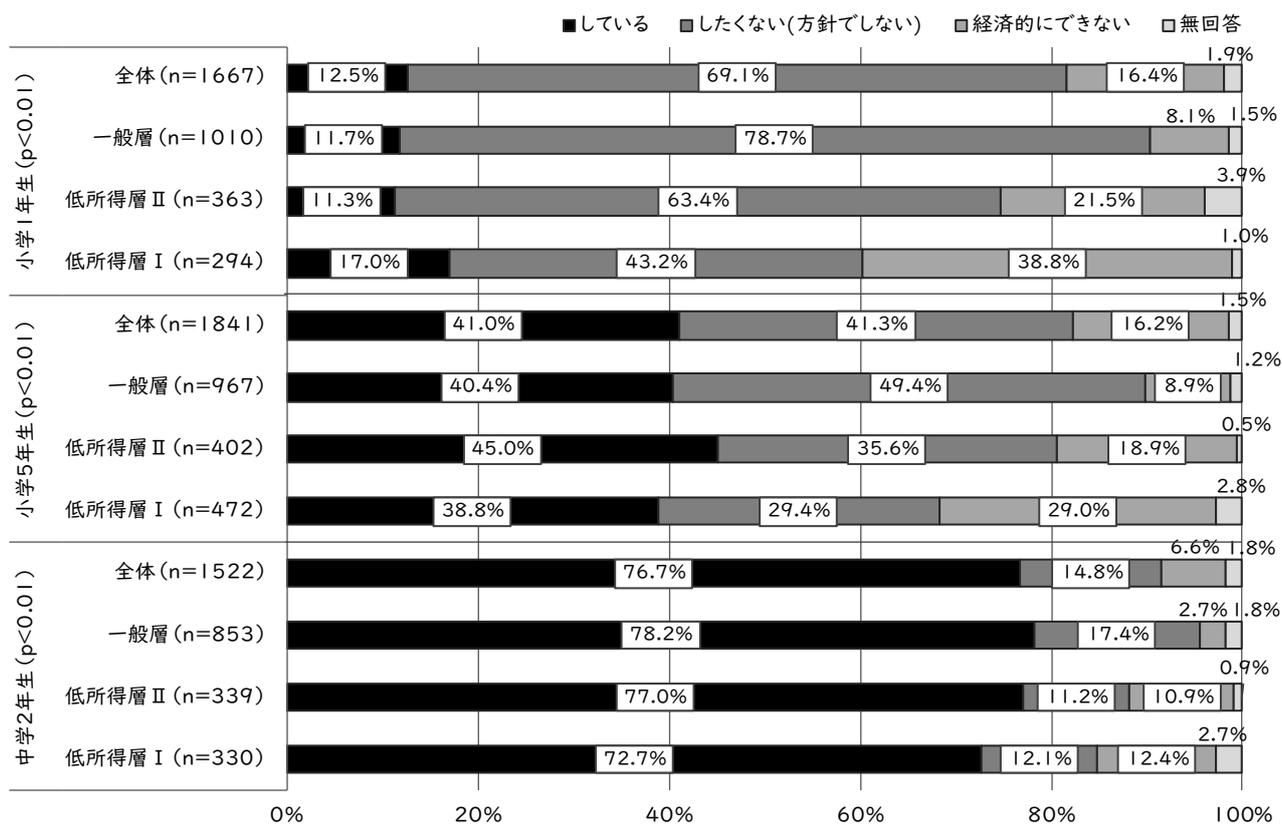


図5-2-10 【小1・小5・中2保護者】スマートフォンを与える

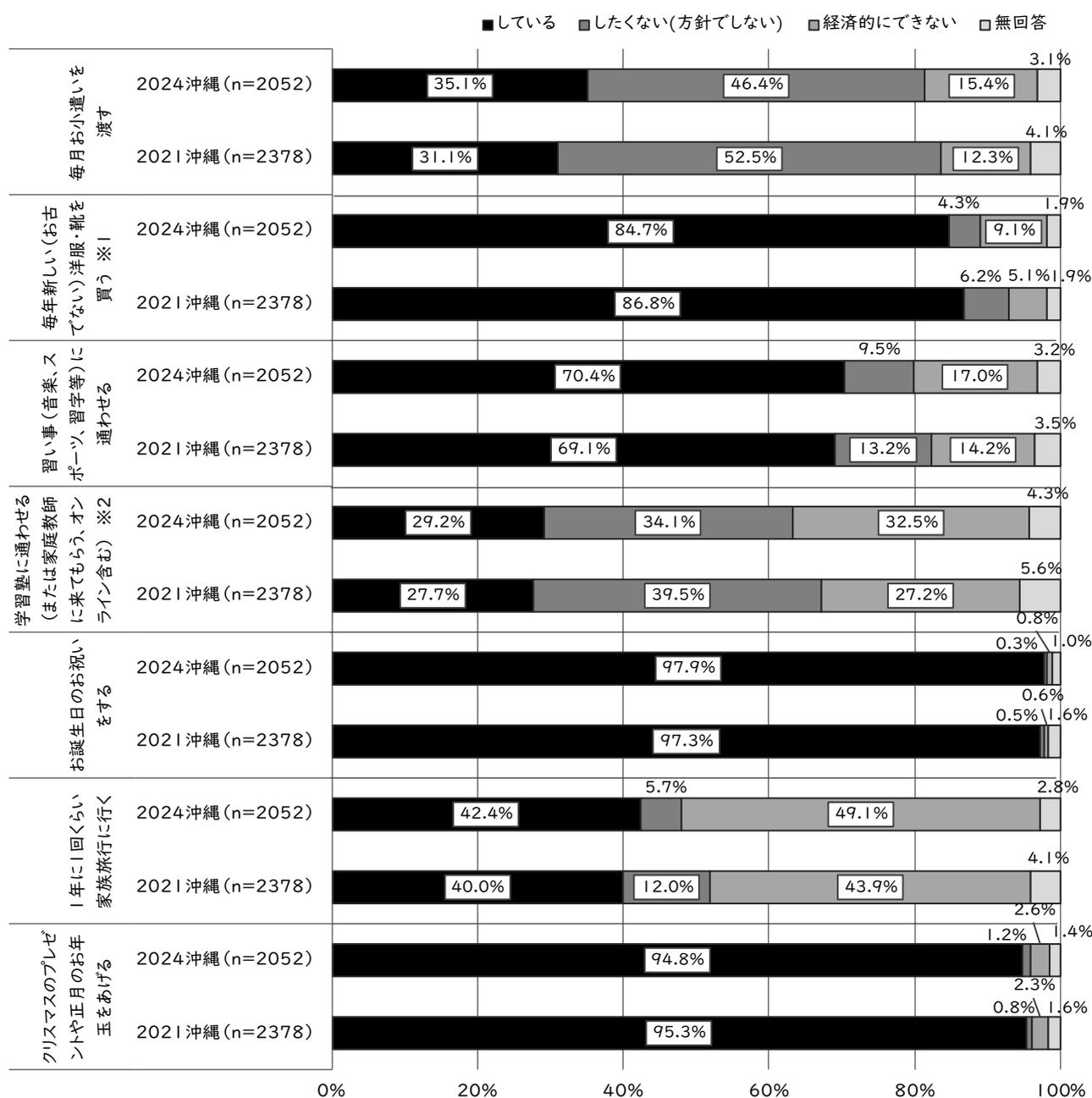


経年比較

図5-2-11と図5-2-12では、2021年沖縄県調査と同一の項目(7項目)について経年比較をしています(小学1年生を除く)。多くの項目で、「している」割合に大きな差はないように推察できます。

一方で、「したくない(方針でない)」「経済的にできない」に注目すると、若干の変動が見られるものがありました。まず、「したくない」において、5ポイント以上減少しているものとして、小学5年生の「毎月お小遣いを渡す」「学習塾に通わせる」「1年に1回くらい家族旅行に行く」、中学2年生の「毎月お小遣いを渡す」「1年に1回くらい家族旅行に行く」がありました。「経済的にできない」に関しては、小学5年生「学習塾に通わせる」「1年に1回くらい家族旅行に行く」、中学2年生の「1年に1回くらい家族旅行に行く」が、5ポイント以上の上昇が見られました。「考察」欄で理由等を論述しています。

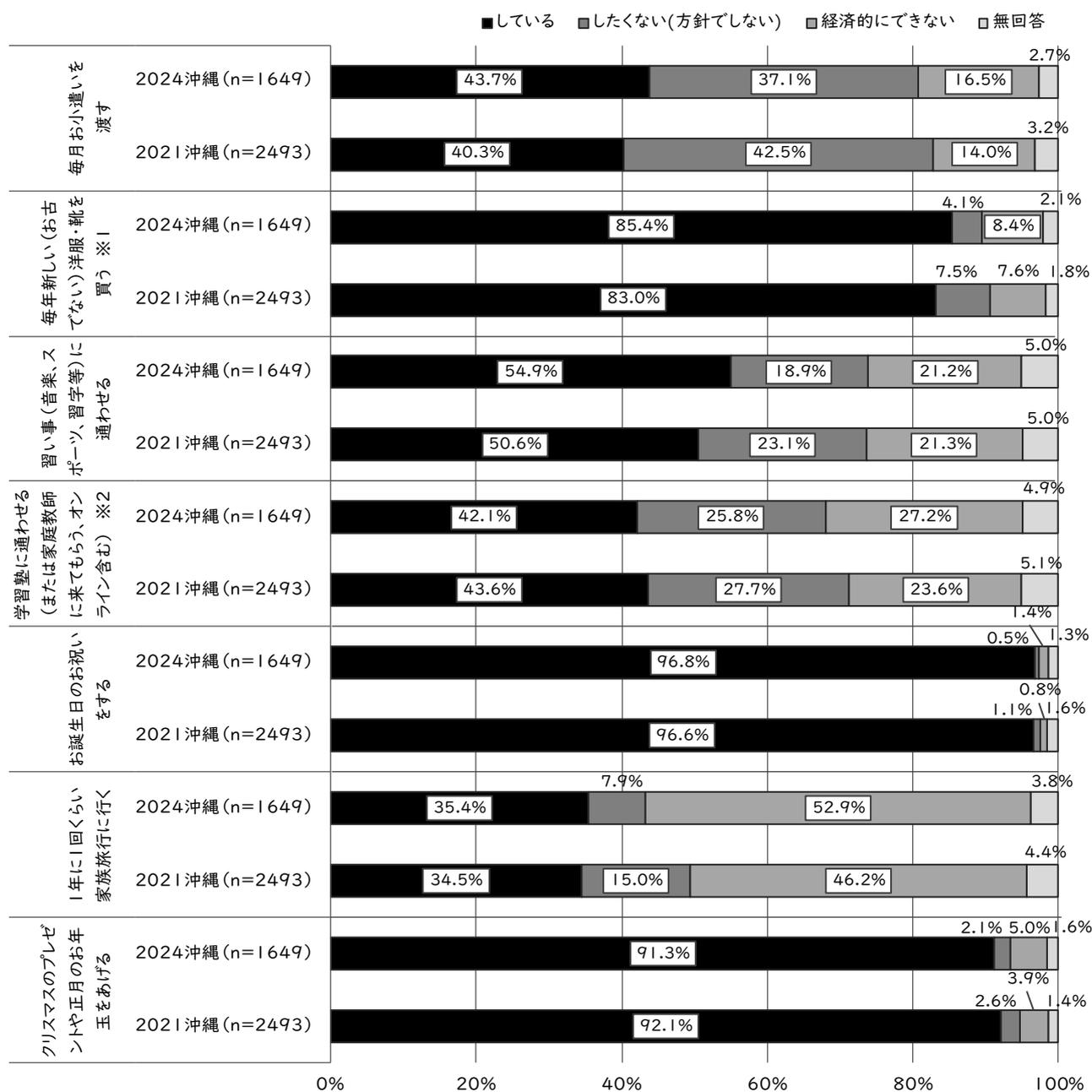
図5-2-11 【小5保護者】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか



2021年沖縄県調査は、以下で尋ねている。

※1<毎年新しい洋服・靴を買う> ※2<学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)>

図5-2-12【中2保護者】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか



2021年沖縄県調査は、以下で尋ねている。

※1〈毎年新しい洋服・靴を買う〉 ※2〈学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)〉

東京都調査との比較

同一の項目について、2022 年東京都調査との比較（10 項目）を行っています（小学1年生を除く）。多くの項目で、沖縄県の方が東京都と比較して、「している」割合が少なく、「経済的にできない」が多いことがわかりました。

図5-2-13【小5保護者】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか

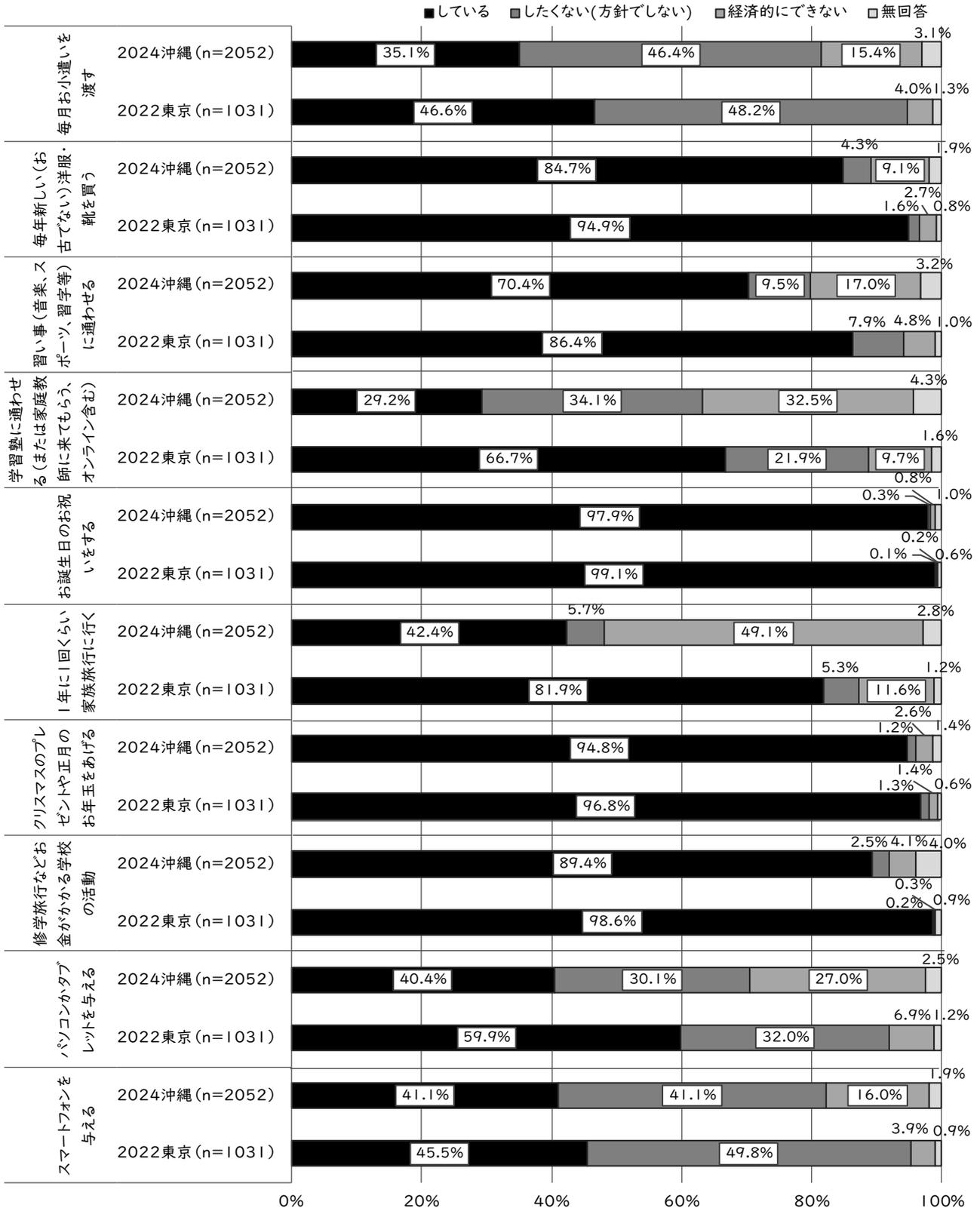


図5-2-14【中2保護者】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか

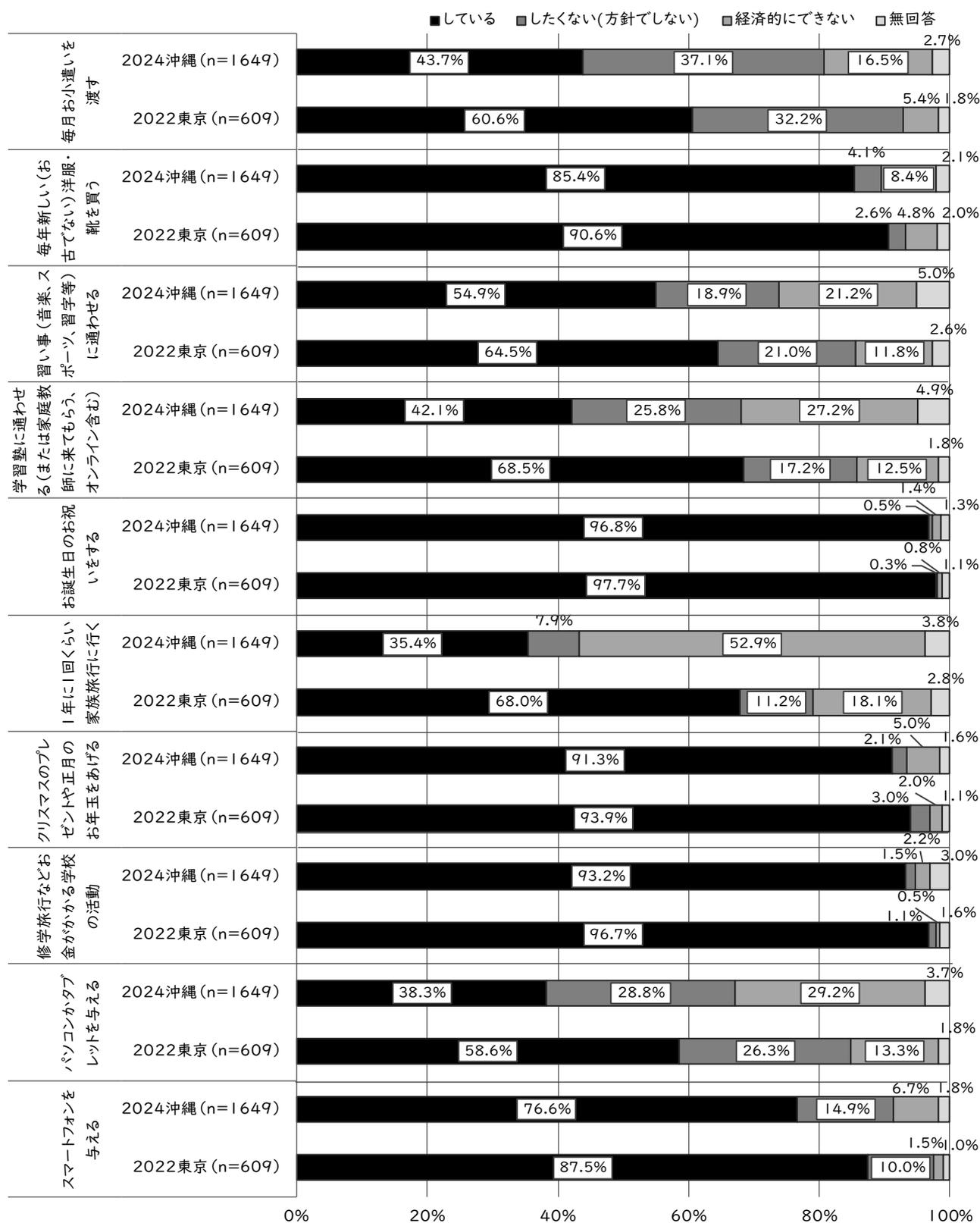


図5-3-1から図5-3-5は、こどもの体験について、保護者がこどもにさせてあげたいが経済的な理由などからそれをできない状況について見えています。

保護者が過去1年間で「海水浴に行く」「博物館・科学館・美術館などに行く」「キャンプやバーベキューに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」「遊園地やテーマパークに行く」体験をこどもと共にできているかを尋ねました。時間の制約でできない場合などもあることから、「ある」「ない(金銭的な理由で)」「ない(時間の制約で)」「ない(その他の理由で)」という4つの選択肢を示しました。

経済状況別に見ると、3つの学年ともに、すべての項目で統計的に有意差がありました。所得が低い世帯ほど、体験が「ある」という割合は低く、経済的な理由(「ない(金銭的な理由で)」)でできないと回答した割合は高くなっていました。

さらに、時間的な理由(「ない(時間の制約で)」)に注目すると、経済的な状況による差があまりないことも推察できました。

図5-3-1 【小1・小5・中2保護者】海水浴に行く

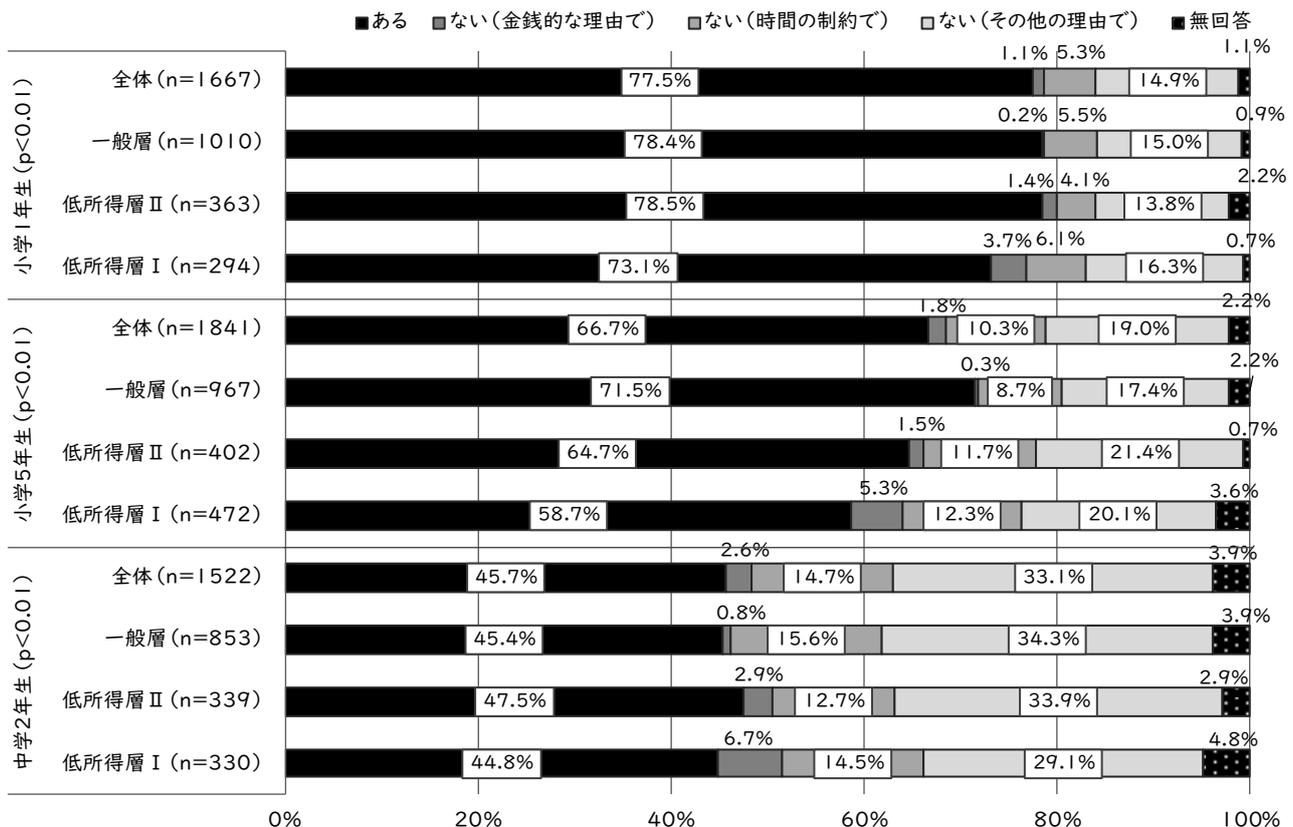


図5-3-2 【小1・小5・中2保護者】博物館・科学館・美術館などに行く

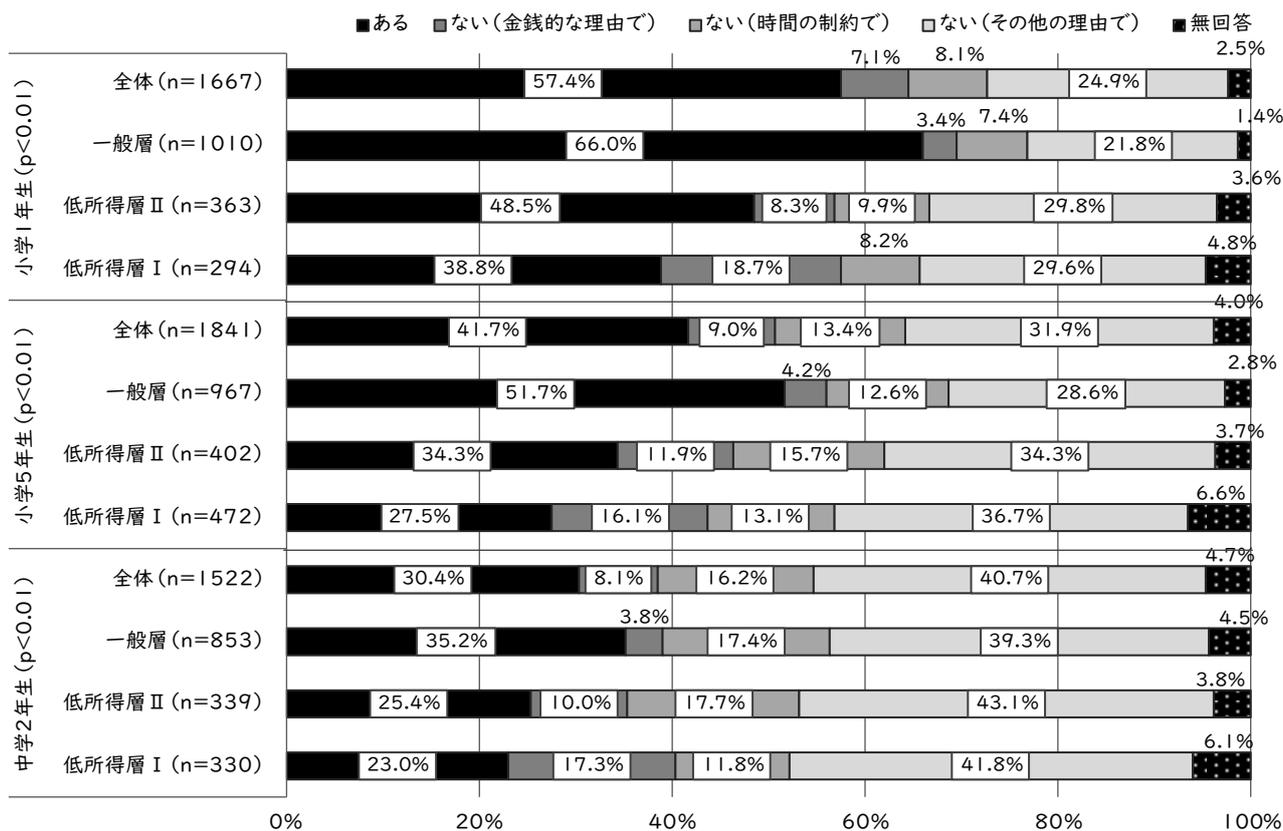


図5-3-3 【小1・小5・中2保護者】キャンプやバーベキューに行く

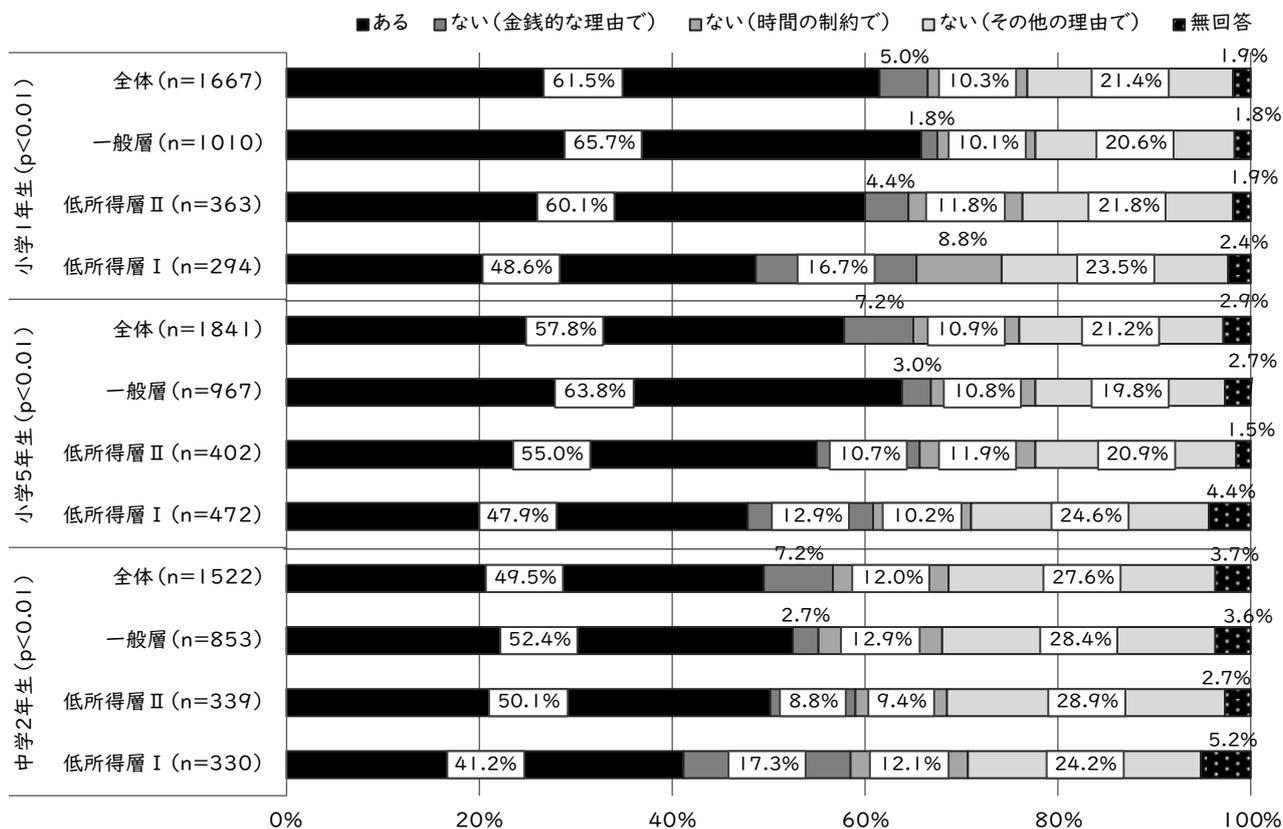


図5-3-4 【小1・小5・中2保護者】スポーツ観戦や劇場に行く

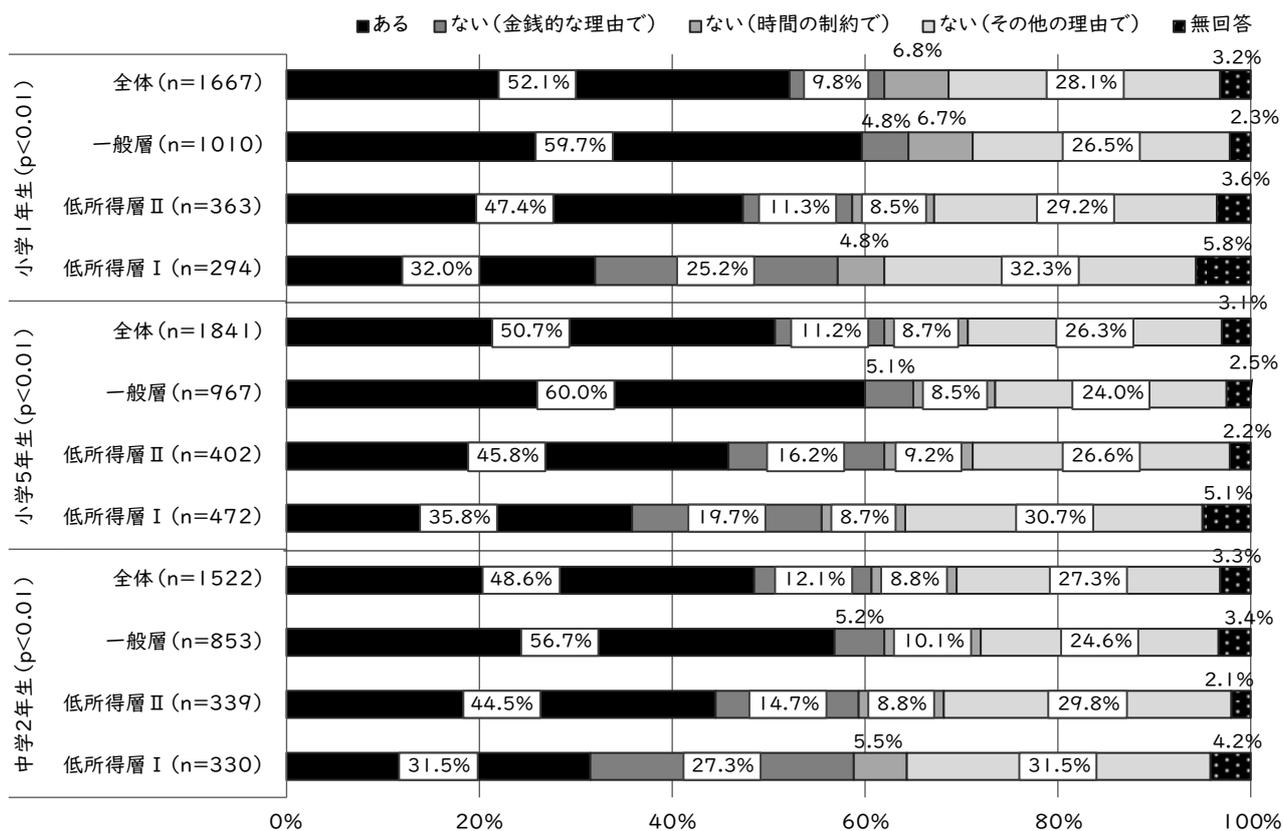
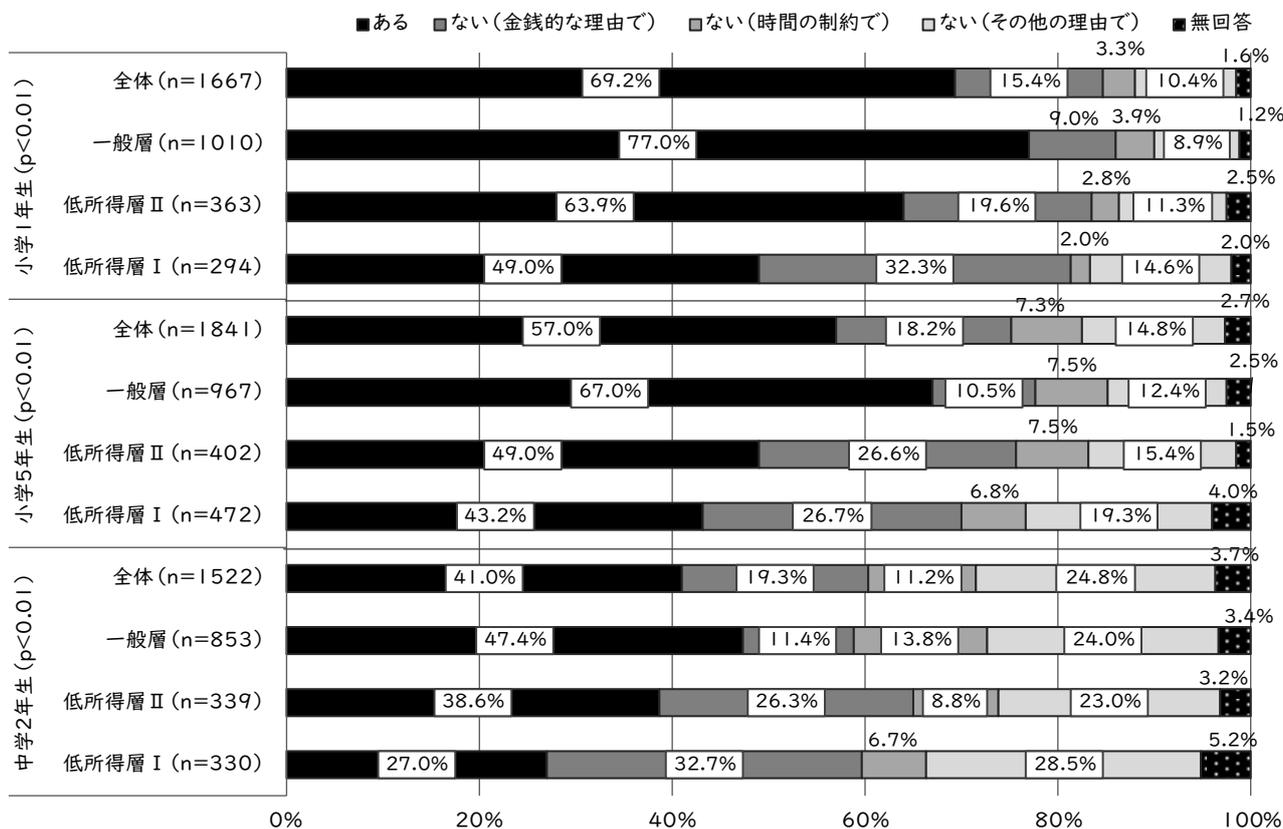


図5-3-5 【小1・小5・中2保護者】遊園地やテーマパークに行く



東京都調査との比較

同一の5項目について、2022年東京都調査との比較を行っています(小学1年生を除く)。

「海水浴に行く」「キャンプやバーベキューに行く」の2項目と、「博物館・科学館・美術館などに行く」「スポーツ観戦や劇場に行く」「遊園地やテーマパークに行く」の3項目で異なる傾向が見えました。

前者については、沖縄県の方が東京都と比較して、体験が「ある」割合が高くなっていました。

後者では、沖縄県の方が東京都と比較して、体験が「ある」割合が低く、経済的な理由でできない割合が高いことが見えました。

また、時間的な理由(「ない(時間の制約で)」)については、どの項目も沖縄県と東京都で差があまりないことも推察できました。

図5-3-6 【小5保護者】過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか

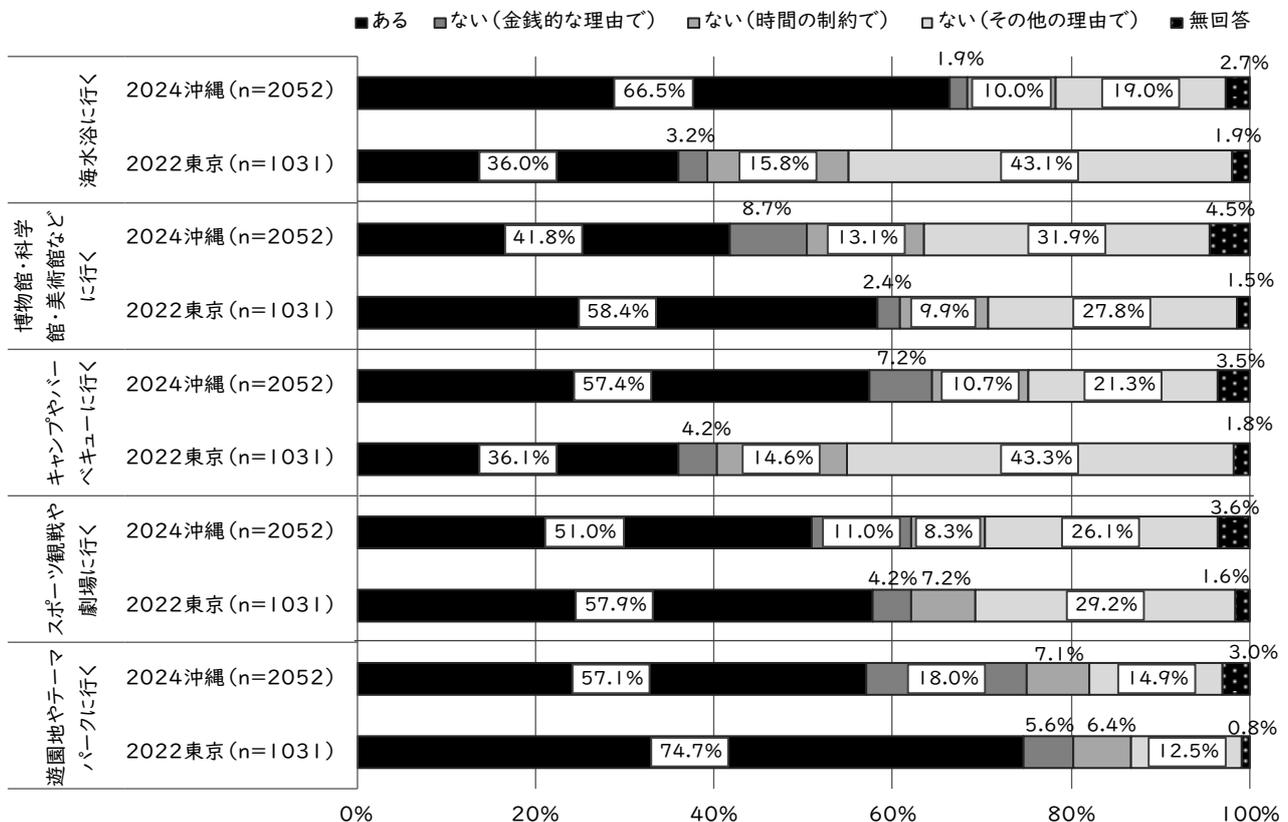
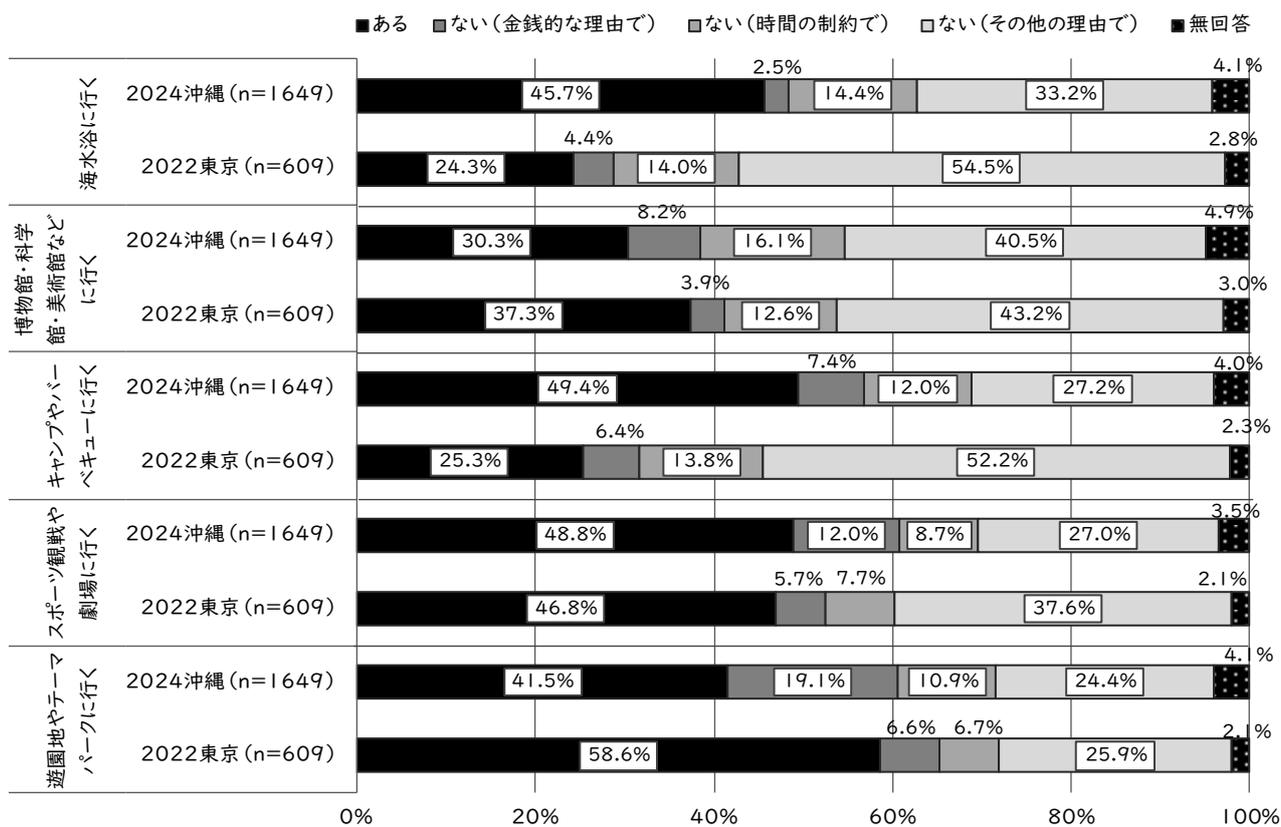


図5-3-7【中2保護者】過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか



4 所有物の欠如 — 保護者の視点

図5-4-1から図5-4-3は、保護者に対して、家庭において広く普及していると考えられる物品について、経済的な理由で所有していないものがあるか尋ねた結果です。所有していない割合を示しています。さらに「急な出費のための貯金(5万円以上)」についてもこの質問では尋ねており、その結果も示しています。

経済状況別に見ると、3つの学年でともに似た傾向がありました。「あてはまるものはない」「無回答」を除くと、すべての項目で低所得世帯が所有していない割合は高くなり、統計的に有意な差が見られました。一般層と低所得層Ⅰの間で、3つの学年ともに大きな差があるものとしては、「インターネットにつながるパソコン」と「急な出費のための貯金」で、前者は約20~30ポイントの差、後者は約40ポイントの差がありました。「インターネットにつながるパソコン」は、低所得層Ⅰでは、小学1年生、小学5年生、中学2年生で、それぞれ41.5%、34.5%、36.4%が所有しておらず、「急な出費のための貯金」は、それぞれ54.4%、51.7%、55.5%と半数以上に及んでいます。

図5-4-1 【小1保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

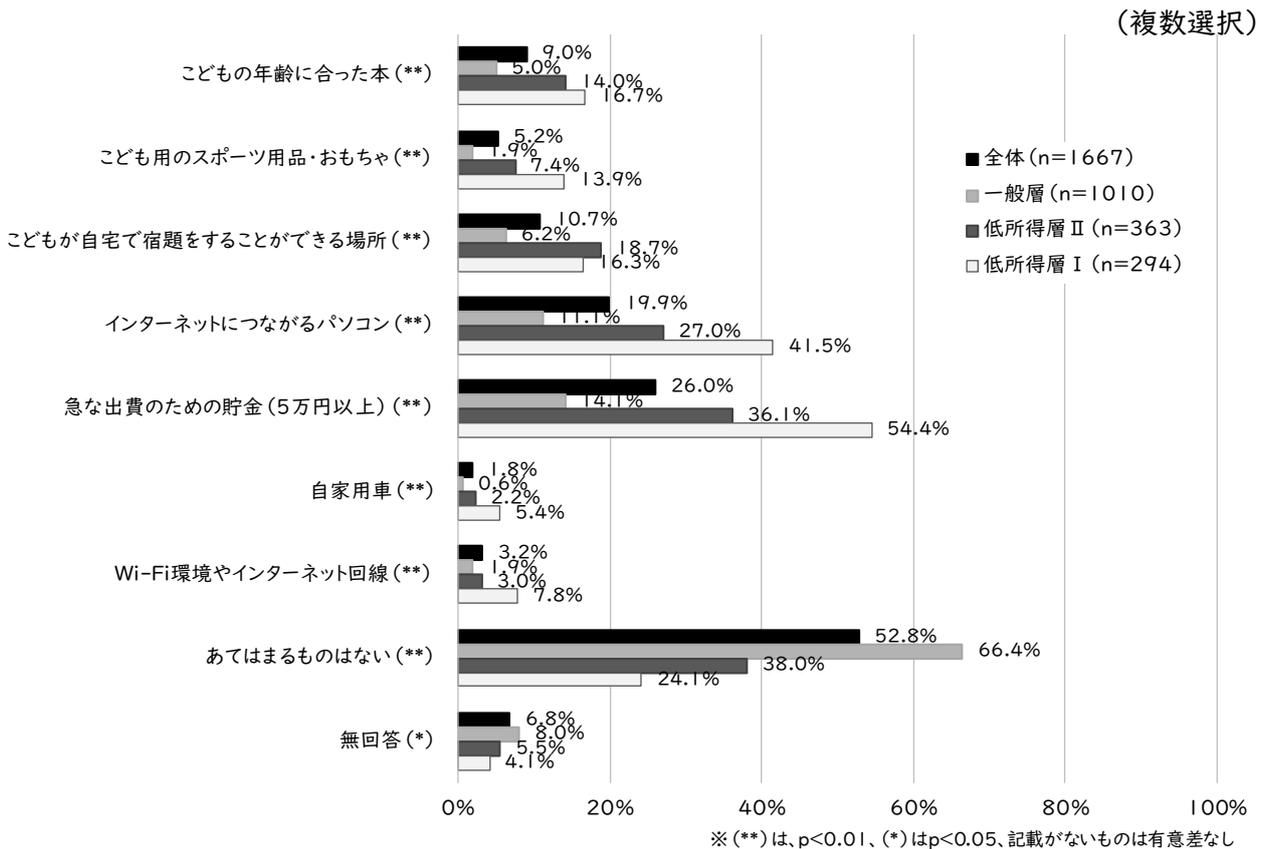


図5-4-2 【小5保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

(複数選択)

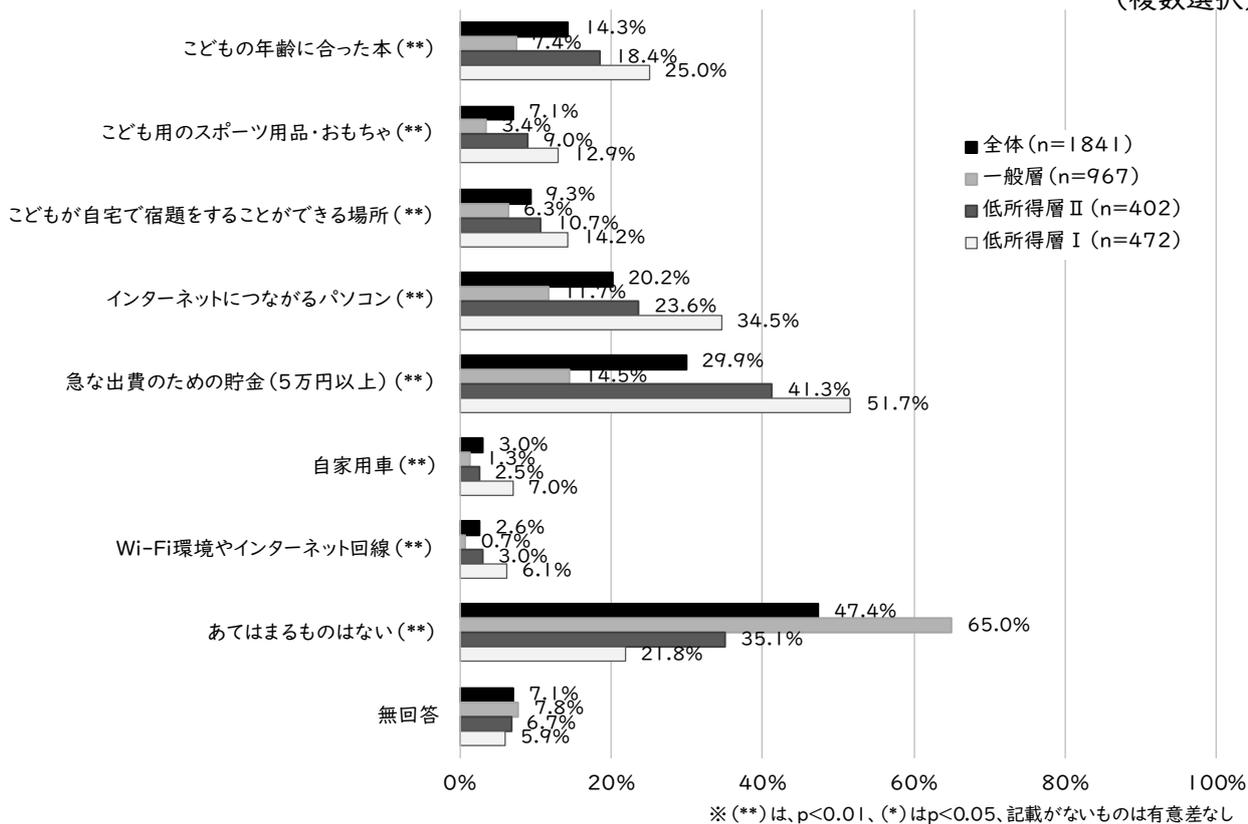
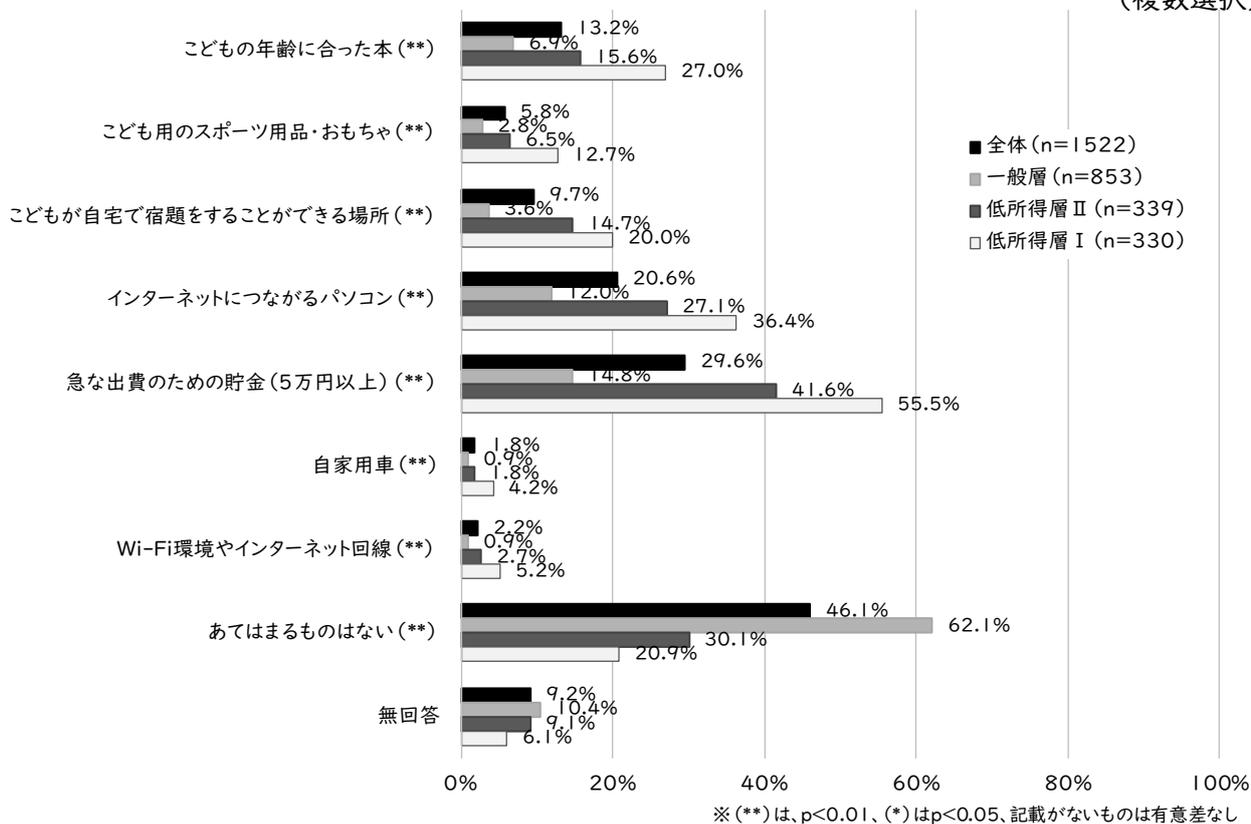


図5-4-3 【中2保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

(複数選択)



経年比較

図5-4-4と図5-4-5では、2021年沖縄県調査と同一の項目について経年比較をしています(小学1年生を除く)。

ほとんどの項目で、「ない」割合が増加している傾向があることが推察できます。これについては、若干、「無回答」の割合が減少していることが影響していると考えられますが、家庭内の物品については全体的に若干の悪化傾向が見えると言えるでしょう。「考察」欄で論述しています。

図5-4-4【小5保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

(複数選択)

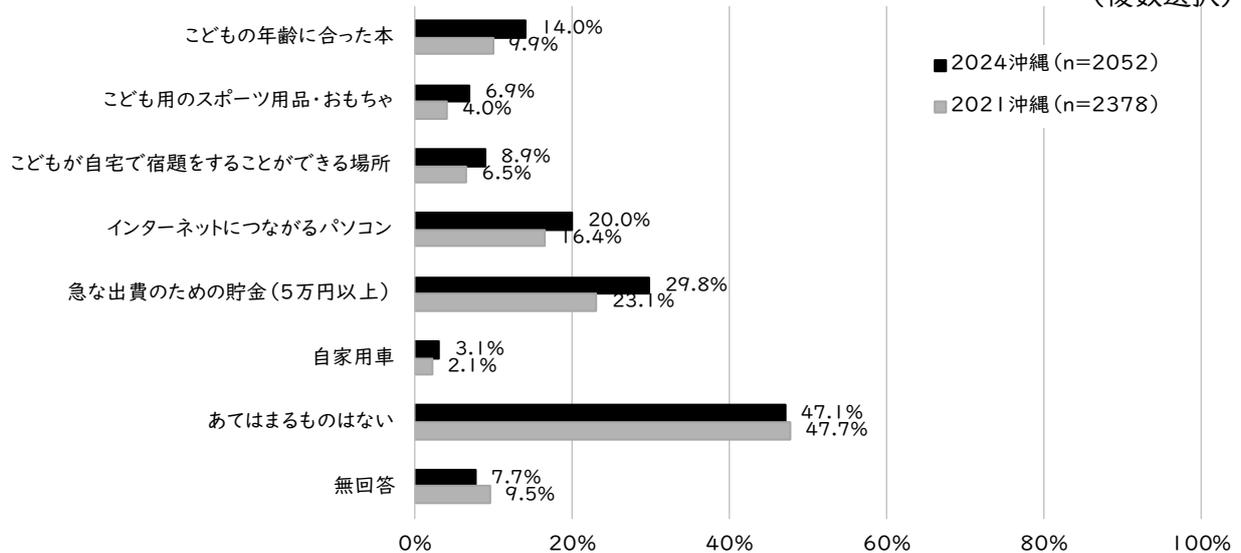
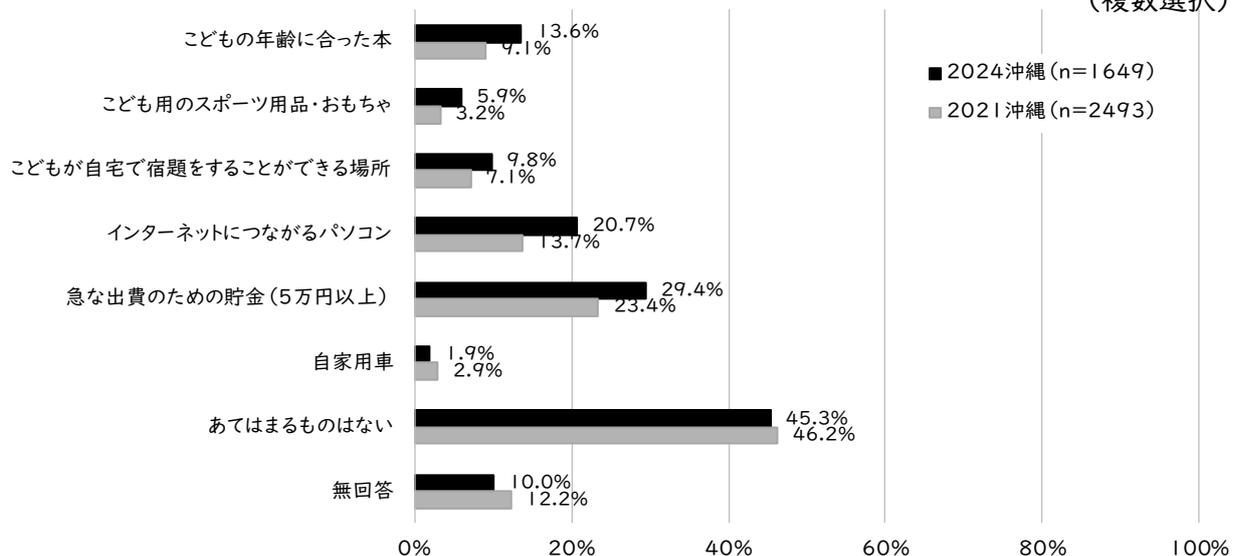


図5-4-5【中2保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

(複数選択)



東京都調査との比較

同一の6項目について、2022年東京都調査との比較を行っています(小学1年生を除く)。多くの項目で、沖縄県の方が東京都と比較して、「ない」割合が高いことが見えました。一方で、「自家用車」については、顕著に沖縄県の方が「ない」割合が低いことがわかりました。

図5-4-6 【小5保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

(複数選択)

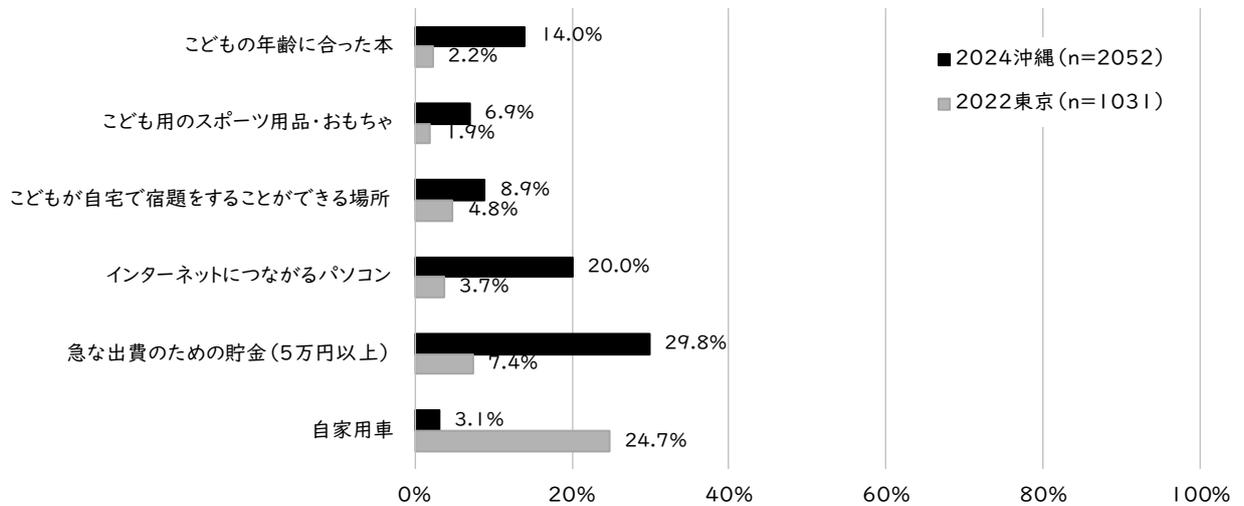
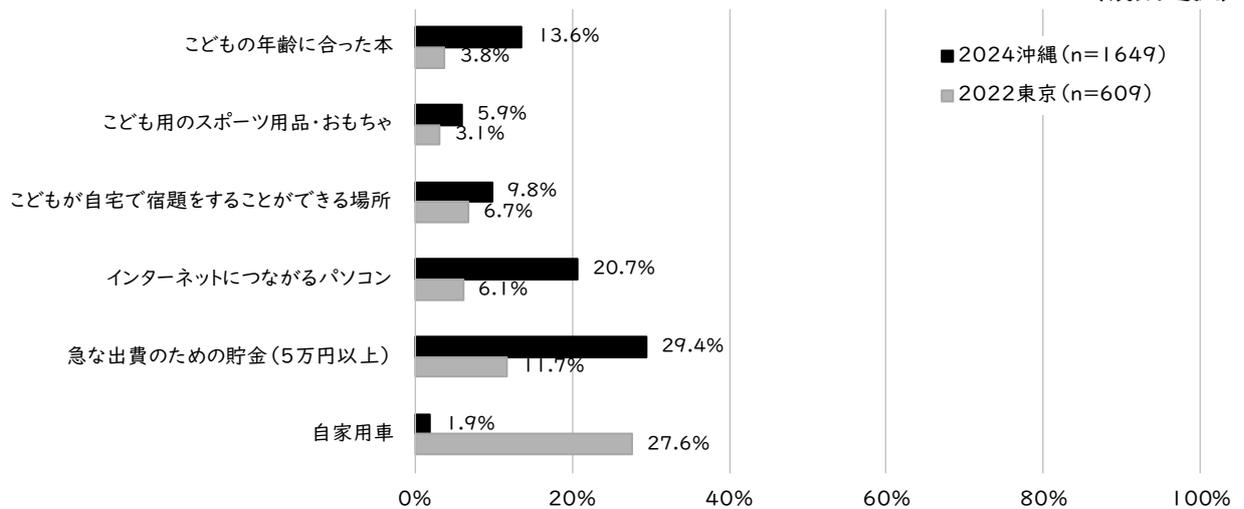


図5-4-7 【中2保護者】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか

(複数選択)



第4節までは、児童・生徒の所有物や経験について、こどもと保護者の視点から分析しました。本節では、保護者自身の所有物や経験について保護者の視点から分析しています。自発的に所有（経験）したくないと考えている保護者もいるため、「ある（できる）」「金銭的にできない」だけでなく、「必要でない（いらぬ）」を加えた、3つの選択肢を示しました。図5-5-1から図5-5-6までの6項目になります。

経済状況別に見ると、3つの学年、またすべての項目で、所得が低い世帯ほど「ある（できる）」割合は低く、「金銭的にできない」割合や「必要でない（いらぬ）」は高くなる傾向が見え、統計的に有意な差が見られました。また、全体的に、児童・生徒の所有物よりも経済格差が大きいことが推察できました。

一般層と低所得層Ⅰの間の「ある」割合の差に注目すると、「自宅で自分が使えるインターネット環境」を除く5項目では、すべての学年で20ポイント以上の差が見られました（「自宅で自分が使えるインターネット環境」も約10ポイントの差があります）。特に、「自分の趣味やレジャーのためのお金」ではすべての学年で40ポイント以上、「自分自身のために使うことができるお金（月5,000円）」「古くなった服を買い替える」「友人や家族と1か月に1回ほど外食する」（小学5年生を除く）では同じく30ポイント以上の差がありました。

また、一般層と低所得層Ⅰの間の「金銭的にできない」割合の差も大きいものがほとんどと言えます。すべての学年で30ポイント以上の差があるのは、「自分の趣味やレジャーのためのお金」であり、同じく20ポイント以上なのは、「自分自身のために使うことができるお金（月5,000円）」「古くなった服を買い替える」「友人や家族と1か月に1回ほど外食する」でした。

また、「必要でない（いらぬ）」については、第1節の児童・生徒の場合は一部の項目で経済的な格差が目立たないことも見られましたが、保護者の所有物に関しては、どの項目も経済格差がはっきり見られました。「必要でない（いらぬ）」における格差については、「考察」欄で検討を深めています。

図5-5-1 【小1・小5・中2保護者】自分自身のために使うことができるお金(月5,000円)

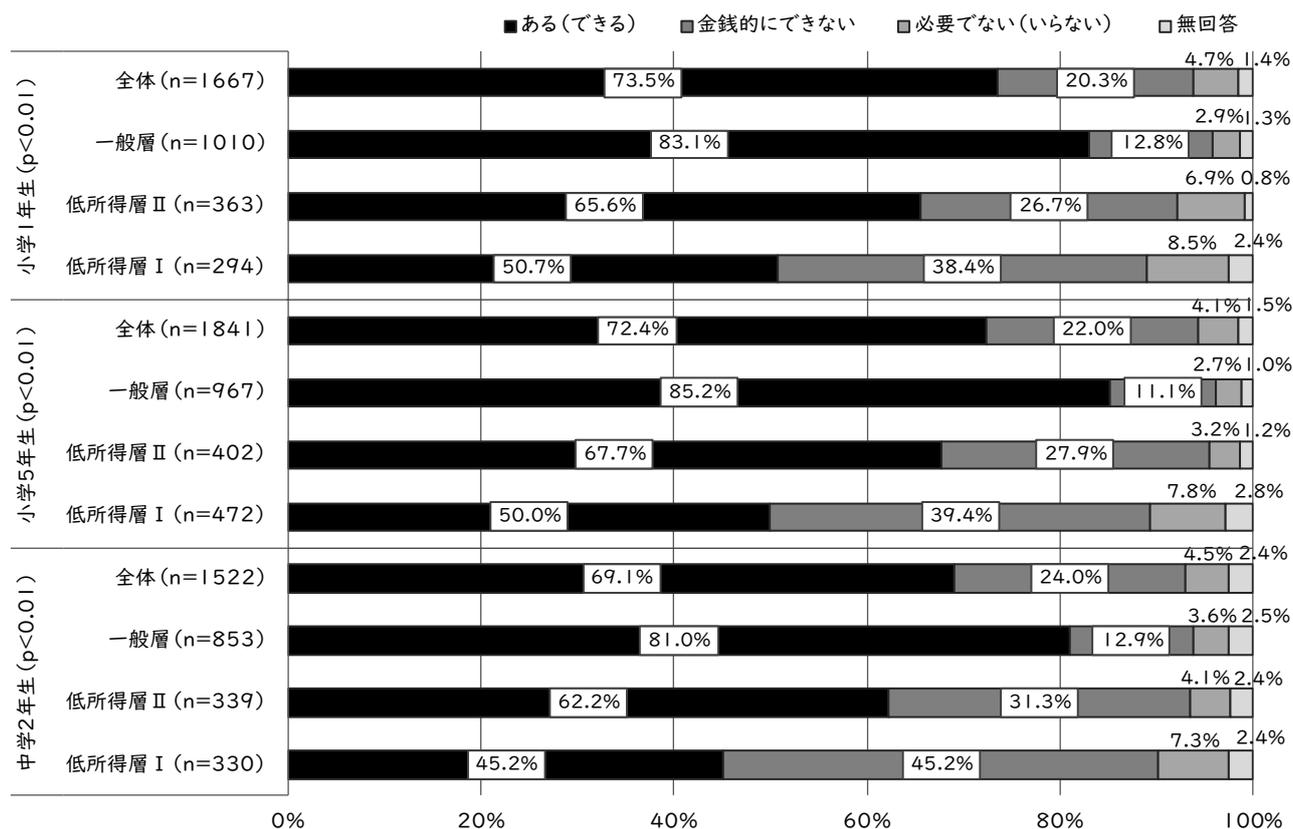


図5-5-2 【小1・小5・中2保護者】最低2足の靴

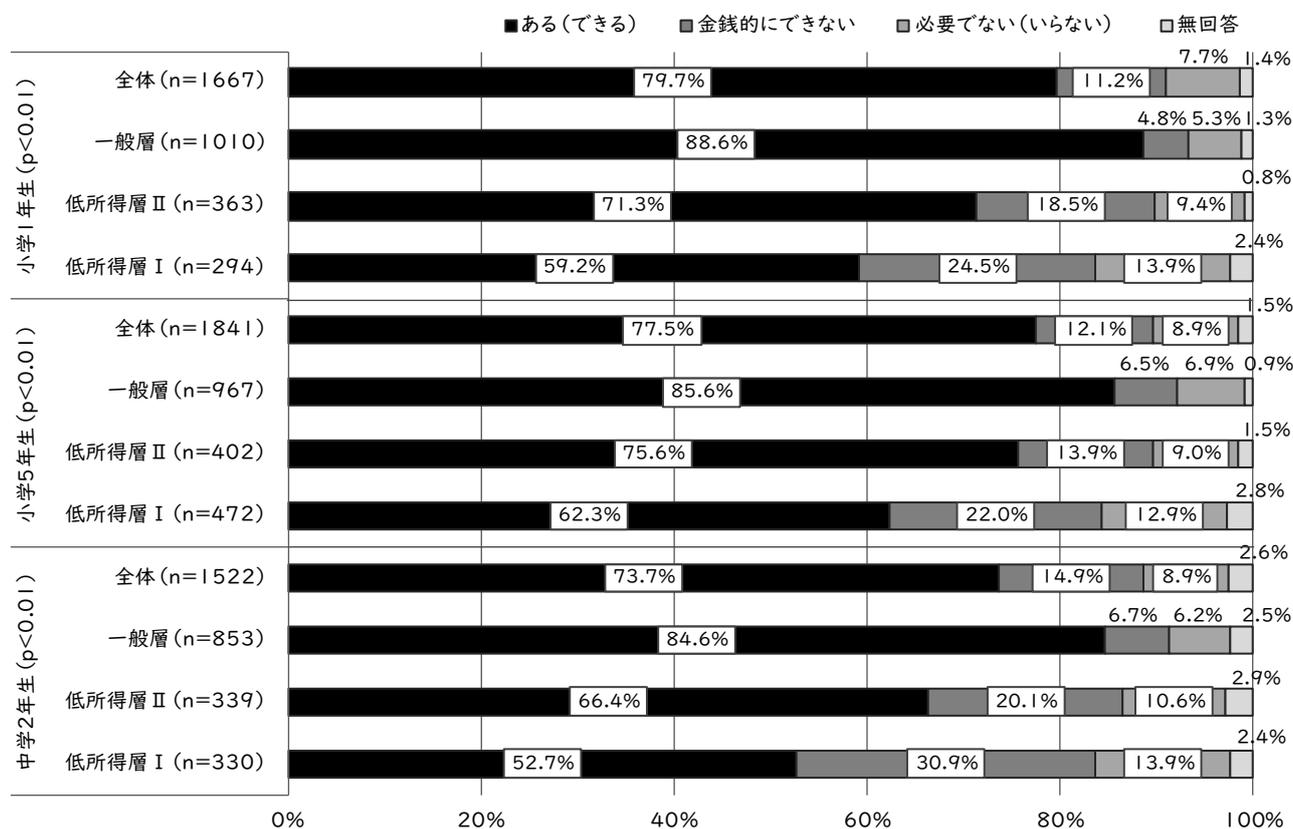


図5-5-3 【小1・小5・中2保護者】古くなった服を買い替える

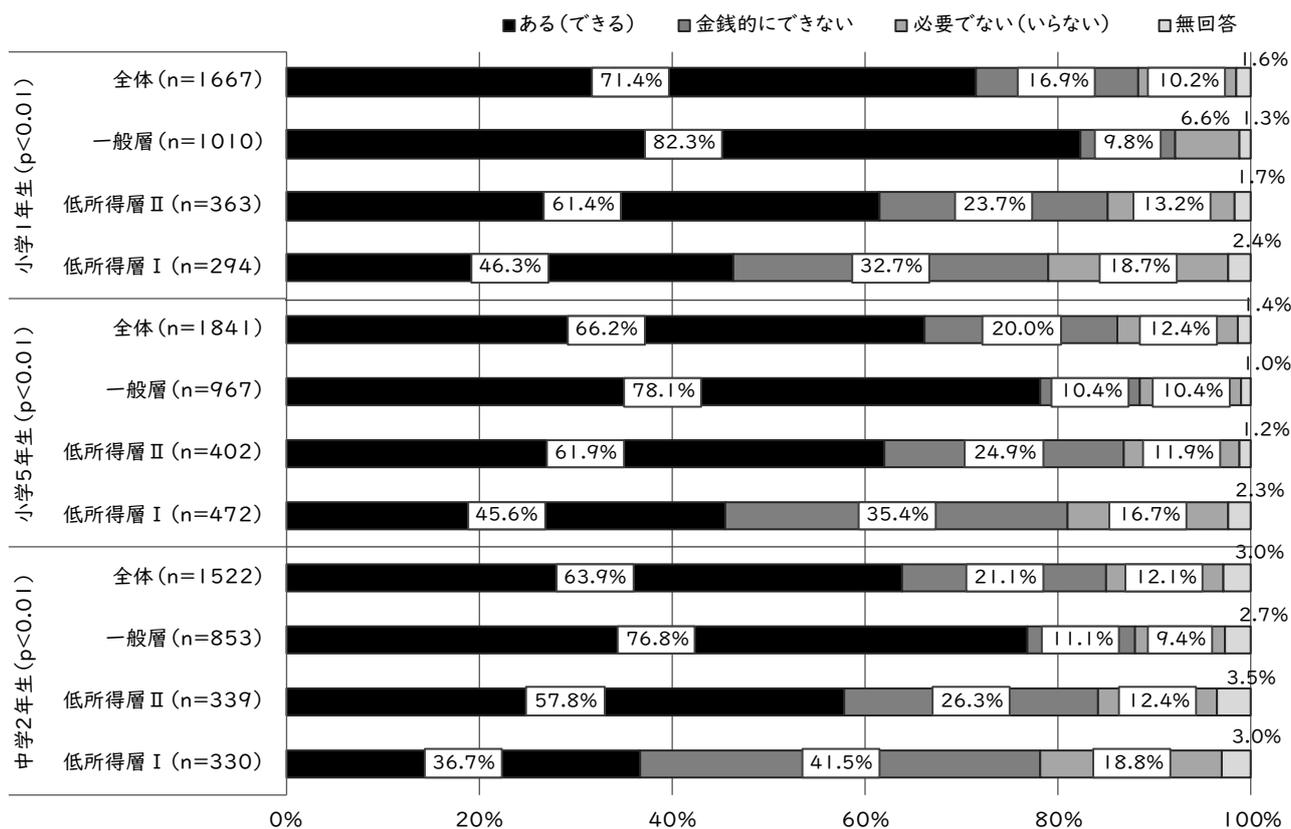


図5-5-4 【小1・小5・中2保護者】友人や家族と1か月に1回ほど外食する

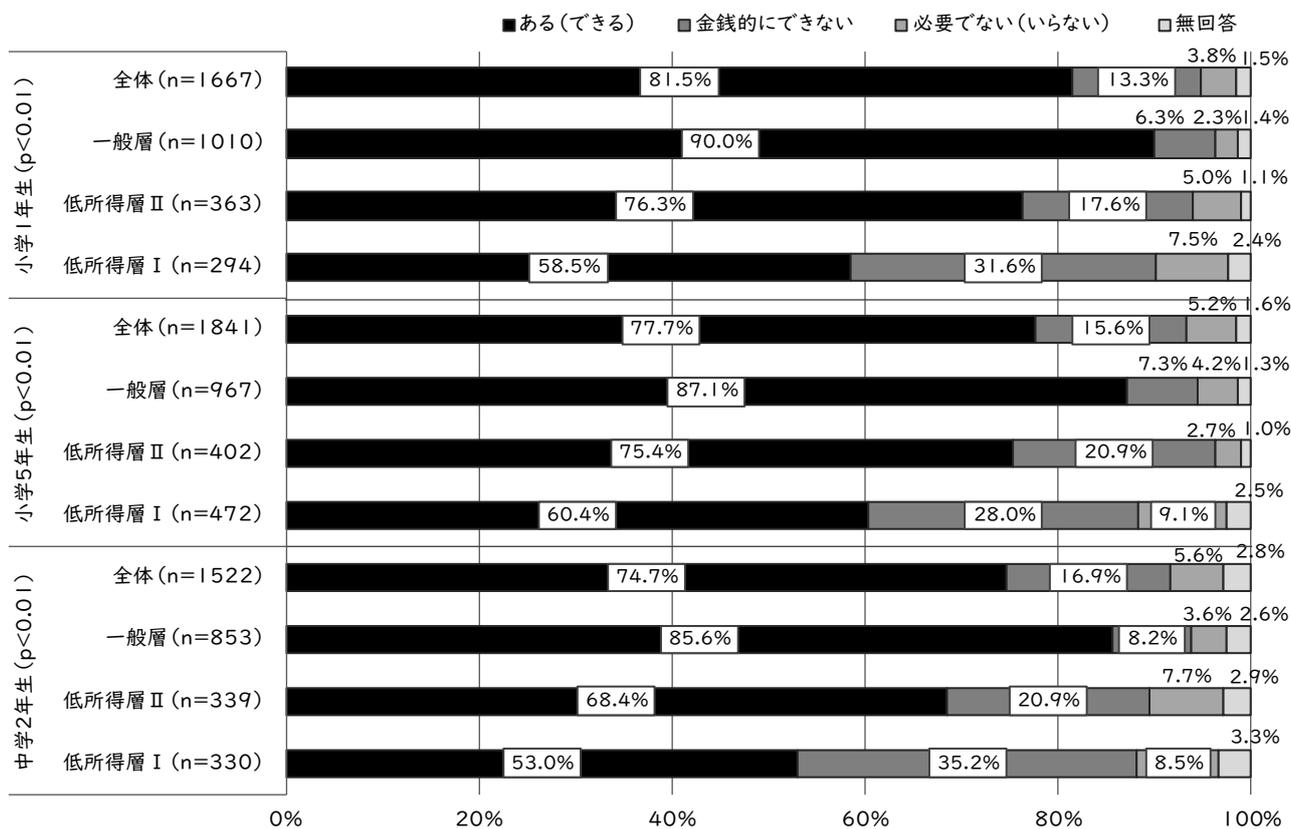


図5-5-5 【小1・小5・中2保護者】自宅で自分が使えるインターネット環境

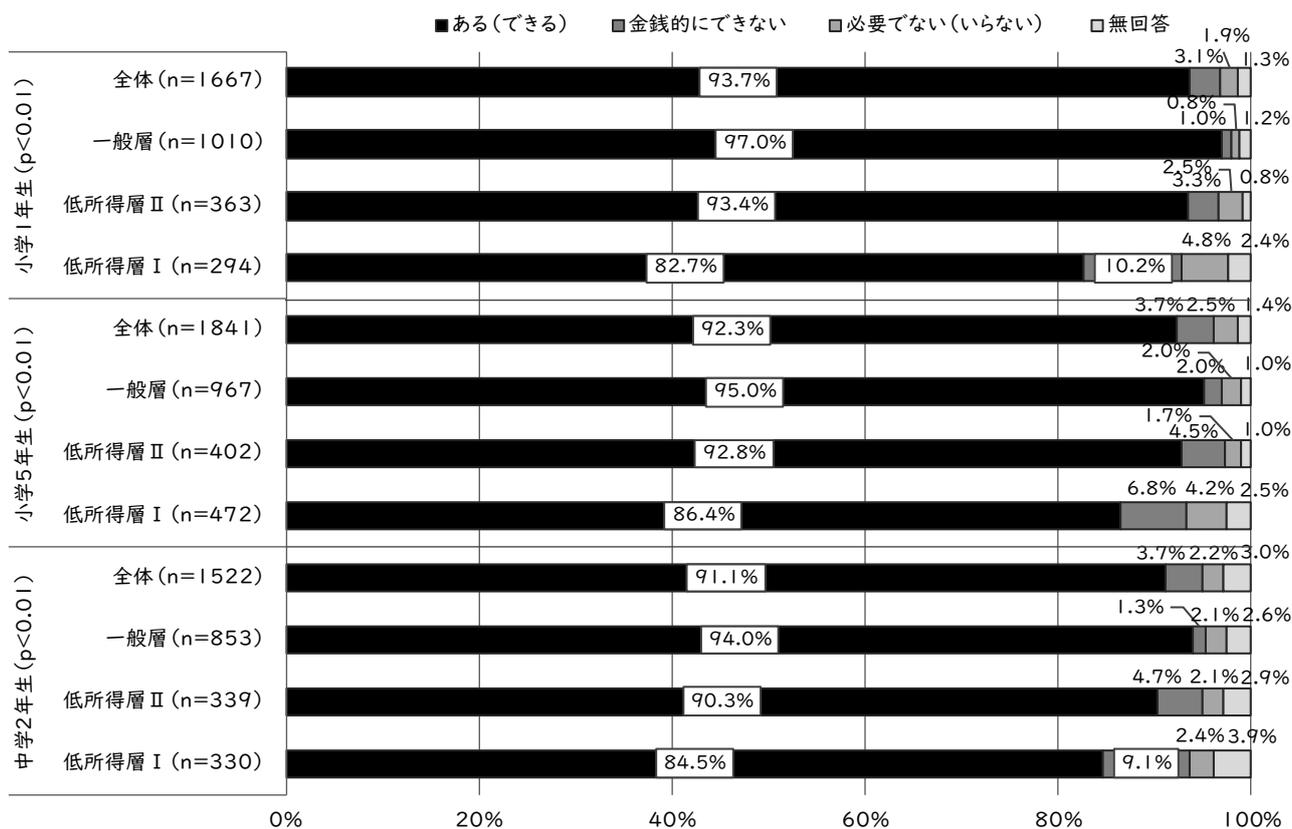
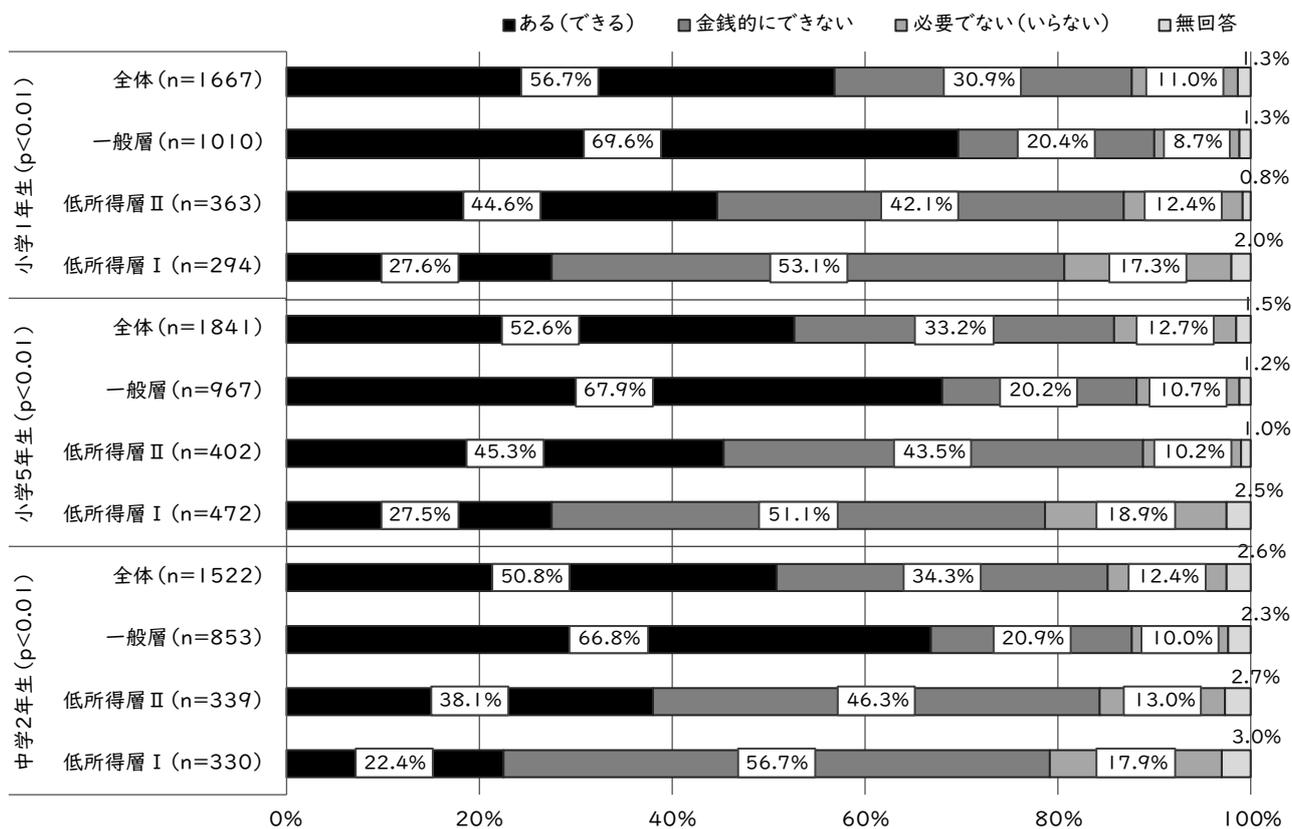


図5-5-6 【小1・小5・中2保護者】自分の趣味やレジャーのためのお金



東京都調査との比較

同一の6項目について、2022年東京都調査との比較を行っています(小学1年生を除く)。すべての項目で沖縄県の方が「ある(できる)」割合の低いことが見えました。一方で、「金銭的にできない」割合や「必要でない(いらない)」割合は沖縄県の方が高いことがわかりました。

図5-5-7【小5保護者】あなた自身には、自分が持っている(できる)以下のものがありますか

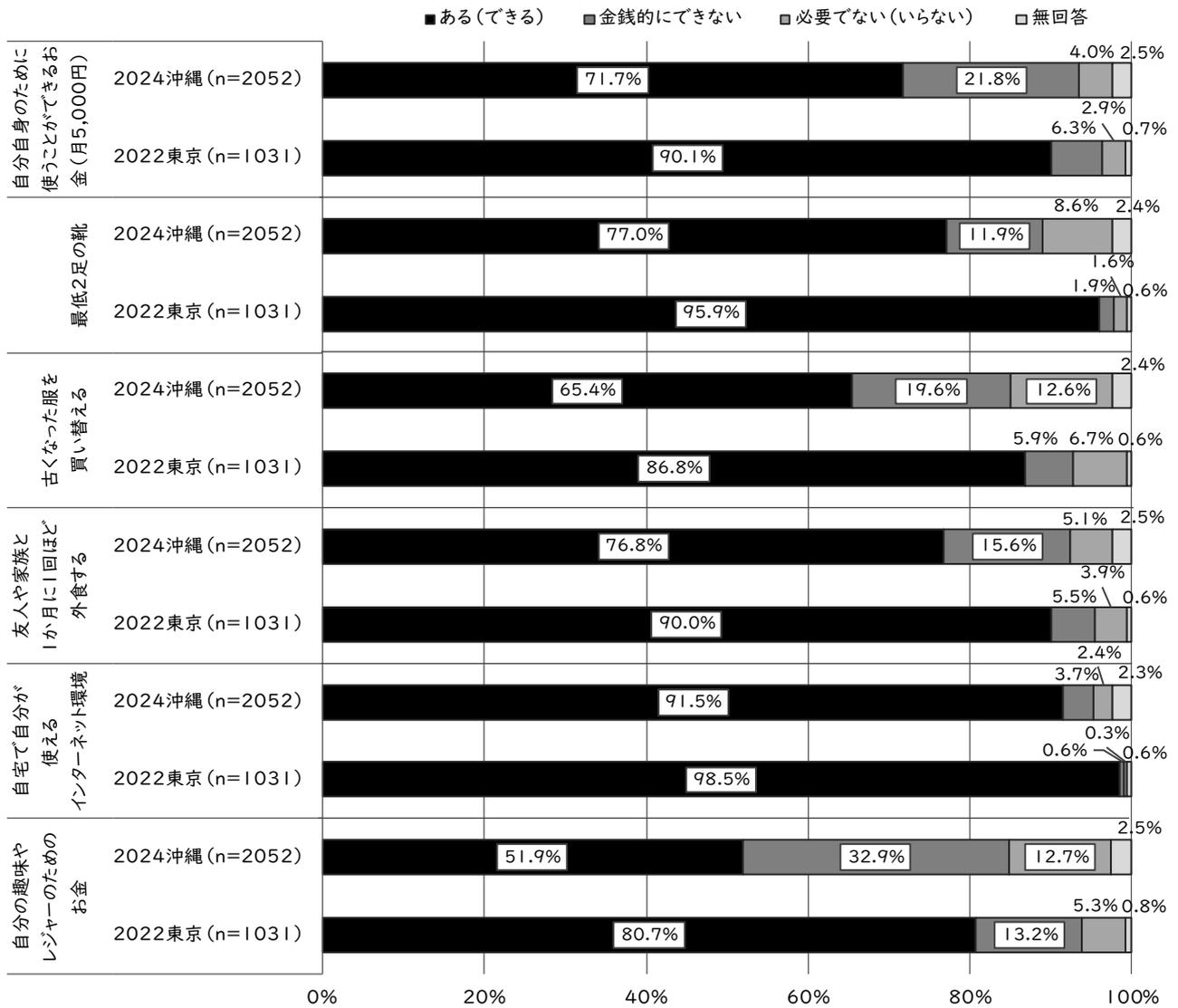
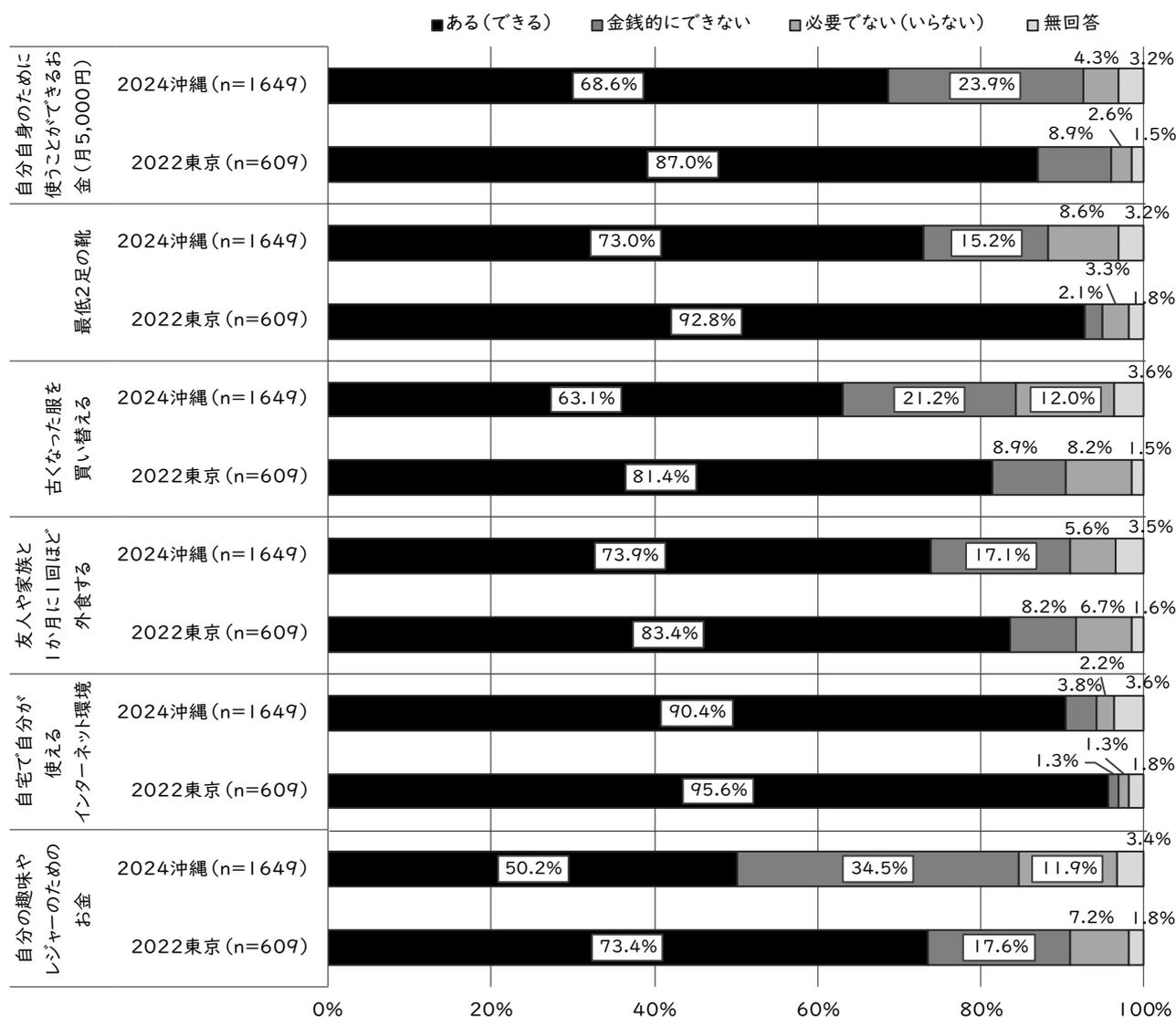


図5-5-8 【中2保護者】あなた自身には、自分が持っている(できる)以下のものがありますか



本章では、現在の日本において多くの児童・生徒が所有している物品、体験している事象等について、所有や経験の有無を主に分析しています。ここ数年注目されている、こどもの「体験格差」と深く関連のある分析と言えます。

第1節では、こども自身の視点から所有物について分析しています。第2節から第5節では保護者の視点から分析しています。第2節では、いくつかの物品について児童・生徒に購入できているか、第3節では、児童・生徒に特定の体験を提供できているか、第4節では家庭内の所有物の所有状況等について、それぞれ分析しています。第5節では、保護者自身の所有物の所有状況について分析をしています。

また、それぞれの節では、可能な場合、経年分析や2022年東京都調査との比較を行っています。

本章全体からは、大多数の児童・生徒が一般的に享受していると考えられる（または、享受するべきと一般の人が認識していると考えられる）経験や物品が欠如している児童・生徒の割合が、所得が低い世帯ほど高くなっており、厳しい状況を示す結果であったと言えます。

一方で、今回の調査分析では経年比較においては、若干改善があった点は存在しましたが、全体的に見れば3年間でほぼ変化がない、つまり所有物の点などは状況に好転は見られないことがうかがえました。

さらに言えば、悪化が見える指標もありました。図5-4-4と図5-4-5で、これらは保護者が世帯内に経済的理由のために欠如しているものを、いくつかの物品等の選択肢の中から選んでいただくものですが、小学5年生、中学2年生ともに「こどもの年齢に合った本」などほぼすべての物品でその割合が若干の増加をしていました。

特に、「急な出費のための貯金（5万円以上）」が「ない」割合は小学5年生で6.7ポイント、中学2年生で6.0ポイントと増加が目立つものでした。貯蓄は、将来のリスクに備えるために欠かせないものですし、それが無いのは保護者にとって非常に心もとない状態であり、保護者の不安感が高まっている可能性があり、気になる点です。こうした悪化は、本報告書の調査概要と第4章からわかるように、ここ数年の収入増加がありながら、物価の高騰などによって、世帯の生活状況は悪化している可能性の反映と言えるでしょう。

一方で、図5-4-4と図5-4-5については、少し異なる見方もできるかもしれません。図5-4-4と図5-4-5では、「あてはまるものはない」は経年でほぼ変わっていませんが（減少はほぼないが）、「無回答」は小学5年生・中学2年生ともに約2ポイントの減少がありました。ここ数年の世帯の収入増加によって、消費マインドが上昇していることが指摘されますが、こどもたちに必要なものに対する保護者の需要が高まることで、無回答が若干減り、購入したくても経済的にできないと考え始めた物品が増え始めている可能性はあるでしょう。

その一つの原因として、収入の増加だけでなく、コロナ禍の終焉もあるかもしれません。そのことを示すのが、図5-2-11と図5-2-12だと考えられます。二つの図からは、多くの項目で、「している」割合には大きな差はありませんでしたが、一方で、「したくない（方針でしない）」「経済的にできない」に注目すると、「1年に1回くらい家族旅行に行く」「学習塾に通わせる」などで、「したくない（方針でしない）」が減少し、「経済的にできない」が増えていました。これは、コロナ禍において、旅行や学習塾に通わせることを控えていた保護者のそれらへの需要意欲が増していることを示しているのではないのでしょうか。

ただ、図5-2-11と図5-2-12からは、旅行にしても学習塾にしても、「している」割合の増加はあまり見られないことにも留意すべきです。これは、図5-4-4と図5-4-5に関して、先述したように物価の高騰などによって、世帯の生活状況は悪化していることから、所有できない物品が増加していることと符合する点です。コロナ禍が終わり、社会全体の経済状況が好転する中で、保護者たちは、こどものために様々な物品を購入しようとしたり経験をさせたいと思いながら、物価上昇などのためそれを実現できていない場合が多いのではないのでしょうか。

東京都調査との比較では、ほとんどの物品で差が明確に見える場合が多いことがわかりました（旅行や海水浴など地理的な要因が影響をしているものもあります）。ここで確認しておかなければならないのは、こうした物品は、こどもにとっての贅沢品ではなく、通常の生活をする上で必要とされるものばかりだということです。さらに言えば、単に必要なものを享受できないという現在の時点のニーズが満たされていないというだけでなく、加えてこどもの成長・発達の機会さえも奪ってしまう可能性がある物品も含まれているという点にも留意するべきでしょう。こどもの学習習慣などにも影響を与えている場合があると考えられるのです。特に、本報告書の第3章でも指摘される点ですが、ここ数年こどもの体験格差が注目を浴びており、教育機会だけでなく、様々な文化的体験、情緒を豊かにする機会などにも制限を受けているこどもたちの存在が社会的に明らかにされています。

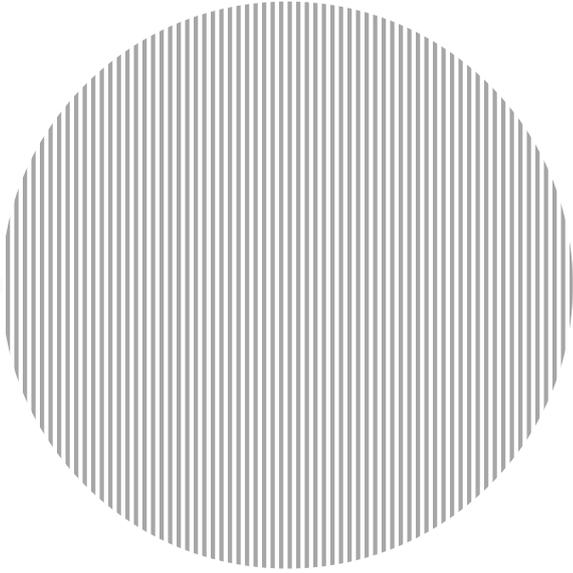
そうした意味では、先述した低所得世帯のこどもほど、経験や物品が欠如している点、また東京都調査との差が顕著に見えたことは、こどもの権利保障という観点から解消に向けて検討していく必要があるのではないのでしょうか。

特に、2023年にこども基本法が施行された現時点では、この問題についてはより積極的な解決が求められています。こども基本法第3条では「全てのこどもについて、個人として尊重され、その基本的人権が保障されるとともに、差別的取扱いを受けることがないようにすること」と規定されていますが、これは子どもの権利条約の4つの原則の一つ、「差別の禁止」を反映したものとされます。「差別の禁止」には、人権や国籍、障害に加え、経済状況における差別も含んでいます。そうした意味では、差別の禁止という視点からも物品の所持や経験の欠如を埋める社会的な努力が求められているのだと考えられます。

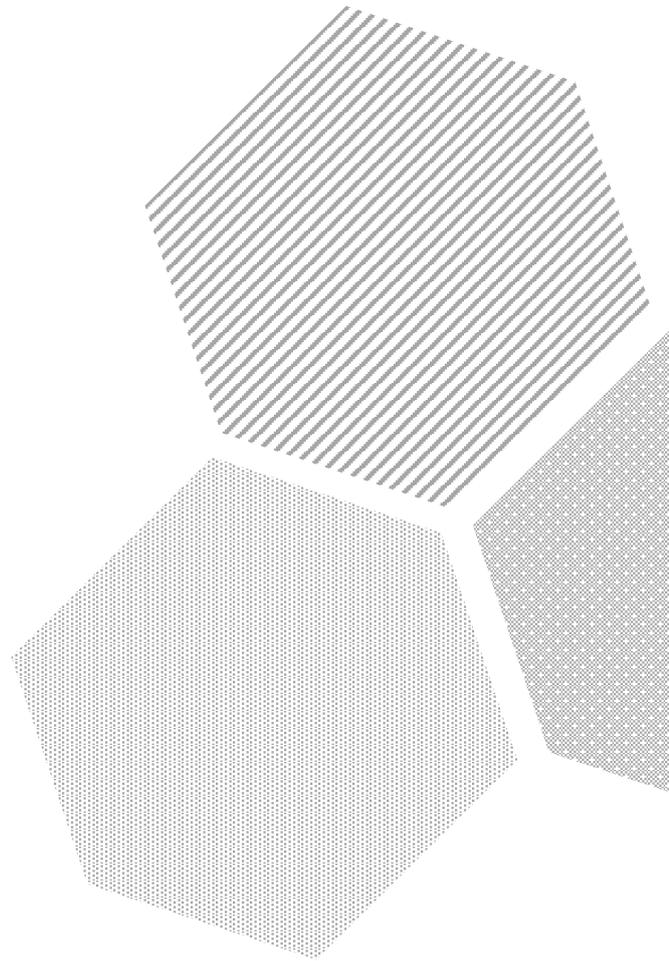
保護者自身の所有物について見てみると、こどもたち以上に経済的な格差が顕著に目立つ結果でした。さらには、「必要でない(いらぬ)」についても、どの項目も経済的な格差がはっきり見え、所得が低い世帯ほど「必要でない」と考える割合が高くなっています。これは、低所得層の保護者が所持したり経験することを望んでいないというよりも、むしろ世帯全体の経済状況を自ら顧みて、あきらめや自分の希望を抑えようと我慢しようとする保護者の気持ちが反映されていると考えられないのでしょうか。

経済的な支援や時間的余裕があれば、低所得層の保護者の多くはこどもが必要とするものを購入したり用意しようとするでしょう。ただその場合も、保護者は自分にとっての必需品は後回しにする場合も多いことを示唆するものと言えるでしょう。

そうした意味で、本章では、こどもの権利だけでなく、子育てをする保護者の権利の保障という観点からも改善すべき大きな問題が示されたものと言えます。



第 6 章 制度等の利用状況

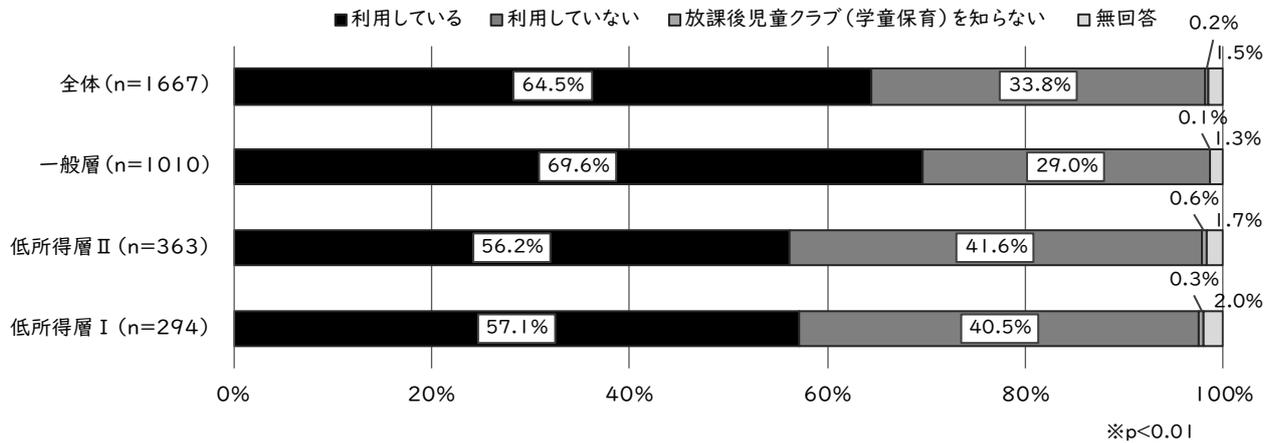


放課後児童クラブの利用（小学1年生保護者）

図6-1-1は、小学1年生の保護者に、放課後児童クラブ（以下、学童保育）の利用状況について尋ねた結果を経済状況別に分析したものです。「利用している」割合は、低所得層Ⅱが56.2%と最も低く、次いで低所得層Ⅰが57.1%、一般層が69.6%となりました。

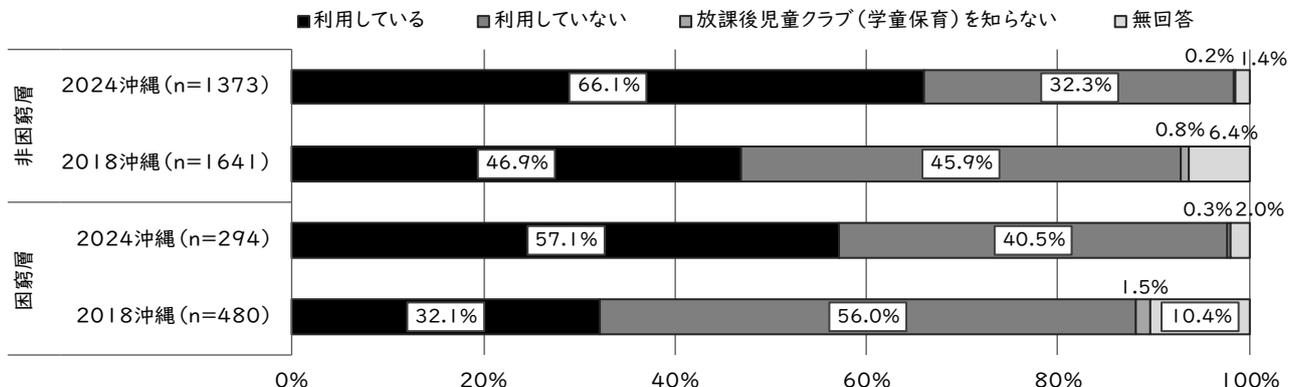
図6-1-2は、2018年沖縄県調査と経済状況別に経年比較したものです。「利用している」割合は、非困窮層（貧困線以上の低所得層Ⅱと一般層）で19.2ポイント、困窮層（低所得層Ⅰに該当）で25.0ポイント増加しており、非困窮層と困窮層の差も、2018年の14.8ポイント差から2024年には9.0ポイント差へと縮小していました。ただし、学童保育の利用においては、依然として経済状況によって差があると言えます。

図6-1-1 【小1保護者】お子さんは現在、放課後児童クラブ（以下、学童保育）を利用していますか



経年比較

図6-1-2 【小1保護者】お子さんは現在、放課後児童クラブ（以下、学童保育）を利用していますか



※「非困窮層」「困窮層」の2群で検定を行った。2018年沖縄県調査は、p<0.01。2024年沖縄県調査は、p<0.05

利用している学童保育の1か月あたりの利用料と利用料の負担感

学童保育を「利用している」と回答した方に、学童保育の1か月あたりの利用料と負担感について尋ねました。その結果が、図6-1-3と図6-1-4になります。

利用料について見ると(図6-1-3)、全体では「10,000～12,000円未満」が34.0%と最も多くなっています。経済状況別に見ると、低所得層ほど利用料が低くなっており、6,000円未満の割合(「2,000円未満」「2,000～4,000円未満」「4,000～6,000円未満」を合わせた割合)は、一般層で6.9%、低所得層Ⅱで14.7%、低所得層Ⅰで38.0%となっています。

利用料の負担感について見てみると(図6-1-4)、「とても負担に感じている」と「少し負担に感じている」を合わせた割合は全体で70.6%となっています。同様に経済状況別で見ると、低所得層Ⅱが77.4%と最も高く、次いで低所得層Ⅰで70.9%、一般層で68.6%となっています。

図6-1-3 【小1保護者】現在利用している学童保育の1か月あたりの利用料(おやつ代等すべて含む)を教えてください

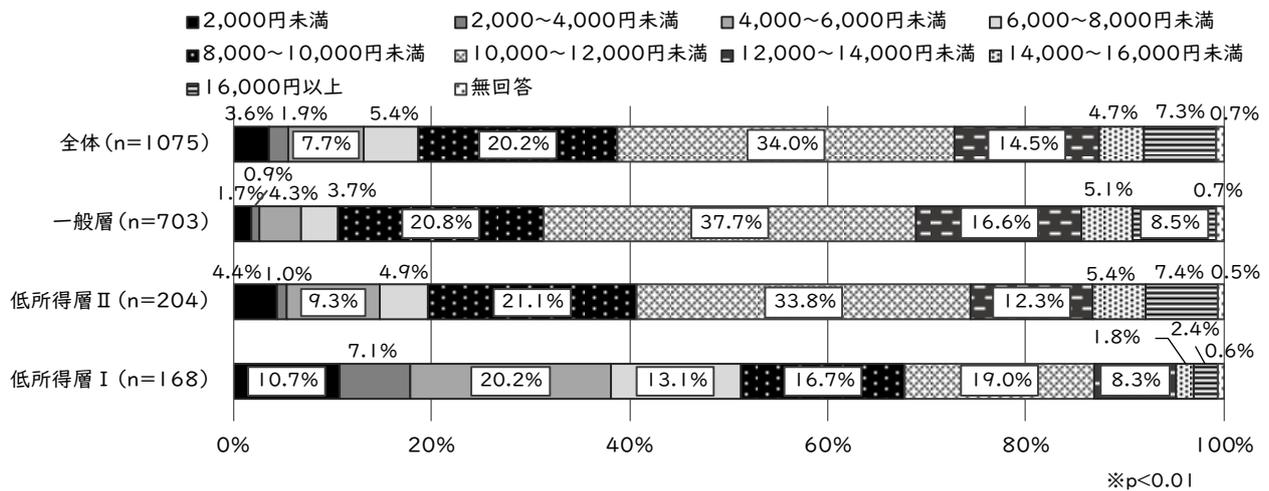
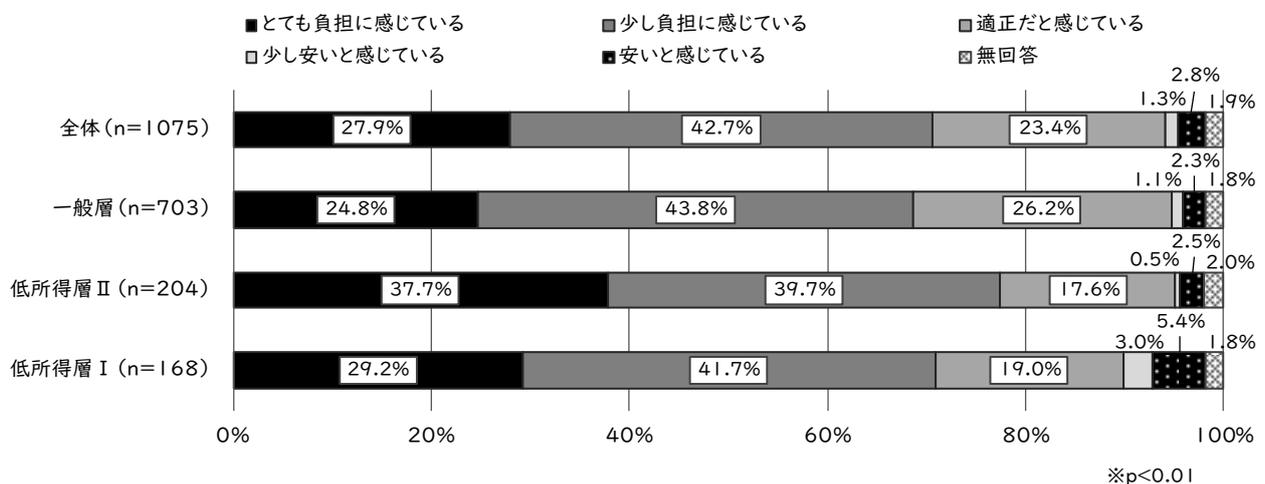


図6-1-4 【小1保護者】利用料についてどうお感じですか



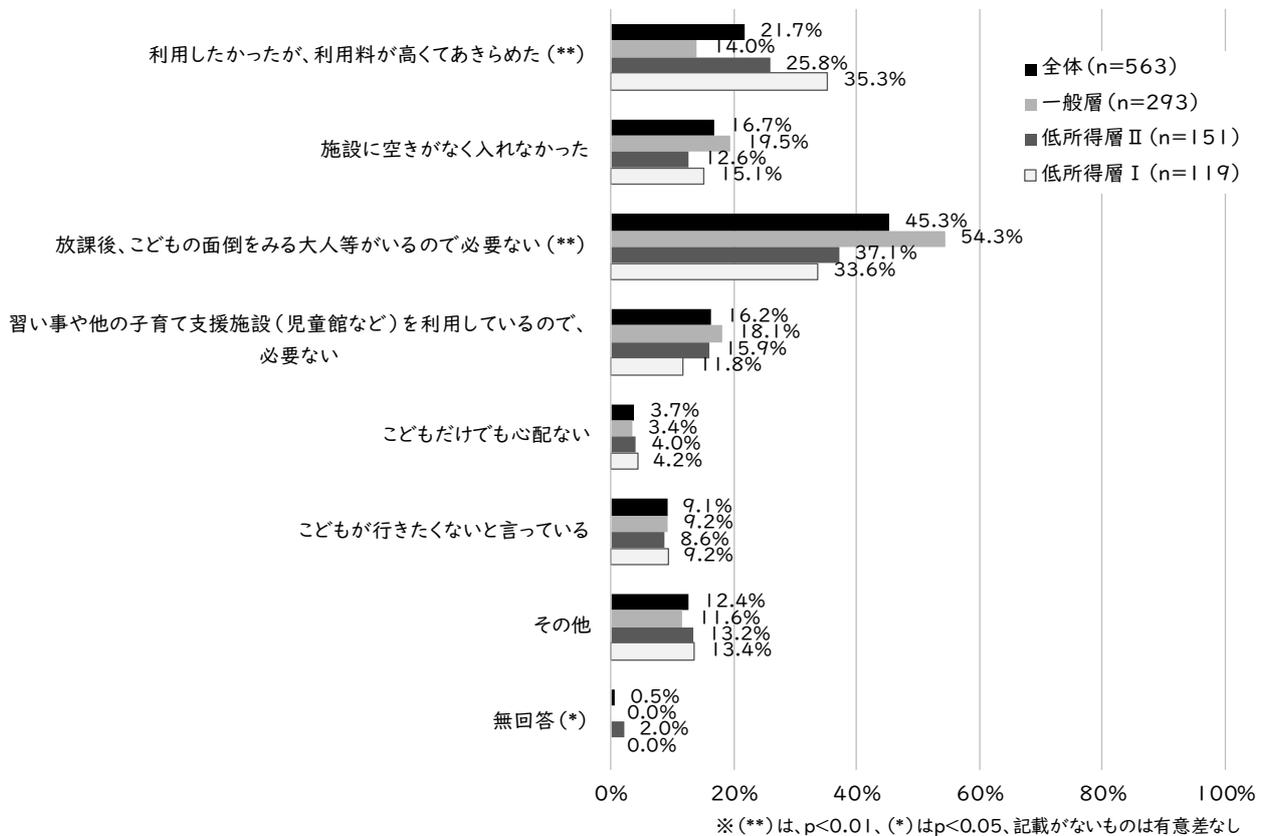
利用していない理由

図6-1-5は、学童保育を「利用していない」と回答した方に、利用していない理由を尋ねたものです。

経済状況別に見ると所得階層によって差があり、一般層と低所得層Ⅱでは「放課後、こどもの面倒をみる大人等がいるので必要ない」がもっとも高くなっているのに対し、低所得層Ⅰでは、「利用したかったが、利用料が高くてあきらめた」が35.3%ともっとも高くなりました。

図6-1-6にて、「利用したかったが、利用料が高くてあきらめた」を経済状況別に経年比較してみると、2018年沖縄県調査と比べて非困窮層で4.6ポイント、困窮層で6.7ポイント増加していました。

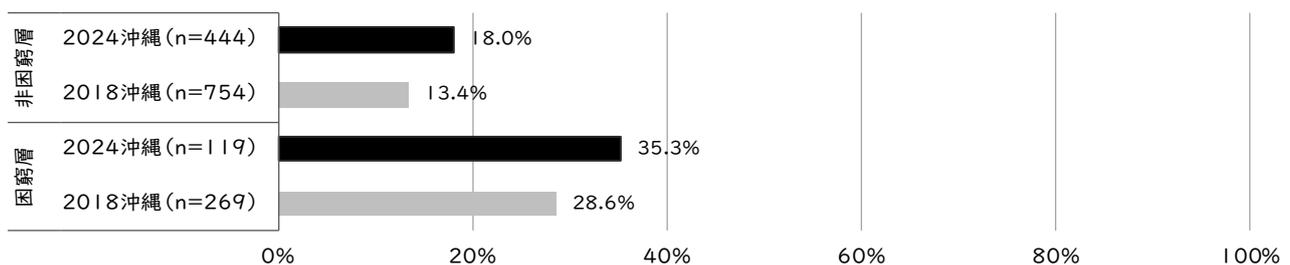
図6-1-5【小1保護者】学童保育を利用していない理由を教えてください(複数選択)



経年比較

図6-1-6【小1保護者】学童保育を利用していない理由を教えてください(複数選択)

— 「利用したかったが、利用料が高くてあきらめた」 —



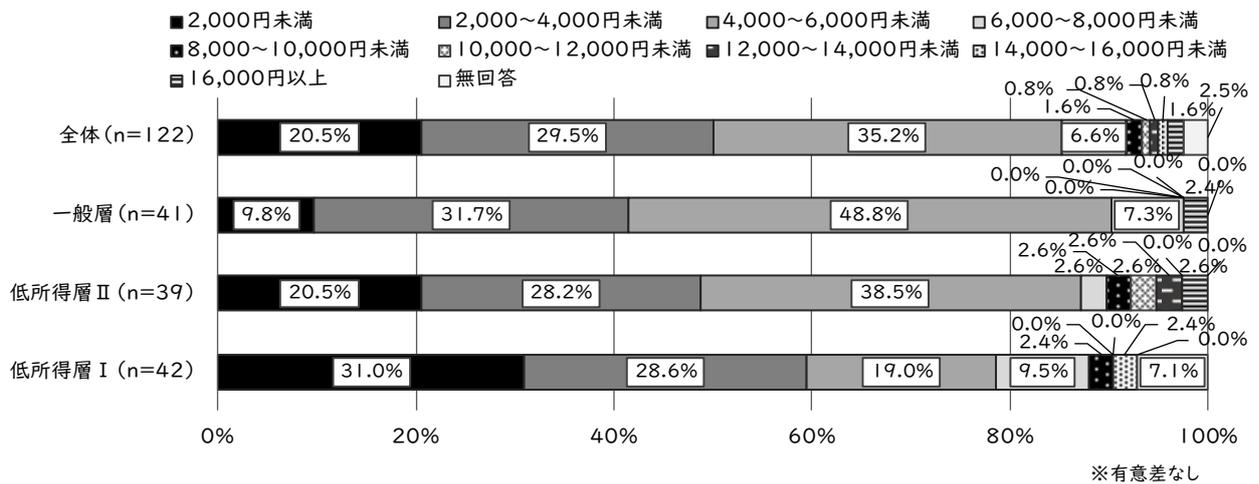
どのくらいの金額なら利用できるか

学童保育を利用していない理由として、「利用したかったが、利用料が高くてあきらめた」を選択した方に、どのくらいの金額なら利用できるかを尋ねました。その結果が、図6-1-7になります。

全体で見ると、6,000円未満（「2,000円未満」「2,000～4,000円未満」「4,000～6,000円未満」を合わせた割合）が85.2%を占めていることがわかりました。経済状況別では、統計的な有意差はありませんが、低所得層ほど利用できると思う金額が低くなり、低所得層Ⅰは「2,000円未満」が31.0%ともっとも高くなっていました。

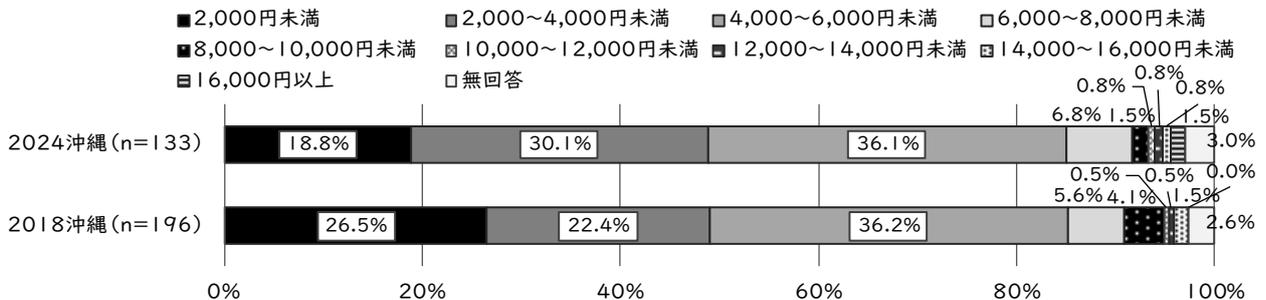
図6-1-8は、経年比較したものです。2018年沖縄県調査、2024年沖縄県調査ともに、「4,000～6,000円未満」がもっとも多く、それぞれ約36%となっています。「2,000円未満」が7.7ポイント減少、「2,000～4,000円未満」が7.7ポイント増加した以外、大きな変化は見られませんでした。

図6-1-7 【小児保護者】どのくらいの金額なら利用できると思いますか



経年比較

図6-1-8 【小児保護者】どのくらいの金額なら利用できると思いますか



2 就学援助制度

就学援助を「利用している」と回答した方に、どのように知ったかについて保護者に尋ねた結果を、2018年沖縄県調査と経年比較しています(その他、就学援助制度に関する項目は、本報告書の「特集」をご参照ください)。学年を問わずほぼ同様の傾向が見られました。

小学1年生(図6-2-1)は、「学校からの通知(お知らせ)」が2018年は77.8%でしたが、2024年沖縄県調査では66.1%に低下、「市町村からの通知(お知らせ)」は26.6%から36.7%に増え、「テレビやラジオのCM(コマーシャル)」が28.0%から3.1%と大きく低下しています。

小学5年生(図6-2-2)は、「学校からの通知(お知らせ)」が2018年に79.7%でしたが、2024年には73.8%に低下、「市町村からの通知(お知らせ)」は21.5%から28.2%に増え、「テレビやラジオのCM(コマーシャル)」が20.5%から5.8%に大きく低下しています。

中学2年生(図6-2-3)は、「学校からの通知(お知らせ)」が2018年に83.7%でしたが、2024年には75.5%に低下、「市町村からの通知(お知らせ)」は20.4%から27.4%に増え、「テレビやラジオのCM(コマーシャル)」が15.9%から5.5%と大きく低下しています。

図6-2-1 【小1保護者】就学援助についてどのように知りましたか(複数選択)

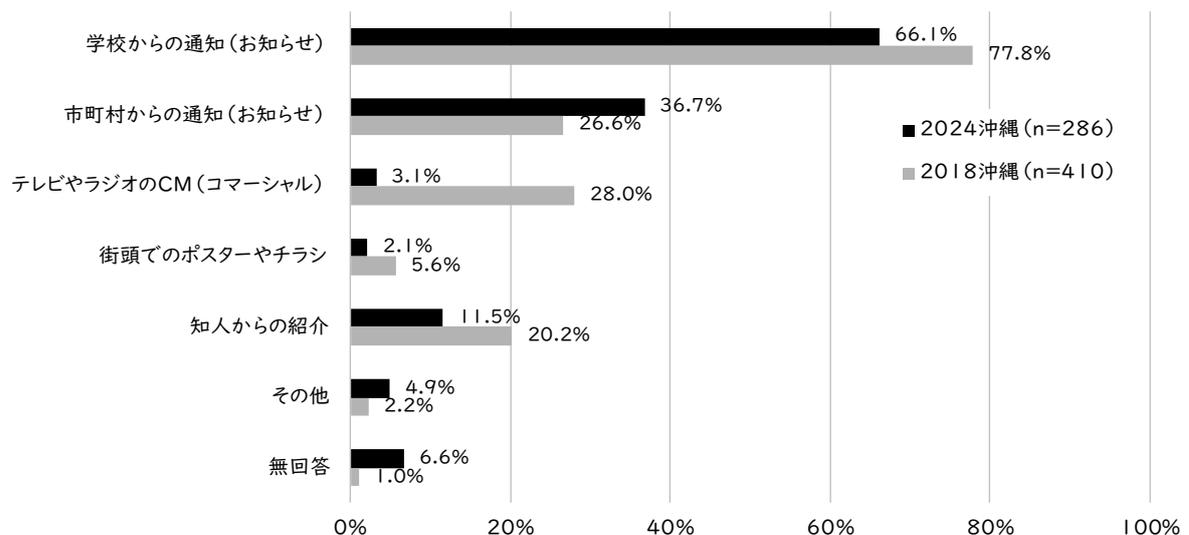


図6-2-2【小5保護者】就学援助についてどのように知りましたか(複数選択)

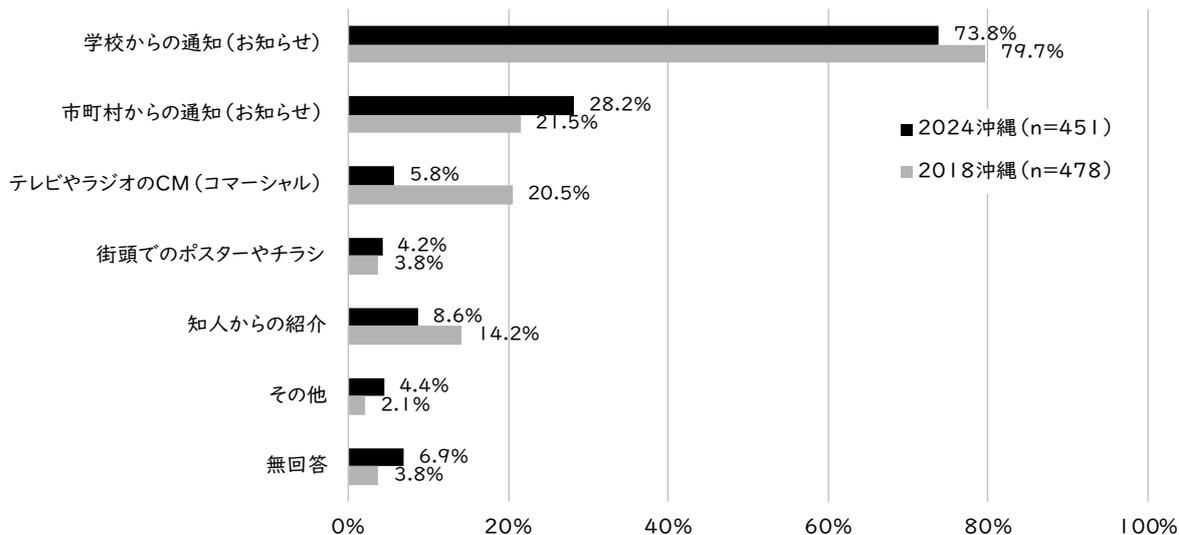
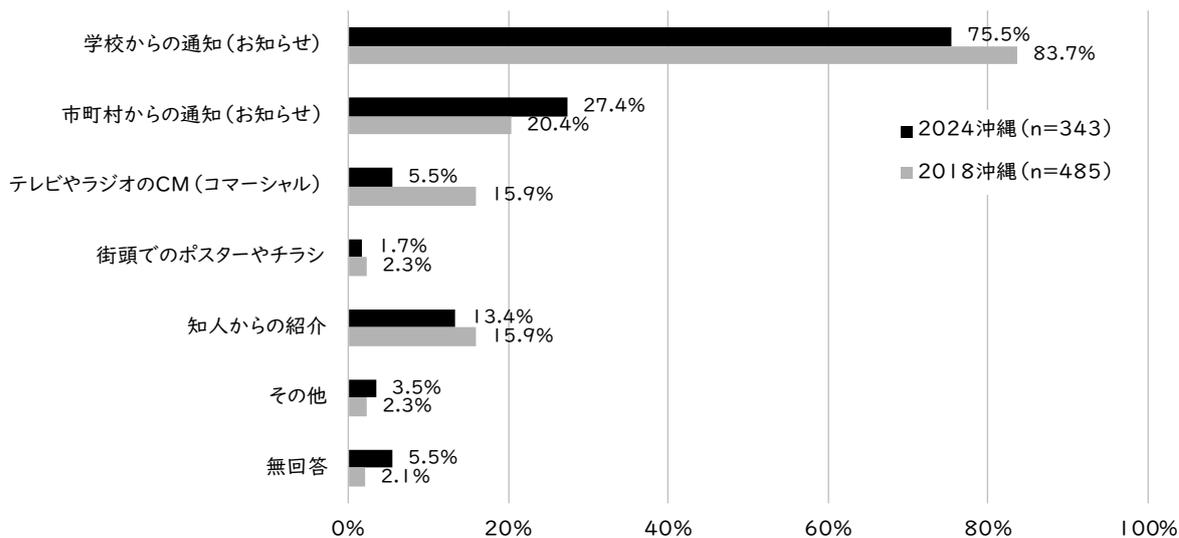


図6-2-3【中2保護者】就学援助についてどのように知りましたか(複数選択)



各種制度の利用について保護者に尋ねました。

生活保護について尋ねたところ(図6-3-1)、「現在利用している」割合は、小学1年生の全体で0.5%、小学5年生で0.9%、中学2年生で0.6%でした。これを経済状況別に見ると、どの学年も所得が低くなるにつれて高くなり、低所得層Ⅰでは、小学1年生で2.4%、小学5年生で3.2%、中学2年生で2.1%となっていました。

生活困窮者の自立支援相談窓口(図6-3-2)と生活福祉資金貸付金(図6-3-3)についても、同様に低所得層ほど「現在利用している」割合が高くなる傾向が見られます。しかし、自立支援相談窓口は、生活保護に比べて低所得層Ⅰでも「現在利用している」は小学1年生で0.3%、小学5年生で0.6%、中学2年生で0.3%と低い割合になっています。また、この二つの制度については、制度の主な利用対象者である低所得層Ⅰにおいて、生活保護に比べて「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」や「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の割合が高く、この二つを合わせて見ると、生活困窮者の自立支援相談窓口は小学1年生13.2%、小学5年生8.3%、中学2年生10.3%、生活福祉資金貸付金は小学1年生12.2%、小学5年生11.2%、中学2年生12.8%となっていました。

図6-3-1 【小1・小5・中2保護者】生活保護

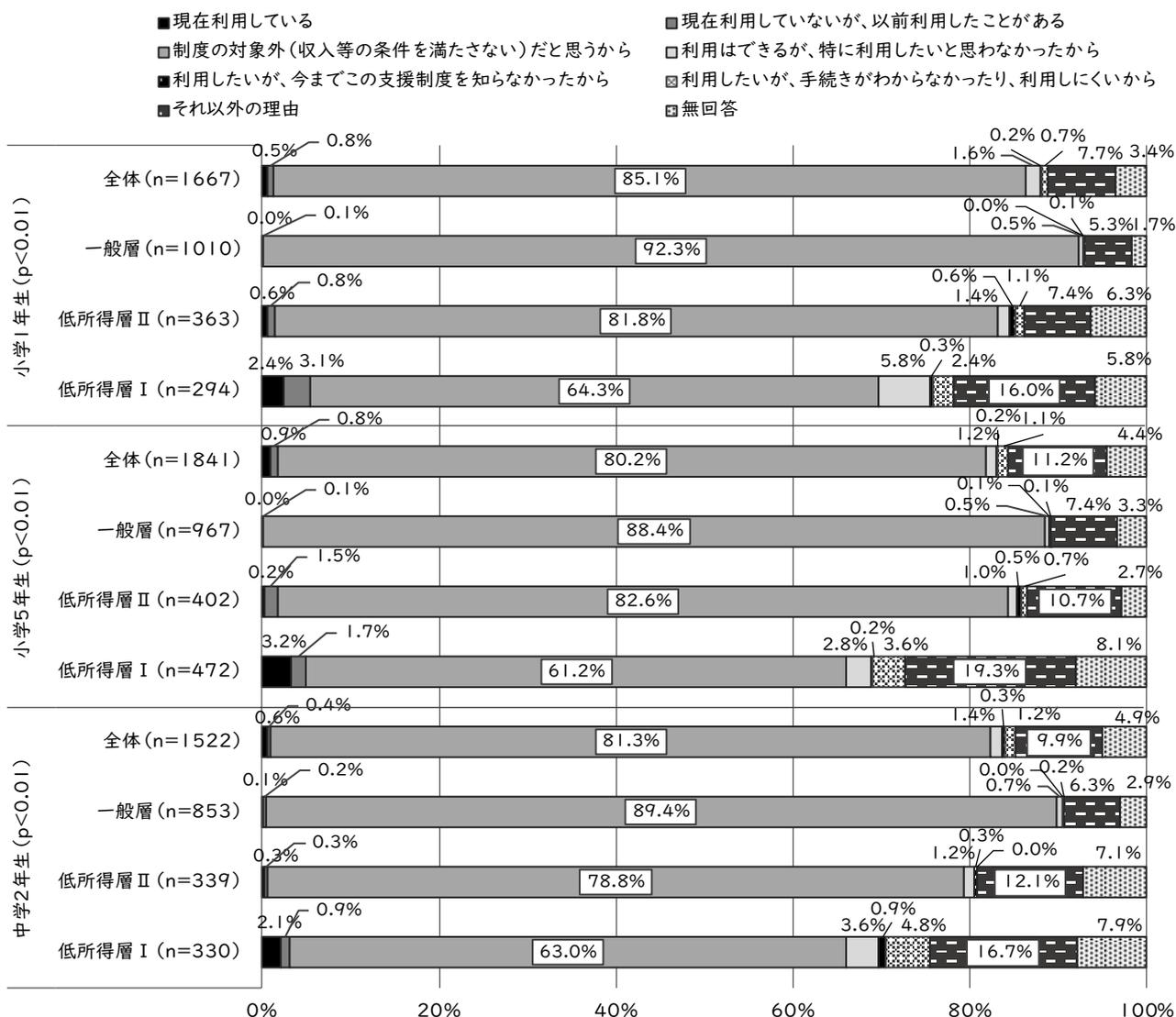


図6-3-2 【小1・小5・中2保護者】生活困窮者の自立支援相談窓口

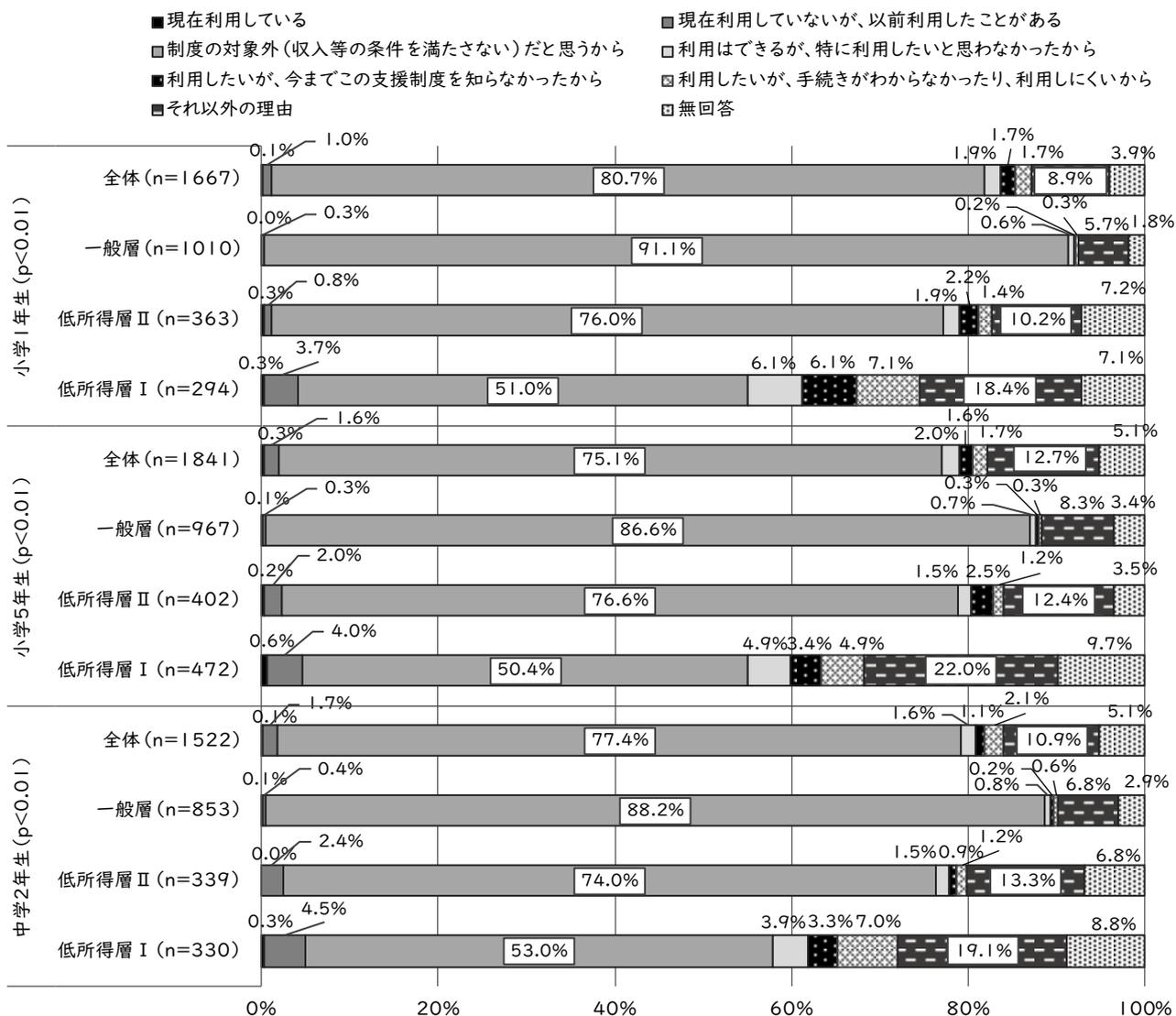
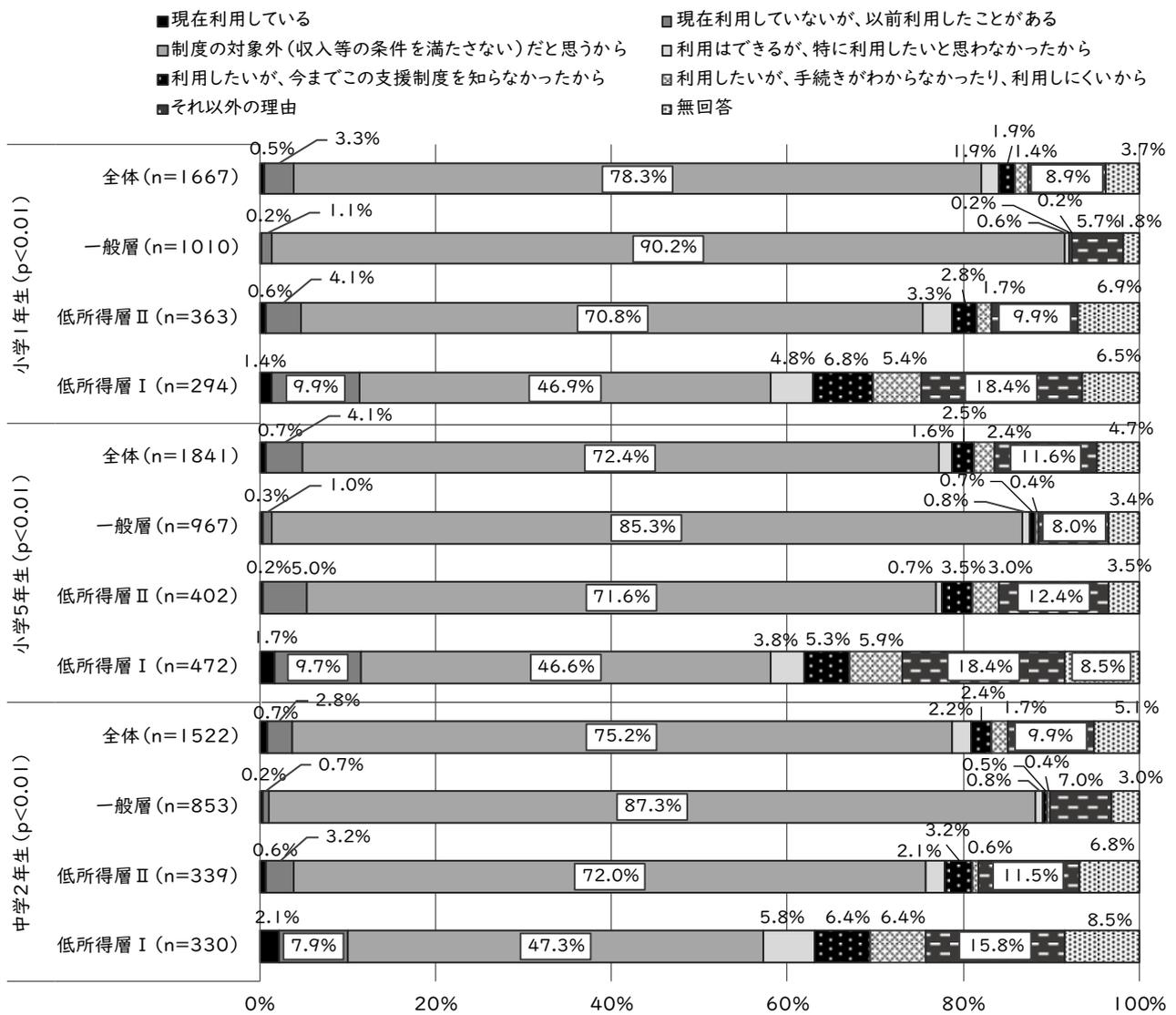


図6-3-3 【小1・小5・中2保護者】生活福祉資金貸付金



経年比較

生活保護、生活困窮者の自立支援相談窓口、生活福祉資金貸付金の利用について、経年比較してみました（小学1年生は、2021年沖縄県調査で実施されていないため、小学5年生と中学2年生で比較しています）。

生活保護については（図6-3-4）、「現在利用している」が、2021年沖縄県調査では、小学5年生0.9%、中学2年生1.0%でしたが、2024年沖縄県調査では、小学5年生は0.9%と変化がなく、中学2年生は0.6%と減少していました。

生活困窮者の自立支援相談窓口については（図6-3-5）、「現在利用している」が、2021年では、小学5年生、中学2年生ともに0.8%でしたが、2024年では、小学5年生0.2%、中学2年生0.1%と減少していました。

生活福祉資金貸付金については（図6-3-6）、「現在利用している」が、2021年では、小学5年生2.9%、中学2年生2.8%でしたが、2024年では、小学5年生0.7%、中学2年生0.7%と減少していました。一方、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が、2021年では、小学5年生2.3%、中学2年生1.8%でしたが、2024年では、小学5年生4.0%、中学2年生2.9%と増加していました。

図6-3-4 【小5・中2保護者】生活保護

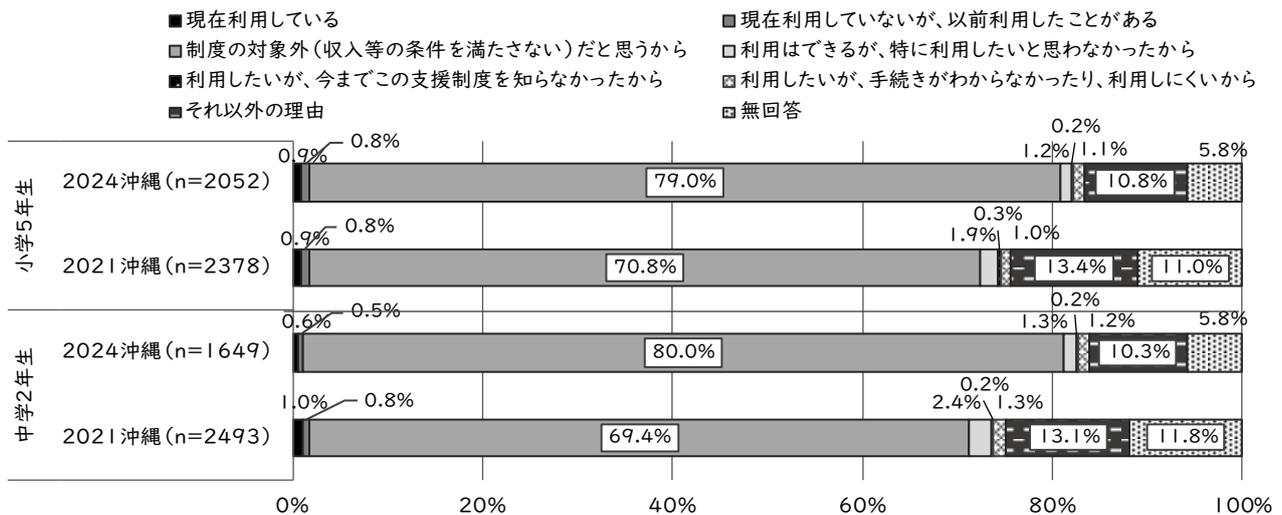


図6-3-5 【小5・中2保護者】生活困窮者の自立支援相談窓口

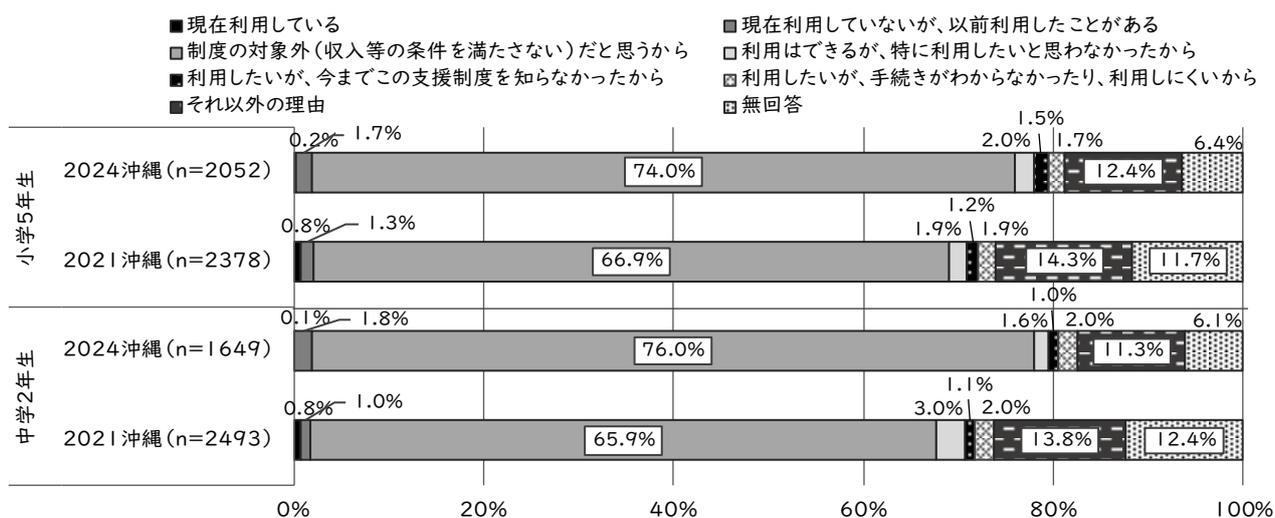
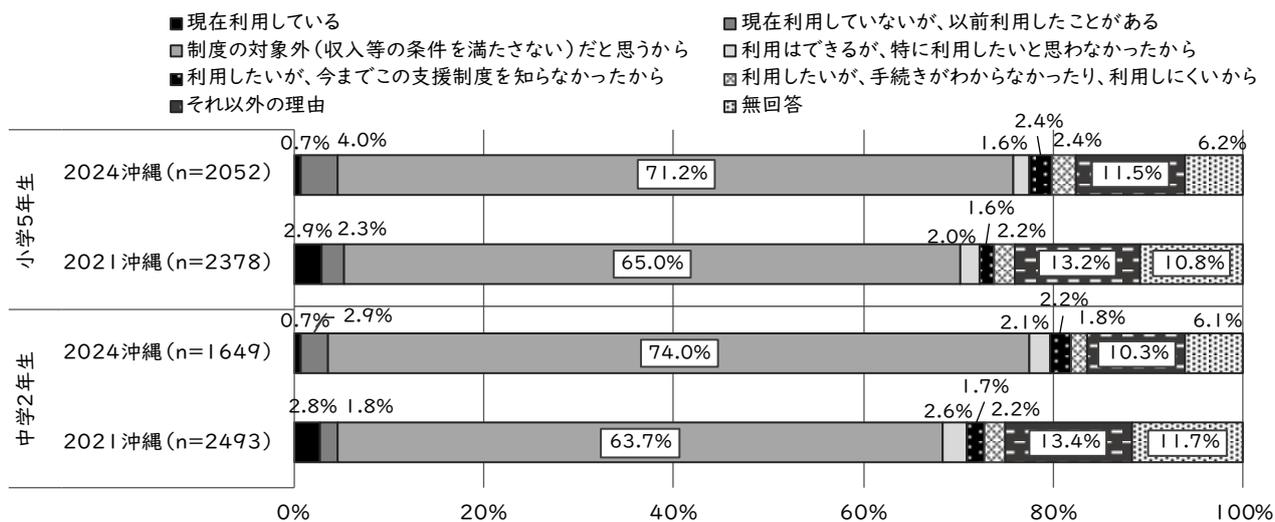


図6-3-6 【小5・中2保護者】生活福祉資金貸付金



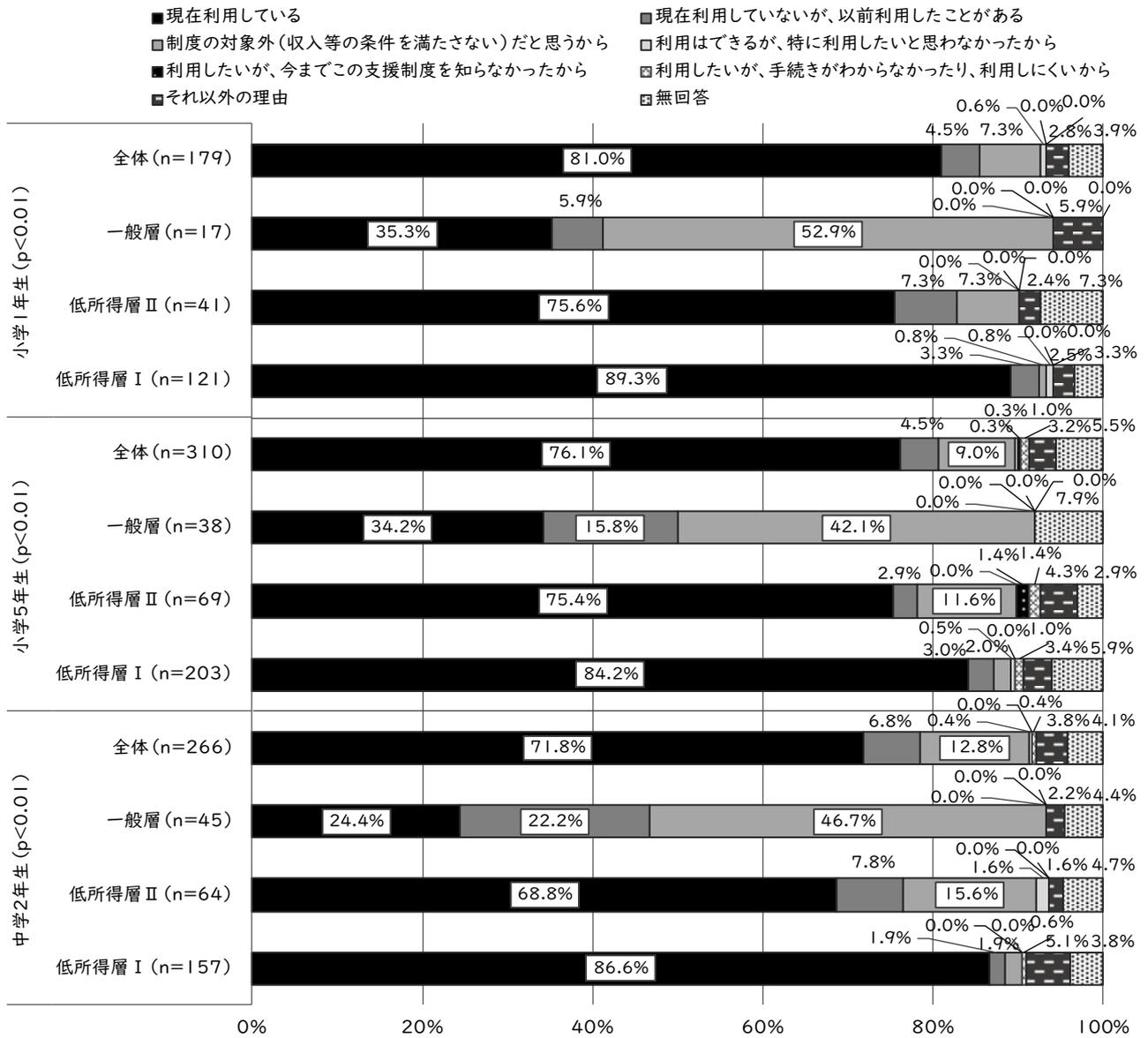
児童扶養手当と母子父子寡婦福祉資金貸付金について、両制度の対象となるひとり親世帯に制度利用について聞きました。

児童扶養手当(図6-4-1)について、「現在利用している」割合を見ると、全体では小学1年生で81.0%、小学5年生で76.1%、中学2年生で71.8%と高い割合を示しました。経済状況別では、どの学年でも所得が低くなるほど割合が高くなり、低所得層Ⅰでは小学1年生で89.3%、小学5年生で84.2%、中学2年生で86.6%となっています。約9割と高い割合ですが、一方で、利用対象となり得る低所得層Ⅰにおいて、1割程度が利用できていない状況にあるとも見て取れます。

母子父子寡婦福祉資金貸付金(図6-4-2)については、「現在利用している」割合を見ると、全体では小学1年生で6.1%、小学5年生で4.5%、中学2年生で6.8%でした。経済状況別に見ると、所得が低くなるほど割合が高くなる傾向が見られ、低所得層Ⅰでは小学1年生で6.6%、小学5年生で3.4%、中学2年生で8.3%でした。利用していない理由に目を向けると、「制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから」は、一般層で小学1年生64.7%、小学5年生52.6%、中学2年生60.0%と半数を超えているのに対し、低所得層Ⅰではどの学年も2割弱にとどまっていました。また、学年によって異なるものの、一般層に比べて低所得層ⅠとⅡでは、「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」や、「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」、「それ以外の理由」が高くなる傾向が見て取れます。

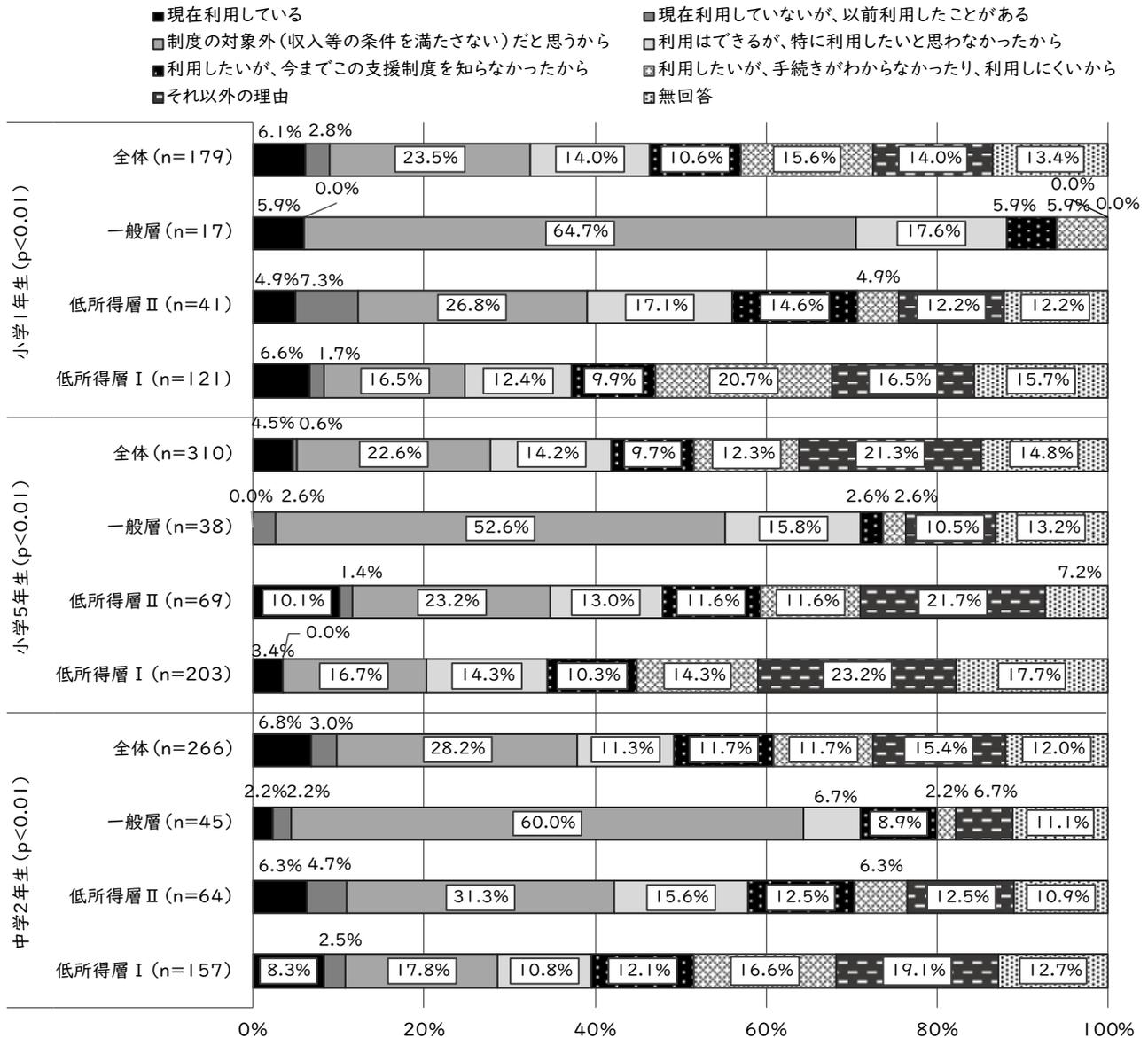
児童扶養手当

図6-4-1 【小1・小5・中2保護者】児童扶養手当



母子父子寡婦福祉資金貸付金

図6-4-2 【小1・小5・中2保護者】母子父子寡婦福祉資金貸付金

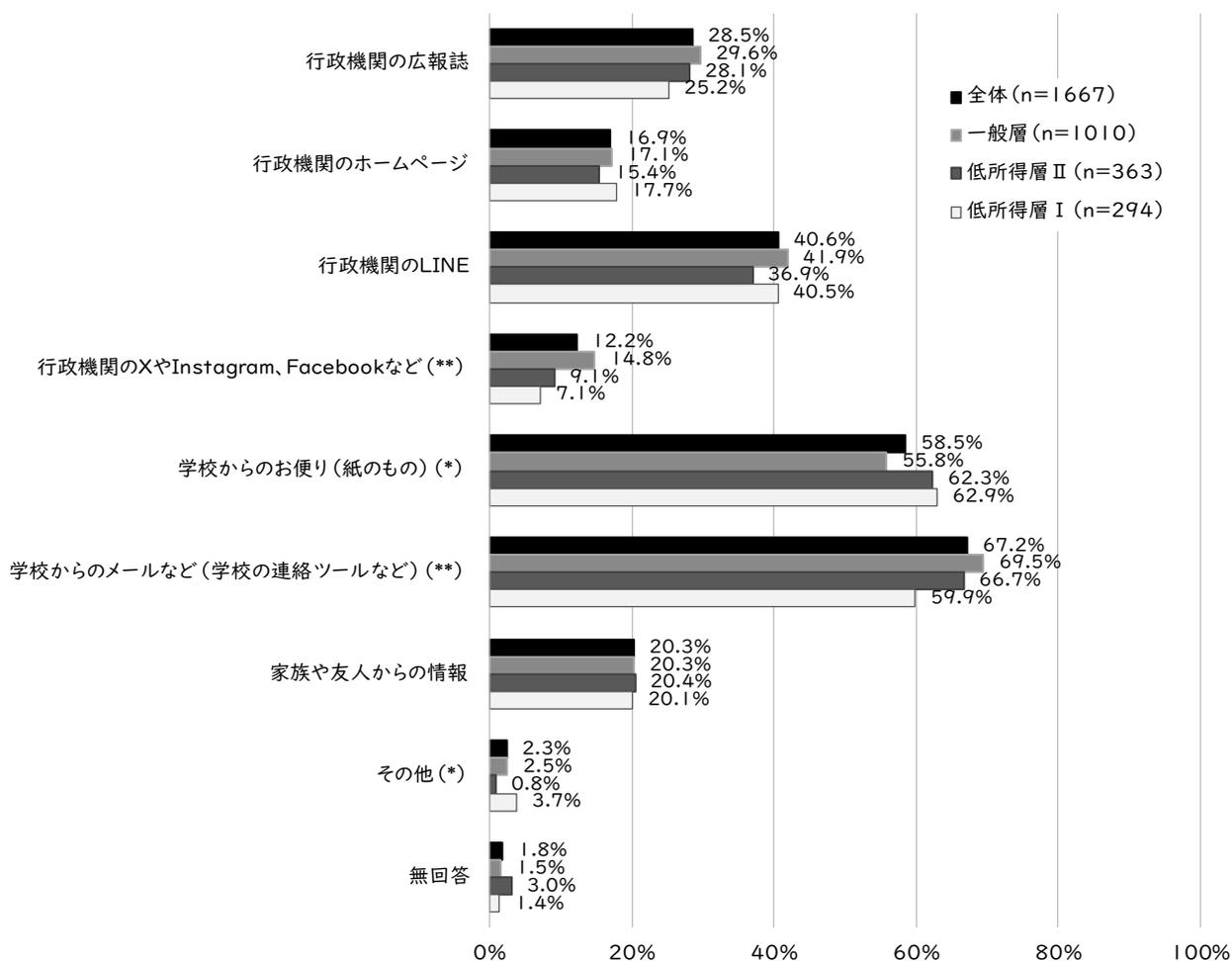


5 子育て支援に関する情報をどう受け取りたいか

子育て支援に関する情報をどう受け取りたいかについて、保護者に聞きました（図6-5-1から図6-5-3）。全体で見ると、学年にかかわらずもっとも多かったのは、「学校からのメールなど（学校の連絡ツールなど）」（小学1年生 67.2%、小学5年生 66.7%、中学2年生 68.1%）で、次いで「学校からのお便り（紙のもの）」（小学1年生 58.5%、小学5年生 53.7%、中学2年生 50.6%）、3番目は「行政機関のLINE」（小学1年生 40.6%、小学5年生 43.5%、中学2年生 39.8%）、4番目は「行政機関の広報誌」（小学1年生 28.5%、小学5年生 29.3%、中学2年生 29.0%）でした。

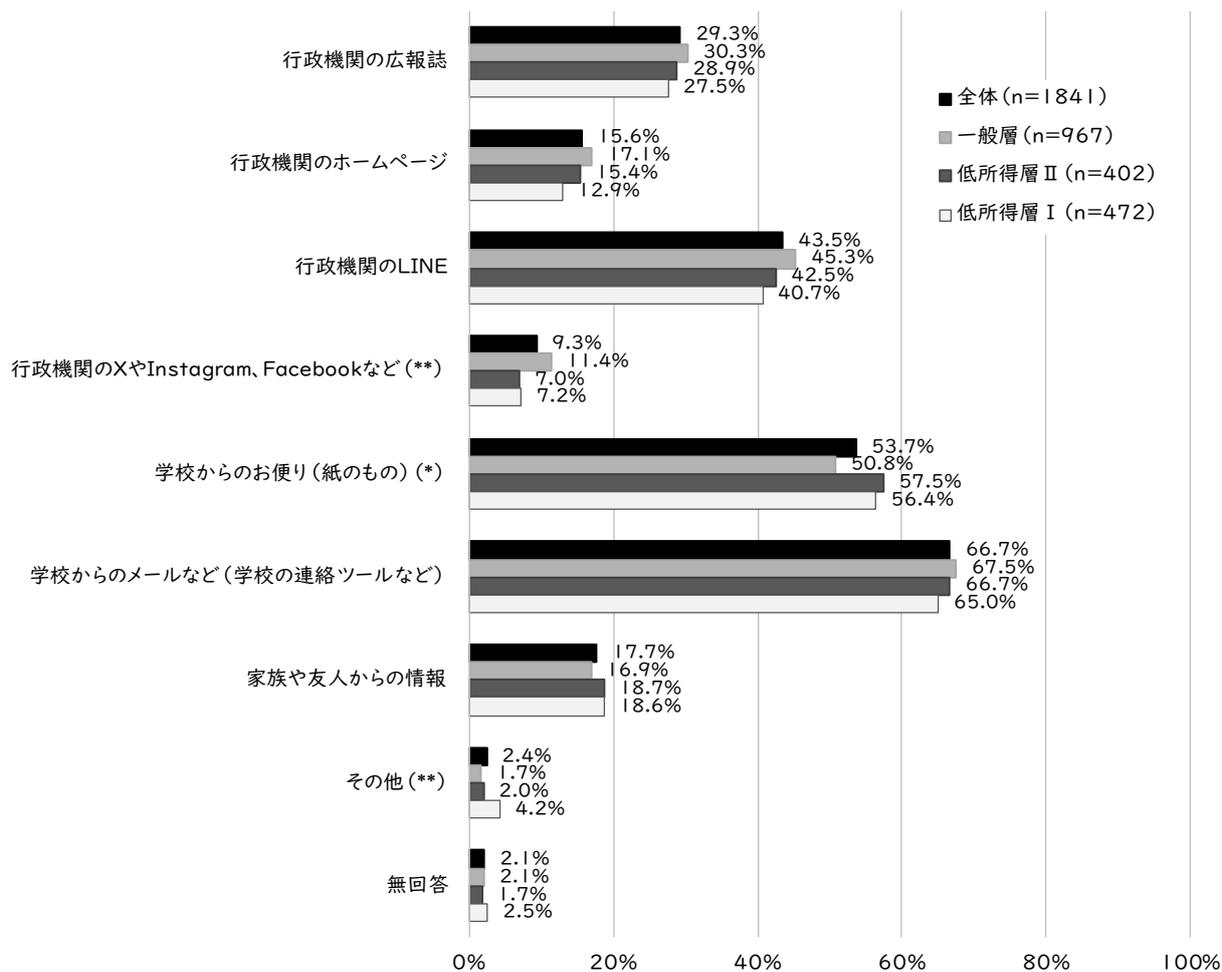
ただし、経済状況別で見ると、所得階層によって差があるものもあり、「学校からのメールなど」では、小学1年生で9.6ポイント、小学5年生2.5ポイント、中学2年生11.3ポイント、一般層より低所得層Ⅰの方が下回っています。一方、「学校からのお便り」では、小学1年生で7.1ポイント、小学5年生5.6ポイント、中学2年生9.1ポイント、一般層より低所得層Ⅰが上回っています。

図6-5-1 【小1保護者】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか（複数選択）



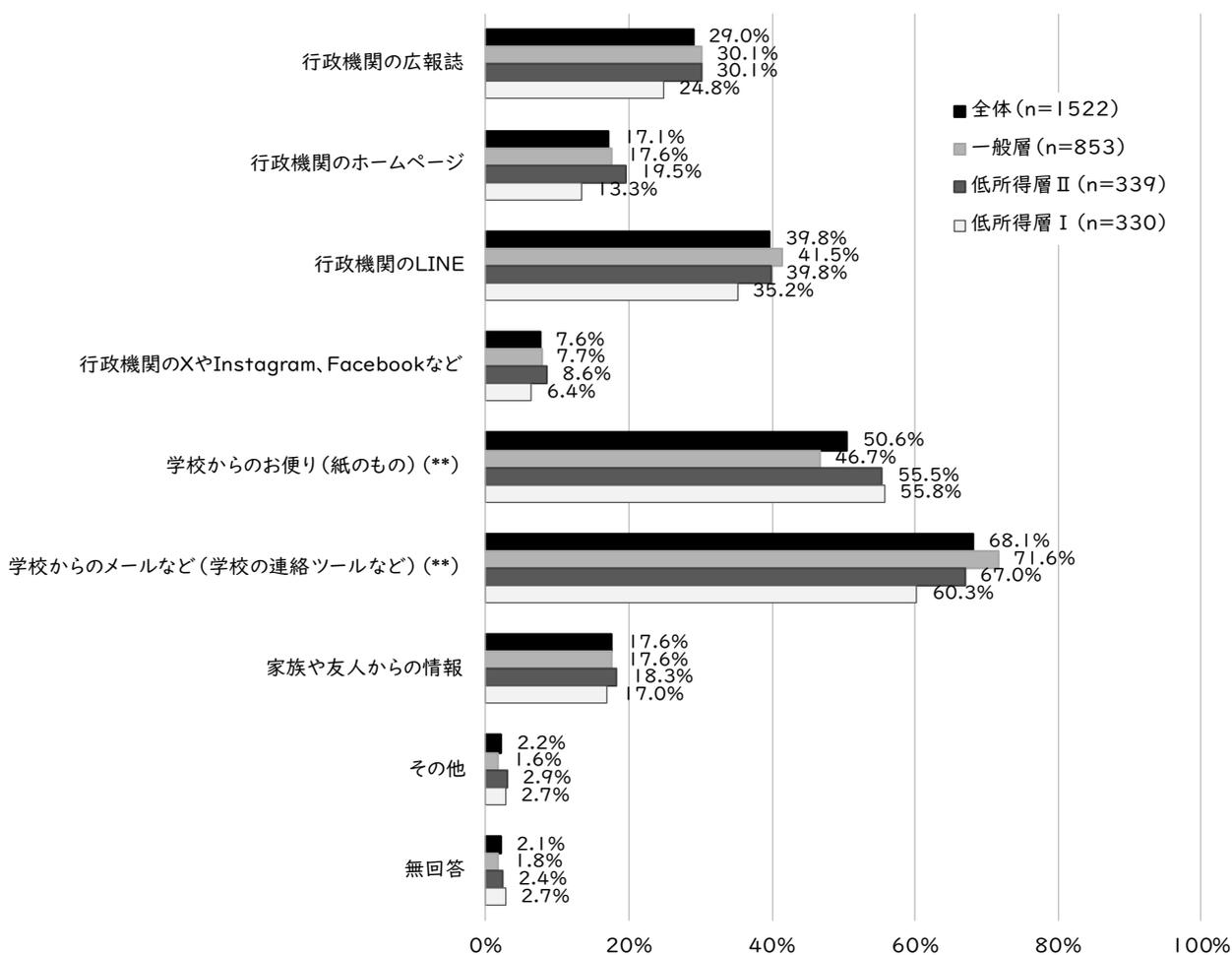
※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

図6-5-2 【小5保護者】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか(複数選択)



※(**)は、p<0.01、(*)はp<0.05、記載がないものは有意差なし

図6-5-3 【中2保護者】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか(複数選択)



※(**)は、 $p < 0.01$ 、(*)は $p < 0.05$ 、記載がないものは有意差なし

東京都調査との比較

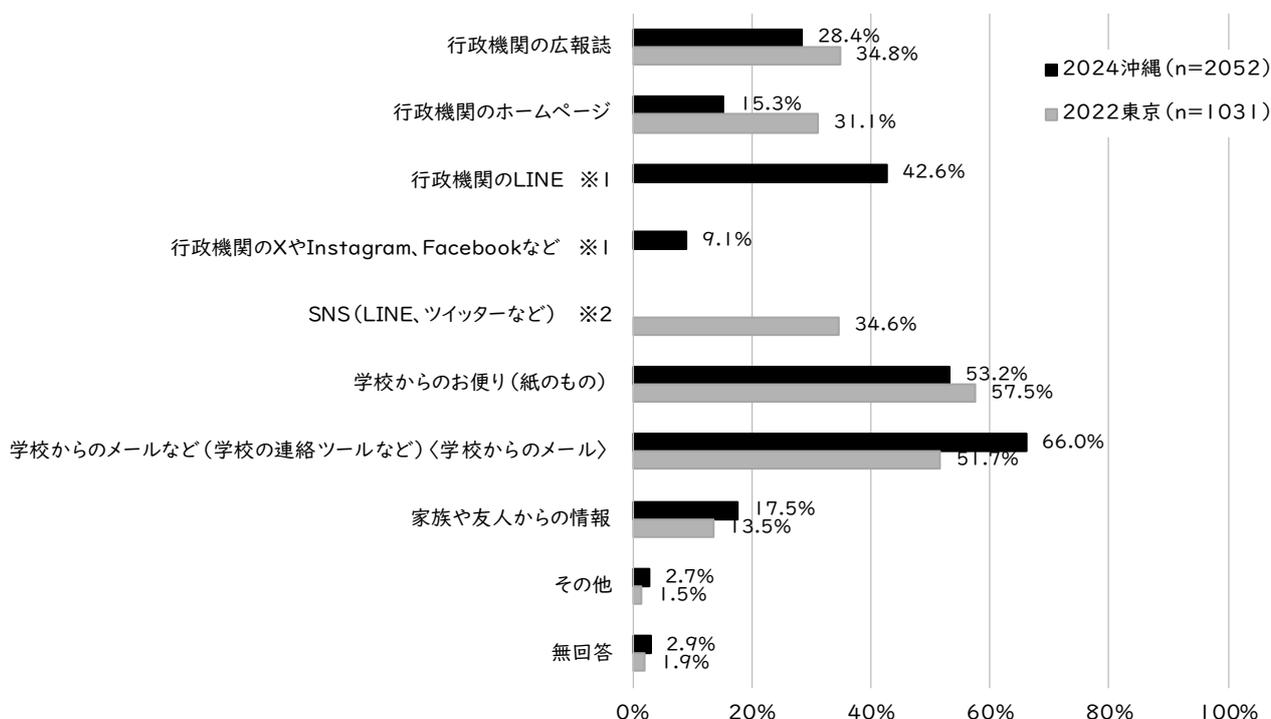
子育て支援に関する情報をどう受け取りたいかについて、2022年東京都調査と比較してみました。

小学5年生（図6-5-4）では「学校からのメールなど」が2024年沖縄県調査で66.0%、2022年東京都調査で51.7%と沖縄県が高くなっています。一方、「学校からのお便り」は沖縄県53.2%、東京都57.5%、「行政機関の広報誌」は沖縄県28.4%、東京都34.8%と逆に沖縄県の方が低くなっています。

中学2年生（図6-5-5）においても、「学校からのメールなど」は沖縄県が高く（沖縄県67.3%、東京都56.1%）、「学校からのお便り」（沖縄県50.5%、東京都54.7%）、「行政機関の広報誌」（沖縄県28.6%、東京都33.7%）は沖縄県が低くなっています。

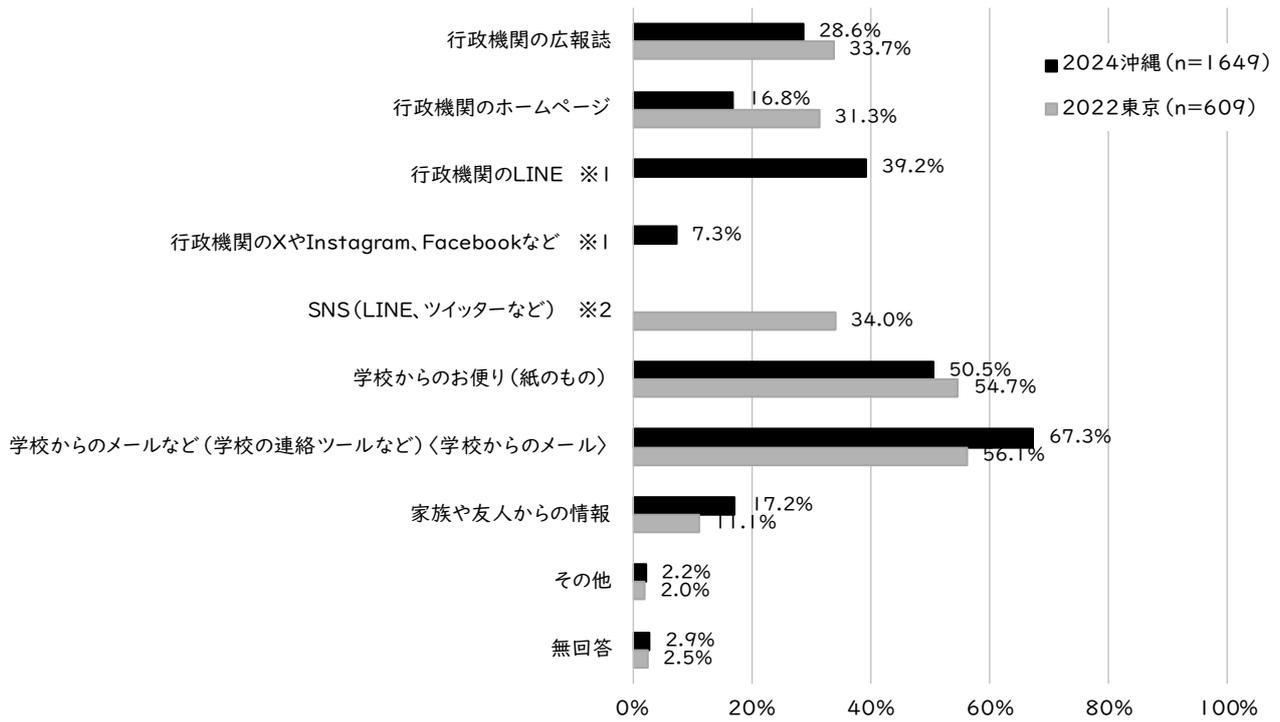
総じて、沖縄の方が、ITを使った情報の受け取りを希望する保護者が多くなっていました。

図6-5-4 【小5保護者】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか（複数選択）



※〈 〉内は、2022年東京都調査の選択肢。また、※1は2022年東京都調査にない、※2は2024年沖縄県調査にない

図6-5-5 【中2保護者】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか(複数選択)



※〈〉内は、2022年東京都調査の選択肢。また、※1は2022年東京都調査になく、※2は2024年沖縄県調査にない

本章では、放課後児童クラブ（以下、学童保育）や就学援助制度のほか、生活保護などの支援制度の利用について見てきました。

第1節では、学童保育の利用状況について分析しました。沖縄県では、学童保育の利用料軽減を目的に、児童扶養手当受給世帯、生活保護受給世帯、市町村民税非課税世帯へ利用料を助成する市町村を対象とした補助事業を実施しているほか（多くの自治体が利用料の半額（上限 5,000 円）を助成）、家賃補助を通して利用料を軽減する事業等を実施しています。本調査では、その効果が見える結果となりました。

沖縄県の小学1年生の平均月額利用料は 9,856 円となっていますが（参考文献1）、利用料軽減の対象世帯が多く含まれていると思われる低所得層Ⅰにおいて、6,000 円未満の割合が 38.0%と約4割を占めていることがわかりました。また、学童保育を利用している困窮層の割合は、2018 年沖縄県調査から 25.0 ポイント増加していることも明らかとなっています。

一方で、学童保育の利用においては、依然として所得階層差があることも明らかとなりました。2018 年沖縄県調査と比べて、所得階層による差は縮小しているものの（図6-1-2）、利用料の負担軽減に向けたさらなる取組が必要と言えます。

なお、本調査から、低所得層Ⅱにおいても、学童保育を利用している割合が低所得層Ⅰとほぼ同等の 56.2%となっていることも明らかとなりました。先に述べた、県や市町村が実施する利用料補助事業の対象外となっている世帯が多く含まれていることが背景にあると考えられます。それを裏付けるように、学童保育を利用しているにもかかわらず、利用料を負担と感じている割合が低所得層Ⅰよりも高くなっていました。

沖縄県の学童保育の利用料は、全国的にも高い水準にあります。こどもの貧困対策の一環としてだけでなく、子育て世帯全体の負担軽減に向けた対策が必要です。

第2節で見た就学援助の周知は、2018 年沖縄県調査に比べて、どの学年においても、「学校からの通知（お知らせ）」が低下、「市町村からの通知（お知らせ）」が増加、「テレビやラジオのCM（コマーシャル）」が大きく低下しています。2019 年度にマスメディアを通じたCM（コマーシャル）でのお知らせが終了したことで、相対的に市町村からのお知らせを確認する機会が増えたと推察できますが、「学校からの通知」が低下した点が気になります。2018 年当時は、CM（コマーシャル）を含めて多岐にわたる情報源があったことがうかがえるため、必要な世帯に情報が届くよう、様々な媒体を活用し、引き続き、周知に努めることが必要です。

第3節では、生活保護、生活困窮者の自立支援相談窓口、生活福祉資金貸付金制度の利用状況を見ました。

生活保護を「現在利用している」と回答した世帯は、全体で小学1年生 0.5%、小学5年生 0.9%、中学2年生 0.6%でした。参考までに、沖縄県の令和4年度生活保護統計から算出される0～19 歳の生活保護受給率は 1.04%となっており（注1）、本調査の結果と近似しているものの、若干低くなっています。その理由として、生活保護受給世帯から十分に回答いただけていないことが考えられます。

また、低所得層Ⅰには生活保護基準に近い水準の世帯が多く存在していると考えられますが、「現在利用している」と回答した世帯は、小学1年生で 2.4%、小学5年生で 3.2%、中学2年生で 2.1%にとどまっていた。利用していない理由として、低所得層Ⅰではどの学年においても「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思っから」が6割程度と最も高く、次いで「それ以外の理由」が約2割となっていました。詳細はわかりませんが、この選択肢を選んだ方の中には、生活保護制度では原則禁止とされている

自動車を手放せない世帯が含まれているのではないかと推察されます。

生活保護と生活困窮者の自立支援相談窓口、生活福祉資金貸付金の利用について、2021年沖縄県調査と比較してみたところ、生活保護については中学2年生において現在の利用が減っていました。また、生活困窮者の自立支援相談窓口と生活福祉資金貸付金については、小学5年生、中学2年生ともに減少していました。コロナ禍の際にあったような新規の利用が落ち着いてきたことが影響しているでしょう。一方、「現在利用していないが、以前利用したことがある」が、2021年に比べて増えていました。その要因として、コロナ禍で貸付金を利用していた世帯が増えたことが影響していると考えられます。

第4節では児童扶養手当と母子父子寡婦福祉資金貸付金の制度利用について聞きました。

児童扶養手当については、「現在利用している」世帯が全体で約7～8割を占め、先述の生活保護等の制度に比べて高い割合となりました。また、どの学年も所得が低くなるほどその割合は高くなり、低所得層Ⅱで約7～8割、低所得層Ⅰでは約8～9割となりました。しかし、逆に見れば、低所得層でも1～3割程度の世帯が未受給の状態にあるとも言えます。父母と同居しているために所得制限を超えてしまったり、離婚が成立していないなどの理由で受給が認められなかった世帯のほか、親族や周囲からの批判を避けている世帯が未受給になっている可能性もあります。

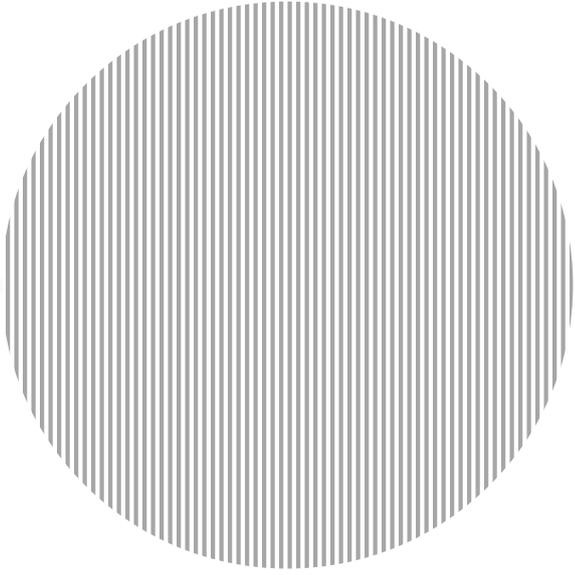
母子父子寡婦福祉資金貸付金については、子の就学や親の資格取得、事業開始の資金などを母子・父子・寡婦世帯に貸し付けるものです。一定の条件を満たせば、一般層から低所得層まで幅広く活用できる制度ですが、原則として児童扶養手当の受給が要件となっているため、一般層では「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思っから」がすべての学年で半数を超えていました。また、連帯保証人が必要であり、税金や水道料金の滞納がないことや課税所得があることが制度利用の条件となっているためか、低所得層Ⅰでも「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思っから」がすべての学年で17%前後ありました。現行の貸付制度は、ある程度の返済能力の確認が事前に求められることなどから、一般層にとっても低所得層にとっても、利用しにくい制度となっている可能性があります。

第5節では、子育て支援に関する情報をどう受け取りたいかについて見ました。どの学年でも「学校からのメールなど（学校の連絡ツールなど）」、「学校からのお便り（紙のもの）」、「行政機関のLINE」、「行政機関の広報誌」の順に高いことがわかりました。自身で情報を取得しに行くのではなく、プッシュ型での情報取得を希望していると言えるでしょう。一方で、これらを経済状況別に見ると、低所得層Ⅰでは一般層と比して、学年を問わず「学校からのメールなど」の割合が低く、「学校からのお便り」の割合が上回っていました。低所得層Ⅰのインターネット環境に課題があるのかもしれませんが、IT化が進み、子育て支援に関する情報のお知らせは、ホームページやSNS、LINE等で広く行われるようになりましたが、ネット環境に課題のある世帯も考慮した情報の周知方法を検討していく必要があるでしょう。

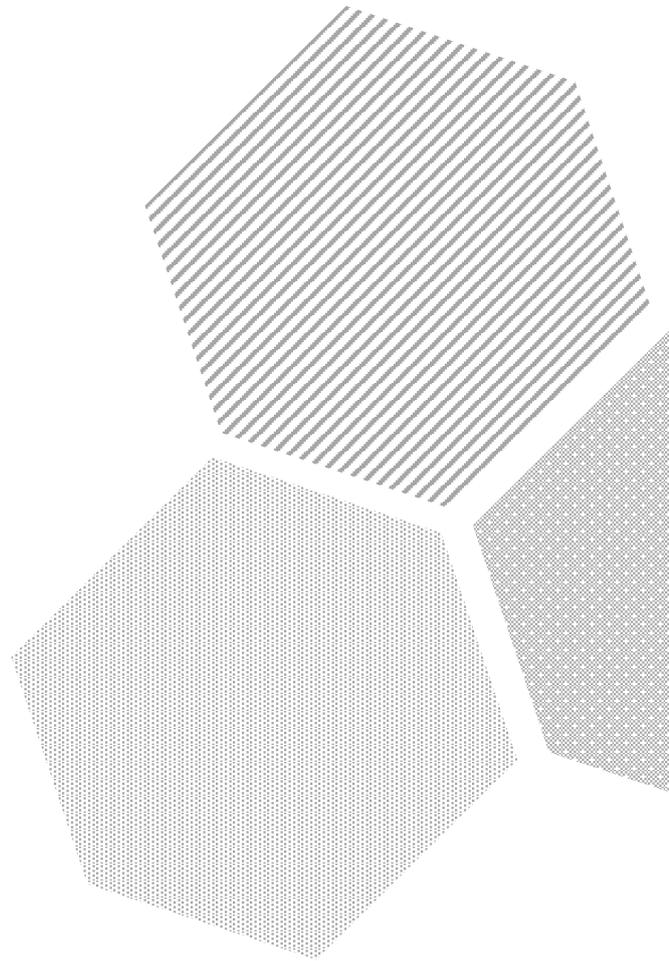
（注1）本調査における生活保護を「現在利用している」割合は、世帯としての割合であり、当該世帯に子どもが何名いるかは把握していません。そのため、あくまで参考値となりますが、本調査と実際の生活保護の受給状況に乖離がないかを確認するため、沖縄県（2024年）『令和5年度版沖縄県の生活保護（資料：令和4年度生活保護統計）』の年齢階級別被保護人員における0～19歳の人員3,391人を、沖縄県における令和4年度の0～19歳人口32万7,476人（住民基本台帳年齢別人口参照）で除して割合を算出しています。

【参考文献】

1 沖縄県（2024）『令和5年度（2023年度）沖縄県放課後児童クラブ実施内容等調査 結果報告書』



第7章
こどもまんなか社会に向けて

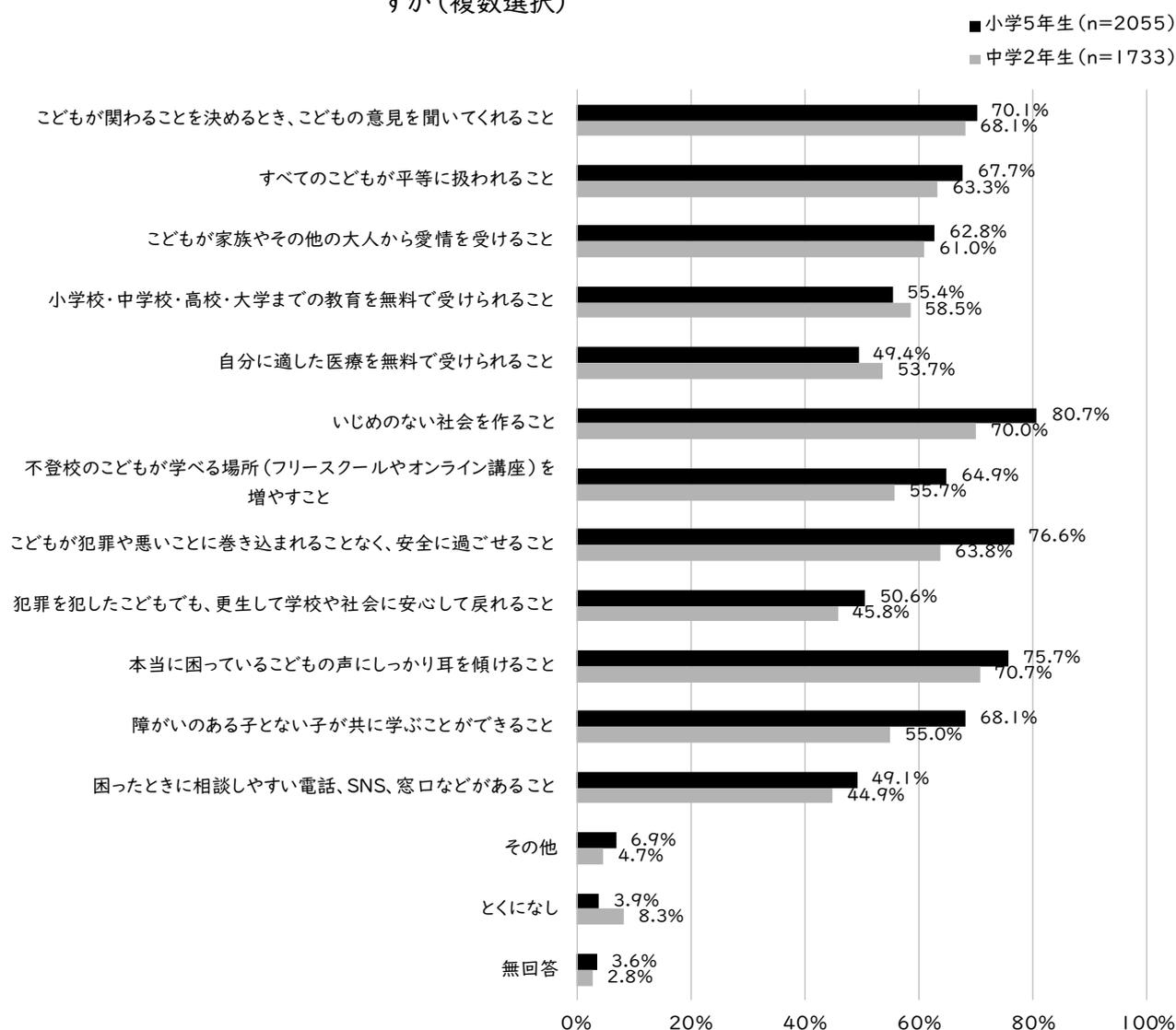


大人に取り組んでほしいこと(児童・生徒)

児童・生徒に「あなたは、大人たちが子どもたちのために取り組むべきことは何だと思いますか」を複数選択で尋ねました。

図7-1-1によると、小学5年生では、「いじめのない社会を作ること」(80.7%)、「子どもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること」(76.6%)、「本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること」(75.7%)が上位を占めています。中学2年生では、「本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること」(70.7%)、「いじめのない社会を作ること」(70.0%)、「子どもが関わることを決めるとき、子どもの意見を聞いてくれること」(68.1%)が上位を占めています。

図7-1-1 【小5児童・中2生徒】あなたは、大人たちが子どもたちのために取り組むべきことは何だと思いま
すか(複数選択)

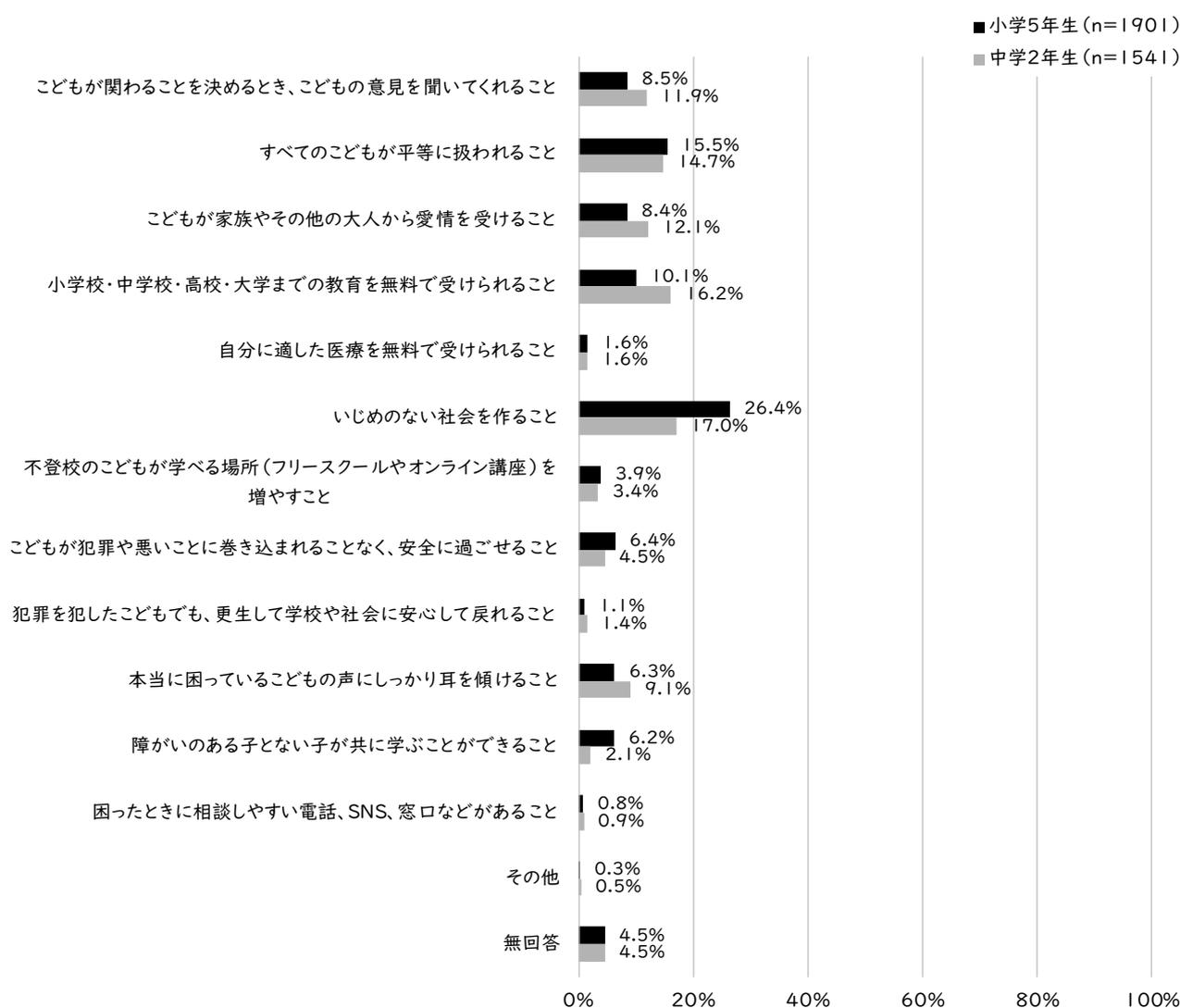


選んだもののなかで、1番に取り組むべきこと

児童・生徒に、図7-1-1で選んだもののなかで「1番に取り組むべきことは何だと思いますか」と尋ねた結果が図7-1-2になります。

小学5年生の26.4%、中学2年生の17.0%が「いじめのない社会を作ること」を選択し、いずれももっとも高い割合になっています。そのほか、中学2年生より小学5年生の方が多く選択したもので差があったものとしては、「障がいのある子とない子が共に学ぶことができること」で、小学5年生が6.2%、中学2年生が2.1%になっています。一方、中学2年生の方が多く選択したもので差があったものとしては、「小学校・中学校・高校・大学までの教育を無料で受けられること」で、小学5年生が10.1%であるのに対し、中学2年生では16.2%となっています。

図7-1-2 【小5児童・中2生徒】選んだもののなかで、1番に取り組むべきことは何だと思いますか



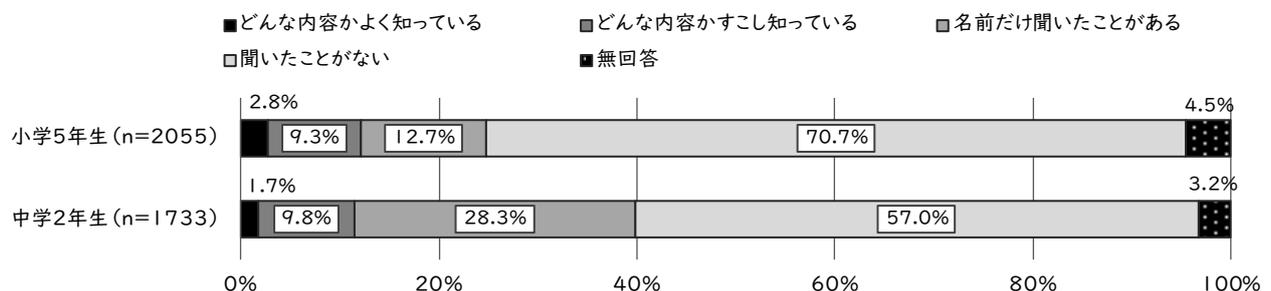
2 子どもの権利条約について(児童・生徒)

1989年11月に国連総会において採択された子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)について、「あなたは、『子どもの権利条約』について聞いたことがありますか」と尋ねました。

図7-2-1によると、「聞いたことがない」という回答がもっとも多く、小学5年生で70.7%、中学2年生で57.0%となっています。中学2年生では「名前だけ聞いたことがある」が28.3%になっていますが、小学5年生では12.7%にとどまっています。「どんな内容かよく知っている」という回答は、小学5年生で2.8%、中学2年生で1.7%となっています。

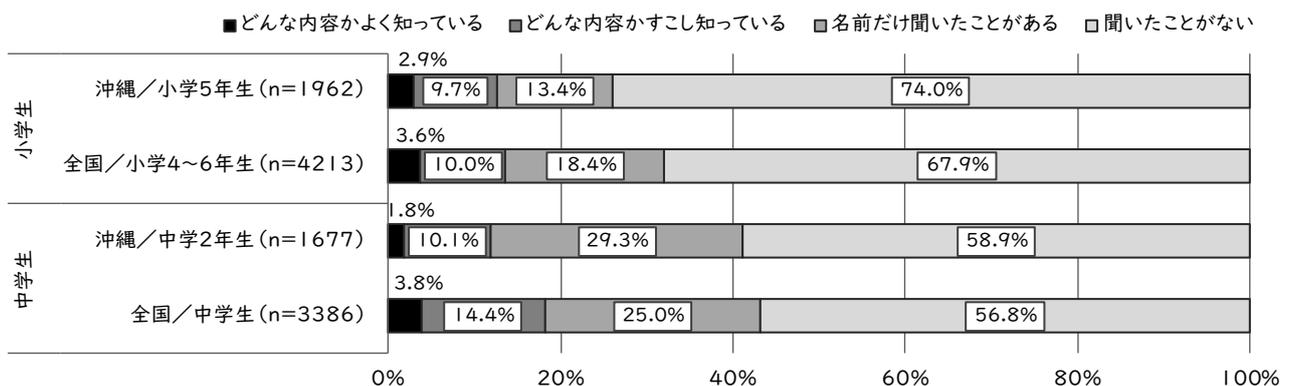
図7-2-2では、こども家庭庁(株式会社サーベイリサーチセンター・2024年)「児童の権利に関する条約の認知度等調査及び同条約の普及啓発方法の検討のための調査研究報告書」との比較をしています。ただし、実施方法(国の調査はWEB調査)や対象が異なる(国の調査は小学4~6年生、中学生は全学年)ため、参考程度となります。また、国の調査は無回答の選択肢がなかったため、2024年沖縄県調査も無回答を除いた割合を示しています。小学生における「聞いたことがない」割合は、全国調査では67.9%、沖縄県では74.0%となっています。中学生における「聞いたことがない」割合は、全国調査では56.8%、沖縄県では58.9%となっています。

図7-2-1 【小5児童・中2生徒】あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか



国の調査との比較

図7-2-2 【小5児童・中2生徒】あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか



子どもの権利条約の4つの原則について

さらに、子どもの権利条約の4つの原則について、それぞれ「どんな内容がよく知っている」から「聞いたことがない」まで回答を求めています。「聞いたことがない」に注目すると、「生命、生存および発達に対する権利（命が守られ成長できること）」（図7-2-3）は、小学5年生で 58.5%、中学2年生で 53.6%、「子どもの最善の利益（子どもにとって、もっともよいこと）」（図7-2-4）は、同様に 63.3%、61.7%、「子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）」（図7-2-5）は、52.1%、41.7%、「差別の禁止（差別のないこと）」（図7-2-6）は、30.5%、35.9%となっています。「差別の禁止（差別のないこと）」については、他の3つの権利と比べると、「どんな内容がよく知っている」の割合が小学5年生（29.7%）、中学2年生（17.7%）と、もっとも高くなっています。

図7-2-3 【小5児童・中2生徒】生命、生存および発達に対する権利（命が守られ成長できること）

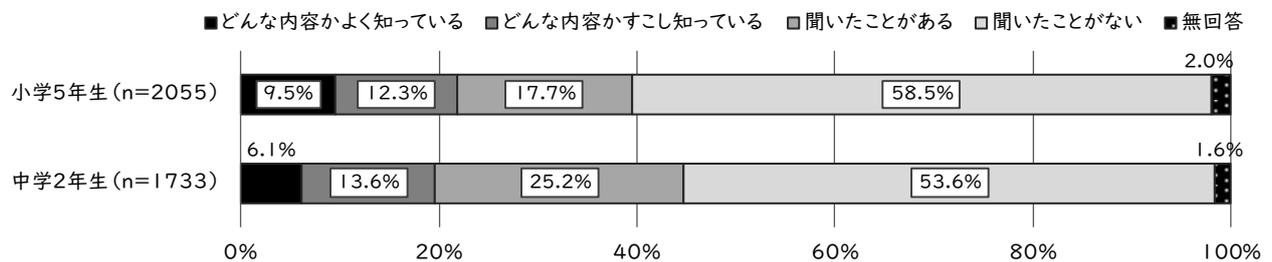


図7-2-4 【小5児童・中2生徒】子どもの最善の利益（子どもにとって、もっともよいこと）

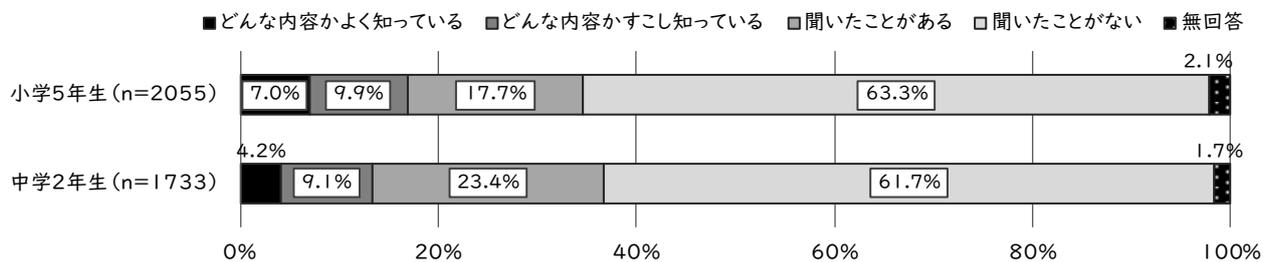


図7-2-5 【小5児童・中2生徒】子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）

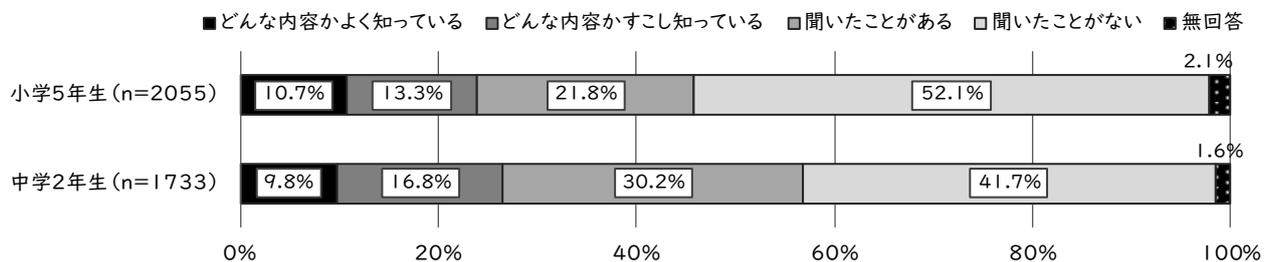
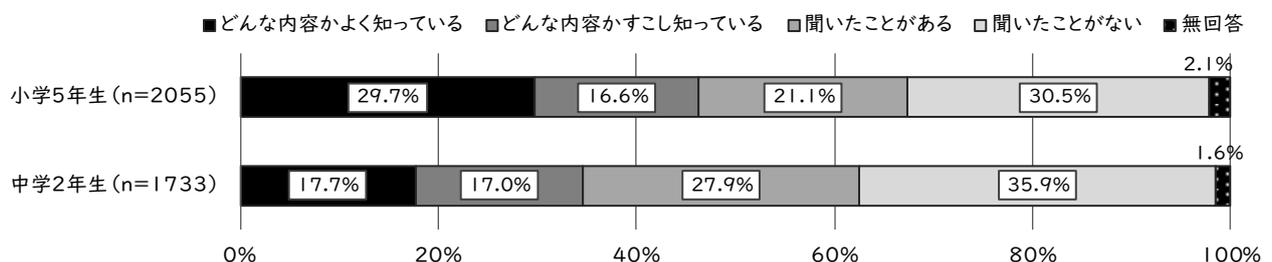


図7-2-6 【小5児童・中2生徒】差別の禁止（差別のないこと）



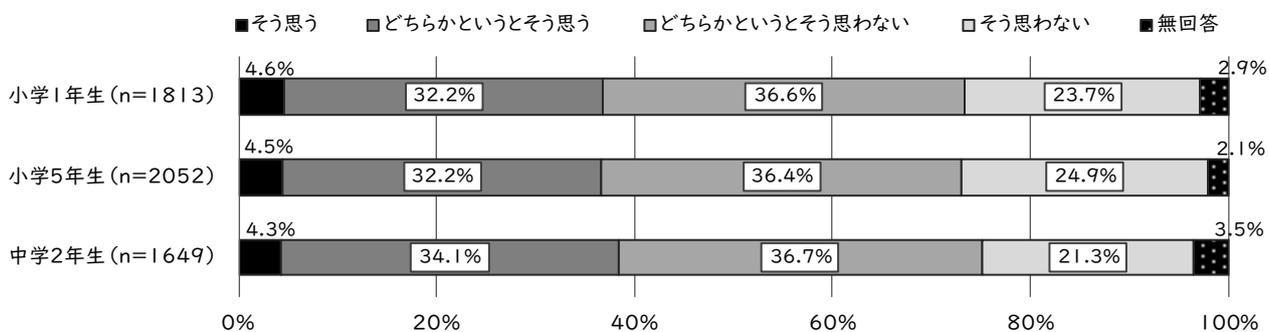
3

子育てに温かい社会に向かっているか(保護者)

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者に対して、「あなたは、沖縄の社会が、『結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっている』と考えますか」と尋ねました。

図7-3-1によると、子どもの学年によらず、「どちらかというと思わない」がもっとも多く、次いで「どちらかというと思う」が多くなっています。「そう思う」あるいは「どちらかというと思う」を合わせても、40%台に届いていませんでした。

図7-3-1 【小1・小5・中2保護者】あなたは、沖縄の社会が、「結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と考えますか



4 保護者自身の将来について

小学1年生、小学5年生、中学2年生の保護者に対して、「あなたは、自分の将来について明るい希望をもっていますか」を尋ねました。

図7-4-1によると、小学1年生の保護者においては、「希望がある」あるいは「どちらかといえば希望がある」へ回答した割合を合わせると、一般層では80.8%、低所得層Ⅱでは68.3%、低所得層Ⅰでは61.2%となっていました。所得が低いほど、将来への明るい希望をもっている割合は低くなっていきます。

また、小学5年生の保護者においては(図7-4-2)、同様の割合が一般層では80.3%、低所得層Ⅱでは66.0%、低所得層Ⅰでは62.5%となっていました。

さらに、中学2年生の保護者でも同様な傾向が見られ(図7-4-3)、一般層では80.3%、低所得層Ⅱでは68.8%、低所得層Ⅰでは59.7%となっていました。

図7-4-1 【小1保護者】あなたは、自分の将来について明るい希望をもっていますか

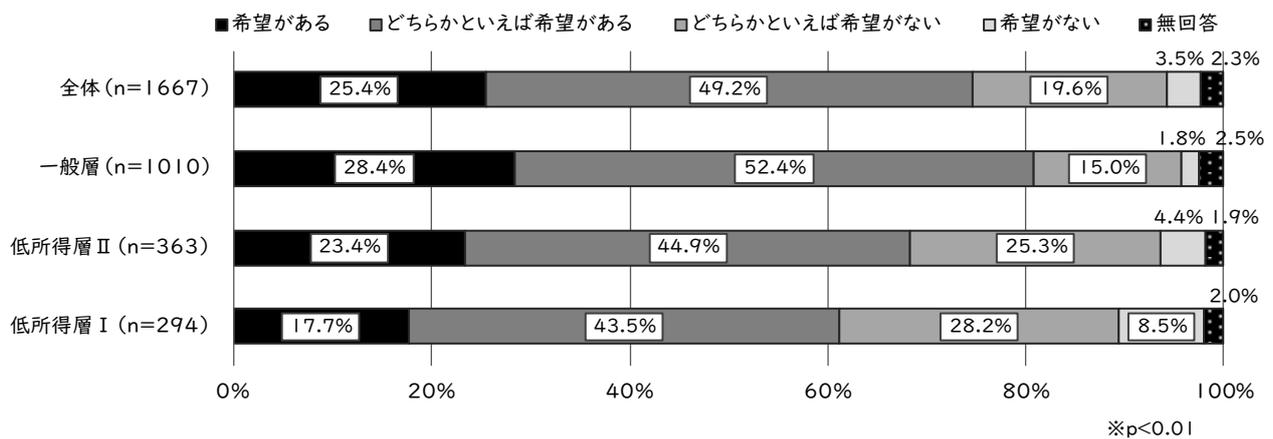


図7-4-2 【小5保護者】あなたは、自分の将来について明るい希望をもっていますか

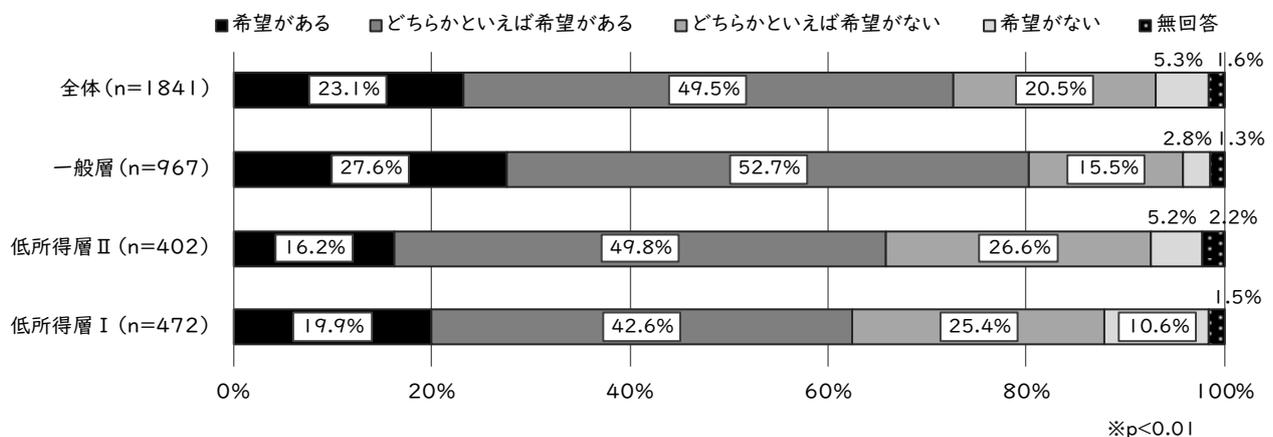
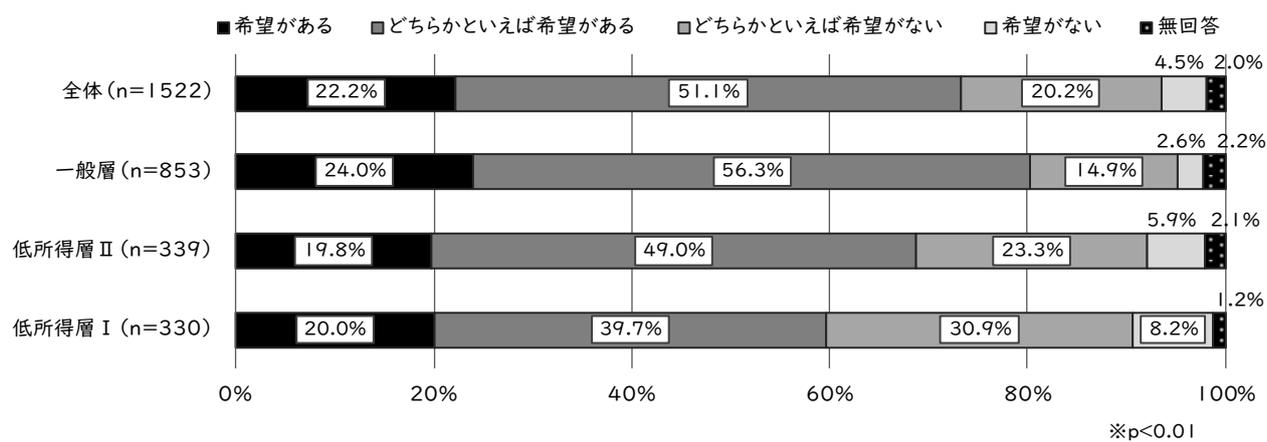


図7-4-3 【中2保護者】あなたは、自分の将来について明るい希望をもっていますか



本章では、こどもたちの望む社会のあり方や子どもの権利条約の認知状況、また、保護者自身が社会に対して抱く思いや将来への希望について分析しています。

第1節では、児童・生徒に大人に取り組んでほしいことについて分析しました。

図7-1-1及び図7-1-2から、児童・生徒が大人に期待する取組として「いじめのない社会を作ること」「こどもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること」「本当に困っているこどもの声にしっかり耳を傾けること」が上位に挙げられています。特に、小学5年生では「いじめのない社会を作ること」がもっとも多く選ばれ(80.7%)、そのうち 26.4%が最優先事項として挙げています。一方、中学2年生では「本当に困っているこどもの声にしっかり耳を傾けること」(70.7%)が「いじめのない社会を作ること」をわずかに上回り、「こどもが関わることを決める時、こどもの意見を聞いてくれること」と答えた割合も68.1%と高い傾向が見られます。

これらの結果から、こどもたちは年齢を重ねるにつれ、社会や自身の状況をより具体的に理解し、自分の意見や立場を尊重してほしいという要求が強まることがわかります。また、最優先で取り組むべきこととして、中学2年生で「教育の無料化」(「小学校・中学校・高校・大学までの教育を無料で受けられること」)を希望する割合(16.2%)が小学5年生(10.1%)より高い点から、家庭の経済状況を意識する機会が増えていることがうかがえます。

沖縄県のこどもたちは、いじめの根絶や安全な生活環境の提供を強く求めており、特に年齢が上がるにつれて、自身の声が尊重されることや経済的負担の軽減への期待が高まっています。また、2023年の日本財団「こども1万人意識調査」(全国調査)においても、「高校・大学までの教育を無料で受けられること」が40.3%で最も多く、「いじめのない社会を作ること」「子どもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること」「本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること」がそれぞれ30%以上を占めていました。このことから、沖縄県のこどもたちの声は、全国的な課題とも一致していると言えます。これらの背景を踏まえ、こどもたちが安心して成長できる環境を整え、彼らの声に寄り添う社会づくりが必要です。

第2節では、児童・生徒の子どもの権利条約の認知状況について分析しました。

図7-2-1によると、「子どもの権利条約」を知らない児童・生徒が多数を占め、小学5年生で70.7%、中学2年生で57.0%が「聞いたことがない」と回答しています。一方、「どんな内容かよく知っている」と答えた割合はごく少数で、小学5年生が2.8%、中学2年生が1.7%にとどまりました。

さらに、図7-2-3から図7-2-6では、条約の4つの原則についても認知度が低いことが明らかになっています。「生命、生存および発達に対する権利」や「こどもの最善の利益」に関する認知は特に低く、小学5年生の約6割が「聞いたことがない」と回答しています。もっとも認知度が高い「差別の禁止」ですら、小学5年生の29.7%、中学2年生の17.7%が「よく知っている」と答えるにとどまります。

これらの結果から、こどもの権利に関する教育が十分に普及していないことがわかります。特に沖縄県では全国よりも認知度が低い(図7-2-2)ため、地域課題としてこどもの権利の周知啓発に取り組む必要があります。こどもたちが自身のもっている権利を知らないと、自分の権利を守れず、不当な扱いや社会的な不利益を受けるリスクを高めます。そのため、こどもが自身の権利を学び、行使できるような教育や啓発活動が必要です。また、大人がこれを理解し、こどもが安心して成長できる環境を整えることも不可欠です。

条約が国連で採択され36年、日本が批准して31年が経過した現在、依然として認知度が低い原因と対策について大人が真剣に向き合い、「こどもの権利が当たり前を実現される社会」の構築が求められています。

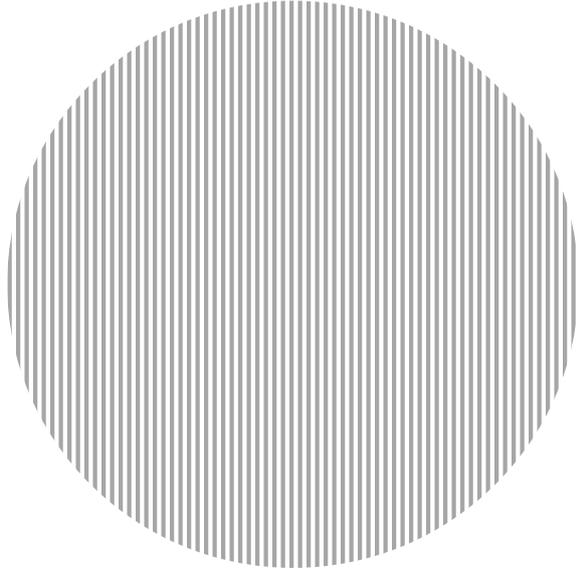
第3節と第4節では、保護者へ今の社会や自身の将来に関して尋ねた結果を分析しました。

図7-3-1によると、沖縄県の保護者の多くが「結婚、妊娠、子ども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と感じていないことがわかります。「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた割合は40%未満にとどまります。

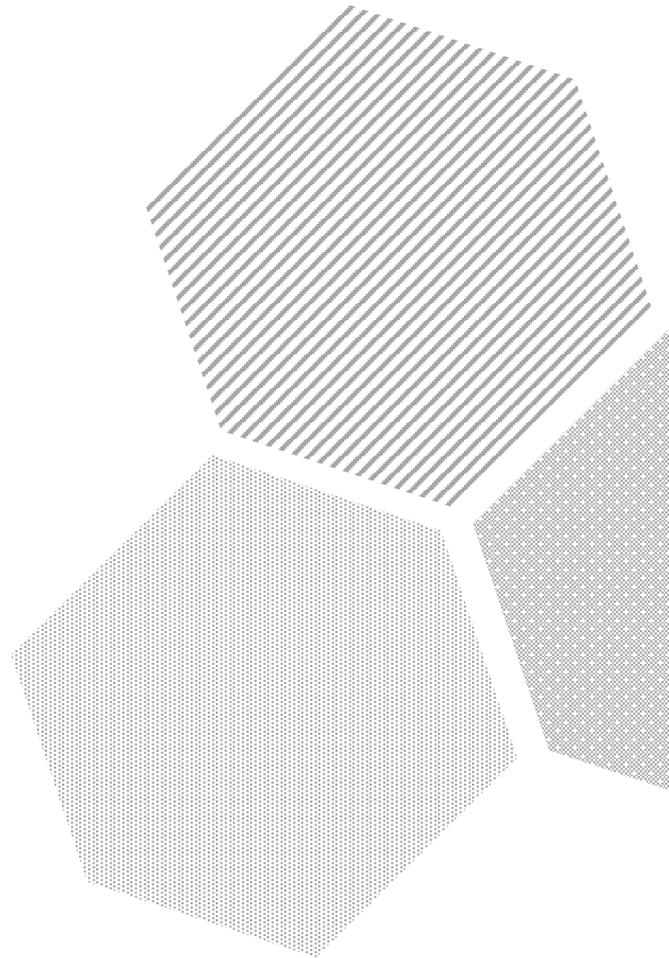
2023年に子ども家庭庁が実施した「子ども政策の推進に関する意識調査」では、全国で「子育てに温かい社会に向かっている」と考える人の割合が27.8%とさらに低い結果でした。これを考慮すると、沖縄県では子育て支援や家庭を支える仕組みが一定程度進展している可能性がありますが、それでも半数以上の保護者が社会的支援の不足を感じていることが示唆されます。

第4節の図7-4-1から図7-4-3では、保護者の将来に対する希望が経済状況によって大きく異なることが明らかになりました。「希望がある」「どちらかといえば希望がある」と答えた割合は、一般層では約80%であるのに対し、低所得層Ⅰでは約60%にとどまっています。

この結果は、家庭の経済的安定が保護者の心理的安定や将来の見通しに直接的な影響を与えていることを示しています。また、保護者の心理的負担が、子どもの精神的健康や教育環境にも波及する可能性があります。これを改善するためには、生活費や教育費への補助、職業訓練の提供、メンタルヘルスサポートなどを組み合わせた包括的な支援が必要です。



集計結果



単純集計(児童・生徒)

【問1】あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		男	女	その他・ 答えたくない	無回答	合計
小学5年生	n	923	1043	21	68	2055
中学2年生		778	884	36	35	1733
小学5年生	%	44.9	50.8	1.0	3.3	100.0
中学2年生		44.9	51.0	2.1	2.0	100.0

【問2】おうちで、日本語以外のことばを使用していますか。(あてはまるもの1つに○)

		日本語のみを 使用している	日本語以外の ことばも使用している が、日本語の方が多い	日本語以外の ことばを使うことが 多い	無回答	合計
小学5年生	n	1657	304	19	75	2055
中学2年生		1513	167	15	38	1733
小学5年生	%	80.6	14.8	0.9	3.6	100.0
中学2年生		87.3	9.6	0.9	2.2	100.0

【問3】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。(あてはまるものすべてに○)

(小5 n=2055、中2 n=1733)

		自分で勉強する	塾で勉強する	家庭教師に 教えてもらう	地域の人などが 行う無料の勉強 会に参加する	家の人に教えて もらう
小学5年生	n	1581	471	21	22	897
中学2年生		1093	622	14	11	356
小学5年生	%	76.9	22.9	1.0	1.1	43.6
中学2年生		63.1	35.9	0.8	0.6	20.5

		友だちと 勉強する	その他	学校の授業以外 で勉強はしない	無回答
小学5年生	n	663	133	83	55
中学2年生		524	43	231	18
小学5年生	%	32.3	6.5	4.0	2.7
中学2年生		30.2	2.5	13.3	1.0

【問4】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

(①、②それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①学校がある日(月～金曜日)

		まったく しない	30分より 少ない	30分以上、 1時間 より少ない	1時間以上、 2時間 より少ない	2時間以上、 3時間 より少ない	3時間以上	無回答	合計
小学5年生	n	64	521	788	411	111	97	63	2055
中学2年生		346	425	376	331	182	48	25	1733
小学5年生	%	3.1	25.4	38.3	20.0	5.4	4.7	3.1	100.0
中学2年生		20.0	24.5	21.7	19.1	10.5	2.8	1.4	100.0

②学校がない日(土・日曜日・祝日)

		まったく しない	30分より 少ない	30分以上、 1時間 より少ない	1時間以上、 2時間 より少ない	2時間以上、 3時間 より少ない	3時間以上	無回答	合計
小学5年生	n	322	559	616	299	73	46	140	2055
中学2年生		537	409	370	249	87	32	49	1733
小学5年生	%	15.7	27.2	30.0	14.5	3.6	2.2	6.8	100.0
中学2年生		31.0	23.6	21.4	14.4	5.0	1.8	2.8	100.0

【問5】あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

		上のほう	やや 上のほう	まん中 あたり	やや 下のほう	下のほう	わからない	無回答	合計
小学5年生	n	218	379	706	214	199	311	28	2055
中学2年生		195	314	555	219	333	101	16	1733
小学5年生	%	10.6	18.4	34.4	10.4	9.7	15.1	1.4	100.0
中学2年生		11.3	18.1	32.0	12.6	19.2	5.8	0.9	100.0

【問6】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

		いつもわかる	だいたいわかる	教科によってはわからないことがある	わからないことが多い	ほとんどわからない	無回答	合計
小学5年生	n	294	859	689	130	37	46	2055
中学2年生		130	649	696	154	67	37	1733
小学5年生	%	14.3	41.8	33.5	6.3	1.8	2.2	100.0
中学2年生		7.5	37.4	40.2	8.9	3.9	2.1	100.0

【問6-1】問6で「3. 教科によってはわからないことがある」「4. わからないことが多い」「5. ほとんどわからない」を選んだ方にお聞きします。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。(あてはまるもの1つに○)

		小学1・2年生のころ	小学3・4年生のころ	小学5年生になってから ／小学5・6年生のころ	中学1年生のころ	中学2年生になってから	無回答	合計
小学5年生	n	74	457	308	/	/	17	856
中学2年生		34	67	158	443	200	15	917
小学5年生	%	8.6	53.4	36.0	/	/	2.0	100.0
中学2年生		3.7	7.3	17.2	48.3	21.8	1.6	100.0

【問7】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか。(あてはまるものすべてに○)

(小5 n=2055、中2 n=1733)

		親	親以外の家族(きょうだいや、祖父母など)	学校の先生	塾や習い事などの先生	その他の大人	友だち	教えてもらえる人がいない	無回答
小学5年生	n	1512	520	1032	322	85	1246	22	111
中学2年生		661	293	896	494	37	1210	49	91
小学5年生	%	73.6	25.3	50.2	15.7	4.1	60.6	1.1	5.4
中学2年生		38.1	16.9	51.7	28.5	2.1	69.8	2.8	5.3

【問8】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまるもの1つに○)

		中学まで	高校まで	専門学校まで	短大・高専まで	大学またはそれ以上	まだわからない	無回答	合計
小学5年生	n	34	415	315	83	593	572	43	2055
中学2年生		6	342	226	62	654	379	64	1733
小学5年生	%	1.7	20.2	15.3	4.0	28.9	27.8	2.1	100.0
中学2年生		0.3	19.7	13.0	3.6	37.7	21.9	3.7	100.0

【問8-1】問8で1~5を選んだ方にお聞きします。その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

(小5 n=1440、中2 n=1290)

		希望する学校や職業があるから	自分の成績から考えて	親がそう言っているから	兄・姉がそうしているから	まわりの先輩や友だちがそうしているから
小学5年生	n	798	217	144	76	45
中学2年生		702	124	198	90	69
小学5年生	%	55.4	15.1	10.0	5.3	3.1
中学2年生		54.4	9.6	15.3	7.0	5.3

		家にお金がないと思うから	早く働く必要があるから	その他	とくに理由はない	無回答
小学5年生	n	54	107	136	255	18
中学2年生		20	57	80	295	7
小学5年生	%	3.8	7.4	9.4	17.7	1.3
中学2年生		1.6	4.4	6.2	22.9	0.5

【問9】あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。

(あてはまるもの1つに○)

		参加している	参加していない	無回答	合計
小学5年生	n	1058	950	47	2055
中学2年生		1220	437	76	1733
小学5年生	%	51.5	46.2	2.3	100.0
中学2年生		70.4	25.2	4.4	100.0

【問9-1】問9で「1. 参加している」を選んだ方にお聞きます。

あなたは、クラブや部活動の顧問や監督、指導者（コーチ）から指導を受けてどのように感じていますか。

（あてはまるものすべてに○）

（小5 n=1058、中2 n=1220）

		教え方／指導がわかりやすい	前より上手になった／体力・技術が向上している	クラブ・部活動がもっと好きになった	もっと技術を教えてほしい／もっと専門的な技術指導を受けたい	教え方／指導がきびしい
小学5年生	n	650	744	483	348	108
中学2年生		624	739	460	228	86
小学5年生	%	61.4	70.3	45.7	32.9	10.2
中学2年生		51.1	60.6	37.7	18.7	7.0

		練習／指導時間が長い	練習／指導時間が短い	教え方／指導がわかりにくい	その他	とくに感じない	無回答
小学5年生	n	133	124	49	52	41	3
中学2年生		56	129	55	47	154	2
小学5年生	%	12.6	11.7	4.6	4.9	3.9	0.3
中学2年生		4.6	10.6	4.5	3.9	12.6	0.2

【問9-2】問9で「2. 参加していない」を選んだ方にお聞きます。

参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

（小5 n=950、中2 n=437）

		入りたいクラブ・部活動がないから	塾や習い事が忙しいから	費用がかかるから	家の事情（家族の世話、家事など）があるから	一緒に入る友だちがいないから	その他	無回答
小学5年生	n	490	274	102	83	125	206	6
中学2年生		255	85	41	18	50	131	5
小学5年生	%	51.6	28.8	10.7	8.7	13.2	21.7	0.6
中学2年生		58.4	19.5	9.4	4.1	11.4	30.0	1.1

【問10】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか。ある場合は「1.ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2.ほしい」、いらないと思うものであれば「3.ほしくない」に○をつけてください。(①～⑭／⑯それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①自分の楽しみのための本(マンガやダウンロードするものをふくむ)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1143	352	512	48	2055
中学2年生		1123	202	392	16	1733
小学5年生	%	55.6	17.1	24.9	2.3	100.0
中学2年生		64.8	11.7	22.6	0.9	100.0

②子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1099	691	225	40	2055
中学2年生		1170	418	134	11	1733
小学5年生	%	53.5	33.6	10.9	1.9	100.0
中学2年生		67.5	24.1	7.7	0.6	100.0

③(自宅で)インターネットにつながる環境

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1827	115	63	50	2055
中学2年生		1663	46	15	9	1733
小学5年生	%	88.9	5.6	3.1	2.4	100.0
中学2年生		96.0	2.7	0.9	0.5	100.0

④自宅で宿題をすることができる場所

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1795	148	76	36	2055
中学2年生		1564	101	56	12	1733
小学5年生	%	87.3	7.2	3.7	1.8	100.0
中学2年生		90.2	5.8	3.2	0.7	100.0

⑤スポーツ用品

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1362	214	435	44	2055
中学2年生		1278	117	326	12	1733
小学5年生	%	66.3	10.4	21.2	2.1	100.0
中学2年生		73.7	6.8	18.8	0.7	100.0

⑥自転車

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1107	473	420	55	2055
中学2年生		927	296	496	14	1733
小学5年生	%	53.9	23.0	20.4	2.7	100.0
中学2年生		53.5	17.1	28.6	0.8	100.0

⑦小5/月 500 円ほどの、自分で自由に使えるお金(おこづかい)

中2/月 2,000 円ほどの、自分で自由に使えるお金(おこづかい)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	962	752	305	36	2055
中学2年生		913	594	214	12	1733
小学5年生	%	46.8	36.6	14.8	1.8	100.0
中学2年生		52.7	34.3	12.3	0.7	100.0

⑧2足以上のサイズのあった靴

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1485	293	234	43	2055
中学2年生		1414	189	119	11	1733
小学5年生	%	72.3	14.3	11.4	2.1	100.0
中学2年生		81.6	10.9	6.9	0.6	100.0

⑨スマートフォン

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	992	844	181	38	2055
中学2年生		1430	231	56	16	1733
小学5年生	%	48.3	41.1	8.8	1.8	100.0
中学2年生		82.5	13.3	3.2	0.9	100.0

⑩学習塾(または家庭教師、オンラインふくむ)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	572	196	1232	55	2055
中学2年生		686	316	714	17	1733
小学5年生	%	27.8	9.5	60.0	2.7	100.0
中学2年生		39.6	18.2	41.2	1.0	100.0

⑪1年に1回の家族旅行(1泊以上)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	935	878	193	49	2055
中学2年生		711	669	337	16	1733
小学5年生	%	45.5	42.7	9.4	2.4	100.0
中学2年生		41.0	38.6	19.4	0.9	100.0

⑫小5/友だちが持っているような文具(えんぴつ、消しゴム、筆箱など)

中2/友だちが持っているような文具(シャーペン、色ペン、ペンケースなど)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1199	302	512	42	2055
中学2年生		1287	104	331	11	1733
小学5年生	%	58.3	14.7	24.9	2.0	100.0
中学2年生		74.3	6.0	19.1	0.6	100.0

⑬新しい(お古でない)洋服

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1434	345	243	33	2055
中学2年生		1322	241	155	15	1733
小学5年生	%	69.8	16.8	11.8	1.6	100.0
中学2年生		76.3	13.9	8.9	0.9	100.0

⑭習い事(音楽、スポーツ、習字など)

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
小学5年生	n	1391	165	464	35	2055
中学2年生		1026	129	559	19	1733
小学5年生	%	67.7	8.0	22.6	1.7	100.0
中学2年生		59.2	7.4	32.3	1.1	100.0

⑮めがねまたはコンタクトレンズ(矯正用) ※中学2年生のみ

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
中学2年生	n	666	105	947	15	1733
	%	38.4	6.1	54.6	0.9	100.0

⑯生理用品(※必要性がない場合は、「3」に○をつけてください) ※中学2年生女子のみ

		ある	ない(ほしい)	ない(ほしくない)	無回答	合計
中学2年生	n	804	20	40	20	884
	%	91.0	2.3	4.5	2.3	100.0

【問11】あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。あてはまらない場合は「8. 全然しない」に○をつけてください。(①～⑧それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①ゲーム(ゲーム機、ウェブなど)をする

		毎日 4時間 以上	毎日 2～4 時間	毎日 1～2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	262	395	488	219	87	230	103	226	45	2055
中学2年生		238	382	383	178	62	106	91	281	12	1733
小学5年生	%	12.7	19.2	23.7	10.7	4.2	11.2	5.0	11.0	2.2	100.0
中学2年生		13.7	22.0	22.1	10.3	3.6	6.1	5.3	16.2	0.7	100.0

②SNS(LINEなど)を見たり、書き込んだりする

		毎日 4時間 以上	毎日 2～4 時間	毎日 1～2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	62	88	173	332	101	119	86	1039	55	2055
中学2年生		144	285	344	524	56	68	29	267	16	1733
小学5年生	%	3.0	4.3	8.4	16.2	4.9	5.8	4.2	50.6	2.7	100.0
中学2年生		8.3	16.4	19.8	30.2	3.2	3.9	1.7	15.4	0.9	100.0

③テレビやインターネット(YouTubeなど)をみる

		毎日 4時間 以上	毎日 2～4 時間	毎日 1～2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	335	481	576	277	101	136	59	45	45	2055
中学2年生		304	477	527	262	56	53	13	29	12	1733
小学5年生	%	16.3	23.4	28.0	13.5	4.9	6.6	2.9	2.2	2.2	100.0
中学2年生		17.5	27.5	30.4	15.1	3.2	3.1	0.8	1.7	0.7	100.0

④屋外での運動

		毎日 4時間 以上	毎日 2～4 時間	毎日 1～2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	93	253	243	175	255	363	240	361	72	2055
中学2年生		92	421	276	116	216	198	102	297	15	1733
小学5年生	%	4.5	12.3	11.8	8.5	12.4	17.7	11.7	17.6	3.5	100.0
中学2年生		5.3	24.3	15.9	6.7	12.5	11.4	5.9	17.1	0.9	100.0

⑤家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)

		毎日 4時間 以上	毎日 2~4 時間	毎日 1~2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4~5日	1週間に 2~3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	20	42	120	413	235	430	377	371	47	2055
中学2年生		17	46	175	464	221	328	247	228	7	1733
小学5年生	%	1.0	2.0	5.8	20.1	11.4	20.9	18.3	18.1	2.3	100.0
中学2年生		1.0	2.7	10.1	26.8	12.8	18.9	14.3	13.2	0.4	100.0

⑥弟や妹の世話

		毎日 4時間 以上	毎日 2~4 時間	毎日 1~2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4~5日	1週間に 2~3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	96	86	126	157	90	110	70	1241	79	2055
中学2年生		60	61	81	170	77	77	69	1119	19	1733
小学5年生	%	4.7	4.2	6.1	7.6	4.4	5.4	3.4	60.4	3.8	100.0
中学2年生		3.5	3.5	4.7	9.8	4.4	4.4	4.0	64.6	1.1	100.0

⑦父母・祖父母など家族の介護・看病

		毎日 4時間 以上	毎日 2~4 時間	毎日 1~2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4~5日	1週間に 2~3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	7	4	9	21	10	31	40	1867	66	2055
中学2年生		4	5	2	10	11	17	33	1641	10	1733
小学5年生	%	0.3	0.2	0.4	1.0	0.5	1.5	1.9	90.9	3.2	100.0
中学2年生		0.2	0.3	0.1	0.6	0.6	1.0	1.9	94.7	0.6	100.0

⑧家族の通訳や手続きの手伝い

		毎日 4時間 以上	毎日 2~4 時間	毎日 1~2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4~5日	1週間に 2~3日	1週間に 1日	全然しない (あてはま らない)	無回答	合計
小学5年生	n	8	12	22	33	23	36	63	1788	70	2055
中学2年生		2	7	9	15	6	21	24	1637	12	1733
小学5年生	%	0.4	0.6	1.1	1.6	1.1	1.8	3.1	87.0	3.4	100.0
中学2年生		0.1	0.4	0.5	0.9	0.3	1.2	1.4	94.5	0.7	100.0

【問11-1】問11の「⑤家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)」で、1~7を選んだ方にお聞きします。
 家族の中で、家事をもっとも多く担っている人はだれですか。(あてはまるもの1つに○)

		自分	お母さん	お父さん	その他の家族	無回答	合計
小学5年生	n	14	1348	119	80	76	1637
中学2年生		28	1254	116	59	41	1498
小学5年生	%	0.9	82.3	7.3	4.9	4.6	100.0
中学2年生		1.9	83.7	7.7	3.9	2.7	100.0

【問11-2】問11の「⑦父母・祖父母など家族の介護・看病」で、1~7を選んだ方にお聞きします。
 あなたが介護・看病している人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

(小5 n=122、中2 n=82)

		弟・妹	お兄さん・お姉さん	お母さん	お父さん	おじいさん・おばあさん	その他の家族	無回答
小学5年生	n	21	12	32	17	50	11	14
中学2年生		6	5	14	5	36	10	11
小学5年生	%	17.2	9.8	26.2	13.9	41.0	9.0	11.5
中学2年生		7.3	6.1	17.1	6.1	43.9	12.2	13.4

【問12】あなたは、週にどのくらい食事をしていますか。(①~③それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①朝食

		毎日食べる(週7日)	週5~6日	週3~4日	週1~2日、ほとんど食べない	無回答	合計
小学5年生	n	1776	142	53	49	35	2055
中学2年生		1383	184	44	100	22	1733
小学5年生	%	86.4	6.9	2.6	2.4	1.7	100.0
中学2年生		79.8	10.6	2.5	5.8	1.3	100.0

②夕食

		毎日食べる (週7日)	週5~6日	週3~4日	週1~2日、ほと んど食べない	無回答	合計
小学5年生	n	1946	42	9	5	53	2055
中学2年生		1651	39	8	7	28	1733
小学5年生	%	94.7	2.0	0.4	0.2	2.6	100.0
中学2年生		95.3	2.3	0.5	0.4	1.6	100.0

③夏休みや冬休みなどの期間の昼食

		毎日食べる (週7日)	週5~6日	週3~4日	週1~2日、ほと んど食べない	無回答	合計
小学5年生	n	1801	145	41	15	53	2055
中学2年生		1408	184	79	34	28	1733
小学5年生	%	87.6	7.1	2.0	0.7	2.6	100.0
中学2年生		81.2	10.6	4.6	2.0	1.6	100.0

【問13】全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」(まったく満足していない)から「10」(十分に満足している)の数字で教えてください。(あてはまるもの1つに○)

	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
	n		%	
0	21	13	1.0	0.8
1	10	16	0.5	0.9
2	18	24	0.9	1.4
3	45	58	2.2	3.3
4	78	80	3.8	4.6
5	184	162	9.0	9.3
6	104	116	5.1	6.7
7	197	223	9.6	12.9
8	344	315	16.7	18.2
9	297	222	14.5	12.8
10	714	480	34.7	27.7
無回答	43	24	2.1	1.4
合計	2055	1733	100.0	100.0

【問14】あなたの思いや気持ちを聞かせてください。次の①～⑧について教えてください。

(①～⑧それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①がんばれば、むくわれる

		とてもそう思う	どちらかといえはそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	960	773	200	63	59	2055
中学2年生		756	647	232	75	23	1733
小学5年生	%	46.7	37.6	9.7	3.1	2.9	100.0
中学2年生		43.6	37.3	13.4	4.3	1.3	100.0

②自分は価値のある人間だと思う

		とてもそう思う	どちらかといえはそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	734	752	389	112	68	2055
中学2年生		583	672	341	107	30	1733
小学5年生	%	35.7	36.6	18.9	5.5	3.3	100.0
中学2年生		33.6	38.8	19.7	6.2	1.7	100.0

③自分は家族に大事にされている

		とてもそう思う	どちらかといえはそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	1504	414	66	16	55	2055
中学2年生		1142	477	69	16	29	1733
小学5年生	%	73.2	20.1	3.2	0.8	2.7	100.0
中学2年生		65.9	27.5	4.0	0.9	1.7	100.0

④自分は友だちに好かれていると思う

		とてもそう思う	どちらかといえはそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	668	959	288	85	55	2055
中学2年生		600	811	229	62	31	1733
小学5年生	%	32.5	46.7	14.0	4.1	2.7	100.0
中学2年生		34.6	46.8	13.2	3.6	1.8	100.0

⑤不安に感じることはない

		とてもそう思う	どちらかといえ ばそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	560	583	532	322	58	2055
中学2年生		447	425	449	389	23	1733
小学5年生	%	27.3	28.4	25.9	15.7	2.8	100.0
中学2年生		25.8	24.5	25.9	22.4	1.3	100.0

⑥孤独を感じることはない

		とてもそう思う	どちらかといえ ばそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	879	475	329	298	74	2055
中学2年生		670	512	318	208	25	1733
小学5年生	%	42.8	23.1	16.0	14.5	3.6	100.0
中学2年生		38.7	29.5	18.3	12.0	1.4	100.0

⑦自分の将来が楽しみだ

		とてもそう思う	どちらかといえ ばそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	1095	525	264	115	56	2055
中学2年生		645	539	353	172	24	1733
小学5年生	%	53.3	25.5	12.8	5.6	2.7	100.0
中学2年生		37.2	31.1	20.4	9.9	1.4	100.0

⑧自分のことが好きだ

		とてもそう思う	どちらかといえ ばそう思う	あまり そう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学5年生	n	784	649	377	194	51	2055
中学2年生		569	583	363	193	25	1733
小学5年生	%	38.2	31.6	18.3	9.4	2.5	100.0
中学2年生		32.8	33.6	20.9	11.1	1.4	100.0

【問15】あなたは、これまでに①～⑤のようなことがありましたか。それぞれについて教えてください。

(①～⑤それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①学校に行きたくないと思った

		よくあった	時々あった	あまり なかった	なかった	答えたくない・ わからない	無回答	合計
小学5年生	n	399	804	391	384	24	53	2055
中学2年生		361	650	345	329	24	24	1733
小学5年生	%	19.4	39.1	19.0	18.7	1.2	2.6	100.0
中学2年生		20.8	37.5	19.9	19.0	1.4	1.4	100.0

②1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)

		よくあった	時々あった	あまり なかった	なかった	答えたくない・ わからない	無回答	合計
小学5年生	n	27	39	84	1768	63	74	2055
中学2年生		49	29	54	1512	57	32	1733
小学5年生	%	1.3	1.9	4.1	86.0	3.1	3.6	100.0
中学2年生		2.8	1.7	3.1	87.2	3.3	1.8	100.0

③いじめられた

		よくあった	時々あった	あまり なかった	なかった	答えたくない・ わからない	無回答	合計
小学5年生	n	66	244	267	1321	84	73	2055
中学2年生		22	124	153	1297	99	38	1733
小学5年生	%	3.2	11.9	13.0	64.3	4.1	3.6	100.0
中学2年生		1.3	7.2	8.8	74.8	5.7	2.2	100.0

④夜遅くまで子どもだけで過ごした

		よくあった	時々あった	あまり なかった	なかった	答えたくない・ わからない	無回答	合計
小学5年生	n	36	162	199	1544	51	63	2055
中学2年生		43	192	253	1178	37	30	1733
小学5年生	%	1.8	7.9	9.7	75.1	2.5	3.1	100.0
中学2年生		2.5	11.1	14.6	68.0	2.1	1.7	100.0

⑤学校に遅刻した

		よくあった	時々あった	あまり なかった	なかった	答えたくない・ わからない	無回答	合計
小学5年生	n	160	348	402	1050	34	61	2055
中学2年生		103	232	319	1020	35	24	1733
小学5年生	%	7.8	16.9	19.6	51.1	1.7	3.0	100.0
中学2年生		5.9	13.4	18.4	58.9	2.0	1.4	100.0

【問16】あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。

(あてはまるものすべてに○)

(小5 n=2055、中2 n=1733)

	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
	n		%	
親	1586	1169	77.2	67.5
きょうだい	600	488	29.2	28.2
祖父母など	504	242	24.5	14.0
学校の先生	825	511	40.1	29.5
学校の友だち	1258	1158	61.2	66.8
学校外の友だち	373	321	18.2	18.5
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど	112	112	5.5	6.5
こども相談(LINEや電話)の人	100	54	4.9	3.1
その他の大人(塾・習い事の先生、地域の人など)	112	76	5.5	4.4
ネットで知り合った人	45	87	2.2	5.0
だれにも相談できない、相談したくない	132	143	6.4	8.3
無回答	100	61	4.9	3.5

【問17 ※中2のみ】あなたは、今までに以下のようなことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

(中2 n=1733)

	n	%
一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある	68	3.9
一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある	73	4.2
家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感ずることがある	42	2.4
必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感ずることがある	9	0.5
両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある	307	17.7
一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある	41	2.4
一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる	23	1.3
一緒に住んでいる人にお酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる	36	2.1
家族の世話をしているため、やりたいことができないことがある	24	1.4
あてはまるものはない	1177	67.9
無回答	137	7.9

【問17】【問18】あなたは、大人たちが子どもたちのために取り組むべきことは何だと思いますか。

あなたにとって重要なことをすべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

(小5 n=2055、中2 n=1733)

	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
	n		%	
子どもが関わることを決めるとき、子どもの意見を聞いてくれること	1441	1181	70.1	68.1
すべての子どもが平等に扱われること	1392	1097	67.7	63.3
子どもが家族やその他の大人から愛情を受けること	1290	1057	62.8	61.0
小学校・中学校・高校・大学までの教育を無料で受けられること	1138	1013	55.4	58.5
自分に適した医療を無料で受けられること	1015	931	49.4	53.7
いじめのない社会を作ること	1659	1213	80.7	70.0
不登校の子どもが学べる場所(フリースクールやオンライン講座)を増やすこと	1333	966	64.9	55.7
子どもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること	1574	1105	76.6	63.8
犯罪を犯した子どもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること	1040	793	50.6	45.8
本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること	1555	1225	75.7	70.7
障がいのある子とない子が共に学ぶことができること	1400	953	68.1	55.0
困ったときに相談しやすい電話、SNS、窓口などがあること	1010	778	49.1	44.9
その他	142	82	6.9	4.7
とくになし	81	143	3.9	8.3
無回答	73	49	3.6	2.8

【問17-1】 【問18-1】

問17/18で選んだもののなかで、1番に取り組むべきことは何だと思いますか。1つ選んで、番号を記入してください。(「14. とくになし」を選んだ方は、記入せずに問18/19へ進んでください)

	小学5年生	中学2年生	小学5年生	中学2年生
	n		%	
子どもが関わることを決めるとき、子どもの意見を聞いてくれること	162	183	8.5	11.9
すべての子どもが平等に扱われること	294	227	15.5	14.7
子どもが家族やその他の大人から愛情を受けること	160	187	8.4	12.1
小学校・中学校・高校・大学までの教育を無料で受けられること	192	249	10.1	16.2
自分に適した医療を無料で受けられること	31	24	1.6	1.6
いじめのない社会を作ること	501	262	26.4	17.0
不登校の子どもが学べる場所(フリースクールやオンライン講座)を増やすこと	74	53	3.9	3.4
子どもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること	122	70	6.4	4.5
犯罪を犯した子どもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること	20	22	1.1	1.4
本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること	120	140	6.3	9.1
障がいのある子とない子が共に学ぶことができること	118	33	6.2	2.1
困ったときに相談しやすい電話、SNS、窓口などがあること	16	14	0.8	0.9
その他	5	7	0.3	0.5
無回答	86	70	4.5	4.5
合計	1901	1541	100.0	100.0

【問18】 【問19】 あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

		どんな内容かよく知っている	どんな内容かすこし知っている	名前だけ聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	合計
小学5年生	n	57	191	262	1452	93	2055
中学2年生		30	169	491	987	56	1733
小学5年生	%	2.8	9.3	12.7	70.7	4.5	100.0
中学2年生		1.7	9.8	28.3	57.0	3.2	100.0

【問19】【問20】あなたは、「子どもの権利条約」の4つの原則を知っていますか。

(①～④それぞれ、あてはまるもの1つに○)

①生命、生存および発達に対する権利(命が守られ成長できること)

		どんな内容かよく知っている	どんな内容かすこし知っている	聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	合計
小学5年生	n	196	252	364	1202	41	2055
中学2年生		105	235	436	929	28	1733
小学5年生	%	9.5	12.3	17.7	58.5	2.0	100.0
中学2年生		6.1	13.6	25.2	53.6	1.6	100.0

②子どもの最善の利益(子どもにとって、もっともよいこと)

		どんな内容かよく知っている	どんな内容かすこし知っている	聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	合計
小学5年生	n	143	204	364	1300	44	2055
中学2年生		72	158	405	1069	29	1733
小学5年生	%	7.0	9.9	17.7	63.3	2.1	100.0
中学2年生		4.2	9.1	23.4	61.7	1.7	100.0

③子どもの意見の尊重(意見を表明し参加できること)

		どんな内容かよく知っている	どんな内容かすこし知っている	聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	合計
小学5年生	n	219	273	448	1071	44	2055
中学2年生		169	291	524	722	27	1733
小学5年生	%	10.7	13.3	21.8	52.1	2.1	100.0
中学2年生		9.8	16.8	30.2	41.7	1.6	100.0

④差別の禁止(差別のないこと)

		どんな内容かよく知っている	どんな内容かすこし知っている	聞いたことがある	聞いたことがない	無回答	合計
小学5年生	n	611	341	433	627	43	2055
中学2年生		306	294	484	622	27	1733
小学5年生	%	29.7	16.6	21.1	30.5	2.1	100.0
中学2年生		17.7	17.0	27.9	35.9	1.6	100.0

単純集計(保護者)

【問1】この調査票が配布されたお子さんは、何年生ですか。(あてはまるもの1つに○)

		小学1年生	小学5年生	中学2年生	無回答	合計
小学1年生	n	1798	0	0	15	1813
小学5年生		0	2027	0	25	2052
中学2年生		0	0	1635	14	1649
小学1年生	%	99.2	0.0	0.0	0.8	100.0
小学5年生		0.0	98.8	0.0	1.2	100.0
中学2年生		0.0	0.0	99.2	0.8	100.0

【問2】お子さんの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		女	男	その他・ 答えたくない	無回答	合計
小学1年生	n	945	839	7	22	1813
小学5年生		1066	940	14	32	2052
中学2年生		862	762	6	19	1649
小学1年生	%	52.1	46.3	0.4	1.2	100.0
小学5年生		51.9	45.8	0.7	1.6	100.0
中学2年生		52.3	46.2	0.4	1.2	100.0

【問3】お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんから見た続柄でお答えください。

(あてはまるもの1つに○)

		母親(継母 を含む)	父親(継父 を含む)	祖父母	おじ、おばなど の親戚	施設職員・ 里親	その他	無回答	合計
小学1年生	n	1568	220	4	0	1	0	20	1813
小学5年生		1758	249	8	5	4	5	23	2052
中学2年生		1437	180	7	4	5	1	15	1649
小学1年生	%	86.5	12.1	0.2	0.0	0.1	0.0	1.1	100.0
小学5年生		85.7	12.1	0.4	0.2	0.2	0.2	1.1	100.0
中学2年生		87.1	10.9	0.4	0.2	0.3	0.1	0.9	100.0

【問4】お子さんと生計が同じご家族の人数(お子さんを含む)を教えてください。単身赴任しているご家族も含めてください。ただし、学業等で世帯を離れているひとり暮らしのお子さん等は含めないでください。

※2世帯住宅の場合、生計が別であれば、家族の人数として数えないでください。

(枠内に数字で記入してください)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
2人	36	69	62	2.0	3.4	3.8
3人	287	281	215	15.8	13.7	13.0
4人	584	624	526	32.2	30.4	31.9
5人	578	672	499	31.9	32.7	30.3
6人	223	270	217	12.3	13.2	13.2
7人	64	83	83	3.5	4.0	5.0
8人	20	15	24	1.1	0.7	1.5
9人以上	6	12	3	0.3	0.6	0.2
無回答	15	26	20	0.8	1.3	1.2
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問5】お子さんと生計が同じご家族の方は、どなたですか。それぞれ人数も教えてください。お子さんから見た続柄でお答えください。(あてはまるものすべてに○、人数はカッコの中に数字で記入してください)

※問4の補足となる問のため、集計は省略

【問6】お子さんの母親と父親の年齢を教えてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 母親

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
24歳以下	6	2	0	0.3	0.1	0.0
25~29歳	98	22	2	5.4	1.1	0.1
30~34歳	266	171	49	14.7	8.3	3.0
35~39歳	601	506	285	33.1	24.7	17.3
40~44歳	541	663	502	29.8	32.3	30.4
45~49歳	243	467	483	13.4	22.8	29.3
50~54歳	28	158	248	1.5	7.7	15.0
55歳以上	1	8	40	0.1	0.4	2.4
母親はいない	8	19	19	0.4	0.9	1.2
無回答	21	36	21	1.2	1.8	1.3
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

B. 父親

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
24歳以下	2	1	0	0.1	0.0	0.0
25~29歳	42	6	0	2.3	0.3	0.0
30~34歳	212	97	23	11.7	4.7	1.4
35~39歳	469	359	169	25.9	17.5	10.2
40~44歳	456	519	414	25.2	25.3	25.1
45~49歳	309	447	406	17.0	21.8	24.6
50~54歳	112	262	270	6.2	12.8	16.4
55歳以上	34	79	130	1.9	3.8	7.9
父親はいない	78	151	136	4.3	7.4	8.2
無回答	99	131	101	5.5	6.4	6.1
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問7】お住まいの市町村を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
		n			%		
北部 圏域	名護市	81	46	113	4.5	2.2	6.9
	国頭村、大宜味村、東村	8	15	11	0.4	0.7	0.7
	今帰仁村	6	27	0	0.3	1.3	0.0
	本部町	14	0	28	0.8	0.0	1.7
	恩納村	10	14	0	0.6	0.7	0.0
	宜野座村	6	14	0	0.3	0.7	0.0
	金武町	16	28	0	0.9	1.4	0.0
	伊江村、伊平屋村、伊是名村	18	4	33	1.0	0.2	2.0
中部 圏域	うるま市	162	145	120	8.9	7.1	7.3
	沖縄市	189	159	81	10.4	7.7	4.9
	宜野湾市	117	157	91	6.5	7.7	5.5
	浦添市	129	137	139	7.1	6.7	8.4
	読谷村	48	67	45	2.6	3.3	2.7
	嘉手納町	0	62	0	0.0	3.0	0.0
	北谷町	28	42	0	1.5	2.0	0.0
	北中城村	0	57	0	0.0	2.8	0.0
	中城村	82	11	0	4.5	0.5	0.0
	西原町	0	50	131	0.0	2.4	7.9
南部 圏域	那覇市	301	382	212	16.6	18.6	12.9
	糸満市	63	87	86	3.5	4.2	5.2
	豊見城市	98	129	63	5.4	6.3	3.8
	南城市	87	75	37	4.8	3.7	2.2
	与那原町	0	87	2	0.0	4.2	0.1
	南風原町	86	0	182	4.7	0.0	11.0
	八重瀬町	74	50	80	4.1	2.4	4.9
	久米島町	9	11	38	0.5	0.5	2.3
		渡嘉敷村、座間味村、粟国村、 渡名喜村、南大東村、北大東村	9	16	12	0.5	0.8
宮古・ 八重山圏域	宮古島市	74	76	58	4.1	3.7	3.5
	石垣市	65	71	73	3.6	3.5	4.4
	多良間村、竹富町、与那国町	16	8	0	0.9	0.4	0.0
無回答		17	25	14	0.9	1.2	0.8
合計		1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問8】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 母親

		中学 (中学部)まで	高校 (高等部)まで	専門学校まで	短大・ 高専まで	大学または それ以上	いない、 わからない	無回答	合計
小学1年生	n	73	479	477	244	503	9	28	1813
小学5年生		148	635	525	269	415	20	40	2052
中学2年生		82	516	426	274	307	15	29	1649
小学1年生	%	4.0	26.4	26.3	13.5	27.7	0.5	1.5	100.0
小学5年生		7.2	30.9	25.6	13.1	20.2	1.0	1.9	100.0
中学2年生		5.0	31.3	25.8	16.6	18.6	0.9	1.8	100.0

B. 父親

		中学 (中学部)まで	高校 (高等部)まで	専門学校まで	短大・ 高専まで	大学または それ以上	いない、 わからない	無回答	合計
小学1年生	n	99	503	336	43	670	79	83	1813
小学5年生		184	653	376	57	537	120	125	2052
中学2年生		102	548	300	55	437	110	97	1649
小学1年生	%	5.5	27.7	18.5	2.4	37.0	4.4	4.6	100.0
小学5年生		9.0	31.8	18.3	2.8	26.2	5.8	6.1	100.0
中学2年生		6.2	33.2	18.2	3.3	26.5	6.7	5.9	100.0

【問9】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものをお答えください。(あてはまるもの1つに○)

		正社員・ 正規職員・ 会社役員	嘱託・ 契約社員・ 派遣職員	パート・ アルバイト・ 日雇い・ 非常勤職員	自営業 (家族従業者、 内職、自由業、 フリーランス を含む)	いない、 わからない	働いて いない (専業主婦を 含む)	無回答	合計
小学1年生	n	725	156	479	191	11	213	38	1813
小学5年生		685	190	638	205	26	248	60	2052
中学2年生		643	153	457	152	21	169	54	1649
小学1年生	%	40.0	8.6	26.4	10.5	0.6	11.7	2.1	100.0
小学5年生		33.4	9.3	31.1	10.0	1.3	12.1	2.9	100.0
中学2年生		39.0	9.3	27.7	9.2	1.3	10.2	3.3	100.0

【問9-1】問9で「6.働いていない」を選んだ方にお聞きします。

働いていないもっとも主な理由を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		働きたいが、 希望する条件 の仕事が ないため	子育てを 優先したい ため	家族の 介護・介助 のため	自分の 病気や障害の ため	通学して いるため	その他の 理由	無回答	合計
小学1年生	n	38	105	9	19	6	33	3	213
小学5年生		39	113	16	40	3	32	5	248
中学2年生		22	62	11	36	3	30	5	169
小学1年生	%	17.8	49.3	4.2	8.9	2.8	15.5	1.4	100.0
小学5年生		15.7	45.6	6.5	16.1	1.2	12.9	2.0	100.0
中学2年生		13.0	36.7	6.5	21.3	1.8	17.8	3.0	100.0

【問9-2】問9で1~4を選んだ方にお聞きします。

①1週間の平均的な労働日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	合計
小学1年生	n	4	15	51	153	1130	184	10	4	1551
小学5年生		11	16	97	211	1158	187	23	15	1718
中学2年生		6	18	51	140	965	176	33	16	1405
小学1年生	%	0.3	1.0	3.3	9.9	72.9	11.9	0.6	0.3	100.0
小学5年生		0.6	0.9	5.6	12.3	67.4	10.9	1.3	0.9	100.0
中学2年生		0.4	1.3	3.6	10.0	68.7	12.5	2.3	1.1	100.0

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		2時間 未満	2~4 時間未満	4~6 時間未満	6~8 時間未満	8~10 時間未満	10~12 時間未満	12時間 以上	無回答	合計
小学1年生	n	10	54	257	628	545	43	13	1	1551
小学5年生		20	66	383	617	560	42	17	13	1718
中学2年生		8	53	233	474	545	70	20	2	1405
小学1年生	%	0.6	3.5	16.6	40.5	35.1	2.8	0.8	0.1	100.0
小学5年生		1.2	3.8	22.3	35.9	32.6	2.4	1.0	0.8	100.0
中学2年生		0.6	3.8	16.6	33.7	38.8	5.0	1.4	0.1	100.0

③昨年の同時期と比べて、就労収入（月給、時給、事業所得等）に変化はありましたか。

（あてはまるもの1つに○）

		増えた	変わらない	減った	無回答	合計
小学1年生	n	482	800	254	15	1551
小学5年生		547	904	252	15	1718
中学2年生		446	761	185	13	1405
小学1年生	%	31.1	51.6	16.4	1.0	100.0
小学5年生		31.8	52.6	14.7	0.9	100.0
中学2年生		31.7	54.2	13.2	0.9	100.0

【問10】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください。（あてはまるもの1つに○）

		正社員・ 正規職員・ 会社役員	嘱託・ 契約社員・ 派遣職員	パート・ アルバイト・ 日雇い・ 非常勤職員	自営業 (家族従業者、 内職、自由業、 フリーランス を含む)	いない、 わからない	働いて いない (専業主夫を 含む)	無回答	合計
小学1年生	n	1247	64	33	259	91	20	99	1813
小学5年生		1254	69	30	340	187	29	143	2052
中学2年生		1039	55	31	219	169	21	115	1649
小学1年生	%	68.8	3.5	1.8	14.3	5.0	1.1	5.5	100.0
小学5年生		61.1	3.4	1.5	16.6	9.1	1.4	7.0	100.0
中学2年生		63.0	3.3	1.9	13.3	10.2	1.3	7.0	100.0

【問10-1】問10で「6. 働いていない」を選んだ方にお聞きします。

働いていないもっとも主な理由を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

		働きたいが、 希望する条件 の仕事が ないため	子育てを 優先したい ため	家族の 介護・介助 のため	自分の 病気や障害の ため	通学して いるため	その他の 理由	無回答	合計
小学1年生	n	3	1	0	13	1	2	0	20
小学5年生		6	0	0	19	1	3	0	29
中学2年生		2	2	1	13	0	2	1	21
小学1年生	%	15.0	5.0	0.0	65.0	5.0	10.0	0.0	100.0
小学5年生		20.7	0.0	0.0	65.5	3.4	10.3	0.0	100.0
中学2年生		9.5	9.5	4.8	61.9	0.0	9.5	4.8	100.0

【問10-2】問10で1~4を選んだ方にお聞きます。

①1週間の平均的な労働日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	合計
小学1年生	n	0	1	13	17	968	515	81	8	1603
小学5年生		1	5	16	27	919	620	92	13	1693
中学2年生		2	4	10	29	786	429	66	18	1344
小学1年生	%	0.0	0.1	0.8	1.1	60.4	32.1	5.1	0.5	100.0
小学5年生		0.1	0.3	0.9	1.6	54.3	36.6	5.4	0.8	100.0
中学2年生		0.1	0.3	0.7	2.2	58.5	31.9	4.9	1.3	100.0

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

		2時間未満	2~4時間未満	4~6時間未満	6~8時間未満	8~10時間未満	10~12時間未満	12時間以上	無回答	合計
小学1年生	n	5	2	13	224	994	248	109	8	1603
小学5年生		11	6	30	285	959	265	122	15	1693
中学2年生		6	4	18	215	810	211	70	10	1344
小学1年生	%	0.3	0.1	0.8	14.0	62.0	15.5	6.8	0.5	100.0
小学5年生		0.6	0.4	1.8	16.8	56.6	15.7	7.2	0.9	100.0
中学2年生		0.4	0.3	1.3	16.0	60.3	15.7	5.2	0.7	100.0

③昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか。

(あてはまるもの1つに○)

		増えた	変わらない	減った	無回答	合計
小学1年生	n	517	888	176	22	1603
小学5年生		489	940	231	33	1693
中学2年生		367	784	177	16	1344
小学1年生	%	32.3	55.4	11.0	1.4	100.0
小学5年生		28.9	55.5	13.6	1.9	100.0
中学2年生		27.3	58.3	13.2	1.2	100.0

【問11】お子さんと生計(家計)を共にしている方全員の収入を合わせた、昨年の「世帯の年間手取り収入(ボーナス含む手取り額)」を教えてください。世帯の収入から、税金や社会保険料等の額を差し引いた後の額でお答えください。(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
50万円未満	13	21	7	0.7	1.0	0.4
50~100万円未満	22	51	33	1.2	2.5	2.0
100~150万円未満	47	77	51	2.6	3.8	3.1
150~200万円未満	77	108	93	4.2	5.3	5.6
200~250万円未満	82	121	84	4.5	5.9	5.1
250~300万円未満	80	136	94	4.4	6.6	5.7
300~350万円未満	139	156	138	7.7	7.6	8.4
350~400万円未満	176	175	163	9.7	8.5	9.9
400~500万円未満	250	298	217	13.8	14.5	13.2
500~600万円未満	247	235	198	13.6	11.5	12.0
600~700万円未満	204	186	158	11.3	9.1	9.6
700~800万円未満	142	107	125	7.8	5.2	7.6
800~900万円未満	78	77	76	4.3	3.8	4.6
900~1000万円未満	56	49	59	3.1	2.4	3.6
1000万円以上	65	70	49	3.6	3.4	3.0
無回答	135	185	104	7.4	9.0	6.3
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問11-1】問11の世帯の手取り収入のうち、お子さんの母親(または母親にかわる方)のおおよその年間収入を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
50万円未満	101	125	80	5.6	6.1	4.9
50~100万円未満	269	325	223	14.8	15.8	13.5
100~150万円未満	255	325	261	14.1	15.8	15.8
150~200万円未満	225	247	194	12.4	12.0	11.8
200~250万円未満	210	200	195	11.6	9.7	11.8
250~300万円未満	126	111	120	6.9	5.4	7.3
300~350万円未満	124	98	109	6.8	4.8	6.6
350~400万円未満	90	90	68	5.0	4.4	4.1
400~500万円未満	70	75	81	3.9	3.7	4.9
500~600万円未満	29	40	43	1.6	1.9	2.6
600~700万円未満	11	18	14	0.6	0.9	0.8
700万円以上	7	9	12	0.4	0.4	0.7
収入はない	166	196	139	9.2	9.6	8.4
わからない	29	33	13	1.6	1.6	0.8
母親はいない	11	24	24	0.6	1.2	1.5
無回答	90	136	73	5.0	6.6	4.4
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問11-2】問11の世帯の手取り収入のうち、お子さんの父親(または父親にかわる方)のおおよその年間収入を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
50万円未満	18	35	15	1.0	1.7	0.9
50~100万円未満	21	34	20	1.2	1.7	1.2
100~150万円未満	50	68	60	2.8	3.3	3.6
150~200万円未満	94	113	93	5.2	5.5	5.6
200~250万円未満	161	180	127	8.9	8.8	7.7
250~300万円未満	159	175	147	8.8	8.5	8.9
300~350万円未満	207	206	188	11.4	10.0	11.4
350~400万円未満	216	200	159	11.9	9.7	9.6
400~500万円未満	237	212	182	13.1	10.3	11.0
500~600万円未満	150	148	152	8.3	7.2	9.2
600~700万円未満	69	79	72	3.8	3.8	4.4
700万円以上	97	102	69	5.4	5.0	4.2
収入はない	7	12	13	0.4	0.6	0.8
わからない	70	95	44	3.9	4.6	2.7
父親はいない	95	186	165	5.2	9.1	10.0
無回答	162	207	143	8.9	10.1	8.7
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問12】あなたの世帯にとって、お子さんの学校教育費のなかで経済的な負担が大きいものはどれですか。下の1～14の中から、経済的な負担が大きいものの順に3つ選んで、番号を記載してください。

※3つ以下の方は、その中で順番を決めてください。

1 番目

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
教科書費、授業で使用する図書費 (副読本、ワークブック、辞書など)	80	90	69	4.4	4.4	4.2
学用品費 (授業で使用する筆記用具、絵・ 習字用具など文房具類)	117	161	21	6.5	7.8	1.3
体育用品費 (体育授業で使用する運動靴、 体育着・体育帽、水泳着など)	186	222	42	10.3	10.8	2.5
楽器購入費 (音楽授業で使用する リコーダー、ハーモニカなど)	39	15	3	2.2	0.7	0.2
実験実習費 (材料を含む。授業で使用する 製図用具、裁縫用具、調理用材料など)	3	16	1	0.2	0.8	0.1
教科外活動費 (クラブ活動・学芸会などの ために買った用具・物品など)	31	123	166	1.7	6.0	10.1
宿泊学習費 (自然教室、修学旅行など)	81	226	450	4.5	11.0	27.3
交通費・通学用自転車等 (定期券、スクール バス代、自転車購入・維持費など)	14	20	34	0.8	1.0	2.1
制服 (学校が通学のために指定した制服・ 学生服など)	77	139	523	4.2	6.8	31.7
通学用品費 (ランドセル、かばん、通学用くつなど)	552	236	23	30.4	11.5	1.4
給食費	402	495	207	22.2	24.1	12.6
PTA会費	43	75	30	2.4	3.7	1.8
その他 (上げきなど)	35	28	5	1.9	1.4	0.3
特にない	112	141	53	6.2	6.9	3.2
無回答	41	65	22	2.3	3.2	1.3
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

2番目

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
教科書費、授業で使用する図書費 (副読本、ワークブック、辞書など)	94	94	66	5.2	4.6	4.0
学用品費 (授業で使用する筆記用具、絵・ 習字用具など文房具類)	234	214	53	12.9	10.4	3.2
体育用品費 (体育授業で使用する運動靴、 体育着・体育帽、水泳着など)	322	328	174	17.8	16.0	10.6
楽器購入費 (音楽授業で使用する リコーダー、ハーモニカなど)	146	52	4	8.1	2.5	0.2
実験実習費 (材料を含む。授業で使用する 製図用具、裁縫用具、調理用材料など)	16	49	5	0.9	2.4	0.3
教科外活動費 (クラブ活動・学芸会などの ために買った用具・物品など)	31	68	121	1.7	3.3	7.3
宿泊学習費 (自然教室、修学旅行など)	75	190	305	4.1	9.3	18.5
交通費・通学用自転車等 (定期券、スクール バス代、自転車購入・維持費など)	17	29	26	0.9	1.4	1.6
制服 (学校が通学のために指定した制服・ 学生服など)	73	127	462	4.0	6.2	28.0
通学用品費 (ランドセル、かばん、通学用くつなど)	269	214	83	14.8	10.4	5.0
給食費	184	197	162	10.1	9.6	9.8
PTA会費	89	135	63	4.9	6.6	3.8
その他 (上ばきなど)	47	70	15	2.6	3.4	0.9
特になし						
無回答	216	285	110	11.9	13.9	6.7
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

3番目

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
教科書費、授業で使用する図書費 (副読本、ワークブック、辞書など)	117	101	111	6.5	4.9	6.7
学用品費 (授業で使用する筆記用具、絵・ 習字用具など文房具類)	293	259	81	16.2	12.6	4.9
体育用品費 (体育授業で使用する運動靴、 体育着・体育帽、水泳着など)	247	258	203	13.6	12.6	12.3
楽器購入費 (音楽授業で使用する リコーダー、ハーモニカなど)	148	71	12	8.2	3.5	0.7
実験実習費 (材料を含む。授業で使用する 製図用具、裁縫用具、調理用材料など)	16	58	11	0.9	2.8	0.7
教科外活動費 (クラブ活動・学芸会などの ために買った用具・物品など)	27	60	119	1.5	2.9	7.2
宿泊学習費 (自然教室、修学旅行など)	66	159	208	3.6	7.7	12.6
交通費・通学用自転車等 (定期券、スクール バス代、自転車購入・維持費など)	8	14	32	0.4	0.7	1.9
制服 (学校が通学のために指定した制服・ 学生服など)	40	64	193	2.2	3.1	11.7
通学用品費 (ランドセル、かばん、通学用くつなど)	176	196	113	9.7	9.6	6.9
給食費	139	139	205	7.7	6.8	12.4
PTA会費	88	124	107	4.9	6.0	6.5
その他 (上げきなど)	106	113	32	5.8	5.5	1.9
特になし						
無回答	342	436	222	18.9	21.2	13.5
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問13】お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

		中学まで	高校まで	専門学校 まで	短大・ 高専まで	大学または それ以上	まだ わからない	無回答	合計
小学1年生	n	3	139	170	53	733	696	19	1813
小学5年生		9	275	301	81	732	629	25	2052
中学2年生		6	215	264	68	643	427	26	1649
小学1年生	%	0.2	7.7	9.4	2.9	40.4	38.4	1.0	100.0
小学5年生		0.4	13.4	14.7	3.9	35.7	30.7	1.2	100.0
中学2年生		0.4	13.0	16.0	4.1	39.0	25.9	1.6	100.0

【問14】過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 海水浴に行く

		ある	ない			無回答	合計
			金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で		
小学1年生	n	1406	18	100	263	26	1813
小学5年生		1364	38	206	389	55	2052
中学2年生		754	42	238	547	68	1649
小学1年生	%	77.6	1.0	5.5	14.5	1.4	100.0
小学5年生		66.5	1.9	10.0	19.0	2.7	100.0
中学2年生		45.7	2.5	14.4	33.2	4.1	100.0

B. 博物館・科学館・美術館などに行く

		ある	ない			無回答	合計
			金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で		
小学1年生	n	1038	125	150	448	52	1813
小学5年生		858	178	269	654	93	2052
中学2年生		500	135	265	668	81	1649
小学1年生	%	57.3	6.9	8.3	24.7	2.9	100.0
小学5年生		41.8	8.7	13.1	31.9	4.5	100.0
中学2年生		30.3	8.2	16.1	40.5	4.9	100.0

C. キャンプやバーベキューに行く

		ある	ない			無回答	合計
			金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で		
小学1年生	n	1113	90	186	384	40	1813
小学5年生		1177	147	219	437	72	2052
中学2年生		815	122	198	448	66	1649
小学1年生	%	61.4	5.0	10.3	21.2	2.2	100.0
小学5年生		57.4	7.2	10.7	21.3	3.5	100.0
中学2年生		49.4	7.4	12.0	27.2	4.0	100.0

D. スポーツ観戦や劇場に行く

		ある	ない			無回答	合計
			金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で		
小学1年生	n	940	173	118	518	64	1813
小学5年生		1047	226	170	535	74	2052
中学2年生		805	198	144	445	57	1649
小学1年生	%	51.8	9.5	6.5	28.6	3.5	100.0
小学5年生		51.0	11.0	8.3	26.1	3.6	100.0
中学2年生		48.8	12.0	8.7	27.0	3.5	100.0

E. 遊園地やテーマパークに行く

		ある	ない			無回答	合計
			金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で		
小学1年生	n	1253	270	64	190	36	1813
小学5年生		1171	369	145	305	62	2052
中学2年生		685	315	180	402	67	1649
小学1年生	%	69.1	14.9	3.5	10.5	2.0	100.0
小学5年生		57.1	18.0	7.1	14.9	3.0	100.0
中学2年生		41.5	19.1	10.9	24.4	4.1	100.0

【問15】あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Jについて、「1.している」「2.していない、したくない(方針ではない)」「3.していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 毎月お小遣いを渡す

		している	していない		無回答	合計
			したくない(方針ではない)	経済的にできない		
小学1年生	n	314	1199	238	62	1813
小学5年生		720	952	317	63	2052
中学2年生		721	611	272	45	1649
小学1年生	%	17.3	66.1	13.1	3.4	100.0
小学5年生		35.1	46.4	15.4	3.1	100.0
中学2年生		43.7	37.1	16.5	2.7	100.0

B. 毎年新しい(お古でない)洋服・靴を買う

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	1563	80	149	21	1813
小学5年生		1739	89	186	38	2052
中学2年生		1408	67	139	35	1649
小学1年生	%	86.2	4.4	8.2	1.2	100.0
小学5年生		84.7	4.3	9.1	1.9	100.0
中学2年生		85.4	4.1	8.4	2.1	100.0

C. 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	1146	245	358	64	1813
小学5年生		1444	194	349	65	2052
中学2年生		906	311	349	83	1649
小学1年生	%	63.2	13.5	19.7	3.5	100.0
小学5年生		70.4	9.5	17.0	3.2	100.0
中学2年生		54.9	18.9	21.2	5.0	100.0

D. 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう、オンライン含む)

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	426	760	552	75	1813
小学5年生		599	699	666	88	2052
中学2年生		695	426	448	80	1649
小学1年生	%	23.5	41.9	30.4	4.1	100.0
小学5年生		29.2	34.1	32.5	4.3	100.0
中学2年生		42.1	25.8	27.2	4.9	100.0

E. お誕生日のお祝いをする

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	1786	5	8	14	1813
小学5年生		2008	7	16	21	2052
中学2年生		1596	8	23	22	1649
小学1年生	%	98.5	0.3	0.4	0.8	100.0
小学5年生		97.9	0.3	0.8	1.0	100.0
中学2年生		96.8	0.5	1.4	1.3	100.0

F. 1年に1回くらい家族旅行に行く

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	918	85	761	49	1813
小学5年生		870	116	1008	58	2052
中学2年生		584	130	872	63	1649
小学1年生	%	50.6	4.7	42.0	2.7	100.0
小学5年生		42.4	5.7	49.1	2.8	100.0
中学2年生		35.4	7.9	52.9	3.8	100.0

G. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	1740	23	33	17	1813
小学5年生		1945	25	53	29	2052
中学2年生		1505	35	82	27	1649
小学1年生	%	96.0	1.3	1.8	0.9	100.0
小学5年生		94.8	1.2	2.6	1.4	100.0
中学2年生		91.3	2.1	5.0	1.6	100.0

H. 修学旅行などお金がかかる学校の活動

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	1277	192	124	220	1813
小学5年生		1834	52	84	82	2052
中学2年生		1537	25	37	50	1649
小学1年生	%	70.4	10.6	6.8	12.1	100.0
小学5年生		89.4	2.5	4.1	4.0	100.0
中学2年生		93.2	1.5	2.2	3.0	100.0

I. パソコンかタブレットを与える

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	691	728	353	41	1813
小学5年生		829	618	554	51	2052
中学2年生		631	475	482	61	1649
小学1年生	%	38.1	40.2	19.5	2.3	100.0
小学5年生		40.4	30.1	27.0	2.5	100.0
中学2年生		38.3	28.8	29.2	3.7	100.0

J. スマートフォンを与える

		している	していない		無回答	合計
			したくない (方針ではない)	経済的に できない		
小学1年生	n	229	1253	286	45	1813
小学5年生		843	843	328	38	2052
中学2年生		1263	245	111	30	1649
小学1年生	%	12.6	69.1	15.8	2.5	100.0
小学5年生		41.1	41.1	16.0	1.9	100.0
中学2年生		76.6	14.9	6.7	1.8	100.0

【問16】あなたのご家庭では、現在、お子さんのために就学援助制度(※)を利用していますか。

(あてはまるもの1つに○)

		利用している	利用していない	わからない	無回答	合計
小学1年生	n	286	1452	47	28	1813
小学5年生		451	1529	35	37	2052
中学2年生		343	1244	22	40	1649
小学1年生	%	15.8	80.1	2.6	1.5	100.0
小学5年生		22.0	74.5	1.7	1.8	100.0
中学2年生		20.8	75.4	1.3	2.4	100.0

【問16-1】問16で「1.利用している」を選んだ方にお聞きます。

①現在の就学援助について、学校にかかる経費をカバーできていますか。

あなたのお考えにもっとも近いものを選んでください。(あてはまるもの1つに○)

		十分にカバー できている	カバー できている	あまりカバー できていない	カバー できていない	無回答	合計
小学1年生	n	16	119	109	40	2	286
小学5年生		48	224	135	42	2	451
中学2年生		29	146	125	43	0	343
小学1年生	%	5.6	41.6	38.1	14.0	0.7	100.0
小学5年生		10.6	49.7	29.9	9.3	0.4	100.0
中学2年生		8.5	42.6	36.4	12.5	0.0	100.0

②就学援助についてどのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

(小1 n=286、小5 n=451、中2 n=343)

		学校からの 通知 (お知らせ)	市町村からの 通知 (お知らせ)	テレビや ラジオのCM (コマーシャル)	街頭での ポスターや チラシ	知人からの 紹介	その他	無回答
小学1年生	n	189	105	9	6	33	14	19
小学5年生		333	127	26	19	39	20	31
中学2年生		259	94	19	6	46	12	19
小学1年生	%	66.1	36.7	3.1	2.1	11.5	4.9	6.6
小学5年生		73.8	28.2	5.8	4.2	8.6	4.4	6.9
中学2年生		75.5	27.4	5.5	1.7	13.4	3.5	5.5

【問16-2】問16で「2. 利用していない」を選んだ方にお聞きします。

現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください。

(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
必要ないため、申請しなかった	487	469	354	33.5	30.7	28.5
申請要件を満たしていなかったため、申請しなかった	735	785	671	50.6	51.3	53.9
周囲の目が気になったため、申請しなかった	7	12	9	0.5	0.8	0.7
手続きの仕方がわからなかったため、申請しなかった	27	39	24	1.9	2.6	1.9
手続きが面倒であったため、申請しなかった	16	27	18	1.1	1.8	1.4
申請したが、認定されなかったため	106	122	119	7.3	8.0	9.6
就学援助制度を知らなかったため	44	27	10	3.0	1.8	0.8
その他	24	37	34	1.7	2.4	2.7
無回答	6	11	5	0.4	0.7	0.4
合計	1452	1529	1244	100.0	100.0	100.0

【問17】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか。(あてはまるものすべてに○)

(小1 n=1813、小5 n=2052、中2 n=1649)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
行政機関の広報誌	507	583	472	28.0	28.4	28.6
行政機関のホームページ	302	313	277	16.7	15.3	16.8
行政機関のLINE	714	875	647	39.4	42.6	39.2
行政機関のXやInstagram、Facebookなど	213	186	121	11.7	9.1	7.3
学校からのお便り(紙のもの)	1061	1092	833	58.5	53.2	50.5
学校からのメールなど (学校の連絡ツールなど)	1201	1355	1110	66.2	66.0	67.3
家族や友人からの情報	366	360	284	20.2	17.5	17.2
その他	44	56	36	2.4	2.7	2.2
無回答	40	60	47	2.2	2.9	2.9

【問18】あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由にもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

		現在利用している	以前利用しているが、現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない						無回答	合計
				制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思っから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから	利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから	利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから	それ以外の理由			
A 生活保護	小学1年生	n	9	13	1529	27	3	12	141	79	1813
	小学5年生		19	17	1622	25	4	23	222	120	2052
	中学2年生		10	8	1320	22	4	19	170	96	1649
	小学1年生	%	0.5	0.7	84.3	1.5	0.2	0.7	7.8	4.4	100.0
	小学5年生		0.9	0.8	79.0	1.2	0.2	1.1	10.8	5.8	100.0
	中学2年生		0.6	0.5	80.0	1.3	0.2	1.2	10.3	5.8	100.0
B 自立支援相談窓口 生活困窮者の	小学1年生	n	2	18	1450	32	28	31	164	88	1813
	小学5年生		5	35	1518	42	31	35	254	132	2052
	中学2年生		2	29	1254	27	17	33	186	101	1649
	小学1年生	%	0.1	1.0	80.0	1.8	1.5	1.7	9.0	4.9	100.0
	小学5年生		0.2	1.7	74.0	2.0	1.5	1.7	12.4	6.4	100.0
	中学2年生		0.1	1.8	76.0	1.6	1.0	2.0	11.3	6.1	100.0
C 生活福祉資金貸付金	小学1年生	n	9	57	1407	34	32	26	163	85	1813
	小学5年生		14	82	1460	33	50	50	236	127	2052
	中学2年生		11	48	1220	34	37	29	170	100	1649
	小学1年生	%	0.5	3.1	77.6	1.9	1.8	1.4	9.0	4.7	100.0
	小学5年生		0.7	4.0	71.2	1.6	2.4	2.4	11.5	6.2	100.0
	中学2年生		0.7	2.9	74.0	2.1	2.2	1.8	10.3	6.1	100.0

※ひとり親世帯のみ

			現在利用している	現在利用していないが、以前利用したことがある	利用したことがない					無回答	合計
					制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思っから	利用はできるが、特に利用したいと思わなかつたから	支援制度を知らなかつたから	利用したいが、今までこの	利用したいが、手続きがわからなかつたり、利用しにくいから		
D 児童扶養手当	小学1年生	n	149	8	13	1	0	0	5	11	187
	小学5年生		266	17	28	1	1	3	12	20	348
	中学2年生		204	19	38	1	0	1	10	14	287
	小学1年生	%	79.7	4.3	7.0	0.5	0.0	0.0	2.7	5.9	100.0
	小学5年生		76.4	4.9	8.0	0.3	0.3	0.9	3.4	5.7	100.0
	中学2年生		71.1	6.6	13.2	0.3	0.0	0.3	3.5	4.9	100.0
E 母子父子寡婦 福祉資金貸付金	小学1年生	n	11	5	43	25	19	28	26	30	187
	小学5年生		18	3	75	47	33	42	72	58	348
	中学2年生		19	8	83	32	34	31	43	37	287
	小学1年生	%	5.9	2.7	23.0	13.4	10.2	15.0	13.9	16.0	100.0
	小学5年生		5.2	0.9	21.6	13.5	9.5	12.1	20.7	16.7	100.0
	中学2年生		6.6	2.8	28.9	11.1	11.8	10.8	15.0	12.9	100.0

【問19/小1】お子さんは現在、放課後児童クラブ（以下、学童保育）を利用していますか。

（あてはまるもの1つに○）

		利用している	利用していない	放課後児童クラブ （学童保育）を知らない	無回答	合計
小学1年生	n	1153	623	4	33	1813
	%	63.6	34.4	0.2	1.8	100.0

【問19-1/小1】問19で「1.利用している」を選んだ方にお聞きます。

①現在利用している学童保育の1か月あたりの利用料(おやつ代等すべて含む)を教えてください。

(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	
	n	%
2,000 円未満	40	3.5
2,000~4,000 円未満	20	1.7
4,000~6,000 円未満	89	7.7
6,000~8,000 円未満	65	5.6
8,000~10,000 円未満	231	20.0
10,000~12,000 円未満	388	33.7
12,000~14,000 円未満	171	14.8
14,000~16,000 円未満	54	4.7
16,000 円以上	84	7.3
無回答	11	1.0
合計	1153	100.0

②利用料についてどうお感じですか。(あてはまるもの1つに○)

		とても負担に 感じている	少し負担に 感じている	適正だと 感じている	少し安いと 感じている	安いと 感じている	無回答	合計
小学1年生	n	319	491	274	14	32	23	1153
	%	27.7	42.6	23.8	1.2	2.8	2.0	100.0

【問19-2/小1】問19で「2.利用していない」を選んだ方にお聞きます。

学童保育を利用していない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

(小1 n=623)

	小学1年生	
	n	%
利用しなかったが、利用料が高くてあきらめた	133	21.3
施設に空きがなく入れなかった	99	15.9
放課後、こどもの面倒をみる大人等がいるので必要ない	287	46.1
習い事や他の子育て支援施設(児童館など)を利用しているので、必要ない	97	15.6
子どもだけでも心配ない	23	3.7
子どもが行きたくないと言っている	57	9.1
その他	81	13.0
無回答	6	1.0

【問19-3/小1】問19-2で「1.利用しなかったが、利用料が高くてあきらめた」を選んだ方にお聞きます。

どのくらいの金額なら利用できると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	
	n	%
2,000 円未満	25	18.8
2,000~4,000 円未満	40	30.1
4,000~6,000 円未満	48	36.1
6,000~8,000 円未満	9	6.8
8,000~10,000 円未満	2	1.5
10,000~12,000 円未満	1	0.8
12,000~14,000 円未満	1	0.8
14,000~16,000 円未満	1	0.8
16,000 円以上	2	1.5
無回答	4	3.0
合計	133	100.0

【問20】お子さんの状況についてお聞きします。過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまるもの1つに○)

		あった	なかった	無回答	合計
小学1年生	n	241	1482	90	1813
小学5年生		293	1665	94	2052
中学2年生		274	1284	91	1649
小学1年生	%	13.3	81.7	5.0	100.0
小学5年生		14.3	81.1	4.6	100.0
中学2年生		16.6	77.9	5.5	100.0

【問20-1】問20で「1. あった」を選んだ方にお聞きします。

その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

(小1 n=241、小5 n=293、中2 n=274)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
家計が苦しかった	22	53	46	9.1	18.1	16.8
保険証がなかった	4	5	3	1.7	1.7	1.1
仕事で連れていく時間がなかった	174	201	181	72.2	68.6	66.1
ほかのこどもの世話で時間がなかった	65	58	37	27.0	19.8	13.5
自分の健康状態が悪く連れていけなかった	28	28	14	11.6	9.6	5.1
病院が遠い	13	19	11	5.4	6.5	4.0
こどもが嫌がった	32	37	37	13.3	12.6	13.5
その他	35	39	54	14.5	13.3	19.7
無回答	1	4	1	0.4	1.4	0.4

【問21】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。（それぞれ、あてはまるもの1つに○）

A. 子育てに関する相談

		頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答	合計
小学1年生	n	1603	123	56	31	1813
小学5年生		1751	162	99	40	2052
中学2年生		1386	158	76	29	1649
小学1年生	%	88.4	6.8	3.1	1.7	100.0
小学5年生		85.3	7.9	4.8	1.9	100.0
中学2年生		84.1	9.6	4.6	1.8	100.0

B. 重要な事柄の相談

		頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答	合計
小学1年生	n	1549	162	70	32	1813
小学5年生		1691	219	98	44	2052
中学2年生		1335	201	80	33	1649
小学1年生	%	85.4	8.9	3.9	1.8	100.0
小学5年生		82.4	10.7	4.8	2.1	100.0
中学2年生		81.0	12.2	4.9	2.0	100.0

C. いざという時のお金の援助

		頼れる人がいる	いない	そのことでは人に頼らない	無回答	合計
小学1年生	n	1030	393	353	37	1813
小学5年生		1143	527	336	46	2052
中学2年生		855	462	295	37	1649
小学1年生	%	56.8	21.7	19.5	2.0	100.0
小学5年生		55.7	25.7	16.4	2.2	100.0
中学2年生		51.8	28.0	17.9	2.2	100.0

【問22】あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

		大変ゆとりがある	ゆとりがある	ふつう	苦しい	大変苦しい	無回答	合計
小学1年生	n	22	184	970	471	143	23	1813
小学5年生		27	189	1015	631	172	18	2052
中学2年生		15	134	806	508	165	21	1649
小学1年生	%	1.2	10.1	53.5	26.0	7.9	1.3	100.0
小学5年生		1.3	9.2	49.5	30.8	8.4	0.9	100.0
中学2年生		0.9	8.1	48.9	30.8	10.0	1.3	100.0

【問23】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

		よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	無回答	合計
小学1年生	n	34	141	227	1384	27	1813
小学5年生		56	200	313	1462	21	2052
中学2年生		50	175	263	1145	16	1649
小学1年生	%	1.9	7.8	12.5	76.3	1.5	100.0
小学5年生		2.7	9.7	15.3	71.2	1.0	100.0
中学2年生		3.0	10.6	15.9	69.4	1.0	100.0

【問24】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

		よくあった	ときどきあった	まれにあった	まったくなかった	無回答	合計
小学1年生	n	49	138	243	1356	27	1813
小学5年生		71	186	376	1392	27	2052
中学2年生		82	149	298	1098	22	1649
小学1年生	%	2.7	7.6	13.4	74.8	1.5	100.0
小学5年生		3.5	9.1	18.3	67.8	1.3	100.0
中学2年生		5.0	9.0	18.1	66.6	1.3	100.0

【問25】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができないことがありましたか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 電話料金

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	126	1636	18	33	1813
小学5年生		172	1815	27	38	2052
中学2年生		151	1440	21	37	1649
小学1年生	%	6.9	90.2	1.0	1.8	100.0
小学5年生		8.4	88.5	1.3	1.9	100.0
中学2年生		9.2	87.3	1.3	2.2	100.0

B. 電気料金

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	147	1612	22	32	1813
小学5年生		186	1799	32	35	2052
中学2年生		158	1430	24	37	1649
小学1年生	%	8.1	88.9	1.2	1.8	100.0
小学5年生		9.1	87.7	1.6	1.7	100.0
中学2年生		9.6	86.7	1.5	2.2	100.0

C. ガス料金

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	132	1570	77	34	1813
小学5年生		163	1741	108	40	2052
中学2年生		149	1363	94	43	1649
小学1年生	%	7.3	86.6	4.2	1.9	100.0
小学5年生		7.9	84.8	5.3	1.9	100.0
中学2年生		9.0	82.7	5.7	2.6	100.0

D. 水道料金

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	102	1644	31	36	1813
小学5年生		145	1825	40	42	2052
中学2年生		125	1449	31	44	1649
小学1年生	%	5.6	90.7	1.7	2.0	100.0
小学5年生		7.1	88.9	1.9	2.0	100.0
中学2年生		7.6	87.9	1.9	2.7	100.0

E. 家賃

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	133	1393	230	57	1813
小学5年生		168	1524	306	54	2052
中学2年生		133	1166	292	58	1649
小学1年生	%	7.3	76.8	12.7	3.1	100.0
小学5年生		8.2	74.3	14.9	2.6	100.0
中学2年生		8.1	70.7	17.7	3.5	100.0

F. 住宅ローン

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	25	1070	636	82	1813
小学5年生		47	1152	758	95	2052
中学2年生		31	974	559	85	1649
小学1年生	%	1.4	59.0	35.1	4.5	100.0
小学5年生		2.3	56.1	36.9	4.6	100.0
中学2年生		1.9	59.1	33.9	5.2	100.0

G. クレジットカードやほかの借金の支払い

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	273	1368	133	39	1813
小学5年生		343	1479	179	51	2052
中学2年生		273	1188	149	39	1649
小学1年生	%	15.1	75.5	7.3	2.2	100.0
小学5年生		16.7	72.1	8.7	2.5	100.0
中学2年生		16.6	72.0	9.0	2.4	100.0

H. 税金・社会保険料

		あった	なかった	該当しない (払う必要がない)	無回答	合計
小学1年生	n	169	1553	45	46	1813
小学5年生		262	1668	69	53	2052
中学2年生		206	1358	45	40	1649
小学1年生	%	9.3	85.7	2.5	2.5	100.0
小学5年生		12.8	81.3	3.4	2.6	100.0
中学2年生		12.5	82.4	2.7	2.4	100.0

【問26】最近の物価高騰で生活は苦しくなったと感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

		おおいに感じる	ある程度感じる	あまり感じない	まったく感じない	無回答	合計
小学1年生	n	1030	639	99	15	30	1813
小学5年生		1180	684	131	24	33	2052
中学2年生		932	571	98	16	32	1649
小学1年生	%	56.8	35.2	5.5	0.8	1.7	100.0
小学5年生		57.5	33.3	6.4	1.2	1.6	100.0
中学2年生		56.5	34.6	5.9	1.0	1.9	100.0

【問27】1年前と比べて、物価高騰の影響で毎月の支出はどの程度増えましたか。(あてはまるもの1つに○)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
変わらない	44	51	30	2.4	2.5	1.8
3,000円未満	6	8	11	0.3	0.4	0.7
3,000～5,000円未満	49	46	27	2.7	2.2	1.6
5,000～1万円未満	150	139	99	8.3	6.8	6.0
1～2万円未満	376	402	291	20.7	19.6	17.6
2～3万円未満	477	532	478	26.3	25.9	29.0
3～4万円未満	282	302	248	15.6	14.7	15.0
4～5万円未満	216	277	233	11.9	13.5	14.1
5～10万円未満	126	160	117	6.9	7.8	7.1
10万円以上	24	36	28	1.3	1.8	1.7
減った	2	15	14	0.1	0.7	0.8
無回答	61	84	73	3.4	4.1	4.4
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問28】あなたの世帯の貯蓄額を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※預貯金額のほか、学資保険、株式・投資信託等も含んだ額を教えてください。

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
貯蓄がない	394	577	414	21.7	28.1	25.1
10万円未満	74	100	86	4.1	4.9	5.2
10～50万円未満	152	176	150	8.4	8.6	9.1
50～100万円未満	140	180	134	7.7	8.8	8.1
100～200万円未満	198	201	165	10.9	9.8	10.0
200～300万円未満	153	153	130	8.4	7.5	7.9
300～400万円未満	89	72	77	4.9	3.5	4.7
400～500万円未満	116	92	81	6.4	4.5	4.9
500～700万円未満	107	99	74	5.9	4.8	4.5
700～1000万円未満	85	94	73	4.7	4.6	4.4
1000万円以上	152	142	111	8.4	6.9	6.7
無回答	153	166	154	8.4	8.1	9.3
合計	1813	2052	1649	100.0	100.0	100.0

【問29】あなたの世帯の現在の貯蓄額は、昨年と比べて変わりましたか。(あてはまるもの1つに○)

※預貯金額のほか、学資保険、株式・投資信託等も含んだ額を教えてください。

		貯蓄が増えた	貯蓄は変わらない	貯蓄が減った	無回答	合計
小学1年生	n	213	646	842	112	1813
小学5年生		189	770	926	167	2052
中学2年生		122	572	817	138	1649
小学1年生	%	11.7	35.6	46.4	6.2	100.0
小学5年生		9.2	37.5	45.1	8.1	100.0
中学2年生		7.4	34.7	49.5	8.4	100.0

【問30】あなた自身には、自分が持っている(できる)以下のものがありますか。「1. ある(できる)」、「2. 金銭的にできない」、「3. 必要でない(いらぬ)」のうちもっともあてはまるものに○をつけてください。

(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 自分自身のために使うことができるお金(月5,000円)

		ある (できる)	ない		無回答	合計
			金銭的にできない	必要でない(いらぬ)		
小学1年生	n	1326	371	84	32	1813
小学5年生		1471	448	82	51	2052
中学2年生		1131	394	71	53	1649
小学1年生	%	73.1	20.5	4.6	1.8	100.0
小学5年生		71.7	21.8	4.0	2.5	100.0
中学2年生		68.6	23.9	4.3	3.2	100.0

B. 最低2足の靴

		ある (できる)	ない		無回答	合計
			金銭的にできない	必要でない(いらぬ)		
小学1年生	n	1438	200	142	33	1813
小学5年生		1581	245	176	50	2052
中学2年生		1204	251	141	53	1649
小学1年生	%	79.3	11.0	7.8	1.8	100.0
小学5年生		77.0	11.9	8.6	2.4	100.0
中学2年生		73.0	15.2	8.6	3.2	100.0

C. 古くなった服を買い替える

		ある (できる)	ない		無回答	合計
			金銭的にできない	必要でない(いらない)		
小学1年生	n	1285	304	187	37	1813
小学5年生		1342	403	258	49	2052
中学2年生		1041	350	198	60	1649
小学1年生	%	70.9	16.8	10.3	2.0	100.0
小学5年生		65.4	19.6	12.6	2.4	100.0
中学2年生		63.1	21.2	12.0	3.6	100.0

D. 友人や家族と1か月に1回ほど外食する

		ある (できる)	ない		無回答	合計
			金銭的にできない	必要でない(いらない)		
小学1年生	n	1470	236	72	35	1813
小学5年生		1576	320	105	51	2052
中学2年生		1218	282	92	57	1649
小学1年生	%	81.1	13.0	4.0	1.9	100.0
小学5年生		76.8	15.6	5.1	2.5	100.0
中学2年生		73.9	17.1	5.6	3.5	100.0

E. 自宅で自分が使えるインターネット環境

		ある (できる)	ない		無回答	合計
			金銭的にできない	必要でない(いらない)		
小学1年生	n	1692	55	35	31	1813
小学5年生		1878	76	50	48	2052
中学2年生		1490	63	36	60	1649
小学1年生	%	93.3	3.0	1.9	1.7	100.0
小学5年生		91.5	3.7	2.4	2.3	100.0
中学2年生		90.4	3.8	2.2	3.6	100.0

F. 自分の趣味やレジャーのためのお金

		ある (できる)	ない		無回答	合計
			金銭的にできない	必要でない(いらぬ)		
小学1年生	n	1019	559	203	32	1813
小学5年生		1064	676	260	52	2052
中学2年生		827	569	197	56	1649
小学1年生	%	56.2	30.8	11.2	1.8	100.0
小学5年生		51.9	32.9	12.7	2.5	100.0
中学2年生		50.2	34.5	11.9	3.4	100.0

【問31】 次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

(小1 n=1813、小5 n=2052、中2 n=1649)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
こどもの年齢に合った本	160	287	224	8.8	14.0	13.6
子ども用のスポーツ用品・おもちゃ	93	142	98	5.1	6.9	5.9
子どもが自宅で宿題をすることができる場所	192	183	161	10.6	8.9	9.8
インターネットにつながるパソコン	358	411	341	19.7	20.0	20.7
急な出費のための貯金 (5万円以上)	465	612	485	25.6	29.8	29.4
自家用車	35	63	31	1.9	3.1	1.9
Wi-Fi 環境やインターネット回線	57	56	40	3.1	2.7	2.4
あてはまるものはない	951	966	747	52.5	47.1	45.3
無回答	136	158	165	7.5	7.7	10.0

【問32】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

(小1 n=1813、小5 n=2052、中2 n=1649)

	小学1年生	小学5年生	中学2年生	小学1年生	小学5年生	中学2年生
	n			%		
配偶者またはパートナー(元配偶者等を含む)との間で頻繁な口げんかがあった	560	764	585	30.9	37.2	35.5
配偶者またはパートナー(元配偶者等を含む)から暴力をふるわれたことがある	87	152	121	4.8	7.4	7.3
こどもに行き過ぎたしつけ(体罰等)をしたことがある	226	300	236	12.5	14.6	14.3
育児放棄になった時期がある	37	64	56	2.0	3.1	3.4
出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある	276	309	232	15.2	15.1	14.1
わが子を虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある	297	336	261	16.4	16.4	15.8
自殺を考えたことがある	137	227	170	7.6	11.1	10.3
いずれも経験したことがない	883	869	726	48.7	42.3	44.0
無回答	85	100	84	4.7	4.9	5.1

【問33】あなたの心の状態についてお聞きします。ここ1か月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。A～Fについて教えてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

※過去30日間の心の状態を6つの質問で尋ね(5段階の選択肢)、点数の合計点を算出した。1つの質問ごとに0～4点、合計は0～24点になる。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示す。なお、6つの質問のうち1つでも回答がない場合は、点数を算出せず無回答とした。

		0～4点	5～8点	9点	10～12点	13点以上	無回答	合計
小学1年生	n	991	343	65	169	186	59	1813
小学5年生		1079	399	81	189	236	68	2052
中学2年生		875	315	56	171	154	78	1649
小学1年生	%	54.7	18.9	3.6	9.3	10.3	3.3	100.0
小学5年生		52.6	19.4	3.9	9.2	11.5	3.3	100.0
中学2年生		53.1	19.1	3.4	10.4	9.3	4.7	100.0

【問34】あなたは、自分の将来について明るい希望をもっていますか。(あてはまるもの1つに○)

		希望がある	どちらかといえば 希望がある	どちらかといえば 希望がない	希望がない	無回答	合計
小学1年生	n	448	901	345	71	48	1813
小学5年生		466	1012	421	110	43	2052
中学2年生		367	824	335	75	48	1649
小学1年生	%	24.7	49.7	19.0	3.9	2.6	100.0
小学5年生		22.7	49.3	20.5	5.4	2.1	100.0
中学2年生		22.3	50.0	20.3	4.5	2.9	100.0

【問35】あなたは、沖縄の社会が、「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現に向かっている」と考えますか。

(あてはまるもの1つに○)

		そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない	無回答	合計
小学1年生	n	84	584	663	430	52	1813
小学5年生		92	660	747	510	43	2052
中学2年生		71	562	606	352	58	1649
小学1年生	%	4.6	32.2	36.6	23.7	2.9	100.0
小学5年生		4.5	32.2	36.4	24.9	2.1	100.0
中学2年生		4.3	34.1	36.7	21.3	3.5	100.0

ふだんの暮らし

●=小5、◆=中2

お母さん

- お母さんは、仕事を2つもしているのに朝毎日6時に起きて3人の弁当を作っているのに大丈夫とか言い、ほんとはつらいのに、いつも笑ってくれます。なのでぼくもお母さんみたいになりたいです。(小5児童)
- きょうだいが多いのでお母さんとの2人の時間がほしいです。(小5児童)

経済的なこと

- 私のお家は5人きょうだいなので、小学校・中学校・高校・大学に5人が行くとなったら、ものすごいお金がかかりそうなので心配。(小5児童)
- うちはあまりお金がないから、食べ物、家で使う器具を安くしてほしい。ちょっとでもいいから親たちの給料を上げてほしいです。(小5児童)
- ◆最近物価の値上げがすごく多いので、両親の収入が追いつけず生活が少しずつきびしくなっているのので、収入を増やしてほしいです。(中2生徒)
- ◆値上がりだけしないで給料増やせ。(中2生徒)

生活

- わたしの家は、祖母が病気で車いすなので、外食に行ったりはあまりできません。なので、早く元気になって一緒にみんなで、外食に行きたいです。(小5児童)
- 私は学校が終わってすぐに塾です。いつも疲れています。ですが休んだらおこられるので休まないように行っています。大人も子どもの気持ちを考えてほしいです。意見は聞いてほしいです。(小5児童)
- ◆私の親はスマホを買ってくれません。学習ができないからとか、スマホ優先になってしまうからだめといいますが、でも、まわりの子はお出かけするときも持っていて、毎回借りるのがとてもはずかしいです。べつにはぶられるとかそーゆーことじゃないけれど、「スマホ」を持っていないために少しまわりに気をつかわれている気が

してとても気まずいです。スマホ中学生に1人1台!って決めてほしいなという願望があります。(中2生徒)

友だち

- 私は歯が出歯でそれをみんなに言われるのがいやで、「笑いたくない」「学校に行きたくない」「死にたい」と思ったことがありました。親に相談して、今では矯正まで考えています。マスクをつけあまり歯を出さないように笑ったりしています。(小5児童)
- たまに友だちから嫌われてると思ったことと自分の悪口がSNSとかで書かれるかが心配。(小5児童)

おこらないでほしい

- おこらないで、やさしい大人、お母さんになってほしい。(小5児童)
- 私は、だめなことには、おこられるのは当然なのは、知っています。こどものためにおこっているのも知っています。けど知っていてもやっぱりおこられると怖く感じてしまいます。なので、もしおこられても「自分のため」といいかせています。ほんとに少しの怒りが私には心に残ってしまいます。なので少しでもおこり方を考えてほしいです。(小5児童)

相談しやすい環境を

- 私は困ったときに、すぐにだれかに相談したいけど、先生とか人の前で話すのはいやだから、こども相談の電話なら安心だと思って、電話番号をたまたま保健の時間に見つけたけど電話がない。学校の公衆電話はまわりに人がいるからいやだし、スマホもないから、結局相談できないままでした。(小5児童)
- 自分のまわりには、自分を守ってくれる大人がいるけど、その中のだれにも自分が感じていること、思っていることをなかなか話せません。なので、自分くらいのこどもになら話せるかな?と、簡単に思っていたけど、なかなか話せません。なので信頼できる大人や、自分を

守ってくれる大人にしかできないことがあるので、その時はその時で、自分の話も、他のこどもの話もちゃんと真剣に聞いてあげてください。(小5児童)

その他

- 勉強をとってもわかりやすくやさしく教えてくれる人が家に来てくれたらいいです。(小5児童)
- 「お姉ちゃんだからがまんしなさい」とか「お姉ちゃんだから弟にゆずってあげなさい」とか年上だからって我慢させすぎだと思うので、すべてのこどもを平等に扱うようにしてほしいです。(小5児童)

学校

●=小5、◆=中2

学校生活

- 学校が早く終わって、放課後などに遊べる時間を増やしてほしい。(小5児童)
- 体育館にクーラーをつけてほしいです。(小5児童)
- ◆誰にも言えないこどもたちもいると思うのでこういうアンケートはありがたいなと思ったけど、紙じゃなくて、スマホでもいいかなと思いました。学校に毎日行っているこどもとして要望なんですけど、体育館や理科室などクーラーがついていないところでの熱さ対策をしてほしいなと思っています。汗やにおいが気になる世代だし、年々暑くなっているので、グッズとか配って、快適に過ごせる学校にしてほしいなと思います。(中2生徒)
- 学校の先生が、少し自分勝手だと思いました。もうちょっとこどもたちの意見もきいてほしい。(小5児童)
- ◆学校の先生は何かあったら相談してとか言うけど、結局は学年集会とかで匿名で言ったりするから意味ない。(中2生徒)
- ◆今、私は学校がとてつもない怖いです。前までは仲がいい子と一緒にいたりしていたけど関係が悪くなりました。男子からの陰口、クラスからの視線がとてつもない怖いです。本当は助けてほしいけど、だれも相手にしてもらえません。学校に行きたくないけど行かなくちゃって考えてしまう自分が大きいです。相談したいけどする人もいなくてとてつもない孤独です。アンケートをとってくれてとても感謝です。私はどうしたら幸せになれるのかが

わかりません。つらいです。とてつもない。助けてほしいです。(中2生徒)

学校に行きたくないとき

- 学校に行きたくないのに、「行け」と言わないでほしい(泣いてまでいやなのに行かせようとする)。親が気持ちをまったくわかってくれない。こどもの気持ちを考えて。(小5児童)
- ◆学校を休みたいときに理由を聞かないでほしい。心配だったりするから聞いてくるのはわかるけど、説明しにくいときがあって、それで言えない、説明できなかったら休めないのがイヤ。(中2生徒)
- ◆「休みたい」って言ったときに、理由を聞かずに「だめ」って言わないでほしい。休みたいって言ったことに、理由がない訳がないから、ちゃんと聞いてほしい。「行きたくないから」という理由だとしても、言いたくない理由だと思うから、「なんかあったのかな?」と思って、少しの間だけでも休ませて、落ち着かせてほしいです。あんまり責めないでほしい。(中2生徒)

先生を増やしてほしい

- 大好きな金管バンド部ができなくなった。顧問の先生がいなくなったから。部活が私は大好きだ。今、指導できる先生はいない。それはなぜ?先生が少ないから。先生たちの給料上げて。大好きな部活をさせて!(小5児童)

いじめ

- 大人はいじめられたとき無視すればいい、相手にするななど言いますが、そんなに簡単にやめてくれるのだったら相談までいかないよ、と思います。(小5児童)
- 私は小さいころいじめにあいました。友だちだと思っていた子に私物をこわされ、捨てられたり、虫を食べさせようとしてきたりしました。小さいときの私は大人に相談できなくていつも車で泣いていました。だから大人たちには二人で話す時間を絶対じゃなくていい(1週間に2、3回)からつくってほしいです。また、小さい子だけにじゃなくてももちろん高学年にもそういう時間をつくってあげてください。(小5児童)
- いじめのない世界だったら、差別もなくなるし、不登校

も少なくなるし、こどもがつかまらなくなるのでいじめがなかったらとてもいいと思いました。そしたら学校も楽しくなると思います。(小5児童)

●このアンケートの感想で、問 17 にあった「イジメのない社会」づくりが大切だと思いました。イジメをする側も、される側にも何一ついいことがないからです。ただただイジメの被害を受けている人が苦しいだけだからです。自分はイジメにあったことがないから被害者の苦しみはわからないかもしれないけれど、きっとぼくが想像しているよりずっと苦しいと思います。なので、これからはイジメのない社会づくりをもっと進めてほしいです。また、困っているこどもの意見にしっかり耳を傾けることも大切だと思いました。(小5児童)

●いじめを受けている子などがいるとしたら、少しは気付けてほしい。いじめられているってことを聞いて、動かない先生たちがいたので、動いてほしい。(小5児童)

◆こどもに寄り添って、いじめのない社会にしてほしい。その子は笑顔でも内面は困っていたり、泣いているかもしれない。いじめは、よくない。学校はみんなが安全に安心して行ける学校なの？先生たちは気づいていない。いじめがあると安心して学校に行けない。安心安全の学校を目指すなら、クラスみんなの心が一致、一緒にならないといけない。先生たちにいじめのことを言ってもあまり対応はしてくれなかった。クラスの中の暗闇をなくしてほしいです。(中2生徒)

授業

●もっと人権の授業をしたほうがいい。(小5児童)

◆体育の男女混合にするっていう考えや、理由はわかるが、こちらの意見も聞いてから実施してほしい。学校の校則がなぜできたのか、何のためにあるのかを一からすべてきちんと教えてほしい。大人だけの考えで、一方的に決まりとか何か新しいことを始めないで、こちらの意見を聞いてほしい。(中2生徒)

◆勉強が苦手だから授業以外にも特別授業を開いてほしい。(中2生徒)

宿題

●宿題はいらないと思います。なぜなら、学校でそのことをやっているし、「ふり返りだよ」というけど、学校でやったら覚えられるし、宿題をやりたいという人は、自分

でドリルなどを買えばいいと思うからです。(小5児童)

●毎週木曜サッカーが6時半からあってとても忙しいので宿題を消してほしいです。(小5児童)

◆先生方、宿題、テスト多すぎて、寝る時間もないし、好きなことができてなくて、しんどいです。(中2生徒)

制服

◆少しでも良いからジェンダーレスの取組をしてほしい。制服はスカート、ズボン選べるのはいいけど、人の目を気にしてなかなか自分がつけたいものをつけられない。親に言えない。なので無理かもしれないが制服を統一することなども考えてほしい。3年間好きじゃないのを着るのはつらい。(中2生徒)

校則

◆校則で髪型を決められたり、ピアスやメイクをしても勉強に支障はないのにしたらだめだと決められていたりする意味がわからない。きちんと説明したら理不尽な理由ではなければちゃんと聞くとと思う。説明しないでダメだと言っているから反抗すると思う。(中2生徒)

部活

●監督の口が強い。めっちゃ傷つく。(小5児童)

◆学校の部活の指導についてです。自分がやりたくないことを強制的にやらないでください。駅伝しないと、部活やらさないとか、やめてほしいです(部活と駅伝は、別々です)。(中2生徒)

◆部活に入っています。外部コーチのことで、いやなことがあります。私は、生徒会をしていて、生徒会始めごろ、生徒会をしたら、レギュラーを外すと言われました。あと、技術的なことは、まったく教えきれない人、また、文句しか言わない人、いても、あまり意味がない。強いて言えば、練習試合をとってくれるとこだけです。人の話に耳を傾けない、スベったり、体勢崩したりしてる時、わざと、ボールをあててきます。いつもは、笑ってごまかしてるけど、たまに、イライラします。本当にいやです。ただのプライドの高い人です。(中2生徒)

◆外部コーチが一人ひとりをチームだと思っていないのが態度で伝わってくる。上手な人にずっとニコニコしているのにヘタとかできない人にはあたりが強くてこれ

はおかしいと思いました。そのせいで、私の友だちが次々にやめていってしまいました。私もこれじゃあ部活動を楽しむことができません。先輩たちにも差別的扱いを行っていたのでこういうことがなくなるといいと思いました。(中2生徒)

給食

- もっと給食のデザートを増やしてほしいです。(小5児童)
- 給食をおいしくしてほしいです(給食のメニューを増やしてほしい)。(小5児童)
- ◆給食の量を増やしてほしい。(中2生徒)
- ◆給食を増やしてほしい。今は物価高で難しいと思うけどクラスでは文句がとても多い。だから、給食を多くできるように検討してほしい。よろしくお願いします。(中2生徒)
- ◆私はアレルギーがあるのですが、食べられない料理の分もお金を払わないといけないことに納得できません。レストランなどで自分が食べた分のお金を払うように、給食もそのようにしてほしいです。最近、アレルギーの人も増えてきているので、そう思っている人も多いいと思います。検討お願いします。(中2生徒)

その他

- 修学旅行の日数を増やして、2025年オープン予定のジャングリアに行って泊まりたいです。来年ちょうどオープン予定なので修学旅行の行き先はジャングリアにしてほしいです。むずかしければ、ディズニーランドにしてほしいです。(小5児童)
- 学校に今、行きたくなくて、ずっと保健室にいるから、安心して教室に戻りたいから、大人も自分もがんばる。(小5児童)
- ◆学校の教育相談の数を増やして、もっと子どもの意見を聞いて、解決してほしい。教育相談を増やすことで、このときは何もなかったかもだけど今はあるかもしれないから。(中2生徒)
- ◆これからの世の中、もっと「子どもの学校へ行きたくない」に耳を傾けることや、学校へ行きやすくすること、けがや病気じゃないと学校を休むことができないという概念が消えたらいいなと思いました。(中2生徒)

大人へ

●=小5、◆=中2

意見を聞いてほしい

- 大人の言うことを聞いているだけではなく、自分の考えも聞いてほしい。勝手にこどものすることを決めないでほしい。(小5児童)
- 大人はこどもの意見をしっかり聞いて、こどもの将来にいい環境をつくったり、こどもが安心して暮らせる楽しい社会をつくってほしい。(小5児童)
- 私は、こどもの奇想天外なアイデアを、偉い人たちがちゃんと聞き、社会や環境の問題を解決する必要があると思います。なぜなら、こどもの方が想像力豊かだからです。また、授業についていけない人たちがいる。「グループ全員がわかるようにねー」と言われても、時間がない。私は偉い人に、環境問題について訴える妄想をしていました。いつか環境問題とSDGsが実現してほしいと願って…またこういうものを書く機会がほしいです。(小5児童)
- こどもは、自分が言いたいこと、聞きたいことが言いにくく、黙ったまゐることが多い。私も、言いたいことがあるのに、うそをつくことが多くある。だから、大人のみなさんは、こどもが困ったことがなくても、聞いてみてください。必ず困ったことは、あるはずですよ。(小5児童)
- ◆自分も含め、世界のこどもたちが発言したことを、すぐにうそだと思って一切聞かないのではなく、その聞いている大人は最後まで、こどもが話していることを聞いてほしいです。(中2生徒)
- ◆こども、大人ではなく、みんな一人の人間として関わってほしい。「こどもだから」とか「大人だから」とかではなく、こどもに対しても甘やかさず、意見を聞くときも尊重してあげてほしい。(中2生徒)

子どもの権利条約

- 子どもの権利条約についてくわしく教えてもらいたい。(小5児童)
- 子どもの権利条約について、何も知らなかったの、勉強して調べたいです。(小5児童)
- 子どもの権利条約のことがわからないので学校などで説明してほしい。(小5児童)

問 17(小5)／問 18(中2) (大人たちが子どもたちのために取り組むべきこと)を実現してほしい

- 大人の方は、少しでもいいからぼくが書いた問 17 をやってほしい。(小5児童)
- 問 17 の小、中、高、大を無料で通わすようにしてほしいです。理由は、貧しくて行きたくても行けない人もいるし自分も、小、中、高、大学を無料にしてくれると親も助かるから。(小5児童)
- 問 17-1 は4を選びましたが、いじめのない社会をつくること(6)も大事だと思います。なぜなら、いじめが原因で不登校する人がいたり、心も傷ついたりするので、その人の気持ちを理解して、窓口などを増やした方がいいと思います。(小5児童)
- 問 17 の7番は絶対に実用化してほしい!(小5児童)
- 大人のみなさまへ。問 17 の9の犯罪を犯した子どもでも更生して学校や社会に安心して戻れることをできるだけがんばってください。よろしくお願いします。(小5児童)
- 問 17 のように障害のある子とかを差別したりしないで共に学ぶことが大切だと思いました。(小5児童)
- ◆問 18 の 12 に丸をつけたけど、これがあることも大切だと思うけど、電話することができなかつたり、親に電話してることを知られたくない人は、相談できないと思うし、スクールカウンセラーもいつでも声をかけられることも大切だと思うけど、親やまわりの人に気づかれたくない人もいると思うので、授業や年に1度とかで、こういう相談できる場面をつくった方がいいと思う。(中2生徒)
- ◆問 18 で、大人が子どものためにできる取組は、それぞれの人のできることでもいいし、一番重要なこととかなないし、考えなくていいと思う。そのまま、優しい思いやりの心をもってあげればいいと思う。(中2生徒)

遊び場・居場所がほしい

- ぼくは、サッカー部なので、近くにボールが飛んでいたりしてなくさないようにまわりが囲まれている、涼しい影があってサッカーゴールがある公園をつくってほしいです。(小5児童)
- アンケートは楽しかった。学校の近くで、歩いて5~10分しかかからない、児童館のような、子どもが遊んだり宿題できる場所がもっとほしいです(親以外の大人は

入れない)。(小5児童)

- 家族が遅くまで帰らない子のために地域に数か所、無料でご飯が食べられる場所をつくってほしい。(小5児童)
- ◆子どもが外の公園で遊ぶだけでなく、子どもと子ども、親と親の交流が深められるように、屋内でカードゲームやゲームが無料でできるような(もっていない人もいるから)場所をつくってほしいです。(中2生徒)
- ◆私は、不登校の人が学べる学校があるといいと思いました。私は時々「学校に行きたくない」など思ったことがたくさんあります。そのような人たちのために、不登校の人が学べる学校がほしいです。(中2生徒)

環境

- ゆいレールをさらにさらに延長してほしい。(小5児童)
- 歩道がなくて通りにくい道に歩道をつけてほしい。雑草がいっぱいあって通りにくい道があるのできれいにしてほしい。(小5児童)
- 海の埋立てをやめてほしいです。子どもも参加できるイベントを増やしてほしいです。自然を破壊しないで緑いっぱいの町にしたいです。子どもと大人みんなで笑ってすごせる楽しい町にしてほしいです。(小5児童)
- ◆自転車で通る歩道で木の根っこがでて、ガタゴトして通りにくくて、ケガしやすそうだから道路を平らにしてほしい。木の枝が伸びすぎたら定期的に切ってほしい。台風などで葉っぱがたくさん落ちたときは、ゆっくりでいいから、葉っぱをとってほしい。学校から遠い家の子たち用に通学バスをつくってほしい。お願いします。(中2生徒)
- ◆道路などにたくさん草が生えている場所などがあるのできれいにしてほしいです。また、子どもたちが登下校するときに使う歩道などもたくさん草があるのできれいにしてほしいです。(中2生徒)

平等な社会に

- 差別やいじめをなくして、平和で子どもの夢が叶う世界にしてほしい。それと、貧乏な暮らしをしている人も学校に行けるように、学校費を無料にしてほしい。物価を安くしてください。(小5児童)
- 子どもがみんな、なかよく遊べるようにしたり子どもが平等になったらいいなと思いました。それに、障害をも

ってでもなかよく遊べる社会になったらいいなと思いました。(小5児童)

●社会のことや、私たちこどもの意見に耳を傾けて、いろいろな取組を考えていることに期待できました。私が望むのは、ただだれもが全世界の人々が平和で平等に暮らせることです。今は身近なことやあらゆるところで争いがあるけど、私は望んでいることのためにも、少しでもいいから幸せになれるような環境をつくりたいです。いつかみんなが幸せになれる時代をみんな願ってほしいです。(小5児童)

◆こどもは、幸せな状況の家庭もあるが、そうではないところもあるかもしれないから、差別のないように、そしてそういう子が、安心して学校に行けるように、給食費を無料にしたり、病院のお金をなくすことをしたら、「その子たちは、助かるのかな」と思いました。(中2生徒)

◆この世界を漢字一文字で表すなら、正直に言って「運」だと思います。人は生まれる場所、時、環境がみんな違うから、みんな平等ではないと思います。でも、そこを世の中の人全員で解決していければ、何かが変わると思います。自分たちこどもでも、何かできることがあれば取り組んでいきたいです。「平等」。それは人類にとって一番の目標だと思います。(中2生徒)

◆「すべてのこどもが平等に扱われる」と、すべてのこどもが安心して幸せに暮らすことができると思います。私は、ニュースで虐待されて亡くなるこどもがいることを知って、悲しい気持ちになります。親が自分のこどもをかわいがって育ててほしいです。(中2生徒)

◆もう少し、こどもの声に耳を傾けて下さい！ こどもからしたら、大人が味方でいてくれると、かなり心強いです！ 全世界のこどもが平等にご飯を食べることができ、まわりから愛される・教育を受けることができる世の中にしてほしいです。みんなが平等に生きる環境をつくることができると、いじめもなくなると思うので、ぜひ、力を貸して下さい。大人のを借りられると無限になると思うので、こどもと大人のを合わせていい世界をつくっていきましょう!! (中2生徒)

平和

●世界中のこどもたちが平和に生きれるような世界にしてほしい。(小5児童)

●がんばっていることはあります(未来のため)。でも、

心配なのが戦争、環境破壊、いじめ、災害、値上がりなどなど。まずやめてほしいのは、戦争のためたくさんのお金を使うと聞きました。その他にも、土地を削ったりするのをやめてほしいです。戦争もいやですし、戦争が一番の環境破壊と言われています！ 何もいいことありません。戦争にお金を使うのではなく環境を守るためなどにお金を使ってほしいなと私は思いました。これからも、よければこの県を守る活動をやってほしいです！ ありがとうございます。(小5児童)

教育費負担軽減

●母子家庭で「赤字」ということはわかるけど、受験して高校も大学も行きたいけど、お金が怖いです。1つもなくなってしまうたらと考えると怖いです。塾の交通料、月謝、受かったときの制服のお金、受験のお金、モノレール、バス料金その他もろもろ大変そうていつかあきらめそうです。小中学生もバス、モノレール料金、受験に関する物事を無料化してほしいです。夢をあきらめたくないです！ (小5児童)

●いじめのない社会をつくってほしいことと、小、中、高、大までの教育が無料な社会を実現してほしいです。よろしくお願いします。(小5児童)

●小中学校などの無償化を実現したほうがいいと思います。なぜなら小中学校は、義務教育なので、金銭の面で十分に授業が聞けない子などがいると思うから。インターネットが必要とされる夏休みの宿題をどうしたらいいのか分からない家庭も考えてほしいです。(小5児童)

●学校の学費や給食費、修学旅行費などを無料にして、こどもが家庭に関係なく、気軽に学校に行ける世の中にしてほしいです。(小5児童)

●教育費、教材費が無料になれば少しはおうちにお金が貯まって旅行に行けるかな？(小5児童)

◆大学に行くと、お金がかかるから、無料で受けられると、親の負担が減って行きたいところに行けると思いました。だが、無料は難しいから、小学校～大学に通う人たちに給付金などがあればよいのではないかと考えました。例えば、東京都のようにこども1人あたり月5,000円支給する方法は、ニュースを見て、とてもいいなと思いました。このような生徒用のこども調査があって、自分の意見が言えてうれしかったです。ありがとうございます。(中2生徒)

- ◆学校の制服や副教材の費用を無償化してほしい。制服約7万3000円(夏服・冬服あわせて)、副教材約2万円(2年生用)も私の場合かかっている。(中2生徒)
- ◆沖縄は、全体的に給料が低いと考えています。だから、義務教育である中学ぐらいまでは、教育費を無料にしてほしいです。強いて言えば、高校まで無料にしてほしいです。無料にしたら、家族との時間にも使えるし、ストレス減少にもなるメリットがあります。無料じゃなくても、学校側に月1,000~500円払うという案もいいと思います。(中2生徒)

ひとり親への支援を

- 私の家は母子家庭で、お父さんがいません。お母さんは夜も仕事に行くことがあるので、大体は祖父母の家に泊まります。放課後は家に帰ってもほぼ人がいないので、たまにしか「おかえり」を聞けません。私は今の沖縄もとっても好きですが、母子家庭などひとり親の子どもへの対応？ 手当？ をすることでよりよい沖縄になると思いました。(小5児童)
- ◆私はまだ中学生ですが、親がシングルマザーのため、お金の気を遣っています。もっとシングルマザーやお金に困っている人に目を向けていただけると嬉しいです。(中2生徒)

支援・制度について

- どんなに小さな悩みでも、聞いてくれて、アドバイスしてくれる相談所や、そういう人が身近にいてほしい。(小5児童)
- ◆離島に住んでいるから補助をいっぱい出してほしい。(中2生徒)
- ◆不登校だった人でも全日制高校に行けるように配慮してほしい。(中2生徒)
- ◆補助金の基準を変えてほしい。お金の苦しい月があり、補助金の申請を親がしていたが、全てできなかった。(中2生徒)

格差をなくしてほしい

- 塾に行ける子と行けない子がいる。無料のところには、恥ずかしくて行きたくない。格差を少しでもなくす環境を、国がつくってほしい。(小5児童)

- ◆沖縄は離婚率が高く、質のいい教育を受けられていない子どもたちがたくさんいます。シングルマザーやシングルファザーの子どもや貧困で苦しんでいる子ども、障害をもつ子どもを差別せずみんなに質のいい教育受けさせてあげてほしいです。自分の友だちに家族や友だちと関係のことで悩んでいる子がたくさんいます。そんな子の重い気持ちが少しでも軽くなるようなそんな対策もしてほしいです。長文ごめんなさい…。(中2生徒)
- ◆このアンケートは、こどもの本音や大人にやってほしいことを素直に書けるからとてもいいと思いました。大人の人に言いたいのは、こどもの気持ち・本音を聞いてあげること、医療費・教育費が出せないからとこどもがまだこどものときに叶えられない気持ちがないようにしてあげてほしいです。大人は大変だと思いますが、自分たちの頃より今の子の気持ちが潰されないように守ってもらえると嬉しいです。(中2生徒)

その他

- デニーさんへ、戦争がない明るい未来をつくってください。そして、SDGsによく取り組んでください。(小5児童)
- 年に1回、家族旅行券がほしい!!(小5児童)
- 障害の人が安心できる社会が増えてほしいので、交流を増やしてほしい。(小5児童)
- 国のえらい人へ。すぐ戦争や爆弾を落とさないでください。(小5児童)
- ◆沖縄に基地をつくらないでほしい。それと埋め立てをしないでほしい。(中2生徒)
- 大人はなぜ「いじめはだめ」というのに、会社などでパワハラや暴力が問題になっているところがあるのでしょ。まず大人のこのような問題を解決しないと、こどもに「それはやったらダメ」って教えたらいけないと私は思います。(小5児童)
- ◆大人は、こどもがあまりいろんなことをわかってないっていうけど、大人はどうなの？ 大人の方がわかってないと思う。今の日本、世界はもっと大人が考えて、考えて行動するべきだ。こどもはできることが少ない。みんなに幸せがくるためには、まず大人が変わるべき。(中2生徒)
- ◆ほぼないし、特に言いたいことはないけど、本当にこどもの異変に早く気づくのは大事だと思います。中に

は大人をそういう面で信用していない人もきつといると考えているので、友人には話せることが、いざ大人と向かい合うと言えない人が実際まわりにいました。こういうことを相談されて、「大人には言わないでね!」と言われたことも少なくありません。だから、私たちが大人を信用できるようにしてほしいなと思いました。(中2生徒)

◆子どもだけがいい風になっては、大人が苦勞して、良い街にならないから、子どもと大人が楽しめる街にしてほしい。沖縄を最高で楽しい街にしてほしいです。(中2生徒)

◆私は、学校が嫌いでクラスに行かず自立支援教室で過ごしている。そこではいろいろな子がいる。不登校の子からクラスになじめない子まで。私は、いつも思う。高校まで義務教育にしてほしい。不登校の子たちは、通信に行かせる。でも苦しい子だっている。でも行きたくても行けない子だっている。玉城知事へお願いです。高校まで義務教育にしてほしいです。不登校(私のような子たち)のためにも通信をもっと多く、身近に通信がない人たちのためにも増やしてほしいし、もっと沖縄をよりよくしてほしいです。今私は、中2で来年受験生です。本当は、来年までに私の無理な願いを叶えてほしい。でもそれは可能性が少ない、私は今とてもつらい。来年が怖い。もし落ちたらとか自分は無理じゃないかとかもっと多くの悩みがある。でも、私よりももっと多くの苦しい気持ちをもっている人がいる。来年が無理でも数十年後でもいい。私の他にも苦しんでいる人を助けてほしいです。よろしく願いします。(中2生徒)

アンケートについて

●=小5、◆=中2

こどものことを考えていると思った

- 沖縄がこどものことを、とても大切にしようとしてくれているのだな、と思いました。いじめのない社会や、差別のない社会にするのはもちろん、本当に「多様性」が受け入れられるようになればいいな、と思います!(小5児童)
- 大人に言いたいことはない。でもこのアンケートを取って困っている子どもを守っていくとか、大切にしてるんだなとわかる。(小5児童)
- 質問を書いてみて少しの不安がなくなった感じがしました。一人ひとりの権利を生かした質問で子どもたちには、いいことだと思いました。(小5児童)
- このアンケートは、こどものことを考えていてみんな平等に生活できるようにしていると思う。いいアンケート。(小5児童)
- 差別のない、みんな幸せな世界にしてほしい。このアンケートには自分にあてはまるものがたくさんあって、ちゃんとこどものことをわかってくれる人がいるのがうれしいです。(小5児童)
- ◆デニー知事は結構子どもに対する政策とかを考えているんだなと思った。(中2生徒)
- ぼくたち子どもは、たくさんの人たちに大切にされ、考えてくれているのだなと思いました。ぼくらは将来に向けてがんばっていきたいです。(小5児童)

本音を書けた

- 自分は、口に出すことが難しいから、このアンケートは、すごく助かりました。いやなことも我慢するタイプなのでちゃんと本音で書けました。本当にありがとうございます。(小5児童)
- 自分は、学校のことで困ったこととかがあっただれにも相談できなかつたけど、このアンケートだと素直に答えられて感謝しました。(小5児童)
- 今まで、先生に言えなかつたことや、話をこのアンケートに書いてよかつたです!(小5児童)
- 今まで家族にしか話したことがなかつたことがちゃんと答えられて少し楽になった。先生とか友だちに言えなかつたけど自分の悩みとかを言えるようにしたいなと思いました。(小5児童)

◆アンケートのおかげで自分の素直な気持ちが少しでも書けたのでよかったです。どこに電話したらいいのとかも知れたし子どもの権利条約という言葉も知れた。(中2生徒)

◆今回このようなアンケートをしていただけてうれしかったです、ありがとうございます。普段親などの大人に言えなかったことや聞いてほしかったことを書いてよかったです。私は、不安なことがあっても、ためこんで、誰もいないところで、泣いてしまうタイプなので、このアンケートが心強かったです。大人のみなさんには、子どもがいやだと思う行いをしないでいただきたい…一人ひとりのこどもに耳を傾けて、やさしく相談にのってほしいです。改めてありがとうございます。(中2生徒)

相談してみようと思った

●このアンケートを通して、大人に言ったほうがいいのかな?とか思いました。勇気が与えられ、困ってることなど、いじめもだれかに言おうと思いました。(小5児童)

内容について

●ちょっとこのアンケートの問題は、5年生の私には、言葉がむずかしかったです。(小5児童)

◆こどもの人権について書かれていた。とても大事なことばかりかいてあった。(中2生徒)

◆こどもの意見も取り入れていきたいという気持ちからつくられたアンケートなのかなとアンケートを答えていて思った。(中2生徒)

●困っているこどもたちや家族のためにいいアンケートだと思いました。(小5児童)

◆今回のこのアンケートは、いじめられていたり、居場所がないこどもたちに寄り添った、素晴らしいものだと思いました。だけど個人的な意見ですが、質問が「なぐられたことがあるか」とか「いじめられたことがあるか」など、ストレートすぎるものが多いと思いました。なので、どんな人でも答えやすいように、「学校は楽しい場所だと思うか」とか「友だちはだいたい何人ぐらいいると思うか」などと、気軽な質問も入れてみるといいかなと思いました。(中2生徒)

●このアンケートは、いじめをなくすために必要だと思

う。いじめでこの世を去った人もいるので、このアンケートを全国にまわしたほうがいいと思う。このアンケートでもっと自分をふり返れた。ありがとうございました。(小5児童)

●このアンケートをして少し安心できました。ありがとうございます。いろいろあって大変だったけど、安心できたのでうれしかったです。将来大人になったとき、差別されている子やいじめられている子を助ける仕事につきたいと思いました。相談できてよかったです。ありがとうございます。(小5児童)

こどもの権利について

◆いろいろなアンケートがあって、しっかり考えて書けたからよかった。子どもの権利条約などを聞いて、聞いたことがあるだけだったけど、しっかりと内容を知ってどんなものか知りたいなと思った。(中2生徒)

◆子どもの権利条約というものがあるということを知って知った。気になったから、調べてみたい。(中2生徒)

◆こどもにも権利があって、今の自分の生活や今後のことについて考え、親や先生などとたくさん話し合っ、自分の一生を後悔しないように、今やれることをやりたいです。(中2生徒)

手法について

●ぼくがこのアンケートを受けて思ったことは、やっぱりアンケートだから、本当のことを言ったら、先生とかに伝わると思っています。(小5児童)

●だれが書いたかわからないようにしてくれているのがよかった。まちがった答え、正しい答えなどがないのも、いいなと思った。(小5児童)

●初めに、書きたくない質問があれば書かなくていいというところを見て、少し安心しました。少し心がスッキリしました。ありがとうございました。(小5児童)

◆学校でのいじめアンケートより、家の方が正直に自分の事情が書けるから、このアンケートはとてもよかったです。(中2生徒)

◆名前を書かず、強制はしないということが質問に答えたくないと思う人にも配慮していいなと思いました。親も先生も見ないということで本当に思っていることが書けました。このアンケートを通して、今

の自分がどういう状態なのかを知ることができました。相談できる場所を紹介しているところも、誰にも相談できない人にとってはいいものだなと思いました。このアンケートは本当にたくさんの子どもの救いたいという気持ちが伝わってきます。安心してアンケートを受けられました。ありがとうございました。(中2生徒)

またやってほしい

- このアンケートをもっと長く続けていけば本当にいい社会がつかれると思う。(小5児童)
- このアンケートをして、悩みごとがある人が全然だれにも相談できていないときに役立てると思いました。このような悩みごとや、いろいろだれかに相談できない人のためにアンケートをまた続けてほしいです。(小5児童)
- ◆このアンケートを行うことで、少しでも沖縄の子どもたち、大人たちの実態がわかるようになっていい未来につないでほしいです。また、このアンケートよかったので年に1回はあった方がいいと思います。(中2生徒)

意味のあるものに

- このアンケートが理由でいじめや差別が少しでもなくなしてほしい。(小5児童)
- このアンケートで、いろいろな人の暮らしや生活がどんどんよくなってほしいです。これで、不登校の子どもや悩みがある子どもが少しでも安心できるような暮らしになったらいいなと思いました。(小5児童)
- ◆困っていることや悩みごとがあって相談してくださいと言われても相談できずに抱え込む人は思っているよりも多くいます。この調査で少しでも相談について何かよくなることを願っています。(中2生徒)
- ◆このアンケートは本当にいいと思いました。沖縄県民の子どもたちの意見をデータ化などして、今の課題は何かということを理解して解決してほしいです。いろいろな課題があると思いますが、よろしく願います。(中2生徒)

暮らし

●=小1、◆小5、■=中2

物価高騰

- このまま物価や税金が高騰したままだと賃金上がる様子もないので生活できていけるか本当に不安である。8時間働いても普通の生活ができないと感じる。家族の時間や睡眠の時間等を削って働かなければならないのか…。(小1保護者)
- 沖縄は、低収入であるのに、食費は高く、物価高騰により、ますます月々の食費がかさんでいます。これから、子どもが育ち盛りをおかえ、お腹いっぱい食べさせてあげたいのに、おかわり分が用意してあげられない現状。どうにか子どもに豊かな生活を感じさせてあげたいですが不安です。(小1保護者)
- ◆物価高の影響で、野菜等すべて高く買えないため、麺類(カップ麺等)や白米中心になってしまう。そのため、学校の給食があると助かっている。ただ夏休みは大変だった。近くに子ども食堂もないため、地域に利用可能な子ども食堂がほしい。またはお米や野菜等の提供がほしい。時間もなくて勉強を見ることができないので、中卒でいてほしくないと思っているので、塾等は行かせるけど、その分食費を削って我が家では相談して行かせている。制度や支援も利用したいけど、自分の食べる物とか嗜好品とかも購入しないで、どうにか工面して、それでもできなさそうなら利用しようと思っている。本当に困ってる人でないと申請できなさそう。敷位が高い感じがするし、対面とかになると苦情になる。うちの子どもは携帯とネット環境は必須で食費を削ってでも、必要って言うるので、別のところで何か支援ほしい。(小5保護者)
- ◆習い事や塾にお金をかけたいが、経済的に余裕がなくあきらめている。手当てが増えるといいと思った。物価が上がったため、パートから契約社員になったが、その分子どもという時間が減った。子どもの父親もダブルワークをすることで、今生活ができる状況。とにかくお金も時間にも余裕がない。(小5保護者)

- ◆物価高騰で、食費が月単価1万円オーバーしています(以前と比べて)。安い日(〇〇曜日)とかに買い出しに行っても以前より高い。光熱費も高騰している。数十円時給が上がっても対応できません。継続的な支援がないと、どんどん子育てが苦しくなります。子どもより生活のこと考えてどんどん自分が親であることが嫌になります。何もできてない。育むことができているのか不安になります。(小5保護者)
- ◆物価や税金等、全部が値上がりして、生活が厳しい世の中。もっと時給を上げたり、給付金の回数や金額等を上げるなどしてほしいです。何でも値上がりだけすれば良いって問題じゃないです。子ども3人を一人で生活安定させるのはしんどいし、精神的にも参ります。他の親も同じ悩みで、苦しい思いしながら、がんばってる人たくさんいます。これが行き過ぎると、命落とす方も増えていくこと、わかってほしいです。(小5保護者)
- 給料が上がったとしても税金が増えたので手取りが減っている。その割に物価は高騰しているので貯金を少しずつ切り崩していくしかない。以前は貯金できていたが、今は出費が多くなり、貯金できない。けれど子どもにはいろいろな経験をさせたいので、そちらに使うお金は惜しまないようにしたい…が、このままいくとそれさえもできなくなりそうで不安。将来子どもが専門学校や大学に行くお金を貯められるか不安。(中2保護者)

生活が苦しい

- 生活レベルがどんどん落ちていく。収入は変わらないのに支払いだけが増えていく。国からの支援がもっとほしいです…。せめて、給食費は無料にしてほしいです。(中2保護者)
- 働いても働いても引かれていくばかりで、まったく意味がない。保険料、税金。働けば働くほどアホらしくなる。でも働かないと生きていけない。子の将来にかかるお金、まわりから聞くと、恐ろしすぎて考えられない。退職金などもないのに老後どうやって食べ

ていけばいいのか。死ぬほど働かないといけないのか。不安しかない。(中2保護者)

●現在、金銭的に苦しい。部活はなんとか出せてるが下の子のスイミングをやめさせた。他にやりたいものもあるようだが行かせきれない。学童も高いが、預けないと働けない。3,000円とかだとうれしい。給食費も高い。病院代はとでもありがたい。以前はお金がなくて行かせてあげられなかったことも多々あった。小さい子もいて、休みがちでとでも8時間は働けない。上の子が県外に行く予定だがお金も借りれず本人のバイト代で行こうとしている。(小1保護者)

●最近はいり物をしても、手当ても支払いですぐに無くなり、ミルクやオムツを買うためにポイントを利用したり、野菜も高く、こどもにふりかけやのり等で食事を済ませることもありました。部活をさせていても保護者会費や部着の購入等、他のきょうだいと重なりと出費が大きく、遅れて払う相談をしたり、どうしてもお下がりでできない小学校で使用する家庭科の用品(エプロン作りやナップザック等)は、購入時に負担になる時もありました。送迎で車を使用することも多く、毎月ガソリン代も気になり、公共料金を月遅れで支払いをしてやりくりしている状況です。できれば毎月援助や給付があるとこどもたちとも余裕をもって接することができるのかなと。お金の心配ばかりです。(小1保護者)

●収入が増えると税金が増えるのでパートで仕事をしている。今年は、大学・中学・小学校と入学も重なり、出費も多く、下のこどもたちに新しい物もいろいろ買ってあげられてません。大学生の子が気を遣い奨学金制度を言ってきました。親である私たちが出してあげるべきものだと考えていたので、申し訳ない気持ちになりました。非課税世帯の壁でギリギリで生活している私たちは、手続きさえも支援してもらうこともできなく困ることも多々。普段はアンケートを出したことはありませんが、少しでもわかってくれる方がいればと思い、書きました。(小1保護者)

■ひとり親世帯なので、パート以外の収入がないので今以上の収入が見込めない(これから先ずっと)。物価も上がっているので足りない分は、預金から切り崩して生活している。下の娘が中2なので、高校、その先の学費を準備できるかが不安。好きなこと、進学をさせてあげたいが…。こどもが自立するまで

の積金、増えるどころか、減っていつている状況なので、ずっとこの感じが続くのかと思うと絶望的になる。外にお金をつくる方法をいろいろ考えることが常にある。来年受験なので塾に通わせたいが、経済的に無理。アパートも部屋が狭いので、静かに勉強できる環境にない。自分の部屋があるところに引っ越しも考えたが、家賃が高くて引っ越すことができない。だからといって借入に抵抗がある。結局返さないといけないので…。(中2保護者)

住まい

◆まったく貯金ができない。家賃が高すぎて、引越しもできない。大人一人と10歳の二人で1DKはしんどい。そういった面の支援はあるのか? もしあるなら、校区を変えずにそういった支援を受けたい。(小5保護者)

◆沖縄は家賃が高くて、こどもにあったアパートに引越したいが県営も市営も近隣は高倍率です。母子優先とは言わないですがもっと住宅増やせないですかね。もしくは、東京みたいに住宅手当があればうれしいです…。(小5保護者)

借金

●夫婦で経営をしているため、金銭的には苦しい状況です。生活保護も考えましたが、対象外となりました。気持ちは前向きではあるので、できると思っっていますが、金銭的な面では厳しく、どうしたらいいか…と思っています。そういう状態での支援などがあればうれしいですし、返済ができるシステムがあればと思います。銀行や公庫では借り入れできないので、他から借りる手段がカードローンやキャッシングしかなく悪循環になっている。こどもたちがイキイキと暮らせる、成長できる環境をつくっていきたい。(小1保護者)

◆生活費が足りずクレジットカードで支払いをし、その返済が遅れ、利息を支払っている状態から抜け出せず、貯金や保険を崩して今は貯蓄がなく、マイナスの家計である。こどもの習い事も値上げが続き、やめようかと思っている。学校以外で学ばせてあげられないのが残念なので、給食費や学校でかかる費用を自己負担なしにして家庭の出費を減らして

ほしい。生活保護等をうけていない課税対象のギリギリの私たちにも使える低金利ローン等支援がほしい。(小5保護者)

収入

- 子どもが4人いるが、成長するにあたって、食費、衣服代(体育着含む)、靴、習い事代に大変お金がかかる。また電気代とかも高くなっているので以前に比べるとギリギリの生活を送っている。一番の願いは、時給がもっと上がること。現在 900 円/時だが、子どもが学童に入れなかったのも、子どものお迎えに合わせた時間帯で働いている。夏休みは、家に子どもだけがいるので仕事も時短で調整している。社会保険など引かれたら手取りがとても少ない。時給が上がることを切に願っています。(小1保護者)
- ◆現在病院で介護の仕事をしているが派遣のため賞与もないが正社員になると毎月の給与が(派遣での給与より)減るため正社員になることもできないので不安定である。さらに介護職に対する手当・給与が仕事量に見合っておらず、常に責任を背負い気を張っているため、心が安まる時間もない。改善してほしい。常にイライラして子どもにも強く当たってしまう。(小5保護者)
- ◆同じ職場に数十年パート勤務ですが、時給は微々たる金額しか上がり退職金もないので不安です。物価や税金ばかりが上昇し、給与はなかなか増えず貯蓄もできず負の連鎖のような気がします。何とか健康で働いているのが幸いです。(小5保護者)
- 農業をしていますが、出荷物の値は上がり収入としては横ばい。ですが、物価等は上がる一方で支出は増えています。会社員の方など、賃金は増えているのに、農家にはそういう仕組みがありません(知らないだけかもしれませんが…)。そういったサポート制度や対策があるととても助かります。(中2保護者)

ワーク・ライフ・バランス

- 近年は、女性の社会参加ができるよう保育園の充実等子育ての支援策がとられていますが、職場内においては、仕事の量や内容などあまり理解が得られず、時短制度などを使っても残業せざるを得な

い状況等で、仕事と家庭の両立が困難です。そのため、女性側がキャリアをあきらめ、パートなどで仕事をセーブしなければならない状況です。保育園が増えたり少しずつ環境は変わっていますが、職場では、何も変わっておらず、共働きが子どもを育てるのは大変な状況はあまり変わりません。企業等にも子育て世代の働き方がもっと働きやすくなるように訴えてほしいです。(小1保護者)

- ◆子どもと接する時間が平日月～金なかなかもてず、「早く寝て」「早く起きて」「早く食べて」「早く登校しなさい」と注意ばかり。育児休業の制度で育児休業休暇を年次休暇や介護休暇、看護休暇と同様に年間 10～20 日自由にとれるようにしてほしい。子育ては就学前だけではなく小学校入学後も当然あるのに休暇制度がなく保証されてない。年休と同じ感覚でしかない。(小5保護者)
- 障害の子のいる母親が仕事ができるように就職先の紹介をしてほしい。働けるが働けない環境で貧しい。(中2保護者)

その他

- 一番の出費は住民票のある島から通院などで那覇に出る飛行機代です。そして那覇で滞在するホテル代です。非常に大きい出費です。メガネ一つ買うのも親子で飛行機に乗る必要があります。耳鼻科、眼科もしかり。また、高校を決めるにあたって、いくつか候補となる高校の学園祭や学校訪問をさせてあげたいが、今は中3の2学期に一往復の補助しかなく、離島苦を感じる。島での食材や雑貨の値段は那覇の2倍と思う。高すぎます。(中2保護者)
- 不妊治療費助成事業として保険適用や、保険適用外の先進医療に対して助成する事業を実施されていると思います。金銭面での助成が充実してきた反面、企業や社会からの理解等も必要であると感じます。仕事をしながらの不妊治療は、急な休みの取得等も必要であり、本人の精神的ストレスもあると思います。仕事と不妊治療の両立が可能な社会をつくってほしいです。(小1保護者)

教育費の負担を減らしてほしい

- 学校に支払うものがゼロであるとうれしいです。こどもが徴収金袋を持ってくると払えるかいつも心配です。(小1保護者)
- ◆今現在心療内科に通院してるのですが、働くことが難しく、母子手当、児童手当で生活しているのですが、正直お金が足りません。こどもも大きくなると食べる量も増えますし洋服などもすぐに着れなくなります。働けない私が悪いのですが、こどもたちにかかる費用をどんなかたちでもいいので、支援していただけると助かります。今の時代のこどもは本当にお金がかかります。私がこどもの頃は、今思えば良い時代だったと思います。(小5保護者)
- 住んでいる自治体は給食費が無料なので大変助かっています。一方、毎月払わなければいけない副教材費が負担と感じています。テスト代やドリル代などは公的支援でなんとかならないでしょうか。また、夏休みの期間についても検討願いたいです。エアコン代や昼食代など夏休み期間中の出費が多くて大変です。(中2保護者)

進学費用

- 物価高騰にあたり、生活はキツキツ。子が大きくなればなるほど生活費に消え、貯蓄に余裕はない。将来的に不安しかない。こどもに奨学金を背負わせてまで大学に行ってほしくないのが本音。でも、親として、経験や人とのつながりはたくさんもってほしいが、金銭的不安から素直に行ってみたらと簡単には言えない。(小1保護者)
- ◆こどもたちが経済格差によって、学力の格差がおこらない施策をお願いしたいです。大学へ行きたくても経済的に厳しい現状があり、給付型の奨学金も枠が狭く、現実的ではないと感じます。大学へ進学するための借入金、それを背負って社会へ出る大変さを悲しく思います。負の連鎖が切れない沖縄にとって何が必要なのか？ お金の支援も必要ですが、自立、自律できる環境整備も必要と思います。企業誘致が難しいなら、賃金を底上げできるような企業への還元方法等、できることを模索してい

ただきたいと切に願います。(小5保護者)

- こども二人に対しても、専門学校や大学など学費を援助してほしい。年収関係なく。こども二人でも、学費が大変だから。年収 700 万程度でも厳しい。(中2保護者)
- 大学まで行きたい人は、無料にしてほしい。今、大人になった私たち、大学時代の奨学金の支払いに追われて(二人分)ちょっと支払いがキツイ時が多々あります。その分、こどもの習い事にあてたいと思ったこと、何度もあります。学費と給食費の負担をなくしてほしいです。(中2保護者)
- 高校生、中学生二人、3名のこどもがいます。3名とも高校卒業後は、専門学校や大学へ進学したいと話しています。しかし今の収入では借金をするしかなく厳しい現状です。こどもが未来を担っていく上で、大学・専門卒業までの教育への援助をしっかり行ってほしいです。また、高校・中学の修学旅行の費用も高額で息子から「お金ないでしょ、行かなくてもいいから」と気を遣う言葉もありとても苦しかったです。学校での必要なお金は教育への資金としてすべて無償化するべきです。できなければなくすことも必要だと思います。(中2保護者)
- 進学して沖縄内でも通学に長時間を要する(一人暮らし等)場合、交通費や生活費の補助を充実させてほしい。北部地区は高校も少なく選択肢が少ないので中南部へ進学するには負担が大きく、経済的にもこどものメンタル的にもとても大きな決断となる。そんな制度はいつも世帯収入が関係してくるが、収入の分だけ人より多くの税金を納めているのにその層には何の恩恵がないのも平等ではないと思う。収入額にかかわらず全こどもへ、がんばる人たちへ平等に使える制度をつくってほしいです。(中2保護者)

学用品・ランドセル・制服

- そろそろ、ランドセル購入を強制するのをやめてほしい。価格が高すぎて、家計への負担が大きすぎる。こどもの貧困問題に本気で取り組んでほしい。(小1保護者)
- 年数回のために式服を購入するのは負担がある(小学生はサイズアウトする)。式服を着る必要があるなら、式の時だけ着るのではなく制服としても

らう方が、私服を買う必要もなくなり経済的だと思う。(小1保護者)

●給食費の免除期間があったことで、とても助かっていました。感謝していますが、物価高騰が続く中、今月から通常通り引落しとなるのが、正直きついです。毎月学級費など、地味に、2~3,000円かかるので、年間3万円程でもきょうだいがいると負担が大きいです。せめて、学校の教育の一環で習う算数ボックス、習字セット、鍵盤(本体のみ)等、短期間で終わるものは、学校の備品として扱ってくれるとありがたく思います。(小1保護者)

◆物価高の影響で、学校で必要な体育着も値上がりしていました。1セット購入すると、5,000円近くになるため家計に響いています。学校用品は、最低限の値上げにしていただけたら助かります。(小5保護者)

■学校の制服が高い。おさがりをもらったり、安くで譲ってもらったり。学校指定なので体育着もすべて記名(刺しゅう)が必要で、それにもお金がかかる。中学入学時、おさがり1枚もらったけれど、名前の刺しゅうのやり直し(スカート、セーラー、体育着上下、ジャージ上下)。それと、足りない分の制服を購入したら全部で8~9万かかってしまった。とても大きい出費。せめて名前の刺しゅうがないだけでも出費が減る。この学年までは、外ばきも指定靴だったためほとんどに出費が多かった。これから修学旅行費も捻出しないといけないことも憂うつ。収入は減ったのに物価高騰で出費は増えて貯蓄どころでない。(中2保護者)

給食について

◆物価の高騰で家計がキツイと思うことがあります。その分、給食費が無料になると、とても助かります。(小5保護者)

■住んでいる地域で給食費の無償化に差があるので、どこに住んでいても県内の子どもたちが質のよい給食をいっぱい食べられるように、給食費の無償化を早く進めてほしい。(中2保護者)

●こどもの学校給食が年々質素になっている気がする。給食無償化するなどして、子どもたちにしっかりとおいしい食事がとれるようにしてほしい。(小1保護者)

■学校給食の量が少なすぎかなと思います。無料になったりもいいですが、食べている本人たちが「給食が全然足りない」とよく言います。帰宅して、夕飯まで何かしら食べて、物価高騰なのに余計に出費があります。(中2保護者)

宿題

◆学校側は、親のどちらかは仕事をしていないと思っているかのような量の宿題などをだすのでとても困る。仕事、育児、家事でいっぱいいっぱい、こどもに強くあたってしまう。夏休みは夏休みの友のようなノート一冊だと助かります。(小5保護者)

◆とにかく宿題を減らしていただきたいです。学校や先生にももう少し余裕のもてる仕組みづくりに注力していただきたいです。こどもはもっと遊び、体験する機会をもっと増やすべきだと考えています。(小5保護者)

不登校

◆現在、こどもが教室に行けず、保健室で過ごしたり、日によっては(ほぼ毎日)早退したりと親のサポートがかなり必要な状況です。私の調査不足かもしれませんが、教室ではなく、フリースクールのような、学校ではなく、その他の施設で、ストレスなく過ごせる場所があるといいなと思います。(小5保護者)

◆こどもが登校したくないと言っている時期があった。学校側からの提案で保健室登校、図書館登校、支援学級登校などあったが、先生の数に足りず空き教室はあっても、場合によっては先生がいない時間があるので、その場合は通常学級へ戻るとのことでした。大人数の中にいることができない、つらい、というのがわが子の登校したくない理由だったので休むことが多かった。先生の数が増え、1クラス10人以下のクラスが増えてほしいと思う。先生一人に対しての生徒の数が減ればもう少しゆとりのある教育をしてもらえるのかなと思った。(小5保護者)

検定費用の助成

◆こどもが、検定を受けたいとお願いしていましたが…金銭的な理由からあきらめてもらいました。補助

金などの制度もあることは知っていましたが、そもそも日々の生活費に余裕がないので、市町村関係なく全額補助だったら意欲のある子が金銭的な理由なく受けることができるのかな…と思います。こどもと過ごす時間を確保したいと思い、勤務時間を短時間に制限しました。収入が減り、家賃の支払いも難しいので実家に引っ越しましたが、児童扶養手当も止められ、団地の申し込みも外れてしまいました。ひとり親世帯は、金銭的貧困かこどもの精神面の貧困を必ずどちらか選択しなければいけないんだと感じています。(小5保護者)

交通

- 中・高生のバス通学について。運賃が高い&本数が少ない&部活後利用できるバスの便が1時間に1本…という状況で、結局は親の送迎が必要となったり、活動をあきらめるといった話もよく耳にします。バス会社の運営や従業員不足の問題もあるかと思いますが、通学・交通費についての補助(県から出ているものには条件が達していないので申請できる家庭も少ないようです)や支援についてご検討いただけると幸いです。(中2保護者)
- 高校を選ぶ際、親が車で送ることができるかどうかを選ぶ条件になってしまっているのが交通インフラの拡張、またはスクールバスを各学校に増やしていただければと思います。そうすれば、学校の選択の幅が広がり希望や夢も広がり、沖縄が良くなっていくと思います。(中2保護者)

日本語支援

- ◆日本語支援がある学校に通学していてありがたいのですが、日本語講師が一人しかいないため、今だに日本語に不自由しています。金銭的に余裕がないため「国語」を専門とする習い事に通わすことができません。外国ルーツのこどもたちが多く通っている小中学校に日本語講師か国語を専門とする先生を一人ずつ雇用できないでしょうか?(小5保護者)
- 日本語支援に力を入れてほしい。学校で間に合わず、塾にも行かなければならない。それでは、追いつかないし、親が協力しないといけないので、仕事

はできない。学校→塾→家でも日本語勉強はこどもが大変そう。学校でもっと支援してくれたら…と本人も言っている。(中2保護者)

その他

- 学校でかかるお金がすべて現物支給だとありがたいと思います(申請してではなくすべて一律で)。家計が厳しくいくつも仕事をかけもちしながら生活しています(昼職9~16時、夜職11~5時、休日はタイミー等を活用して、8~17時で働いています)。学習塾の費用を支援するクーポンを利用していますが、すぐに使い切ってしまったので、現在、子の塾の支払いのために、休みなく働くようになりました。通塾のきっかけにはなりましたが、全額カバーできないところから、毎月4万円の出費増や送迎等で余計に厳しい生活です。少し後悔しています。小1からクーポンがあれば、そろばんや公文に入れたいです。学童が高くて入れられない…。(小1保護者)
- ◆PTA会費を全世帯強制的に徴収することを即止めてほしい。給食費だけでも苦しい。PTAは任意団体なので、学校の必要経費(スクリレの費用等)に流用しないでほしい。入会する、しないは、保護者に自由に選択させてほしい。(小5保護者)
- 中学校は「評価に入る」とばかりで、こどもたちをがんじがらめにして、こどもたちも先生方も心に余裕がなさすぎると思う。社会全体が、こどもに対して寛容でなくなってるように思います。私たち大人や親もいろいろ、変わらないといけないと思います。アンケート調査ありがとうございます。こどもたちの未来が明るくなりますように。(中2保護者)

就学援助

- 非課税世帯、低所得世帯ではないが、その対象より少し収入があるくらいの子帯であるため給付金がもらえない事にやきもきしている。就学援助制度を利用しており助かっているが、今年、少し年収が上がれば来年は対象外になるかと思うと収入を増やしたいがセーブしてしまう。どっちがいいのかわからない。(小1保護者)
- ◆所得が少ししか上がっていないのに就学援助の対象外になった。増えた所得は10万程度なのに子どもたちの給食費は年間それ以上。実質認定されている人よりも所得(使えるお金)が減っている。子どもは社会で育てるはずなのに、子どもをもっていると苦しい。子どもたちにはそんな思いをしてほしくない。子どもをもつてほしくない。自分の人生を楽しんでほしい。(小5保護者)
- ◆小・中学校から就学援助制度の案内の用紙はもらっていたが対象外だと思い申請していなかった。だが、知人からまわりが結構もらっている話を聞いて申請したら認定された。今までの分は支払われない(高校生の子の時からずっと対象だったと思われる)。もっと前から申請しておけばよかったと思う。申請しないともらえないではなくて、申請対象者には個別で対象になる可能性があるという通知があったら良かったと思う。全員が同じように制度を理解しているとは限らない。もう少し平等にももらえるよう、活用できるようにしてほしい(就学援助制度に限らず)。(小5保護者)
- ◆就学援助の申込みができる年収などの幅をもう少し広げてほしい。共働きでも、物価高で大変です。生活のために働いても収入は少ないので毎月ギリギリでがんばってはいますが見直してくれると助かります。(小5保護者)
- 子どもに対する支援がもう少しあってほしい。就学援助は助かるが払い戻しが年3回なので、払い戻しより無料にしてほしい。(中2保護者)

児童手当・児童扶養手当

- ◆もっと子ども手当を増やしてほしい。高1、中1、小5の母と父としていっぱいです。とくに、3個違いは制服や部活動の準備資金にいっぱいです。今回、40~50万ほど使い、家族から借りてるお金もあるので返済にも大変困っています。父、母ともにスマホも6年以上変えたこともなく、本当に支払いや毎日の生活にいっぱいです。助けて下さい。このアンケートが活用されますように…。(小5保護者)
- ◆私には子ども4人いますが、給食費を児童手当で支払いをしています。当たり前にはわかっておりますが、やはり中学校から金額も増え、部活動費、ユニフォーム代、PTA会費などなど、一人は5年生、宿泊学習代、一人は中学生、修学旅行費など重なると、生活費から取ることになります。児童手当を国からもらい、国に返す、という感じがします。それでも、自分で選んできた人生なので、子どもたちのためにがんばります。私はまだ大丈夫だと思っていますが、私よりも苦しく、つらい思いをしながら、子育てをしている母はたくさんいると思うので、もっとがんばりたいです。ありがとうございます。(小5保護者)
- 小学1年生の母です。私は子どもを出産して間もなくシングルマザーとしての生活を始めました。当時の私は今より収入も少なく経済的に苦しかったので、母子手当を申請に役所にお話しに行きました。ですが、実家暮らしで両親の収入があるため、母子手当はもらえないとのことでした。実家暮らしとはいえ、金銭面で工面していただいているわけではなく、生活費は両親に毎月支払いをしているので経済的に苦しい状況でした。今も母子手当はもらえず私の収入のみで毎日過ごしています。こういった私のような状況の家庭もあるのだとわかってけると幸いです。(小1保護者)
- ◆児童扶養手当の所得制限を無くしてほしい。仕事をがんばっていても毎月の出費が増えて、貯金がどんどんなくなる一方です。安い家賃のアパートを探しているが、引っ越し費用も多額で引っ越せない状況。今のままだと修学旅行も行かせてあげるのが厳しい。専門学校や大学に行きたいと言われても金銭面で行かせてあげられるのか不安しかない。(小5保護者)

医療費

- 医療費がかからなくなったことが、とても助かります。できれば高校生までお願いしたいです。(中2保護者)
- 現在、夫婦共働きですが、住宅ローンや借入返済等でなかなか貯蓄もできず、精神的に追い詰められる日々が続いていました。そんな中で、こどもの医療費が無料化され、緊急時も医療機関へ受診することができ、経済的な負担も減り大変助かっております。その他の要望としましては、小中学生の給食費も毎月負担と感ずることがあり、無償化されましたらありがたいです。(中2保護者)
- ◆こどもの医療費助成に大変助かっていますが、親の医療費が家計を圧迫するのを懸念して、不調を感じつつも受診できないことがあります。少額でもいいので、何かしらの対策があるといいのに…と思います。(小5保護者)

こどもの預け先について

- ひとり親なので、家の家事などをする時間や、自分の買い物や気分転換のための時間が足りません。土日休みの仕事ですが、土日はこどもたち3人がいるので、こどもとの時間であつという間に過ぎます。土曜日は、保育園や学童は仕事の人のみ預けることができるところがほとんどなのでお願いできず、どうしても時は母(こどもたちの祖母)にお願いしています(でも一人では少しの時間が限界)。保育士の先生方にも家庭があることもわかります。でももう少し、土曜日にこどもたちを預けやすい環境がほしいです。(小1保護者)
- ◆学童保育に入れなため、正社員の就職ができない。こどもを預ける祖父母がいない家庭にも補助金があつてよいと思う。ファミサポを利用しているが金銭的にあまり利用できなく、低学年の頃は一人で留守番をさせたことがあつた。(小5保護者)

放課後児童クラブ(学童保育)

- 3歳からの保育料は無料になりとても助かつた。保育料が無料のおかげで習い事にも通わせることができた。小学生になり、学童には補助がなく毎月1

万3,000円分の負担があり、夏休みは1万5,000円+行事費別+毎日の弁当ととも負担で仕事をしながらの弁当作りは大変でした。下の子が小学生になり負担が2倍になると考えると大変です。学童への保護者利用料の軽減をしてほしい。公立の学童並みに1万円にしてほしい。多子世帯は、学童へ行かせることができず、こどもを自宅で留守番させることしかできない。こどもの安全と保護者が安心して働ける環境をつくってほしい。(小1保護者)

- 小学校1年のこどもがいます。今年8月まで学童に入れず(定員オーバー)、こどもだけで歩いて家に帰し、留守番をさせておくのが性格的に厳しい状況だったため、母(私)が毎日仕事を早退し、こどもの終わる時間に合わせて退社をしていました。こども4人をシングルで育てていたため、経済的にとてもキツくなり、こどもたちに朝食をあげられない時もありました。就業時間が減つたため、次年度、学童の申込みをする就労証明書にも少ない就業時間が記入されると思います。そしたら、また学童に入れなくなるのではないのでしょうか? とても悪循環でどう対処したらいいのかわかりません。待機を減らしてほしいです。よろしくお祈りします。(小1保護者)
- 転入してきましたが、転入時に学童保育の案内が乏しく、情報を得ることができませんでした(転入時の書類にも詳しく書かれていませんでした)。各施設に保護者自ら問い合わせするのではなく、市が一括して管理して人数や料金などの情報を提供していただけたら良かったと思います。(小1保護者)

こどもの居場所

- こどもたちの居場所について一番に感じていることは、放課後(夏休み等も含めて)、学童に行かない子たちの遊び場、憩いの場がないことです。昔は学校内で遊べていたりできていましたが、それもできなくなり、行く場所がない。せめて児童館の設置をしてほしいです。行く場所がないから、家の中で遊ぶ。人との交流がなくなる。または、誰か遊べる人がいないか探して、放浪して時間をつぶす。気軽に行けて集える所があれば、もっとこどもたちは安心して社会との関わり合いをもって成長していけると思う。今の社会はこどもたちに冷たいと感じる。遊具も危ないと言って学校から排除していったことも含めて、

今の世の中は本当に冷たい。こどもは宝と言うが、社会がこれだと未来は暗い。何も変わらない。(小1保護者)

- ◆こどもたちが学校外(休日など)で友人と勉強できる場所を整えてほしいです。なぜ、地域の図書館での勉強はダメなのでしょう。騒がしいとか責任の問題などであれば、どうやったらそれが対処できるかを検討してほしいと思います。「こども=うるさい」と排除されている気がしてかわいそうです。行き場がないこどもたちが、「図書館」という場所に限らず、公共に「自習できる場所」を設けられないか考えてほしいと思います。(小5保護者)

障害をもつ子

- 自分の息子は就学前に自閉症スペクトラムと診断されました。入学前に支援学級への入級を希望していましたが教員不足のため、支援学級クラスを増やすのは難しいとのことでした。判定通知書では、発達通級ということで、通級でサポートしていただけたと思っていましたが、通級は週に1回、1時間のみ(これも教員不足が理由だと思われます)。4月から通常学級にいますが、勉強がついていけない状態です。教員不足をぜひ改善してほしいです。発達が遅れている子へのサポートが必要です。(小1保護者)
- 障害児を育てています。所得が理由で、障害福祉サービスの負担が増え家計が苦しくなりました。何のためにがんばって働いているのか? シングル、貧困だけでなく、仕方なくこういう状況の家庭もあります。(小1保護者)
- 娘が発達障害で、これからの高校への進学や卒業後の進路に不安がある。A、B型事業所などが増えてほしい。(中2保護者)

多子世帯

- ◆こども(きょうだい)が多いため、給食費や学級費等の毎月の額が大きくなり家計を圧迫しています。年が近いきょうだいが多いとそれが何年も続くため、とても苦しいです。給食費や学級費をきょうだいの場合は減額する等対策を考えてほしいです。(小5保護者)

- ◆多子世帯への金銭的支援が足りない。あと、16歳や18歳や22歳になったこどもは含めないなど意味がわからない。多子世帯は永遠に多子世帯です。扶養控除(年少)を復活させてほしい。なくす代わりにこども手当を増額させるとのことだったのに結局少ししか増額されておらず、控除のみなくなりだまされた気分。(小5保護者)

部活

- 給食費を払うのが大変で学校を通わすか、通わせないで出費を減らしたいと思ったことがある。こどもには、可哀想だけど中学2年生で、部着代、部費代、派遣費と出費が多すぎて借金を抱えてしまったので、やむを得ない状況で小学校からさせてた部活を辞めさせた。(中2保護者)
- ◆スポーツ少年団の監督やコーチ等へ、有償支援や地域の協力者体制をつかってほしい。現状では、関われる保護者の子は部活に参加できるが、関わりが薄い保護者の子が退部したり、そもそも入部できないケースがある。やりたいことが保護者の状況で制限されるのは、見ていて苦しい。(小5保護者)
- ◆離島なので本島の大会に参加するための遠征費用、それに同行する保護者、コーチへ支払う費用が大変。補助金、還付金の制度はあるけど少なく感じる。もっと離島に住むこどもが学業面、スポーツ面等教育に関する事で県内移動の金銭面での負担が軽くなってくれたらいいと思う。(小5保護者)
- 教員の働き方改革などで、学校の部活が減ってきている現状で、こどもたちが経験できることを選択肢が少ないことが心配です。中南部の人口の多いところは、スポーツクラブや習い事ができる場所が多いとは思いますが、地域によっては習い事、スポーツクラブの選択がないところもあります。やりたくてもできない現状。学校が「やりたい」の受け皿になっていない現状を寂しく思います。部活の顧問など教員の負担が多いのであれば、外部コーチの採用などがスムーズに行えるような体制など考えてもらいたい。こどもが我慢していることが少なくなったらいいいと思います。(中2保護者)

ユニバーサルな支援を

- 「生まれ育った環境によって左右されることなく～」と言われていますが、こどもの数によって大学無償化で該当しなかったり、児童手当の金額が違ったりと、一人のこどもに対して平等だと感じられません。一人育てるにもお金がかかる。二人大学へ行くのは無償化から外れるのに、3人こどもがいたら無償になる。今の日本は、こども二人いることで負担が増える。困窮世帯で無償化しているとはわかっているが、こども3人以上で所得制限をなくしたのなら、こども一人からでも同じ様に所得制限をなくすべきではないでしょうか。生きていく上で、こどもも親も不公平・不平等だと感じてしまうような日本はおかしいと思います。一人の人間を、こどもの数で優遇される、されないを決められるのは生きる上で心が痛いです。なんとかして下さい。切なる願いです。(小1保護者)
- ◆給料、時給が少し上がっても物価は上がり、引かれるのも多く、どんなにがんばって働いても、生活に余裕がありません。こどもたちには欲しいものがあっても、旅行にも行きたい、お友だちはみんな行ってるよと言われても、我慢してもらってることも多くあります。どんな家庭でもこどもたちだけは平等になる制度や支援対策をお願いします。(小5保護者)
- ◆段々、こどもたちを支える支援や制度が良くなっているな一と実感することはありますが、市町村によってやり方や、受けられる制度が違うこともあり格差があるので、全市町村(沖縄県全体)で同じ取組や制度を統一してくれたら、「あの市町村がいいな」とか「なぜこっちの市町村は…」とか悩んだりうらやんだりすることが解消できるのでは?と思ったことがあります。財源も違ったりするので難しいのは十分分じていますが、ふと思ったのでこちらで回答させていただきました。これからもこどもたちの未来のためより良い取組を実現できるよう期待しています。(小5保護者)
- ◆ひとり親の支援で習い事の補助金的なものなどがありますが、ひとり親でなくても対象にしてほしい。正社員でも賃金が安く、でもこどもにかかる費用はどの家庭も同じ費目はあるはずです。難しいなら給

食費を無料にしてほしいです。他県ではできている例もあるのに。「結婚、妊娠、こども・子育てに温かい社会の実現」に必要なのは学校関連の教育費用が限りなくゼロになることと考えます。働いても保育料や学童の費用になっていたら、こどもと遊ぶ費用も時間もありません。設問で、金銭的に不足がなさそうな家庭でも、余裕があるわけではなく何かを我慢しているだけです。不足のない家庭と行政が判断する子を含めこども全員に課金してください。(小5保護者)

- ◆中低所得者への配慮がもっとあっていいと思います。私自身は低所得者で国や県からいろんな支援がありますが、まわりの中低所得者の方の不満は常々聞いており、私が低所得なことはバレてはいけなないと心苦しくなります。ひがみ、やっかみ等の文句を聞くので、私自身も攻撃対象になるのではないかと恐怖します。文句を聞いて、たしかに私も思うところもあり、今後生活が豊かになったら中低所得、中所得になり、同じ文句を言ってしまうそうです。(小5保護者)

給付金

- 昨年まで、給付金が各種用意されたことで、貯蓄できたり、急な出費にも応じることができてありがたかった。今は、給付済ということで、支給対象外になることが増え、市場の価格高騰にとっても不安感をもちながら生活している。反面、今ある社会支援にとっても助けられているので、今後も困り事は相談窓口へ尋ねる等して、負担感を重くしすぎず活用させていただきたい。(小1保護者)
- ◆借金を多くしているので、自分の物などは買えません。支援金なども、こどものことですべてなくなり(支援金等を自分に使ってはいけないう気持ちがあり、こどもの分ですべて終わります)。なので、「親応援金」とかだと、自分も使っても良いと思えるのかなあと…。母子手当など、少なくても、こどもの下着等を買っても成長期だと、すぐ着れなくなるので、いくらあっても足りないです。毎月支給もお願いしたいです。(小5保護者)

生活保護

■現在、離婚からのうつで生活保護を受給しています。子ども4人の子育てをしています。保護世帯は車はもてないのはわかるんですが、小さい子の病院受診をする時はバス・タクシーの移動です。パニック症もあるのでバスなどに乗ると、熱を出したことを抱き、もう一人は手をつなぎ、私は発作を起こして道にうずくまります。こういった事情でも車の許可はありません。病院や、保育園の送り迎え（バスで）での交通費も出て行くばかりで物価高騰もあり生活は苦しいです。家庭環境でももう少し柔軟な対応はありませんか？ 毎月本当に生活が苦しいです。お米も月に1回しか買えません。先月は家賃も払えずでした。子育てをしている世帯のこと、もっと知ってほしいです。（中2保護者）

■今生活保護を利用しています。大変助かってはいますが、やはり最低限のですし、子どもが5人いると、部活をやっているの部活用品、遠征費がかかります。しかし、その遠征費にしても、修学旅行費にしても生活保護からは出ません。それは、本当にキツイです。12～13万の中から10万以上の修学旅行費を出せというのは、生活ができないのはあたり前だと思います。もう少し国の人々は、考えてもらいたいです。そういう声を少しでも聞いてもらえたらと思います。（中2保護者）

ひとり親

●何年前よりは福祉や保育、子育て、貧困などの支援に力をそそいでくださっていると思います。わが家はシングルマザーなので制度に頼らないと生活できず、とても助かっています。本当にありがたいことなのですが、税金で生きている気がして申し訳なさも感じるのもホンネです。実際シングルマザーで児扶手をもらっていると周囲に話すと嫌そうな表情をされることもあり。理由はそれだけではないと思いますが、何かと「ひとり親」だと知られると気を遣われるし、かわいそうだと思われることもあり、悲しい気持ちになることも多々ありました。子どもが障害をもっているとなおさらです。もっとひとり親でも堂々と生きていける世の中に、互助が当たり前な世の中になればいいなと思っています。わがままな

願いかもしれませんがどうぞよろしくお願いします。（小1保護者）

◆シングルマザーはたくさん働かなくては家計を支えられない。そのために、子どもと一緒にいる時間は少なくなる。不安でお金だけが頼り。働かなくては死んでしまう。ちびちびと小金を貯めるしかない。国や県は本当の意味で子どもを守れていないと思う。子育てにかかるお金をすべて無償化していただきたいと玉城知事をお願い申し上げます。（小5保護者）

■現在、母子家庭となり、収入が大きく下がりました。お金の不安が一番大きかったのですが、沖縄県の高等職業訓練給付金を受けることができ、少し未来に希望が出ました。今まで専業主婦の様（パート程度）だったため、正社員で働けるのか、職場の人間関係、といろいろ悩みがつきません。役場の人は雑でしたが、福祉事務所の方に感謝しています。（中2保護者）

医療体制

■子どもを歯医者に連れて行きたかったが、ひとり親で、昼間（平日）は仕事で連れて行くことができなかったのが今でも心残りである。18:30～19:00まで診療している所があれば、連れて行けたのかな、と考えたが、なかなか予約が取れないのもとても困った。小児科もすぐ予約が埋まって病院に連れて行くのもできないこともあった。改善できるならしてほしい。（中2保護者）

●離島に住んでいるので、子どもを病院へ連れて行く際、船に乗らないといけなくて（車を船に乗せるのでお金がかかる）。診療所があるが子どもは毎回研修医なのであいまいな診断になったり、悪化したりなどが多く、小児科医が来てくれると安心。（小1保護者）

情報発信

■制度や支援策には期待していない。十何年も変わっていないので…。制度や支援策も情報等自分で調べないと教えてくれないし、何の情報も国や県、市などは教えてくれない。（中2保護者）

■制度、給付金等、支援についての説明がわかりにくいと感じることがある。支援を必要としている人は、情報を得る機会、時間（手続き等）がないはずなの

で(必要としていない人に比べて金銭的に余裕がない、インターネットの環境がない、仕事をかけもちしている等で)、情報の提供方法手段も含め、わかりやすい説明、手続方法にしてほしい。窓口も平日、昼休みあり、17:00 頃までしか手続きができないのは、フルタイムで働いている方にとっては難しいのではと感じました。(中2保護者)

■便利な世の中になるにつれて、暮らしやすくなった人、暮らしにくく生きにくくなって人に分かれてきている。国の政策が決まっても、小さい職場まで降りてこない。最低賃金が上がっても、担当者が知識や認識が無く、そのままになっていたり、年休や福利厚生(健康診断)等、パートなら受けられるはず…。それすらない。そういう情報は、ペーパーレスにせず、担当者まで、しっかり目が届くようにしてほしい。(中2保護者)

■制度の仕組みを誰にでもわかりやすく提示すること、申請を誰でも簡単にできるものにするのを望みます。職業柄あらゆる家庭に出会いますが、申請をする能力(多子による時間制限、物理的課題含む)がある家庭はごく一部です。軽度障害やうつを抱えている人が大多数であることを理解してほしいです。(中2保護者)

■子どもの支援に必要な情報等は行政のホームページ等に頼りきらずにメディア、学校、自治体にも共有して一人も取りこぼすことのないように周知してほしい。(中2保護者)

行政

◆身近な行政(県・市町村)が、もっと真剣に子どもの福祉について考えてほしい。2~3年で職員が代わるため、専門性が継承されない。もっと専門性のある職員を配置してほしい。(小5保護者)

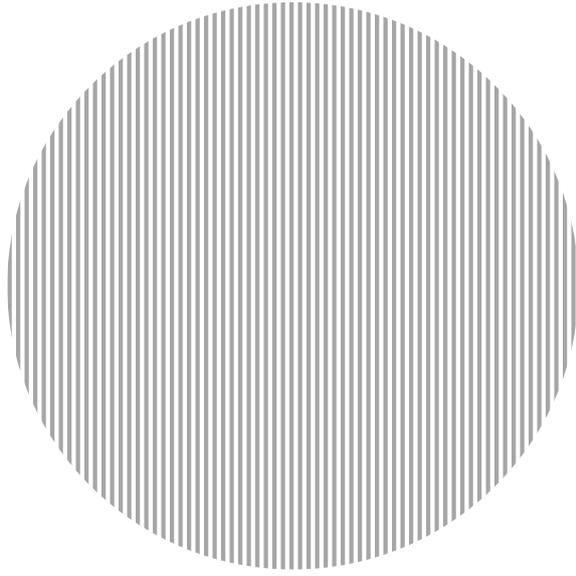
◆自分の子と兄の子を育てています。児童手当などを支給してもらえよう4~5年相談し、今年からやっと受給できることになりました。毎年担当が変わり、毎回同じやりとり、いろいろな課へまわされたりと、心が折れて涙が出たこともたくさんありました(なかには親身に対応してくださった方もいて感謝しています)。もっといろいろな家庭があることを考慮し、柔軟な対応ができるようになってくれたらうれしいです。(小5保護者)

アンケートについて

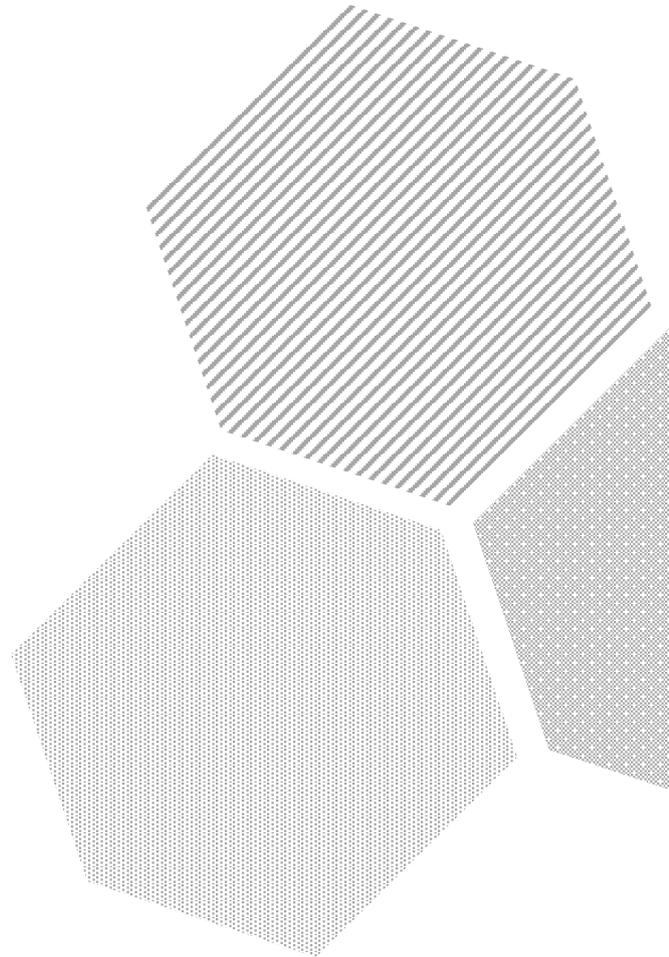
●=小1、◆小5、■=中2

●子育てをされていて楽しいと感じるが、金銭面では心配。子のためと思い、今の生活を切りつめ貯金している部分も大きい。将来のこどもへかかる費用、負担(奨学金等)を考えると我慢している部分も大きいように感じる。親が楽しく、余裕をもって生活している姿をこどもたちに見せないと、子が大きくなった時に、こどもをつくることに躊躇してしまわないか心配。大人が余裕をもって生活でき、こどもたちと過ごせるように、金銭面、時間的な支援が必要だと思う。こういうアンケートで県民の思いを汲み取ろうとして下さりありがたいです。いい政策ができあがるとうれしいです。子育てしている一人として、とても心強く思います。ありがとうございます。(小1保護者)

●このような調査票があることで、私たち子育て世帯に向き合ってくれていると感じました。ありがとうございます。私たちがこどもの時、医療費やバス等の通学でお金がかかっていた事柄が無料になっていることで、県や国も少しずつ楽にしてくれていると感じています。こどもを産みたいと経済面からも思えるような世の中になると良いと感じます。少しでもこの調査がお役に立てますように…。(小1保護者)



調查票



この調査は、沖縄県の小学5年生のみなさんの学校や家での生活のようす、将来の夢や希望、
困りごとなどについて調べるものです。この調査に答えた内容を、お父さんやお母さん（保護者）や
学校の先生が見ることはありません。沖縄県は、この調査結果をもとに、こどもたちのために何がで
きるのかを考えていきますので、ご協力をお願いします。

記入について

- この調査は、あなた自身が自分で書いてください。
- 名前は、書かないでください。
- 答えたくない質問には、答える必要はありません。
- 間違った答えや、正しい答えはありません。自分の思う答えを書いてください。
- 答えは、あてはまる番号に○をつけるか、数字や文章で書いてください。
- 調査の目的以外には使用しません。また、この調査票では名前を書かないので、あなたがどの
ように答えたかはだれにもわかりません。

提出について

- 全部書き終わったら、「児童用」と書かれた白い封筒に入れて、テープで閉じてください。
それを、おうちの方の封筒と一緒に「提出用」と書かれた茶色い封筒に入れて、テープで閉じ
て、提出期限までに学校に提出してください。

といあわ
問合せ先 (受付時間 9時～17時 月～金)

じゅたくじぎょうしゃ
受託事業者

いっぱんしゃだんほうじん
一般社団法人Co-Link(コリンク) 【調査協力：沖縄大学】

TEL 098-943-8938

Mail info@co-link.okinawa

【問1】あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------|------|---------------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他・答えたくない |
|------|------|---------------|

【問2】おうちで、日本語以外のことばを使用していますか。(あてはまるもの1つに○)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 日本語のみを使用している |
| 2. 日本語以外のことばも使用しているが、日本語の方が多い |
| 3. 日本語以外のことばを使うことが多い |

学校・勉強について

【問3】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 自分で勉強する | 2. 塾で勉強する |
| 3. 家庭教師に教えてもらう | 4. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する |
| 5. 家の人に教えてもらう | 6. 友だちと勉強する |
| 7. その他 | 8. 学校の授業以外で勉強はしない |

【問4】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

(①、②それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	まったくしない	30分より少ない	1時間より少ない 30分以上、	2時間より少ない 1時間以上、	3時間より少ない 2時間以上、	3時間以上
①学校がある日(月～金曜日)	1	2	3	4	5	6
②学校がない日(土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6

【問5】あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 上のほう | 2. やや上のほう | 3. まん中あたり |
| 4. やや下のほう | 5. 下のほう | 6. わからない |

【問6】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1. いつもわかる | } ➡ 問7へ |
| 2. だいたいわかる | |
| 3. 教科によってはわからないことがある | } ➡ 問6-1へ |
| 4. わからないことが多い | |
| 5. ほとんどわからない | |

➡【問6-1】問6で「3. 教科によってはわからないことがある」「4. わからないことが多い」

「5. ほとんどわからない」を選んだ方にお聞きします。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。

(あてはまるもの1つに○)

- | |
|----------------|
| 1. 小学1・2年生のころ |
| 2. 小学3・4年生のころ |
| 3. 小学5年生になってから |

【問7】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------|-------------------------|-----------|
| 1. 親 | 2. 親以外の家族(きょうだいや、祖父母など) | |
| 3. 学校の先生 | 4. 塾や習い事などの先生 | 5. その他の大人 |
| 6. 友だち | 7. 教えてもらえる人がいない | |

【問8】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学まで	
2. 高校まで	
3. 専門学校まで	➡ 問8-1へ
4. 短大・高専まで	
5. 大学またはそれ以上	
6. まだわからない	➡ 問9(次のページ)へ

➡ 【問8-1】問8で1~5を選んだ方にお聞きします。

その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 希望する学校や職業があるから	2. 自分の成績から考えて
3. 親がそう言っているから	4. 兄・姉がそうしているから
5. まわりの先輩や友だちがそうしているから	6. 家にお金がないと思うから
7. 早く働く必要があるから	8. その他
9. とくに理由はない	

ふだんの暮らしについて

【問9】あなたは、^{ちいき}地域のスポーツクラブや^{ぶんか}文化クラブ、学校の^{ぶかつどう}部活動に^{さんか}参加していますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. ^{さんか} 参加している	➡ 問9-1へ
2. ^{さんか} 参加していない	➡ 問9-2へ

【問9-1】問9で「1. ^{さんか}参加している」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、クラブや部活動の^{ぶかつどう}顧問や^{こもん}監督、^{かんたく}指導者(コーチ)から^{しどう}指導を受けてどの^{しどう}ように感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 教え方がわかりやすい	2. 前より上手になった
3. ^{ぶかつどう} クラブ・部活動がもっと好きになった	4. もっと ^{ぎじゆつ} 技術を教えてほしい
5. 教え方がきびしい	6. ^{れんしゆう} 練習時間が長い
7. ^{れんしゆう} 練習時間が ^{みじか} 短い	8. 教え方がわかりにくい
9. その他 ^{ほか}	10. とくに ^{かん} 感じない

➡ 問10(次のページ)へ

【問9-2】問9で「2. ^{さんか}参加していない」を選んだ方にお聞きします。

^{さんか}参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 入りたいクラブ・ ^{ぶかつどう} 部活動がないから
2. ^{じゆく} 塾や ^{なら} 習い事が ^{ごと} 忙しいから
3. ^{ひよう} 費用がかかるから
4. 家の事情(家族の ^{せわ} 世話、 ^{かじ} 家事など)があるから
5. ^{いっしょ} 一緒に入る友だちがいないから
6. その他 ^{ほか}

【問10】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか。ある場合は「1. ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2. ほしい」、いないと思うものであれば「3. ほしくない」に○をつけてください。

(①～⑭それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
①自分の楽しみのための本 (マンガやダウンロードするものをふくむ)	1	2	3
②子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)	1	2	3
③(自宅で)インターネットにつながる環境	1	2	3
④自宅で宿題をすることができる場所	1	2	3
⑤スポーツ用品	1	2	3
⑥自転車	1	2	3
⑦月500円ほどの、自分で自由に使えるお金(おこづかい)	1	2	3
⑧2足以上のサイズのあった靴	1	2	3
⑨スマートフォン	1	2	3
⑩学習塾(または家庭教師、オンラインふくむ)	1	2	3
⑪1年に1回の家族旅行(1泊以上)	1	2	3
⑫友だちが持っているような文具(えんぴつ、消しゴム、筆箱など)	1	2	3
⑬新しい(お古でない)洋服	1	2	3
⑭習い事(音楽、スポーツ、習字など)	1	2	3

【問11】あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。あてはまらない場合は、「8. 全然しない」に○をつけてください。(①～⑧それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	毎日 4時間 以上	毎日 2～4 時間	毎日 1～2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	全然 しない (あてはま らない)
①ゲーム(ゲーム機、ウェブ など)をする	1	2	3	4	5	6	7	8
②SNS(LINEなど)を見た り、書き込んだりする	1	2	3	4	5	6	7	8
③テレビやインターネット (YouTubeなど)をみる	1	2	3	4	5	6	7	8
④屋外での運動	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤家事(洗濯、掃除、 料理、片付けなど)	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥弟や妹の世話	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦父母・祖父母など家族 の介護・看病	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧家族の通訳や手続きの 手伝い	1	2	3	4	5	6	7	8

【問11-1】問11の「⑤家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)」で、1～7を選んだ方にお聞きます。

家族の中で、家事をもっとも多く担っている人はだれですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 自分	2. お母さん	3. お父さん	4. その他の家族
-------	---------	---------	-----------

【問11-2】問11の「⑦父母・祖父母など家族の介護・看病」で、1～7を選んだ方にお聞きます。

あなたが介護・看病している人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 弟・妹	2. お兄さん・お姉さん	3. お母さん
4. お父さん	5. おじいさん・おばあさん	6. その他の家族

【問12】あなたは、週にどのくらい食事しょくじをしていますか。

(①～③それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	毎日食べる (週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2日、 ほとんど 食べない
①朝食	1	2	3	4
②夕食	1	2	3	4
③夏休みや冬休みなどの期間 <small>きかん</small> の昼食	1	2	3	4

【問13】全体として、あなたは最近さいきんの生活ぜんたいに、どのくらい満足まんぞくしていますか。「0」(まったく満足まんぞくしていない)から「10」(十分に満足まんぞくしている)の数字で答えてください。(あてはまるもの1つに○)

0:まったく満足 <small>まんぞく</small> していない						10:十分に満足 <small>まんぞく</small> している				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

【問14】あなたの思いや気持ちきもを聞かせてください。次の①～⑧つぎについて教えてください。

(①～⑧それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	とても そう思う	どちらかと いえばそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
①がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
②自分は価値 <small>かち</small> のある人間だと思う	1	2	3	4
③自分は家族 <small>かぞく</small> に大事 <small>だいじ</small> にされている	1	2	3	4
④自分は友だち <small>す</small> に好かれていると思う	1	2	3	4
⑤不安 <small>ふあん</small> に感じることはない	1	2	3	4
⑥孤独 <small>こどく</small> を感じることはない	1	2	3	4
⑦自分の将来 <small>しょうらい</small> が楽しみだ	1	2	3	4
⑧自分のことが好きだ <small>す</small>	1	2	3	4

【問15】あなたは、これまでに①～⑤のようなことがありましたか。それぞれについて教えてください。

(①～⑤それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	よくあつた	時々あつた	あまりなかつた	なかつた	答へたくない・ わからない
①学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
②1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
③いじめられた	1	2	3	4	5
④夜遅くまで子どもだけで過ごした	1	2	3	4	5
⑤学校に遅刻した	1	2	3	4	5

【問16】あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 親
2. きょうだい
3. 祖父母など
4. 学校の先生
5. 学校の友だち
6. 学校外の友だち
7. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど
8. こども相談(LINE や電話)の人
9. その他の大人(塾・習い事の先生、地域の人など)
10. ネットで知り合った人
11. だれにも相談できない、相談したくない

ほか その他

【問17】あなたは、大人たちが子どもたちのために取り組むべきことは何だと思いますか。

あなたにとって重要なことをすべて選んでください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもが関わることを決めるとき、子どもの意見を聞いてくれること
2. すべての子どもが平等に扱われること
3. 子どもが家族やその他の大人から愛情を受けること
4. 小学校・中学校・高校・大学までの教育を無料で受けられること
5. 自分に適した医療を無料で受けられること
6. いじめのない社会を作ること
7. 不登校の子どもが学べる場所(フリースクールやオンライン講座)を増やすこと
8. 子どもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること
9. 犯罪を犯した子どもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること
10. 本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること
11. 障がいのある子とない子が共に学ぶことができること
12. 困ったときに相談しやすい電話、SNS、窓口などがあること
13. その他
14. とくになし



【問17-1】問17で選んだもののなかで、1番に取り組むべきことは何だと思いますか。

1つ選んで、番号を記入してください。

(「14. とくになし」を選んだ方は、記入せずに問18(次のページ)へ進んでください)

番号記入欄

➡ のこり3問です
(次のページへ)

【問18】あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. どのような内容がよく知っている	2. どのような内容かすこし知っている
3. 名前だけ聞いたことがある	4. 聞いたことがない

【問19】あなたは、「子どもの権利条約」の4つの原則を知っていますか。

(①～④それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	どのような内容がよく知っている	どのような内容かすこし知っている	聞いたことがある	聞いたことがない
① 生命、生存および発達に対する権利(命が守られ成長できること)	1	2	3	4
② 子どもの最善の利益(子どもにとって、もっともよいこと)	1	2	3	4
③ 子どもの意見の尊重(意見を表明し参加できること)	1	2	3	4
④ 差別の禁止(差別のないこと)	1	2	3	4

【問20】さいごに、このアンケートの感想や、大人の人に言いたいことなどがありましたら、下の欄に書いてください。

※ここに書いていただいた内容は、だれが書いたかわからないように十分に注意して公表します。みなさんの意見を使用するときに、もしだれが書いたかわかるような内容があれば、その部分は公表しませんので、安心して書いてください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

これで質問は終わりです。ご協力、ありがとうございました。

この調査は、沖縄県の中学2年生のみなさんの学校や家での生活のようす、将来の夢や希望、
 困りごとなどについて調べるものです。この調査に答えた内容を、お父さんやお母さん（保護者）や
 学校の先生が見ることはありません。沖縄県は、この調査結果をもとに、こどもたちのために何がで
 きるのかを考えていきますので、ご協力をお願いします。



記入について

- この調査は、あなた自身が自分で書いてください。
- 名前は、書かないでください。
- 答えたくない質問には、答える必要はありません。
- 間違った答えや、正しい答えはありません。自分の思う答えを書いてください。
- 答えは、あてはまる番号に○をつけるか、数字や文章で書いてください。
- 調査の目的以外には使用しません。また、この調査票では名前を書かないので、あなたがどのように答えたかはだれにもわかりません。



提出について

- 全部書き終わったら、「生徒用」と書かれた白い封筒に入れて、テープで閉じてください。
 それを、おうちの方の封筒と一緒に「提出用」と書かれた茶色い封筒に入れて、テープで閉じ
 て、提出期限までに学校に提出してください。



といあわ

問合せ先

(受付時間 9時～17時 月～金)

じゅたくじぎょうしゃ
受託事業者

いっばんしゃだんほうじん

一般社団法人Co-Link(コリンク)【調査協力:沖縄大学】

ちようさきょうりよく おきなわ

TEL 098-943-8938

Mail info@co-link.okinawa

【問1】あなたの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------|------|---------------|
| 1. 男 | 2. 女 | 3. その他・答えたくない |
|------|------|---------------|

【問2】おうちで、日本語以外のことばを使用していますか。(あてはまるもの1つに○)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 日本語のみを使用している |
| 2. 日本語以外のことばも使用しているが、日本語の方が多い |
| 3. 日本語以外のことばを使うことが多い |

学校・勉強について

【問3】あなたは、ふだん学校の授業以外で、どのように勉強をしていますか。

※勉強には学校の宿題もふくみます。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 自分で勉強する | 2. 塾で勉強する |
| 3. 家庭教師に教えてもらう | 4. 地域の人などが行う無料の勉強会に参加する |
| 5. 家の人に教えてもらう | 6. 友だちと勉強する |
| 7. その他 | 8. 学校の授業以外で勉強はしない |

【問4】あなたは、ふだん学校の授業以外に、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。

※学校の宿題をする時間や、塾などでの勉強時間もふくみます。

(①、②それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	まったくしない	30分より少ない	1時間より少ない 30分以上、	2時間より少ない 1時間以上、	3時間より少ない 2時間以上、	3時間以上
①学校がある日(月～金曜日)	1	2	3	4	5	6
②学校がない日(土・日曜日・祝日)	1	2	3	4	5	6

【問5】あなたの成績は、クラスの中でどのくらいだと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 上のほう | 2. やや上のほう | 3. まん中あたり |
| 4. やや下のほう | 5. 下のほう | 6. わからない |

【問6】あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

1. いつもわかる	} ➡ 問7へ
2. だいたいわかる	
3. 教科によってはわからないことがある	} ➡ 問6-1へ
4. わからないことが多い	
5. ほとんどわからない	

➡【問6-1】問6で「3. 教科によってはわからないことがある」「4. わからないことが多い」

「5. ほとんどわからない」を選んだ方にお聞きします。

いつごろから、授業がわからないことがあるようになりましたか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|---------------|----------------|---------------|
| 1. 小学1・2年生のころ | 2. 小学3・4年生のころ | 3. 小学5・6年生のころ |
| 4. 中学1年生のころ | 5. 中学2年生になってから | |

【問7】勉強がわからないときは、だれに教えてもらいますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------|---|-----------------------------|
| 1. 親 | 2. 親以外の家族(きょうだいや、 <small>いがい かぞく</small> 祖父母など) | |
| 3. 学校の先生 | 4. 塾や習い事などの先生 <small>じゅく なら ごと</small> | 5. その他の大人 <small>ほか</small> |
| 6. 友だち | 7. 教えてもらえる人がいない | |

【問8】あなたは、将来、どの段階まで進学したいですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学まで	
2. 高校まで	
3. 専門学校まで	➡ 問8-1へ
4. 短大・高専まで	
5. 大学またはそれ以上	
6. まだわからない	➡ 問9(次のページ)へ

➡ 【問8-1】問8で1~5を選んだ方にお聞きします。

その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 希望する学校や職業があるから	2. 自分の成績から考えて
3. 親がそう言っているから	4. 兄・姉がそうしているから
5. まわりの先輩や友だちがそうしているから	6. 家にお金がないと思うから
7. 早く働く必要があるから	8. その他
9. とくに理由はない	

ふだんのくらしについて

【問9】あなたは、地域のスポーツクラブや文化クラブ、学校の部活動に参加していますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 参加している	➡ 問9-1へ
2. 参加していない	➡ 問9-2へ

【問9-1】問9で「1. 参加している」を選んだ方にお聞きします。

あなたは、クラブや部活動の顧問や監督、指導者(コーチ)から指導を受けてどのよう感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 指導がわかりやすい	2. 体力・技術が向上している
3. クラブ・部活動がもっと好きになった	4. もっと専門的な技術指導を受けたい
5. 指導が厳しい	6. 指導時間が長い
7. 指導時間が短い	8. 指導がわかりにくい
9. その他	10. とくに感じない

➡ 問10(次のページ)へ

【問9-2】問9で「2. 参加していない」を選んだ方にお聞きします。

参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 入りたいクラブ・部活動がないから
2. 塾や習い事が忙しいから
3. 費用がかかるから
4. 家の事情(家族の世話、家事など)があるから
5. 一緒に入る友だちがいないから
6. その他

【問10】あなたは、自分が使うことができる、以下のもの(こと)があり(でき)ますか。ある場合は「1.ある」に○をつけてください。ない場合は、それがほしいものであれば「2.ほしい」、いらないと思うものであれば「3.ほしくない」に○をつけてください。

(①～⑩それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	ある	ない	
		ほしい	ほしくない
①自分の楽しみのための本 (マンガやダウンロードするものをふくむ)	1	2	3
②子ども部屋(きょうだいと使っている場合もふくみます)	1	2	3
③(自宅で)インターネットにつながる環境	1	2	3
④自宅で宿題をすることができる場所	1	2	3
⑤スポーツ用品	1	2	3
⑥自転車	1	2	3
⑦月2,000円ほどの、自分で自由に使えるお金(おこづかい)	1	2	3
⑧2足以上のサイズのあった靴	1	2	3
⑨スマートフォン	1	2	3
⑩学習塾(または家庭教師、オンラインふくむ)	1	2	3
⑪1年に1回の家族旅行(1泊以上)	1	2	3
⑫友だちが持っているような文具 (シャーペン、色ペン、ペンケースなど)	1	2	3
⑬新しい(お古でない)洋服	1	2	3
⑭習い事(音楽、スポーツ、習字など)	1	2	3
⑮めがねまたはコンタクトレンズ(矯正用)	1	2	3

※⑯は、女子のみ回答ください。

⑯生理用品(※必要性がない場合は、「3」に○をつけてください)	1	2	3
---------------------------------	---	---	---

【問11】あなたは、以下の活動をふだんどれくらいしますか。あてはまらない場合は「8. 全然しない」に○をつけてください。(①～⑧それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	毎日 4時間 以上	毎日 2～4 時間	毎日 1～2 時間	毎日 1時間 以下	1週間に 4～5日	1週間に 2～3日	1週間に 1日	全然 しない (あてはま らない)
①ゲーム(ゲーム機、ウェブ など)をする	1	2	3	4	5	6	7	8
②SNS(LINEなど)を見た り、書き込んだりする	1	2	3	4	5	6	7	8
③テレビやインターネット (YouTubeなど)をみる	1	2	3	4	5	6	7	8
④屋外での運動	1	2	3	4	5	6	7	8
⑤家事(洗濯、掃除、 料理、片付けなど)	1	2	3	4	5	6	7	8
⑥弟や妹の世話	1	2	3	4	5	6	7	8
⑦父母・祖父母など家族 の介護・看病	1	2	3	4	5	6	7	8
⑧家族の通訳や手続きの 手伝い	1	2	3	4	5	6	7	8

【問11-1】問11の「⑤家事(洗濯、掃除、料理、片付けなど)」で、1～7を選んだ方にお聞きします。

家族の中で、家事をもっとも多く担っている人はだれですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 自分	2. お母さん	3. お父さん	4. その他の家族
-------	---------	---------	-----------

【問11-2】問11の「⑦父母・祖父母など家族の介護・看病」で、1～7を選んだ方にお聞きします。

あなたが介護・看病している人はだれですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 弟・妹	2. お兄さん・お姉さん	3. お母さん
4. お父さん	5. おじいさん・おばあさん	6. その他の家族

【問12】あなたは、週にどのくらい食事しょくじをしていますか。

(①～③それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	毎日食べる (週7日)	週5～6日	週3～4日	週1～2日、 ほとんど 食べない
①朝食	1	2	3	4
②夕食	1	2	3	4
③夏休みや冬休みなどの期間 <small>きかん</small> の昼食	1	2	3	4

【問13】全体として、あなたは最近さいきんの生活ぜんたいに、どのくらい満足まんぞくしていますか。「0」(まったく満足まんぞくしていない)から「10」(十分に満足まんぞくしている)の数字で答えてください。(あてはまるもの1つに○)

0:まったく満足 <small>まんぞく</small> していない						10:十分に満足 <small>まんぞく</small> している				
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

【問14】あなたの思いや気持ちきもを聞かせてください。次の①～⑧つぎについて教えてください。

(①～⑧それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	とても そう思う	どちらかと いえばそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない
①がんばれば、むくわれる	1	2	3	4
②自分は価値 <small>かち</small> のある人間だと思う	1	2	3	4
③自分は家族 <small>かぞく</small> に大事 <small>だいじ</small> にされている	1	2	3	4
④自分は友だち <small>す</small> に好かれていると思う	1	2	3	4
⑤不安 <small>ふあん</small> に感じることはない	1	2	3	4
⑥孤独 <small>こどく</small> を感じることはない	1	2	3	4
⑦自分の将来 <small>しょうらい</small> が楽しみだ	1	2	3	4
⑧自分のことが好きだ <small>す</small>	1	2	3	4

【問15】あなたは、これまでに①～⑤のようなことがありましたか。それぞれについて教えてください。

(①～⑤それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	よくあつた	時々あつた	あまりなかつた	なかつた	答へたくない・ わからない
①学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
②1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
③いじめられた	1	2	3	4	5
④夜遅くまで子どもだけで過ごした	1	2	3	4	5
⑤学校に遅刻した	1	2	3	4	5

【問16】あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思う人はだれですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 親
2. きょうだい
3. 祖父母など
4. 学校の先生
5. 学校の友だち
6. 学校外の友だち
7. スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど
8. こども相談(LINE や電話)の人
9. その他の大人(塾・習い事の先生、地域の人など)
10. ネットで知り合った人
11. だれにも相談できない、相談したくない

【問17】あなたは、今までに以下のようなことがありましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 一緒に住んでいる大人から、あなたの悪口を言い立てられる、けなされる、恥をかかされる、または、身体を傷つけられる危険を感じるようなふるまいをされることがよくある
2. 一緒に住んでいる大人から、押される、つかまれる、たたかれる、物を投げつけられるといったことがよくある。または、けがをするほど強くなぐられたことが一度でもある
3. 家族のだれからも愛されていない、大切にされていない、支えてもらえていないと感じることがある
4. 必要な食事や衣服を与えられなかったり、自分を守ってくれる人はだれもいないと感じることがある
5. 両親が、別居または離婚をしたことが一度でもある
6. 一緒に住んでいる家族が、だれかに押されたり、つかまれたり、けられたりしたことがよくある。または、くり返しなぐられたり、刃物などでおどされたことが一度でもある
7. 一緒に住んでいる人に、お酒を飲んだり麻薬などで自身の生活や人間関係を損なうようなふるまいをした人がいる
8. 一緒に住んでいる人に、うつ病やその他の心の病気の人、または自殺しようとした人がいる
9. 家族の世話をしているため、やりたいことができないことがある
10. 1～9にあてはまるものはない

上のようなことで気持ちがつらいときは、下記に相談してみてください。

 <p>電話で相談したい</p>
<p>●24時間子ども SOS ダイヤル(無料)</p> <p>TEL 0120-078-310 (毎日、24時間いつでも)</p>
<p>●こどもの人権110番(無料)</p> <p>TEL 0120-007-110</p> <p>(月～金 朝8時30分～夕方5時15分)</p>
<p>●子ども若者みらい相談プラザsorae</p> <p>那覇 TEL 098-943-5335 (火～土 朝10時～夕方6時)</p> <p>名護 TEL 0980-43-8300 (月～金 朝10時～夕方5時)</p>

<p>LINE やチャットで相談したい</p>
<p>●チャイルドライン(夕方4時～夜9時)</p> <p>※お休みの日もあります</p> 
<p>●ヤングケアラーチャンネル</p> <p>(月～金 朝11時～夜8時)</p> <p>※メッセージの送信は24時間365日可能</p> 
<p>●ククルーム</p> <p>(月～土 朝10時～夜9時)</p> 

ほか その他

【問18】あなたは、大人たちが子どもたちのために取り組むべきことは何だと思いますか。

あなたにとって重要なことをすべて選んでください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 子どもが関わることを決めるとき、子どもの意見を聞いてくれること
2. すべての子どもが平等に扱われること
3. 子どもが家族やその他の大人から愛情を受けること
4. 小学校・中学校・高校・大学までの教育を無料で受けられること
5. 自分に適した医療を無料で受けられること
6. いじめのない社会を作ること
7. 不登校の子どもが学べる場所(フリースクールやオンライン講座)を増やすこと
8. 子どもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること
9. 犯罪を犯した子どもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること
10. 本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること
11. 障がいのある子とない子が共に学ぶことができること
12. 困ったときに相談しやすい電話、SNS、窓口などがあること
13. その他
14. とくになし



【問18-1】問18で選んだもののなかで、1番に取り組むべきことは何だと思いますか。

1つ選んで、番号を記入してください。

(「14. とくになし」を選んだ方は、記入せずに問19(次のページ)へ進んでください)

番号記入欄

➡ のこり3問です
(次のページへ)

【問19】あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|--|---|
| 1. <small>ないよう</small> どのような内容かよく知っている | 2. <small>ないよう</small> どのような内容かすこし知っている |
| 3. 名前だけ聞いたことがある | 4. 聞いたことがない |

【問20】あなたは、「子どもの権利条約」の4つの原則を知っていますか。

(①～④それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	<small>ないよう</small> どんな内容か よく知っている	<small>ないよう</small> どんな内容か すこし知っている	聞いたことが ある	聞いたことが ない
① <small>せいめい せいぞん はったつ たい</small> 生命、生存および発達に対する 権利(命が守られ成長できること)	1	2	3	4
② <small>さいぜん りえき</small> 子どもの最善の利益 (子どもにとって、もっともよいこと)	1	2	3	4
③ <small>いけん そんちよう</small> 子どもの意見の尊重 (意見を表明し参加できること)	1	2	3	4
④ <small>さべつ きんし さべつ</small> 差別の禁止(差別のないこと)	1	2	3	4

【問21】さいごに、このアンケートの感想や、大人の人に言いたいことなどがありましたら、下の欄に書いてください。

※ここに書いていただいた内容は、だれが書いたかわからないように十分に注意して公表します。みなさんの意見を使用するときに、もしだれが書いたかわかるような内容があれば、その部分は公表しませんので、安心して書いてください。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

これで質問は終わりです。ご協力、ありがとうございました。

この調査は、沖縄県に住む小学生、中学生のお子さんをもつ保護者を対象に、子育て世帯を取り巻く社会や経済の状況が日々の生活などにどのように影響しているかを調べ、こどもや子育て家庭への支援策に役立てるために実施するものです。お忙しいなか、お手数をおかけいたしますが、調査へのご協力をお願い致します。

記入について

- このアンケートは、保護者の方がお答えください。
- この調査票の質問の「お子さん」とは、この調査票が配布されたお子さんのことです。
「お子さん」と書かれた質問には、そのお子さんのことを答えてください。
- お名前やご住所を書く必要はありません。
- 調査の集計は統計的に処理し、個人を特定することはありません。また、目的以外に使うことはありません。
- 答えたくない質問には、答える必要はありません。
- 鉛筆またはボールペンで回答してください。
- 答えは、あてはまる番号に○印をつけるか、数字や文章で書いてください。
- ごきょうだいなどで、この調査票が複数届いた場合も、お手数ですが、それぞれのお子さんについてそれぞれの調査票に回答してください。

提出について

■小学1年生の保護者の方へ

全部書き終わったら、「提出用」と書かれた封筒に入れて、テープで閉じて、提出期限までに学校に提出してください。

■小学5年生、中学2年生の保護者の方へ

全部書き終わったら、「保護者用」と書かれた封筒に入れて、テープで閉じてください。封筒を閉じたら、「児童用」または「生徒用」と書かれた封筒と一緒に、「提出用」と書かれた茶色い封筒に入れてテープで閉じて、提出期限までに学校に提出してください。

問合せ先 (受付時間 9時~17時 月~金)

受託事業者 一般社団法人 Co-Link(コリンク) 【調査協力:沖縄大学】
TEL 098-943-8938 Mail info@co-link.okinawa

※この調査で「お子さん」とは、
この調査票が配布されたお子さんのことを言います。

【問1】この調査票が配布されたお子さんは、何年生ですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 小学1年生 2. 小学5年生 3. 中学2年生

【問2】お子さんの性別を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 女 2. 男 3. その他・答えたくない

お子さんのご家族について

【問3】お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんから見た^{そくから}続柄でお答えください。
(あてはまるもの1つに○)

1. 母親(継母^{けいぼ}を含む) 2. 父親(継父^{けいふ}を含む) 3. 祖父母
4. おじ、おばなどの親戚 5. 施設職員・里親 ※ 6. その他

※「5. 施設職員・里親」に該当される方は、以降の質問はできる範囲でご回答ください。

【問4】お子さんと生計が同じご家族の人数(お子さんを含む)を教えてください。単身赴任しているご家族も含めてください。ただし、学業等で世帯を離れているひとり暮らしのお子さん等は含めないでください。

※2世帯住宅の場合、生計が別であれば、家族の人数として数えないでください。

(枠内に数字で記入してください)

ご家族の人数(お子さんを含む)

人

【問5】お子さんと生計が同じご家族の方は、どなたですか。それぞれ人数も教えてください。

お子さんから見た^{そくから}続柄でお答えください。

(あてはまるものすべてに○、人数はカッコの中に数字で記入してください)

1. 母親 2. 父親 3. 祖母()人 4. 祖父()人
5. 兄()人 6. 姉()人 7. 弟()人 8. 妹()人
9. その他の親戚()人 10. その他()人

【問6】お子さんの母親と父親の年齢を教えてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 母親	1. 24歳以下	2. 25~29歳	3. 30~34歳	4. 35~39歳	5. 40~44歳
	6. 45~49歳	7. 50~54歳	8. 55歳以上	9. 母親はいない	
B. 父親	1. 24歳以下	2. 25~29歳	3. 30~34歳	4. 35~39歳	5. 40~44歳
	6. 45~49歳	7. 50~54歳	8. 55歳以上	9. 父親はいない	

【問7】お住まいの市町村を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

北部圏域	1. 名護市	中部圏域	9. うるま市	南部圏域	19. 那覇市
	2. 国頭村 大宜味村 東村		10. 沖縄市		20. 糸満市
	3. 今帰仁村		11. 宜野湾市		21. 豊見城市
	4. 本部町		12. 浦添市		22. 南城市
	5. 恩納村		13. 読谷村		23. 与那原町
	6. 宜野座村		14. 嘉手納町		24. 南風原町
	7. 金武町		15. 北谷町		25. 八重瀬町
	8. 伊江村 伊平屋村 伊是名村		16. 北中城村		26. 久米島町
	17. 中城村	27. 渡嘉敷村、座間味村、粟国村、 渡名喜村、南大東村、北大東村			
	18. 西原町	宮古・八重山圏域	28. 宮古島市		
			29. 石垣市		
			30. 多良間村、竹富町、与那国町		

【問8】お子さんの親の最終学歴(卒業した学校)をお答えください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

A. 母親	1. 中学(中学部)まで	2. 高校(高等部)まで	3. 専門学校まで
	4. 短大・高専まで	5. 大学またはそれ以上	6. いない、わからない
B. 父親	1. 中学(中学部)まで	2. 高校(高等部)まで	3. 専門学校まで
	4. 短大・高専まで	5. 大学またはそれ以上	6. いない、わからない

お子さんの母親のお仕事について

【問9】お子さんの母親の就労状況について、あてはまるものをお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※現在、産前・産後休業、育児・介護休業を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

1. 正社員・正規職員・会社役員	➡ 問9-2へ
2. 嘱託 ^{しよくたく} ・契約社員・派遣職員	
3. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	
4. 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)	
5. いない、わからない	➡ 問10(次のページ)へ
6. 働いていない(専業主婦を含む)	➡ 問9-1へ

【問9-1】問9で「6. 働いていない」を選んだ方にお聞きします。

働いていないもっとも主な理由を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 働きたいが、希望する条件の仕事がないため | 2. 子育てを優先したいため |
| 3. 家族の介護・介助のため | 4. 自分の病気や障害のため |
| 5. 通学しているため | 6. その他の理由 |

➡ 問10(次のページ)へ

➡【問9-2】問9で1~4を選んだ方にお聞きします。

※現在、産前・産後休業、育児・介護休業を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

①1週間の平均的な労働日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた日数

1. 1日	2. 2日	3. 3日	4. 4日	5. 5日	6. 6日	7. 7日
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた時間

1. 2時間未満	2. 2~4時間未満	3. 4~6時間未満	4. 6~8時間未満
5. 8~10時間未満	6. 10~12時間未満	7. 12時間以上	

③昨年の同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
--------	----------	--------

お子さんの父親のお仕事について

【問10】お子さんの父親の就労状況について、あてはまるものをお答えください。(あてはまるもの1つに○)

※現在、育児・介護休業を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

1. 正社員・正規職員・会社役員	➡ 問10-2へ
2. ^{しよくたく} 嘱託・契約社員・派遣職員	
3. パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員	
4. 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む)	
5. いない、わからない	➡ 問11(次のページ)へ
6. 働いていない(専業主夫を含む)	➡ 問10-1へ

【問10-1】問10で「6. 働いていない」を選んだ方にお聞きします。

働いていないもっとも主な理由を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 働きたいが、希望する条件の仕事がないため | 2. 子育てを優先したいため |
| 3. 家族の介護・介助のため | 4. 自分の病気や障害のため |
| 5. 通学しているため | 6. その他の理由 |

➡ 問11(次のページ)へ

➡【問10-2】問10で1~4を選んだ方にお聞きします。

※現在、育児・介護休業を取得している方は、就労時の状況をお答えください。

①1週間の平均的な労働日数を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた日数

1. 1日	2. 2日	3. 3日	4. 4日	5. 5日	6. 6日	7. 7日
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

②働いている日の平均的な労働時間(残業時間を含む)を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※複数のお仕事をしている場合はすべて合わせた時間

1. 2時間未満	2. 2~4時間未満	3. 4~6時間未満	4. 6~8時間未満
5. 8~10時間未満	6. 10~12時間未満	7. 12時間以上	

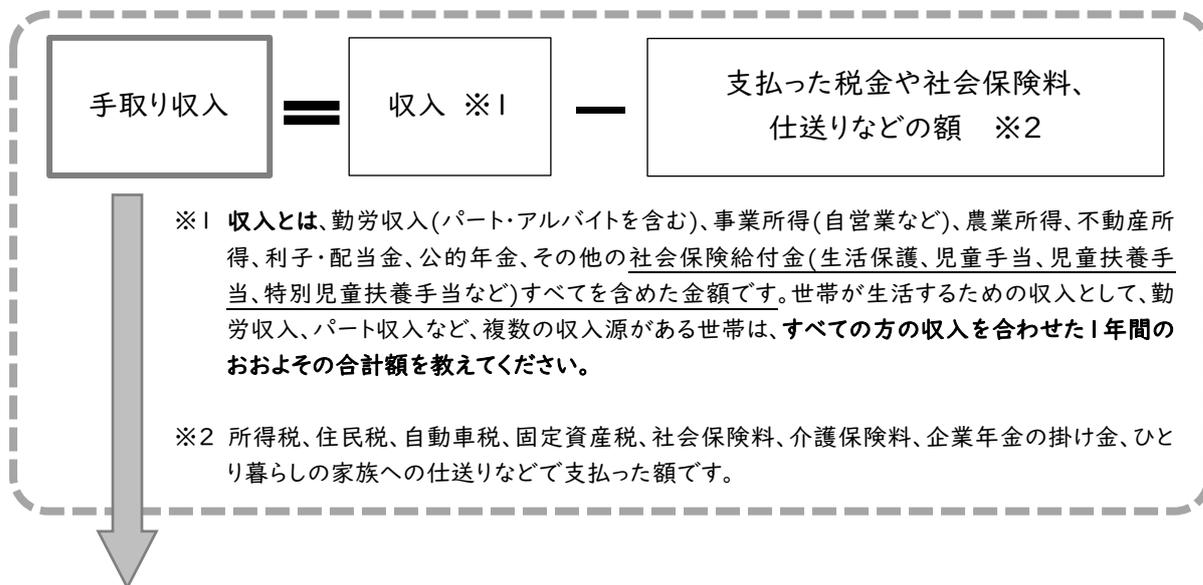
③昨年と同時期と比べて、就労収入(月給、時給、事業所得等)に変化はありましたか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 増えた	2. 変わらない	3. 減った
--------	----------	--------

収入について

【問11】お子さんと生計(家計)を共にしている方全員の収入を合わせた、昨年の「世帯の年間手取り収入(ボーナス含む手取り額)」を教えてください。世帯の収入から、税金や社会保険料等の額を差し引いた後の額でお答えください。(あてはまるもの1つに○)



世帯収入(合算値) ※世帯全体の年間、ボーナス含む手取り額		
1. 50万円未満	2. 50~100万円未満	3. 100~150万円未満
4. 150~200万円未満	5. 200~250万円未満	6. 250~300万円未満
7. 300~350万円未満	8. 350~400万円未満	9. 400~500万円未満
10. 500~600万円未満	11. 600~700万円未満	12. 700~800万円未満
13. 800~900万円未満	14. 900~1000万円未満	15. 1000万円以上

【問11-1】問11の世帯の手取り収入のうち、お子さんの母親(または母親にかわる方)のおおよその年間収入を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 50万円未満	2. 50~100万円未満	3. 100~150万円未満
4. 150~200万円未満	5. 200~250万円未満	6. 250~300万円未満
7. 300~350万円未満	8. 350~400万円未満	9. 400~500万円未満
10. 500~600万円未満	11. 600~700万円未満	12. 700万円以上
13. 収入はない	14. わからない	15. 母親はいない

【問11-2】問11の世帯の手取り収入のうち、お子さんの父親（または父親にかわる方）のおおよその年間収入を教えてください。（あてはまるもの1つに○）

- | | | |
|-----------------|-----------------|----------------|
| 1. 50万円未満 | 2. 50～100万円未満 | 3. 100～150万円未満 |
| 4. 150～200万円未満 | 5. 200～250万円未満 | 6. 250～300万円未満 |
| 7. 300～350万円未満 | 8. 350～400万円未満 | 9. 400～500万円未満 |
| 10. 500～600万円未満 | 11. 600～700万円未満 | 12. 700万円以上 |
| 13. 収入はない | 14. わからない | 15. 父親はいない |

お子さんのこと、お子さんとの関わりなどについて

【問12】あなたの世帯にとって、お子さんの学校教育費のなかで経済的な負担が大きいものはどれですか。下の1～14の中から、経済的な負担が大きいものの順に3つ選んで、番号を記載してください。
※3つ以下の方は、その中で順番を決めてください。

1番目	2番目	3番目

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 教科書費、授業で使用する図書費（副読本、ワークブック、辞書など）2. 学用品費（授業で使用する筆記用具、絵・習字用具など文房具類）3. 体育用品費（体育授業で使用する運動靴、体育着・体育帽、水泳着など）4. 楽器購入費（音楽授業で使用するリコーダー、ハーモニカなど）5. 実験実習費（材料を含む。授業で使用する製図用具、裁縫用具、調理用材料など）6. 教科外活動費（クラブ活動・学芸会などのために買った用具・物品など）7. 宿泊学習費（自然教室、修学旅行など）8. 交通費・通学用自転車等（定期券、スクールバス代、自転車購入・維持費など）9. 制服（学校が通学のために指定した制服・学生服など）10. 通学用品費（ランドセル、かばん、通学用くつなど）11. 給食費12. PTA会費13. その他（上ばきなど）14. 特にない |
|---|

【問13】 お子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 中学まで	2. 高校まで	3. 専門学校まで
4. 短大・高専まで	5. 大学またはそれ以上	6. まだわからない

【問14】 過去1年間において、あなたのご家庭では、お子さんと次のような体験をしましたか。

(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	ある	ない		
		金銭的な理由で	時間の制約で	その他の理由で
A. 海水浴に行く	1	2	3	4
B. 博物館・科学館・美術館などに行く	1	2	3	4
C. キャンプやバーベキューに行く	1	2	3	4
D. スポーツ観戦や劇場に行く	1	2	3	4
E. 遊園地やテーマパークに行く	1	2	3	4

【問15】 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。A～Jについて、「1. している」「2. していない、したくない(方針ではない)」「3. していない、経済的にできない」のうち、あてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	している	していない	
		したくない(方針ではない)	経済的にできない
A. 毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B. 毎年新しい(お古でない)洋服・靴を買う	1	2	3
C. 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	1	2	3
D. 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう、オンライン含む)	1	2	3
E. お誕生日のお祝いをする	1	2	3
F. 1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2	3
G. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3
H. 修学旅行などお金がかかる学校の活動	1	2	3
I. パソコンかタブレットを与える	1	2	3
J. スマートフォンを与える	1	2	3

制度の利用などについて

【問16】あなたのご家庭では、現在、お子さんのために就学援助制度(※)を利用していますか。

(あてはまるもの1つに○)

※就学援助制度は、経済的な理由により就学が困難な子どもたちの保護者に対して、各市町村教育委員会が学用品費や給食費などの援助を行い、子どもたちが等しく義務教育を受けることができるようにするための制度です。

1. 利用している	➡ 問16-1へ
2. 利用していない	➡ 問16-2へ
3. わからない	➡ 問17(次のページ)へ

【問16-1】問16で「1. 利用している」を選んだ方にお聞きします。

①現在の就学援助について、学校にかかる経費をカバーできていますか。

あなたのお考えにもっとも近いものを選んでください。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 十分にカバーできている | 2. カバーできている |
| 3. あまりカバーできていない | 4. カバーできていない |

②就学援助についてどのように知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 学校からの通知(お知らせ) | 2. 市町村からの通知(お知らせ) |
| 3. テレビやラジオのCM(コマーシャル) | 4. 街頭でのポスターやチラシ |
| 5. 知人からの紹介 | 6. その他 |

➡ 問17(次のページ)へ

【問16-2】問16で「2. 利用していない」を選んだ方にお聞きします。

現在、就学援助を利用していない理由について、もっとも近いものを選んでください。

(あてはまるもの1つに○)

- | |
|-----------------------------|
| 1. 必要ないため、申請しなかった |
| 2. 申請要件を満たしていなかったため、申請しなかった |
| 3. 周囲の目が気になったため、申請しなかった |
| 4. 手続きの仕方がわからなかったため、申請しなかった |
| 5. 手続きが面倒であったため、申請しなかった |
| 6. 申請したが、認定されなかったため |
| 7. 就学援助制度を知らなかったため |
| 8. その他 |

【問17】あなたは、子育て支援に関する情報をどのように受け取りたいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1. 行政機関の広報誌 | 2. 行政機関のホームページ |
| 3. 行政機関の LINE | 4. 行政機関の X や Instagram、Facebook など |
| 5. 学校からのお便り(紙のもの) | 6. 学校からのメールなど(学校の連絡ツールなど) |
| 7. 家族や友人からの情報 | 8. その他 |

【問18】あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。利用したことがない場合は、その理由にもっとも近いものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	現在利用している	以前利用しているが、現在利用していないがある	利用したことがない					それ以外の理由
			だと思っから 条件を満たさない)	制度の対象外(収入等 思わなかったから 特に利用したいと 利用はできるが、 知らなかったから	利用したいが、 利用しにくいから	利用したいが、 手続きが わからなかったり、 利用しにくいから	それ以外の理由	
A. 生活保護	1	2	3	4	5	6	7	
B. 生活困窮者の自立支援相談窓口 <small>こんきゆうしゃ</small>	1	2	3	4	5	6	7	
C. 生活福祉資金貸付金	1	2	3	4	5	6	7	

※DとEは、現在ひとり親世帯の方のみご回答ください。

D. 児童扶養手当	1	2	3	4	5	6	7
E. 母子父子寡婦福祉資金貸付金	1	2	3	4	5	6	7

(参考)

A. 生活保護	病気や失業などのため、生活費や医療費に困り、ほかに方法がないときは一定の条件により、生活、教育、住宅、医療、介護、出産、生業、葬祭の8種類について援助が受けられる制度。窓口は市町村役場及び県福祉事務所。
B. 生活困窮者の自立支援相談窓口 <small>こんきゆうしゃ</small>	仕事や生活に困っている方の相談窓口。それぞれの状況に合わせて、就労支援や住宅確保、家計支援などを行う。窓口は、市町村役場及び県福祉事務所(福祉関係課や、就職・生活支援パーソナルサポートセンターなど)。
C. 生活福祉資金貸付金	低所得世帯、障害者世帯、高齢者世帯等に対し、資金貸付と相談・支援により世帯の経済的自立や在宅福祉・社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるようにすることを目的とした貸付制度。窓口は市町村の社会福祉協議会。
D. 児童扶養手当	所得が一定水準以下のひとり親世帯の支援のための手当。窓口は市町村役場。
E. 母子父子寡婦福祉資金貸付金	ひとり親世帯を対象にした、低利または無利子の資金貸付。窓口は市町村役場。

※ 小学5年生、中学2年生の保護者は、問20(次のページ)へお進みください。

お子さんが小学1年生の保護者の方のみにお聞きします。

【問19】おさんは現在、放課後児童クラブ(以下、学童保育)を利用していますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 利用している	➡ 問19-1へ
2. 利用していない	➡ 問19-2へ
3. 放課後児童クラブ(学童保育)を知らない	➡ 問20(次のページ)へ

【問19-1】問19で「1. 利用している」を選んだ方にお聞きします。

①現在利用している学童保育の1か月あたりの利用料(おやつ代等すべて含む)を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

1. 2,000円未満	2. 2,000~4,000円未満	3. 4,000~6,000円未満
4. 6,000~8,000円未満	5. 8,000~10,000円未満	6. 10,000~12,000円未満
7. 12,000~14,000円未満	8. 14,000~16,000円未満	9. 16,000円以上

②利用料についてどうお感じですか。(あてはまるもの1つに○)

1. とても負担に感じている	2. 少し負担に感じている	3. 適正だと感じている
4. 少し安いと感じている	5. 安いと感じている	

➡ 問20(次のページ)へ

【問19-2】問19で「2. 利用していない」を選んだ方にお聞きします。

学童保育を利用していない理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 利用したかったが、利用料が高くてあきらめた	➡ 問19-3(次のページ)へ
2. 施設に空きがなく入れなかった	➡ 問20(次のページ)へ
3. 放課後、こどもの面倒をみる大人等がいるので必要ない	
4. 習い事や他の子育て支援施設(児童館など)を利用しているので、必要ない	
5. こどもだけでも心配ない	
6. こどもが行きたくないと言っている	
7. その他	

問19-3(次のページ)へ

【問19-3】問19-2で「1. 利用しなかったが、利用料が高くてあきらめた」を選んだ方にお聞きします。
どのくらいの金額なら利用できると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

※参考:令和5年度沖縄県の放課後児童クラブ、小学1年生の月額平均利用料 9,856 円

1. 2,000 円未満	2. 2,000~4,000 円未満	3. 4,000~6,000円未満
4. 6,000~8,000円未満	5. 8,000~10,000 円未満	6. 10,000~12,000円未満
7. 12,000~14,000円未満	8. 14,000~16,000円未満	9. 16,000円以上

※ここからは、全員ご回答ください。

現在の暮らしについて

【問20】お子さんの状況についてお聞きします。過去1年間に、お子さんを病院や歯医者で受診させた方がよいと思ったが、実際には受診させなかったことがありましたか。(あてはまるもの1つに○)

1. あった	➡ 問20-1へ
2. なかった	➡ 問21へ

【問20-1】問20で「1. あった」を選んだ方にお聞きします。

その理由を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 家計が苦しかった	2. 保険証がなかった
3. 仕事で連れていく時間がなかった	4. ほかのこどもの世話で時間がなかった
5. 自分の健康状態が悪く連れていけなかった	6. 病院が遠い
7. こどもが嫌がった	8. その他

【問21】あなたは、次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	頼れる人が いる	いない	そのことでは 人に頼らない
A. 子育てに関する相談	1	2	3
B. 重要な事柄 ^{ことから} の相談	1	2	3
C. いざという時のお金の援助	1	2	3

【問22】あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 大変ゆとりがある	2. ゆとりがある	3. ふつう
4. 苦しい	5. 大変苦しい	

【問23】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品しこうひんは含みません。(あてはまるもの1つに○)

1. よくあった	2. ときどきあった	3. まれにあった	4. まったくなかった
----------	------------	-----------	-------------

【問24】あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品ききんぞく ほうしょくひんは含みません。(あてはまるもの1つに○)

1. よくあった	2. ときどきあった	3. まれにあった	4. まったくなかった
----------	------------	-----------	-------------

【問25】あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で月々の料金の支払い、家賃・住宅ローンなどの滞納、債務の返済ができないことがありましたか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	あった	なかった	該当しない (払う必要がない)
A. 電話料金	1	2	3
B. 電気料金	1	2	3
C. ガス料金	1	2	3
D. 水道料金	1	2	3
E. 家賃	1	2	3
F. 住宅ローン	1	2	3
G. クレジットカードやほかの借金の支払い	1	2	3
H. 税金・社会保険料	1	2	3

【問26】最近の物価高騰で生活は苦しくなったと感じていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. おおいに感じる	2. ある程度感じる	3. あまり感じない	4. まったく感じない
------------	------------	------------	-------------

【問27】1年前と比べて、物価高騰の影響で毎月の支出はどの程度増えましたか。(あてはまるもの1つに○)

1. 変わらない	2. 3,000円未満	3. 3,000~5,000円未満
4. 5,000~1万円未満	5. 1~2万円未満	6. 2~3万円未満
7. 3~4万円未満	8. 4~5万円未満	9. 5~10万円未満
10. 10万円以上	11. 減った	

【問28】あなたの世帯の貯蓄額を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

※預貯金額のほか、学資保険、株式・投資信託等も含んだ額を教えてください。

1. 貯蓄がない	2. 10万円未満	3. 10~50万円未満
4. 50~100万円未満	5. 100~200万円未満	6. 200~300万円未満
7. 300~400万円未満	8. 400~500万円未満	9. 500~700万円未満
10. 700~1000万円未満	11. 1000万円以上	

【問29】あなたの世帯の現在の貯蓄額は、昨年と比べて変わりましたか。(あてはまるもの1つに○)

※預貯金額のほか、学資保険、株式・投資信託等も含んだ額を教えてください。

1. 貯蓄が増えた	2. 貯蓄は変わらない	3. 貯蓄が減った
-----------	-------------	-----------

【問30】あなた自身には、自分が持っている(できる)以下のものがありますか。「1. ある(できる)」、「2. 金銭的にできない」、「3. 必要でない(いらない)」のうちもっともあてはまるものに○をつけてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	ある (できる)	ない(できない)	
		金銭的に できない	必要でない (いらない)
A. 自分自身のために使うことができるお金(月5,000円)	1	2	3
B. 最低2足の靴	1	2	3
C. 古くなった服を買い替える	1	2	3
D. 友人や家族と1か月に1回ほど外食する	1	2	3
E. 自宅で自分が使えるインターネット環境	1	2	3
F. 自分の趣味やレジャーのためのお金	1	2	3

【問31】次のもののうち、経済的理由のためにあなたの世帯にないものはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. こどもの年齢に合った本	2. こども用のスポーツ用品・おもちゃ
3. こどもが自宅で宿題をすることができる場所	4. インターネットにつながるパソコン
5. 急な出費のための貯金(5万円以上)	6. 自家用車
7. Wi-Fi 環境やインターネット回線	8. あてはまるものはない

【問32】あなたはお子さんをもってから、以下のような経験をしたことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者またはパートナー(元配偶者等を含む)との間で <small>ひんぱん</small> 頻繁な口げんかがあった
2. 配偶者またはパートナー(元配偶者等を含む)から暴力をふるわれたことがある
3. こどもに行き過ぎたしつけ(体罰等)をしたことがある
4. 育児放棄になった時期がある
5. 出産や育児でうつ病(状態)になった時期がある
6. わが子を虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある
7. 自殺を考えたことがある
8. 1~7のいずれも経験したことがない

【問33】あなたの心の状態についてお聞きます。ここ1か月の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。A~Fについて教えてください。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったく ない
A. 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
B. 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
C. そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
D. 気分が沈み込んで、何が起ころっても 気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
E. 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
F. 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

